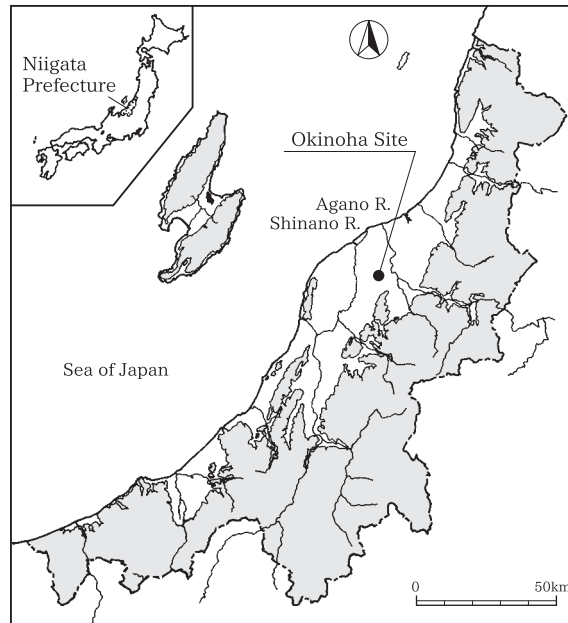


おきの は  
沖ノ羽遺跡 V 第18・19次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書 —

本文編



2014

新潟市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区七日町字沖ノ羽 5584 番地他に所在する沖ノ羽遺跡（新潟市遺跡番号 149）第 18・19 次調査の発掘調査記録であり、本文編（観察表含む）と図面図版編、写真図版編の 3 分冊からなる。第 18 次調査（1～4 区）は平成 17 年度に、第 19 次調査（1～7 区）は平成 18 年度に実施した。このうち第 19 次調査 5・6 区については、本書では取り扱わず、後続する『沖ノ羽遺跡Ⅵ』で報告する予定である。
- 2 調査は県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託した。調査は新潟市教育委員会（以下、市教委という）が調査主体となり、新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター（以下、市埋蔵文化財センターという）、平成 23 年 7 月より新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター（以下、市文化財センター）が補助執行した。
- 3 平成 17・18 年度に発掘調査と整理作業、平成 19 年度から 25 年度に整理作業・報告書刊行を行った。発掘調査整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
- 4 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 5 本書の作成は遠藤恭雄・澤野慶子・立木宏明・相澤（高野）裕子（市文化財センター）・相澤 央（市歴史文化課）が行い、編集は遠藤・澤野が担当した。
- 6 自然科学分析は株式会社古環境研究所に執筆を含めて委託し、遠藤が編集した。
- 7 漆器の分析及び執筆を四柳嘉章氏（漆器文化財科学研究所）に依頼し、玉稿を賜った。
- 8 執筆は第Ⅰ～Ⅲ章を立木・遠藤、第Ⅳ章を遠藤、第Ⅴ章第 1～5 節を澤野、第 6 節を相澤裕子・澤野、第Ⅵ章第 1～5 節については（株）古環境研究所に委託し、第 1 節を早田勉、第 2 節を杉山真二、第 3・4 節を金原正子、第 5 節を金原 明、第 6 節を四柳氏、第Ⅶ章第 1・2 節 D・E・5 節を遠藤、第 2 節 A～C を澤野、第 3 節を相澤 央、第 4 節を立木が行った。  
なお、第Ⅱ章第 2 節を『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』〔渡邊ほか 2002〕から引用した。
- 9 遺構計測表の作成と遺構図版・遺構写真図版のレイアウト、遺物観察表の作成と遺物実測図版・写真図版レイアウトについては、第 18 次（05）調査木製品の図版・写真図版のレイアウトを相澤裕子が担当したほかは、澤野が行った。
- 10 本書で用いた写真は、遺跡写真は平成 17 年度 立木・遠藤・澤野・相澤裕子、平成 18 年度 遠藤・前山精明・澤野・池田ひろ子（市文化財センター）が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を委託した。ただし、写真図版 1 は国土地理院が、写真図版 2 は（株）オリスが撮影したものを使用した。
- 11 遺構図のトレースと各種図版作成・編集に関しては、（株）セビマス・有有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 12 遺物のうち施釉陶器については尾野善裕氏（京都国立博物館）、井上喜久男氏（愛知県陶磁美術館）、須恵器・土師器については、春日真実氏（財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団）、陶磁器全般について笹澤正史氏（株式会社 吉田建設）からそれぞれ年代・生産地等についてご教示をいただいた。
- 13 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。  
阿部泰之・石川智紀・伊藤秀和・井上喜久男・小熊博史・小田由美子・尾崎高宏・尾野善裕・春日真実・堅木宣宏・加藤 学・小林 弘・笹澤正史・澤田 敦・高橋 保・高橋保雄・田中耕作・田辺早苗・田村浩司・寺崎裕助・鶴巻康志・田海義正・土橋由理子・中山俊道・古澤妥史・水澤幸一・増子正三・吉井雅勇  
新潟県教育庁文化行政課・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県新潟地域振興局新津農業振興部・新津郷土地改良区

（所属・敬称略、五十音順）

## 凡 例

- 1 本書は3分冊から構成されるうちの「本文編」であり、本文・別表と別冊図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 遺構計測表・遺物観察表には各遺構・遺物の掲載図版頁を記載し、索引としての機能を付してある。
- 3 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西編約7度である。
- 4 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは原図の作成者・作成年を示した。
- 5 本文中の注は各頁の末尾に記した。引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 6 遺構番号は現場で付したものを扱い、調査年次ごとに、さらに調査区ごとに1からの通し番号を付した。遺構の種別ごとに付さず、通し番号とし、本文および観察表・図版の番号は同一とした。
- 7 各遺構の名称については、以下の略称を使用した。掘立柱建物 SB、ピット Pit、井戸 SE、土坑 SK、溝 SD、不明遺構 SX とし、旧河川については河、テラス状遺構についてはそのままの用語を用いた。
- 8 土層の土色観察は『新版 標準土色帖』〔小山・竹原 1967〕を用いた。
- 9 遺物の注記は沖ノ羽遺跡の略記号「沖ノ羽」とし、出土地点や層位を続けて記した。平成17年度出土遺物は略記号の前に「05」、平成18年度出土遺物は略号の前に「06」を付した。
- 10 遺物番号は種別・器種を問わずすべて通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 第IV章・V章の遺構・遺物の事実記載については、遺構種別ごとの番号順とし、図面図版（第2分冊）・写真図版（第3分冊）の掲載順序とは対応しない。
- 12 本文中の挿図に用いた地形図、遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。

# 目 次

第I章 序 章 .....	1
第1節 遺跡概観 .....	1
第2節 発掘調査に至る経緯 .....	1
第II章 遺跡の位置と環境 .....	4
第1節 遺跡の位置と地理的環境 .....	4
第2節 周辺の遺跡 .....	4
第3節 歴史的環境 .....	10
第III章 調査の概要 .....	12
第1節 試掘・確認調査 .....	12
第2節 本発掘調査 .....	12
A 調査方法 .....	12
B 調査経過 .....	13
C 調査体制 .....	15
第3節 整理作業 .....	15
A 整理方法 .....	15
B 整理経過 .....	16
C 整理体制 .....	16
第IV章 遺 跡 .....	17
第1節 概 要 .....	17
第2節 層 序 .....	17
第3節 第18次(05)調査 遺構 .....	18
A 遺構の概要 .....	18
B 1区の遺構 .....	19
C 2区の遺構 .....	21
D 3区の遺構 .....	32
E 4区の遺構 .....	49
第4節 第19次(06)調査 遺構 .....	52
A 遺構の概要 記述順 .....	52
B 1区の遺構 .....	53
C 2区の遺構 .....	57
D 3区の遺構 .....	65
E 4区の遺構 .....	66
F 7区の遺構 .....	67



第V章 遺 物 .....	68
第1節 土器・陶磁器 .....	68
A 古墳時代の土器 .....	68
B 古代の土器 .....	69
C 中世の土器・陶磁器 .....	76
D 第18次(05)調査 .....	78
E 第19次(06)調査 .....	111
F 立会調査出土土器 .....	118
第2節 瓦 塔 .....	118
A 第18次(05)調査 .....	119
B 第19次(06)調査 .....	120
第3節 土 製 品 .....	121
A 第18次(05)調査 .....	121
B 第19次(06)調査 .....	122
第4節 銭貨・金属製品 .....	123
A 第18次(05)調査 .....	123
B 第19次(06)調査 .....	124
第5節 石 製 品 .....	124
A 第18次(05)調査 .....	124
B 第19次(06)調査 .....	127
第6節 木 製 品 .....	128
A 第18次(05)調査 .....	128
B 第19次(06)調査 .....	132
第VI章 自然科学分析 .....	133
第1節 沖ノ羽遺跡の基本層序 .....	133
第2節 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析 .....	133
第3節 沖ノ羽遺跡における花粉分析 .....	138
第4節 沖ノ羽遺跡における種実同定 .....	143
第5節 沖ノ羽遺跡における樹種同定 .....	147
第6節 沖ノ羽遺跡出土漆器の科学分析 .....	152
第VII章 総 括 .....	158
第1節 沖ノ羽遺跡の遺構について .....	158
A 旧河川について .....	158
B 掘立柱建物について .....	158
C 第19次調査1・2区の溝および河について .....	160
第2節 沖ノ羽遺跡の遺物について .....	161
A 古墳時代の土器について .....	161
B 奈良・平安時代の土器について .....	161
C 中世の土器・陶磁器について .....	166

D 仏鉢形土器	167
E 施釉陶器について	170
第3節 墨書土器	174
A 出土地点および遺構	174
B 器種と墨書部位	174
C 主な文字の検討	174
D ま と め	176
第4節 瓦塔について	184
第5節 沖ノ羽遺跡の位置付け	189
A 古墳時代後期	189
B 古 代	189
C 中 世	191
引用・参考文献	197
別 表	204
報告書抄録・奥付	巻末

## 挿 図 目 次

第1図 新津丘陵周辺地形分類図	5	第21図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区基本層序断面B における花粉ダイアグラム	139
第2図 遺跡周辺の遺跡分布図	8	第22図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区・3区井戸内堆積物 (底部)における花粉ダイアグラム	140
第3図 安置された『大蔵のつぶて石』	15	第23図 沖ノ羽遺跡第19次調査2区基本層序断面 における花粉ダイアグラム	140
第4図 遺構形態模式図	18	第24図 沖ノ羽遺跡第19次調査2区SD6・SD13 覆土断面における花粉ダイアグラム	140
第5図 沖ノ羽遺跡古墳時代土師器・須恵器分類図	69	第25図 沖ノ羽遺跡の花粉・胞子	143
第6図 タタキメ・当て具痕の細分類図	70	第26図 沖ノ羽遺跡の種実	146
第7図 沖ノ羽遺跡古代土師器分類図1	72	第27図 沖ノ羽遺跡の木材	151
第8図 沖ノ羽遺跡古代土師器分類図2	73	第28図 沖ノ羽遺跡の炭化材	151
第9図 沖ノ羽遺跡古代黒色土器分類図	73	第29図 上塗漆塗膜の赤外線吸収スペクトル	155
第10図 沖ノ羽遺跡古代須恵器分類図	74	第30図 下地の赤外線吸収スペクトル	155
第11図 沖ノ羽遺跡古代施釉陶器分類図	75	第31図 No.2 赤色漆絵の蛍光X線定性分析スペクトル	155
第12図 沖ノ羽遺跡中世土器・陶磁器分類図	77	第32図 分析漆器実測図	156
第13図 鉄滓出土重量分布図	121	第33図 漆器塗膜断面の顕微鏡写真	157
第14図 沖ノ羽遺跡の土層柱状図	133	第34図 旧河川流路想定及び掘立柱建物跡配置図	159
第15図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区基本層序断面B における植物珪酸体分析結果	135	第35図 沖ノ羽遺跡出土土器変遷図	163
第16図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区・3区井戸内堆積物 (底部)における植物珪酸体分析結果	136	第36図 第18次調査3区河1器種組成図	164
第17図 沖ノ羽遺跡第19次調査2区基本層序断面 における植物珪酸体分析結果	136	第37図 主要遺構別器種組成図	165
第18図 沖ノ羽遺跡第19次調査1区・2区遺構内堆積物 における植物珪酸体分析結果	136	第38図 仏鉢形土器出土状況	169
第19図 沖ノ羽遺跡(第18次調査)の植物珪酸体 (プラント・オパール)	137	第39図 沖ノ羽遺跡出土施釉陶器集成	172
第20図 沖ノ羽遺跡(第19次調査)の植物珪酸体 (プラント・オパール)	137	第40図 施釉陶器出土状況	173
		第41図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(1)	178

第42図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(2) ……………	179	第47図 復元瓦塔例 ……………	184
第43図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(3) ……………	180	第48図 瓦塔出土状況 ……………	185
第44図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(4) ……………	181	第49図 新潟県内の瓦塔出土遺跡 ……………	187
第45図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(5) ……………	182	第50図 古墳時代・古代主要遺構位置図 ……………	193
第46図 墨書土器出土状況 ……………	183	第51図 中世主要遺構位置図 ……………	195

## 表 目 次

第1表 沖ノ羽遺跡調査履歴 ……………	3	第7表 沖ノ羽遺跡(第18次調査)における 木製品の樹種同定結果 ……………	149
第2表 沖ノ羽遺跡周辺の遺跡 ……………	9	第8表 沖ノ羽遺跡(第18次調査)における 炭化材の樹種同定結果 ……………	149
第3表 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析結果 ……	135	第9表 沖ノ羽遺跡出土仏鉢形土器一覧表 ……………	168
第4表 沖ノ羽遺跡(第18次調査)における 花粉分析結果(1) ……………	141	第10表 沖ノ羽遺跡出土施釉陶器一覧表 ……………	170
第5表 沖ノ羽遺跡(第19次調査)における 花粉分析結果(2) ……………	142	第11表 沖ノ羽遺跡出土墨書土器一覧表(1) ……	176
第6表 沖ノ羽遺跡(第18次調査)における 種実同定結果 ……………	145	第12表 沖ノ羽遺跡出土墨書土器一覧表(2) ……	177
		第13表 新潟県出土瓦塔一覧表 ……………	187

## 別 表 目 次

別表1 沖ノ羽遺跡第18次調査遺構計測表 ……………	204	別表9 沖ノ羽遺跡第18・19次調査 石製品観察表 ……………	266
別表1-b 沖ノ羽遺跡第18次調査掘立柱建物跡(SB) 計測表 ……………	212	別表10 沖ノ羽遺跡第18・19次調査 木製品・ヒョウタン観察表 ……………	267
別表2 沖ノ羽遺跡第19次調査遺構計測表 ……………	213	別表11 沖ノ羽遺跡第18次調査遺構出土古墳時代土器 器種構成率 ……………	273
別表3 沖ノ羽遺跡第18次調査古墳時代土器観察表 ……………	217	別表12 沖ノ羽遺跡第18次調査遺構出土古代土器 器種構成率 ……………	274
別表4 沖ノ羽遺跡第18・19次調査古代土器観察表 ……………	218	別表13 沖ノ羽遺跡第19次調査遺構出土古代土器 器種構成率 ……………	316
別表5 沖ノ羽遺跡第18・19次調査 中世土器・陶磁器観察表 ……………	260	別表14 沖ノ羽遺跡第18・19次調査遺構出土 中世土器・陶磁器器種構成率 ……………	328
別表6 沖ノ羽遺跡第18・19次調査瓦塔観察表 ……………	265	別表15 沖ノ羽遺跡第18次調査遺構出土石製品 器種構成率 ……………	333
別表7 沖ノ羽遺跡第18・19次調査 土製品・鍛冶関連遺物・銭貨観察表 ……………	265	別表16 沖ノ羽遺跡第19次調査遺構出土石製品 器種構成率 ……………	335
別表8 沖ノ羽遺跡第18・19次調査 金属製品観察表 ……………	265		

# 第 I 章 序 章

## 第 1 節 遺 跡 概 観 (第 1 表)

沖ノ羽遺跡は昭和 60 年 8 月に行われた新潟県教育委員会（以下、県教委という）主催の遺跡詳細分布調査の折に、古代・中世の遺跡として遺跡登録された。その後、発掘調査は本調査および確認調査を含め、25 回調査が行われている（第 1 表）。昭和 62 年・63 年に行われた「磐越自動車道建設」に伴う県教委が行った試掘・確認調査により、遺跡範囲が一部拡大した。平成元年に刊行された『新津市史資料編第 1 巻 原始・古代・中世編』では寺島遺跡別名「沖ノ羽遺跡」と記載され、平安時代の須恵器が紹介されている〔川上・木村・鈴木 1989〕。また、同書によると新発田藩の朱子学者、丹羽恵が記述した道中日記『随徳随録二』には、文化 14 年（1816）に七日町村の屋敷内を掘削中、古井戸を発見したとの記述がある。発見物は 2 尺 5・6 寸の井戸輪用の曲物と曲物の釣瓶、その下に薄鼠色径 4 寸 3 分、深 1 寸 1 分のかわらけ肌古皿を 5 枚掘り出したとされる。井戸輪用と釣瓶用の曲物は、当時の曲物と違い内側に鋸目を入れて曲げたものだとし、江戸時代から数百年前のものであるとその特徴が詳細に記載されている。これらの遺物は現代の観点から見ると、おそらく古代・中世に相当するものと考えられる。江戸時代には沖ノ羽遺跡の大部分は七日町村に所属するが、出土地点の詳細は不明であるため、遺跡名は特定できないものの、考古前史として貴重な記載である。

平成 10 年 10 月には満日地区ほ場整備に伴う確認調査が行われ、さらに遺跡範囲は拡大した。その後の平成 11 年以降に後述（第 III 章第 1 節）する確認調査（図版 4）が行われ、遺跡の詳細な範囲が明らかになった。

沖ノ羽遺跡における既存の本発掘調査は、平成 2～4 年度にかけて県教委が磐越自動車道建設に伴い計 96,069m<sup>2</sup> を調査している。その結果、微高地上に古墳時代から中世に至る集落跡・ほ場跡などが検出されている〔石川<sup>ほか</sup> 1994、星野<sup>ほか</sup> 1996、春日 2003a〕。特筆されるものとしては、古墳時代中期の土器および古代の集落跡、さらに中世のほ場跡などである。平成 13 年度に「鮭川排水機場建設」に伴う本発掘調査が旧新津市教育委員会が主体となって行われ、2,332m<sup>2</sup> が調査された。平安時代（9 世紀後半）の集落域が確認され〔細野<sup>ほか</sup> 2002〕、短期間に営まれた集落跡で遺物の出土状況も良好であり、編年研究に重要な調査例となった。

平成 15 年度には、ほ場整備事業を対象とした沖ノ羽遺跡の本発掘調査〔立木・澤野<sup>ほか</sup> 2005〕が行われ、古代の旧河道や集落の一部などが確認されている。

同年度には東北電力（株）の「平成 15 年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事」に伴う本発掘調査をほ場整備事業対象外範囲で実施し、沖ノ羽遺跡の一部 121.36m<sup>2</sup> を調査した結果、古代の溝と少量の土器が出土している〔北村・菊池<sup>ほか</sup> 2004〕。

平成 16 年度には、ほ場整備に伴う本発掘調査〔立木・澤野<sup>ほか</sup> 2008〕が実施された。調査の結果、10 世紀初頭の集落の一部が確認された。高速道の隣接地からは、古墳時代中期の遺構・遺物が古代・中世の遺構確認面の下層から確認された。

## 第 2 節 発掘調査に至る経緯

平成 7 年度に、新潟市新津地区旧満日村区域における県営ほ場整備事業の計画が旧新津市生涯学習課に知らされた。旧新津市生涯学習課は、新津東土地改良区および旧新津市農産業振興課と協議を重ね、平成 7 年度から平成 8 年度にかけて対象面積 440ha の分布調査を実施した。その結果、遺物が多量に採集され、県教委が

平成2～4年度に磐越自動車道建設に伴い本発掘調査を実施した沖ノ羽遺跡〔石川<sup>ほか</sup>1994、星野<sup>ほか</sup>1996、春日2003a〕の範囲とあわせて多くの遺跡の存在が予想された。

平成11年度に入り、事業計画が見直され、県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区として約170haが対象になり、新潟県新津農地事務所（以下、新津農地という）と協議を行い、全区域を対象とした確認・試掘調査を平成11～13年度に実施した。その結果、ほ場整備事業範囲内に中谷内遺跡、内野遺跡、沖ノ羽遺跡、山王浦遺跡の4遺跡が確認された。

そのうち、山王浦遺跡については平成14年度に本発掘調査を終了している〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2004b〕。沖ノ羽遺跡については、平成15年度からほ場面工事に伴う本発掘調査が行われ、平成15年度・16年度調査については報告を完了している〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2005〕〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2008〕。

本報告の調査は平成16年度に続き3年目、4年目の本発掘調査となる。平成17年3月の市町村合併により事業主体は新潟市教育委員となった。本発掘調査対象範囲の設定は、平成16年度に、新津農地・新津東土地改良区・新潟県教育庁文化行政課・旧新津市生涯学習課の4者で遺跡の取扱いを巡って協議を重ねた結果、平成11年9月10日付け教文第578号で新潟県教育委員会教育長から通知された「発掘調査の要否の判断基準について（通知）」の基準により、保護層（工事の施工に際して埋蔵文化財を保護するために設ける一定の厚さの土層、樹脂等による緩衝層）を確保できない場合には本発掘調査を実施するとした。

平成17年度は、保護層が確保できない用・排水路管部分および畑部分の約3,000.5m<sup>2</sup>（下層面積795m<sup>2</sup>を含む）の本発掘調査を実施することで合意した。新津農地から平成17年5月2日付け新農第52号で文化財保護法第94条の第1項の通知と合わせて平成17年5月2日付け新農第54号で本調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新津農地事務所長へ、平成17年5月12日付け教文第181号の2で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成17年6月3日付け教生第127号の10で文化財保護法第99条第1項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。本発掘調査実施中の7月に農地事務所より約1,000m<sup>2</sup>の本調査範囲の追加（4区）を依頼され、最終的な調査面積は4104.3m<sup>2</sup>となった。

新津農地は平成18年度より新潟県新潟地域振興局新津支局農業振興部（以下、新津支局農業振興部という）に改組された。

平成18年度は、保護層が確保できない用・排水路管部分および畑部分の約4,500m<sup>2</sup>の本発掘調査を実施することで合意した。新津支局農業振興部から平成18年5月16日付け新振津農第116号－1で文化財保護法第94条の第1項の通知と合わせて平成18年5月16日付け新振津農117号で本調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新津支局農業振興部長へ、平成18年5月30日付け教文第295号の2で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成18年7月12日付け新歴第249号の13で文化財保護法第99条第1項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。

なお、新潟県新潟地域振興局新津支局農業振興部は平成20年度より新潟県新潟地域振興局新津農業振興部に改組されている。



第1表 沖ノ羽遺跡調査履歴

通算調査回数	泉宮ほ場整備事業満日地区に伴う発掘調査回数	調査年次	主な成果	調査種別	調査原因	担当	調査区	調査面積	圃場トレンチ番号	文献
		1985年(S60) 4.12~6.30	遺跡の確認および新潟県埋蔵文化財カードへの登録	分布調査	新潟県遺跡詳細分布調査	県文化行政課 横山勝美				
		1989年(H1)	市史に古代の遺跡として掲載され、一般に周知される。寺島遺跡別名「沖ノ羽遺跡」として記載。遺跡周辺で曲物が発見された江戸時代の文献記録を記載。	分布調査	「新潟市史資料 編第1巻 原始・古代・中世」に伴う調査	川上貞雄				(川上ほか1989)
1次		1990年(H2) 4.12~6.30	古代・中世の遺構・遺物が広範囲に広がることが確認された。東西約1km南北100mほどに遺跡範囲が拡大した。	確認調査	磐越自動車道建設	県文化行政課 寺崎裕助・平澤秀昭				
2次		1991年(H3) 4.15~12.19	A地区-灌漑用の溝で区画された古代のほ場跡(田)が検出された。 B地区-古代・中世の集落跡およびほ場跡(田・畑)が検出された。5・13区下層より古墳時代前・中期の遺構・遺物が出土した。	本発掘調査	磐越自動車道建設	県文化行政課 伊与部倫男	H3-A地区	A地区 42,853㎡		(石川ほか1994)
3次		1992年(H4) 4.9~12.10	C地区-上層は中世、下層からは古代の遺構・遺物が濃密に検出された。1991(H3)年9月24~27日に高速北側工事用道路(高速2期線分)の確認調査(担当 北村 充 40トレンチ)が本調査と並行して行われ、古代の遺構・遺物が確認されている。	本発掘調査	磐越自動車道建設	県文化行政課 高橋保雄	C地区 [1~4区]、 C地区 [7(一部)・8区] H4-A地区 [6区]、 B地区 [5・9~13区]、 C地区 [7(一部)区]	B地区 41,016㎡ C地区 6,100㎡×2層		(見野ほか1996)  (春日 2003)
		1996年(H8) 3.26~4.19	沖ノ羽遺跡を含む満日地区ほぼ全域で行った分布調査。沖ノ羽遺跡近隣の中谷内遺跡・内野遺跡・無頭遺跡・大下遺跡・久保遺跡などが発見された。	分布調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 渡邊朋和		4,400,000㎡ (対象面積)		
4次	1次	1998年(H10) 10.5~28	磐越自動車道より南側の試掘・確認調査。高速道路から南側に古代を中心とした遺跡範囲が広がることが確認された。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 渡邊朋和		869㎡	南1~207T	
5次		1998年(H10) 10.8~27	古代の包含層を確認し、遺跡本調査が必要と判断される。	確認調査	排水機場建設	新潟市教育委員会 渡邊朋和		12.6㎡	南44・200・201T	
6次	2次	2000年(H12) 10.23~11.7	磐越自動車道より北側の試掘・確認調査。高速道路から北側に古代を中心とした遺跡範囲が広がることが確認された。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明		565㎡	北1~157T	
7次	3次	2001年(H13) 10.5~10.30	現況が畑部分を中心とした確認調査。現在の畑部分には田部分より良好に古代・中世の遺構が保存されていることを確認した。沖ノ羽遺跡より南に新たに遺跡が確認され山王浦遺跡として登録された。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明		348.6㎡	北158~303T 南208~257T	
8次		2001年(H13) 8.29~2002年(H14) 1.25	古代の区画溝を持つ規格的な掘立柱建物跡を3棟検出した。	本発掘調査	排水機場建設	(株)シン技術コンサル 細野高伯	北区、本区	2102.69㎡		(細野ほか2002)
9次		2002年(H14) 10.16~10.24	古代の遺物検出。遺跡範囲は北東側に拡大。	確認調査	鉄塔建設工事	新潟市教育委員会 立木宏明		21.6㎡		
10次	4次	2002年(H14) 10.25~12.25	磐越自動車道より南側の現況、農道部分の本調査範囲を絞り込むための確認調査。農道下の後世の破壊の度合いは小さく、本調査範囲に隣接する部分では良好に包含層が残ることを確認した。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明		432㎡	南258~353	
11次	5次	2003年(H15) 5.30~9.30	3区-古代の旧河道が検出され、その周辺に建物跡が検出された。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明	1~3区 (03沖ノ羽)	1858.8㎡		(立木・澤野ほか2005)
12次	6次	2003年(H15) 6.16	平成15年度の調査途中に本発掘調査範囲の絞り込みのために確認調査を再度行った。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明		22.5㎡	南354~359	
13次		2003年(H15) 9.5~12.19	鉄塔部分、1か所の調査。古代の遺構・遺物を検出。	本発掘調査	鉄塔建設工事	(株)シン技術コンサル 北村 淳		121.8㎡		(北村ほか2004)
14次	7次	2003年(H15) 10.31~12.4	磐越自動車道より北側の現況、農道部分の本調査範囲を絞り込むための確認調査。農道下の後世の破壊の度合いは小さく、本調査範囲に隣接する部分では良好に包含層が残ることを確認した。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明		216㎡	北304~351T	
15次	8次	2004年(H15) 5.30~11.24	1区-古代の集落域、3区-古代の溝状遺構を多数検出(畑)、5区-下層から古墳時代前~中期の遺構・遺物を検出。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明	1~5区 (04沖ノ羽)	3092.6㎡		(立木・澤野ほか2008)
16次	9次	2004(H16)年 11.2~12.5	磐越自動車道より北側の現況、農道部分の本調査範囲を絞り込むための確認調査。農道下の後世の破壊の度合いは小さく、本調査範囲に隣接する部分では良好に包含層が残ることを確認した。413Tから古墳時代後期の須恵器が出土した。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明		522㎡	北352~467T	
17次	10次	2004年(H16) 11.30	溝状遺構の検出、土師器(古代)出土。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市教育委員会 立木宏明	6区 (04沖ノ羽)	244㎡		
18次	11次	2005年(H17) 6.30~12.20	3区で古代の旧河道および川岸にある古代から中世にいたる集落跡を検出。旧河道から多量の古代遺物(土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦塔等)が包含される。4区下層から古墳時代後期の遺物が出土した。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	1~4区 (05沖ノ羽)	3947.9㎡		(本書)
19次	12次	2006年(H18) 7.20~12.20	1・2区から古代・中世の集落跡の一部を検出した。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄	1~7区 (06沖ノ羽)	4104.3㎡		(本書(5・6区以外))
20次	13次	2006年(H18) 10.30~11.2	磐越自動車道より北側の追加確認調査。古代の遺構・遺物が出土している。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	県文化行政課 澤田 敦		90㎡	北468~493T	
21次	14次	2007年(H19) 3.1	平成19年度の調査途中に本発掘調査範囲の絞り込みのために確認調査を再度行った。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄		16㎡	北494~503T	
22次	15次	2007年(H19) 6.9~12.28	古代・中世の集落跡で中世を主体とする。掘立柱建物10棟以上、井戸85基、土坑249基、溝178基、Pit2000基以上など遺構密度が高い。遺物は土師器・須恵器・珠洲焼・青磁・鉄製品(刀子等)、木製品(中世木簡、漆器碗、曲物等)、石製品(砥石等)が出土している。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄	1~4区 (07沖ノ羽)	4,692㎡		
23次	16次	2007年(H19) 10.9~10.11	磐越自動車道より北側の追加確認調査。古墳時代・平安時代の遺物が出土している。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 今井さやか		42㎡	北507~514T、 516~522T	
24次	17次	2008年(H20) 6.9~12.3	古代・中世の集落跡。掘立柱建物10棟以上・井戸36・土坑196・溝164・など多数の遺構を検出。遺物は土師器・須恵器を主体に珠洲焼・青磁・鍛冶関連遺物(鉄鏃・羽口)が出土している。	本発掘調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄	1~4区 (08沖ノ羽)	3321.5㎡		
25次	18次	2009年(H21) 10.22	ほ場整備事業に伴う仮排水路掘削に先立って確認調査を実施した。	確認調査	満日地区ほ場整備事業	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄		24㎡	北579~584T	

\* ほ場トレンチ番号は、磐越自動車道の北側と南側に分けてそれぞれトレンチは通し番号としている。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新潟市は、越後平野を貫流する信濃川・阿賀野川の下流域に位置する。平成17年に周辺12市町村（新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・巻町・味方村・潟東村・月潟村・中之口村）と合併し、総面積726.1km<sup>2</sup>、人口80万人余りを数える。平成19年4月1日には日本海側初となる政令指定都市となっている。越後平野は、信濃川と阿賀野川が運搬する土砂が堆積して形成された日本有数の沖積平野である。東を朝日・飯豊連峰、南を新津丘陵、西を角田・弥彦山地に囲まれ、面積は約2,000km<sup>2</sup>である。海岸部には海岸線と平行に砂丘列が並び、その内陸側は丘陵地縁辺部まで後背低地が広がっている。

遺跡のある新潟市秋葉区（以下、秋葉区という）満日・両新地区（旧新津市域）は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。近世初頭、信濃川以北の河川は砂丘列を越えることができず、加治川が阿賀野川に、阿賀野川が現在の新潟港付近で信濃川に合流していた。水はけが悪く、度々水害に見舞われ開発が困難な状況であったため、享保15年（1730）に新発田藩が松ヶ崎掘割を開削した。翌年の雪解け水による洪水と出水によって掘割は現阿賀野川の本流となって水位が下がり、新田開発が一気に進んだ。秋葉区満日・両新地区では下新付近で、五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に合流する。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し、覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は、太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより五泉市千原～秋葉区大関間の蛇行部分が直線化し、秋葉区新津地区の市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在の能代川・新津川となっている。能代川と新津川は下興野付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

秋葉区付近の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地から成っている。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げ北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、秋葉区域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地が断続的に残存している。遺跡は能代川右岸の微高地上に存在する。

遺跡景観は周辺に水田・畑地帯が広がり、地形の起伏はほとんど認められない。この景観は大正末期から昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものである。耕地整理以前の地図（図版2）からは微高地の多くは畑として、微高地周辺は水田として利用されている。いわゆる「堀田」として利用されたようである。遺跡は河川が形成した自然堤防・微高地上または、微高地の周縁部に立地しており、今回の調査成果と合致する。

### 第2節 周辺の遺跡（第2～5図、第2～5表、図版3）

市内の遺跡数は平成21年12月31日現在746か所を数える。時代別の遺跡の分布は旧石器時代では丘陵部に限定される。縄文・弥生時代では丘陵・段丘上および砂丘地に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地・砂丘地、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地に多くの分布が見られるようになる。具体的には古代までは丘陵上に弥生時代後期の環壕集落・円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器（土師器）窯などの生産遺跡が集中している。



新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974年より作成 [1/150,000]

第1図 新津丘陵周辺地形分類図



以下に第2図の範囲を中心として時代ごとに記述する。

**旧石器時代の遺跡** 市内では新津丘陵に2か所、角田山麓に1か所の3遺跡が確認されている。秋葉区内では、段丘上の古津八幡山遺跡〔渡邊・立木<sup>ほか</sup>2001・2004〕と、丘陵の尾根に立地する草水町2丁目窯跡がある。いずれも遺構は発見されず、ナイフ形石器・石刃などが散発的に出土したのみで、旧石器時代の様相は不明な点が多い。

**縄文時代の遺跡** 草創期～晩期の遺跡が確認されている。後期までは主に丘陵部に分布する。市内で最も早い例として草創期前半の愛宕澤遺跡〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2004a〕があげられる。中・後期には新津丘陵の丘陵平坦面に平遺跡〔川上・遠藤1983〕、原遺跡（中～晩期）、秋葉遺跡（中～後期）などが存在する。また、砂丘上には前期前半の砂崩遺跡〔酒井・廣野2002〕がある。晩期には大沢谷内遺跡、鳥屋遺跡〔関<sup>ほか</sup>1980〕、緒立遺跡〔金子<sup>ほか</sup>1983〕、御井戸遺跡〔前山1994c〕など、砂丘上や沖積地に立地する遺跡が多くなる。

**弥生時代の遺跡** 弥生時代前期の遺跡としては緒立遺跡〔金子<sup>ほか</sup>1983〕が代表例である。そのほか、砂丘上や沖積地に多くの遺跡が存在する。中期の遺跡としては旧横越町小丸山遺跡〔家田1987、酒井2000a〕、山ん家遺跡〔川上1993、酒井2000b〕などがある。秋葉区内では平成15年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡から中期後半の土器が出土している〔渡邊・立木<sup>ほか</sup>2004〕。後期の遺跡としては新津丘陵沿いの古津八幡山遺跡〔川上1994、渡邊1994a〕とその周辺の居村C遺跡（D・E地点）〔川上1996、渡邊<sup>ほか</sup>1997〕がある。古津八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・方形周溝墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。砂丘上の遺跡としては六地山遺跡〔寺村1960、中村1960〕、石動遺跡〔廣野1996〕がある。近年、江南区（旧亀田町）の砂丘および砂丘間低地で養海山遺跡〔新潟市2007〕や西郷遺跡〔土橋2007〕などの前・中期の遺跡が確認されている。

**古墳時代の遺跡** 前期の古墳としては、角田山麓の前方後方墳である山谷古墳〔甘粕・小野<sup>ほか</sup>1993〕、前方後円墳である菖蒲塚古墳〔相田・前山2003・2005〕がある。それに隣接して同期の南赤坂遺跡〔前山・相田2002〕、御井戸B遺跡〔前山・相田2004・2005〕がある。砂丘上や沖積地には緒立C遺跡〔渡邊1994〕や東園遺跡〔朝岡・諫山2003〕、正尺C遺跡〔土橋<sup>ほか</sup>2006〕などがある。新津丘陵の古津八幡山遺跡の北西端に古墳時代前期末～中期初頭に位置づけられる古津八幡山古墳が造営される（墳丘約60m・円墳）〔甘粕・川村<sup>ほか</sup>1992、渡邊・相田2013〕。古墳に隣接する舟戸遺跡〔川上1995〕は中期を中心とする遺跡であり、丘陵縁辺や端部に立地する。舟戸遺跡では中期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目されている。平野部の沖ノ羽遺跡〔星野<sup>ほか</sup>1996〕・上浦A遺跡〔坂上2003〕・結七島遺跡〔田中・丹下<sup>ほか</sup>2004〕では古墳時代前・中期の遺構・遺物が、中田遺跡〔諫山2009〕では、後期の竪穴建物などが検出されている。近年、沖積地の微高地から古墳時代の遺跡が多く見つかっており、平野部への遺跡進出の様相が明らかになりつつある。

**古代の遺跡** 古代（飛鳥～平安時代）になると低地への進出が本格化する。特に9世紀中頃以降、平野部の自然堤防上に立地する集落遺跡は著しい増加を見せる。丘陵部は生産活動の場として利用されるようになり、新津丘陵や角田山麓では、鉄や須恵器・土師器を供給する生産遺跡が集中する。市域およびその周辺では、的場遺跡〔小池・藤塚1993〕、緒立C遺跡〔渡邊1994〕、新発田市曾根遺跡〔家田1981・1982、川上1997〕、阿賀野市発久遺跡〔川上<sup>ほか</sup>1991〕といった官衙に関連する遺跡がみられる。さらに近年、九九木簡や律令祭祀具が出土し、7世紀後半に位置づけられる大沢谷内遺跡や火葬墓に伴って帯金具が出土した四十石遺跡などが新たに発見され、市域周辺の地方官衙の様相が少しずつ明らかになってきている。

以下沖ノ羽遺跡周辺に限定して記述する。

生産遺跡としては、新津丘陵窯跡群が新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡〔中川・倉田1956〕・草水町2丁目窯跡・滝谷窯跡〔川上・木村・鈴木1989〕などが代表的である。平成18年度の下水道工事に伴う立会調査で七本松窯跡に隣接する地点で、新たに秋葉2丁目窯跡（9世紀前半）が新発見された。昭和27年に出版された『新津市誌』では新津丘陵に18か所の窯跡が存在すると記載されており〔小林1952〕、近隣に未知の窯跡がま

だ多数存在すると考えられる。新津丘陵窯跡群の存続時期は、8世紀中から9世紀中葉と考えられている〔春日1999〕。製鉄遺跡は新津丘陵西斜面に居村遺跡・大入C遺跡などがあり、9世紀第2四半期以降に操業していたとされる〔渡邊<sup>ほか</sup>1997〕。

次に沖積地に立地する集落遺跡を古い時期からみていく。長沼遺跡は、非ロクロの土師器やかえりのある須恵器蓋が定量出土した、7世紀末～8世紀の遺跡である〔渡邊1991〕。萱免遺跡は、8世紀中葉から9世紀前半に位置づけられ、焼成不良や焼きゆがみのある新津丘陵産須恵器が多く出土していることから、須恵器生産に関わる集落であった可能性が指摘されている〔立木・八藤<sup>後</sup><sup>ほか</sup>2009〕。上浦A遺跡では堀立柱建物が発見され〔川上1997、坂上2003〕、円面硯や多量の墨書土器が出土している。上浦A遺跡の年代は出土遺物の年代観から7世紀末～10世紀と考えられ存続時期の長い遺跡である。隣接する、上浦B遺跡〔新潟市2007〕からは周囲を溝で囲まれた総柱建物跡1棟と掘立柱建物2棟が方向を揃えて検出された。建物周辺では井戸や畑跡も検出されている。9世紀後半の短期間に営まれた遺跡で、希少なものとしては奈良三彩の小壺が1点出土している。

沖ノ羽遺跡〔石川<sup>ほか</sup>1994、星野<sup>ほか</sup>1996、細野<sup>ほか</sup>2002、春日2003a、北村・菊池<sup>ほか</sup>2004、立木・澤野<sup>ほか</sup>2005・2008〕を含む秋葉区満日地区では、山王浦遺跡〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2004b〕、中谷内遺跡〔立木<sup>ほか</sup>1999、渡邊<sup>ほか</sup>2002〕、内野遺跡〔立木・高野<sup>ほか</sup>2002〕、無頭遺跡〔長澤<sup>ほか</sup>2002〕、大下遺跡、久保遺跡など9世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。山王浦遺跡からは9世紀後半の雨落溝を伴う掘立柱建物が3棟検出されており、井戸や土坑など周辺施設が併設する建物小群がいくつか並存する「住耕一体型」の集落の一部と考えられる。中谷内遺跡からは平安時代に流れた旧流路に沿って、集落の一部が確認された。旧河道の覆土中からは多くの祭祀に伴う墨書土器が出土した。土器は上層と下層で様相を異にし、9世紀第3四半世紀～第4四半世紀の概ね2～3時期に分けられる。緑釉陶器無台椀など希少品も出土している。内野遺跡からは溝・小土坑などが検出され、9世紀後半の集落の一部が確認された。無頭遺跡は狭小な調査区で不明な部分が多いが、9世紀後半の土器が少量出土している。

**中世の遺跡** 在地領主層の勢力伸長に伴って、丘陵裾部や平野部の微高地に城館が築かれるようになる。新津丘陵周辺では、山城として東島城・金津城〔横山・竹田<sup>ほか</sup>1987〕があり、丘陵裾部には程島館・西島館・五本田館・丸田館、平野部の自然堤防上に新津城跡・大関館・下条館・五泉城などの存在が知られる。いずれも本格的な調査は行われておらず、実態は不明である。西蒲区和納館や阿賀野市堀越館跡では、部分的に中世館跡の調査が行われ、館をめぐる堀の一部や多量の貿易陶磁、茶具などが出土している。

集落遺跡の多くは、平野部の自然堤防や砂丘に立地し、古代遺跡と重複する場合も多い。阿賀野市大坪遺跡〔荒川<sup>ほか</sup>2006〕では、11世紀後半～12世紀を中心とする大規模な集落跡が検出されている。白河荘内にあった有力者の居館跡と想定される貴重な例である。阿賀野川下流域の川べりで確認された山木戸遺跡〔諫山2004〕、下前川原遺跡は、おおむね13世紀から15世紀に営まれ、内水面交通に関わる集落であったと想定されている。亀田砂丘上の中の山遺跡〔川上1982〕、荒木前遺跡〔渡邊1991、川上1996〕、三王山遺跡〔酒井1980〕では、多数の井戸や溝、掘立柱建物跡が検出されており、中国産の青磁・白磁、瀬戸・美濃焼などの出土遺物の内容から、周辺地に在地領主層の存在が指摘されている。

当遺跡周辺の集落遺跡として、14～15世紀の集落の一部が発見された江内遺跡〔春日<sup>ほか</sup>1996〕がある。細池遺跡（現、細池寺道上遺跡）〔小池<sup>ほか</sup>1994〕では、中世以降のほ場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。沖ノ羽遺跡では12～13世紀の集落およびほ場の一部が確認され〔石川<sup>ほか</sup>1994、星野<sup>ほか</sup>1996、春日2003a〕、県内初となる烏帽子が出土している。内野遺跡の調査では14～15世紀を中心とする集落の様相が明らかとなった〔立木・高野<sup>ほか</sup>2002〕。遺構としては掘立柱建物・井戸・溝があり、陶磁器とともに井戸内より鉄鍋が出土した。リサイクルを基本とする当時の社会で鉄製品が残ったということは、祭祀行為等で埋納されたと考えられる例である。そのほかに井戸底から大形犬の骨の一部が検出され、食用の可能性が指摘されており、中世の食文化を考える上で貴重な資料である。





第2図 遺跡周辺の遺跡分布図



第2表 沖ノ羽遺跡周辺の遺跡

No	名称	時代	No	名称	時代	No	名称	時代	No	名称	時代	No	名称	時代
1	東港太郎代	奈~平	96	上堀田	平	191	川西	平・鎌	286	森田	弥・古墳・平・中世	381	十ヶ袋	室
2	出山	奈~平・鎌・江	97	孤田 A	古代	192	孤田	古代	287	西山館跡	平	382	堤下	平
3	サン化学前	奈~平	98	山鹿野神田 A	古代	193	貝塚	古代	288	桜大門	平	383	外城塚申塚	室
4	横土居 A	縄	99	桜曾根	古代	194	荒木前	縄・平・中世	289	西島中谷内	古代	384	四ヶ橋長者屋敷	平・鎌
5	山興野	縄	100	大夫曾根	平	195	中山	古代	290	舟戸	弥・古墳・古代	385	泣塚	室
6	横土居 B	縄	101	山鹿野神田 B	古代	196	手代山北	平・中世	291	塩辛	弥・古墳・古代・中世	386	下金田	弥
7	居山 A	縄	102	並柳	古代	197	手代山	古墳・古代・鎌	292	高矢 C	古墳	387	中島	室
8	居山 B	縄	103	桜曾根 B	古代	198	日本南	縄・弥・古墳・古代・室	293	高矢 A	縄	388	水原館跡	室
9	浦ノ入 A	縄	104	上堀田石仏 A	中世	199	日本	古代	294	高矢 B	縄	389	永室	室
10	切尾 A	縄	105	阿賀野川河口	縄・古墳・平・中世	200	日本前	縄・弥・平	295	二百刈	縄・古代	390	雙善寺	室
11	切尾 B	縄	106	津島屋の石仏	中世(南北朝)	201	城所道下	平	296	下谷地	縄	391	吉田家蔵	南
12	浦ノ入 B	縄	107	居浦郷	平	202	武左衛門裏	縄・弥・古墳・古代	297	古津八幡山古墳	弥・古	392	七面堂	中世
13	切尾 C	縄	108	宮敷	古代・室・江	203	八幡前	弥・平	298	古津初越 B	古代	393	楽師島	平
14	内島見	縄	109	沼池	平	204	養海山	縄・弥・古墳・平	299	古津初越 A	古代	394	灰町 A	平
15	古越	弥	110	宮浦	平	205	大蔵	古代	300	古津八幡山	縄・弥・弥・古墳・平	395	下米館跡	室
16	笹山 D	平	111	木所居館跡	中世	206	西郷	弥・古	301	金津初越 B	古代	396	居浦	室
17	笹山 B	縄	112	石動	弥・弥・古墳・平・中世	207	花湯	平	302	金津初越 A	古代	397	浄栄寺の石造物	中世
18	笹山 A	縄	113	四山の石仏	中世	208	下西	古墳	303	大入	古代	398	土居内	中世
19	上舟橋	平	114	寺山	平	209	鶴ノ子	平	304	鳥撃(打)場	縄	399	大曲川端	平安・中世
20	笹山 C	縄	115	竹尾西	平	210	駒宮湯	平	305	神田	縄・奈~平	400	羽宮場	中世
21	あかしやだん	平	116	山木戸	古墳・古代・中世	211	早通前	平・鎌	306	居村 A	平	401	善四郎谷内 C	平・中世
22	内島見 B	平	117	竹尾	室	212	西前郷	縄・古代	307	居村 B	弥・古	402	轟	平・中世
23	内島見 C	室	118	猿ヶ馬場 B	鎌~江	213	川原畑	中世	308	居村 C	縄・弥・古	403	土居内西	弥・平・中世
24	大池	古	119	猿ヶ馬場 A	平・室	214	円通寺石仏	室	309	十ヶ沢 A	弥	404	千刈	平
25	松影 B	古	120	下場	平・中世	215	天王杉	平	310	十ヶ沢 B	縄	405	駒林要吉跡	室
26	松影 C	古	121	石山	中世	216	居屋敷跡	古墳・平・鎌~室・近世	311	金津城跡	南	406	山鳥屋敷	古・古代・中世
27	松影 D	縄・古	122	石山山	中世・近世	217	長崎(城跡)	室	312	坪が入	縄	407	善四郎谷内	平
28	上黒山 A	古	123	女池稲荷	中世	218	寺島	平・鎌	313	了尊寺館	中世	408	大淵	中世
29	松影 A	古	124	江口館跡	中世	219	久保	平	314	西善寺石仏	中世	409	鑓山	弥
30	城山館跡	室	125	西野	平	220	中瀬田久保	平	315	三沢 A	室	410	曾師前	中世
31	新五兵衛山	平	126	大淵	平・中世	221	無頭	平	316	三沢原	室	411	村下	古墳・平安・中世
32	太田城山	縄	127	細山石仏	室	222	大下	平	317	三沢 B	平	412	下谷地	中世
33	峠 B	奈~平	128	中山	縄・古墳・古代	223	山王浦	平	318	五本山館跡	室	413	曾根	室
34	名山 C	奈~平	129	城山	縄・古墳・平・鎌	224	新久免の塚	室・江	319	東腰付	平	414	城館跡	平
35	名山 B	縄	130	笹山前	縄・弥・古墳・古代	225	内野	平・中世	320	大沢谷内北	縄・弥・古	415	本田裏	中世
36	楢 3	弥・古・奈~平	131	神明成裏	平	226	中谷内	古墳・平・中世	321	大沢谷内	縄・弥・古	416	町道土	中世
37	名山 A	奈~平	132	山山	平	227	沖ノ羽	古墳・古代・中世	322	櫻川浜堤外地	縄・平	417	山口	弥・古
38	法華寺 C	奈~平	133	松山向山	平	228	結七島	古・奈・平・中世	323	東港亀塚	平	418	村下の石仏	室
39	法華寺 D	奈~平	134	松山	縄・中世	229	中田	古墳	324	下新田	平	419	清水寺石仏	中世
40	法華寺 B	縄・弥・奈~平	135	直り山 A	平	230	江内	平・中世・江	325	道下	平	420	下の橋館跡	室
41	法華寺 A	縄	136	直り山 B	平	231	川口甲	平	326	別行	縄・平	421	船屋	中世
42	越塚	古墳	137	小丸山	縄・古墳・平・中世・近世	232	川口乙	平	327	連野 II	縄・平	422	村東	中世
43	甲山	平	138	東田	縄・弥・古墳	233	上浦 B	古墳・古代	328	坊主山	縄	423	藤の木	室
44	正尺 B	古墳	139	茗荷谷墓地	平	234	上浦 A	古代・中世	329	御山下	奈~平	424	諏訪神社	中世
45	下大口	古墳	140	茗荷谷	古代	235	結	古墳・奈	330	正庵 I	平	425	三辺稲荷	室
46	上大川	古墳	141	藤山	平・鎌	236	長沼	平・鎌	331	正庵 II	平	426	細田	平
47	正尺 A	古墳・平・近世	142	上山	弥・平	237	下等別当	古代~中世	332	正庵 III	平	427	久寿添	縄・平
48	横井	平	143	駒込小丸山	縄・弥・古	238	山谷北	古墳	333	三辺	平	428	野地城跡	室
49	正尺 D	古墳	144	丸山	平	239	埋堀	中世	334	道分	縄・平	429	久寿添の庚申塚	中世
50	正尺 C	古墳	145	北山	平	240	大野中	縄・平	335	二松	縄・弥	430	大坪	平
51	鳥屋	縄	146	清水が丘	平	241	下久保	平	336	轟	縄	431	大坪南	平
52	久やしき	弥	147	大遼外	平・中世	242	道土	平	337	伊勢堂山道跡	平	432	原	南・室
53	尾山 A	平	148	彦七山	古代	243	蔵岩寺石仏	中世	338	佐々木山	古	433	七ヶ塚	南
54	尾山 B	平	149	駒込居浦郷	古代	244	細池寺道上	平・中世	339	蔵寄	平	434	上橋	縄・平
55	太田古屋	縄	150	駒込墓所	古代	245	西江浦	平	340	馬見坂	縄・古・平	435	塚塚	室
56	尾山 C	平	151	山ノ家	弥・古	246	尻池の塚	室	341	中谷内	古~平	436	石動戸	縄
57	浦ノ入 B	縄	152	前郷	縄・弥・古	247	大間館跡	中世	342	大反谷内 A	平	437	中瀬神明宮の石仏	室
58	浦ノ入 A	縄	153	廻山	縄・奈~室	248	居平	縄	343	屋敷付塚	中世	438	中瀬の観音様石仏	室
59	横山	平	154	砂崩	縄・古代	249	平	縄	344	福島	古・平・中世	439	天神林の石仏	室
60	内山	平	155	砂崩前郷	縄・平・江	250	諏訪畑	平	345	八幡野	古~平	440	小河原	中世
61	神谷内	古代	156	砂崩上ノ山	古代	251	諏訪田	弥	346	柳崎	中世	441	高瀬鳥諏訪社	中世
62	寺ノ山	室	157	三條岡	古代	252	草水町 1 丁目跡	平	347	曾根	弥・弥・古・奈・平・中世	442	金ノ沢	室
63	樋ノ上 C	縄	158	樋ノ山	平	253	草水町 2 丁目跡	旧石器・縄	348	熊の嶋	平	443	あはやしき	室
64	築上山	平	159	塚山	縄・古代	254	愛宕澤	縄・平・中世	349	真木野	平	444	川端 B	室
65	新崎	古代	160	前山	古代	255	滝谷窯跡	縄・平	350	前田	古墳~奈良	445	川端 A	縄
66	下前川原	平・室	161	塚ノ山	平	256	七本松窯跡群	平	351	上高岡	平~室	446	風吹沢	縄
67	森下古銭出土地	室	162	袋津向山	縄	257	秋葉 2 丁目跡	平	352	渡廻	古墳~中世	447	上小中山	縄
68	高森	古代	163	砂岡	平	258	小手平	縄	353	高畑	平	448	下里 B	縄
69	圃内	平	164	秋葉	古代	259	秋葉ブドウ園	縄・奈~平	354	未明	平	449	下里 A	先
70	上土地亀	古墳・平	165	小杉中洲	古墳	260	秋葉	縄・弥・奈・平	355	小曾根	平	450	大家城跡	室
71	上土地亀 B	古墳・古代	166	松嶺寺	平	261	本町石仏	中世	356	榎木大淵	縄	451	大室	縄
72	浦木	平	167	居附 A	平~室	262	笠免	古代	357	塚田 B	平	452	王ヶ塚	縄
73	村下	古代	168	山のハサバ	平	263	程島館跡	戦	358	塚田	平	453	山王田	縄
74	内沼浦	古代	169	上田	縄・奈~平	264	新津城跡	平・南~戦	359	沖ノ館	平	454	十三神	縄
75	豊栄長場	古墳・近世	170	小杉上田	縄・古代	265	腰廻	室・安	360	台田	平	455	貝嶋	縄
76	真那板倉	奈~平	171	江尻	平	266	諏訪神社石仏	中世	361	中谷内	平	456	貝嶋平	縄
77	一本柳	古代	172	新田郷	平	267	浄栄	平	362	滑橋	平	457	鶴岡	縄・室
78	五本柳 B	古代	173	宮尻郷	古代	268	小戸下組	平・鎌~室	363	元屋敷	平	458	江上板碑	南
79	藤津	平	174	下郷	平	269	西沼	平	364	荒久	平	459	大家堤下	縄
80	川東	古代	175	下郷経塚	安	270	長左工門沼	平	365	下福岡	平	460	堀越館跡	室
81	長場館跡	室	176	曾我墓所	平	271	川根	古代~中世	366	滝沢屋敷跡	室	461	法塔塚	室
82	中道 A	古代	177	横越館跡	室	272	浦野	古代	367	笹岡城跡	南北朝	462	中山	縄
83	中道 B	古代	178	上郷 B	古代	273	下郷ノ木	平・鎌~南	368	上山屋	平	463	丸山	縄
84	長場	平	179	上郷	古代	274	曾根	平・鎌	369	浦林	縄	464	保田新館	縄
85	城の高	平	180	上郷 C	平	275	中郷	平	370	馬屋尻	縄	465	石仏山	先
86	五本柳 A	奈~平	181	川根谷内墓所	平・室・近世	276	古通	平	371	金屋中道	平	466	電田中道	中世
87	狐川渡	奈~平	182	川根谷内	古代	277	山崎	縄	372	金屋	室	467	家裏	縄
88	上大月	奈~平	183	上沼	古代	278	城見山	縄・古代・中世	373	宮下	縄	468	家裏	縄
89	岩浦	古墳	184	岡田	平	279	原	縄	374	山浦城跡	室	469	手代山製鉄跡	平
90	里飯野石仏	中世	185	三王山	平・中世	280	東島城跡	室	375	田向	平	470	手城山	縄
91	岡新田	平	186	電田城山 B	南・室・江	281	大坪ノ月	古代	376	野ノ月	平	471	二本松	縄
92	里飯野	平	187	助山	縄・弥・古	282	平林	縄	377	諏訪田	平	472	上野林 C	平
93	上堀田石仏 C	中世	188	電田城山 A	縄・弥・古	283	山境	縄・弥・江	378	六反田	平	473	上野林 B	縄
94	上堀田石仏 B	中世	189	牛道	平	284	東島大道下	古墳・古代・鎌・室	379	堂前	平	474	上野林 M	縄・平
95	池田 B	古代	190	赤助裏	平・鎌	285	山崩	古墳・平	380	濱着	平・室	475	上野林 E	先・縄

近世の遺跡 集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、現在の住宅地が存続して立地することが多く実態は不明な点が多い。発掘調査例も少ないが、秋葉区新津地区では江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている。近年、湊町新潟の「近世新潟町跡」〔佐藤2007〕が調査され、幾層も重なる生活面を確認した。備前系を中心とする各地の陶磁器も多量に出土している。部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である。

## 第3節 歴史的環境

古墳時代の越後国については文献史料では不明な点が多い。越後平野に立地する古墳は秋葉区の古津八幡山古墳をはじめ、西蒲区の菖蒲塚古墳・山谷古墳、西区の緒立神社古墳や三条市の保内三王山古墳群などいずれも前期のもので、5世紀代には越後平野で古墳の実態は不明瞭である。5世紀後半以降は高田平野・魚野川流域に古墳が造営されるようになる。

越国の領域については第1段階(3～4世紀)は旧越前国(越前・加賀・能登)、第2段階(5～6世紀)は旧越中国(頸城・古志・魚沼・蒲原4群まで含む)まで、第3段階(7世紀中～)は淳足・磐舟柵までとし、次第に北上していく様が伺える〔米沢1965・1980〕。『続日本紀』大宝2年(702)3月条には、越中国4郡を割いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国の領域が確定するのは、和銅5年(712)にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。

古代の秋葉区域は蒲原郡に属し、その郡域は概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと思われる。7世紀段階には旧越中国の淳足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したと見られる。蒲原郡内には10世紀成立の『和名類聚抄』に桜井・勇礼・青海・小伏・日置の5郷が見られ、桜井・勇礼・青海・小伏の4郷については所在地が比定できることから、秋葉区域は日置郷に当たると考えられていた。郷域は新津丘陵の北端部を中心に阿賀野川以西信濃川以東、概ね現在の秋葉区・五泉市・田上町の範囲と推定される。

宝亀11年(780)の「西大寺資財流記帳」(『寧楽遺文』中巻)には、西大寺の荘園として蒲原郡に鶉橋庄・槐田庄が見られる。同史料に「越後国水田并墾田地帳景雲三年」とあることから、成立はいずれもそれ以前の8世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鶉橋庄は五泉市橋田、槐田庄は三条市周辺とされている。これらの荘園に秋葉区域が含まれていたのかは不明である。

新津丘陵における須恵器生産は、早ければ7世紀後半には始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期である。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であった。しかし9世紀前半～中葉には、佐渡小泊窯の製品が越後国全域に流通するという画期的変化が生じる〔坂井1996〕。一方、金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区にあり、窯跡と近接するのは燃料が薪や木炭と共通するためである。古代の秋葉区域の産業は新津丘陵の製鉄・窯跡群が中心で、低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で新津丘陵は重要な位置にあったと思われる、文献史料上は確認できないが、淳足柵や国府津である蒲原津とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領のひとつである金津保は、秋葉区域に所在したとされる。金津保の初見は建武3年(1336)11月18日「羽黒義成軍忠状写」で、「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢」(『新潟県史』資料編4-1935)とあり、北朝方である三浦和田(羽黒)義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたことがわかり、この新津城とは新津城・程島館・東鳥城のいずれかであろうとされる〔木村1989〕。また天正5年(1577)「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」(『新潟県史』資料編5-2704)とあり、遊川は田上町湯川と見られ、

さらに天文13年(1544)10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」(『新潟県史』資料編4-1495・1496)に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、秋葉区～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までを含む範囲であったと推定する。

院政期～鎌倉初期には建仁元年(1203)3月4日に「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅畢」(『吾妻鏡』)とあり、新津四郎はおそらく金津保に何らかの関連をもつ人物と見られるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動をとめている。このことから公領である金津保は国衙勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津をめぐる攻防が続き、阿賀野川流域である金津保(つまり秋葉区域)は、その中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏によって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層や本庄・色部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

天正6年(1578)3月に上杉謙信が死去し、養子である景勝・景虎の間で後継争い「御館の乱」がおこる。この乱に景勝方として参戦した新津氏は、以後それまで金津保の勢力であった平賀氏に替わり領主となった。そして慶長3年(1598)に景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心に発展することとなった。

中世における金津保を中心とした秋葉区域は、阿賀野川流域であり、蒲原津に近いという地理的環境や越後平野を一望することができるという新津丘陵の存在から、常に不安定な政治状況に置かれていた。先に金津保の領域に推定した範囲に、新津丘陵を中心に中世城館が常に置かれていたのはそのことを示しているのだろう。

近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになった。また近世後期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。阿賀野川などの河川も水害対策のために掘割を掘削するなどの普請がなされた。沖ノ羽遺跡の所在する古田ノ内大野開は江戸時代に新発田藩により開発された古田新田の枝郷である。享保3年(1718)の新発田藩「御領分郷村鑑」によれば、「高149石余、田23町部、畑2町余、無民戸」とあり、江戸時代以来、無住の地であったことが伺える。現在の遺跡周辺の景観はこの開発に基づいて形成されているが、古代から中世にかけての遺跡周辺は広大な潟湖や湿地が存在し、その中で微高地上の遺跡は当時の生活を知る上で非常に重要である。

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 第1節 試掘・確認調査（図版4）

満日地区ほ場整備事業に伴って、平成11・12年度に事業区域全域の田部分を、平成13年度には畑部分と田部分を対象とした試掘・確認調査を行っている。平成11年度には869.4m<sup>2</sup>（1.4m×3m×207トレンチ）、平成12年度に659.4m<sup>2</sup>（1.4m×3m×157トレンチ）を行い、平成13年度には823.2m<sup>2</sup>（1.4m×3m×196トレンチ）を調査した。その後の協議結果で用・排水路部分および未調査地の調査を行うこととなり、平成14年～16年度、平成18・19年度に確認調査を行い、ほ場全体面積のほぼ全域の調査が終了している。

平成17・18年度の調査地点は、平成12・13年度の畑および平成15・16年度に行った用・排水路の確認調査で見つかった範囲となっている。

平成17年度の調査地点で1区とした用・排水路部分は現農道部分（一部、畑）にあたり、畑部分の159トレンチおよび用・排水路部分331～338トレンチでは、現地表面（G・L）から-0.3～1.0mで黒茶褐色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認され、畑部分を中心に包含層の広がりが予想された。2区とした畑部分の、161トレンチでは、現地表面（G・L）から-0.6mで黒茶褐色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認されている。3区とした畑部分の61・62・163トレンチでは、現地表面（G・L）から-0.2～0.4mで暗灰色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認されている。4区とした用・排水路部分は現農道部分にあたり、322～330トレンチでは、現地表面（G・L）から-0.3～0.9mで黒茶褐色～茶褐色土層の古代包含層および相当層が確認されている。

平成18年度の調査地点で1区・2区とした部分は現農道部分および畑部分にあたる。1区畑部分の32・33トレンチ、2区畑部分の34・271トレンチ、1区・2区現農道部分の339～345トレンチでは、現地表面（G・L）から0.1～0.9m下で黒茶褐色の古代包含層および相当層が確認され、畑部分を中心に包含層の広がりが予想された。3区～6区とした用・排水路部分は現農道部分にあたる。3区にあたる31・316～321トレンチでは、現地表面（G・L）から-0.15～0.4m、以下それぞれ4区346～351トレンチで-0.75～1.0m、5区352～376トレンチで-0.6～1.70m、6区381～384トレンチで-1.35～1.50m、7区とした畑部分に近い10トレンチで0.95m下から黒褐色～黒褐色土層の古代包含層および相当層が確認されている。

以上の結果から、保護層が確保されない本発掘調査範囲は、平成17年度が約4,104.3m<sup>2</sup>（3・4区下層面積653.3m<sup>2</sup>を含む）、平成18年度が約4,500.0m<sup>2</sup>となった。

### 第2節 本発掘調査

#### A 調査方法

##### 1) グリッドの設定（図版5～7）

グリッドを設定するにあたっては、新座標（世界測地系）を用い、平成17年度より新たに磐越自動車道北側のほ場整備予定範囲全体にグリッド設定を行った。その基準点はX座標：203770.000、Y座標：54590.000、緯度：27° 50′ 04″ 96025、経度139° 07′ 12″ 69803を1A-1A杭とした。基準点に対し国土地理院の第8系座標軸を用いて100mの方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。この大グリッドに10mの方眼を組み、これを中グリッドとした。中グリッドも大グリッド同様の表示方法とし、1Aから



10Jに分割した。この中グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、大グリッドと中グリッドの間にハイフン(-)を用い「17H-2B12」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

平成17年度発掘調査区4点の座標(新座標)は次のとおりである。

1区 17H-2B (X座標:202160.000、Y座標:55300.000、緯度:37°49'12"5849、経度:139°07'41"2923)

2区 17G-1H (X座標:202170.000、Y座標:55260.000、緯度:37°49'12"9180、経度:139°07'39"6595)

3区 16G-7C (X座標:202210.000、Y座標:55210.000、緯度:37°49'14"2263、経度:139°07'37"6260)

4区 16I-1H (X座標:202270.000、Y座標:55460.000、緯度:37°49'16"1179、経度:139°07'47"8649)

1区 17H-2B 杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分02秒東偏し、磁北は真北に対し7度45分00秒西偏する。

平成18年度発掘調査区5点の座標(新座標)は次のとおりである。

1区 17G-5D (X座標:202130.000、Y座標:55220.000、緯度:37°49'11"6292、経度:139°07'38"0129)

2区 16F-7I (X座標:202210.000、Y座標:55170.000、緯度:37°49'14"2350、経度:139°07'35"9904)

3区 17G-7E (X座標:202110.000、Y座標:55230.000、緯度:37°49'10"9783、経度:139°07'38"4163)

4区 16F-6H (X座標:202220.000、Y座標:55160.000、緯度:37°49'14"5615、経度:139°07'35"5843)

7区 16E-6E (X座標:202220.000、Y座標:55030.000、緯度:37°49'14"5898、経度:139°07'30"2686)

1区 17G-5D 杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度23分05秒東偏し、磁北は真北に対し7度45分00秒西偏する。なお、平成18年度調査5区・6区については、測量基準杭の打設のみ業者委託し、グリッド杭の設置を行っていない。

## 2) 調査方法

① 表土剥ぎ:確認調査によって遺物の出土が多量であると予想されたことから、遺物包含層(V層)上面まで、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。排土は横置きした。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2インチのポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm・深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけたV字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘:重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出・掘削にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真:実測図は断面図を1/20で作成した。平面図・断面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版、6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。さらにデジタルカメラでの撮影も行った。

④ 遺物取り上げ:包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点が多く、層位・小グリッド単位ごと一括で取り上げた。

⑤ 自然科学分析:土壌分析・植物珪酸体分析・花粉分析・種実同定・樹種同定・漆器の科学分析を行った。

## B 調査経過

### 1) 第18次(05)調査の経過

平成17年6月30日から諸準備を開始した。当初、調査員2名で調査を開始する。7月6日に1区にあった弥彦の神様の投げた、との伝承のある『大蔵のつぶて石』の調査を行い、近代以降の盛土上に安置されているのを確認した。7月8日に機材搬入を行った。7月11日～8月8日まで、2区→1区→3区の順番で重機によってI～V層を除去した。表土剥ぎと並行して作業員約5名で排水路掘削、法面仕上げを行った。さらに7月21日より重機による表土掘削班と2班に分かれ、作業員5名で1区から順番に人力包含層掘削および遺構検出



作業を行い、徐々に人員を増やししながら7月27日から作業員約30名で遺構精査を開始した。7月30日に降雨の影響で1区西側が崩落した。崩落箇所はプレハブに隣接するため、測量後に10mほどを埋め戻す。8月9日より3区の西側より調査を開始し、北東側に大規模な旧河道を確認する。9月2日に1区の完掘状況をローリングタワーから撮影した。9月6日より3区の調査を調査員2名体制で進めるが、旧河道から遺物が大量に出土する状況が連日続いていた。また、大形の井戸から井戸側や曲物などの木製品が多く出土し、9月後半には工程に遅れが生じる。10月3日より調査員3名体制で臨み、2区の遺構掘削に着手する。10月7日には3区の完掘状況をローリングタワーより撮影し、並行して4区表土掘削を開始した。10月12日に4区表土掘削は終了する。10月17日より調査員をさらに1名増員し、4名体制で2区・4区の調査を進める。4区から古墳時代後期の土器が出土し、下層が存在することが判明する。11月5日に2区をほぼ完掘し、ローリングタワーでの写真撮影を行った。11月13日にラジコンヘリコプターで空中撮影を行う。11月20日に現地説明会を行い約100名の参加があった。11月21日に4区上層を清掃し、ローリングタワーでの写真撮影を行った。引き続き下層の調査を行った。12月7日に(株)古環境研究所の早田勉氏に来跡いただき、2・3区の深堀り部の自然科学分析サンプリングを行った。12月12日に機材撤収を行い、12月20日までにプレハブを撤去し、調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、1区上端面積725.185m<sup>2</sup>、1区下端面積653.268m<sup>2</sup>、2区上端面積811.013m<sup>2</sup>、2区下端面積796.599m<sup>2</sup>、3区上層上端面積1050.146m<sup>2</sup>、3区上層下端面積1024.459m<sup>2</sup>、3区下層上端面積324.504m<sup>2</sup>、3区下層下端面積322.403m<sup>2</sup>、4区上層上端面積864.611m<sup>2</sup>、4区上層下端面積801.012m<sup>2</sup>、4区下層上端面積328.838m<sup>2</sup>、4区下層下端面積327.573m<sup>2</sup>である。合計面積は上端面積4104.297m<sup>2</sup>、下端面積3925.314m<sup>2</sup>である。

### 2) 第19次(06)調査の経過

平成18年7月19日に着手前写真を撮影し、7月20日から順次機材を搬入して調査を開始した。調査員は4名体制で、主に畑部分の切り下げに伴う1・2区と、用・排水路設置工事に伴う3～7区の路線部分との2班に分かれて調査を行った。

1・2区については、7月20日～8月3日まで1区→2区の順番で重機によってI～V層を除去した。表土剥ぎと並行して排水路掘削、法面仕上げを行った。重機による表土掘削が終了した箇所から順次人力による包含層掘削および遺構検出作業を行い、徐々に人員を増やししながら8月8日から1区調査員1名、2区調査員2名の2班に分かれ、並行して遺構精査を進めた。1区で側板を伴う井戸(SE74)が検出され、2区では、SD94・SX98で土師器食膳具の一括出土がみられた。

この間、路線部分については、3区(7月20日～8月10日)→7区(8月10・11日)→4区(2区から北西側8月11日～9月22日)→5区西側(9月25日～10月20日)→6区(10月23日～11月1日)の順番で調査を行った。作業員6名程度で、重機による表土掘削と並行して、人力による包含層掘削及び遺構検出・精査作業を行った。精査作業終了後、区画ごとに完掘写真を撮影した。5区については農道を横断する水路施設と確認調査トレンチ跡を避けて調査区を設定した。6区については、本調査と範囲確認調査結果から掘削範囲から北西側では遺構・遺物の検出される可能性が極めて低いと判断し、当初計画から調査範囲を縮小した。

9月15日には高所作業車による1区・3区全景写真を撮影し、1区担当班が引き続き1区・2区間の路線部分の調査を行った。2区でも側板を伴う井戸(SE58)が検出された。10月15日には現地説明会を開催し、約100名の参加があった。10月末から1・2区の清掃作業を行い、11月3日に高所作業車を使用して2区的全景撮影、11月4日には1・2・4区の航空写真を撮影した。1・2区については、引き続き遺構の精査・完掘作業および遺構の有無を確認するため、V層を下げる作業などを行う。11月9日には(株)古環境研究所の早田勉氏に来跡いただき、1・2区の基本層序と遺構埋土の自然科学分析サンプリングを行った。1区は11月18日に、2区は11月23日に遺構の完掘写真撮影・測量を終え、調査を完了した。

この間、並行して11月2日から路線部分5区東側の掘削作業を開始し、6日から2班体制で調査を行った。南西よりの部分で大量の遺物が出土し、壁面で地震による液状化現象の痕跡と見られる噴砂痕が確認された。

11月25日に新潟大学の小林巖氏、12月5日に同じく新潟大学の高濱氏に来跡、実見していただいた。12月12日には測量等の現地調査作業を完了し、12月21日までに機材撤収・プレハブ等の撤去作業を終了した。

最終的な調査面積は、1区上端面積988.7m<sup>2</sup>、下端面積917.6m<sup>2</sup>、2区上端面積1634.4m<sup>2</sup>、下端面積1583.6m<sup>2</sup>、3区上端面積226.1m<sup>2</sup>、4区上端面積268.4m<sup>2</sup>、5区西側上端面積190.9m<sup>2</sup>、5区東側上端面積523.2m<sup>2</sup>、6区上端面積69.8m<sup>2</sup>、7区上端面積46.4m<sup>2</sup>、調査区上端面積は合計3947.9m<sup>2</sup>である。なお、3～7区については、測量業務委託をしておらず、座標数値の計測を行っていないため正確な下端面積の算出を行っていない。

なお、第18次調査で移動した『大蔵のつぶて石』は、同地区のほ場整備工事終了後の平成21年6月に隣接地に安置されている(第3図)。



第3図 安置された『大蔵のつぶて石』

## C 調査体制

### 【平成17年度：第18次調査】

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 佐藤満夫)
所管課	新潟市総務局国際文化部歴史文化課(課長:渡辺ユキ子 課長補佐兼文化財係長:倉地一則)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長:手島勇平)
調査担当	立木宏明(新潟市埋蔵文化財センター 副主査)
調査員	遠藤恭雄(同上) 澤野慶子(同上 専門臨時職員) 高野裕子(同上 専門臨時職員)

### 【平成18年度：第19次調査】

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 佐藤満夫)
所管課	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 (課長:倉地一則 課長補佐:山田一雄 埋蔵文化財係長:渡邊朋和)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長:山田光行 埋蔵文化財係長兼主任:渡邊朋和)
調査担当	遠藤恭雄(新潟市埋蔵文化財センター主査)
調査員	前山精明(同上 副主幹) 澤野慶子(同上 専門臨時職員) 池田ひろ子(同上 専門臨時職員)

## 第3節 整理作業

### A 整理方法

#### 1) 遺物

遺物量はコンテナ(内径54.5×33.6×10.0cm)にして778箱である。古墳時代・平安時代の土器・石製品・土製品・木製品・鍛冶関連遺物など各種におよぶ遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③包含層:グリッド別の種別の重量計測。④遺構:遺物の器種別の重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。観察表作成。⑧トレース図

### 第3節 整理作業

作成。⑨仮割付作成。トレース図作成は業者委託した。

#### 2) 遺 構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した 1/40 の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の 1/100 と 1/40 の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。

### B 整理経過

平成 17 年度・18 年度は発掘調査終了後、引き続き整理作業を開始した。出土遺物の水洗・注記・接合と、写真・図面整理を行い、併せて測量業者に委託した遺構平面図の校正作業を行った。

遺物の接合・実測から報告書作成編集作業は主に平成 21 年度に行った。遺物の接合・実測は整理作業員が行い、調査員は、図版のレイアウト・報告書の執筆・編集にあたった。遺物写真の撮影、遺物トレース図作成・遺構・遺物図版データ編集は業者委託した。実施年次と主な内容は下表のとおりである。平成 25 年度に最終校正および報告書の印刷・刊行を行った。

年 度	内 容
平成 19 年度	第 18 次調査 遺構図版・遺構写真図版デジタル編集
平成 20 年度	第 19 次調査 遺構図版・遺構写真図版デジタル編集
平成 21 年度	第 18 次・19 次調査 遺物写真撮影 遺物図版・遺物写真図版・デジタル編集

### C 整理体制

#### 【平成 19・20 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 佐藤満夫）
所 管 課	新潟市文化スポーツ部歴史文化課（課長：倉地一則 課長補佐：山田一雄 埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事 務 局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行 埋蔵文化財係長兼主任：渡邊朋和）
整理担当	立木宏明（新潟市埋蔵文化財センター 主査）
調 査 員	遠藤恭雄（同上） 澤野慶子（同上 専門臨時職員） 高野裕子（同上 専門臨時職員） 池田ひろ子（同上 専門臨時職員）

#### 【平成 21 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所 管 課	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則 課長補佐：頓所洋一 埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事 務 局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行 埋蔵文化財係長兼主任：渡邊朋和）
整理担当	遠藤恭雄（新潟市埋蔵文化財センター 主査）
調 査 員	澤野慶子（同上 専門臨時職員）

#### 【平成 25 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所 管 課・ 事 務 局	新潟市文化財センター （所長：中野俊一 所長補佐：丸山徳幸 主任：渡邊朋和 本間敏則 遠藤恭雄）
調査担当	遠藤恭雄（新潟市文化財センター 主任）
調 査 員	澤野慶子（新潟市文化財センター 嘱託）

## 第Ⅳ章 遺 跡

### 第 1 節 概 要

沖ノ羽遺跡では古墳時代、奈良・平安時代（古代）、鎌倉・室町時代（中世）の遺物が出土し、同時代の遺構が検出された。遺構としては、掘立柱建物を中心として集落跡が検出された。

遺物量は発掘調査終了時で遺物収納コンテナ（内寸 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして第 18 次（05）調査（以下、第 18 次調査）で 655 箱、第 19 次（06）調査（以下、第 19 次調査）では 97 箱、合わせて 752 箱である。このほか、第 19 次調査 5 区・6 区で 26 箱が出土しているが、本報告では取り扱わない。

総数 752 箱のうち 11 箱が古墳時代の土器、600 箱が古代の土器、20 箱が中世の土器、その他、石製品・木製品・鉄製品等が 121 箱である。

遺構数は第 18 次調査では 1～4 区を含めて井戸（SE）50 基、土坑（SK）132 基、溝（SD）87 基、掘立柱建物（SB）8 基、性格不明遺構（SX）24 基、小土坑（Pit）936 基、旧河道 5 基である。1～3 区については遺構確認面が 1 層であったが、4 区については上層から古代・中世の遺構が、下層から古墳時代の遺物が出土しているため 2 層の確認面を想定している。第 19 次調査では 1～4 区・7 区を含めて井戸（SE）11 基、土坑（SK）42 基、溝（SD）75 基、性格不明遺構（SX）7 基、小土坑（Pit）167 基、旧河道 3 基である。遺構確認面は 1 層であった。

### 第 2 節 層 序（図版 20・23・32・55・88・103・112）

沖ノ羽遺跡の基本層序は、第 18 次調査 1 区の成果を基準として調査区全体に対応する。遺構確認面は 3.5～4.3m の標高で推移している。遺跡の基本層序は大きく 6 層に分けられ、15 層に細分される。以下に基本層序を記す。

- I a 層 黒褐色土（7.5YR3/2）シルト層 粘性ややあり、しまり弱い。礫含む。表土・盛土。
- I b 層 暗褐色（10YR3/3）シルト層 粘性ややあり、しまり弱い。
- I c 層 褐色土（10YR4/4）シルト層 粘性ややあり、しまり弱い。攪乱か。
- II a 層 暗灰黄色土（2.5Y4/2）シルト層 粘性ややあり、しまり弱い。
- II b 層 褐色土（10YR4/6）シルト層 粘性弱い、しまりややあり。
- II c 層 褐色土（10YR4/6）シルト層 粘性弱い、しまりあり。II b 層よりもしまりが強い。
- III 層 黒褐色土（10YR3/2）砂質シルト 粘性あり、しまりややあり。
- IV a 層 灰黄褐色土（10YR4/2）粘質シルト 粘性あり、しまりややあり。炭化物少量入る。
- IV b 層 灰色土（10Y4/1）粘土層 粘性あり、しまりあり。
- V a 層 黒褐色土（2.5Y3/1）粘質シルト層 粘性あり、しまり弱い。炭化物多量に入る。遺物包含層。
- V b 層 黄褐色土（2.5Y5/4）シルト層 粘性ややあり、しまり弱い。暗褐色土（10YR3/3）ブロック状に入る。炭化物微量入る。遺物包含層。
- V c 層 黒褐色土（10YR3/2）シルト層 粘性あり、しまりあり。褐色シルトと黄灰色シルトを斑状に含む。粘土質強い。遺物包含層。
- VI a 層 黄褐色土（2.5Y5/3）砂質シルト層 粘性ややあり、しまり弱い。基盤層。第 18 次調査 4 区では古墳時代の遺物包含層か。



VI b層 黄灰色土(2.5Y5/1)シルト層 粘性あり、しまりややあり。基盤層。

VI c層 黄褐色土(2.5Y5/6)砂質シルト 粘性ややあり、しまりややあり。基盤層。

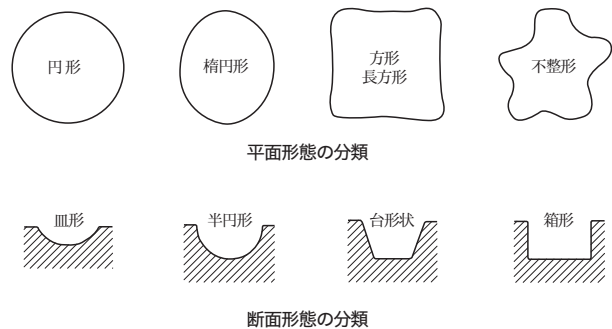
I・II層は畑耕作土および水田床土面である。III・IV層からの遺物の出土はほとんどない。V層は3層に細分したが、遺構が密集する微高地などでは細分できない層位も多く、一括して「V層」とした場合もある。平安時代を主体とする遺物が出土している。第18次調査2区を中心に、古代・中世の遺物が混合して出土しており、上面が中世の遺物包含層に相当する部分もあると考えられるが、層位的な確認はできなかった。ほとんどの遺構はV層からVI層上面を切って掘り込まれており、現地表面から0.7～1.0m程で遺構確認面に達する。VI層以下は古代基盤層とした層であるが、第18次調査の4区ではVI a層中から古墳時代後期の土器が出土しており、VI a層下面からは該期の遺構も確認されている。VI層は地点によって粘性土の部分と砂質土の部分があり、土質も粘性の強弱が認められる。VI層の下層に行くに従って砂質土が多く含まれる傾向がある。

隣接する磐越自動車道建設に伴う沖ノ羽遺跡本発掘調査区13区〔星野ほか1996〕との基本層序対比を記すと、県調査地点(以下、県とする)I層→市調査地点(以下、市とする)I・II層、県II層→市III・IV層、県III a・III b層→市V層、県III c層→市VI a層、県IV・V層→市VI b層である。出土遺物と記載された土層の特徴から区別したため、市V層との区別が不明瞭な部分があるが概ねの対比は首肯されよう。

### 第3節 第18次(05)調査 遺構 (図版8～78)

#### A 遺構の概要

遺構番号は、調査年次・区ごとに遺構の種類にかかわらず1から通し番号を付した。記述は、調査年次・区の順とし、さらに遺構の各説を井戸(以下、SEとする)、土坑(以下、SKとする)・性格不明遺構(以下、SXとする)、溝(以下、SDとする)、旧河道(以下、河とする)、小土坑(以下、Pitとする)、掘立柱建物(以下、SBとする)の順に記す。同一調査区内の同種遺構については、検出地点・想定時期の別にかかわらず、番号の昇順に記述する。遺構の形態分類はSE、SK、SX、SDについては大まかに、平面形は円形・楕円形・方形・長方形・不整形の5種類に、断面形は皿形・半円形・台形状・箱形の4種類に分類した(第4図)。



第4図 遺構形態模式図  
〔北村ほか2004〕から転載・一部改変

第18・19次調査とも、ほとんどの遺構は、平安時代を主体とする遺物包含層V層からVI層上面を切って掘り込まれている。遺構内でも平安時代の土器が出土していることから、大部分は平安時代の所産と考える。ただし、第18次調査2区を中心に、古代・中世の遺物が混合して出土しており、一部は中世に含まれると考える。古代と中世の遺構確認面を層位的に確認することができなかったことから、時期識別は、主に出土遺物と切り合い状況によった。また、古代・中世の遺構の重複が激しく、遺物の混入も想定されることから、切り合い状況から明確なもの以外は各時期を記述・計測表ともに掲載している。

第18次調査区は、1～4区に分けられ、4区のみ上層・下層に分けて調査を行った。説明は1区→2区→3区→4区下層→4区上層の順に行い、詳しい遺構の計測値等は別表1に示した。主要な遺構の出土遺物については、別表11～16に示しており、遺構の記述では一部省略している。検出された遺構総数は1242基あり、SE50基、SK132基、SX24基、SD87条、Pit936基、SB8棟、旧河道5である。

## B 1 区 の 遺 構

### 1) 1 区 の 概 要

1区は道路脇の用・排水路部分、幅約2m、長さ約140mと畑部分を合わせた調査区である。遺構総数は118基あり、その内訳はSK 13基・SX 4基、SD 5基、旧河道3基、Pit 92基、SB 1基である。出土遺物から平安時代の遺構がほとんどと考えられる。一部の遺構から古墳時代の土器が出土したため下層を確認したが、古墳時代と断定できる明確な遺構は確認できなかった。遺構は畑部分に集中して存在する。Pitも畑部分から多数検出していることから、建物は複数存在していた可能性がある。調査面積は上端面積725.185m<sup>2</sup>、下端面積653.268m<sup>2</sup>である。なお、畑部分に「大蔵のつぶて石」があった。

### 2) 1 区 遺 構 各 説

#### a 土坑 (SK)・性格不明遺構 (SX)

SK2 (図版8・13・20、写真図版12)

17H-2B14・19に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸0.71m、短軸0.71m、深さ0.17mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK3 (図版8・13・20、写真図版12)

17H-2B15に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.63m、短軸0.62m、深さ0.10mを測る。埋土は1層である。土師器無台碗が出土している。

SK4 (図版8・13・20、写真図版12)

17H-2B10、2C6に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.65m、短軸0.60m、深さ0.14mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

SK5 (図版8・13・20、写真図版12・13)

17H-2C6に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸0.72m、短軸0.61m、深さ0.06mを測る。埋土は1層である。黒色土器無台碗が出土している。

SK15 (図版8・13・20、写真図版13)

17H-2C3に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸0.42m、現存短軸0.39m、深さ0.17mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

SK17 (図版8・14・21、写真図版14)

16H-10E6、10F1に位置する。河18の底面より検出した。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.75m、短軸0.47m、深さ0.07mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

SK19 (図版8・14・21、写真図版14)

16H-9F14・15に位置する古墳～平安時代の遺構である。SD16と隣接するが、切り合い関係は不明。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸0.88m、短軸0.68m、深さ0.23mを測る。埋土は3層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・横瓶・小壺、土製品(細形管状土錘)、木製品が出土している(図版125・126・206)。特に土師器鍋はまとまって出土し、大半がSD16と接合した。

SK24 (図版8・15・21、写真図版15)

16H-7H23・24に位置する平安時代の遺構である。SX21に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸0.93m、短軸0.90m、深さ0.11mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器長甕・鍋が出土している。

SK26 (図版8・13・20、写真図版13)

17H-2B13に位置する。平面形は長方形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.58m、短軸0.03m、深さ

0.15mを測る。埋土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

**SK27** (図版8・13・20、写真図版13)

17H-2B14に位置する平安時代の遺構である。平面形は長方形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.47m、短軸0.39m、深さ0.08mを測る。埋土は1層である。土師器無台碗が出土している。

**SK29** (図版8・13・20、写真図版14)

17H-1C18・19に位置する平安時代の遺構である。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で現存長軸1.75m、短軸1.00m、深さ0.14mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕、須恵器無台杯・大甕が出土している(図版126)。

**SK32** (図版8・13・20、写真図版13)

17H-1B19・24・25に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.98m、短軸0.43m、深さ0.07mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK105** (図版8・13・21、写真図版14)

17H-1A10・15に位置する平安時代の遺構である。河25の底面より検出した。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.56m、短軸0.54m、深さ0.13mを測る。埋土は1層である。土師器長甕が出土している。

**SX20** (図版8・15・21、写真図版15)

16H-7H22・23に位置する平安時代の遺構である。IV層から掘り込まれており、平面形は不整形、断面形は箱形である。確認面で長軸1.90m、現存短軸0.60m、深さ0.55mを測る。埋土は1層である。土師器長甕・小甕、石製品が出土している。

**SX21** (図版8・15・21、写真図版15・16)

16H-7H19・23～25に位置する平安時代の遺構である。SK24を切る。平面形は不整形、断面形は箱形である。確認面で長軸2.62m、短軸0.64m、深さ0.20mを測る。埋土は1層である。土師器無台碗・長甕・鍋が出土している。

**SX22** (図版8・15・21、写真図版15)

16H-7H20に位置する平安時代の遺構である。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.10m、短軸1.09m、深さ0.40mを測る。埋土は1層である。土師器長甕・鍋が出土している。

**SX23** (図版8・15・21、写真図版15)

16H-7H15・20、7I11・16に位置する平安時代の遺構である。平面形は不整形、断面形は箱形である。確認面で長軸1.48m、現存短軸1.10m、深さ0.36mを測る。埋土は1層である。土師器無台碗・鍋が出土している。

#### **b 溝 (SD)**

**SD16** (図版8・14・21・22、写真図版14・17)

16H-9F13・14に位置する古墳～平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-85°-W)。SK19と隣接するが、切り合い関係は不明。断面形は皿形である。確認面で最大幅1.05m前後、深さは0.23m前後である。埋土は3層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕、土製品(筒形製品)が出土している(図版126・206)。なかでも土師器鍋はSK19と多数接合した。

**SD28** (図版8・13・21、写真図版16)

17H-2B11・12・16～19・21～23に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-77°-W)。IV層から掘り込まれており、断面形は台形状である。確認面で最大幅3.25m前後、深さは0.31m前後である。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕・鍋、須恵器大甕、石製品(叩石)が出土している(図版127)。

**SD30** (図版 8・13・21、写真図版 16)

17H-1B9・10・14・15・19・24、1C6・7、2B4・5 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延び (N-76°-E)、湾曲して南～北へ流れる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.75m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。SB119 に伴う区画溝の可能性はある。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・広口壺、中世の土師器皿が出土している (図版 127)。

**SD31** (図版 8・13・21、写真図版 16・17)

17H-1A24・25、1B21～23、2A5、2B1～3 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-85°-W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.80m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀が出土している (図版 127)。

**SD117** (図版 8・13・22)

16H-10B17・18・22・23、17H-1A15・19・20・24、1B1・2・6・11 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-40°-E)。河 25 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.62m 前後、深さは 0.42m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

## c 旧 河 道

**河 1** (図版 8・12・22、写真図版 17)

17G-5H14・15・18～24、6G5・9・10・15、6H1～3・6・7・11 に位置する平安時代の旧河道である。現存幅は 12.50m 前後、深さは 0.42m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・小甕が出土している (図版 127)。

**河 18** (図版 8・14・22、写真図版 17)

16H-8G10・13～15・17～24、8H6・11、9E25、9F5・9・10・12～19・21・22、10E4・5・7～10・12～14、10F1 に位置する中世の旧河道である。川幅は 35.20m 前後、深さは 0.36m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。中世土師器皿が出土している。

**河 25** (図版 8・13・22、写真図版 18)

16H-10A20・24・25、10B11～13・16～23、17H-1A2～15・17～20・24、1B1・2・6・7・11、2A4 に位置する古墳～平安時代～中世の旧河道である。SD117 に切られる。川幅は 7.80m 前後、深さは 0.60m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台椀・有台皿・蓋・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺・広口壺・短頸壺・横瓶、中世の白磁椀、青磁椀、瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼甕・片口鉢、北越窯陶器壺・甕、土師器皿、銭貨、石製品 (砥石・軽石製石製品)、木製品が出土している (図版 122・127・197・207・209)。

## d 掘立柱建物 (SB)

**SB119** (図版 8・13・22、写真図版 18)

17H-1B15、1C11・12・16～18・21～23 に位置する 2 間 1 間の掘立柱建物である。主軸は N-11°-W である。SB119 を構成する Pit から遺物は出土しなかった。

## C 2 区 の 遺 構

## 1) 2 区 の 概 要

2 区では調査区中心から北東側にかけて、標高 4.20～4.30m の微高地状の高まりに遺構が集中して存在する。遺構総数は 354 基あり、その内訳は SE 16 基、SK 39 基・SX 7 基、SD 27 基、旧河道 1 基、Pit 260 基、SB 4 基である。出土遺物から平安時代～中世の遺構と考えられる。分布としては、調査区北東側に平安時代の遺構である小規模な SK や Pit 群が展開し、中央部分には中世の大型遺構群が広がっている。調査面積は上端面積 811.013m<sup>2</sup>、下端面積 796.599m<sup>2</sup> である。



## 2) 2区遺構各節

### a 井 戸 (SE)

SE6 (図版 28・30・31・33、写真図版 28～30)

17G-1F10・15、1G6・11・12・16 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE6 周辺には大型の遺構が集中している。SE133 と SK131 に切られ、SE167 を切る。平面形は長方形である。確認面で長軸 2.70m、短軸 2.30m、深さ 0.53m を測る。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器長頸壺、中世の青磁椀、珠洲焼壺 T 種・甕・片口鉢、土師器皿、木製品(削片)が出土している(図版 129・197)。

SE11 (図版 28・31・36、写真図版 34)

16G-9H12・13 に位置する平安時代～中世の遺構である。SK56 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.54m、短軸 1.30m、深さ 1.16m を測る。埋土は 14 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯、中世の土師器皿、石製品(磨石)、木製品(折敷・箸状製品)が出土している(図版 129・197・235)。

SE20 (図版 28・30・32、写真図版 27・28)

17G-1H11・12・16・17 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.00m、現存短軸 1.30m、深さ 1.22m を測る。埋土は 10 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀、中世の土師器皿、金属製品が出土している(図版 129・198・208)。

SE89 (図版 28・31・34、写真図版 30)

16G-9G22 に位置する中世の遺構である。平面形は不明、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.75m、現存短軸 0.38m、深さ 0.60m を測る。埋土は 7 層に分かれる。土師器皿が出土している(図版 198)。

SE98 (図版 28・31・34、写真図版 10・31)

16G-10F10・15、10G6・11 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.63m、短軸 1.40m、深さ 1.56m を測る。埋土は 11 層に分かれる。水溜施設として大型の円形曲物を持つ。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯・広口壺・横瓶、中世の瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼壺 T 種・甕、北越窯産須恵器系甕、土師器皿、軽石製石製品、木製品(曲物・円形板・箸状製品・部材など)が出土している(図版 198・221)。

SE104 (図版 28・31・35、写真図版 32・33)

16G-10F5・10、10G1・6 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 2.68m、現存短軸 1.58m、深さ 1.53m を測る。埋土は 5 層に分かれる。井戸側を検出し、その構造は縦板組隅柱横棧留である。水溜施設として大型の円形曲物を持つ。調査区の北西端に位置していたため、全体は検出できなかった。南西辺の縦板・横棧が崩落しており、曲物も南西側 4 分の 1 程度が内側に折れ曲がっていた。また、南東側にも歪みが生じており、横棧が内側にたわんでいる。北西側では横棧が二段検出され、縦板組が上方にもう一段あったと考えられる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器杯蓋、中世の土師器皿、木製品(井戸側板・曲物・箸状製品・楔・棒状製品・削片)が出土している(図版 129・222～234)。

SE106 (図版 28・31・34、写真図版 30)

16G-10F9・10 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 0.70m、短軸 1.10m、深さ 0.76m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・鍋、須恵器大甕、中世の瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼壺 T 種・甕・片口鉢、土師器皿、石製品(台石)、木製品(箸状製品・板状製品・下駄・削片)が出土している(図版 198・222)。

SE115 (図版 28・30・32、写真図版 27)

17G-2E9・10 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸

1.26m、短軸 1.14m、深さ 0.75m を測る。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀、須恵器無台杯・広口壺、木製品（曲物側板）が出土している（図版 129・221）。曲物側板の破片が出土していることから、水溜施設が存在した可能性がある。

**SE122**（図版 28・31・35、写真図版 34）

16G-10G13・14 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.90m、現存短軸 0.82m、深さ 0.75m を測る。埋土は 5 層に分かれる。土師器無台椀、須恵器広口壺・直口壺、木製品（箸状製品・曲物側板片）が出土している（図版 129・235）。曲物側板の破片が出土していることから、水溜施設が存在した可能性がある。

**SE126**（図版 28・31・36、写真図版 34）

16G-10F14・15・19・20 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.32m、短軸 1.10m、深さ 0.68m を測る。埋土は 5 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器長頸壺、中世の珠洲焼片口鉢、土師器皿、石製品（台石）、木製品（削片）が出土している（図版 129・198・210）。

**SE133**（図版 28・30・33、写真図版 28・30）

17G-1F20、1G16 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE6・167 と SK131 を切る。平面形は不整形である。確認面で長軸 2.10m、短軸 1.85m、深さ 0.75m を測る。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺、中世の珠洲焼壺 T 種・片口鉢、土師器皿、石製品（砥石）、木製品（削片）が出土している（図版 129・199・210）。

**SE144**（図版 28・30・32、写真図版 27）

17G-1G3・7・8 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD36 に切られ、SD168 を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 2.41m、現存短軸 2.27m、深さ 0.93m を測る。埋土は 6 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕、須恵器有台杯・大甕、中世の珠洲焼甕、土師器皿が出土している（図版 129）。

**SE166**（図版 28・30・33・34、写真図版 29・30）

17G-1G17・18・22・23、2G2・3 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD36 に切られ、SE173、SX137、SD4 を切る。平面形は不整形である。確認面で長軸 2.45m、短軸 2.10m、深さ 0.96m を測る。埋土は 7 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・鍋・仏鉢、須恵器大甕・長頸壺・広口壺・短頸壺・横瓶、中世の瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼壺 T 種・壺 K 種・甕・片口鉢、北越窯須恵器系甕、土師器皿、石製品、木製品（削片）が出土している（図版 129・199・210）。

**SE167**（図版 28・30・33、写真図版 28・30）

17G-1G11・12・16・17 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE6・133 と SK131 に切られる。平面形は不明である。確認面で深さ 0.88m を測る。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の須恵器杯蓋・長頸壺・短頸壺、中世の土師器皿、石製品（叩石・軽石製石製品）、木製品が出土している。

**SE169**（図版 28・30・34、写真図版 30）

17G-1G12・13・17・18 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD36・168 を切る。SE173 と隣接するが、切り合い関係は不明。平面形は円形である。確認面で現存長軸 2.25m、現存短軸 2.25m、深さ 0.80m を測る。平安時代の土師器無台椀、須恵器無台杯・大甕・短頸壺・長胴壺、中世の土師器皿、石製品（台石）、木製品が出土している。

**SE173**（図版 28・30・34）

17G-1G18・23 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE166 に切られ、SX137 と SD4 を切る。SE169 と隣接するが、切り合い関係は不明。平面形は円形である。確認面で長軸 1.90m、現存短軸 1.40m、深さ 0.71m を測る。平安時代の土師器無台椀・小甕・鍋、須恵器大甕・短頸壺・長胴壺・横瓶、中世の青磁椀、

瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼壺T種・甕・片口鉢、北越窯瓷器系壺、土師器皿、石製品(砥石・叩石・台石など)、木製品が出土している(図版129・199・211・212)。

**b 土坑(SK)・性格不明遺構(SX)**

**SK8**(図版28・31・38、写真図版36・46)

16G-9H18に位置する平安時代の遺構である。SD52に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.32m、短軸1.05m、深さ0.17mを測る。埋土は5層に分かれる。土師器無台椀・無台皿・長甕・小甕・鍋、須恵器有台杯が出土している(図版130)。

**SK9**(図版28・31・39、写真図版37・46)

16G-9H14・19に位置する平安時代～中世の遺構である。SD17・36に切られる。SK53と隣接しているが、切り合いは不明。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸1.45m、現存短軸0.88m、深さ0.32mを測る。埋土は3層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯、中世の土師器皿が出土している(図版130)。

**SK12a**(図版28・31・39、写真図版37・38)

16G-9H25、9I21に位置する平安時代の遺構である。SK12を1基の遺構として検出したが、切り合い関係を確認した為、a・bの枝番を設定した。SK12bを切る。平面形は長方形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.05m、短軸0.80m、深さ0.18mを測る。埋土は2層に分かれる。出土遺物は後述するSK12bの文章中で紹介している。

**SK12b**(図版28・31・39、写真図版37・38)

16G-9H25、9I21に位置する平安時代の遺構である。SK12aに切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸1.05m、現存短軸0.74m、深さ0.14mを測る。埋土は2層に分かれる。出土遺物はSK12a・bを一括して紹介する。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鉢、黒色土器無台椀、中世の珠洲焼甕、土師器皿が出土している(図版130)。特に残存率の高い土師器無台椀がまとめて出土しており、一括廃棄されたものとみられる。中世の遺物は混じたものであろう。

**SK13**(図版28・31・43)

16G-10I9に位置する平安時代の遺構である。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸0.35m、現存短軸0.25m、深さ0.14mを測る。土師器無台椀が出土している。

**SK14**(図版28・31・37)

16G-10I9・14に位置する平安時代の遺構である。SK108を切る。平面形は楕円形である。確認面で長軸0.62m、短軸0.38mを測る。土師器無台椀が出土している。

**SK30**(図版28・31・39、写真図版37)

16G-9H19・20・24・25に位置する平安時代の遺構である。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.07m、短軸1.07m、深さ0.09mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀・長甕、鍛冶関連遺物が出土している。

**SK31**(図版28・31・39、写真図版37)

16G-10H5に位置する平安時代の遺構である。SK32を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.08m、短軸0.62m、深さ0.13mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀、黒色土器無台椀が出土している。

**SK32**(図版28・31・39、写真図版37)

16G-10H5に位置する平安時代の遺構である。SK31に切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.32m、現存短軸0.55m、深さ0.16mを測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK34** (図版 28・31)

16G-9I16 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD41 と隣接しているが、切り合いは不明。平面形は長方形である。確認面で現存長軸 1.05m、現存短軸 0.65m を測る。平安時代の土師器無台碗が出土している。

**SK37** (図版 28・31・38、写真図版 36)

16G-10H3 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD29・35・36 を切る。平面形は長方形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.10m、短軸 0.92m、深さ 0.11m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕、中世の土師器皿が出土している。

**SK38** (図版 28・31・38、写真図版 36)

16G-9H24・25、10H4・5 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.63m、短軸 0.50m、深さ 0.14m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕、中世の土師器皿が出土している。

**SK53** (図版 28・31・39、写真図版 37)

16G-9H13・14・19 に位置する平安時代の遺構である。SD17 に切られる。SK9 と隣接しているが、切り合い関係は不明。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 1.00m、現存短軸 1.00m、深さ 0.20m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗・小甕が出土している。

**SK55** (図版 28・31・38、写真図版 36)

16G-10H8・9 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.53m、短軸 0.28m、深さ 0.22m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗、中世の土師器皿が出土している。

**SK56** (図版 28・31・36、写真図版 34)

16G-9H11・12 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE11 に切られる。平面形は円形である。確認面で長軸 1.55m、短軸 1.40m、深さ 0.38m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕・鉢・仏鉢、須恵器有台杯、中世の土師器皿、石製品(台石)が出土している(図版 130)。

**SK72** (図版 28・31)

16G-9H19・24 に位置する平安時代の遺構である。SD36 に切られる。平面形は方形である。確認面で長軸 0.40m、現存短軸 0.40m を測る。土師器無台碗が出土している。

**SK82** (図版 28・31)

16G-9G22・23 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD139 を切る。平面形は長方形である。確認面で長軸 0.90m、現存短軸 0.60m を測る。平安時代の土師器無台碗・無台皿、中世の土師器皿が出土している。

**SK92** (図版 28・31・38)

16G-10H4 に位置する。平面形は楕円形である。確認面で長軸 0.45m、短軸 0.30m を測る。遺物は出土していない。

**SK94** (図版 28・31)

16G-10I6 に位置する奈良時代の遺構である。SD4 に切られる。平面形は不明である。確認面で長軸 0.40m、現存短軸 0.25m を測る。須恵器杯蓋が出土している(図版 130)。

**SK95** (図版 28・31)

16G-9H21 に位置する。平面形は楕円形である。確認面で長軸 0.45m、短軸 0.20m を測る。遺物は出土していない。

**SK96** (図版 28・31・38・39、写真図版 36)

16G-9I21 に位置する平安時代の遺構である。SD17 に切られる。平面形は不明、断面形は箱形である。確認面で現存長軸 0.40m、短軸 0.32m、深さ 0.22m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

SK99 (図版 28・31・38、写真図版 36)

16G-10H8 に位置する中世の遺構である。SD36 に切られる。平面形は不明である。確認面で長軸 0.85m、現存短軸 0.40m、深さ 0.28m を測る。埋土は 4 層に分かれる。中世土師器皿が出土している。

SK100 (図版 28・31)

16G-9H22 に位置する中世以降の遺構である。SD52 を切る。平面形は長方形である。確認面で長軸 0.60m、短軸 0.30m を測る。土師器無台碗が出土している。

SK101 (図版 28・31・37、写真図版 35)

16G-10H20 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.53m、短軸 0.42m、深さ 0.20m を測る。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK102 (図版 28・31・39、写真図版 37)

16G-9H13・18 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.88m、短軸 0.27m、深さ 0.17m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

SK108 (図版 28・31・37、写真図版 35)

16G-10I9 に位置する平安時代の遺構である。SK14 に切られる。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.05m、現存短軸 1.04m、深さ 0.20m を測る。埋土は 2 層である。土師器無台碗・長甕・小甕・鉢が出土している。

SK110 (図版 28・31・37、写真図版 35)

16G-10H24 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.65m、短軸 0.62m、深さ 0.18m を測る。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台碗・鍋、中世の土師器皿が出土している。

SK111 (図版 28・31)

16G-10H20・25 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は楕円形である。確認面で長軸 0.95m、短軸 0.80m を測る。平安時代の土師器無台碗、中世の土師器皿が出土している。

SK113 (図版 28・30・36・41、写真図版 35・41)

17G-1G15・20 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD21 に切られる。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.02m、現存短軸 1.44m、深さ 0.63m を測る。埋土は 5 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕、須恵器有台杯・高杯、中世の瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼甕・片口鉢、土師器皿、石製品(叩石)が出土している(図版 131・199)。

SK114 (図版 28・31・38、写真図版 36)

16G-10H4 に位置する中世以降の遺構である。SD35 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.75m、短軸 0.60m、深さ 0.22m を測る。埋土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK117 (図版 28・31・38、写真図版 36)

16G-10H4・9 に位置する中世以降の遺構である。SD35 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.82m、短軸 0.56m、深さ 0.24m を測る。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SK119 (図版 28・30・36、写真図版 34)

17G-2E12・13・18 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.48m、現存短軸 1.32m、深さ 0.24m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯、瓦塔屋蓋部片が出土している(図版 131・205)。

SK121 (図版 28・31)

16G-10H21 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形である。確認面で長軸 1.50m、短軸 0.75m を測る。中世土師器皿が出土している。



**SK125** (図版 28・30・31)

17G-1G2 に位置する。平面形は楕円形である。確認面で長軸 0.80m、短軸 0.70m を測る。遺物は出土していない。

**SK131** (図版 28・30・33、写真図版 28・30)

17G-1F15・20、1G11 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE133 に切られ、SE6・167 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 2.00m、短軸 1.40m、深さ 0.48m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・長頸壺・短頸壺・長胴壺、中世の青磁碗、土師器皿、鍛冶関連遺物、石製品(砥石・磨石)、木製品(削片)が出土している(図版 131・200・212)。

**SK134** (図版 28・30・33、写真図版 28)

17G-1F25、1G21 に位置する平安時代～中世の遺構である。SX135 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.80m、短軸 1.00m、深さ 0.48m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗、石製品(磨石・叩石)、木製品が出土している。

**SK157** (図版 28・30・37、写真図版 35)

17G-1G14 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD4・21 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 1.17m、短軸 0.55m、深さ 0.40m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗、中世の土師器皿が出土している。

**SK172** (図版 28・30・31)

17G-1H3・4・8 に位置する平安時代の遺構である。SD105 に切られる。平面形は不明である。確認面で現存長軸 1.50m、現存短軸 0.55m を測る。土師器無台碗が出土している。

**SK174** (図版 28・30・31・37、写真図版 35)

17G-1G10・15 に位置する中世以降の遺構である。SD4・161 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.90m、短軸 0.78m、深さ 0.18m を測る。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SK175** (図版 28・31・37、写真図版 35)

16G-10H15・20 に位置する中世以降の遺構である。SD4・35 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.52m、短軸 1.30m、深さ 0.60m を測る。埋土は 6 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SX23** (図版 28・31・39・40、写真図版 37・39)

16G-9H8・9・13～15 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD17・41 に切られる。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 2.40m、現存短軸 1.05m、深さ 0.33m を測る。埋土は 7 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕・鉢・仏鉢、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・大甕、緑釉陶器有台碗、中世の珠洲焼甕、土師器皿、瓦塔屋蓋部片、鍛冶関連遺物、石製品(砥石・磨石・軽石製石製品)が出土している(図版 131・205・213)。

**SX86** (図版 28・31・43、写真図版 46)

16G-9I16・17 に位置する。SD41 に切られる。平面形は不明、断面形は半円形である。確認面で深さ 0.44m を測る。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SX135** (図版 28・30・33、写真図版 28～30)

17G-1F25、1G21・22、2F5、2G1・2 に位置する平安時代～中世の遺構である。SK134 と SD36・168 に切られ、SD3・156 を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 4.40m、短軸 2.75m、深さ 0.64m を測る。埋土は 5 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕・鍋、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺・長胴壺、中世の瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼壺 T 種・甕・片口鉢、土師器皿、鍛冶関連遺物、石製品(砥石・台石)、木製品(丸木材・削片)が出土している(図版 131・200・213)。

**SX137** (図版 28・30・34)

17G-1G19・23・24に位置する平安時代の遺構である。SE166・173に切られ、SD136を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で短軸 0.72m、深さ 0.12m を測る。土師器無台椀・長甕が出土している。

**SX149** (図版 28・30・40、写真図版 38・39)

17G-1F17・18・22・23に位置する平安時代の遺構である。SX150に切られる。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 2.95m、短軸 1.70m、深さ 0.25m を測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀・仏鉢が出土している。

**SX150** (図版 28・30・40、写真図版 38・39)

17G-1F18・19・23・24に位置する平安時代の遺構である。SX149を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.02m、短軸 1.82m、深さ 0.34m を測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀・小甕・鍋、須恵器杯蓋が出土している。

**SX151** (図版 28・30・40、写真図版 38・39)

17G-1F13・14・18・19に位置する平安時代の遺構である。SX149・150と隣接するが、切り合い関係は不明。平面形は不明、断面形は箱形である。確認面で長軸 1.95m、短軸 1.56m、深さ 0.40m を測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀・長甕・仏鉢、須恵器無台杯・長胴壺が出土している(図版 131)。

c 溝 (SD)

**SD1** (図版 28・30・40、写真図版 39・40)

17G-2E18～20・22～24、2F14～20、2G11、3E2・3に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-82°-E)。SD2を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.20m 前後、深さは 0.35m 前後である。埋土は3層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・有台皿・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台椀、中世の土師器皿、石製品(台石)が出土している(図版 132)。中世の遺物も出土しているが、須恵器無台杯が底面から出土していることから、平安時代の遺構とした。

**SD2** (図版 28・30・40、写真図版 39・40)

17G-2E25、2F17・21・22、3E4・5・8～10・13、3F1に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-52°-E)。SD1に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.05m 前後、深さは 0.44m 前後である。埋土は4層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・鍋・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・長頸壺、瓦塔、中世の土師器皿、鍛冶関連遺物、石製品(叩石)が出土している(図版 132・205)。中世の遺物が出土しているが、SD1に切られることから、平安時代の遺構とした。

**SD3** (図版 28・30・41、写真図版 40・41)

17G-2G1・2・6・7に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる(N-20°-W)。SX135に切られ、SD156を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.57m 前後である。埋土は6層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・杯蓋、中世の珠洲焼壺 T 種・壺 K 種(装飾壺)・甕・片口鉢、石製品(砥石・磨石)が出土している(図版 132・200)。

**SD4** (図版 28・30・31・34・37・41・43、写真図版 35・41～44・46)

16G-10H14・15・18～24、10I2・3・6～8・11・12・16、17G-1G5・9・10・13～15・18・19、1H1・2・6に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-55°-E)。SE166・169・173、SK157・174・175、SD5・21・36・161に切られ、SK94とSD7・17・35・105を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.50m 前後、深さは 1.20m 前後である。埋土は5層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・有台椀・有台皿・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・横瓶、灰釉陶器有台椀、中世の青磁椀、瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼壺 R 種・壺 T 種・甕・片口鉢、備前焼片口鉢、土師器皿、金属製品(鉄釘)、石製品(砥石・台石など)、木製品(箸状製品・板状製品)が出土している(図

版 132・200・201・208・214・235)。

**SD5** (図版 28・31・41、写真図版 41)

16G-10H10、10I2・6・7・11・12 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延び (N-55° -E)、湾曲して北西～南東へ流れる。SD4 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.15m 前後である。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器杯蓋・大甕、中世の土師器皿、石製品 (磨石・台石・軽石製石製品) が出土している (図版 133)。

**SD7** (図版 28・30・31・41、写真図版 41・42)

17G-1H1・2・7・8・13 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-43° -W)。SD4・161 に切られ、SD105 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.40m 前後、深さは 0.24m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、中世の瀬戸・美濃焼瓶子、土師器皿が出土している (図版 133)。

**SD17** (図版 28・31・38～40・42・43、写真図版 37・45・46)

16G-9H7・8・13～15・19・20、9I16・21～23、10I2～4・9 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-56° -W)。SD4・36 に切られ、SK9・53・96、SX23、SD28 を切る。断面形は箱形である。確認面で最大幅 0.80m 前後、深さは 0.24m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、中世の珠洲焼甕、土師器皿、石製品 (台石) が出土している (図版 133)。

**SD21** (図版 28・30・36・37・41、写真図版 35・41)

17G-1G14・15・19・20・24・25 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-2° -E)。SK157 に切られ、SK113 と SD4 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.66m 前後、深さは 0.50m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、中世の青磁椀、瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼片口鉢、土師器皿、石製品 (台石) が出土している (図版 201)。

**SD28** (図版 28・31・38・42、写真図版 45)

16G-9I16・17・21・22 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-32° -E)。SD17・41 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.12m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している。

**SD29** (図版 28・31・38・42、写真図版 43)

16G-9H24・25、10H3・4 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-53° -E)。SK37 と SD35・36 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.70m 前後、深さは 0.11m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋・長胴壺、中世の土師器皿、石製品 (台石) が出土している。

**SD33** (図版 28・31・42、写真図版 43)

16G-10H10、10I6 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-55° -W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.50m 前後、深さは 0.24m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している (図版 133)。

**SD35** (図版 28・31・37・38・41・42、写真図版 36・41・43・44)

16G-9H17・22・23、10H3・4・9・10・15・20 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-42° -E)。SK37・114・117・175、SD4 に切られ、SD29・36・52・70 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.13m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋・大甕、中世の青磁椀、北越窯須恵器系片口鉢、土師器皿、石製品 (台石) が出土している (図版 133・201)。



**SD36** (図版 28・30～33・38・42・43、写真図版 27・29・36・43・44)

16G-9H10・14・15・19・20・23・24、10G15・19・20・24・25、10H3・4・6～8・11・12・16、17G-1G3・4・8・9・13・14・17・18・21・22 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-42° -E)。SE169、SK37、SD35、河 16 に切られ、SE144・166、SK9・72・99、SX135、SD4・17・29・41・112・124・168 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 1.40m 前後、深さは 0.64m 前後である。埋土は 8 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・有台椀・有台杯・長甕・小甕・鍋・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・横瓶、中世の青磁椀、珠洲焼壺 T 種・甕・片口鉢、土師器皿、石製品 (叩石) が出土している (図版 133・201)。

**SD41** (図版 28・31・38・43、写真図版 45～47)

16G-9H7～10・14・15、9I11・16・17・22・23 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-55° -W)。SD36 と河 16 に切られ、SX23・86 と SD28 を切る。SK34 と隣接しているが、切り合いは不明。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.75m 前後、深さは 0.32m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺・小壺、中世の土師器皿、石製品 (砥石・台石) が出土している (図版 133)。

**SD52** (図版 28・31・38・42)

16G-9H17・18・21・22、10H1 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-50° -E)。SK100 と SD35 に切られ、SK8 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.30m 前後、深さは 0.08m 前後である。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀、中世の土師器皿、金属製品 (鉄釘)、石製品 (叩石) が出土している (図版 134・208)。

**SD70** (図版 28・31・42、写真図版 45)

16G-9H12・13・16～18・21・22 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-44° -E)。SD35 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.45m 前後、深さは 0.13m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕・長頸壺が出土している (図版 134)。

**SD105** (図版 28・30・31・41、写真図版 42)

16G-10H21、17G-1G4・5・9・10、1H1～5 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-88° -W)。SD4・7・161 に切られ、SK172 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.35m 前後である。埋土は 5 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・長頸壺、中世の土師器皿が出土している (図版 134・201)。

**SD112** (図版 28・31)

16G-10G19・24 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-42° -W)。SD36 に切られる。確認面で最大幅 0.45m 前後である。土師器無台椀、石製品 (砥石) が出土している。

**SD124** (図版 28・30・31・42、写真図版 42)

16G-10G22～24、17G-1G2・3 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-76° -E)。SD36 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.20m 前後、深さは 0.12m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・小甕が出土している。

**SD130** (図版 28・31・42、写真図版 43)

16G-10H25、10I21 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-34° -W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.95m 前後、深さは 0.16m 前後である。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台椀、中世の土師器皿が出土している。

**SD136** (図版 28・30・34)

17G-1G24、2G4 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-25° -W)。SX137 に

切られる。確認面で最大幅 0.55m 前後である。土師器無台椀が出土している。

**SD138** (図版 28・30・42、写真図版 42)

17G-1H11・12 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-51° -W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.60m 前後、深さは 0.18m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・鍋、中世の瀬戸・美濃焼瓶子、石製品 (台石) が出土している (図版 201)。

**SD139** (図版 28・31・42、写真図版 45)

16G-9G22・23、10G2～4 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-58° -W)。SK82 に切られる。断面形は箱形である。確認面で最大幅 1.20m 前後、深さは 0.23m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀・小甕、軽石製石製品が出土している (図版 134)。

**SD156** (図版 28・30・41、写真図版 40・41)

17G-1G22、2G2・7 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-20° -W)。SX135 と SD3 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.65m 前後、深さは 0.28m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SD160** (図版 28・30・41、写真図版 40)

17G-2E12・16・17 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-4° -E)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.65m 前後、深さは 0.25m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、瓦塔屋蓋部片、中世の土師器皿、金属製品 (鉄釘) が出土している (図版 134・205・208)。

**SD161** (図版 28・30・31・37、写真図版 35)

17G-1G5・10・15、1H1・6 に位置する。中世以降の遺構である。SK174 に切られ、SD4 を切る。軸方向は北東～南西に延びる (N-52° -E)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.49m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・長甕が出土している。

**SD168** (図版 28・30・32～34、写真図版 29)

17G-1G8・12・13・16・17・21・22 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-42° -E)。SE144・169 と SD36 に切られ、SX135 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.85m 前後、深さは 0.40m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

**d 旧 河 道**

**河 16** (図版 28・31・43、写真図版 46・47)

16G-8H24、9H3～5・9・10・15、9I11 に位置する平安時代～中世の旧河道である。SD36・41 を切る。現存川幅は 3.00m 前後、深さは 0.60m 前後である。埋土は 7 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺・広口壺・短頸壺・横瓶・小壺、中世の青磁椀、瀬戸・美濃焼瓶子、珠洲焼壺 T 種・甕・片口鉢、北越窯産須恵器系壺・甕、土師器皿、石製品 (砥石・磨石・叩石・台石・軽石製石製品) が出土している (図版 134・201)。

**e 小 土 坑 (Pit)**

260 基確認されている。平面形は大半が円形あるいは楕円形で、調査区北側に集中して分布している。柱根は Pit75 の 1 点のみ検出された (図版 235)。

**f 掘立柱建物 (SB)**

**SB320** (図版 28・30・31・44、写真図版 47)

16G-10F15・19・20・24・25、10G16・21・22、17G-1F5・10、1G1・2・6 に位置する 3 間 1 間の掘立柱建物である。主軸は N-36° -W である。SB320 を構成する Pit から平安時代の土師器無台椀と中世土師器皿が出土している。

SB321 (図版 28・31・44、写真図版 48)

16G-9G15・20・25、9H11・16・21 に位置する 1 間 1 間の掘立柱建物である。主軸は N-46° -E である。SB321 を構成する Pit から平安時代の土師器無台椀が出土している。

SB322 (図版 28・31・44、写真図版 48)

16G-9H6・7・11・12 に位置する掘立柱建物である。主軸は N-55° -W である。大部分は調査区外に広がり、規模は不明である。SB322 を構成する Pit から平安時代の土師器無台椀と中世土師器皿が出土している。

SB323 (図版 28・31・44、写真図版 48)

16G-9H18・19・23・24 に位置する 2 間 1 間の掘立柱建物である。主軸は N-37° -E である。SB323 を構成する Pit から平安時代の土師器長甕と鍋が出土している。

## D 3 区 の 遺 構

### 1) 3 区 の 概 要

3 区は 2 区の北西側、約 20 × 50m の範囲の調査区である。遺構総数は 686 基あり、その内訳は SE 33 基、SK 74 基・SX 9 基、SD 38 基、旧河道 1 基、Pit 528 基、SB 3 基である。出土遺物と層位的な所見から、大半の遺構は平安時代のもと考えられる。調査区の北東側 1/3 が旧河道で占められていた。この旧河道と SD15 に挟まれた微高地上に遺構が集中して存在する。調査面積は上端面積 1050.146m<sup>2</sup>、下端面積 1024.459m<sup>2</sup> である。

### 2) 3 区 遺 構 各 節

#### a 井 戸 (SE)

SE7 (図版 45・53・57、写真図版 52)

16G-5D25、5E21、6E1 に位置する。河 1 の上面で検出した。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.00m、短軸 0.83m、深さ 0.59m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀が出土しているが、河 1 の遺物が SE7 の底面に表出した可能性もある (図版 138)。

SE14 (図版 45・52・55、写真図版 49)

16G-7A16・17・21・22 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.53m、現存短軸 1.02m、深さ 0.95m を測る。埋土は 5 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀が出土している (図版 138)。

SE16 (図版 45・53・57、写真図版 52)

16G-6E12・13・17 に位置する平安時代～中世の遺構である。河 1 の上面で検出した。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.10m、現存短軸 0.86m、深さ 0.60m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・小甕・鍋、中世の珠洲焼壺 T 種が出土している (図版 138)。

SE21 (図版 45・52・55、写真図版 49)

16G-8A15 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.03m、短軸 0.99m、深さ 1.01m を測る。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、中世の珠洲焼壺 T 種、石製品 (台石)、木製品 (漆器椀・下駄) が出土している (図版 138・215・236)。

SE47 (図版 45・52・58・75、写真図版 10・52～54)

16G-7A20 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD15 に切られる。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.95m、短軸 1.70m、深さ 1.80m を測る。埋土は 9 層に分かれる。井戸側を検出し、その構造は縦板組隅柱横棧留である。水溜施設として大型円形曲物を持つ。西辺では隅柱と組まれた横棧の外側に、もう 1 本横棧を設置し補強している。この外側の横棧に沿って縦板が組まれている。平安時代の土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、中世の青磁椀、珠洲焼壺 T 種、石製品 (台石・軽石製石製品)、木

製品（井戸側板・曲物・部材・丸木材・棒状製品）が出土している（図版 138・202・216・238～244）。

**SE55**（図版 45・52・57・58、写真図版 52）

16G-7A25 に位置する平安時代の遺構である。SD15 に切られ、SK89 を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.25m、短軸 1.17m、深さ 1.47m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・有台碗・長甕・小甕・仏鉢、須恵器大甕・長頸壺、軽石製石製品、木製品（棒状製品）が出土している（図版 138・216・236）。

**SE67**（図版 45・52・57、写真図版 51）

16G-7A10・15 に位置する平安時代の遺構である。SD15 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 1.95m、短軸 1.51m、深さ 0.97m を測る。埋土は 8 層に分かれる。土師器無台碗・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・杯蓋・大甕、金属製品（鉄釘または鏝）、石製品（砥石）が出土している（図版 138・208・216）。

**SE72**（図版 45・52・55、写真図版 49）

16G-7A3・4・8・9 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE72・83・98 が重複しており、SE83・98 を切る。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.23m、現存短軸 1.35m、深さ 0.97m を測る。埋土は 10 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・有台皿・長甕、須恵器杯蓋・大甕、中世の珠洲焼甕・片口鉢、木製品（円形板）が出土している（図版 138・202・235）。

**SE74**（図版 45・52・59・66、写真図版 54）

16G-7B21・22、8B2 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE100、SX19、SD48 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.91m、短軸 1.46m、深さ 1.17m を測る。埋土は 7 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・大甕、中世の珠洲焼片口鉢、石製品（叩石・台石）が出土している（図版 138）。

**SE77**（図版 45・52・59、写真図版 55）

16G-8B7・8・12・13 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.53m、短軸 1.52m、深さ 1.21m を測る。埋土は 7 層に分かれる。土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している（図版 138）。

**SE83**（図版 45・52・55、写真図版 49）

16G-7A4・5 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE72 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.07m、現存短軸 0.95m、深さ 0.92m を測る。埋土は 7 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗、須恵器大甕、中世の珠洲焼壺 T 種、木製品（漆器碗・草履芯）が出土している（図版 139・235）。

**SE93**（図版 45・52・62、写真図版 57）

16G-8B15・20、8C11 に位置する平安時代の遺構である。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.95m、現存短軸 0.94m、深さ 0.86m を測る。埋土は 6 層に分かれる。土師器無台碗、須恵器大甕が出土している。

**SE94**（図版 45・52・61、写真図版 56）

16G-8B8・9 に位置する平安時代の遺構である。SX92 に切られ、SE127 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.32m、短軸 1.12m、深さ 1.20m を測る。埋土は 7 層に分かれる。土師器無台碗、須恵器大甕、木製品（箸状製品・下駄・削片）が出土している（図版 245）。

**SE98**（図版 45・52・55、写真図版 49）

16G-7A3・4・8・9 に位置する平安時代の遺構である。SE72 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.05m、現存短軸 0.92m、深さ 0.71m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗、木製品（板状製品）が出土している（図版 235）。



**SE100** (図版 45・52・59・66、写真図版 54・62)

16G-7B22・23、8B2・3 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE74 と SD17 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.53m、現存短軸 0.95m、深さ 1.31m を測る。埋土は 8 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・鍋、須恵器無台杯・大甕、中世の青磁椀、珠洲焼甕、石製品(叩石・軽石製石製品)、木製品(丸木材・棒状製品・折敷・箸状製品・刷毛状製品・楔・削片)が出土している(図版 139・237)。

**SE102** (図版 45・52・62、写真図版 57)

16G-8C6・11 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 1.03m、短軸 1.00m、深さ 0.87m を測る。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯が出土している(図版 139)。

**SE104** (図版 45・52・56、写真図版 50・51)

16G-6A25、6B16・21、7A5、7B1 に位置する平安時代の遺構である。SD15 に切られ、SE112 を切る。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.85m、短軸 2.08m、深さ 1.91m を測る。埋土は 8 層に分かれる。井戸側を持たない素掘りの井戸で、径の小さい曲物を水溜として据え、その上にひとまわり径の大きい曲物を重ねて設置していた。土師器無台椀・長甕・小甕・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、金属(銅)製品、木製品(曲物・曲物側板・部材・箸状製品)が出土している(図版 139・208・236・237)。

**SE112** (図版 45・52・56、写真図版 50・51)

16G-6B21・22、7B1・2 に位置する平安時代の遺構である。SE104 に切られる。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.17m、現存短軸 1.50m、深さ 1.38m を測る。埋土は 7 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋・仏鉢、黒色土器無台椀、木製品(削片)が出土している(図版 139)。

**SE113** (図版 45・52・60、写真図版 55)

16G-6B12～14・18 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.50m、短軸 2.26m、深さ 1.07m を測る。埋土は 5 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯、中世の青磁椀、木製品が出土している(図版 139)。

**SE114a** (図版 45・52・62、写真図版 58)

16G-7C16・17・21・22 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE114b 埋没後、SE114a が掘られていることから、掘り直しの可能性がある。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.62m、短軸 1.60m、深さ 0.96m を測る。埋土は 4 層に分かれる。出土遺物は後述する SE114b の文章中で紹介している。

**SE114b** (図版 45・52・62、写真図版 58)

16G-7C16・17・21・22 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE114a・115 に切られ、SD157 を切る。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.20m、短軸 0.80m、深さ 1.10m を測る。埋土は 3 層に分かれる。出土遺物は SE114a・b を一括して紹介する。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕・長頸壺、中世の珠洲焼片口鉢、北越窯産陶器壺、土師器皿、石製品(砥石・台石)が出土している(図版 139・202・216・217)。

**SE115** (図版 45・52・62・76、写真図版 58)

16G-7C17・22・23 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE114b を切る。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.25m、短軸 1.15m、深さ 0.93m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・鍋、須恵器無台杯、中世の珠洲焼水注が出土している(図版 139)。

**SE127** (図版 45・52・61、写真図版 56)

16G-8B3・4・8・9 に位置する平安時代の遺構である。SE94、SX92 に切られる。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 1.43m、短軸 0.88m、深さ 0.72m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯が出土している。



**SE135** (図版 45・52・60、写真図版 55)

16G-6B22・23 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.97m、短軸 0.87m、深さ 0.56m を測る。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀、中世の土師器皿が出土している。

**SE138** (図版 45・52・61、写真図版 56)

16G-7B19・20・25 に位置する平安時代～中世の遺構である。SK174 を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.19m、短軸 1.13m、深さ 1.00m を測る。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、中世の珠洲焼甕、木製品(折敷)が出土している(図版 139・202)。

**SE144** (図版 45・52・61・62・67、写真図版 57)

16G-7B24・25、8B4・5 に位置する平安時代の遺構である。SX92 に切られ、SK109 と SD157 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.07m、短軸 0.92m、深さ 0.79m を測る。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕、木製品が出土している。

**SE149** (図版 45・52・61、写真図版 56)

16G-7B15・20、7C11・16 に位置する平安時代の遺構である。SK191 と SD158 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.09m、短軸 0.90m、深さ 0.90m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、須恵器大甕が出土している。

**SE153** (図版 45・52・62、写真図版 57)

16G-8B5 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.71m、短軸 0.61m、深さ 0.74m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯・大甕、金属製品(鉄釘)が出土している(図版 208)。

**SE165** (図版 45・52・63、写真図版 59)

16G-7C23・24 に位置する平安時代の遺構である。SD166 を切る。平面形は円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.87m、短軸 0.87m、深さ 0.80m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀、木製品が出土している(図版 245)。

**SE228** (図版 45・52・60、写真図版 55)

16G-6B24、7B4 に位置する平安時代の遺構である。平面形は長方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.85m、短軸 1.30m、深さ 1.06m を測る。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、木製品(箸状製品)が出土している(図版 139・245)。

**SE308** (図版 45・52・59、写真図版 52)

16G-8B11・16 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD15 の底面で確認した。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.83m、短軸 0.78m、深さ 0.97m を測る。平安時代の土師器無台椀、中世の土師器皿、木製品(丸木材・曲物側版)が出土している(図版 202・236)。曲物側板の破片が出土していることから、水溜施設が存在した可能性がある。

**SE321** (図版 45・52・63・68、写真図版 59)

16G-6C16・17 に位置する平安時代の遺構である。SK350 と SD348 を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.34m、短軸 1.10m、深さ 1.00m を測る。埋土は 6 層に分かれる。土師器無台椀、黒色土器無台椀、須恵器杯蓋・大甕、金属製品(鉄釘)が出土している(図版 139・208)。

**SE332** (図版 45・52・63、写真図版 59)

16G-6C23・24、7C3・4 に位置する平安時代～中世の遺構である。SX283 と SD128 に切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.70m、短軸 1.70m、深さ 1.03m を測る。埋土は 6 層

に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕、中世の珠洲焼甕、石製品(砥石・叩石)、木製品(円形板・削片)が出土している(図版139・140・216・245)。

**SE366**(図版45・52・63、写真図版59)

16G-7C20・25、7D16に位置する平安時代の遺構である。SX371を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸2.10m、短軸1.90m、深さ1.30mを測る。埋土は10層に分かれる。曲物側板の破片が出土していることから、水溜施設が存在した可能性がある。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺、瓦塔屋蓋部片、石製品(台石・軽石製石製品)、木製品(曲物側板・棒状製品・楔)が出土している(図版140・205・216・245)。

**b 土坑(SK)・性格不明遺構(SX)**

**SK3**(図版45・53・71、写真図版71)

16G-5E1・6に位置する。河1の上面で検出した。平面形は長方形、断面形は箱形である。確認面で長軸1.25m、短軸1.06m、深さ0.45mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

**SK4**(図版45・53・71、写真図版71)

16G-5E2・3・7・8に位置する。河1の上面で検出した。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.19m、短軸0.93m、深さ0.38mを測る。埋土は2層に分かれる。木製品が出土している。

**SK5**(図版45・53・71、写真図版71・72)

16G-5E12・13・17・18に位置する。河1の上面で検出した。平面形は不整形、断面形は半円形である。確認面で長軸1.27m、短軸1.20m、深さ0.21mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

**SK6**(図版45・53・71、写真図版71)

16G-5D24・25、6D4・5に位置する。河1の上面で検出した。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸2.13m、現存短軸1.72m、深さ0.19mを測る。埋土は1層である。平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀が出土しているが、河1の遺物がSK6の底面に表出した可能性もある。

**SK8**(図版45・53・72、写真図版72)

16G-6E2・3に位置する。河1の上面で検出した。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.03m、短軸0.94m、深さ0.22mを測る。埋土は1層である。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀が出土しているが、河1の遺物がSK8の底面に表出した可能性もある(図版140)。

**SK9**(図版45・53・72、写真図版72)

16G-5E23・24、6E3に位置する。河1の上面で検出した。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.49m、短軸1.35m、深さ0.24mを測る。埋土は3層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・鍋が出土しているが、河1の遺物がSK9の底面に表出した可能性もある(図版140)。

**SK10**(図版45・53・72、写真図版72・73)

16G-5E24・25に位置する。河1の上面で検出した。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸0.87m、短軸0.83m、深さ0.21mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK11**(図版45・53・72、写真図版72・73)

16G-5E24・25、6E4・5に位置する。河1の上面で検出した。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.30m、短軸1.12m、深さ0.12mを測る。埋土は2層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀が出土しているが、河1の遺物がSK11の底面に表出した可能性もある。

**SK12**(図版45・53・72、写真図版73)

16G-5E20・25、5F16・21に位置する。河1の上面で検出した。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.70m、現存短軸0.64m、深さ0.17mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK13** (図版 45・53・72、写真図版 72)

16G-6E1・2・6・7に位置する。河1の上面で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸1.40m、現存短軸1.00m、深さ0.23mを測る。埋土は3層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土しているが、河1の遺物がSK13の底面に表出した可能性もある。

**SK18** (図版 45・52・65・73、写真図版 60・74)

16G-8A20・25、8B16・21に位置する平安時代の遺構である。SD15・17に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で現存長軸2.00m、現存短軸0.50m、深さ0.26mを測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀・長甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋、石製品(台石)が出土している(図版140)。

**SK20** (図版 45・52・64、写真図版 60)

16G-8A10・15、8B11に位置する平安時代の遺構である。SD15に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸1.48m、現存短軸0.46m、深さ0.08mを測る。埋土は1層である。土師器長甕が出土している。

**SK33** (図版 45・53・71、写真図版 70)

16G-5C15・19・20・25、5D16・21に位置する平安時代～中世の遺構である。SD2と河1に隣接しているが、切り合い関係は不明である。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸3.72m、短軸1.72m、深さ0.31mを測る。埋土は1層である。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、中世の北越窯産陶器甕が出土している(図版140)。土層の堆積から風倒木痕の可能性もある。

**SK34** (図版 45・53・71、写真図版 70・71)

16G-6C5、6D1に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸0.67m、短軸0.55m、深さ0.23mを測る。埋土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

**SK44** (図版 45・52・64、写真図版 60)

16G-8A2・3・8に位置する平安時代の遺構である。IV層から掘り込んでいる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸1.99m、現存短軸1.05m、深さ0.57mを測る。埋土は1層である。土師器無台椀が出土している。

**SK45** (図版 45・53・71、写真図版 70)

16G-5C14・19に位置する。SD2を切る中世以降の遺構である。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で長軸1.08m、短軸0.63m、深さ0.46mを測る。遺物は出土していない。

**SK46** (図版 45・52・64、写真図版 60)

16G-7A25、8A5に位置する平安時代の遺構である。SD15に切られる。平面形は不明、断面形は半円形である。確認面で長軸0.83m、現存短軸0.62m、深さ0.27mを測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕が出土している(図版140)。

**SK63** (図版 45・52・64、写真図版 61)

16G-7A8・9・13に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.79m、短軸0.48m、深さ0.11mを測る。埋土は1層である。土師器無台椀が出土している。

**SK79** (図版 45・52・66、写真図版 62)

16G-8B12・17・18に位置する平安時代の遺構である。平面形は長方形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.75m、短軸0.50m、深さ0.11mを測る。埋土は1層である。土師器無台椀が出土している。

**SK81** (図版 45・52・66、写真図版 62)

16G-8B8に位置する。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.60m、短軸0.57m、深さ0.09mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK82** (図版 45・52・66、写真図版 62)

16G-8B3・8に位置する。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.07m、短軸 0.70m、深さ 0.10m を測る。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SK89** (図版 45・52・57)

16G-7A24・25に位置する平安時代の遺構である。SE55に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.60m、現存短軸 0.52m、深さ 0.10m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土している(図版 140)。

**SK91** (図版 45・53・71)

16G-6D11・12・16・17に位置する。SD2の底面で検出した。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.00m、短軸 1.12m、深さ 0.46m を測る。遺物は出土していない。

**SK101** (図版 45・52・66、写真図版 62)

16G-7B23、8B3に位置する平安時代の遺構である。SD17を切る。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.42m、短軸 1.00m、深さ 0.15m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗、黒色土器無台碗、須恵器大甕が出土している。

**SK107** (図版 45・52・65、写真図版 62)

16G-7B6・7に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.72m、短軸 0.50m、深さ 0.15m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗が出土している。

**SK109** (図版 45・52・62・67、写真図版 57)

16G-7B24・25に位置する平安時代の遺構である。SE144に切られる。平面形は円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.85m、短軸 0.80m、深さ 0.18m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗、須恵器大甕が出土している。

**SK118** (図版 45・52)

16G-7B13・18に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形である。確認面で長軸 0.61m、短軸 0.60m を測る。土師器無台碗・長甕が出土している(図版 140)。

**SK126** (図版 45・52・65、写真図版 61)

16G-6B16・17に位置する平安時代の遺構である。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.88m、短軸 0.80m、深さ 0.64m を測る。土師器無台碗・長甕、木製品が出土している。

**SK136** (図版 45・52・65、写真図版 61)

16G-6B22に位置する平安時代の遺構である。SK137と隣接するが、切り合い関係は不明。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.75m、短軸 0.60m、深さ 0.23m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗、黒色土器無台碗が出土している。

**SK137** (図版 45・52・65、写真図版 61)

16G-6B22に位置する平安時代の遺構である。SK136と隣接するが、切り合い関係は不明。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.71m、短軸 0.60m、深さ 0.48m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗、須恵器杯蓋が出土している。

**SK139** (図版 45・52・68、写真図版 65)

16G-7C11・16に位置する平安時代の遺構である。SK191とSX283を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.66m、短軸 1.15m、深さ 0.21m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・杯蓋・大甕が出土している(図版 140・141)。

**SK140** (図版 45・52・65、写真図版 61)

16G-6B17に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸

0.90m、現存短軸 0.70m、深さ 0.32m を測る。土師器無台碗が出土している。

**SK174** (図版 45・52・61、写真図版 56)

16G-7B20 に位置する平安時代の遺構である。SE138 に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.99m、現存短軸 0.44m、深さ 0.13m を測る。埋土は 1 層である。土師器長甕、黒色土器無台碗、須恵器大甕が出土している。

**SK176** (図版 45・52・57)

16G-7B1・6 に位置する平安時代の遺構である。SD15 に切られる。平面形は不明である。確認面で長軸 1.00m、現存短軸 0.40m を測る。土師器無台碗、黒色土器無台碗、須恵器長頸壺が出土している (図版 141)。

**SK191** (図版 45・52・66・68、写真図版 65・66)

16G-7B10・15、7C6・11・16 に位置する平安時代の遺構である。SE149、SK139・232、SX283、SD367 に切られる。SK282 と隣接しているが、切り合い関係は不明。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 3.80m、現存短軸 2.50m、深さ 0.32m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・仏鉢、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・壺蓋、二彩托が出土している (図版 141・142)。

**SK208** (図版 45・52・65、写真図版 61)

16G-6B18・23、7B3 に位置する平安時代の遺構である。SK329 と SD84 に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸 2.54m、現存短軸 1.18m、深さ 0.14m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗・鍋、黒色土器無台碗が出土している (図版 142)。

**SK209** (図版 45・52・66・75、写真図版 62)

16G-6B24 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 0.73m、短軸 0.49m、深さ 0.28m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

**SK232** (図版 45・52・66・67・76)

16G-7B10・15 に位置する平安時代の遺構である。SK191・282 を切る。平面形は長方形、断面形は箱形である。確認面で長軸 1.15m、短軸 0.90m、深さ 0.64m を測る。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺・広口壺・短頸壺が出土している (図版 142)。

**SK250** (図版 45・52・66、写真図版 62)

16G-6B24・25 に位置する平安時代の遺構である。SD17 に切られる。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.63m、短軸 0.85m、深さ 0.18m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕、須恵器無台杯が出土している。

**SK252** (図版 45・52・67、写真図版 64)

16G-6B20 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.61m、短軸 0.49m、深さ 0.11m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗が出土している。

**SK254** (図版 45・52・67、写真図版 63・64)

16G-6B15、6C6・11 に位置する平安時代の遺構である。SD277 に切られ、SK279 を切る。平面形は長方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.42m、短軸 0.70m、深さ 0.18m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・小甕、黒色土器無台碗が出土している。

**SK276** (図版 45・52・70、写真図版 70)

16G-7C19 に位置する平安時代の遺構である。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 0.81m、短軸 0.76m、深さ 0.11m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

**SK279** (図版 45・52・67、写真図版 63・64)

16G-6C6・11 に位置する平安時代の遺構である。SK254 と SD84 に切られる。平面形は不明、断面形は台



形状である。確認面で長軸 2.00m、短軸 1.35m、深さ 0.34m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・長頸壺が出土している(図版 142・143)。

**SK282** (図版 45・52・66、写真図版 63)

16G-7B5・10 に位置する平安時代の遺構である。SK232 と SD17 に切られる。SK191 と隣接しているが、切り合い関係は不明。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.50m、短軸 1.50m、深さ 0.18m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・鉢、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺・黒色土器無台碗、緑釉陶器有台碗が出土している(図版 143)。

**SK291** (図版 45・52・70、写真図版 69・70)

16G-7C13 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.17m、短軸 0.82m、深さ 0.20m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している(図版 143・144)。特に土師器・黒色土器の無台碗が一括出土しており、各個体の残存率も高くなっている。

**SK292** (図版 45・52・70)

16G-7C12・13・18 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 1.03m、短軸 0.70m、深さ 0.64m を測る。土師器無台碗・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯、金属製品が出土している(図版 145・208)。

**SK294** (図版 45・52・68、写真図版 64)

16G-6C11・16 に位置する。SD17 に切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.81m、現存短軸 0.50m、深さ 0.18m を測る。金属製品(刀子)が出土している(図版 208)。

**SK304** (図版 45・52)

16G-6C12 に位置する平安時代の遺構である。SD277 を切る。平面形は楕円形である。確認面で長軸 0.60m、短軸 0.35m を測る。土師器無台碗・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している(図版 145)。

**SK310** (図版 45・52・67、写真図版 63)

16G-6C2・7・8 に位置する平安時代の遺構である。SD311・318 を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.13m、短軸 1.05m、深さ 0.24m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している(図版 145)。

**SK315** (図版 45・52)

16G-6C2・3 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形である。確認面で長軸 0.67m、短軸 0.25m を測る。土師器無台碗が出土している。

**SK319** (図版 45・52・68、写真図版 66)

16G-6C13 に位置する平安時代の遺構である。SD277 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 0.55m、短軸 0.52m、深さ 0.31m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯、石製品が出土している(図版 145)。

**SK320** (図版 45・52・68、写真図版 64)

16G-6C12 に位置する平安時代の遺構である。SD277 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.82m、現存短軸 0.60m、深さ 0.26m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・小甕・仏鉢、黒色土器無台碗、緑釉陶器有台碗が出土している(図版 145)。

**SK322** (図版 45・52・69、写真図版 67)

16G-6C13・14・18・19 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.26m、短軸 1.05m、深さ 0.20m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗・小甕、黒色土器

無台椀が出土している（図版 145）。

**SK324**（図版 45・52・68、写真図版 64・65）

16G-6C21 に位置する平安時代の遺構である。SD337 と隣接するが、切り合い関係は不明。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.73m、短軸 0.64m、深さ 0.28m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK325**（図版 45・52・69、写真図版 67）

16G-6C14・15・19・20 に位置する平安時代の遺構である。SK400 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.80m、現存短軸 0.62m、深さ 0.20m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕が出土している（図版 145）。

**SK326**（図版 45・52・67、写真図版 63）

16G-6B10 に位置する平安時代の遺構である。SD84 に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 0.78m、短軸 0.60m、深さ 0.18m を測る。埋土は 1 層である。土師器鍋が出土している。

**SK329**（図版 45・52・65、写真図版 61）

16G-6B17・18・22・23 に位置する。SK208 を切る。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 2.15m、短軸 0.76m、深さ 0.17m を測る。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SK333**（図版 45・52・53・63、写真図版 59）

16G-6C23 に位置する平安時代の遺構である。SD128 に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.13m、現存短軸 0.50m、深さ 0.16m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕が出土している。

**SK334**（図版 45・52・70、写真図版 68）

16G-7C3 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.74m、短軸 0.55m、深さ 0.11m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕が出土している。

**SK336**（図版 45・52・69、写真図版 68）

16G-6C24、7C4・5 に位置する平安時代の遺構である。SD335・342 に切られる。SK363 と隣接しているが、切り合い関係は不明である。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 2.20m、短軸 2.00m、深さ 0.39m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋・大甕・長頸壺が出土している（図版 145）。

**SK338**（図版 45・52・69、写真図版 67）

16G-6C24 に位置する平安時代の遺構である。SD331 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.80m、現存短軸 0.28m、深さ 0.28m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕が出土している。

**SK340**（図版 45・52・68、写真図版 66）

16G-6C14・15 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.16m、短軸 0.86m、深さ 0.26m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯が出土している。

**SK344**（図版 45・52、写真図版 68）

16G-7C7・8 に位置する平安時代の遺構である。SX283 に切られる。平面形は不明である。確認面で長軸 0.81m、現存短軸 0.45m を測る。土師器無台椀が出土している。

**SK350**（図版 45・52・68、写真図版 64）

16G-6C17 に位置する平安時代の遺構である。SE321 と SD348 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.00m、現存短軸 0.35m、深さ 0.25m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器

無台碗・長甕が出土している。

**SK351** (図版 45・52・69、写真図版 67)

16G-6C18・19に位置する平安時代の遺構である。SD128・331に切られ、SD388を切る。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.30m、現存短軸 0.98m、深さ 0.26mを測る。埋土は1層である。土師器無台碗・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している(図版 145)。

**SK356** (図版 45・52・66、写真図版 63)

16G-6B25、6C21、7B5に位置する。SD17に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.30m、短軸 0.55m、深さ 0.17mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK362** (図版 45・52・67、写真図版 63)

16G-7B20・25に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.76m、短軸 0.71m、深さ 0.17mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器小甕、須恵器無台杯が出土している(図版 145)。

**SK363** (図版 45・52・69、写真図版 68)

16G-7C4・5に位置する平安時代の遺構である。SD335に切られ、SX419を切る。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.64m、現存短軸 0.78m、深さ 0.23mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・長頸壺、金属製品が出土している(図版 145・208)。

**SK365** (図版 45・52・70、写真図版 68・69)

16G-7C14・15に位置する平安時代の遺構である。SD157に切られ、SK397を切る。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.35m、現存短軸 1.15m、深さ 0.17mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・有台杯・大甕、金属製品(鉄釘)、石製品(砥石・台石)が出土している(図版 145・146・208)。

**SK385** (図版 45・52・70)

16G-7C14に位置する平安時代の遺構である。SX357とSD157を切る。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.96m、短軸 0.55m、深さ 0.16mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している(図版 146)。

**SK397** (図版 45・52・70、写真図版 68・69)

16G-7C15・20に位置する平安時代の遺構である。SK365に切られる。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.95m、現存短軸 0.65m、深さ 0.17mを測る。埋土は1層である。土師器無台碗・長甕、石製品(台石)が出土している(図版 146)。

**SK399** (図版 45・52・69、写真図版 67)

16G-6C20に位置する平安時代の遺構である。SD128を切る。平面形は円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 1.01m、短軸 0.93m、深さ 0.44mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土している(図版 146)。

**SK400** (図版 45・52・69、写真図版 67)

16G-6C15・19・20に位置する平安時代の遺構である。SD128に切られ、SK325を切る。平面形は不明である。確認面で長軸 1.42m、現存短軸 0.70mを測る。土師器無台碗・長甕・小甕、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している(図版 146)。

**SK432** (図版 45・52・69、写真図版 68)

16G-6C25、6D21に位置する平安時代の遺構である。SD335に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 0.94m、短軸 0.88m、深さ 0.28mを測る。土師器無台碗・長甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している(図版 146)。

**SX19** (図版 45・52・64・73、写真図版 60)

16G-7B21・22、8B1・2・6・7 に位置する平安時代の遺構である。SE74 と SD15・17 に切られ、SD48 を切る。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 3.00m、現存短軸 0.70m、深さ 0.17m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕・鉢・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺、金属製品(刀子)、石製品(台石)が出土している(図版 146・208)。

**SX87** (図版 45・53・72、写真図版 73)

16G-6D13・17・18・23 に位置する中世以降の遺構である。平安時代～中世の SD2 を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 2.80m、短軸 1.73m、深さ 0.67m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕、木製品が出土している(図版 147)。

**SX92** (図版 45・52・61・62、写真図版 56)

16G-8B3～5・8～10 に位置する平安時代の遺構である。SE94・127 に切られ、SE144 と SD157 を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 3.59m、短軸 2.78m、深さ 0.20m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯・有台杯・大甕、木製品(削片)が出土している(図版 147)。

**SX283** (図版 45・52・63・68・73、写真図版 65・73・74)

16G-6C22・23、7C1～3・6・7・11・12・16・17 に位置する平安時代～中世の遺構である。SK139 と SD128・367 に切られ、SE332、SK191・344、SD335 を切る。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 7.10m、短軸 2.80m、深さ 0.28m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺・短頸壺・長胴壺、二彩托、中世の珠洲焼片口鉢、土師器皿、石製品(砥石・台石)、木製品が出土している(図版 147・217)。

**SX309** (図版 45・52・72、写真図版 73)

16G-6C13 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.51m、短軸 0.47m、深さ 0.11m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕が出土している。また、遺構上面からは小型の礫が多量に検出された。

**SX357** (図版 45・52・70・75、写真図版 68・69・78)

16G-7C9・10・14・15、7D1 に位置する平安時代の遺構である。SD157・343 と SK385 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 4.50m、現存短軸 1.40m、深さ 0.23m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋・鉢・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯、金属製品(刀子)が出土している(図版 147・148・208)。

**SX371** (図版 45・52・63)

16G-7C15・20、7D11・16 に位置する平安時代～中世の遺構である。SE366 に切られ、SD380 を切る。平面形は不明である。確認面で現存長軸 2.00m、現存短軸 0.90m を測る。平安時代の土師器無台椀・有台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺、緑釉陶器有台椀、中世の青磁香炉、石製品(台石)が出土している(図版 148・149)。

**SX419** (図版 45・52・69)

16G-7C5・10 に位置する平安時代の遺構である。SK363 に切られ、SD424 を切る。平面形は不整形である。確認面で長軸 1.46m、現存短軸 1.10m を測る。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している(図版 149)。

**SX439** (図版 45・52・73、写真図版 74)

16G-6D21・22、7D1・2・6 に位置する平安時代の遺構である。SD157 に切られる。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 3.12m、短軸 2.08m、深さ 0.37m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師



器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・有台杯、緑釉陶器有台碗、金属製品、石製品(台石)が出土している(図版149・208)。

c 溝(SD)

SD2(図版45・52・71・72・77、写真図版73・79)

16G-5C13・14・18～20・24・25、6C4・5・10・15、6D1・6・11・12・16～18・22～24、7D3～5・9に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる(N-37°-W)。SD78とほぼ同軸で、他のSDとは主軸方向が異なっている。SK45・91とSX87に切られる。河1と隣接するが、切り合い関係は不明。断面形は台形状である。確認面で最大幅2.24m前後、深さは0.34m前後である。埋土は1層である。平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・横瓶、緑釉陶器有台碗、中世の青白磁合子、青磁碗、珠洲焼壺T種・片口鉢、北越窯産陶器壺・甕、土師器皿、石製品(磨石・台石)、木製品が出土している(図版150・202・203)。

SD15(図版45・52・56～59・64・65・73・75、写真図版50～52・60・74・75)

16G-6A25、7A5・10・15・20・25、7B1・6・11・16・21、8A5・10、8B1・6・11・12・16・17・21・22、9B1・2に位置する。旧図(図版2)に記載があり、近世以降の水路の可能性もある。第19次調査1区SD103に連続する。軸方向は南～北(N-0°-S)に延びる。SE47・55・67・104、SK18・20・46・176、SX19、SD17・22・35・48・84を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅2.70m前後、深さは0.71m前後である。埋土は4層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺・長胴壺、中世の青磁碗、珠洲焼片口鉢、土師器皿、金属製品(鉄釘)、石製品(砥石・叩石・軽石製石製品)、木製品(竹材)が出土している(図版150・203・208・217・245)。

SD17(図版45・52・59・64～68・73～75、写真図版60・62・63・74～76)

16G-5C18・22・23、6B20・25、6C2・3・6・7・11・12・16・21、7B5・9・10・14・18・19・23・24、8A25、8B2・3・6・7・12・16・25に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-25°-E)。SD84とほぼ同軸となる。SK101、SD15・128・277・311に切られ、SE100、SK18・250・282・294・356、SX19、SD158・261・297・445を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.00m前後、深さは0.42m前後である。埋土は3層に分かれる。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・仏鉢、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・大甕・短頸壺が出土している(図版150)。

SD22(図版45・52・73、写真図版74)

16G-8A15・20、8B11・16に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-85°-E)。SD15に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.45m前後、深さは0.08m前後である。埋土は1層である。土師器無台碗・小甕、黒色土器無台碗が出土している(図版150)。

SD35(図版45・52・64・73、写真図版60・75)

16G-7A23～25、8A2～5・10に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延び(N-70°-E)、屈曲して北西～南東に流れる。SD15に切られ、SD43を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅0.43m前後、深さは0.13m前後である。埋土は2層に分かれる。平安時代の土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗が出土している(図版150)。

SD43(図版45・52・64・73、写真図版75)

16G-8A3・4・8・9に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南～北に延びる(N-0°-S)。SD35に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.85m前後、深さは0.17m前後である。埋土は2層に分かれる。平安時代の土師器無台碗、黒色土器無台碗、中世の土師器皿、金属製品(鉄釘または鏝)が出土している(図版208)。



**SD48** (図版 45・52・59、写真図版 54)

16G-7B17・21・22 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-73° -E)。SE74、SD15 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.17m 前後である。埋土は 1 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕が出土している。

**SD78** (図版 45・52・75・77、写真図版 78)

16G-5C23・24、6C3・4・9・10・15、6D11・16・17・21・22、7D2・3 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-36° -W)。SD2 とほぼ同軸で、他の SD とは主軸方向が異なっている。SD342 と隣接しているが、切り合い関係は不明。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.40m 前後、深さは 0.11m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・鍋、黒色土器無台椀が出土している。

**SD84** (図版 45・52・55・58・65・67・74・75、写真図版 61・63・75～77)

16G-5C21・22、6B5・10・14・15・19・20・23・24、6C1・6、7B3・7・8・11・12・16 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-33° -E)。SD17 とほぼ同軸となる。SD15・128 に切られ、SK208・279・326、SD103・106・261・277・280・394・445 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.90m 前後、深さは 0.42m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕、中世の珠洲焼壺 T 種、石製品 (砥石・軽石製石製品) が出土している (図版 151・217・218)。

**SD103** (図版 45・52・74、写真図版 75)

16G-7B7・8・12・13 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-61° -E)。SD84 に切られ、SD106 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.55m 前後、深さは 0.12m 前後である。埋土は 1 層である。黒色土器無台椀が出土している。

**SD106** (図版 45・52・74、写真図版 75)

16G-7B12 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-4° -E)。SD84・103 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.30m 前後、深さは 0.09m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している (図版 151)。

**SD128** (図版 45・52・63・69・73・74、写真図版 59・63・67・76・77)

16G-6C15・19・20～24、7B3～5・8・9、7C1・2 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-67° -E)。SD157・277 とほぼ同軸となる。SK399 に切られ、SE332、SK333・351・400、SX283、SD17・84・331・389・445 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.80m 前後、深さは 0.21m 前後である。埋土は 2 層である。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺、中世の珠洲焼片口鉢、金属製品 (鉄釘) が出土している (図版 151・208)。

**SD157** (図版 45・52・61・62・70・75、写真図版 57・68・69・78)

16G-7B25、7C10・13～19・21、7D6・7、8B4・5 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-62° -E)。SD128・277 とほぼ同軸となる。SE114b・144、SK385、SX92 に切られ、SK365 と SX357・439、SD380・424 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.80m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯、緑釉陶器香炉蓋、中世の土師器皿、金属製品 (鉄釘) が出土している (図版 151・208)。

**SD158** (図版 45・52・61・74、写真図版 56・75)

16G-7B19・20、7C16 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-73° -E)。SE149 と SD17 に切られる。SK174 と隣接しているが、切り合い関係は不明。断面形は箱形である。確認面で最大幅 0.40m 前後、深さは 0.12m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀が出土している。

**SD166** (図版 45・52・63、写真図版 59)

16G-7C23・24 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-62° -W)。SE165 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.25m 前後、深さは 0.06m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・鍋が出土している。

**SD261** (図版 45・52・68・74、写真図版 76・77)

16G-6B15・19・20、6C11・16 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-86° -W)。SD17・84・277 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.22m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋・大甕が出土している (図版 151)。

**SD277** (図版 45・52・67・68・74、写真図版 75・77・78)

16G-6B15、6C8～15 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-79° -E)。SD128・157 とほぼ同軸となる。SK304 と SD84 に切れ、SK254・319・320、SD17・261・318 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.10m 前後、深さは 0.26m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺、中世の珠洲焼片口鉢、石製品 (叩石・台石) が出土している (図版 151・152・203)。

**SD280** (図版 45・52、写真図版 49)

16G-6B5・10 に位置する。軸方向は東～西に延びる (N-77° -E)。SD84 に切れ、SD394 と連続する可能性がある。確認面で最大幅 0.50m 前後である。遺物は出土していない。

**SD297** (図版 45・52・74、写真図版 76)

16G-6C1・2・7 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-65° -W)。SD17・394 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.45m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・鍋、黒色土器無台椀が出土している (図版 152)。

**SD311** (図版 45・52・67・74、写真図版 63)

16G-6C2・7 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-4° -W)。SK310 に切れ、SD17・394 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.38m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀が出土している。

**SD317** (図版 45・52)

16G-6C7・8 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-76° -E)。確認面で最大幅 0.20m 前後である。土師器無台椀が出土している。

**SD318** (図版 45・52)

16G-6C8 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-61° -W)。SK310 と SD277 に切られる。確認面で最大幅 0.37m 前後である。土師器無台椀、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・長胴壺が出土している。

**SD331** (図版 45・52・69、写真図版 67)

16G-6C19・20・24・25 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-77° -E)。SD128 に切れ、SK338 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.38m 前後、深さは 0.25m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯が出土している。

**SD335** (図版 45・52・69・74、写真図版 68・78)

16G-6C25、6D21、7C4・5・7～9 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-55° -E)。SX283 と SD342 に切れ、SK336・363・432、SD343 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.40m 前後、深さは 0.23m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・

小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯、中世の珠洲焼片口鉢が出土している（図版 152）。

**SD337**（図版 45・52・68、写真図版 64・65）

16G-6C21・22 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる（N-67° -E）。SD389 に切られる。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.65m 前後、深さは 0.19m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している。

**SD342**（図版 45・52・69・74、写真図版 78）

16G-6C15・24・25、6D16・21 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる（N-63° -E）。平安時代の SK336 と平安時代～中世の SD335 を切る。SD78 と隣接しているが、切り合い関係は不明。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.25m 前後、深さは 0.15m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している（図版 152）。

**SD343**（図版 45・52・70・74、写真図版 68・69・78）

16G-7C9・10 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる（N-84° -E）。SD335 に切れ、SX357 を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.45m 前後、深さは 0.19m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している（図版 152）。

**SD348**（図版 45・52・68、写真図版 64）

16G-6C13・17・18 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる（N-70° -E）。SE321 に切れ、SK350 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.70m 前後、深さは 0.46m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・小甕が出土している。

**SD367**（図版 45・52・74、写真図版 78）

16G-7C6・7 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる（N-81° -W）。SK191 と SX283 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.60m、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。須恵器無台杯が出土している。

**SD380**（図版 45・52・75、写真図版 78）

16G-7D6・11・12 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる（N-4° -E）。SX371 と SD157 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.25m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺が出土している（図版 152）。

**SD388**（図版 45・52）

16G-6C18・19 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる（N-36° -W）。SK351 に切られる。確認面で最大幅 0.55m 前後である。土師器無台椀、須恵器無台杯が出土している（図版 152）。

**SD389**（図版 45・52・68・74、写真図版 65）

16G-6C17・22 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる（N-20° -W）。SD128 に切れ、SD337・412 を切る。断面形は箱形である。確認面で最大幅 0.65m 前後、深さは 0.45m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀、須恵器短頸壺、石製品（叩石・軽石製石製品）が出土している。

**SD394**（図版 45・52・74、写真図版 76）

16G-6C1・2 に位置する。軸方向は東～西に延びる（N-73° -E）。SD84・311 に切れ、SD297 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.48m 前後、深さは 0.05m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SD410**（図版 45・53）

16G-5C18 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる（N-22° -W）。検出時に SD17 と別遺構としたが、同一流路の可能性が高い。確認面で最大幅 0.65m 前後である。土師器無台椀、黒色土器無台

椀が出土している。

SD412 (図版 45・52・74、写真図版 65)

16G-6C17・22 に位置する。軸方向は東～西に延びる(N-65° -E)。SD389 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.30m 前後、深さは 0.13m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD424 (図版 45・52・74、写真図版 78)

16G-7C5・10、7D1・6 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる(N-60° -W)。SX419 と SD157 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.82m 前後、深さは 0.14m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯、鍛冶関連遺物(羽口片)が出土している(図版 153・207)。

SD445 (図版 45・52・74、写真図版 77)

16G-7B8・9・13・14 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる(N-75° -W)。SD17・84・128 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.70m 前後、深さは 0.22m 前後である。土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している(図版 153)。

SD446 (図版 45・52・73)

16G-7A11・12 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる(N-18° -W)。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.50m 前後、深さは 0.12m 前後である。土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀が出土している。

#### d 旧河道

河1・テラス状遺構(図版 46・53・54・77、写真図版 79・80)

16G-4D15・18～20・22～25、4E11・12・16・17・21～23、5C10・15・20、5D1～25、5E1～4・6～25、5F16・21・22、6D1～5・7～10・13～15・19・20・25、6E1～14・16～18・21・22、6F1・2・6 に位置する平安時代を主体とする旧河道である。3 区の 1/3 を占め、現存川幅は 17.50m 前後である。軸方向は、南東～北西(N-41° -W) から南～北(N-10° -W) へと緩やかに湾曲する。底部については、基盤層まで掘削を行っていないが、確認面からの深さは最大で 1.09m 前後を測り、底面標高は 2.8m である。埋土は 9 層に分けられる。層序から段階的に埋没したことが推測され、埋没後に井戸(SE16)など複数の遺構がつけられていた。

また、河1の北西側では、河岸から 30cm ほど低い位置でテラス状の平坦部が確認された。最大幅で 2.3m、延長約 5.5m を測り、その範囲は、調査区北側に広がるものと推定される。船着場あるいは物資の荷揚げ場といった水上交通施設と考えられる。

河1では、多量の遺物が出土しており、特に落ち際に集中が見られる(図版 49～51)。

平安時代の土師器無台椀・有台椀・有台皿・長甕・小甕・鍋・鉢・仏鉢、黒色土器無台椀・有台椀・有台皿、須恵器無台杯・有台杯・有台皿・無台皿・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・長胴壺・横瓶・小壺、緑釉陶器有台椀・香炉蓋、中世の青磁椀、珠洲焼壺 T 種・甕・片口鉢、北越窯産須恵器系片口鉢、瓦質土器片口鉢、土師器皿、瓦塔宝珠・基壇から初軸部片・屋蓋部片、土製品(太形管状土錘)、鍛冶関連遺物(羽口片)、金属製品(鉄釘)、石製品(砥石・磨石・台石など)、木製品(漆器皿・箸状製品・部材片・棒状製品・炭化木材・板状製品)が出土している(図版 155～177・203・205～208・218・247)。

#### e 小土坑(Pit)

3 区全体で 528 基確認されている。このうち、柱根等の木質遺物を検出したのは 16 基である。Pit は調査区全体に分布しているが、16G-7C 周辺に特に集中している。柱根が確認された Pit は 17 基ある。出土土器は大半が平安時代のものであった。3 区では掘立柱建物を 3 棟確認した。Pit の総数から他にも建物が存在した可能性が高いが、確認できなかった。



## f 掘立柱建物 (SB)

SB687 (図版 45・52・78)

16G-7C21・22、8B5・10、8C1・2・6・7 に位置する 2 間 1 間の掘立柱建物である。主軸は N-69° -E である。SB687 を構成する Pit147・164 から平安時代の土師器無台椀と長甕・須恵器杯蓋が出土している (図版 153)。

SB689 (図版 45・52・78)

16G-6B14・18 ~ 20・23 ~ 25、7B3・4 に位置する 2 間 2 間の掘立柱建物である。主軸は N-40° -E である。Pit396 では柱根が確認された (図版 247)。また、SB689 を構成する Pit から平安時代の土師器無台椀が出土している。

SB695 (図版 45・52・78)

16G-7C6 ~ 8・11 ~ 14・16 ~ 19・21 ~ 23 に位置する 3 間 2 間の掘立柱建物である。主軸は N-79° -W である。Pit255・415 では柱根が確認された (図版 247)。また、SB695 を構成する Pit から平安時代の土師器無台椀・長甕・鍋、黒色土器無台椀・須恵器無台杯・杯蓋・長頸壺・壺蓋が出土している (図版 153・154)。

## E 4 区 の 遺 構

## 1) 4 区下層の概要

4 区は 1 区の北東側に隣接する調査区である。上層を掘削している際に古墳時代の土器を検出したため、下層を設定した。確認面は VI a 層である。古墳時代の遺物が出土した地点を中心に小グリッドごとに 20cm 程度掘り下げ確認したが、遺構は調査区の東側でのみ検出された。遺構総数は 3 基あり、内訳は SX 1 基、SD 2 基である。これらの下層遺構からも平安時代の土器が出土しているが、これについては上層の遺構・包含層からの流れ込みの可能性も考えられる。調査面積は上端面積 328.838m<sup>2</sup>、下端面積 327.573m<sup>2</sup> である。

## 2) 4 区下層遺構各説

## a 性格不明遺構 (SX)

SX82 (図版 19・23、写真図版 19)

15J-5C25、5D21、6C5、6D1・2・6 に位置する古墳時代の遺構である。SD84 に切られる。平面形は不明である。確認面で現存長軸 1.75m、現存短軸 1.00m、深さ 0.41m を測る。埋土は 2 層に分かれる。古墳時代の土師器杯・甕、平安時代の土師器無台椀、黒色土器無台椀が出土している (図版 122・180)。

## b 溝 (SD)

SD83 (図版 19・23、写真図版 19)

15J-6C10 に位置する。軸方向は南東～北西に延びる (N-28° -W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.75m 前後、深さは 0.15m 前後である。埋土は 1 層で VI b 層からの掘り込みが確認できる。遺物は出土していない。

SD84 (図版 19・23、写真図版 19)

15J-6D1 に位置する古墳時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-46° -E)。SX82 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.40m 前後、深さは 0.30m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器杯・甕が出土している。

## 3) 4 区の上層の概要

4 区上層は東側が標高 4.00m 前後の微高地を形成し、調査区の西に向かい低くなり 3.60 ~ 3.70m を推移している。遺構総数は 81 基あり、その内訳は SE1 基、SK6 基、SX3 基、SD15 基、Pit56 基である。Pit 群については掘立柱建物などが確認出来なかったため、記載を省略する。上層とした遺構からも古墳時代の土器が多数出土している。これは古墳時代の包含層の遺物が表出したとも考えられる。調査面積は上端面積 864.611m<sup>2</sup>、下端面積 801.012m<sup>2</sup> である。

#### 4) 4区上層遺構各説

##### a 井 戸 (SE)

###### SE44 (図版8・17・24、写真図版20)

15I-8J17・18・22・23に位置する古墳～平安時代の遺構である。SD11を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸2.15m、現存短軸1.82m、深さ1.02mを測る。埋土は9層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、木製品が出土している(図版180)。

##### b 土坑 (SK)・性格不明遺構 (SX)

###### SK1 (図版8・18・24、写真図版20)

15J-5C24・25、6C4・5に位置する古墳～平安時代の遺構である。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸2.55m、現存短軸1.06m、深さ0.20mを測る。埋土は2層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台碗・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯が出土している(図版180)。

###### SK9 (図版8・18・19・24、写真図版20)

15J-6C3・8に位置する古墳～平安時代の遺構である。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.57m、短軸1.37m、深さ0.21mを測る。埋土は1層である。古墳時代の土師器杯・甕、平安時代の土師器無台碗・鍋が出土している。

###### SK39 (図版8・16・25、写真図版21)

16I-4C6・7・11・12に位置する平安時代の遺構である。平面形は不明、断面形は皿形である。確認面で現存長軸3.05m、短軸1.40m、深さ0.13mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台碗・小甕、須恵器無台杯が出土している。

###### SK41 (図版8・16・24、写真図版21)

16I-2E21・22に位置する。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.02m、短軸0.94m、深さ0.09mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

###### SK42 (図版8・16・24、写真図版20)

16I-2D25、2E21、3D5、3E1に位置する。平面形は不整形、断面形は台形状である。V b層から掘り込まれており確認面で長軸2.00m、深さ0.23mを測る。埋土は3層に分かれる。遺物は出土していないが、堆積状況から平安時代の遺構と推測される。

###### SK43 (図版8・16・24、写真図版21)

16I-2E21、3E1に位置する。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.60m、短軸0.50m、深さ0.08mを測る。遺物は出土していない。

###### SX3 (図版8・18・23、写真図版21)

15J-5D21、6D1・2・6に位置する古墳～平安時代の遺構である。平面形は不明である。確認面で現存長軸1.90m、現存短軸1.65m、深さ0.28mを測る。埋土は2層に分かれる。古墳時代の土師器杯・甕・甌、須恵器杯、平安時代の土師器鍋、黒色土器無台碗が出土している(図版122・180)。直下に古墳時代の遺構(SD84)があるため、SX3から出土した古墳時代の土器は上層を掘り込みすぎ、下層遺構の遺物を検出した可能性もある。

###### SX12 (図版8・17・25、写真図版22)

15I-9I10・15、9J1・2・6・7・11に位置する古墳～平安時代～中世の遺構である。平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸4.05m、短軸2.45m、深さ0.23mを測る。埋土は3層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器長頸壺、中世の土師器皿、石製品(叩石)が出土している。

###### SX46 (図版8・16・25、写真図版22)

16I-4B24・25、5B4・5に位置する平安時代の遺構である。SD45に切られる。平面形は不整形、断面形は

皿形である。確認面で現存長軸 1.30m、短軸 1.06m、深さ 0.04m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀が出土している。

#### c 溝 (SD)

**SD2** (図版 8・17・18・23・25、写真図版 22・23)

15J-6B19・20・24・25、6C6～8・11～19・21・22、7C1 に位置する古墳～平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-75°-W)。Ⅱ層から掘り込まれており、SD5・6 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 3.75m 前後、深さは 0.32m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。古墳時代の土師器杯・高杯・壺・甕、平安時代の土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯・杯蓋・大甕、中世の青磁椀、石製品 (叩石)、木製品が出土している (図版 122・180)。

**SD5** (図版 8・17・18・25、写真図版 22・23)

15J-6B15・20・25、7B4・5・9・10 に位置する古墳～平安時代の遺構である。軸方向は南～北方向で (N-15°-E)、SD6 とともに周辺の SD 群とほぼ直交して延びる。SD2 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.10m 前後、深さは 0.35m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。古墳時代の土師器杯・甕、平安時代の土師器無台椀・長甕、須恵器大甕、石製品 (叩石) が出土している。

**SD6** (図版 8・17・18・25、写真図版 23)

15J-6B24、7B4・9・14 に位置する古墳～平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-9°-E)。SD5 とともに周辺の SD 群とほぼ直交して延びる。SD2 に切られる。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.16m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台椀が出土している。

**SD7** (図版 8・17・26、写真図版 23)

15J-7A18～20・22～25、7B1 に位置する古墳～平安時代～中世の遺構である。SD8 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-75°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 1.15m 前後、深さは 0.39m 前後である。埋土は 5 層に分かれる。古墳時代の土師器杯・甕、平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・杯蓋、中世の白磁椀、石製品 (磨石) が出土している (図版 122・180・204)。

**SD8** (図版 8・17・26、写真図版 23)

15J-7A21・22、8A1～4 に位置する古墳～平安時代の遺構である。SD7 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-79°-W)。断面形は半円形である。Ⅳ層から掘り込まれており、確認面で最大幅 0.80m 前後、深さは 0.30m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯、軽石製石製品が出土している。

**SD10** (図版 8・17・26、写真図版 23・24)

15I-8J12・17～20・24・25 に位置する古墳～平安時代の遺構である。SD11 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-71°-W)。SD11 に切られる。断面形は台形状である。層序から、掘り直したことが推測される。確認面で最大幅 1.40m 前後、深さは 0.22m 前後である。埋土は 5 層に分かれる。古墳時代の土師器杯・高杯・甕・甌、平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長胴壺、石製品 (磨石・軽石製石製品) が出土している (図版 122・180)。

**SD11** (図版 8・17・24・26、写真図版 23・24)

15I-8J17・18・22～24 に位置する古墳～平安時代の遺構である。SD10 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-71°-W)。SD10 を切り、SE44 に切られる。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.65m 前後、深さは 0.11m 前後である。埋土は 1 層である。古墳時代の土師器杯・壺・甕、平安時代の土師器無台椀・長甕が出土している。

**SD13** (図版8・17・26、写真図版24)

15I-9I12～15・20に位置する古墳～平安時代～中世の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-69°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.50m前後、深さは0.32m前後である。埋土は3層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台椀・鉢、須恵器長頸壺、中世の青磁皿が出土している(図版180・204)。

**SD15** (図版8・17・26、写真図版24)

15I-10H6～8・11～14に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-65°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅1.00m前後、深さは0.38m前後である。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀・長甕が出土している。

**SD25** (図版8・17・18・27、写真図版25)

16I-1F10・14・15・20、1G6・11・12・16・17に位置する。軸方向は南東～北西に延びる(N-41°-W)。調査区とほぼ直交しており、東側の遺構と軸が異なっている。断面形は台形状である。確認面で最大幅2.75m前後、深さは0.32m前後である。埋土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

**SD26** (図版8・17・26、写真図版24)

15I-10G15・19・20に位置する。平面形は確認できず、調査区北西壁を精査した際に検出した。断面形は台形状である。IV層から掘り込まれており、確認面で最大幅3.35m前後、深さは0.18m前後である。埋土は2層に分かれる。SD26周辺から遺構確認面の標高が急激に低くなっていく。遺物は出土していない。

**SD38** (図版8・16・27、写真図版25)

16I-3C19・20・24・25、4C3・4・8・9・13・14・17・18に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる(N-18°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅2.45m前後、深さは0.20m前後である。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀・長甕が出土している。

**SD40** (図版8・16・27、写真図版25)

16I-4B18・22～24、5B2～4・8・9・13に位置する古墳～平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる(N-22°-W)。断面形は台形状である。確認面で最大幅3.10m前後、深さは0.40m前後である。埋土は2層に分かれる。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台椀、須恵器無台杯、軽石製石製品、木製品が出土している(図版180)。

**SD45** (図版8・16・25・27、写真図版22)

16I-4B15・20・25、4C11・16、5B4・5に位置する古墳～平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる(N-24°-E)。SX46を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.55m前後、深さは0.08m前後である。埋土は1層である。古墳時代の土師器甕、平安時代の土師器無台椀が出土している。

**SD73** (図版8・16・27、写真図版25)

16I-5A17に位置する。平面形は確認できず、調査区北西壁を精査した際に検出した。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.30m前後、深さは0.08m前後である。埋土は1層である。遺物は出土していない。

## 第4節 第19次(06)調査 遺構 (図版79～121)

### A 遺構の概要 記述順

遺構番号は、調査年次・区ごとに遺構の種類にかかわらず通し番号を付した。記述順・形態分類は第18次調査と同様である。説明は1区→2区→3区→4区→7区の順に行う。

詳しい遺構の計測値等は別表2に示した。遺構出土遺物の詳細は別表13・14・16に詳細に示しており、遺構の記述では一部省略した。遺跡全体から検出された遺構総数は305基あり、SE 11基、SK 42基、SX 7基、



SD 75 基、Pit 167 基、旧河道 3 基である。

ほとんどの遺構は、平安時代の包含層と考えられるV層からVI層上面を切って掘り込まれている。これらの遺構からは、平安時代の土器が出土していることから、大部分は平安時代の遺構であろう。ただし、各区から中世の遺物が出土しており、一部は中世に含まれると考えられる。

## B 1 区 の 遺 構

### 1) 1 区 の 概 要

1区は幅2mの道路脇の用・排水路部分と畑部分を合わせた調査区である。遺構総数は120基あり、その内訳はSE 9基、SK 12基、SX 2基、SD 16基、旧河道3基、Pit 78基がある。用・排水路部分の西側と畑部分の中央周辺に遺構が集中して存在する。Pitも畑部分を中心に多く分布しているが、建物の構成は確認できなかった。出土遺物から概ね平安時代の遺構と考えられるが、一部で中世の遺物が出土している。調査面積は上端面積988.7m<sup>2</sup>、下端面積917.6m<sup>2</sup>である。

### 2) 1 区 遺 構 各 節

#### a 井 戸 (SE)

SE30 (図版 79・83・88、写真図版 89)

17G-6B4 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面長軸 1.30m、短軸 1.24m、深さ 1.02m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

SE34 (図版 79・83・88、写真図版 90)

17G-6B9・10 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円形である。確認面で長軸 2.00m、深さ 1.02m を測る。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台碗・鍋が出土している (図版 182)。

SE36 (図版 79・82・83・89、写真図版 90)

17G-5B24 に位置する。SD37 を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.14m、短軸 1.04m、深さ 0.90m を測る。埋土は 7 層に分かれる。遺物は出土していない。

SE42 (図版 79・82・83・89、写真図版 91)

17G-5B4 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.12m、短軸 0.98m、深さ 0.98m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・長甕が出土している。

SE67 (図版 79・82・83・90、写真図版 91)

17G-5B20・25 に位置する平安時代の遺構である。SD37 を切る。平面形は円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 1.14m、短軸 1.04m、深さ 0.88m を測る。埋土は 6 層に分かれる。埋土の状況から埋没後再び掘削した可能性が見て取れる。土師器長甕、須恵器大甕が出土している。

SE71 (図版 79・82・83・89、写真図版 90)

17G-5C16・17 に位置する平安時代の遺構である。SE74 を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.10m、短軸 1.00m、深さ 0.70m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・長甕、黒色土器無台碗、須恵器長頸壺が出土している。

SE74 (図版 79・82・83・89、写真図版 87・88・90)

17G-5C11・16 に位置する平安時代の遺構である。SE71 に切られる。平面形は円形、断面形は箱形である。確認面で長軸 2.06m、短軸 1.96m、深さ 1.72m を測る。埋土は 14 層に分かれる。井戸側を検出し、その構造は縦板組隅柱横棧留である。水溜施設は見られなかった。井戸側検出の際に縦板や横棧と見られる多くの部材が倒れた状態で検出されたため、もう一段上に横棧留の縦板が組まれていた可能性もある。縦板は横棧に沿って内外交互に並べ隙間を埋めている。南西辺では交互に並べた縦板の外側にさらに小型の縦板を貼り付けるように設置している。また、南隅では横棧の内側に隅柱をもう一本設置しており、縦板も含め南西側を補強していると考

えられる。土師器無台椀・無台皿・長甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺、木製品(箸状製品・板状製品・井戸側部材)が出土している(図版182・248～261)。

**SE111**(図版79・86・90、写真図版91)

17G-1B4・5に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.16m、深さ0.81mを測る。SD99に切られる。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SE113**(図版79・86・92、写真図版96)

16G-10B25に位置する。SD99に切られる。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸2.10m、深さ0.70mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**b 土坑(SK)・性格不明遺構(SX)**

**SK14**(図版79・82・83・90、写真図版91)

17G-5A15に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.00m、短軸0.90m、深さ0.10mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK15**(図版79・82・83・90、写真図版92)

17G-5A10に位置する平安時代の遺構である。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.76m、短軸1.26m、深さ0.12mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK32**(図版79・83・90、写真図版92)

17G-6B4に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸0.50m、短軸0.46m、深さ0.24mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK39**(図版79・83・90、写真図版92)

17G-6B5、6C1に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸0.64m、短軸0.50m、深さ0.56mを測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀、木製品(部材)が出土している。

**SK40**(図版79・83・90、写真図版92)

17G-6C6に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸0.60m、短軸0.34m、深さ0.36mを測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK72**(図版79・83・90、写真図版93)

17G-5C16・17・21・22に位置する。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.90m、短軸0.70m、深さ0.12mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK73**(図版79・83・91、写真図版93)

17G-6C6に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸0.90m、短軸0.70m、深さ0.30mを測る。埋土は2層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、中世の珠洲焼片口鉢が出土している(図版204)。

**SK97**(図版79・86・91、写真図版93)

17G-1B5、1C1に位置する。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で短軸0.44m、深さ0.14mを測る。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SK108**(図版79・87・91、写真図版93・94)

16G-9A2・3・7に位置する平安時代の遺構である。SK114に切られる。SK110と隣接するが切り合い関係は不明。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.20m、深さ0.12mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀が出土している(図版182)。

**SK109**(図版79・87・91、写真図版94)

16G-9A2・3に位置する平安時代の遺構である。SK108・SK110と隣接しているが、切り合い関係は不明。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸1.30m、深さ0.30mを測る。埋土は4層に分かれる。土

師器無台碗・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器大甕、鍛冶関連遺物、石製品が出土している（図版 182・207）。

**SK110**（図版 79・87・91、写真図版 94）

16G-9A2 に位置する平安時代の遺構である。SK108 と隣接するが切り合い関係は不明。平面形は楕円形、断面形は台形である。確認面で長軸 0.82m、短軸 0.62m、深さ 0.10m を測る。埋土は 2 層に分かれる。埋土に炭化物が多く含まれていた。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・鉢、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・大甕・長頸壺、石製品（砥石）が出土している（図版 182）。

**SK114**（図版 79・87・91、写真図版 93・94）

16G-9A7 に位置する平安時代の遺構である。SK108 を切る。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.64m、深さ 0.20m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

**SX38**（図版 79・83・91、写真図版 94）

17G-5B25、6B5 に位置する平安時代～中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.54m、短軸 0.80m、深さ 0.16m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台碗、中世の珠洲焼壺 R 種が出土している。

**SX77**（図版 79・83・84・93、写真図版 98）

17G-5C6・7・13・18・19 に位置する平安時代の遺構である。SD64・河 2 に切られ、SD50 を切る。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で深さ 0.12m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台碗が出土している（図版 182）。

#### c 溝 (SD)

**SD37**（図版 79・82・83・91、写真図版 94）

17G-5B24・25 に位置する。軸方向は東～西に延びる (N-67° -E)。SE36・67 をつなぐ様にのびる。断面形は箱形である。確認面で最大幅 0.20m 前後、深さは 0.12m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SD49**（図版 79・82・83・91、写真図版 95）

17G-5B10、5C6 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-68° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.50m 前後、深さは 0.16m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

**SD50**（図版 79・82・83・93、写真図版 98）

17G-5C1・2・6・7・12・13・18・19・24 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-38° -W)。SX77 と河 2 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.50m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台碗・長甕が出土している。

**SD62**（図版 79・84・91、写真図版 95）

17G-4D13～15・18～20・24・25、4E21、5D5、5E1 に位置する。旧図（図版 2）の類似地に記載があることから、近世以降の水路の可能性はある。軸方向は南東～北西に延びる (N-47° -W)。河 56 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 2.00m 前後、深さは 0.28m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器小甕、須恵器大甕、中世の珠洲焼甕、石製品（磨石・叩石）、木製品（部材・竹材）が出土している。

**SD64**（図版 79・83・93、写真図版 98）

17G-4C16・21・22、5C2・3・8・9・13～15・19・20 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-38° -W)。SX77 と河 2 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.80m 前後、深さは 0.36m 前後である。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台碗・長甕・小甕、須恵器有台杯・大甕・長頸壺、中世の珠洲焼壺 R 種・壺 K 種、土師器皿、石製品（台石）が出土している（図版 182）。

**SD93**（図版 79・85）

17G-5F12・13 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-54° -E)。遺物は出土していない。

**SD94** (図版 79・85・86・91、写真図版 95)

17G-3D20 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-53° -E)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.22m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SD95** (図版 79・86・91、写真図版 95)

17G-3D9・14 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-52° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.70m 前後、深さは 0.24m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SD99** (図版 79・86・92、写真図版 96)

16G-10B25 に位置する平安時代の遺構である。平面形は確認できず、調査区北東壁を精査した際に検出した。断面形は皿形である。確認面で深さは 0.30m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器有台杯・大甕が出土している (図版 182)。

**SD100** (図版 79・86・92、写真図版 96)

16G-10B18・19 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-52° -E)。SD101 に切られる。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.40m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀、石製品 (叩石・台石) が出土している。

**SD101** (図版 79・86・92、写真図版 96)

16G-10B13・18 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-53° -E)。SD102 に切られ、SD100 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.10m 前後、深さは 0.24m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SD102** (図版 79・86・92、写真図版 96)

16G-10B12・13・18 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-52° -E)。SD101 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀、中世の珠洲焼片口鉢が出土している (図版 204)。

**SD103** (図版 79・86・92、写真図版 96)

16G-9B21、10B1・2・6・7・18 に位置する。第 18 次調査 3 区の SD15 に連続すると推定され、近世以降の水路である可能性がある。1 区用・排水路部分の他の SD と軸方向が異なり、南～北に延びる (N-5° -E)。第 18 次調査 3 区 SD15 と連続する可能性がある。断面形は皿形である。確認面で最大幅 2.00m 前後、深さは 0.32m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀、中世の土師器皿が出土している (図版 183)。

**SD105** (図版 79・87・92、写真図版 97)

16G-9A20・24・25 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-52° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.80m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・小甕・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器大甕が出土している (図版 183)。

**SD107** (図版 79・87・92、写真図版 97)

16G-9A13・14 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-49° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.10m 前後、深さは 0.26m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀が出土している (図版 183)。

**SD112** (図版 79・87・92、写真図版 97)

16G-9A8 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-88° -W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.70m 前後、深さは 0.12m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・鍋が出土している。



## d 旧 河 道

河 1 (図版 79・81・93、写真図版 97・98)

17F-4J25、5J3～5・7～15、17G-4A16・17・21・22、5A1・2・6・7 に位置する平安時代の旧河道である。深さは0.26m前後である。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀・長甕が出土している。

河 2 (図版 79・82・83・84・93、写真図版 98)

17G-3B21・22・23、4A5・9・10・15、4B1～4・6～9・11～15・17～20・23～25、5B5、5C1～5・8～10・14・15・20、5D6・11・16・17 に位置する平安時代～中世の旧河道である。

SD64 に切られ、SD50 を切る。深さは0.60m前後である。埋土は4層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋・鉢、黒色土器無台椀・有台椀、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・広口壺・横瓶、中世の珠洲焼壺 R 種・壺 T 種・壺 K 種・甕、土師器皿、瓦塔、石製品(砥石・台石・軽石製石製品)、木製品(部材)が出土している(図版 183・204・206・218)。

河 56 (図版 79・84・85)

17G-4C25、4D5・8～10・12～25、4E1・2・6～8・11～14・16～19・21～23、5D1～5・7～10・13・14・18、5E1・2・6 に位置する平安時代～中世の旧河道である。平面形は確認できず、規模は不明である。平安時代の土師器無台椀・長甕、須恵器長頸壺、中世の珠洲焼水注が出土している。

## e 小 土 坑 (Pit)

78 基確認されている。平面形は大半が円形あるいは楕円形である。柱根は確認されなかった。主に畑部分中央の微高地状になっている範囲に集中して分布している。建物等の構成は確認できなかった。

## C 2 区 の 遺 構

## 1) 2 区 の 概 要

2 区は1区の北西側に隣接し、北東側に標高3.90m前後の微高地を形成する。調査区の南西に向かい低くなり3.50～3.70mを推移している。遺構総数は158基あり、その内訳はSE 1基、SK 29基、SX 5基、SD 39基、Pit 84基である。出土遺物から概ね平安時代の遺構であると考えられる。調査区北東側の微高地ではSK・Pitが多く分布しており、南西側の低地ではSDが主体となっている。調査面積は上端面積1634.4m<sup>2</sup>、下端面積1583.6m<sup>2</sup>である。

## 2) 2 区 遺 構 各 節

## a 井 戸 (SE)

SE58 (図版 94・97・98・103、写真図版 87・100～102)

16F-8I1 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面で長軸1.63m、短軸1.42m、深さ1.90mを測る。埋土は13層に分かれる。井戸側を検出しており、その構造は縦板組横棧留であった。水溜施設は見られなかった。北辺では横棧が無く、縦板が崩れ井戸の内側に入り込んでいた。北辺以外は比較的しっかりとしており、横棧も残存している。縦板のなかには大きく湾曲しているものがあり、木舟の転用材と推測される。他に土師器無台椀・長甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕、石製品(台石・軽石製石製品)、木製品(丸木材・棒状製品)が出土している(図版 185・262～269)。また、井戸側内の底部付近から柄杓に使用したと考えられるヒョウタンが出土した(図版 270)。

## b 土坑 (SK)・性格不明遺構 (SX)

SK5 (図版 94・97・103、写真図版 102)

16F-7I8 に位置する平安時代の遺構である。SX4 と SD1 に切られる。断面形は皿形である。確認面で短軸0.52m、深さ0.20mを測る。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK8** (図版 94・97・103、写真図版 102)

16F-8J6 に位置する平安時代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.00m、短軸 0.70m、深さ 0.19m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、須恵器大甕が出土している。

**SK9** (図版 94・97・103、写真図版 102)

16F-8I10 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.70m、短軸 0.68m、深さ 0.18m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK12** (図版 94・97・104、写真図版 103)

16F-8I3・7・8 に位置する中世以降の遺構である。SD6 を切り、SD13 に切られる。平面形は楕円形である。確認面で長軸 2.62m、深さ 0.26m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器大甕、木製品(板状製品)が出土している(図版 185)。

**SK14** (図版 94・97・104、写真図版 103)

16F-7I19・20 に位置する中世の遺構である。SK15・18 と SD1 に切られる。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.81m、短軸 1.53m、深さ 0.17m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀が出土している(図版 185)。

**SK15** (図版 94・97・104、写真図版 103)

16F-7I18・19・23・24 に位置する中世以降の遺構である。SK14 と SD6 を切る。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 2.02m、短軸 1.41m、深さ 0.15m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀が出土している。

**SK16** (図版 94・97・104、写真図版 103)

16F-7I14 に位置する中世以降の遺構である。中世以降の遺構である SD1 を切る。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.72m、短軸 0.70m、深さ 0.18m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀が出土している。

**SK17** (図版 94・97・104、写真図版 103)

16F-7I14 に位置する中世以降の遺構である。SK18 に切られ、中世以降の遺構である SD1 を切る。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.80m、短軸 0.55m、深さ 0.18m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・小甕が出土している(図版 185)。

**SK18** (図版 94・97・105、写真図版 103)

16F-7I14・19 に位置する中世以降の遺構である。中世以降の遺構である SK14・17 と SD1 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形である。確認面で長軸 0.93m、短軸 0.70m、深さ 0.32m を測る。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕が出土している。

**SK19** (図版 94・97・105、写真図版 103)

16F-7I15・20 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.86m、短軸 0.75m、深さ 0.10m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀が出土している。

**SK43** (図版 94・99・100・105、写真図版 103・104)

16F-9F15 に位置する。平面形は円形、断面形は台形である。確認面で長軸 0.78m、短軸 0.78m、深さ 0.24m を測る。埋土は 2 層に分かれる。SD48 と隣接するが切り合い関係は不明である。遺物は出土していない。

**SK46** (図版 94・100・105、写真図版 104)

16F-9E10・15、9F6・11 に位置する。平面形は円形、断面形は台形である。確認面で長軸 0.76m、短軸 0.70m、深さ 0.27m を測る。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SK47** (図版 94・101・105、写真図版 104)

17F-1H22、2H2 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸

1.08m、短軸 1.02m、深さ 0.10m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK54** (図版 94・96・105、写真図版 104)

16F-6I11・12 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.78m、短軸 0.66m、深さ 0.08m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀が出土している。

**SK64** (図版 94・96・97、写真図版 104)

16F-6I18・22・23 に位置する。SX4 と SD65 を切る。平面形は円形である。確認面で長軸 1.03m、短軸 1.03m を測る。遺物は出土していない。

**SK72** (図版 94・96・97・107、写真図版 108)

16F-6I22、7I2・3 に位置する平安時代の遺構である。SD1・6 に切られ、SX4 を切る。確認面で短軸 2.10m、深さ 0.14m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SK82** (図版 94・97・107)

16F-6I23・24 に位置する。SX4 を切る。断面形は皿形である。確認面で長軸 0.80m、短軸 0.75m、深さ 0.08m を測る。埋土は 1 層である。平面形は確認できず、SX4 等の断面を精査した際に検出した。遺物は出土していない。

**SK83** (図版 94・97、写真図版 104)

16F-7I4・5・9・10 に位置する平安時代の遺構である。SX4 を切る。平面形は楕円形である。確認面で長軸 1.78m、短軸 1.20m を測る。土師器無台椀が出土している。

**SK87** (図版 94・97・105、写真図版 105)

16F-7I10・15 に位置する中世以降の遺構である。中世以降の遺構である SK88 を切る。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.00m、短軸 0.69m、深さ 0.29m を測る。埋土は 2 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・小甕、黒色土器無台椀が出土している。

**SK88** (図版 94・97・105、写真図版 105)

16F-7I15 に位置する。SK87 に切られる。平面形は楕円形である。確認面で長軸 0.94m、深さ 0.28m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯、5～6 枚が固着した銭貨が出土している (図版 207)。埋土の状況から中世以降の遺構と推測される。

**SK89** (図版 94・97・105)

16F-7I10、7J6 に位置する。断面形は半円形である。確認面で短軸 0.70m、深さ 0.20m を測る。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SK95** (図版 94・96・107、写真図版 107)

16F-6H14・15・19・20・25、6I16・21 に位置する平安時代～中世の遺構である。SD6・13 を切る。確認面で長軸 5.15m、深さ 0.22m を測る。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋・鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺、灰釉陶器有台皿、中世の土師器皿、石製品(砥石)が出土している (図版 185)。

**SK96** (図版 94・97・104、写真図版 103)

16F-8I4・5・9・10 に位置する中世の遺構である。平安時代～中世の遺構である SD6 を切る。平面形は楕円形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.52m、短軸 1.02m、深さ 0.25m を測る。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台椀・長甕が出土している。

**SK97** (図版 94・97・105、写真図版 105)

16F-8I9 に位置する平安時代の遺構である。SD6 に切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.62m、短軸 0.34m、深さ 0.37m を測る。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀が出土している (図版 185)。

**SK98** (図版 94・98・106、写真図版 105)

16F-8I13～15・18・19に位置する平安時代の遺構である。平面形は不整形、断面形は台形である。確認面で長軸 3.15m、短軸 2.10m、深さ 0.49m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀・有台椀、須恵器無台杯・長頸壺、石製品(台石・軽石製石製品)が出土している(図版 185・186・219)。特に土師器・黒色土器の無台椀がまとまって出土しており、各個体の残存率も高い。

**SK99** (図版 94・97・106、写真図版 105)

16F-8I3・4に位置する。SD6 を掘り下げた際に底面付近で検出した。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.96m、短軸 0.80m、深さ 0.13m を測る。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SK131** (図版 94・99・106、写真図版 105)

16F-10G9に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.66m、短軸 0.40m を測る。遺物は出土していない。

**SK140** (図版 94・99・106、写真図版 106)

16F-9G13・14に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.98m、短軸 0.68m を測る。遺物は出土していない。

**SK168** (図版 94・101・106、写真図版 106)

17F-1H16に位置する。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.83m、短軸 0.82m、深さ 0.15m を測る。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SX4** (図版 94・97・103・107、写真図版 104)

17F-6I22～24、7I3・4・8・9に位置する平安時代の遺構である。SK64・72・82・83とSD1に切られ、SK5を切る。平面形は不整形である。確認面で長軸 5.95m、深さ 0.13m を測る。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯が出土している(図版 186)。

**SX49** (図版 94・101・106、写真図版 106)

17F-1H13・17～19・23・24、2H3・4に位置する。確認面で短軸 3.28m、深さ 0.14m を測る。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SX109** (図版 94・98・99・110・111、写真図版 113・114)

16F-8G2・3・6～9・13～15・20・25、8H16・21・22、9G5、9H1・2・6～8に位置する平安時代の遺構である。SD79・108に切られる。平面形は不整形である。確認面で短軸 2.48m、深さ 0.45m を測る。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・大甕・長頸壺が出土している(図版 186)。

**SX118** (図版 94・101・107、写真図版 106)

17F-1H3・4に位置する。平面形は長方形、断面形は箱形である。確認面で長軸 2.20m、短軸 0.85m、深さ 0.35m を測る。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SX162** (図版 94・102・107、写真図版 106・107)

17F-2G1・2・6～8・12・13に位置する平安時代の遺構である。SD48に切られる。平面形は不整形、断面形は台形である。確認面で長軸 5.82m、短軸 2.70m、深さ 0.39m を測る。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀、須恵器長頸壺が出土している(図版 186)。

c 溝 (SD)

**SD1** (図版 94・96・97・103・104・107、写真図版 102・103・107・108)

16F-6I1・6・11・16・17・21・22、7I2・3・7・8・13・14・19・20・24・25、8I4・5に位置する中世以降の遺構である。SD6・13と並行し、軸方向は南～北に延びる(N-23°-W)。SK16・17・18に切られ、SK5・14・72、SX4、SD6・55を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.50m 前後、深さは 0.25m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器無台杯・杯蓋・大甕・



長頸壺が出土している（図版186）。平安時代～中世の遺構を切るため、中世以降とした。

**SD6**（図版94・96・97・104・107、写真図版103・107・108）

16F-5H2・7・8・12・13・18・19・24・25、6H3～5・8～10・14・15・19・20・25、7H5・10、6I6・11・16・21、7I1・2・6・7・11～13・16～18・22～24、8I2～4・7～10・13～15・18・19・23・24に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる（N-23°-W）。SK12・15・95・96とSD1・13に切られ、SK72とSD56・92を切る。確認面で最大幅3.30m前後、深さは0.50m前後である。検出部分南端で最大幅4.5m前後に広がり、最大深度は1.50mある。部分的に水溜として使われていたか、断面では確認できなかったが、別遺構の井戸を切っている可能性もある。埋土は8層に分かれる。

平安時代の土師器無台椀・有台皿・長甕・小甕・鍋・仏鉢、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・横瓶、灰釉陶器有台皿、中世の珠洲焼甕・片口鉢、土師器皿、銭貨、石製品（砥石・磨石・台石・叩石・軽石製石製品）、木製品（箸状製品・浮子・板状製品・部材）が出土している（図版187～189・204・207・219・220・270）。

**SD13**（図版94・97・104・107、写真図版103・107・108）

16F-6H4・5・9・10・15・20、6I11・16・21、7I1・2・6・7・11～13・17・18・23、8I3・4・8・9・13・14・19に位置する中世の遺構である。SD6埋没後に掘削された遺構である。軸方向は南東～北西に延びる（N-23°-W）。SK12を切り、SK95に切られる。確認面で最大幅1.70m前後、深さは0.56m前後である。埋土は4層に分かれる。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺、中世の珠洲焼甕、石製品（磨石・台石・軽石製石製品）、木製品（部材）が出土している（図版189・204・220）。

**SD20**（図版94・98・99・101・108・110、写真図版108・109・113）

16F-9G8・9・13～15・20、9H16・17・22・23、10H3・4・8～10・14・15・20、10I11・16・21・22、17F-1I2・3・8に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる（N-39°-W）。SD42・59に切られる。断面形は半円形である。確認面で最大幅0.80m前後、深さは0.34m前後である。埋土は4層に分かれる。土師器無台椀・長甕・鍋、軽石製石製品が出土している（図版186）。

**SD35**（図版94・101・102・108・109、写真図版109～111）

17F-1F7～10、1G6～10、1H6～10・12～15、1I6・11・12に位置する平安時代の遺構である。SD36と並行し、部分的に切る。軸方向は東～西に延びる（N-87°-W）。SD48に切られ、SD51を切る。断面形は半円形である。確認面で最大幅0.98m前後、深さは0.33m前後である。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀・長甕、須恵器大甕が出土している。

**SD36**（図版94・101・102・108・109、写真図版109～111）

17F-1F8～10、1G6・7・12～15、1H11～15、1I11・12に位置する平安時代の遺構である。SD35と並行し、部分的に切られる。軸方向は東～西に延びる（N-87°-W）。SD48に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅0.70m前後、深さは0.27m前後である。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀・長甕、石製品（台石）が出土している。

**SD42**（図版94・99・110、写真図版113・114）

16F-9F8～10・15、9G6～8に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる（N-86°-E）。SD59に切られ、SD20を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅1.03m前後、深さは0.10m前後である。埋土は1層である。土師器長甕、黒色土器無台椀が出土している。

**SD44**（図版94・100・105・109、写真図版103・111～113）

16F-9F11～16・21、10F1・6・11・16・21に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延び（N-0°-S）、屈曲して東～西に流れる（N-90°-E）。SD48に切られ、SD134・135・137を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.80m前後、深さは0.16m前後である。埋土は2層である。土師器無台椀・鍋が出土している。

**SD48** (図版 94・99・102・109、写真図版 112・113)

16F-9F15・20・25、9G11・16・17・21・22、10G1・2・6～8・11～13・17・18・22・23、17F-1F25、1G2・3・7・8・12・13・17～19・21・22～24、2F5、2G1～3 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延び (N-6° -W)、湾曲して東～西に流れる (N-82° -E)。ほぼ直角に屈曲しているため、区画溝の可能性も考えられる。SX162 と SD35・36・44・50・52・122・135 を切る。断面形は台形状である。確認面で最大幅 2.06m 前後、深さは 0.42m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・長甕が出土している。

**SD50** (図版 94・102・108・109、写真図版 109～111)

17F-1F13～15、1G11・12 に位置する。軸方向は東～西に延びる (N-87° -W)。SD48 に切られる。断面形は箱形である。確認面で最大幅 0.28m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SD51** (図版 94・102・108、写真図版 109・111)

17F-1F2～5・7～10 に位置する。軸方向は東～西に延びる (N-87° -W)。SD35 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.61m 前後、深さは 0.22m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SD52** (図版 94・102・108・109、写真図版 109～111)

16F-10G25、10H21、17F-1F2～5、1G1～5、1H1 に位置する平安時代の遺構である。SD50・51・35・36 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-90° -E)。SD48・122 に切れ、SD138 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.53m 前後、深さは 0.08m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台碗・長甕・小甕が出土している。

**SD55** (図版 94・96・108、写真図版 107)

16F-6I6・7 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-90° -E)。SD1 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.50m 前後、深さは 0.14m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台碗・長甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している (図版 190)。

**SD56** (図版 94・96・107、写真図版 107・108)

16F-6H3・8・9・14・19・24・25、7H1・2・9・10 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北～南に延びる (N-25° -W)。断面形は皿形である。SD6 に切られる。確認面で最大幅 0.60m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、須恵器無台杯・杯蓋が出土している (図版 190)。

**SD59** (図版 94・99・100・110、写真図版 113・114)

16F-8F18・23～25、8G21、9F5、9G1～3・7～10・14・15、9H11・12・16～18・22・23 に位置する。旧図の類似地に記載 (図版 2) があることから、近世以降の水路の可能性はある。軸方向は南東～北西に延びる (N-60° -W)。第 19 次調査 1 区 SD62 と連続する可能性がある。SD20・42・107・108・120・167 を切る。断面形は箱形である。確認面で最大幅 1.50m 前後、深さは 0.35m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗・鍋、須恵器大甕・横瓶、石製品 (砥石・磨石・台石・軽石製石製品)、木製品 (部材) が出土している (図版 220)。

**SD65** (図版 94・97・108、写真図版 104)

16F-6I18 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-30° -E)。SK64 に切られる。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.34m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台碗が出土している。

**SD74** (図版 94・98・111、写真図版 115・116)

16F-7I16、7H19・20・23～25、8H2～4・7 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-50° -E)。SD75 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.70m 前後、深さは 0.06m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台碗が出土している。

**SD75** (図版 94・98・111、写真図版 115・116)

16F-7H14・15・18～20・22～24、8H1・2 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-50° -E)。SD74 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.24m 前後、深さは 0.09m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕、黒色土器無台椀、須恵器大甕・長頸壺が出土している (図版 190)。

**SD76** (図版 94・96・98・111、写真図版 115・116)

16F-7H7・11・12・17・21・22、8H1 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延び (N-37° -W)、湾曲して北東～南西(N-45° -E)に流れる。SD94 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.70m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器大甕・短頸壺が出土している。

**SD77** (図版 94・96・98、写真図版 116)

16F-7H14・15 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-53° -E)。確認面で最大幅 0.60m 前後である。遺物は出土していない。

**SD78** (図版 94・98・111、写真図版 115・116)

16F-7H23、8H2・3 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-47° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.72m 前後、深さは 0.17m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀が出土している。

**SD79** (図版 94・98・99・110・111、写真図版 113～115)

16F-7G23・24、8G3～5・9・10・15、8H6・11・12・16・17・22・23、9H3・4・8～10・14・15 に位置する平安時代～中世の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-40° -W)。SD167 に切られ、SX109 と SD94・107 を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅 2.45m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。平安時代の土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀・無台皿、須恵器無台杯・大甕・長頸壺・横瓶、緑釉陶器有台椀、中世の土師器皿、石製品が出土している (図版 190・204)。

**SD90** (図版 94・96・111、写真図版 116)

16F-6I11～13 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-90° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.98m 前後、深さは 0.25m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器長甕が出土している。

**SD92** (図版 94・97・98・111、写真図版 116)

16F-7I16・17・21・22、8I1・2・6・7・11・12・17・22・23、9I2・3 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-8° -W)。SD6 に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 2.20m 前後、深さは 0.26m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器大甕・長頸壺、緑釉陶器有台皿、石製品 (砥石・軽石製石製品) が出土している (図版 190)。

**SD93** (図版 94・100・111、写真図版 116)

16F-9E16・17・22・23、10E3 に位置する。軸方向は南～北に延びる (N-10° -W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.20m 前後、深さは 0.24m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SD94** (図版 94・98・111、写真図版 113～115)

16F-7G19・20・24・25、8G5・10、8H1・6・7・11～13・17・18・23・24、9H3～5・9・10、9I6 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる (N-40° -W)。SD79 に切られ、SD76 を切る。確認面で最大幅 1.80m 前後、深さは 0.86m 前後である。埋土は 4 層に分かれる。土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台椀、須恵器無台杯・有台杯・大甕・長頸壺・横瓶、石製品 (磨石・台石・軽石製石製品)、木製品が出土している (図版 190～192・220)。特に土師器・黒色土器の無台椀がまとまって出土しており、各個体の残存率も高くなっている。

**SD101** (図版 94・98・111、写真図版 115・116)

16F-7H20・24・25、7I16・21、8H3～5・7・8に位置する平安時代の遺構である。SD74・75・77と並行し、軸方向は北東～南西に延びる(N-50°-E)。確認面で最大幅0.75m前後である。土師器長甕、須恵器大甕が出土している。

**SD107** (図版 94・98・110、写真図版 113・114)

16F-9G10・15、9H6～8・11～14に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-90°-E)。SD59・79に切られ、SD108を切る。SD120との切り合いは不明。確認面で最大幅1.40m前後、深さは0.42m前後である。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀・無台皿・長甕・鍋・仏鉢、須恵器大甕、石製品が出土している(図版193・220)。

**SD108** (図版 94・98・99・110、写真図版 113・114)

16F-8F15・19・20・24・25、8G6～8・11～14・16～19・21～25、9G2～4・8～10、9H1・6・7に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南東～北西に延びる(N-54°-W)。SD59・107に切られ、SX109を切る。確認面で最大幅5.45m前後、深さは0.25m前後である。埋土は1層である。土師器無台椀・小甕・鍋、須恵器無台杯・大甕・横瓶が出土している。

**SD120** (図版 94・98・110、写真図版 113・114)

16F-9H11・12・17・18に位置する。軸方向は東～西に延びる(N-60°-W)。SD59・167に切られる。確認面で深さは0.26m前後である。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SD122** (図版 94・102・109、写真図版 111)

16F-10G24・25、17F-1G1～5に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-84°-E)。SD48に切られ、SD52を切る。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.74m前後、深さは0.10m前後である。埋土は1層である。土師器無台椀が出土している。

**SD129** (図版 94・101・111、写真図版 116)

16F-10H25に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる(N-5°-E)。断面形は半円形である。確認面で最大幅0.30m前後、深さは0.15m前後である。埋土は2層に分かれる。土師器無台椀・鍋が出土している(図版193)。

**SD134** (図版 94・100・111、写真図版 117)

16F-10E10・15、10F1～4・6・7に位置する。SD135・137と並行し、軸方向は東～西に延び(N-83°-E)、湾曲して南～北(N-0°-S)に流れる。ほぼ直角に屈曲しているため区画溝の可能性も考えられる。SD44に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.50m前後である。遺物は出土していない。

**SD135** (図版 94・99・100・111、写真図版 117)

16F-9F24・25、9G21、10E5、10F1～4に位置する。SD134と並行し、軸方向は東～西に延びる(N-85°-E)。SD44・48に切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.42m前後である。遺物は出土していない。

**SD136** (図版 94・100・111、写真図版 117)

16F-10F4・9・10・14・15・19・20に位置する。軸方向は南～北に延びる(N-0°-S)。SD137と直交するが、切り合いは不明。断面形は皿形である。確認面で最大幅1.05m前後である。遺物は出土していない。

**SD137** (図版 94・100・111、写真図版 117)

16F-10E20、10F11～14・16に位置する。SD134・135と並行し、軸方向は東～西に延びる(N-77°-E)。SD44に切られる。SD136直交するが、切り合いは不明。断面形は半円形である。確認面で最大幅1.10m前後である。遺物は出土していない。

**SD138** (図版 94・100・102・111、写真図版 117)

16F-10F19・20・23～25、17F-1F2・3に位置する。軸方向は北東～南西に延びる(N-70°-E)。SD52に



切られる。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.45m 前後である。遺物は出土していない。

**SD160** (図版 94・101・111、写真図版 117)

17F-1H21、2H1・2・6・7 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-18° -W)。断面形は半円形である。確認面で最大幅 0.68m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 2 層である。土師器無台椀・鍋、須恵器長頸壺が出土している (図版 193)。

**SD167** (図版 94・98・110、写真図版 113)

16F-9H19 に位置する。遺構が重複しているため、平面形は確認できなかった。調査区南東壁を精査した際に検出した。SD59 に切られ、SD79・120 を切る。確認面で深さは 0.18m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

#### d 小 土 坑 (Pit)

2 区全体で 84 基確認されている。柱根は確認されなかった。調査区南東にある微高地上の 17F-1I 周辺に比較的集中して分布している。Pit の総数から建物が存在した可能性もあるが、いずれも規模が小さく、構成は確認できなかった。

## D 3 区 の 遺 構

### 1) 3 区 の 概 要

3 区は 1 区の南側に隣接し、幅約 2m、長さ約 110m の調査区である。調査区の中央部分に微高地を形成し、両端に向かって低くなっていく。遺構総数は 12 基と少なく、その内訳は SK 1 基、SD 9 基、Pit 2 基である。出土遺物から平安時代の遺構であると考えられる。Pit については建物等を構築するものが確認できなかったため、記載を省略する。調査面積は上端面積 226.1m<sup>2</sup> である。

### 2) 3 区 遺 構 各 節

#### a 土 坑 (SK)

**SK10** (図版 113・115・116、写真図版 120)

17F-6G1・2 に位置する平安時代の遺構である。平面形は円形、断面形は皿形である。確認面で短軸 0.70m、深さ 0.14m を測る。埋土は 1 層で、炭化物を多く含み、焼土も若干入る。羽口や鉄滓も出土していることから、鍛冶に関わる遺構であると考えられる。他に土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯が出土している (図版 195・207)。

#### b 溝 (SD)

**SD1** (図版 113・114・116、写真図版 119)

17G-6E23～25 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる (N-25° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 2.30m 前後、深さは 0.22m 前後である。埋土は 3 層に分かれる。土師器無台椀が出土している (図版 195)。

**SD2** (図版 113・114・116、写真図版 119)

17G-6D19・20・24・25 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北西～南東に延びる (N-30° -W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.50m 前後である。埋土は 5 層に分かれる。土師器無台椀が出土している。

**SD3** (図版 113・114・116、写真図版 119)

17G-6C14・19・20 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-38° -E)。断面形は台形状である。確認面で最大幅 0.70m 前後、深さは 0.24m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

**SD4** (図版 113・114・116、写真図版 119)

17G-6C13・14・18・19 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-45° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.60m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

**SD5** (図版 113・115・116、写真図版 119)

17F-6I2・7に位置する。軸方向は北西～南東に延びる(N-28°-W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.50m前後、深さは0.24m前後である。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SD6** (図版 113・115・116、写真図版 120)

17F-6H4に位置する。軸方向は北東～南西に延びる(N-34°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.30m前後、深さは0.08m前後である。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SD7** (図版 113・115・116、写真図版 120)

17F-5G22、6G1・2に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-40°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.40m前後、深さは0.10m前後である。埋土は1層である。土師器無台椀・長甕が出土している(図版 195)。

**SD8** (図版 113・115・116、写真図版 120)

17F-5F25、5G21、6F5、6G1に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-45°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.40m前後、深さは0.08m前後である。埋土は1層である。土師器無台椀・長甕が出土している(図版 195)。

**SD9** (図版 113・115、写真図版 120)

17F-5F25、5G21、6F5に位置する平安時代の遺構である。軸方向は北東～南西に延びる(N-45°-E)。確認面で最大幅0.40m前後である。土師器無台椀が出土している。

## E 4 区 の 遺 構

### 1) 4 区 の 概 要

4区は2区の北西側に位置し、幅約2m、長さ約120mの調査区である。遺構総数は15基で、その内訳はSE 1基、SD 11基、Pit 3基である。調査区は北西端が最も高く、中央部分に向かって低くなる。遺構は北西端、南西端に集中して分布している。最も低い中央部分では遺構は検出されなかった。Pitについては建物等の構成が確認できなかったため、記載を省略する。調査面積は上端面積268.4m<sup>2</sup>である。

### 2) 4 区 遺 構 各 節

#### a 井 戸 (SE)

**SE14** (図版 117・118・120、写真図版 121)

15F-6A6・7・11・12に位置する平安時代の遺構である。断面形は台形状である。確認面で短軸0.80m、深さ1.06mを測る。埋土は3層に分かれる。土師器無台椀、木製品(部材)が出土している。

#### b 溝 (SD)

**SD1** (図版 117・118・120、写真図版 121)

15F-6A24・25、7A4・5に位置する。軸方向は北東～南西に延びる(N-54°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.90m前後、深さは0.14m前後である。埋土は1層である。遺物は出土していない。

**SD2** (図版 117・118・120、写真図版 121)

15F-7A4・5に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる(N-80°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅0.40m前後、深さは0.06m前後である。埋土は1層に分かれる。土師器無台椀が出土している(図版 196)。

**SD3** (図版 117・118・120、写真図版 121)

15F-7A10、7B6に位置する。軸方向は東～西に延びる(N-70°-E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅1.10m前後、深さは0.20m前後である。埋土は1層である。遺物は出土していない。

SD4 (図版 117・118・120、写真図版 121・122)

15F-8B3・4 に位置する平安時代の遺構である。SD5 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-79° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.60m 前後、深さは 0.22m 前後である。埋土は 1 層である。須恵器大甕が出土している (図版 196)。

SD5 (図版 117・118・120、写真図版 121・122)

15F-8B9・10 に位置する。SD4 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-78° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.60m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

SD6 (図版 117・119・120、写真図版 122)

16F-1E6・7 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-50° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.50m 前後、深さは 0.06m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

SD7 (図版 117・119・120、写真図版 122)

16F-1E7・12・17 に位置する。軸方向は北～南に延びる (N-13° -W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.40m 前後、深さは 0.04m 前後である。埋土は 1 層である。遺物は出土していない。

SD8 (図版 117・119・120、写真図版 122)

16F-2F16・17・22・23 に位置する平安時代の遺構である。SD9 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-81° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.50m、深さは 0.16m 前後である。埋土は 1 層である。土師器無台椀・長甕、須恵器大甕が出土している (図版 196)。

SD9 (図版 117・119・120、写真図版 122)

16F-2F23、3F3・4 に位置する平安時代の遺構である。SD8 と並行し、軸方向は東～西に延びる (N-73° -E)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 1.10m 前後、深さは 0.20m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕、軽石製石製品が出土している。

SD10 (図版 117・119・120、写真図版 123)

16F-3G2、4G2・3 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は東～西に延びる (N-80° -E)。断面形は半円形である。確認面で最大幅 1.00m 前後、深さは 0.30m 前後である。埋土は 1 層である。土師器長甕、須恵器長頸壺、石製品が出土している (図版 196)。

SD15 (図版 117・119・120、写真図版 123)

16F-4G15・20・25、4H21、5H1 に位置する平安時代の遺構である。軸方向は南～北に延びる (N-15° -W)。断面形は皿形である。確認面で最大幅 0.90m 前後、深さは 0.10m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。土師器無台椀・長甕が出土している。

### c 旧 河 道

河 16 (図版 117・118・120)

15E-6J19・20・24・25 に位置する。軸方向は北東～南西に延びる (N-50° -E)。深さは 0.48m 前後である。埋土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

## F 7 区 の 遺 構

1) 7 区 の 概 要 (図版 121・写真図版 124)

7 区は 2 区の 100m 西側、4 区の 100m 南西側に位置する、畑として残っていた 3m × 16m の高まり部分である。基本層序では他の区の包含層に相当する V 層が存在しているが、遺構・遺物は検出されなかった。調査面積は上端面積 46.4m<sup>2</sup> である。

## 第V章 遺物

沖ノ羽遺跡からは古墳時代、古代、中世の遺物が出土している。遺物出土総量は第18次調査と第19次調査(1～4・7区)を合わせてコンテナ(内径54.5×33.6×10.0cm)に778箱出土した。遺物の内容は第18次調査が古墳時代の土器11箱、古代の土器528箱、中世の土器・陶磁器17箱、土製品3箱、鉄製品・鍛冶関連遺物9箱、石製品22箱、木製品65箱である。第19次調査では古代の土器72箱、中世の土器3箱、土製品1箱、鉄製品・鍛冶関連遺物3箱、石製品8箱、木製品10箱であった。

出土遺物の記述については、種別ごとに土器・陶磁器、土製品(瓦塔とその他の土製品に分けて記述)、金属製品、石製品、木製品の順に、さらに調査年次、調査区、遺構種別(井戸SE、土坑SK、性格不明遺構SX、溝SD、小土坑Pit、旧河道)の順で行う。

遺物の図面図版・観察表についても記載順は同じであるが、土器・陶磁器のみ時期ごと(古墳時代、古代、中世)に分けて記載している。

### 第1節 土器・陶磁器

#### A 古墳時代の土器

##### 1) 概要

古墳時代の土器は土師器が大多数を占め、須恵器は1点のみである。第18次調査の1区と4区でのみ出土している。包含層から出土した古墳時代の土器の重量を小グリッドごとに合計し、図版9に示した。

1区では土師器のみが出土し、点数は58点、重量825gであった。調査区中央北東側寄りの16H-9F・9G周辺で出土している。4区では調査区北東側で遺物量が多くなっており、古墳時代の土器もその周辺から多く出土している。遺構出土土器の土師器の総点数506点、総重量は3,531gで、須恵器は1点、122gであった。包含層からは土師器のみが出土し、点数は1,112点、重量10,882gであった。

出土土器は大半が古墳時代後期に属すると考える。

##### 2) 土器の分類と記述(第5図)

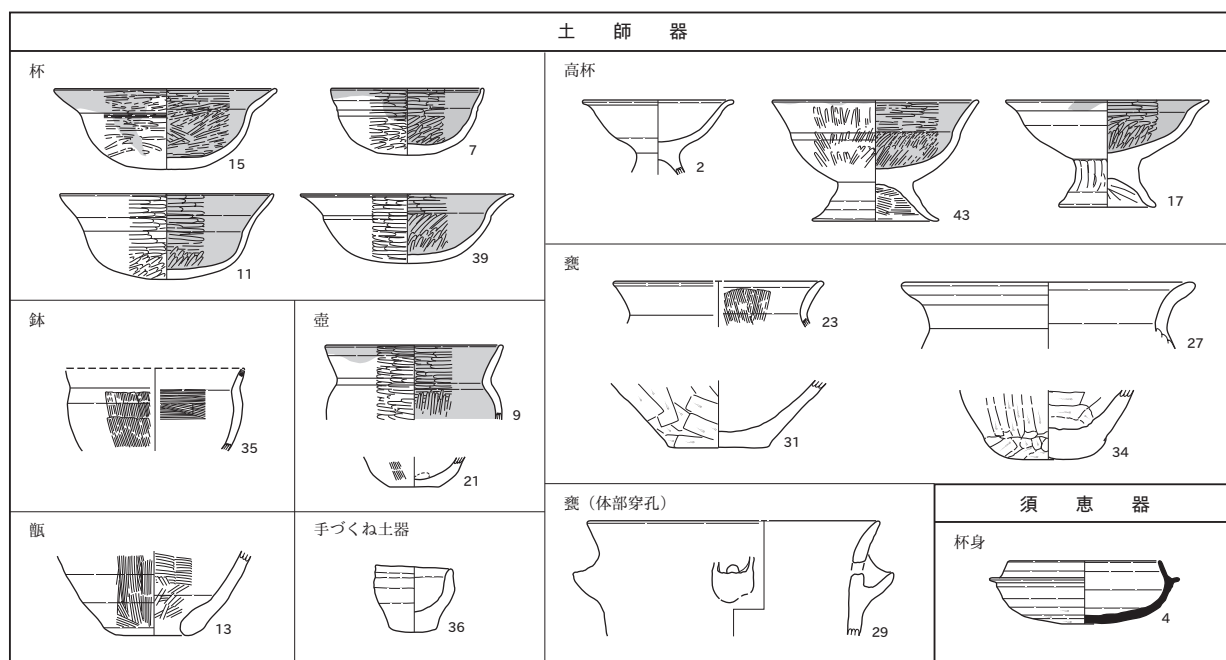
記述は最初に土器分類を行い、次に各区の遺構別・包含層出土の順に記した。出土量が少ないため、細分類は行っていない。

成形・調整の表現・名称は次のように記述した。

1. 「ナデ」は指などにより器面をなでたもので、「ヨコナデ」は回転を用いてなでたものとした。
2. 「ミガキ」は幅の狭い工具で器面を磨くものである。
3. 「ハケメ」は板の小口面を使い土器の表面を調整するもので、器面には平行する条線が残される〔土橋2004〕。これは調整具の使用頻度が高いためと考えられている。あるいは、櫛歯状工具を使用したとも考えられる。
4. 「ケズリ」は土器の表面を削る調整で、砂粒の移動が明確に認められるものとした。
5. 板状工具の幅のみ残り、ハケメのような条線は認められず、ケズリのような砂粒の移動も見られないものを「ヘラナデ」とした。ハケメと同じ工具で使用頻度が少なく木目の凹凸が明瞭でないもの、または作業面を木目に平行で切ったものを想定している〔鈴木・春日・高橋1994〕。

次に器種分類を行う。器種は土師器が杯、高杯、鉢、壺、甕、甌、手づくね土器があり、須恵器は杯がある。





第5図 沖ノ羽遺跡古墳時代土師器・須恵器分類図 (S=1/6)

## 土師器

**杯** 丸底の底部に体部中位や上位で口縁部が屈曲し外へ開く。口縁部が直線的に外傾するもの、強く外反するもの、外反して直立気味に立ち上がるものなどがある。口縁部と体部の境界に強い稜線や段が形成されるものもあり、これらは須恵器模倣、またはその系譜で製作された可能性が考えられる。すべて内面を黒色処理した「内黒」の土器であった。

**高杯** 杯に脚部が付くものを一括した。杯部は内湾し体部中位や上位で口縁部が外側に開く。脚部は短く「ハ」の字に開く。杯部の内面を黒色処理した「内黒」のものが多い。

**鉢** 破片資料である。やや肩が張る体部に、外側に開く短い口縁部が付く。

**壺** 完形のものではなく、いずれも破片資料である。体部から口縁部が外側に伸びる。内面を黒色処理した「内黒」の土器が多い。また、小型の壺の体部資料も出土している。

**甕** 完形のものではなく、すべて破片資料である。長胴の体部に外傾もしくは外反する口縁部を持つ。底部は平底が大部分を占める。口縁端部は丸く収まるものが多い。

**甔** 底部全体が孔になるもの。完形品は出土していない。

**手づくね土器** 小型の土器で、指押さえによって整形されたもの。

## 須恵器

**杯** 蓋杯の坏身。丸底で口縁端部は丸く収まる。1点のみ出土した。

## B 古代の土器

## 1) 概要

沖ノ羽遺跡から出土した古代の土器は、第18次調査がコンテナで528箱、361,944g、74,703点、第19次調査で72箱、94,832g、20,316点である。総数量は600箱、456,776g、95,019点にのぼり、本遺跡出土土器・陶磁器の95%を占める。調査区別では、第18次調査3区で263,201g(総量の57.62%)、59,547点(総数の62.67%)と古代の土器全体の約60%が出土しており、中でも3区北東側の旧河道周辺に集中が見られる。

包含層出土遺物の出土状況を見ると、古代の遺物はV層の遺物が大半を占める。第18次調査については、1・

4区包含層の古代土器の出土状況を図版10に、2区は図版29に、3区は図版47に、第19次調査については、1区を図版80に、2区は図版95に、3・4区は図版112にそれぞれ示した。各区ともに遺物が集中して出土する分布域は遺構の集中度と相関的である。

土師器を主体に、須恵器・黒色土器が確認され、全体の重量比は土師器329,353g(72.12%)、須恵器101,349g(22.18%)、黒色土器26,074g(5.70%)で、点数比は土師器85,777点(90.28%)、須恵器4,194点(4.41%)、黒色土器5,049点(5.31%)であり、土師器の占める割合が高い。年代的には8世紀から10世紀までの土器が出土しており、特に9世紀後半に比定される土器群が主体を占める。これらは周辺にある同時期の遺跡の傾向と同様である。このほかに施釉陶器が25点出土している。周辺の遺跡と比較して出土数が多く、本遺跡の特徴と言えるであろう。

後述する古代土器の編年的位置付けや時期区分、本文中の記述については、春日真実氏による編年〔春日1999〕を基本とした。

## 2) 土器の分類と記述 (第6～12図)

記述は最初に土器分類を行い、次に調査年度別に各区の遺構・包含層出土土器を土師器・黒色土器・須恵器・施釉陶器の順に記した。

成形・調整の表現・名称は、山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989〕を参考に以下の通りとした。

1. 「ロクロナデ」ーロクロ・回転台使用、「ナデ」ーロクロ・回転台未使用。
2. 「ケズリ」ーロクロ・回転台使用、「ヘラケズリ」ーロクロ・回転台未使用。
3. 「カキメ」ーロクロ・回転台使用、「ハケメ」ーロクロ・回転台未使用。
4. 「ヘラナデ」ーロクロ・回転台未使用。「カキメ」・「ハケメ」と同一と想定される板状工具で、その幅のみ残り条線が残らないもの。
5. 「ミガキ」ーロクロ・回転台未使用。
6. 底部切離し技法について、糸によるものを「糸切り」、ヘラ状工具を用いたものを「ヘラ切り」とした。いずれもロクロの回転を利用したものである。
7. 須恵器大甕・土師器長甕・鍋などの外面に見られる叩板工具を用いた成形痕を「タタキメ」とし、内面の当て具工具を用いた成形痕を「当て具痕」とした。これらの細分類は内堀信雄氏の分類〔内堀1988〕、柿田祐司氏の分類〔柿田2001〕を基本に第6図のようにした。

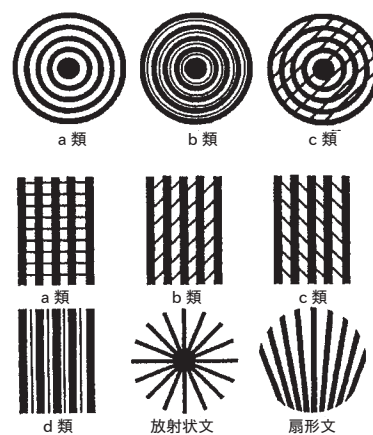
須恵器の胎土は山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989〕、古代阿賀北地域の土器様相〔春日ほか2004〕などを参考にA～D群に分類した。

A群：胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、小礫が露出する。笹神丘陵の笹神・真木山窯跡群を中心とする阿賀北地方の須恵器と推定される一群である。

B群：胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しが見られる。佐渡の小泊窯跡群の須恵器と推定される一群である。

C群：胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群の須恵器と推定される。

D群：A～C群以外のものを一括した。西古志窯跡群や滝寺古



名称	分類基準	略号
同心円文 a 類	木目のみられないもの	Da
同心円文 b 類	年輪状の木目のみられるもの	Db
同心円文 c 類	柵目状の木目のみられるもの	Dc
平行線文 a 類	木目が彫り込みに対し直交するもの	Ha
平行線文 b 類	木目が右上がりに斜交するもの	Hb
平行線文 c 類	木目が右下がりに斜交するもの	Hc
平行線文 d 類	木目が平行するもの	Hd

第6図 タタキメ・当て具痕の細分類図

窯跡群産と推定されるものも含む。

次に本遺跡の特徴を整理するため器種分類を行い、器種ごとに説明を行う。以下、土師器・黒色土器・須恵器・施釉陶器の順で概説する。

### 土 師 器

食膳具と煮炊具と貯蔵具がある。食膳具には無台椀・有台椀・有台杯・有台皿・蓋がある。煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。貯蔵具には鉢・台付鉢・仏鉢がある。

**無台椀** 製作手法の違いにより大きく二分した。底部糸切り後無調整のものを無台椀 a、底部糸切り後、ケズリやミガキを施すものを無台椀 b とした。無台椀 b は体部内面にミガキ、体部外面にケズリを施すものが多い。破片資料で体部にミガキやケズリを施しているものは無台椀 b と分類した。

細分類は無台椀 a・b で共通とし、口縁部形態 (A～C) と口径 (I～IV) と器高指数 (1～3) の組み合わせ (例 A II 3) で表した。口縁部形態の分類は、底部から体部が内湾気味に立ち上がるものを A 類、底部から体部が直線的に立ち上がるものを B 類、底部から体部が内湾気味に立ち上がり口縁部分で外反する C 類に細分した。口径は 4 分類し、12cm 未満を I 類、12～13.5cm 未満を II 類、13.5～15cm 未満を III 類、15cm 以上を IV 類とした。器高指数は 3 分類し、30 以下を 1 類、31～34 を 2 類、35 以上を 3 類とした。

**有台椀** 出土数は少ない。高台は円盤状高台と貼り付け輪高台の二種類が見られた。

**有台杯** 須恵器有台杯に類似したもの。1 点のみ出土した。

**有台皿** 貼り付け輪高台を持つ底部に大きく開く体部が付く。全体が分かる資料は出土していない。

**蓋** 須恵器杯蓋に類似した形態のものと仏教系遺物と考えられる形態のものが出土している。どのような器種に伴うかは不明である。

**長 甕** 口縁端部の形態から 3 分類した。口縁端部が受け口状になるものを A 類、口縁端部を上方につまみ出すものを B 類、口縁端部が丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものを C 類とした。底部はほとんどが丸底であると考えられるが、平底のものも少量確認された。

**小 甕** 口縁端部の形態から 3 分類した。口縁端部が受け口状になるものを A 類、口縁端部を上方につまみ出すものを B 類、口縁端部が丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものを C 類とした。

**鍋** 口縁端部の形態から 3 分類した。口縁端部が受け口状になるものを A 類、口縁端部を上方につまみ出すものを B 類、口縁端部が丸く収まるもの、もしくは口縁端部に面を持つものを C 類とした。底部はほとんどが丸底であるが、脚部を持つものが 1 点出土した。

**仏 鉢** 仏具である金属器の鉢を模倣したものと考えられる。口縁端部が内湾するものが多い。全体が分かる資料が少ないため分類は行っていない。

**鉢** 底部から体部が大きく開いて立ち上がるものを鉢とした。全体が分からず仏鉢と断定できなかったものも含めた。

**台付鉢** 脚部のみ出土している。「ハ」の字状に伸びる形態のものと、側面・底部に穿孔し外面をヘラケズリで調整したものの二種類が見られる。体部は出土していない。

### 黒 色 土 器

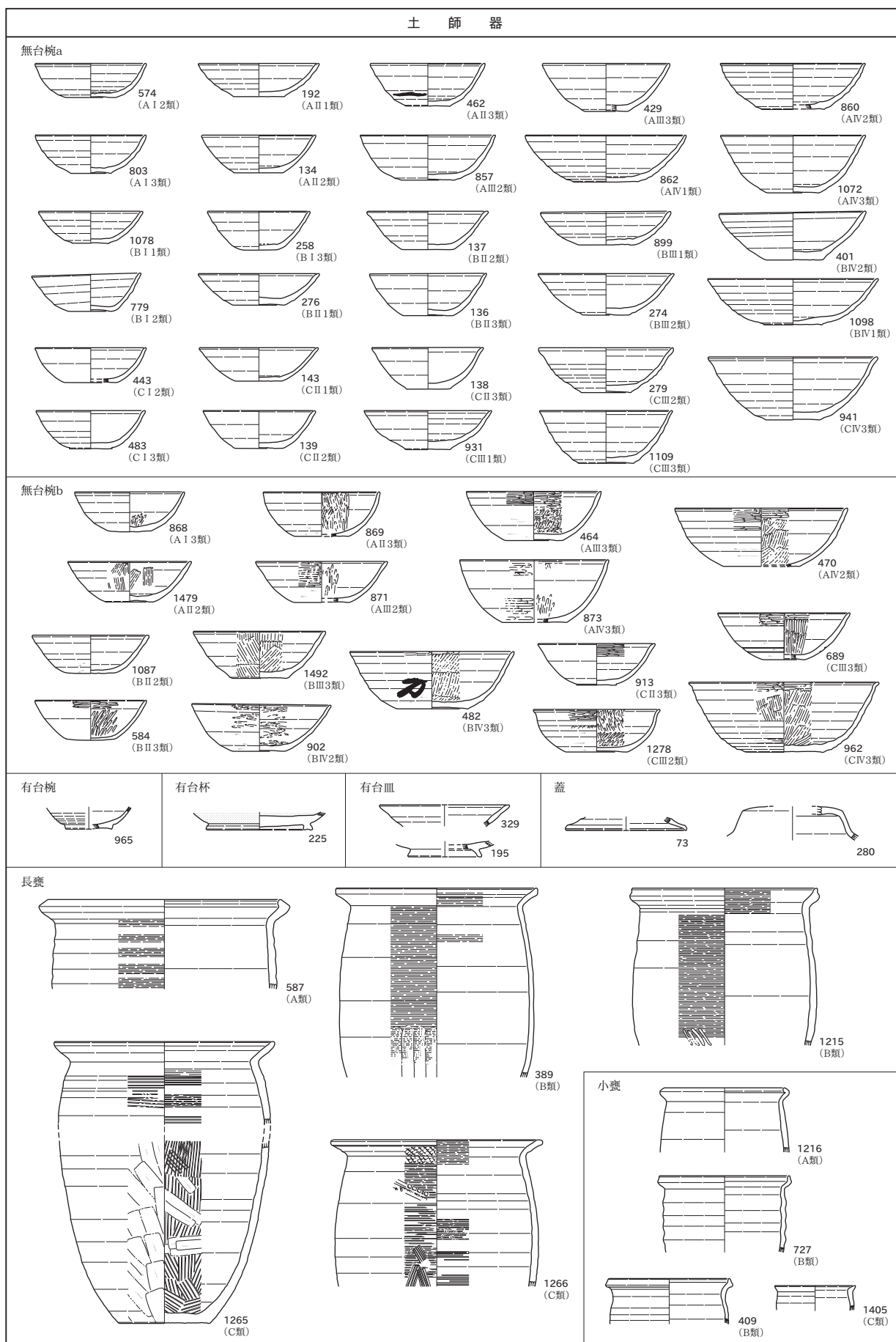
食膳具と貯蔵具が出土している。主に内面を黒化処理した「内黒」の土器である。

**無台椀** 底部は糸切り後ケズリまたはミガキ調整を行う。体部外面下半にケズリ、内面はミガキを施す。ミガキは外面の口縁端部まで及ぶこともある。分類は土師器無台椀同様、口縁部形態・口径・器高指数の組み合わせで行った。

**有台椀** 貼り付け輪高台を持つ。すべて底部資料である。

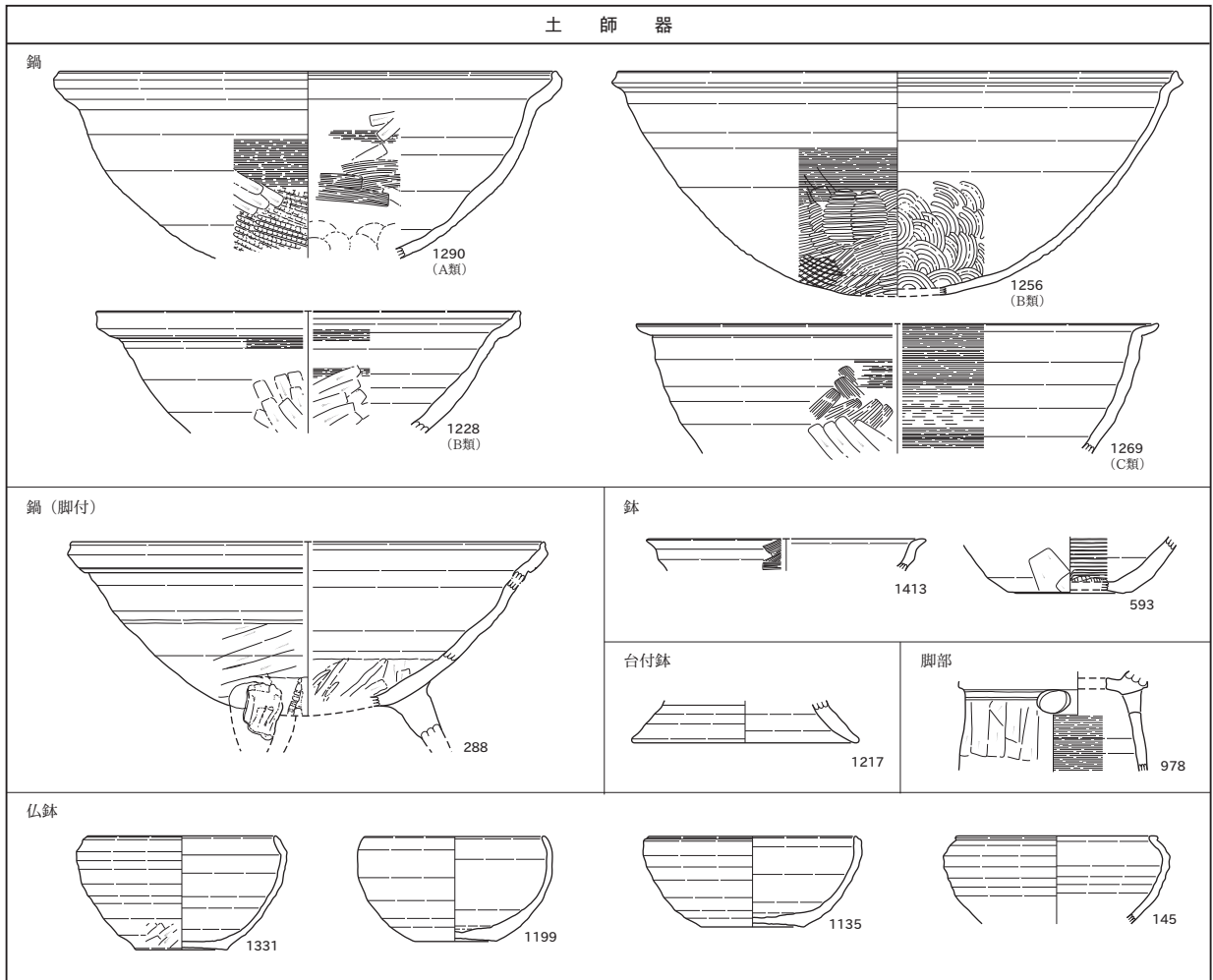
**有台皿** 貼り付け輪高台の底部に大きく開く体部が付くもの。

**蓋** 内外面を黒色処理し、さらに内外面ともミガキを施す。どのような器種に伴うかは不明である。

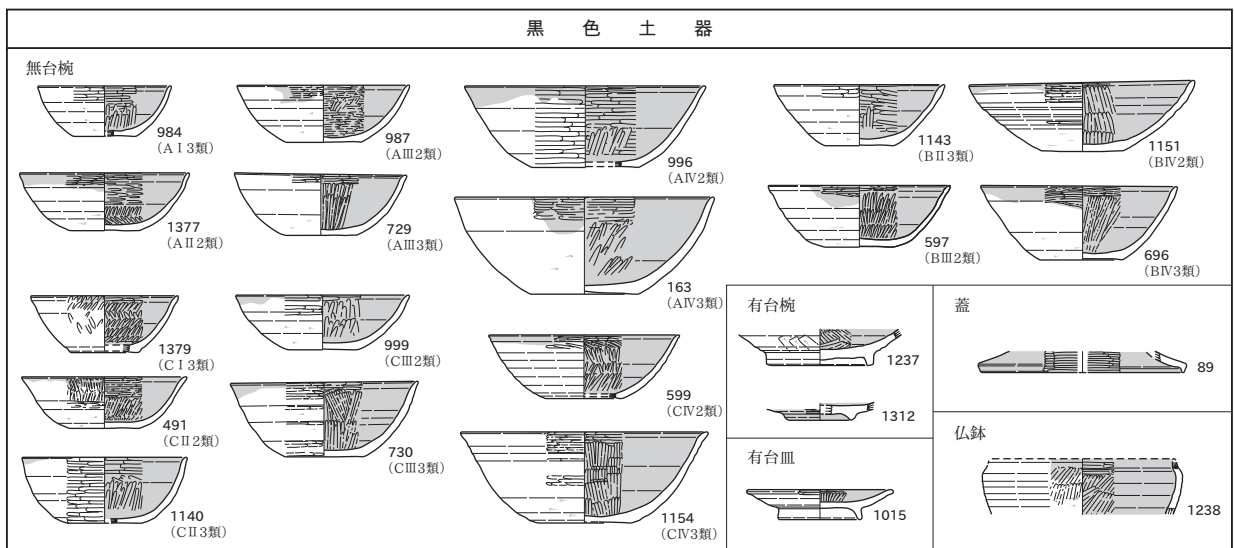


第7図 沖ノ羽遺跡古代土師器分類図1 (S=1/6)

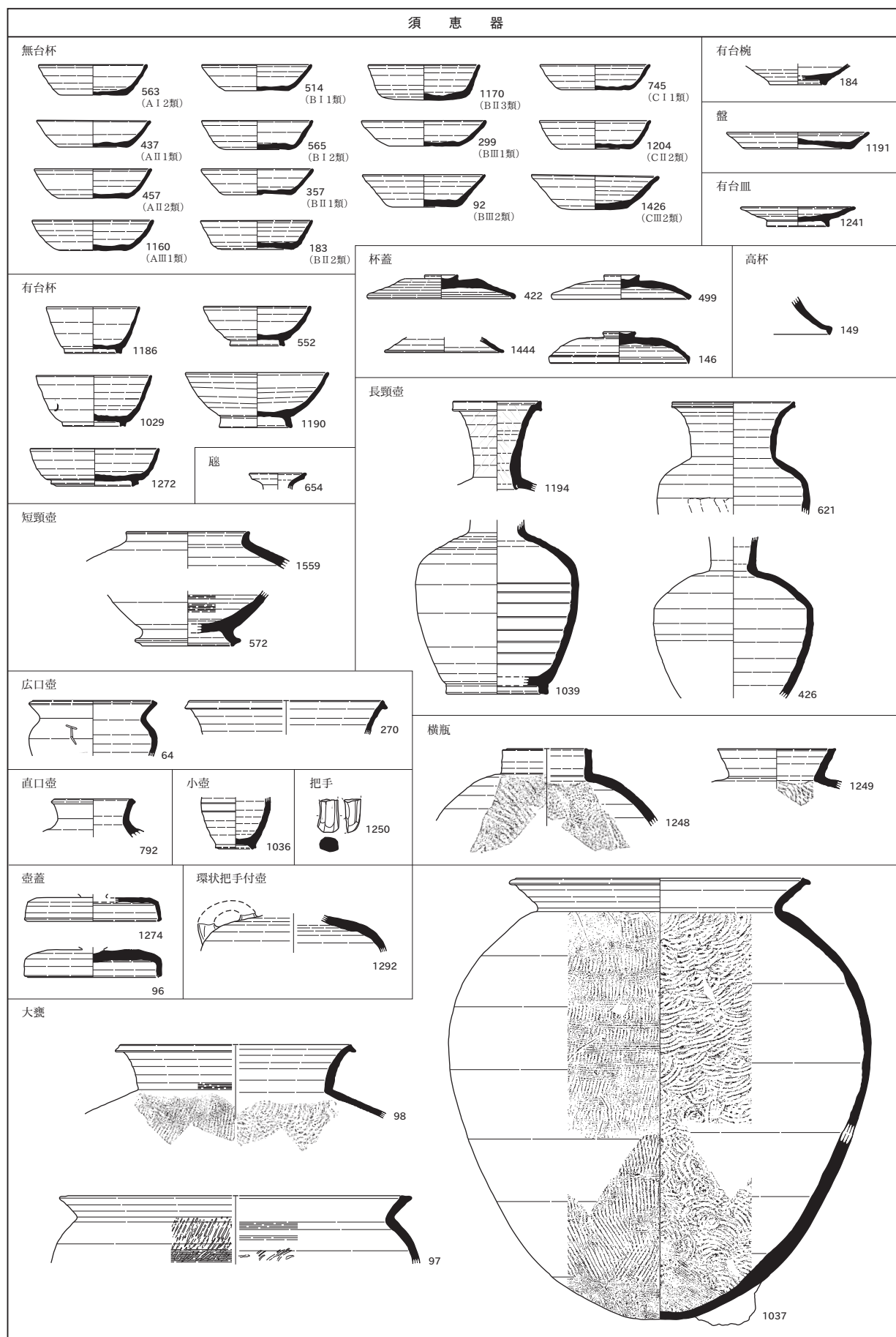




第8図 沖ノ羽遺跡古代土師器分類図2 (S=1/6)



第9図 沖ノ羽遺跡古代黒色土器分類図 (S=1/6)



第10図 沖ノ羽遺跡古代須惠器分類図 (S=1/6)

仏鉢 土師器仏鉢と器形が類似したもの。体部資料のみで全形が分かる資料は出土していない。

須恵器

食膳具と貯蔵具が出土している。

無台杯 口縁部形態 (A～C)・口径 (I～Ⅲ)・器高指数 (1～3) の組み合わせで分類した。口縁部形態の分類は、底部から体部が内湾気味に立ち上がるものを A 類、底部から体部が直線的に立ち上がるものを B 類、底部から体部が内湾気味に立ち上がり口縁部分で外反する C 類に細分した。口径は 3 分類し、12cm 未満を I 類、12～13cm 未満を II 類、13cm 以上を III 類とした。器高指数は 3 分類し、25 以下を 1 類、26～29 を 2 類、30 以上を 3 類とした。底部はすべてヘラ切りであった。

有台杯 杯のうち高台を持つもの。細分類はしていない。直線的に立ち上がるものや内湾気味に立ち上がるものなどが見られる。

有台椀 底部から体部が大きく開いて立ち上がる形態のもの。1 点のみ出土した。

高杯 脚部のみ 1 点出土した。

有台皿 器高が低く、外側に大きく開く体部を持つ。底部は貼り付け輪高台である。

盤 口径・底径が大きく身の浅いものを盤とした。

杯蓋 有台杯に伴う蓋である。ボタン状のつまみが付く。

大甕 大型で丸底の甕を一括した。破片数は多いが全体形が分かる資料が少ないため細分類は行っていない。

横瓶 俵状の体部に直線的に伸びる口縁部が付く。全体形が分かる資料は出土していない。体部の破片資料でも形態・調整等から横瓶と判断したものがある。

長頸壺 長い頸部を持つ壺を一括した。破片資料が多く、体部・高台の形態から判断したものもある。

短頸壺 頸部が短く直立し球胴形の体部を持つ壺で、高台が付く。出土数は少ない。

広口壺 頸部から大きく開く口縁部を持つもの。出土数は少ない。

直口壺 頸部から直線的に伸びる口縁部を持つもの。1 点のみ出土した。

環状把手付壺 肩部の片側に半環状の把手が付く。また、把手の破片と思われる資料も出土している。

小壺 小型の壺を一括した。

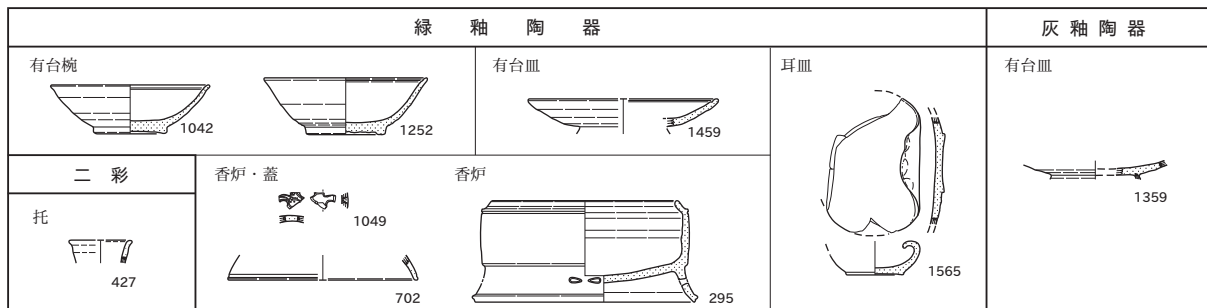
罎 口縁部のみ出土した。

壺蓋 短頸壺や直口壺に伴うものと思われる。つまみ部分は出土しなかった。

緑釉陶器

小破片が多く、全形がわかる資料は少ない。胎土には精良なものと長石などの砂粒が混じるものの二種類がある。また、素地も軟質と硬質の二種類が見られた。

有台椀 削り出し手法による高台を持つ。口縁端部が外反するものと、口縁が内湾気味に伸び端部に沈線を施すものが見られる。



第 11 図 沖ノ羽遺跡古代施釉陶器分類図 (S=1/6)

有台皿 破片のみの出土で、全体形のわかる資料は出土していない。口縁が直線的に伸び、端部内面に沈線が施されるものと、口縁端部を短く屈曲させるものが見られる。

耳皿 1点のみ出土した。底部に糸切り痕が残る。

香炉 脚部に透かしが入る。破片資料である。セットとなるであろう蓋の破片も出土した。

#### 灰釉陶器

有台皿の破片資料が1点出土している。

#### 二 彩

托の口縁部と推定される破片資料が3点出土した。すべて同一個体である。釉薬の剥落が著しい。

### C 中世の土器・陶磁器

#### 1) 概 要

中世の土器・陶磁器は、第18次調査がコンテナで17箱、37,599g、2,607点、第19次調査で3箱、2,543g、93点、総数量で20箱、40,142g、2,705点出土している。調査区別では、第18次調査2区で25,295g(総量の63.01%)、1,637点(総数の60.52%)と中世の土器・陶磁器全体の6割強が出土しており、特に遺構からの出土が多くなっている。包含層出土状況を第18次調査1・4区は図版11に、2区は図版29に、3区は図版48にそれぞれ示した。第19次調査は出土数が少なかったため掲載していない。

中世の土器・陶磁器には青白磁、白磁、青磁、珠洲焼、北越窯産陶器、瀬戸・美濃焼、中世土師器等がある。種類別の比率は破片数で輸入陶磁器1.72%、珠洲焼・珠洲系陶器13.00%、瀬戸・美濃焼1.30%、土師器83.98%と土師器が大半を占める。この他に備前焼・瓦質土器が出土しているが、小破片のため図化していない。

本遺跡では12世紀から15世紀前半の遺物が出土しているが、主体となる時期は13世紀中葉～14世紀中葉である。

#### 2) 土器・陶磁器の分類と記述(第12図)

記述はまず分類を行い、次に遺構別・包含層出土の順に記した。土器・陶磁器の分類・名称および編年については青磁・白磁は山本信夫の研究〔山本2000〕、珠洲焼は吉岡康暢の研究〔吉岡1994〕を参考とした。

青磁 椀が41点、皿が1点、香炉が1点出土している。すべて龍泉窯系である。このうち椀17点、皿1点を図示した。香炉は小破片のため図化していない。椀には無文のもの、内面に草花文を施すもの、外面に蓮弁文を施すものなどがある。皿は無文であった。

白磁 椀が2点出土している。1点は口禿げ椀であった。

青白磁 合子が1点出土している。

中世土師器 皿が2205点出土している。小破片が多く、図化できたものは65個体である。ロクロ成形と手づくね成形があり、法量から大小の2種類に分けることができる。ロクロ成形の底部切り離し技法は糸切りとヘラ切りが見られた。また、ロクロ成形の皿については形態に差があり、底径が小さく深身の器形で全体的に厚手のものと、底径が大きく身が浅いものに大きく二分できるようである。

瀬戸・美濃焼 瓶子が28点出土し、7個体を図示した。いずれも体部の破片資料である。

珠洲焼 壺R種が12点、壺T種が86点、壺K種(装飾壺)が34点、片口鉢が91点、甕が100点、水注が4点出土している。このうち壺R種を3点、壺T種を7点、壺K種を2点、片口鉢を32点、甕を12点、水注を1点図化した。

北越窯産陶器 北越窯は笹神丘陵に位置する中世陶磁器窯跡群で、須恵器系陶器・瓷器系陶器を生産している。本遺跡では須恵器系の壺4点、片口鉢2点、甕13点、瓷器系の壺1点が出土した。図化したものはすべて須恵器系で、窯が推定されるものについては本文中に示した。壺を2点、片口鉢2点、甕1点を図示した。



青磁		白磁	青白磁
皿 1726	碗 1645 1606 1587	碗 1588	合子 1703
中世土師器		瀬戸・美濃焼	
ロク口成形底部糸切り 1589 1591 1615 1595 1626 1655		ロク口成形底部ヘラ切り 1700 1704	
手づくね成形 1602 1717 1676 1661		瓶子 1603 1642 1618	
珠洲焼			
壺R種 1663 1665	壺T種 1619 1620	壺K種 (裝飾壺) 1730	
1719		水注 1718	
		片口鉢 1639	
甕 1631 1667		1636 1623	
北越窯産陶器			
壺 1705		甕 1605	
片口鉢 1716			

第12図 沖ノ羽遺跡中世土器・陶磁器分類図 (S=1/6、1631・1667は1/8)

## D 第18次(05)調査

### 1) 第18次調査1区出土土器・陶磁器

#### a 遺構出土土器・陶磁器

SK19 (図版125・126、写真図版127・129・130)

土師器長甕(45)・小甕(46～48)・鍋(49～53)、須恵器無台杯(54・55)を図化した。他に古墳時代の土師器甕が出土している。土師器長甕45は体部資料である。内外面ともにハケメ調整が施されている。小甕46はC類である。内面と外面の色調が異なっている。47・48はともに底部から体部にかけての資料で、47は外面にケズリが施されている。48は外面にカキメ・ケズリ、内面にカキメが施され、SD16と接合関係にある。

鍋49・50はB類、51～53はC類である。49の器面にはナデ・ハケメが施され、内面に炭化物、外面にススが付着している。50の外面はカキメ・平行タタキメc類・ヘラケズリ、内面はナデ・ハケメが施され、外面にススが付着している。51の外面はハケメ・ヘラケズリ、内面はカキメ・ハケメが施されている。52の外面はカキメ・平行タタキメc類・ハケメ・ナデ、内面はハケメが施され、外面にススが付着している。53は外面・内面ともにハケメ・カキメが施され、平らな底部を意識して成形している。51～53はいずれもSD16と接合関係にある。

須恵器無台杯54はBII2類、55はBIII類で、ともに胎土はC群である。54はSD16と接合関係にある。SK19出土土器の所属時期は概ねIV2期に比定されると考える。

SK29 (図版126、写真図版130)

須恵器無台杯(56・57)を図化した。須恵器無台杯56はAII類、57は底部資料で、ともに胎土はB群である。破片資料のみではあるが、概ねVI期の範疇と考える。

SD16 (図版126、写真図版130)

土師器長甕(58)、須恵器大甕(59)を図化した。他に古墳時代の土師器甕が出土している。土師器長甕58はC類である。口縁から体部半ばまでの資料で、外面にはカキメ・ハケメ、内面にはカキメ・ナデ・ハケメが施される。また、外面にはススの付着も確認された。口縁部形態は古手の様相を示す。須恵器大甕59は胎土A群の体部下半資料である。外面に平行タタキメb類、内面にハケメ・同心円当て具痕a類が残る。時期は概ねIV～V期と推定される。

SD28 (図版127、写真図版130)

須恵器大甕(60)を図化した。口縁部資料で胎土はC群に分類される。

SD30 (図版127、写真図版130)

図化した土師器小甕(61)・鍋(62)、須恵器無台杯(63)・広口壺(64)の他に、中世の土師器皿が出土している。土師器小甕61はC類である。外面にカキメが観察される。鍋62はB類である。遺存率が低く口径は不明。

須恵器無台杯63はAI類で、胎土はB群である。広口壺64は外面にケズリが施され、体部外面にヘラ記号を施す。胎土はC群である。

SD31 (図版127、写真図版130)

土師器無台碗a(65)を図化した。B類としたが遺存率が低く口径は不明である。

河1 (図版127、写真図版130)

土師器無台碗a(66)を図化した。底部から体部にかけての資料である。時期はVI期に収まると考える。

河25 (図版122・127・197、写真図版127・130・173)

古墳時代の土師器甕(1)、平安時代の土師器無台碗a(67～72)・蓋(73)・長甕(74・75)・小甕(76)、須恵器有台杯(77・78)・広口壺(79・80)・大甕(81～83)中世の青磁碗(1586・1587)、白磁碗(1588)、土師器皿(1589～1602)、瀬戸・美濃焼瓶子(1603)、珠洲焼片口鉢(1604)、北越窯産陶器甕(1605)を図化した。

古墳時代の土師器甕の底部(1)は、平底で体部下端の外面には指頭圧痕が残る。

土師器無台椀 a67 はAⅡ2類、68 はAⅣ類、70 はBⅡ類、69 はBⅢ類、71・72 は底部資料である。蓋 73 は口縁部資料である。長甕 74 はC類である。75 は体部破片資料で、外面に平行タタキメ a類、内面に平行当て具痕 c類が残る。小甕 76 はA類である。外面にススが付着している。

須恵器有台杯 77・78 はともに口縁部のみの資料であったが、傾き等から有台杯とした。胎土は 77 がA群、78 がB群である。広口壺 79・80 はともに口縁部資料である。79 については内面にカキメが観察される。大甕 81・82 は口縁部資料である。83 は体部資料で、外面に平行タタキメ a類、内面に平行当て具痕 a類が残る。79～83 の胎土はいずれもC群である。時期はⅥ期に収まるものとする。

青磁椀 1586 は体部の破片資料で外面は無文、内面には劃花文を有する。内外面ともに透明度の高い釉が均一にかかる。1587 は底部資料で底部内面に沈線を巡らす。また、内面見込みに花卉を描く。高台内面は釉を剥ぎ取っている。1586・1587 とともにI2類でD期(XⅣ～XⅤ期、12世紀中頃～後半)に相当する。白磁椀 1588 は口縁部から体部の破片で口縁端部が口禿げとなるⅨ類である。時期はF期(13世紀中頃～14世紀初頭前後)に相当するが、13世紀後半から14世紀前半に増加する器形である。

中世土師器皿 1589～1601 はロクロ成形で、このうち 1589～1591、1595・1596 は小型の皿である。ロクロ成形の皿のうち底部切り離し技法が判別できたものはすべて糸切りであった。1589～1594・1601 は底部が厚く作られており、色調は橙色系である。このうち 1590・1591 は口縁端部で僅かに内湾する。1595～1600 は薄手の作りで灰白色系を呈する。また、1598 はケズリに近い強めのロクロナデで、1599 はロクロケズリによって底部と体部の境に丸みをつけている。1602 は手づくね成形の小皿で、体部が直線的に立ち上がり口縁端部に面を持つ。

瀬戸・美濃焼瓶子 1630 は破片資料で、体部に4条の沈線が巡る。また頸部付近にも複数の沈線が巡っている。外面には透明度の高い灰釉が施釉される。珠洲焼片口鉢 1604 は底部から胴部にかけての資料である。内面には6目を1単位とする卸目を施し、コゲも観察される。外底面は静止糸切り後ハケメを施している。また、底部は意図的に円形に穿孔されており、内面は穿孔後に被熱したと考える。時期は珠洲Ⅲ期に相当する。北越窯産陶器甕 1605 は口縁部破片で、受け口状の口縁を持つ。口縁部の形態から赤坂山中世窯のものとする推察され、時期は13世紀中葉に位置すると考える。

#### b 包含層出土土器・陶磁器(図版 122・128・197、写真図版 127・128・130・173・229)

古墳時代(図版 122、写真図版 127・128) 高杯(2)・手づくね土器(3)を図化した。高杯2は浅い椀形の杯部を持ち、口縁端部で短く外反する。杯体部には不明瞭ではあるがわずかに稜が見られ、脚部は「ハ」の字に開く形態のものが付くと思われる。古墳時代中期後半に属すると考える。3は平底の手づくね土器で外面は指押さえにより整形されている。

古 代(図版 128、写真図版 130・229) 土師器無台椀 a(84)・小甕(85・86)・鍋(87)、黒色土器無台椀(88)・蓋(89)、須恵器無台杯(90～93)・有台杯(94)・杯蓋(95)・壺蓋(96)・大甕(97・98)を図化した。

土師器無台椀 a84 はAⅡ2類である。底部切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。小甕 85 はA類、86 はC類である。86 については外面にカキメ・ハケメ、内面にカキメが施される。やや古い様相を示していると見られる。鍋 87 はB類である。外面・内面ともにカキメが観察される。85～87 はいずれも口縁から体部にかけての資料である。

黒色土器無台椀 88 は底部資料である。内面にミガキが施される。蓋 89 は口縁部資料である。外面・内面ともに黒色処理され、ミガキが施されている。

須恵器無台杯 93 はAⅢ1類、90 はBⅡ3類、91・92 はBⅢ2類である。91 の底部外面には墨書「大」が確認された。有台杯 94 は口縁から底部にかけての資料である。杯蓋 95 は口縁部破片資料である。胎土については 94 がA群、93 がB群、90・91・95 がC群、92 がAもしくはC群である。

壺蓋 96 は口縁から体部にかけての資料で、外面に自然釉が確認された。大甕 97 は外面にカキメ・平行タタキメ a 類、内面にカキメ・同心円当て具痕 a 類が残る。口径が大きく、肩部に丸みを持つことから、浅甕〔北野 1999〕や括れ鉢に分類されるものかもしれない。98 は外面にカキメ・平行タタキメ c 類、内面に同心円当て具痕 a 類が残る。ともに口縁から体部にかけての資料である。胎土については 98 が B 群、96 が C 群、97 が A もしくは C 群である。包含層出土土器の所属時期については、須恵器無台杯 90・94 が IV 期と推定されるが、それ以外は V～VI 期に収まると考えられる。

中世 (図版 197、写真図版 173) 青磁碗 (1606・1607)、中世土師器皿 (1608～1610) を図化した。青磁碗 1606・1607 は口縁部破片である。外面に鎬蓮弁文を施文する。1606 は鎬の幅が広く、内外面にやや厚めの釉が施される。1607 は彫りが浅く釉が厚めなので蓮弁が不明瞭となっている。1606・1607 ともに II b 類で E 期 (XVI～XVII 期、13 世紀前後～13 世紀前半) に相当する。中世土師器皿 1608～1610 はすべて小型の皿で、ロクロ成形底部糸切りである。ともに厚手の作りで、1610 は口縁端部で僅かに内湾する。

## 2) 第 18 次調査 2 区出土土器・陶磁器

### a 遺構出土土器・陶磁器

SE6 (図版 129・197、写真図版 131・173)

土師器無台碗 a (99・100)、中世の青磁碗 (1611) を図化した。

土師器無台碗 a99・100 の底部切り離し技法は糸切りで、100 は回転方向が右であった。時期は VI 期に収まるものとする。

中世の青磁碗 1611 は、II b 類の口縁部資料で外面に鎬蓮弁文を施す。内外面とも釉は厚いが、透明度は低い。時期は E 期 (XVI～XVII 期、13 世紀前後～13 世紀前半) に相当する。

SE11 (図版 129・197、写真図版 131・173)

土師器無台碗 a (101)、黒色土器無台碗 (102)、中世土師器皿 (1612・1613) を図化した。

土師器無台碗 a101 は BII 類である。黒色土器無台碗 102 は外面にケズリ、内面にミガキが施されている。また、底部調整は糸切り後ケズリである。概ね VI 期の範疇に収まる。

中世土師器皿 1612・1613 は、どちらも小型の皿でロクロ成形底部糸切りである。1612 はほぼ完形の資料で底部が厚くハの字に開く短い口縁部を持つ。ロクロから持ち上げるために棒状の工具を差し込んだくぼみが体部に見られた。1613 はやや薄手の作りではあるが、底径が小さく深身の体部を持つ。

SE20 (図版 129・198、写真図版 131・173)

土師器無台碗 a (103)、黒色土器無台碗 (104)、中世土師器皿 (1614～1616) を図化した。

土師器無台碗 a103 は CII 類で、口縁端部が外反する。黒色土器無台碗 104 は外面にケズリ、内面にミガキが施されている。また、底部調整は糸切り後ケズリである。時期は VI 期に収まると推定される。

中世土師器皿 (1614～1616) はいずれもロクロ成形で、厚手の作りである。1614 は小型の皿で口縁端部が僅かに内湾する形態であった。1615・1616 は底部が小さく深身の器形をとる。底部切り離し技法はすべて糸切りであった。

SE89 (図版 198、写真図版 173)

中世土師器皿 (1617) を図化した。手づくね成形の小型の皿で、体部が直線的に立ち上がり口縁端部に面を持つ。

SE98 (図版 198、写真図版 173)

図化した中世の瀬戸・美濃焼瓶子 (1618)、珠洲焼壺 T 種 (1619・1620) の他に、平安時代の土器が出土している。瀬戸・美濃焼瓶子 1618 は底部から体部にかけての資料である。外面は底部まで灰釉が施釉され、一部が被熱により変色している。珠洲焼壺 T 種 1619 と 1620 は同一個体であろう。時期は珠洲 IV3 期である。1619 は SE6・SE106・SD4 と、1620 は SE106 と接合した。



**SE104** (図版 129、写真図版 131)

図化した土師器無台椀 a (105・106)・小甕 (107) の他に、中世土師器皿が出土している。土師器無台椀 a105 は BⅢ類である。106 は B 類としたが、遺存率が低く口径は不明。小甕 107 は B 類である。概ねⅥ期に収まる。

**SE106** (図版 198、写真図版 173)

図化した中世土師器皿 (1621)、珠洲焼片口鉢 (1622・1623) の他に、平安時代の土器が出土している。

中世土師器皿 1621 は手づくね成形で、体部外面に段が形成される。珠洲焼片口鉢 1622 は内面に 1 単位 4 目の卸目を施す。口縁端部の外側は磨耗している。1623 は底部から胴部にかけての資料である。底部は静止糸切りで内面には 1 単位 10 目の卸目が施されている。時期は 1622・1623 とともに珠洲Ⅲ期である。

**SE115** (図版 129、写真図版 131)

土師器無台椀 a (108)、須恵器広口壺 (109) を図化した。土師器無台椀 a108 は CⅡ類である。須恵器広口壺 109 は胎土 D 群のなかでも西古志窯産のものと思われる。概ねⅤ～Ⅵ期と推定される。

**SE122** (図版 129、写真図版 131)

須恵器直口壺 (110) を図化した。胎土 B 群の口縁部資料である。

**SE126** (図版 129・198、写真図版 131・173)

須恵器長頸壺 (111)、中世土師器皿 (1624)、珠洲焼片口鉢 (1625) を図化した。

須恵器長頸壺 111 は、胎土 C 群の口縁部資料である。

中世の土師器皿 1624 はロクロ成形底部糸切りである。小型の皿で厚手に作られており、口縁端部で僅かに内湾する形態となる。珠洲焼片口鉢 1625 は口縁から胴部にかけての資料である。卸目は施されおらず内面は使用により磨耗している。また、外面の一部を研磨具として利用している。時期は珠洲Ⅱ期である。

**SE133** (図版 129・199、写真図版 131・173)

土師器小甕 (112)、須恵器杯蓋 (113)・長頸壺 (114)・大甕 (115)、中世土師器皿 (1626)、珠洲焼壺 T 種 (1627)・片口鉢 (1628・1629) を図化した。

土師器小甕 112 は底部から体部にかけての資料である。体部下半の外面にケズリ調整が確認される。

須恵器杯蓋 113 は胎土 C 群の口縁部資料である。長頸壺 114 は底部資料である。大甕 115 は体部資料で、外面に平行タタキメ a 類、内面に平行当て具痕 d 類が残る。114・115 の胎土は C 群である。

中世土師器皿 1626 はロクロ成形である。薄手の作りで体部が開き味に立ち上がる。色調は灰白色で底部は糸切りである。珠洲焼壺 T 種 (1627) は体部の破片資料である。SE166 と接合した。片口鉢 (1628) は口縁部破片で内面に卸目が施される。(1629) は底部から胴部にかけての資料で内面に 1 単位 14 目の卸目を施す。底部は静止糸切りであった。

**SE144** (図版 129、写真図版 131)

土師器無台椀 a (116)・長甕 (117)、須恵器有台杯 (118)・大甕 (119) を図化した。他に中世の珠洲焼甕・土師器皿が出土している。土師器無台椀 a116 は底部資料である。長甕 117 は B 類とした。

須恵器有台杯 118 は底部から体部にかけての資料で、胎土は C 群とした。大甕 119 は体部資料である。外面に平行タタキメ b 類・ハケメ、内面に同心円当て具痕 b 類・ハケメが残る。胎土は C 群である。時期は概ねⅤ期に収まると考える。

**SE166** (図版 129・199、写真図版 131・174)

土師器無台椀 a (120)、須恵器横瓶 (121)・大甕 (122)、中世の珠洲焼壺 K 種 (1630)・甕 (1631) を図化した。土師器無台椀 a120 は底部資料である。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。

須恵器横瓶 121 は体部資料で、外面に平行タタキメ b 類、内面に同心円当て具痕 a 類が残る。大甕 122 は口縁部資料である。胎土については 121 が B 群、122 が C 群である。

珠洲焼壺 K 種 1630 は体部の破片資料である。外面に櫛状工具による装飾が施される装飾壺である。後述の 1730 と同一個体と推定され、時期は珠洲Ⅲ期である。甕 1631 は口縁部から体部にかけての資料で、SE173 と接合した。頸部は短く、口縁端部は丸く収まる。時期は珠洲Ⅳ2 期である。

**SE173** (図版 129・199、写真図版 131・174)

土師器小甕(123)、須恵器大甕(124)、中世の土師器皿(1632～1634)、珠洲焼片口鉢(1635～1638)を図化した。

土師器小甕 123 は A 類とした。須恵器大甕 124 は胎土 C 群の体部資料である。外面に平行タタキメ c 類、内面に同心円当て具痕 a 類が残る。概ねⅥ期の範疇に収まると考える。

中世土師器皿 1632～1634 はすべてロクロ成形で、底径が大きく薄手の作りである。このうち 1632 は小型の皿である。いずれも体部が丸みを帯びるが、底部からの立ち上がりは急である。1632・1633 は底部糸切りで、1634 は体部下半にロクロケズリを施している。

珠洲焼片口鉢 1635 は胴部の破片資料である。内面に 1 単位 10 目の卸目を施す。時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ期である。1636 は口縁から胴部にかけての資料で内面に 1 単位 7 目の卸目を施す。口縁端部内面は磨耗している。時期は珠洲Ⅳ1 期である。1637 は底部資料で内面に 1 単位 9 目の卸目を施す。卸目は特に底部で磨滅が著しい。外底部は静止糸切りで時期は珠洲Ⅳ期である。1638 は口縁部資料で焼成が酸化気味である。内面に卸目は見られず、時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ期と考える。

**SK8** (図版 130、写真図版 131)

土師器無台碗 a (125・126)・小甕(127)、須恵器有台杯(128)を図化した。土師器無台碗 a125 は AⅢ類、126 は CⅡ類とした。ともに口縁から体部にかけての資料である。小甕 127 は A 類である。

須恵器有台杯 128 は口縁から体部にかけての資料で、胎土は B 群である。概ねⅥ期に収まるであろう。

**SK9** (図版 130、写真図版 131)

図化した土師器無台碗 a (129・132)・無台碗 b (130・131)・小甕(133)の他に中世の土師器皿が出土している。土師器無台碗 a129 は AⅢ類である。132 の底部切り離し調整は糸切りで、回転方向は右である。さらに底部外面にはヘラ記号「/」が認められる。無台碗 b131 は AⅡ類、130 は CⅡ類である。ともに口縁から体部にかけての資料で、内面にミガキが施されている。小甕 133 は底部から体部にかけての資料である。Ⅵ期に収まるものと推定される。

**SK12a・b** (図版 130、写真図版 131・132)

図化した土師器無台碗 a (134～143)・無台碗 b (144)の他に、中世の珠洲焼甕 1 点と土師器皿の小片 2 点が出土しているが、いずれも図化できない小片である。土師器無台碗 a134・135 は AⅡ2 類、137 は BⅡ2 類、136 は BⅡ3 類、143 は CⅡ1 類、139 は CⅡ2 類、138・140～142 は CⅡ3 類に分類される。底部切り離し技法はいずれも糸切り、回転方向は右である。無台碗 b144 は底部資料で、外面にケズリ、内面にミガキが観察される。底部調整は、糸切り後ケズリを施す。薄手で丁寧な造りのものが多い。概ねⅥ2・3 期に比定されたと考える。

**SK56** (図版 130、写真図版 132)

土師器仏鉢(145)を図化した。口縁から体部下半にかけての資料で、SE11 と接合関係にある。他に中世土師器皿の破片 1 点が出土している。

**SK94** (図版 130、写真図版 132)

須恵器杯蓋(146)を図化した。ボタン状のつまみの中央部分がやや盛り上がる。胎土は C 群で、外面にケズリ、内面には硯に転用したとみられる痕跡が残る。Ⅲ・Ⅳ期まで遡る可能性がある。

**SK113** (図版 131・199、写真図版 132・174)

土師器無台碗 a (147)、須恵器高杯(149)、中世の珠洲焼片口鉢(1639)を図化した。

土師器無台碗 a147 は BⅢ類である。須恵器 149 は高杯の脚部であるが、遺存率が低く底径は不明。胎土は

B群である。

中世の珠洲焼片口鉢（1639）は、やや小型で内面に卸目は施されない。

**SK119**（図版 131、写真図版 132）

黒色土器無台椀（150・151）、須恵器無台杯（152）を図化した。黒色土器無台椀 150 は C 類としたが、遺存率が低く口径は不明。内面にミガキが施される。151 は外面・内面ともにミガキが確認され、底部調整は糸切り後ミガキである。須恵器無台杯 152 は底部から体部にかけての資料で、胎土は B 群である。時期は概ね VI 期に収まる。

**SK131**（図版 131・200、写真図版 132・174）

黒色土器無台椀（153）、中世の青磁椀（1640）、土師器皿（1641）を図化した。

黒色土器無台椀 153 は BIII 類で、内面にミガキが確認される。

青磁椀 1640 は小型の椀である。施文はされない。釉の透明度は胎土が見える程度である。小椀 I 1a 類で D 期（XIV～XV 期、12 世紀中頃～12 世紀後半）に相当する。中世土師器皿 1641 はロク口成形の小皿である。灰白色を呈し体部はハの字に伸びる。僅かに残る底部で糸切りを確認した。

**SX23**（図版 131、写真図版 127・132）

土師器無台椀 a（154～156）・長甕（157・158）・小甕（159）・仏鉢（160）・鉢（161）、黒色土器無台椀（162～164）、須恵器無台杯（165）を図化した。他に中世の珠洲焼甕・土師器皿が出土している。

土師器無台椀 a154 は AII 2 類、155 は BII 2 類、156 は CIII 類に分類される。155 については口縁にやや磨耗がみられる。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。長甕 158 は B 類、157 は C 類に分類される。ともに口縁から体部にかけての資料で、157 は SD41 と、158 は SD17 と接合関係にある。小甕 159 は A 類とした。仏鉢 160 は口縁部資料、鉢 161 は底部資料である。

黒色土器無台椀 162 は AIV 類、163 は AIV3 類である。ともに外面にはミガキ・ケズリ、内面にはミガキが施される。163 と底部資料である 164 の底部調整は糸切り後ケズリである。さらに 163 は SD17・36 と接合関係にある。須恵器無台杯 165 は BIII 類で、胎土は C 群に分類される。須恵器無台杯 165 がやや古相を示すが、概ね VI2・3 期に比定されたと考える。

**SX135**（図版 131・200、写真図版 132・174）

土師器無台椀 a（166）、須恵器無台杯（167～169）・有台杯（170）・長頸壺（171・172）・大甕（173）中世の瀬戸・美濃焼瓶子（1642）を図化した。

土師器無台椀 a166 は BII 類である。須恵器無台杯 167 は AII 類、169 は BIII 類、168 は BIII2 類に分類される。有台杯 170 は口縁から体部にかけての資料である。胎土については 169 が B 群、167・168・170 が C 群である。

長頸壺 171 は口縁部資料、172 は底部資料である。172 は SE166 と接合関係にある。大甕 173 は外面に平行タタキメ a 類、内面に平行当て具痕 a 類が残る体部資料である。体部外面に砥石として転用された形跡が伺える。171～173 の胎土はいずれも C 群である。概ね V 期の範疇に収まると考える。

中世の瀬戸・美濃焼瓶子（1642）は体部の破片資料で肩部に沈線が巡る。外面の灰釉はほとんど剥落している。

**SX151**（図版 131、写真図版 132）

土師器長甕（174）・仏鉢（175）を図化した。土師器長甕 174 は C 類である。仏鉢 175 は底部資料である。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。

**SD1**（図版 132、写真図版 132・133）

土師器無台椀 a（176～179）・有台皿（180）・鍋（181・182）、須恵器無台杯（183）・有台椀（184）を図化した。他に中世土師器皿の破片が 3 点出土している。

土師器無台椀 a176 は AI 類、177 は BII1 類、178 は CII 類に分類される。179 は底部資料で、切り離し調整は糸切り、回転方向は右である。有台皿 180 は口縁から体部にかけての資料である。鍋 181・182 はとも

にB類である。181はSD17と接合関係にある。182は外面にススが付着している。

須恵器無台杯183はBⅡ2類で、胎土はB群である。底部切り離しはヘラ切り、回転方向は左である。有台碗184は底部資料である。183・184の胎土はB群である。183はV期、184はVI期に比定されたと考える。

SD2 (図版132、写真図版133)

土師器無台碗a(185・186)・長甕(187)・仏鉢(188)、黒色土器無台碗(189)を図化した。他に中世土師器皿の破片が3点出土している。

土師器無台碗a185はBⅠ類、186はCⅡ類に分類される。ともに口縁から体部にかけての資料である。

長甕187は外面に平行タタキメa類、内面に平行当て具痕d類が残る体部破片資料である。仏鉢188は口縁部資料である。黒色土器無台碗189はCⅣ類である。内面にミガキが観察される。

SD3 (図版132・200、写真図版133・174)

土師器無台碗a(190)、中世の珠洲焼片口鉢(1643)を図化した。

土師器無台碗a190は、底部資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。

中世の珠洲焼片口鉢(1643)は内面に1単位7目の卸目を施す。卸目は摩滅している。時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ1期である。

SD4 (図版132・200・201、写真図版133・174・175)

無台碗a(192～194)・土師器無台碗b(191)・有台皿(195)・長甕(196)・小甕(197)、黒色土器無台碗(198)、須恵器無台杯(199)・長頸壺(200～202)・横瓶(203・204)、中世の青磁碗(1644・1645)、土師器皿(1646～1661)、瀬戸・美濃焼瓶子(1662)、珠洲焼壺R種(1663～1665)・甕(1666・1667)を図化した。

無台碗a192はAⅡ1類、193はBⅡ類、194は底部資料である。192の底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。土師器無台碗b191はAⅠ3類である。体部と底部の外面にケズリが施される。底径が大きく、須恵器無台杯に類似している。有台皿195は底部資料である。長甕196はC類である。内外面ともにススが付着している。小甕197は底部資料である。外面にケズリが確認される。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。黒色土器無台碗198は口縁部形態からB類とした。

須恵器無台杯199はAⅢ類で、胎土はC群である。長頸壺200は口縁部を欠損した頸部である。201は底部資料で、外面にはケズリの痕跡が残る。202も底部資料であるが外面にはナデが観察され、さらに底部はヘラ切り後ケズリ調整されている。またSE166、SK131、SD105から同一個体とみられる遺物が出土している。

横瓶203は口縁から頸部にかけての資料である。外面に平行タタキメa類、内面に同心円当て具痕a類が施され、SE173と接合関係にある。204は外面にカキメ・平行タタキメa類、内面に同心円当て具痕c類が施された体部資料である。閉塞部は現存していない。胎土については200・201・203がB群、202・204がC群である。時期は概ねV期の範疇に収まると考える。

青磁碗1644は内面に劃花文が施文される。釉の透明度は高く、貫入が多い。I2類に分類される。1645は内面に劃花文、外面には蓮弁文と櫛描文を描く。I6a類で1644・1645ともにD期(XⅣ～XⅤ期、12世紀中頃～後半)に相当する。

中世土師器皿1646～1660はロクロ成形で、底部切り離し技法は糸切りである。このうち1646～1648・1650・1651は小型の皿であった。1646・1647は柱状高台状の厚い底部から体部がハの字に開く。1648は全体的に厚手の作りである。1649は底部が小さく、深身の体部を持つ形態であろう。1648と1649は胎土や調整などで類似点が多く見られた。1650・1651は薄手の作りで体部の立ち上がり之急である。1652～1660は体部下半にロクロケズリを施し体部に丸みを出している。1661は手づくね成形で口縁部外面はヨコナデ、体部下半から底部にかけてナデを施し、口縁端部は丸く収まる。

瀬戸・美濃焼瓶子1662は体部の破片資料で外面の灰釉は剥落している。珠洲焼壺R種1663は口縁から体部にかけての資料で、口縁端部はやや肥厚するが丸く収まる。1664・1665は壺R種の底部資料でどちらも底



部糸切り後ナデを施している。1666 は甕の体部破片で外面に印花文を押印している。時期は珠洲Ⅳ期である。1667 は甕の口縁部資料で、口頸部がやや伸びる形態から時期は珠洲Ⅱ期とした。

#### SD5 (図版 133、写真図版 133)

図化した須恵器杯蓋(205)の他に、中世土師器皿の破片 5 点が出土している。須恵器杯蓋 205 の胎土は B 群で、ボタン状のつまみを持つ。SD4 と接合関係にあり、Ⅵ期に比定される。

#### SD7 (図版 133、写真図版 133)

土師器無台碗 a (206) を図化した。CⅢ類に分類した。他に中世の瀬戸・美濃瓶子片 1 点、中世土師器皿の破片 18 点が出土している。

#### SD17 (図版 133、写真図版 133)

図化した土師器無台碗 a (207～209)・長甕 (210・211)・小甕 (212)、黒色土器無台碗 (213)、須恵器無台杯 (214・215)・大甕 (216) の他に中世の珠洲焼甕の破片 1 点、土師器皿の破片 3 点が出土している。

土師器無台碗 a207 は BⅡ類である。208・209 は底部資料である。ともに切り離し技法は糸切り、208 の回転方向は右である。長甕 210 は B 類とした。遺存率が低く口径は不明である。外面に炭化物が確認された。211 は外面に平行タタキメ c 類、内面に同心円当て具痕 a 類が施された体部資料である。小甕 212 は底部から体部にかけての資料である。黒色土器無台碗 213 は AⅢ類である。

須恵器無台杯 215 は BⅠ類、214 は BⅡ類に分類される。ともに胎土は B 群である。大甕 216 は胎土 C 群の体部資料である。外面に平行タタキメ b 類、内面に平行当て具痕 d 類・同心円当て具痕 a 類が残る。概ねⅥ期に収まる。

#### SD21 (図版 201、写真図版 175)

青磁碗 (1668) を図化した。口縁部資料で内外面無文である。内外面とも透明度の高い釉で、気泡が生じている。Ⅰ1a 類で D 期 (XⅣ～XⅤ期、12 世紀中頃～後半) に相当する。

#### SD33 (図版 133、写真図版 133)

土師器無台碗 a (217)、黒色土器無台碗 (218) を図化した。土師器無台碗 a217 は BⅡ類である。黒色土器無台碗 218 は BⅣ類である。外面・内面ともにミガキが施される。

#### SD35 (図版 133・201、写真図版 133・175)

土師器無台碗 a (219・220)、須恵器杯蓋 (221)、中世の土師器皿 (1669)、北越窯産陶器片口鉢 (1670) を図化した。

土師器無台碗 a219 は BⅠ類、220 は BⅡ類に分類される。ともに口縁から体部にかけての資料である。須恵器杯蓋 221 は口縁から体部にかけての資料で、胎土は C 群である。つまみ部分は残存していない。杯蓋 221 はⅣ期に比定され则认为する。

中世土師器皿 1669 はロク口成形底部糸切りで厚手の器壁を持つ。色調は橙色系である。北越窯産陶器片口鉢 1670 は口縁部破片であら。狼沢窯段階と見られるが、胎土が粗いため狼沢窯産ではないと推定される。珠洲Ⅱ期に並行する時期であるとする。

#### SD36 (図版 133・201、写真図版 133・175)

土師器無台碗 a (222～224)・有台杯 (225)・長甕 (226・227)・小甕 (228～230)・仏鉢 (231)、黒色土器無台碗 (232・233)、須恵器無台杯 (234・235)・有台杯 (236)・杯蓋 (237・238)・横瓶 (239)・大甕 (240)、中世の青磁碗 (1671)、土師器皿 (1672・1673) を図化した。

土師器無台碗 a222 は CⅡ類、223・224 は底部資料である。有台杯 225 は底部資料で赤彩が施されており、Ⅲ期に比定され则认为する。長甕 226・227 は B 類である。ともに遺存率が低く、口径は不明である。小甕 228 は A 類である。229・230 はともに底部資料で、切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。仏鉢 231 は遺存率が低く、口径は不明である。黒色土器無台碗 232 は AⅢ類、233 は BⅢ類である。233 の外面・内面

にはミガキが施されている。

須恵器無台杯 234 は BⅡ類、235 は底部資料である。有台杯 236 は SD4 と接合関係にある。外面に火ダスキの痕跡が確認された。杯蓋 237・238 はともに口縁部資料で、238 については SD3 と接合関係にある。234～238 の胎土はいずれも C 群である。横瓶 239 は外面に平行タタキメ b 類、内面に同心円当て具痕 a 類が残る体部資料である。大甕 240 は外面にカキメ・平行タタキメ b 類、内面に同心円当て具痕 b 類が残る体部資料である。

胎土については 239 が B 群、240 が C 群である。225 以外は概ね V 期の範疇に収まると考えられる。

中世の青磁椀 1671 は口縁部資料で外面に蓮弁文を施文する。内外面にやや白濁した釉がかかり、貫入が入る。Ⅱa 類で E 期(XVI～XVII期、13世紀前後～前半)に相当する。中世土師器皿 1672・1673 はいずれも小型の皿である。1672 はロクロ成形底部糸切りで底部を厚く成形している。1673 は手づくね成形の小型の皿である。やや厚手の作りで体部に段を持つ。

**SD41** (図版 133、写真図版 133)

須恵器大甕 (241) を図化した。外面に平行タタキメ a 類、内面に平行当て具痕 c 類が残る体部破片資料である。胎土は B 群とした。他に中世土師器皿の破片 2 点が出土している。

**SD52** (図版 134、写真図版 133)

土師器無台椀 a (242) を図化した。CⅡ1 類に分類した。概ね VI 期の範疇に収まる。他に中世土師器皿の破片 3 点が出土している。

**SD70** (図版 134、写真図版 133)

土師器長甕 (243) を図化した。遺存率が低く口径は不明だが、C 類に分類した。外面・内面ともにカキメが残る。

**SD105** (図版 134・201、写真図版 133・175)

土師器小甕 (244)、黒色土器無台椀 (245)、中世土師器皿 (1674) を図化した。

土師器小甕 244 は B 類とした。黒色土器無台椀 245 は B 類である。遺存率が低く口径は不明だが、外面・内面ともにミガキが観察される。

中世土師器皿 (1674) は、ロクロ成形底部糸切りで底部が小さく厚手の作りとなる。

**SD138** (図版 201、写真図版 175)

瀬戸・美濃焼瓶子 (1675) を図化した。体部の破片資料で 2 箇所沈線が巡る。外面に灰釉が施釉され内面には絞り痕が確認できる。他に平安時代の土師器無台椀・小甕の破片が出土している。

**SD139** (図版 134、写真図版 133)

土師器小甕 (246) を図化した。底部資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。

**SD160** (図版 134、写真図版 133)

図化した土師器無台椀 a (247・248)・長甕 (249) の他に、中世土師器皿の破片 1 点が出土している。土師器無台椀 a247 は AⅢ類、248 は内面にミガキが残る底部資料である。長甕 249 は C 類である。内面・外面に炭化物が付着している。長甕 249 はⅢ期まで遡ると推定されるが、無台椀は VI 期に収まる。

**Pit24** (図版 201、写真図版 175)

中世土師器皿 (1676) を図化した。小型の皿で手づくね成形されている。やや厚手の作りで体部と底部の境に稜を形成する。

**Pit77** (図版 134、写真図版 134)

土師器無台椀 a (250) を図化した。底部資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。

**Pit78** (図版 201、写真図版 175)

中世土師器皿 (1677) を図化した。小型の皿でロクロ成形底部糸切りである。全体的に厚手の作りとなる。

**Pit84** (図版 134・201、写真図版 134・175)

土師器有台皿 (251)、中世の青磁碗 (1678) を図化した。土師器有台皿 251 は口縁から体部にかけての資料である。

中世の青磁碗 1678 は、内面に劃花文が施文される。釉は透明度が高く、貫入が入る。I 2 類で D 期 (XIV~XV 期、12 世紀中頃~後半) に相当する。

**Pit127** (図版 134、写真図版 134)

土師器無台碗 a (252) を図化した。B II 類に分類した。

**Pit140** (図版 134、写真図版 134)

土師器無台碗 a (253) を図化した。A II 類である。

**Pit142** (図版 134、写真図版 134)

土師器無台碗 a (254) を図化した。A II 類に分類した。

**Pit146** (図版 134、写真図版 134)

土師器無台碗 a (255)、黒色土器有台皿 (256) を図化した。土師器無台碗 a255 は A II 類である。黒色土器有台皿 256 は外面・内面ともにミガキ調整され、底部には糸切り後ケズリが施されている。時期は VI~VII 期の範疇と推定される。

**Pit171** (図版 134、写真図版 134)

須恵器無台杯 (257) を図化した。B II 類に分類し、胎土は C 群である。V 期に収まる。

**河 16** (図版 134・201、写真図版 134・175)

土師器無台碗 a (258~261)・長甕 (262)、黒色土器無台碗 (263)、須恵器無台杯 (264~266)・有台杯 (267)・小壺 (268)・長頸壺 (269)・広口壺 (270)・大甕 (271)、中世の珠洲焼片口鉢 (1679・1680) を図化した。

土師器無台碗 a258 は B I 3 類、259 は B II 類、260 は C II 類、261 は C III 類に分類される。長甕 262 は B 類である。黒色土器無台碗 263 は底部から体部にかけての資料である。外面はミガキ・ケズリ、内面はミガキが施され、底部は糸切り後ミガキ調整されている。

須恵器無台杯 265 は B II 類、264 は B II 1 類、266 は B III 類である。有台杯 267 は口縁から体部にかけての資料である。胎土については 264~266 が B 群、267 は C 群である。小壺 268 は SD41 と接合関係にある。長頸壺 269・広口壺 270 は遺存率の低い口縁部資料である。大甕 271 は外面に平行タタキメ b 類、内面に同心円当て具痕 a 類が残る体部破片資料である。268~271 の胎土はいずれも C 群である。須恵器無台杯はやや古相を示すが、全体の時期は概ね VI 期に収まるだろう。

中世の珠洲焼片口鉢 1679・1680 は、いずれも底部が静止糸切りである。1679 は内面に 1 単位 10 目の卸目を施すが使用により磨滅が著しい。時期は珠洲 IV 期である。1680 も内面の卸目の磨滅が著しい。また、焼成が酸化気味で軟質である。

**b 包含層出土土器・陶磁器** (図版 134~137・201・202、写真図版 125・134・135・175)

**古 代** (図版 134~137、写真図版 125・134・135) 土師器無台碗 a (272~279)・蓋 (280)・小甕 (281・282)・鍋 (283~288)・仏鉢 (289・290)、黒色土器無台碗 (291~294)、緑釉陶器香炉 (295)、須恵器無台杯 (296~299)・有台杯 (300)・杯蓋 (301~303)・長頸壺 (304~306) を図化した。

土師器無台碗 a272 は A I 3 類、273 は A II 2 類、275・276 は B II 1 類、274 は B III 2 類、278 は C II 1 類、277 は C II 2 類、279 は C III 2 類に分類される。底部切り離し技法はすべて糸切りで、底部の遺存率が高い 273・274・276・278・279 については、回転方向も右と判明した。蓋 280 は赤彩が施されている。口縁端部とつまみ部分は残存していない。仏具関連の遺物と推定され、香炉の蓋に類似品が見られる。

小甕 281 は C 類とした。外面にハケメ、内面にヘラケズリ・ハケメが認められる。282 は底部から体部にかけての資料で、外面にヘラナデ、内面に指頭圧痕・ヘラナデが残る。281・282 は同一個体の可能性も考えられる。

時期は8世紀代まで遡ると考える。鍋283～286・288はB類、287はC類とした。283～285・287はカキメ調整が目立つ。288は外面・内面ともにヘラケズリが施される。底部には三足の脚が付くことから、仏教関係の遺物の可能性がある。仏鉢289・290はともに口縁から体部下半にかけての資料である。289の外面にはヘラケズリの痕跡が残る。

黒色土器無台椀291はBⅢ類、292はCⅣ類である。外面・内面の調整はミガキが確認される。293・294は底部資料で、ともに外面はケズリ、内面はミガキが施され、底部調整は糸切り後ケズリもしくはミガキである。

緑釉陶器香炉295は、体部上端に沈線が巡り、脚部に透かしが入る。口縁部は内傾し立ち上がりは弱い。猿投窯産で9世紀後半頃の年代が想定される。

須恵器無台杯296はAⅡ類、298はBⅢ類、299はBⅢ1類、297はBⅢ2類に分類される。有台杯300は底部資料である。杯蓋301～303はいずれも口縁から体部にかけての資料で、つまみ部分は残存していない。胎土については299・300がB群、296～298・301～303がC群である。長頸壺304は口縁部、305は肩部、306は底部資料である。胎土はいずれもC群である。所属時期はいくつかの例外はあるものの、概ねV～VI期に収まるものと思われる。

中世(図版201・202、写真図版175) 土師器皿(1681～1684)、瀬戸・美濃焼瓶子(1685・1686)、珠洲焼壺T種(1687～1689)・甕(1690～1692)・片口鉢(1693～1696)を図化した。

中世土師器皿1681～1684はすべてロクロ成形で1681～1683は小型の皿である。1682～1684では底部に糸切りを確認した。1681には内外面に油煙とタールが付着しており、灯明皿として使用されたと考える。1682はやや厚手の底部から体部が開き気味に立ち上がり、口縁端部で僅かに内湾する。1683・1684は底部の破片資料で、1683は薄手、1684は厚手の作りとなる。瀬戸・美濃焼瓶子1685と1686は同一個体であると思われるが、共に破片資料で接合箇所は確認できなかった。外面に灰釉が施釉されているが、剥落が著しい。

珠洲焼壺T種1687～1689はいずれも口縁部資料である。やや直線的に立ち上がり、口縁端部は肥厚する。時期は珠洲Ⅳ期と考える。甕1690・1691は体部の破片資料である。1692は口縁部破片で、口頸部は短く端部は丸く収まる。片口鉢1693・1695は口縁部から体部にかけての資料である。1693は破片資料のため内面に卸目は確認できなかったが、口縁部形態から珠洲Ⅳ2期に相当する。1695は内面に1単位9目の卸目を施している。時期は珠洲Ⅳ1～Ⅳ2期と考える。1694・1696は底部資料である。1694は内面に1単位13目の卸目を施しているが、使用により磨耗している。時期は珠洲Ⅳ2期である。1696は内面に明確な卸目はなく、底部は静止糸切り後ケズリを施す。

### 3) 第18次調査3区出土土器・陶磁器

#### a 遺構出土土器・陶磁器

SE7(図版138、写真図版135)

黒色土器無台椀(309)を図化した。BⅢ類である。内面にミガキが確認された。時期はVI期に収まると考える。

SE14(図版138、写真図版135)

土師器無台椀a(310)を図化した。底部資料だが、全体に剥離が著しい。

SE16(図版138、写真図版135)

土師器無台椀b(311)・小甕(312)を図化した。他に中世の珠洲焼壺T種の破片1点が出土している。土師器無台椀b311は外面にケズリ、内面にミガキが施された底部資料で、糸切り後削られる。小甕312も底部資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は左である。概ねV期の範疇に収まるものと推定される。

SE21(図版138、写真図版135)

土師器無台椀a(313)、黒色土器無台椀(314)を図化した。他に中世の珠洲焼壺T種の破片1点が出土している。土師器無台椀a313はBⅡ類である。黒色土器無台椀314はCⅢ類とした。内外面ともに黒色処理され、内面にはミガキが観察された。概ねVI期に収まると考える。



## SE47 (図版 138・202、写真図版 135・175)

土師器無台椀 b (315)、須恵器大甕 (316・317)、中世の青磁椀 (1697) を図化した。

土師器無台椀 b315 は外面にケズリ、内面にミガキ、底部は糸切り後ミガキ調整されている。

須恵器大甕 316・317 はどちらも体部資料である。外面はともに平行タタキメ a 類が残るが、内面には 316 がハケメ、317 が平行当て具痕 a 類・同心円当て具痕 c 類が使用されている。317 は砥石として転用されたと考えられる使用痕が外面に見られた。胎土については 317 が B 群、316 が C 群である。

中世の青磁椀 (1697) は口縁部端部の破片資料で外面に鎬蓮弁文を有する。透明度のある釉で、気泡が生じている。II b 類で E 期 (XVI~XVII 期、13 世紀前後~前半) に相当する。

## SE55 (図版 138、写真図版 135)

土師器無台椀 a (318)・長甕 (319)・仏鉢 (320・321)、須恵器長頸壺 (322)・大甕 (323) を図化した。土師器無台椀 a318 は BII 類である。長甕 319 は C 類である。仏鉢 320・321 はともに遺存率の低い口縁部資料で、321 については口径不明である。

須恵器長頸壺 322 は体部資料である。やや小ぶりの個体とみられ、胴部に沈線が巡っている。大甕 323 は口縁部資料である。胎土については 323 が A 群、322 が C 群である。概ね VI 期の範疇に収まるものと思われる。

## SE67 (図版 138、写真図版 135)

土師器無台椀 a (324・325)、須恵器無台杯 (326)・杯蓋 (327) を図化した。土師器無台椀 a324 は AII 2 類、325 は CII 2 類である。ともに底部切り離しは糸切りで、回転方向は右である。

須恵器無台杯 326 は底部資料で、切り離し技法はヘラ切り、回転方向は右である。杯蓋 327 は口縁部資料である。326・327 の胎土は C 群である。時期は VI 1 期に比定されると考える。

## SE72 (図版 138・202、写真図版 135・175)

土師器無台椀 a (328)・有台皿 (329)、中世の珠洲焼甕 (1698) を図化した。

土師器無台椀 a328 は B I 類である。有台皿 329 は口縁から体部にかけての資料である。

中世の珠洲焼甕 (1698) は、口縁部から体部にかけての資料である。頸部は短く、口縁端部に面を持つ。珠洲 V 期に相当すると考える。また、後述する 1720 (包含層出土) と同一個体の可能性がある。

## SE74 (図版 138、写真図版 135)

図化した土師器無台椀 a (330)・小甕 (331・332)、須恵器無台杯 (333) の他に、中世の珠洲焼片口鉢の破片が 1 点出土している。土師器無台椀 a330 は底部資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。小甕 331・332 は B 類である。

須恵器無台杯 333 は B 類とした。遺存率が低く口径は不明だが、胎土は B 群である。概ね VI 期の範疇に収まると考える。

## SE77 (図版 138、写真図版 135)

黒色土器無台椀 (334) を図化した。遺存率が低く口径は不明だが、C 類とした。内面にはミガキが観察される。

## SE83 (図版 139、写真図版 135)

土師器無台椀 a (335) を図化した。他に珠洲焼壺 T 種が出土している。BIII 類に分類した。

## SE100 (図版 139、写真図版 135・136)

図化した土師器無台椀 a (336・338)、須恵器無台杯 (337) の他に、中世の青磁椀・珠洲焼甕の破片が各 1 点出土している。土師器無台椀 a336 は C I 類、338 は底部資料である。須恵器無台杯 337 は AII 類で、胎土は B 群である。概ね VI 期に収まるものと思われる。

## SE102 (図版 139、写真図版 136)

土師器無台椀 a (339) を図化した。底部資料である。

SE104 (図版 139、写真図版 136)

土師器無台椀 a (340)・仏鉢 (341)・長甕 (342)、黒色土器無台椀 (343)、須恵器無台杯 (344・345) を図化した。  
土師器無台椀 a340 は AⅡ2 類である。仏鉢 341 は口縁から体部にかけての資料である。長甕 342 は B 類である。黒色土器無台椀 343 は CIV 類である。

須恵器無台杯 344 は A 類である。345 はヘラ切り、左回転の底部資料で、胎土はともに B 群である。345 は V 期に比定されるが、全体としては V～VI 期の範疇に収まるものと推定される。

SE112 (図版 139、写真図版 136)

土師器無台椀 a (346)・長甕 (347)・鍋 (348)、黒色土器無台椀 (349・350) を図化した。土師器無台椀 a346 は B 類である。遺存率が低く、口径は不明。長甕 347 は外面に平行タタキメ b 類、内面に同心円当て具痕 a 類が残る体部資料である。鍋 348 は外面に平行タタキメ c 類、内面に平行当て具痕 a 類が残る。347・348 ともに体部資料である。

黒色土器無台椀 349 は底部資料である。外面にケズリ、内面にミガキが施され、底部調整は糸切り後ケズリである。350 は BIV 類とした。内面にミガキが観察される。VI 期に収まると考える。

SE113 (図版 139、写真図版 136)

土師器無台椀 a (351)、須恵器無台杯 (352) を図化した。土師器無台椀 a351 は BⅢ類である。須恵器無台杯 352 は BⅢ類で、胎土は C 群である。他に中世の青磁椀の破片 1 点が出土している。

SE114 (図版 139・202、写真図版 136・175・176)

土師器小甕 (353)、須恵器長頸壺 (354)、中世の土師器皿 (1700)、北越窯産陶器壺 (1701) を図化した。  
土師器小甕 353 は B 類である。須恵器長頸壺 354 はやや小ぶりな口縁部資料である。胎土は C 群とした。  
中世土師器皿 1700 はロクロ成形で小型の皿である。底部はヘラ切りで、色調は灰白色であった。北越窯産陶器壺 1701 は口縁端部の破片資料である。北沢窯産と推定され、珠洲Ⅱ期に並行する。

SE115 (図版 139、写真図版 136)

図化した土師器鍋 (355)、須恵器無台杯 (356) の他に、中世の珠洲焼水注の破片が 1 点出土している。土師器鍋 355 は B 類で、外面にススが付着している。須恵器無台杯 356 は BⅡ2 類で、胎土は B 群である。時期は概ね V～VI 期の範疇と推定される。

SE138 (図版 139・202、写真図版 136・176)

須恵器無台杯 (357)、中世の珠洲焼甕 (1702) を図化した。  
須恵器無台杯 357 は BⅡ1 類で、胎土は B 群である。SE104 と接合関係にある。VI 1 期に比定される。  
中世の珠洲焼甕 (1702) は頸部の破片資料で内外面の剥離が著しい。

SE228 (図版 139、写真図版 136)

土師器無台椀 a (358)・小甕 (359)、須恵器無台杯 (360) を図化した。土師器無台椀 a358 と小甕 359 はともに底部から体部にかけての資料である。須恵器無台杯 360 は BⅡ類で、胎土は B 群である。概ね VI 期に収まる。

SE308 (図版 202、写真図版 175)

中世土師器皿 (1699) を図化した。ロクロ成形底部ヘラ切りで体部は開き気味に立ち上がる。焼成が良好で灰白色を呈する。

SE321 (図版 139、写真図版 136)

須恵器杯蓋 (362) を図化した。胎土 C 群の口縁部資料である。つまみ部分は残存していない。

SE332 (図版 139・140、写真図版 136)

図化した土師器無台椀 a (363・364)・長甕 (365・366)・鍋 (367) の他に、中世の珠洲焼甕の破片 1 点が出土している。土師器無台椀 a363 は AⅡ類、364 は BⅢ類で、ともに口縁から体部にかけての資料である。長甕 365・366 はともに外面に平行タタキメ a 類、内面に同心円当て具痕 c 類がみられた。365・366 は同一個体

であるとも考えられたが、接点が見当たらず別々に図化した。鍋 367 は A 類とした。概ね VI 期に収まるものとする。

**SE366** (図版 140、写真図版 136)

土師器無台椀 a (368～373)・小甕 (374)・長甕 (375)、黒色土器無台椀 (376・377)、須恵器無台杯 (378・379) を図化した。

土師器無台椀 a369～371 は AⅠ3 類、368 は AⅡ類、373 は AⅢ類に分類される。369～371 の底部切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。372 は底部から体部にかけての資料である。小甕 374・長甕 375 は B 類で、374 の内面には炭化物が付着している。

黒色土器無台椀 377 は AⅡ3 類、376 は B 類である。376 は遺存率が低く、口径は不明である。ともに器面にはミガキ調整が確認される。須恵器無台杯 378 は AⅡ類、379 は AⅢ類で、胎土はともに B 群である。時期は VII・2 期に比定されようとする。

**SK8** (図版 140、写真図版 136)

土師器無台椀 a (380・381) を図化した。土師器無台椀 a380 は CⅢ類である。381 は底部から体部にかけての資料である。VI 期に収まる。

**SK9** (図版 140、写真図版 136)

土師器無台椀 a (382) を図化した。底部資料で、切り離しが糸切り、回転方向は右であった。

**SK18** (図版 140、写真図版 136)

土師器無台椀 a (383・384) を図化した。土師器無台椀 a383 は BⅡ類、384 は CⅢ類である。ともに口縁部資料であるが、384 については全体に磨耗がみられる。概ね VI 期の範疇に収まるものとする。

**SK33** (図版 140、写真図版 136)

図化した土師器無台椀 a (385) の他に、中世の北越窯須恵器系甕の破片 1 点出土している。土師器無台椀 a385 は B 類としたが遺存率が低く口径は不明である。

**SK46** (図版 140、写真図版 136)

土師器小甕 (386) を図化した。A 類に分類した。口縁から体部にかけての資料である。

**SK89** (図版 140、写真図版 136)

土師器無台椀 a (388)・無台椀 b (387) を図化した。土師器無台椀 a388 は底部切り離しが糸切り、回転方向は左である。無台椀 b387 は B 類である。外面にミガキが確認できるが、遺存率が低く口径は不明である。

**SK118** (図版 140、写真図版 127)

土師器長甕 (389) を図化した。B 類に分類した。外面にカキメ・ヘラケズリ、内面にカキメが残る。また、外面にはススが付着している。

**SK139** (図版 140・141、写真図版 136)

土師器無台椀 a (390)・小甕 (391・393)・長甕 (392)、黒色土器無台椀 (394)、須恵器無台杯 (395・396)・杯蓋 (397)・大甕 (398) を図化した。

土師器無台椀 a390 は BⅡ類である。小甕 391 は B 類である。393 は底部から体部にかけての資料で、全体に磨耗している。長甕 392 は B 類である。黒色土器無台椀 394 は BⅢ類である。内面にミガキ調整が施されている。

須恵器無台杯 396 は BⅡ類、395 は BⅡ1 類である。395 の底部切り離しはヘラ切り、回転方向は左である。杯蓋 397 は口縁から体部にかけての資料である。395～397 の胎土はいずれも B 群である。大甕 398 は外面に平行タタキメ a 類、内面に同心円当て具痕 c 類が残る体部破片資料である。胎土は C 群である。時期は VII 期に比定されようとする。

SK176 (図版 141、写真図版 136)

土師器無台碗 a (399) を図化した。B I 類に分類した。

SK191 (図版 141・142、写真図版 127・136・137)

土師器無台碗 a (400・401)・無台碗 b (402)・長甕 (403～407)・小甕 (408～410)・鍋 (411)・仏鉢 (412・413)、黒色土器無台碗 (414・415)、須恵器無台杯 (416～421)・杯蓋 (422・423)・長頸壺 (424・426)・壺蓋 (425)、二彩托 (427) を図化した。

土師器無台碗 a400 は B I 1 類、401 は BIV2 類である。切り離し技法は共に糸切り、回転方向は右である。400 の内面にはミガキが施される。無台碗 b402 は BIV 類である。外面はケズリ、内面にミガキ調整された形跡が残る。長甕 403～406 はいずれも B 類である。405 のみ体部にカキメが施されていた。407 は外面に平行タタキメ b・c 類、内面に平行当て具痕 b 類が残る体部下半の資料である。小甕 408・409 は B 類である。410 は底部から体部にかけての資料である。鍋 411 は B 類である。内面に炭化物が付着し、全体に剥離が多い。仏鉢 412・413 はともに遺存率の低い口縁部資料である。

黒色土器無台碗 414 は AIII 類である。外面・内面ともにミガキ調整されている。415 は底部から体部にかけての資料である。外面はケズリ、内面はミガキが施され、底部調整は糸切り後ミガキである。

須恵器無台杯 416 は AII 類、417 は B I 1 類、418 は BII 類、419・420 は BII2 類、421 は CII1 類に分類される。接合関係が多様で、416 は Pit300 と、418・421 は SK139 と、419 は Pit360・370 と接合されている。底部が残存した個体についてはすべてヘラ切りで、419 のみ回転方向が左と判別できた。杯蓋 422 はボタン状のつまみを持ち、SD2 と接合関係にある。423 のつまみ部分は出土していないが、SK232・282、Pit370、河 1 と接合されている。422・423 ともに外面にケズリを施す。胎土については 420 が A 群、416～419・421～423 が B 群である。

長頸壺 424 は口縁から頸部にかけての資料で、SK232 と接合関係にある。426 は口縁部と底部を欠いている資料である。SK282、Pit368・416 と接合されている。壺蓋 425 は口縁部資料である。胎土については 424・426 が B 群、425 が C 群である。427 は小破片のため器種の特定は困難であるが、傾き等から二彩托の口縁部とした。素地は軟質で、釉薬は濃い緑色を呈する。8 世紀末から 9 世紀初頭の京都産と推察される。同一個体と思われる破片が SX283 から出土している。

所属時期については須恵器無台杯 419 が V2 期に比定されると考えるが、他の無台杯は VI 期に収まるものが多い。土師器では無台碗の 400・401 が古相を示すが、他の器種は VI 期と推定される。よって全体としては V～VI 期の範疇に収まるものと推定される。

SK208 (図版 142、写真図版 137)

土師器無台碗 a (428) を図化した。遺存率が低く口径は不明であるが、C 類に分類した。

SK232 (図版 142、写真図版 137)

土師器無台碗 a (429～431)・小甕 (432・433)・鍋 (434)、黒色土器無台碗 (435・436)、須恵器無台杯 (437～439)・杯蓋 (440)・広口壺 (441) を図化した。

土師器無台碗 a429 は AIII3 類、431 は BIV 類、430 は底部資料である。小甕 432・433 はともに B 類である。433 の内面には炭化物が付着している。鍋 434 は B 類である。外面にカキメが観察される。黒色土器無台碗 435 は BIII 類、436 は BIV 類に分類される。どちらも遺存率の低い口縁部資料で、外面・内面ともにミガキ調整されている。

須恵器無台杯 438 は A I 類、439 は AII 類、437 は AII1 類に分類される。437 の底部切り離し調整はヘラ切り、回転方向は右である。杯蓋 440 は口縁部資料である。胎土については 437・439 が B 群、438・440 が C 群である。広口壺 441 は胎土 B 群の口縁部資料である。須恵器無台杯 437 は VI1 期に比定されるが、全体の時期は概ね VI 期に収まると考える。



## SK279 (図版 142・143、写真図版 137)

土師器無台椀 a (442～446)・小甕 (447・448)、黒色土器無台椀 (449)、須恵器無台杯 (450) を図化した。土師器無台椀 a445 は AⅠ3 類、446 は BⅡ3 類、443 は CⅠ2 類、444 は CⅡ2 類に分類される。442 は底部から体部にかけての資料である。いずれも底部切り離しは糸切りで、442・445・446 の回転方向は右である。443 は全体に磨耗がみられる。小甕 447 は B 類、448 は C 類に分類される。ともに口縁から体部にかけての資料である。

黒色土器無台椀 449 は BⅣ類である。外面・内面ともにミガキ調整が施されている。須恵器無台杯 450 は CⅡ類で、胎土は C 群である。VI2・3 期に比定される。

## SK282 (図版 143、写真図版 137・138)

土師器長甕 (451)・鍋 (452)・小甕 (453)・鉢 (454)、黒色土器無台椀 (455)、須恵器無台杯 (456～458)、緑釉陶器有台椀 (459) を図化した。

土師器長甕 451 は B 類である。遺存率が低く口径は不明。鍋 452 は C 類である。外面・内面にカキメが施される。小甕 453 は外面にケズリの痕跡が残る。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。鉢 454 は底部から体部にかけての資料である。黒色土器無台椀 455 は器面にミガキ調整が施され、底部外面にはヘラ記号「/」が残る。

須恵器無台杯 457 は AⅡ2 類、456 は BⅡ2 類、458 は CⅡ類に分類される。胎土はいずれも B 群である。底部が現存する 456・457 の切り離し技法はヘラ切りで、457 については回転方向が左であった。緑釉陶器有台椀 459 は口縁から体部にかけての資料である。精良な胎土で、素地は硬質であった。口縁端部内面には沈線が巡る。京都洛西産と推測される。

出土土器の時期は概ね V2～VI1 期に収まるものと推定される。

## SK291 (図版 143・144、写真図版 138・139・229)

土師器無台椀 (460～488)、黒色土器無台椀 (489～494) を図化した。土師器無台椀は a 類と b 類に大別した。無台椀 a は 460～463・466・469・471～480・483～488 とした。460・463 は AⅡ類、461・462 は AⅡ3 類、466 は AⅢ3 類、469 は AⅣ類、471・472・474・475・477～480 は BⅡ類、476 は BⅡ2 類、473 は BⅡ3 類、483 は CⅠ3 類、486 は CⅡ類、484・485・488 は CⅡ2 類、487 は CⅢ類に分類される。底部が残存している個体については切り離し技法がすべて糸切りで、回転方向もすべて右と判別した。また、484 は河 1 と接合関係にある。

無台椀 b は 464・465・467・468・470・481・482 である。467 は AⅢ類、464・465 は AⅢ3 類、470 は AⅣ2 類、468 は AⅣ3 類、481 は BⅣ類、482 は BⅣ3 類に分類される。外面・内面にはミガキやケズリの調整が確認される。さらに底部が残存している個体については底部調整が糸切り後ケズリであった。また、464 は赤彩されていると見られる。

460～488 の無台椀の中には墨書されたものが多数含まれている。466 体部外面・倒位に「花寺」、478 体部外面・横位に「口(くち)」、482 体部外面・正位に「万」、484 底部外面に「万」、485 体部外面・倒位に「万」、462・468 の体部外面に判読不能の墨書が確認された。

黒色土器無台椀 489 は AⅢ類、490 は BⅡ類、491 は CⅡ2 類、492～494 は CⅢ類に分類される。491 の外面はミガキ・ケズリ、内面はミガキが施され、底部調整は糸切り後ケズリである。比較的遺存率が高く、全体形が伺える資料である。それ以外はすべて口縁部、もしくは口縁から体部にかけての資料で、器面にはミガキやケズリの調整が観察される。時期は VI2・3 期に比定されると考える。

## SK292 (図版 145、写真図版 139)

土師器無台椀 a (495)・小甕 (496)・鍋 (497) を図化した。土師器無台椀 a495 は CⅡ類である。小甕 496 は B 類である。内面に炭化物、外面にススが付着している。鍋 497 は B 類とした。概ね VI 期の範疇に収まるものと考えられる。

SK304 (図版 145、写真図版 139)

土師器無台椀 a (498) を図化した。底部から体部にかけての資料である。概ねVI期に収まると考える。

SK307 (図版 145、写真図版 139)

須恵器杯蓋 (499) を図化した。つまみ部分も残存する。胎土は B 群で、SK191・282、SD2 と接合関係にある。時期はV期と推定される。

SK310 (図版 145、写真図版 139)

土師器無台椀 a (500・501) を図化した。土師器無台椀 a500 は BⅡ類、501 は CⅡ類である。概ねVI期に収まると考える。

SK319 (図版 145、写真図版 139)

土師器無台椀 a (502・503) を図化した。土師器無台椀 a502 は AⅡ2類、503 は底部資料である。ともに底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。時期は概ねVI期に収まるものと推定される。

SK320 (図版 145、写真図版 139)

土師器仏鉢 (504) を図化した。遺存率の低い口縁部資料である。

SK322 (図版 145、写真図版 139)

黒色土器無台椀 (505) を図化した。BⅢ類で、内面にミガキを施している。

SK325 (図版 145、写真図版 139)

土師器無台椀 a (506) を図化した。BⅡ類に分類した。

SK336 (図版 145、写真図版 139)

須恵器杯蓋 (507) を図化した。遺存率の低い口縁部資料で、胎土は B 群である。

SK351 (図版 145、写真図版 139)

土師器小甕 (508)、黒色土器無台椀 (509)、須恵器無台杯 (510・511) を図化した。土師器小甕 508 は底部切り離しが糸切り、回転方向は右である。黒色土器無台椀 509 は BⅢ類である。内面にミガキが施される。須恵器無台杯 510 は AⅠ類、511 は BⅡ2類とした。胎土はともに B 群である。概ねVI期の範疇に収まる。

SK362 (図版 145、写真図版 139)

土師器小甕(512)、須恵器無台杯(513・514)を図化した。土師器小甕 512 の底部は剥離しているが糸切りである。須恵器無台杯 513 は AⅡ2類、514 は BⅠ1類とした。ともに底部切り離しはヘラ切り、回転方向は左である。胎土についてもともに B 群である。概ねVI期に収まると考える。

SK363 (図版 145、写真図版 139)

土師器無台椀 a (515)、須恵器長頸壺 (516) を図化した。土師器無台椀 a515 は CⅡ類である。須恵器長頸壺 516 は口縁から頸部にかけての資料である。胎土は C 群とした。

SK365 (図版 145・146、写真図版 139)

土師器無台椀 a (517～521)・長甕 (522)・小甕 (523)・鍋 (524)、黒色土器無台椀 (525・526)、須恵器無台杯 (527)・有台杯 (528)・大甕 (529) を図化した。

土師器無台椀 a517 は AⅡ2類、518 は AⅣ類、519 は CⅡ2類、520 は CⅡ3類に分類される。521 については底部資料である。底部が残存している個体については切り離し技法がいずれも糸切り、さらに 520・521 の回転方向は右と判別した。長甕 522 は B 類である。遺存率が低く口径は不明であるが、外面にはカキメが観察される。

小甕 523 は B 類、鍋 524 は C 類である。黒色土器無台椀 525・526 はともに AⅣ類で、器面にはミガキが観察される。

須恵器無台杯 527 は BⅡ類とした。有台杯 528 は口縁から体部にかけての資料である。527・528 の胎土は B 群である。大甕 529 は外面に平行タタキメ b 類、内面に平行当て具痕 a 類が残る体部下半の資料である。胎

土はC群である。時期はVI2・3期に比定されると考える。

**SK385** (図版 146、写真図版 139)

土師器無台椀 a (530) を図化した。BⅡ類とした。

**SK397** (図版 146、写真図版 139)

土師器無台椀 a (531) を図化した。AⅡ類に分類した。概ねVI期に収まると推定される。

**SK399** (図版 146、写真図版 139)

土師器長甕 (532) を図化した。遺存率が低く口径は不明で、C類に分類した。

**SK400** (図版 146、写真図版 139)

土師器無台椀 a (533～535)、須恵器無台杯 (536) を図化した。土師器無台椀 a533 はAⅢ類、534・535 はCⅠ3類である。須恵器無台杯 536 はAⅠ類で、胎土はB群である。時期はVI2・3期の範疇に収まると推定される。

**SK432** (図版 146、写真図版 139)

土師器無台椀 a (538) 無台椀 b (537) を図化した。土師器無台椀 a538 は底部資料、無台椀 b537 はCⅡ2類である。ともに外面にはケズリが施され、537の底部調整は糸切り後ケズリである。概ねVI2・3期に収まると考える。

**SX19** (図版 146、写真図版 139・140・229)

土師器無台椀 a (540～543)・無台椀 b (539)・長甕 (544)・小甕 (545)・鉢 (546)・仏鉢 (547)、黒色土器無台椀 (548・549)、須恵器長頸壺 (550) を図化した。

土師器無台椀 a540 はAⅢ類の口縁から体部にかけての資料である。541・542 はCⅡ2類で、ともに底部切り離しは糸切りである。542 は回転方向が右と判別した。543 は底部資料で、切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。底部外面には墨書「万」が確認された。無台椀 b539 はBⅢ類である。外面にミガキ・ケズリ、内面にミガキが観察される。長甕 544 はA類である。内面にカキメが観察される。小甕 545 はB類である。鉢 546 は外面にヘラケズリ、内面にナデが観察される。仏鉢 547 は口縁から体部にかけての資料である。外面にカキメが残る。

黒色土器無台椀 548 はCⅢ類、549 はCⅣ類である。ともにミガキが観察される。須恵器長頸壺 550 は胎土C群の口縁部資料である。SD380 と接合関係にある。時期はVI2・3期に比定されると考える。

**SX87** (図版 147、写真図版 140)

土師器無台椀 a (551) を図化した。底部資料である。

**SX92** (図版 147、写真図版 140)

須恵器有台杯 (552) を図化した。底部切り離しがヘラ切り、回転方向は左である。胎土はB群で、VI2・3期に比定される。

**SX283** (図版 147、写真図版 140)

土師器無台椀 a (553・554・556)・長甕 (555)・小甕 (557～559)・鍋 (560)、黒色土器無台椀 (561・562)、須恵器無台杯 (563～569)・杯蓋 (570)・長頸壺 (571)・短頸壺 (572) を図化した。他に二彩托の破片 1 点、中世の珠洲焼片口鉢の破片 2 点、土師器皿の破片 1 点が出土している。

土師器無台椀 a553 はBⅢ類、554 はCⅡ類、556 はCⅣ類に分類される。長甕 555 はB類とした。小甕 557 はA類、558 はB類、559 は底部から体部にかけての資料である。鍋 560 はB類である。黒色土器無台椀 561 はBⅣ類、562 はC類に分類される。ともに外面・内面にミガキが施される。どちらも遺存率は低いが、562 については口径不明である。

須恵器無台杯 563 はAⅠ2類、564 はAⅡ1類、565 はBⅠ2類、566・567 はBⅡ1類、568 はBⅢ類、569 はBⅢ1類に分類される。底部が現存する個体については、いずれも切り離し調整はヘラ切り、回転方向は

564が右、565・569が左である。さらに564はSK191と、569はSK139と接合関係にある。杯蓋570は遺存率の低い口縁部資料である。563～570の胎土はいずれもB群である。長頸壺571は口縁から頸部にかけての資料である。

短頸壺572は底部資料でSK191・232と接合関係にある。胎土については571がB群、572がC群である。時期は概ねVI1期と推定される。

**SX357** (図版147・148、写真図版140・141)

土師器無台椀a(573～580・582)・無台椀b(581・583～586)・長甕(587・588)・小甕(589～592)・鉢(593)・仏鉢(594)、黒色土器無台椀(595～601)、須恵器無台杯(602・603)を図化した。

土師器無台椀a574はAⅠ2類、573はAⅠ3類、575はAⅡ3類、577はCⅡ類、578はCⅡ2類、576はCⅡ3類、580はCⅢ類、579はCⅢ2類に分類される。582は底部資料である。底部が残存する個体については、切り離し技法はいずれも糸切り、回転方向は573・574・578・582が右と判別した。さらに582の底部外面にヘラ記号「/」が、576・579にはヘラ記号「×」が認められる。

無台椀b581はAⅢ類、584はBⅡ3類、585はCⅡ類、586はCⅢ3類に分類される。器面にはミガキやケズリが観察される。583は底部資料である。底部調整は糸切り後ミガキであった。586については赤彩が施されていたとみられる。また、底部調整は糸切り後ケズリである。

長甕587はA類、588はC類とした。ともに外面にカキメが施されている。小甕589・590はA類、591・592はB類である。いずれも遺存率が低い口縁部資料である。592の内面に炭化物、外面にススが付着している。鉢593は底部から体部にかけての資料である。外面にヘラケズリ、内面にハケメ・カキメが残る。仏鉢594は口縁部資料である。

黒色土器無台椀595は底部から体部にかけての資料である。596はAⅢ類、600・601はAⅣ類、597はBⅢ2類、598はCⅢ類、599はCⅣ2類に分類される。いずれもミガキやケズリが施されている。底部が現存した個体については、切り離し調整はいずれも糸切り後ケズリである。また、599はSK365、SD157と接合関係にある。

須恵器無台杯603はAⅠ類、602はAⅡ類で、ともに胎土B群の口縁部資料である。時期はVI2・3期の範疇に収まるものとする。

**SX371** (図版148・149、写真図版141・229)

土師器無台椀a(604～610)・鍋(611)・有台椀(612)、黒色土器無台椀(613～616)、須恵器無台杯(617～619)・有台杯(620)・長頸壺(621)、緑釉陶器有台椀(622)を図化した。他に中世の青磁香炉の破片1点が出土している。

土師器無台椀a606はAⅠ2類、604はAⅡ1類、607はBⅡ1類、609はCⅡ類、610はCⅡ2類に分類される。605・608は底部資料である。底部が残存する個体については、切り離し技法はすべて糸切りで、604・608の回転方向は右であった。608には底部外面に判読不能な墨書が認められる。鍋611はB類である。内面にカキメが観察されるが、遺存率が低いため口径は不明である。有台椀612は底部資料である。内面はミガキ、底部は糸切り後ミガキ調整されている。

黒色土器無台椀613はBⅢ類、614はCⅢ類、615はCⅣ類に分類される。外面・内面ともにミガキがみられる。615は外面の剥離が著しい。616は底部資料で、外面にケズリ、内面にミガキが施される。底部調整は糸切り後ミガキで、外面にはヘラ記号「/」も認められた。

須恵器無台杯618はAⅠ1類、619はAⅡ類、617はBⅡ類である。有台杯620は遺存率の低い底部破片資料である。617～620の胎土はいずれもB群である。長頸壺621は口縁から体部半ばまでの資料である。胎土はB群で、外面にナデが観察される。緑釉陶器有台椀622は口縁から体部にかけての資料で、やや厚手の作りである。口縁端部内面に沈線が入る。素地は硬質で胎土には砂粒がやや多く混じる。SK320と接合関係にあった。京都洛西産と推定される。出土土器の時期はVI1期に比定されると考える。



## SX419 (図版 149、写真図版 141)

土師器無台碗 a (623・624)・無台碗 b (625)・仏鉢 (626)、須恵器無台杯 (627) を図化した。土師器無台碗 a624 は AⅡ類、623 は AⅡⅠ類に分類される。623 の底部切り離しは糸切り、回転方向は右であった。無台碗 b625 は BⅣ類である。外面にケズリ・ミガキ、内面にミガキが観察される。仏鉢 626 は口縁から体部にかけての資料である。須恵器無台杯 627 は BⅡ類で、胎土は B 群である。V～VI期に収まるものと推定される。

## SX439 (図版 149、写真図版 141・142・229)

土師器無台碗 a (628・629)・無台碗 b (630～632)・小甕 (633・634)、黒色土器無台碗 (635～637)、須恵器有台杯 (638)、緑釉陶器有台碗 (639) を図化した。

土師器無台碗 a628 は AⅡ類、629 は AⅢ類に分類される。いずれも口縁から体部にかけての資料で、629 の体部外面には墨書「□□」が認められる。無台碗 b630 は BⅡ類、632 は CⅢ類である。ともに内面にはミガキが観察される。631 は底部資料で、外面はケズリ、内面はミガキが施され、底部調整は糸切り後ケズリである。小甕 633 は B 類である。634 は底部資料で、外面にケズリが観察される。底部の切り離しは糸切り、回転方向は右である。

黒色土器無台碗 635 は CⅢ類、636 は AⅣ類に分類される。ともに遺存率は低いが、ミガキ調整が確認される。637 は底部から体部にかけての資料である。外面にケズリ、内面にミガキが施され、底部の調整は糸切り後ケズリである。須恵器有台杯 638 は胎土 B 群の底部資料で、SK191 と接合関係にある。緑釉陶器有台碗 639 は口縁部の破片資料である。素地は軟質で口縁端部は外反する。京都洛北産と推察される。

出土土器の時期は概ね V2～VI1 期の範疇に収まるものとする。

## SD2 (図版 150・202・203、写真図版 142・176)

土師器無台碗 a (640)・小甕 (641)、黒色土器無台碗 (642)、須恵器無台杯 (643)・杯蓋 (644)、緑釉陶器有台碗 (645)、中世の青白磁合子 (1703)、土師器皿 (1704)、北越窯産陶器壺 (1705)、珠洲焼片口鉢 (1706～1709) を図化した。

土師器無台碗 a640・小甕 641 はともに底部から体部にかけての資料である。黒色土器無台碗 642 は B 類とした。遺存率が低く、口径は不明である。須恵器無台杯 643 は BⅢ類である。杯蓋 644 は遺存率の低い口縁部資料である。643・644 の胎土は B 群である。緑釉陶器有台碗 645 は底部資料である。削り出し高台であることから、京都系と推察される。素地は硬質で精良な胎土であることから洛西産とした。後述する 1251 と同一個体の可能性がある。

出土した平安時代の土器は概ね VI 期に収まると考える。

青白磁合子 1703 は削り出し高台を持ち、口縁端部は釉が剥ぎ取られている。中世土師器皿 1704 はロクロ成形底部ヘラ切りで灰白色を呈する。

北越窯産陶器壺 1705 は口縁端部の破片資料である。北沢窯産と考えられ、珠洲Ⅱ期に並行する。珠洲焼片口鉢 1706～1709 は口縁部から体部にかけての資料である。1706・1708・1709 は内面に卸目が施されているが 1 単位あたりの目数は不明である。1707 は 1 単位 12 目の卸目を施している。時期は 1706・1707 が珠洲Ⅱ期、1708 はⅢ期、1709 はⅣ2 期である。

## SD15 (図版 150・203、写真図版 142・176)

土師器無台碗 a (647)・無台碗 b (646)・長甕 (648・650)・鍋 (649)、須恵器無台杯 (651)・有台杯 (652)・大甕 (653)・甕 (654)、中世の青磁碗 (1710) を図化した。

土師器無台碗 a647 は底部資料である。底部切り離し調整は糸切り、回転方向は右である。無台碗 b646 は AⅣ類とした。外面にケズリが観察される。長甕 648 は B 類とした。遺存率が低く、口径は不明である。650 は平底を持つ長甕で外面にヘラケズリ、内面に指頭圧痕、底部にナデが残る資料である。鍋 649 は B 類とした。

須恵器無台杯 651 は AⅡ類でである。有台杯 652 は底部から体部にかけての資料である。底部切り離しはヘ

ラ切り、回転方向は左である。651・652の胎土はB群である。大甕653は口縁部資料で、胎土はC群であった。654は甕とした。胎土D群の西古志窯産のものと考えられる。

中世の青磁碗1710は、体部の破片資料で外面に鎬連弁文を持つIIb類である。釉層はやや厚めである。時期はE期(XVI~XVII期、13世紀前後~前半)に相当する。

SD17 (図版150、写真図版142)

土師器無台碗a(655~658)・仏鉢(659)・長甕(660・661)・鍋(662)、黒色土器無台碗(663・664)、須恵器無台杯(665・666)を図化した。

土師器無台碗a655はAII3類、657はBIII類、656はCII3類に分類される。655・656の底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。658は底部から体部にかけての資料である。仏鉢659は遺存率の低い口縁部資料である。長甕660・661はともにC類である。661は体部半ばまで残存しており、外面にカキメが観察される。鍋662はB類とした。

黒色土器無台碗663はCIII類である。外面・内面ともにミガキが観察される。664は底部から体部にかけての資料で、外面はケズリ、内面はミガキが施される。底部調整は糸切り後ケズリである。須恵器無台杯665はBII類、666はBII2類である。胎土はともにB群である。

出土遺物の時期としては、土師器無台碗はVI2・3期に比定されると考えるが、長甕や須恵器無台杯にやや古相の土器が見られることから、全体としてはV~VI期の範疇に収まるものと思われる。

SD22 (図版150、写真図版142)

土師器小甕(667)、黒色土器無台碗(668)を図化した。土師器小甕667はB類である。黒色土器無台碗668はCI類である。外面にミガキ・ケズリ、内面にミガキが観察される。概ねVI期に収まると考える。

SD35 (図版150、写真図版142)

土師器無台碗a(669)・長甕(670)を図化した。土師器無台碗a669はAII類である。口縁から体部にかけての資料である。長甕670はC類である。概ねVI期に収まる。

SD84 (図版151、写真図版142)

土師器無台碗a(671・672)・小甕(673)、黒色土器無台碗(674)、須恵器無台杯(675・676)を図化した。他に中世の珠洲焼壺T種の破片1点が出土している。

土師器無台碗a671はAI類、672は底部資料である。小甕673も底部資料である。黒色土器無台碗674はCI類である。外面・内面にミガキが観察される。

須恵器無台杯675・676はともにBII類である。胎土は675がB群、676はC群である。時期は概ねVI期と推定される。

SD106 (図版151、写真図版142)

土師器無台碗a(678・679)・無台碗b(677)を図化した。無台碗a679はCII類である。678は底部資料である。外面はケズリ調整で、底部切り離しは糸切り、回転方向は右であった。土師器無台碗b677は底部資料である。外面はケズリ調整で、内面はミガキ、底部調整は糸切り後ミガキである。概ねVI期に収まると考える。

SD128 (図版151、写真図版142)

土師器無台碗a(680)、黒色土器無台碗(681)、須恵器無台杯(682・683)・長頸壺(684)を図化した。他に中世の珠洲焼片口鉢の破片1点が出土している。

土師器無台碗a680はCII類である。黒色土器無台碗681はC類とした。外面・内面ともにミガキが観察されるが、遺存率が低く、口径は不明である。

須恵器無台杯683はAIII類、682はBIII類である。胎土は683がB群、682がC群である。長頸壺684は胎土B群の底部資料である。概ねVI期の範疇に収まるものとする。

**SD157** (図版 151、写真図版 142・143)

土師器無台碗 a (685～687)・無台碗 b (688～690)・長甕 (691)・小甕 (692)・鍋 (693)、黒色土器無台碗 (694～697)、須恵器無台杯 (698～701)、緑釉陶器香炉蓋 (702) を図化した。他に中世土師器皿の破片 1 点が出土している。

土師器無台碗 a685 は AⅡ類、686 は BⅢ類、687 は CⅢ類に分類される。いずれも口縁から体部にかけての資料で、685 は SD380 と接合関係にある。無台碗 b690 は CⅢ類、689 は CⅢ3 類、688 は底部資料である。いずれも器面にはミガキもしくはケズリの調整が確認される。長甕 691 は A 類、小甕 692 は B 類とした。ともに遺存率が低く、口径は不明である。692 の内面にはススが付着している。鍋 693 は C 類である。

黒色土器無台碗 694 は AⅣ類、696 は BⅣ3 類である。695・697 は底部から体部にかけての資料である。いずれもミガキやケズリの痕跡が確認できる。また、底部が残存する個体については糸切り後にも調整が加えられており、695 はミガキ、696・697 はケズリ調整が伺える。

須恵器無台杯 699・700 は AⅡ類、698 は AⅢ類、701 は BⅢ類に分類される。胎土はいずれも B 群である。緑釉陶器香炉蓋 702 は口縁部資料である。口縁端部外面に沈線が巡る。胎土は精良で素地は硬質である。猿投窯産で、香炉 295 とセットになると推察される。

出土土器は概ねⅥ期に収まると考える。

**SD261** (図版 151、写真図版 143)

須恵器杯蓋 (703) を図化した。遺存率の低い口縁部資料である。胎土は C 群とした。

**SD277** (図版 151・152・203、写真図版 143・176)

土師器無台碗 a (704・705)、須恵器無台杯 (706・707)・長頸壺 (708)、中世の珠洲焼片口鉢 (1711) を図化した。土師器無台碗 a704・705 はともに糸切りの底部資料である。704 については回転方向も右と判明しているが、表面にやや剥離がみられる。

須恵器無台杯 706 は BⅡ類、707 は BⅡ3 類である。胎土はいずれも B 群である。長頸壺 708 は遺存率の低い口縁部資料である。胎土は B 群である。時期はⅥ期まで下ると推定される。

中世の珠洲焼片口鉢 1711 は、内面に卸目を施すが、使用による磨耗が著しい。時期は珠洲Ⅱ期である。

**SD297** (図版 152、写真図版 143)

土師器無台碗 a (709)、黒色土器無台碗 (710) を図化した。土師器無台碗 a709 は CⅡ類、黒色土器無台碗 710 は CⅢ類である。ともに口縁から体部にかけての資料で遺存率は低いが、710 の外面・内面にはミガキが観察される。

**SD335** (図版 152、写真図版 143)

土師器無台碗 b (711)・小甕 (712) を図化した。他に中世の珠洲焼片口鉢の破片 1 点が出土している。

土師器無台碗 b711 は C 類である。遺存率が低く口径は不明だが、外面・内面にミガキが観察される。小甕 712 は B 類である。

**SD342** (図版 152、写真図版 143)

土師器無台碗 a (713)・小甕 (714)、黒色土器無台碗 (715) を図化した。土師器無台碗 a713 は AⅠ類である。小甕 714 は C 類、黒色土器無台碗 715 は B 類である。ともに遺存率が低く口径は不明だが、715 の器面にはミガキが観察される。概ねⅥ期の範疇に収まると考える。

**SD343** (図版 152、写真図版 143)

土師器無台碗 b (716) を図化した。底部から体部にかけての資料である。外面はミガキ・ケズリ、内面はミガキが施され、底部は糸切り後ケズリ調整が確認された。

**SD380** (図版 152、写真図版 143・229)

土師器無台碗 a (717～721・724・725)・無台碗 b (722・723)・長甕 (726)・小甕 (727・728)、黒色土器無

台碗(729～732)、須恵器無台杯(733・734)・杯蓋(735)を図化した。

土師器無台碗 a717 は AⅠ2 類、719 は AⅡ類、718 は AⅡ2 類、720 は AⅢ類、721 は AⅢ3 類、724 は CⅠ類に分類される。底部が残存している個体については、切り離し技法はすべて糸切りで、回転方向は717が右、718は左であった。725の外面には判読不能な墨書とヘラ記号「×」が残る。

無台碗 b722 は AⅣ3 類、723 は BⅣ類である。器面にはミガキやケズリの調整が観察される。722の底部は糸切り後ケズリを施す。長甕726、小甕727・728はいずれもB類である。728には炭化物やススの付着がみられる。

黒色土器無台碗729はAⅢ3類、732はBⅢ類、730はCⅢ3類に分類される。器面にはいずれもミガキやケズリの調整痕が観察された。729・731の底部には糸切り後ケズリ調整が施されており、さらに731の底部外面には、判読不能な墨書も確認された。また、729はSX357と接合関係にある。

須恵器無台杯733はAⅡ類、734はBⅡ類に分類される。杯蓋735は遺存率の低い口縁部資料である。胎土については733・734がB群、735がC群である。時期はVI2・3期に比定されると考える。

**SD388** (図版152、写真図版143)

須恵器無台杯(736)を図化した。BⅡ類で、胎土はB群である。概ねVI期に収まると思われる。

**SD424** (図版153、写真図版143)

土師器無台碗 a(737～739)、黒色土器無台碗(740・741)、須恵器無台杯(742)を図化した。土師器無台碗 a737はBⅢ類、739はC類、738はCⅡ類である。いずれも遺存率の低い資料で、739の口径は不明である。

黒色土器無台碗740はBⅣ類、741はCⅢ3類である。741は外面・内面ともにミガキ、底部は糸切り後ミガキ調整されている。須恵器無台杯742はB類である。遺存率が低く口径は不明だが、胎土はB群である。概ねVI期の範疇に収まる。

**SD445** (図版153、写真図版143)

土師器無台碗 a(743・744)、須恵器無台杯(745)を図化した。土師器無台碗 a744はBⅢ類、743はCⅢ類である。ともに遺存率が低い資料である。

須恵器無台杯745はCⅠ1類で、胎土はB群である。底部切り離しはヘラ切り、回転方向は左である。概ねVI期の範疇に収まるものとする。

**Pit56** (図版153、写真図版143)

緑釉陶器有台皿(746)を図化した。口縁端部が短く屈曲する形態で、内外面に磨きを施している。胎土は精良で素地は硬質であった。京都洛西産だと推察される。

**Pit97** (図版153、写真図版143)

土師器無台碗 a(747)、須恵器無台杯(748・749)を図化した。土師器無台碗 a747はBⅡ類とした。須恵器無台杯748はA類、749はBⅡ類である。ともに遺存率が低く、748については口径も不明である。胎土は749がB群、748がC群である。時期は概ねVI期に収まるものとする。

**Pit134** (図版153、写真図版143)

土師器仏鉢(750)を図化した。口縁から体部にかけての資料である。

**Pit143** (図版153、写真図版143・229)

土師器無台碗 a(751)・長甕(752)を図化した。土師器無台碗 a751は底部外面に判読不能な墨書が残る。長甕752はB類である。外面・内面ともにカキメ調整されている。概ねVI期と推定される。

**Pit147** (図版153、写真図版143)

須恵器杯蓋(753)を図化した。口径不明の口縁部破片資料である。胎土はC群である。

**Pit152** (図版153、写真図版143)

土師器無台碗 a(754)、須恵器無台杯(755)を図化した。土師器無台碗 a754はBⅡ類である。須恵器無台



杯 755 は B II 1 類で、胎土は B 群である。時期は VI 期に収まるものとする。

**Pit161** (図版 153、写真図版 143)

黒色土器無台碗 (756)、須恵器有台杯 (757) を図化した。黒色土器無台碗 756 は B III 類である。外面・内面にミガキが残る。須恵器有台杯 757 は口縁から体部にかけての資料である。胎土は B 群である。

**Pit163** (図版 153、写真図版 143)

土師器無台碗 a (758) を図化した。C I 3 類である。新相を示しており、VII 2 期に比定されると考える。

**Pit214** (図版 153、写真図版 143)

須恵器無台杯 (759) を図化した。B I 類で、胎土 B 群の口縁部資料である。概ね VI 期に収まるものとする。

**Pit269** (図版 153、写真図版 143・229)

土師器無台碗 b (760・761) を図化した。土師器無台碗 b761 は B II 類、760 は B IV 類である。ともに口縁から体部にかけての資料で、器面にはミガキやケズリの調整が残る。さらに 760 は体部外面・正位に墨書「寺」が認められる。概ね VI 期の範疇に収まると推定される。

**Pit270** (図版 153、写真図版 143・229)

土師器無台碗 a (762～764) を図化した。土師器無台碗 a763 は B I 類、762 は B III 類である。764 は体部資料であるが、外面・倒位に判読不能な墨書が残る。

**Pit271** (図版 153、写真図版 143)

土師器無台碗 a (765) を図化した。A III 類である。

**Pit272** (図版 153、写真図版 143)

土師器無台碗 a (766)・無台碗 b (767) を図化した。土師器無台碗 a766 は C II 2 類、無台碗 b767 は C IV 類に分類される。767 は外面・内面にミガキ調整が確認される。766 は新しい様相を示しており、VII 2 期段階まで下ると推測される。

**Pit273** (図版 153、写真図版 143)

土師器無台碗 a (768) を図化した。C II 類である。

**Pit275** (図版 153、写真図版 143)

土師器無台碗 a (769) を図化した。C II 類に分類した。

**Pit288** (図版 153、写真図版 143)

土師器小甕 (770) を図化した。B 類である。

**Pit300** (図版 153・154、写真図版 144)

土師器無台碗 a(771)・小甕(772)、須恵器無台杯(773・774)を図化した。土師器無台碗 a771 は A II 1 類である。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。小甕 772 は C 類である。

須恵器無台杯 773 は B I 1 類、774 は B III 類である。胎土はともに B 群である。773 の底部切り離しはヘラ切り、回転方向は左である。ほぼ完形の資料で、SK282 と接合関係にある。時期は土師器無台碗がやや古相を示しており、全体では V 2 ～ VI 1 期の範疇に収まるものとする。

**Pit328** (図版 154、写真図版 144)

須恵器無台杯 (775) を図化した。B III 類の口縁部資料で、胎土は B 群である。概ね VI 期に収まると考える。

**Pit347** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台碗 a (776) を図化した。C 類に分類した。遺存率が低く口径は不明である。

**Pit349** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台碗 a (777) を図化した。A II 2 類である。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。ほぼ完形の資料であった。概ね VI 期に収まると考える。

**Pit352** (図版 154、写真図版 144)

須恵器無台杯 (778) を図化した。BⅡ類で、胎土はB群である。概ねⅥ期の範疇に収まると推定される。

**Pit353** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台椀 a (779)・無台椀 b (780・781)・鍋 (783)、須恵器無台杯 (782) を図化した。土師器無台椀 a779 はBⅠ2類とした。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。無台椀 b781 はBⅣ類、780 はCⅢ2類に分類される。ともに器面にはミガキやケズリが残り、780 については底部調整が糸切り後ケズリである。鍋 783 はB類である。内面にカキメが残る。

須恵器無台杯 782 はBⅡ類である。胎土はC群である。時期はⅥ2・3期に比定される。

**Pit368** (図版 154、写真図版 144・229)

土師器無台椀 b (784)、黒色土器無台椀 (785・786)、須恵器無台杯 (787) を図化した。土師器無台椀 b784 はAⅡ類である。内面にミガキが残る。黒色土器無台椀 785・786 はともにCⅢ類で、外面・内面にミガキ調整が施されている。785 は口縁端部が強く外反し、内外面とも黒色処理されていることから輸入陶磁器の模倣品と考えられる。

須恵器無台杯 787 は立ち上がり部分を欠いた底部資料である。胎土はB群とした。底部切り離し技法ヘラ切り、回転方向は左で、外面には墨書「万」が見られる。概ねⅥ期の範疇に収まるものとする。

**Pit370** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台椀 b (788)、須恵器無台杯 (789・790) を図化した。土師器無台椀 b788 はBⅡ類である。内面にミガキ調整が施される。

須恵器無台杯 789 はB類、790 はBⅡ2類である。胎土はともにB群とした。789 は遺存率が低く口径が不明である。790 は底部切り離しがヘラ切り、回転方向が右で、SK191 と接合関係にある。概ねⅥ期に収まると考える。

**Pit376** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台椀 a (791) を図化した。CⅡ類に分類した。

**Pit381** (図版 154、写真図版 144)

須恵器直口壺 (792) を図化した。口縁から頸部にかけての資料である。胎土はC群とした。

**Pit395** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台椀 a (793) を図化した。底部から体部にかけての資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。

**Pit407** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台椀 b (794) を図化した。BⅡ類に分類した。内面にミガキが残る。

**Pit411** (図版 154、写真図版 144)

須恵器無台杯 (795) を図化した。BⅢ類で、胎土はC群である。概ねⅥ期に収まると推定される。

**Pit414** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台椀 a (796) を図化した。CⅡ類に分類した。

**Pit416** (図版 154、写真図版 144)

須恵器無台杯 (797) を図化した。BⅡ類で、胎土はB群である。概ねⅥ期に収まるものとする。

**Pit421** (図版 154、写真図版 144)

黒色土器無台椀 (798)、須恵器無台杯 (799) を図化した。黒色土器無台椀 798 はAⅢ類である。外面・内面にミガキを施す。

須恵器無台杯 799 はCⅠ類としたが、口縁部に意図的と思われる欠損がみられる。胎土はB群である。概ねⅥ期の範疇と思われる。

**Pit423** (図版 154、写真図版 144)

土師器小甕 (800) を図化した。底部から体部にかけての資料で、切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。

**Pit448** (図版 154、写真図版 144)

土師器無台椀 a (801) を図化した。AⅡ類とした。

**Pit450** (図版 154、写真図版 144)

須恵器無台杯 (802) を図化した。AⅡ1類で、胎土はB群である。時期はVI期に収まるものと推定される。

**河 1**

河 1 は3区の北東側3分の1を占める旧河道である。土師器・須恵器の食膳具を中心に大量の遺物が出土した。河 1 で出土した土器の数量は、古代の土器が 116,152g、21,551 点、中世の土器・陶磁器が、931g、42 点である。特に古代の土器については、第 18 次調査 3 区全体で出土した土器の重量比で 44.1%、点数比で 36.2% を占める。

遺物を取り上げる際には 1 層、2・3 層、4～7 層の 3 層に分け、各層位から出土した土器の重量分布図を図版 49～51 に示した。1 層からの出土が最も多く、特に落ち際から大量の土器が出土している。2・3 層では落ち際の南側に集中して出土が見られる。一方、4～7 層になると遺物の出土数は極端に減少する。全体の時期としては、中世の土器・陶磁器が 1 層で 41 点、2・3 層で 1 点出土しているが、概ね古代の土器群である。

掲載遺物の選択の際、食膳具については全体形が分かる資料を中心としたが、墨書土器と施釉陶器に関しては破片資料であっても可能な限り図化した。

**河 1 1 層** (図版 155～167・203、写真図版 147～156・176・229～231)

古代の土器が 82,344g、17,316 点、中世の土器・陶磁器が 901g、41 点出土している。河 1 出土数量全体の重量比で 71.1%、数量比で 80.4% を占める。

土師器無台椀 a・b (803～963)・有台椀 (964・965)・長甕 (966～970)・小甕 (971～975)・鍋 (976・977)・脚 (978)・仏鉢 (979～982)、黒色土器無台椀 (983～1014)・有台皿 (1015・1016)、須恵器無台杯 (1017～1028)・有台杯 (1029～1031)・有台皿 (1032)・杯蓋 (1033～1035)・小壺 (1036)・大甕 (1037・1040・1041)・長頸壺 (1038・1039)、緑釉陶器有台椀 (1042～1048)・香炉蓋 (1049)、中世の青磁椀 (1712～1714)、珠洲焼片口鉢 (1715) を図化した。

土師器無台椀 a は 803～813・815～858・860～867・872・877～901・903～912・914～941・943～961 である。808・809・813・822 は AⅠ2 類、803～807・810～812 は AⅠ3 類、849 は AⅡ類、828・830・837・846 は AⅡ1 類、815・816・819・821・823・829・831・833・834・838・840・842～845・847・850～852 は AⅡ2 類、817・818・820・824～827・832・835・836・839・841・848・853・855 は AⅡ3 類、857 は AⅢ2 類、854・856・858・861・864 は AⅢ3 類、862・867 は AⅣ1 類、860 は AⅣ2 類、872 AⅣ3 類に分類した。

882 は BⅠ類、878 は BⅠ2 類、877 は BⅠ3 類、879・886・896・897 は BⅡ1 類、880・881・883・888・889・891・892・894・895 は BⅡ2 類、884・885・887・890 は BⅡ3 類、899 は BⅢ1 類、898・901 は BⅢ2 類に分類した。

924 は C 類、905 は CⅠ2 類、903 は CⅠ3 類、921・929・930 は CⅡ1 類、908・911・912・914・916～918・922・926～928・932・933・936・937 は CⅡ2 類、904・906・907・909・910・915・920・925・935 は CⅡ3 類、938 は CⅢ類、931・939 は CⅢ1 類、940・941 は CⅣ3 類に分類される。

863・865・866・900・919・923・934・943～957・959・961 は底部、または底部から体部にかけての資料である。893・958・960 は体部資料である。底部が残存する個体についてはすべて糸切りである。その中でも、回転方向が判別できたもののほとんどが右であるが、903 のみ左であった。

無台椀 b には 814・859・868～871・873～876・902・913・942・962・963 を分類した。868 は AⅠ3 類、814 は AⅡ2 類、869 は AⅡ3 類、871 は AⅢ2 類、859・870 は AⅢ3 類、873～875 は AⅣ3 類、

902はBIV2類、913はCII3類、962・963はCIV3類に分類される。876・942は底部から体部にかけての資料である。いずれも器面にミガキやケズリの痕跡が残る。

ヘラ記号が底部外面に施された資料も多く、826・833・843・844・854・916には「×」、837・867には「/」が確認された。墨痕が残る個体もあり、811・812については転用硯と思われる。この他にも864～866では漆が認められた。塊状になっており塗布したものではなく、漆を入れる容器として使用されていたと考える。

また、墨書されているものも多く、判読可能な墨書は以下のとおりである。829・889・894・906・913・925・935・944・946底部外面に「万」、838底部外面に記号様の「Z」、849体部外面に「□」（絵か）、852底部外面に「万」と体部外面・横位に「□ [寺カ]」、911底部外面に「上□ [万カ]」、924体部外面・正位と内面・正位に「大大」（習書）、928体部外面・横位に「道」、934・942・947・949・952・961底部外面に「□ [万カ]」、936底部外面に判読不能な墨書と体部外面・横位に「□ [寺カ]」、957体部外面・倒位に「□ [大カ]」が確認された。また、判読不能な墨書は以下の通りである。863・884・900・901・919・926・943・945・950・951・953～956・959底部外面、882・923（横位か）・948・960体部外面、893体部外面・倒位、927底部外面と体部外面・横位、958体部外面・横位に確認された。

有台椀964・965はともに底部資料である。964は外面にケズリが残る。高台端部が欠損しているが、貼り付け輪高台である。底部外面に判読不能な墨書が確認された。965の底部については削り出し高台であった。

長甕966・970はA類、967はB類、968・969はC類に分類される。いずれもカキメやヘラケズリで調整されているが、967については外面に平行タタキメc類の痕跡が見られた。968・969は形態・器高から小甕に分類することも考えられたが、内面に炭化物の付着が見られないことから平底を持つ長甕として分類した。小甕971・974はB類である。972・973・975は底部から体部にかけての資料で、いずれも切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。鍋976・977はともにB類の口縁から体部にかけての資料である。どちらも器面にはカキメが残り、977については炭化物やススも付着していた。978は台杯鉢の脚部と思われる破片で、側面に5ヶ所、底部に12ヶ所の穴が開いていたと思われる。外面はヘラケズリ、内面はカキメ調整されている。体部の形態は不明である。仏鉢979は、河1・1層で4点図化した仏鉢の中でも唯一全体形が伺える資料である。980の底部資料とともに、切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。981・982は口縁部資料である。

黒色土器無台椀984はAI3類、985・986はAII3類、987・988・990・991はAIII2類、989・992・994・995はAIII3類、996はAIV2類、997はAIV3類、998はCII2類、999～1002はCIII2類、993・1003はCIII3類、1007・1008はCIV3類に分類される。983・1004～1006・1009～1012・1014は底部、または底部から体部にかけての資料である。1013は体部資料である。

外面については、大半の資料がミガキまたはケズリ、もしくはその両方の調整が残り、内面はすべてミガキ調整されている。底部には糸切り後にミガキかケズリの調整が行われている。また、996はSK6と接合関係にある。墨書されたものも多く、判読可能な墨書は以下の通りである。983底部外面に「万」、993底部外面に「一」、1005・1006・1010・1011底部外面に「□ [万カ]」、1009底部外面に「上万」、1012底部外面に「上□ [万カ]」、1014底部外面に「□万」が確認された。判読不能な墨書は以下の通りである。991体部外面・正位、1004底部外面、1013体部外面に確認された。

有台皿1015は比較的遺存率が高く、全体形が伺える資料である。外面・内面ともにミガキが施され、底部調整は糸切り後ナデである。1016は内面にミガキが残る底部破片資料である。

須恵器無台杯1021・1022はAII1類、1017はBI1類、1018はBI2類、1023～1027はBII1類、1019・1020はBII2類である。1028は立ち上がり部分を欠いた底部破片資料である。底部切り離しはいずれもヘラ切り、回転方向は右・左どちらも確認された。1024・1027は内面に墨痕が付着していることから、転用硯の可能性が伺える。墨書は1017底部外面に記号様の「つ」（「○」か）、1018底部外面に「継人」、1024底部外面に「万」、1028底部内面に判読不能なものが確認された。



有台杯 1029 の体部外面には判読不能な墨書が確認された。また、高台内部に墨痕が認められることから、転用碗であった可能性も高い。1030・1031 も含め、底部切り離しは3点ともヘラ切りで、1031 のみ回転方向が左と判別できた。有台皿 1032 は底部資料である。体部が大きく開いて立ち上がっているため、有台皿とした。切り離し技法はヘラ切り、回転方向は右である。杯蓋 1033 は口縁部資料で内面に墨痕が残る。1034・1035 はボタン状のつまみを持つ資料である。ともに外面にはケズリが施され、1034 の体部内面中央部にはヘラ記号「×」が確認される。胎土については1017～1031・1033・1035 がB群、1032・1034 がC群である。

小壺 1036 は底部から体部半ばにかけての資料である。体部外面に沈線が巡る。大甕 1037 は外面に平行タタキメc類・ハケメ、内面に同心円当て具痕c類・ハケメが施されている。体部に一部不明瞭な部分があるが、全体形が伺える資料である。底部付近に窯壁が付着していた。1040 は外面に平行タタキメa類、内面に平行当て具痕b類が残る。1041 は外面に波状文を施す口縁部資料である。長頸壺 1038 は口縁端部が欠損している。1039 は頸部から底部にかけての資料で、SK279 と接合関係にある。胎土については1038・1039 がB群、1036・1037・1040・1041 がC群である。

緑釉陶器有台碗 1042 は遺存率が比較的高く、全体形が伺える資料である。内外面にミガキを施し、口縁端部内面に沈線が巡る。削り出し高台を持つ。素地は軟質で精良な胎土を持つことから京都産と思われる。1043～1048 は有台碗の破片資料である。いずれも内外面にミガキが施されている。1043～1045 は口縁端部が外反する同一の器形であろう。素地は1045 が硬質で、後は軟質であった。胎土はいずれも精良である。1045 は洛西産、その他はすべて洛北産と推定される。1049 は香炉蓋天井部分の透かしの破片資料である。素地は硬質で精良な胎土であった。猿投窯産であろう。

河1・1層出土古代土器の所属時期については、やや時期幅があるものの概ねVI2・3期を主体とする土器群と推定される。

中世の青磁碗(1712～1714)、珠洲焼片口鉢(1715)、を図化した。青磁碗1712 は底部資料で外面に鎬蓮弁文、内面見込みに草花文様を描くIIc類である。釉層は厚めだが透明度は高い。底部外面は釉が剥ぎ取られる。1713 は外面に鎬蓮弁文が施されるIIb類でE期(XVI～XVII期、13世紀前後～前半)に相当する。釉は白濁している。1714 は底部資料で畳付は磨耗している。珠洲焼片口鉢1715 は口縁部から体部にかけての破片資料である。内面に卸目が施されるが破片のため1単位あたりの目数は不明である。

河1 2・3層(図版168～176・203、写真図版156～162・176・231・232)

古代の土器が31,989g、4,177点、中世の土器・陶磁器が30g、1点出土している。河1出土数量全体の重量比で27.3%、数量比で19.3%が2・3層で出土している。

土師器無台碗(1050～1121)・長甕(1122～1125)・小甕(1126～1132)・鍋(1133・1134)・仏鉢(1135・1137～1139)・鉢(1136)、黒色土器無台碗(1140～1158)、須恵器無台杯(1159～1185)・有台杯(1186～1190)・無台皿(1191)・長頸壺(1192～1195)・小壺(1196)、中世の北越窯産陶器片口鉢(1716)を図化した。

土師器無台碗はa類とb類に大別した。無台碗aには1050～1073・1076～1078・1080～1086・1088～1113・1115～1121を分類した。1054はAI2類、1050・1051はAI3類、1052・1060・1064・1066はAII1類、1055～1058・1061～1063・1067はAII2類、1053・1059・1065はAII3類、1068はAIII2類、1069～1071はAIII3類、1073はAIV2類、1072はAIV3類、

1094はB類、1077はBI類、1078はBI1類、1080はBI3類、1090はBII1類、1082・1083・1085・1086・1088・1089・1091～1093・1096はBII2類、1081・1084・1095はBII3類、1097はBIII、1098はBIV1類、1111はC類、1100はCI3類、1101・1103・1105・1106はCII2類、1102・1104・1108はCII3類、1107はCIII2類、1109はCIII3類、1110はCIV3類に分類される。1076・1099・1112・1113・1115～1121は底部から体部にかけての資料である。

底部が残存する個体についてはすべて糸切りであった。その中でも、回転方向が判別できたもののほとんどが

右であったが、1054のみ左であった。1089は内面にススが確認され、燈明皿として使われていた可能性も考えられる。1091については赤彩と思われる痕跡が認められた。また、1064に「/」、1101に「×」のヘラ記号が底部外面に確認された。

無台碗bには1074・1075・1079・1087・1114を分類した。1074はAⅢ3類、1075はAⅣ3類、1087はBⅡ2類、1079はBⅣ3類に分類される。1114は底部から体部にかけての資料である。いずれも器面にミガキやケズリの痕跡が残る。

2・3層でも墨書土器が多く出土した。判読可能な墨書は以下の通りである。1067・1079・1107・1112・1115～1117底部外面に「万」、1070体部外面・横位に「万」、1088体部外面・正位に「万」と横位に「□[万カ]」、1089底部外面に「□[田カ]」、1106底部外面に「□[万カ]」と内面に判読不能な墨書、1113底部外面に「□[万カ]」が確認された。判読不能な墨書は以下の通りである。1114・1118・1119・1121底部外面、1076体部外面・倒位、1075・1077・1090・1094・1097・1111体部外面に確認された。また、1106・1107の内面には墨痕も残る。

長甕1122～1124はいずれもB類である。1122のみ口縁から体部半ばまで現存し、外面にはススが付着している。それ以外の個体は口縁部資料である。1125は外面に平行タタキメc類・ハケメ、内面に同心円当て具痕c類・ハケメが施された底部の資料である。1123・1125は同一個体の可能性も考えられる。小甕1126はA類、1127はB類である。1128～1132は底部から体部にかけての資料である。1128・1129・1131の切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。1130の底部切り離しは静止糸切りである。1129・1130・1132の外面にはケズリの痕跡が残る。1129・1131にはススや炭化物の付着が確認された。鍋1133・1134はともにB類の口縁部資料である。

仏鉢1135は遺存率が高く、全体形が伺える資料である。1136・1138は口縁部、1137・1139は底部資料である。底部が残存する個体についてはいずれも糸切りで、回転方向は右であった。

黒色土器無台碗1141はAⅡ3類、1142はAⅢ3類、1157はAⅣ類、1143はBⅡ3類、1151はBⅣ2類、1140・1147はCⅡ3類、1145はCⅢ2類、1144・1146はCⅢ3類、1152はCⅣ類、1154はCⅣ3類に分類される。

1148～1150・1153・1155・1156・1158は底部、または底部から体部にかけての資料である。外面は大半の資料がミガキまたはケズリ、もしくはその両方の調整が残り、内面はすべてミガキ調整されている。底部も糸切り後にミガキかケズリの調整が行われている。

判読可能な墨書は1149・1150底部外面に「上□[万カ]」、1155底部外面に「万」（上に一字あるか）、1156底部外面に「生」、1158底部外面に「□[上カ]万」が確認される。また、1148・1153には底部外面に判読不能な墨書が確認された。

須恵器無台杯1159はAⅠ2類、1181はAⅡ1類、1162はAⅢ類、1160・1183はAⅢ1類、1161・1165はBⅠ1類、1163・1164・1166はBⅠ2類、1171～1174・1177～1180・1182はBⅡ1類、1167～1169・1175・1176はBⅡ2類、1170はBⅡ3類、1184はBⅢ2類に分類される。1185は底部資料である。

底部が残存する個体についてはいずれもヘラ切りで、回転方向は左右どちらも同量程度確認された。1179・1185については内面に墨痕があり、転用碗の可能性が考えられる。墨書土器も多く出土しており、判読可能な墨書は1159・1168・1173底部外面に「中」、1160・1176底部外面に「□卅」、1161・1171体部外面に記号様の「○」、1169底部外面に「×」と内面に「山人□」、1170底部外面に「一」、1180底部外面に「本」（異体字）、1184体部外面・横位に「扱入」が確認された。また1162体部外面、1185底部外面と体部外面に判読不能な墨書が確認された。

有台杯1186はPit152と接合関係にある。1187～1190には墨痕が認められることから、転用碗の可能性

が考えられる。さらに 1190 の底部外面には爪痕が残っていた。底部はいずれも切り離し技法がヘラ切りである。回転方向は 1188 のみ右で、それ以外はすべて左であった。盤 1191 は切り離し技法がヘラ切り、回転方向は左である。胎土については 1164・1166 が A 群、1159～1161・1163・1165・1167～1169・1171～1174・1176～1191 が B 群、1162・1170・1175 が C 群である。1190 については B 群のなかでも高野段階と推定され、Ⅶ期にまで下ると見られる。

長頸壺 1192 は小型でほぼ完形の資料である。肩部に自然釉がかかり、底部外面にはヘラ記号「/」が残る。1193 は口縁部資料である。1194 は口縁から頸部にかけての資料で、器面にはしぼり痕が観察される。1195 は体部資料である。1196 は底部から体部にかけての資料である。外面にケズリの痕跡が残る。1195 と 1196 は同一個体の可能性がある。胎土については 1192・1194 が C 群、1193・1195・1196 が D 群で、なかでも 1193 は西古志窯産のものと思われる。2・3 層出土古代土器の所属時期は、須恵器無台杯を見るとⅦ1 期を中心にまとまりを持っており、全体としても概ねⅦ1 期の範疇に収まるものとする。

中世の北越窯産陶器片口鉢 1716 は、口縁端部資料である。自然釉がかかる。

#### 河 1 4～7 層 (図版 176・177、写真図版 162・163・232)

古代の土器が 1,526g、43 点出土している。中世の土器・陶磁器の出土はない。河 1 出土数量全体に占める割合は、重量比で 1.3%、数量比で 0.2% である。

土師器無台碗 a (1197)・長甕 (1198)・仏鉢 (1199・1200)、須恵器無台杯 (1201～1207)・大甕 (1208) を図化した。土師器無台碗 a1197 は AⅡ3 類である。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。長甕 1198 は B 類である。口縁部資料で、外面にはスガが付着している。仏鉢 1199 はほぼ完形の土器で、全体形が伺える資料である。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。1200 は口縁から体部にかけての資料である。

須恵器無台杯 1207 は AⅡ2 類、1206 は BⅡ1 類、1201～1203 は BⅡ2 類、1205 は BⅡ3 類、1204 は CⅡ2 類に分類される。いずれも底部切り離しはヘラ切りで、回転方向は左右ともに確認された。墨書は 1203 底部外面に「万」、1204 底部外面に判読不能なものが確認された。胎土は 1201・1203・1204・1206・1207 が B 群、1202・1205 が C 群である。大甕 1208 は口縁端部を欠いた資料である。口径は不明だが胎土は C 群で、内面にヘラナデの痕跡が残る。時期は須恵器無台杯 1207 がやや新しい様相を示すものの、全体としては概ねⅤ期の範疇に収まるものとする。

#### b 包含層出土土器・陶磁器 (図版 177～180・203・204、写真図版 127・144～146・176・232)

古 代 (図版 177～180、写真図版 127・144～146・232) 土師器無台碗 a (1209～1212)・有台皿 (1213)・長甕 (1214・1215)・小甕 (1216・1218～1222)・台付鉢 (1217・1229)・鍋 (1223～1228)・仏鉢 (1230～1232)、黒色土器無台碗 (1233～1236)・有台碗 (1237)・仏鉢 (1238)、須恵器無台杯 (1239・1240)・有台皿 (1241)・杯蓋 (1242)・大甕 (1243・1244)・長頸壺 (1245・1246)・広口壺 (1247)・横瓶 (1248・1249)・把手 (1250)、緑釉陶器有台碗 (1251～1252) を図化した。

土師器無台碗 a1210 は口縁から体部下半にかけての資料で AⅡ類である。1209・1211・1212 は底部から体部にかけての資料で、いずれも切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。墨書は 1209 底部外面に「上万」、1210 体部外面・正位に「丁」、1211・1212 底部外面に「万」が確認された。有台皿 1213 は底部資料である。内面にミガキが残る。

長甕 1214・1215 はともに B 類で、口縁から体部半ばにかけての資料である。1214 の外面にはハケメが残る。また 1215 の外面にはカキメ・平行タタキメ b 類、内面にはカキメが施される。小甕 1216 は A 類、1218 は C 類である。1218 については外面にハケメ、内面に輪積痕が残る。東北地方に系譜を求めることができると推定される。1219～1222 は底部から体部にかけての資料である。1220・1221 の外面にはケズリが残る。いずれも底部切り離しは糸切り、回転方向は 1219 が左で、それ以外は右である。1217・1229 は台付鉢の脚部破片である。鍋 1227 は A 類、1223・1225・1226・1228 は B 類、1224 は C 類に分類される。1223・

1226・1227にはカキメが残るが、体部下半まで残存した1228については、カキメの他にもヘラケズリが観察された。また、1227の内面にはスガが付着していた。仏鉢1230・1231は口縁部資料である。1232は底部資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。

黒色土器無台碗1233・1235はBIV類、1234はCIII類である。1236は糸切り後ケズリ調整された底部資料である。いずれも外面はミガキまたはケズリ、もしくはその両方が施され、内面はミガキ調整が残る。有台碗1237は底部資料である。外面はヘラケズリ、内面はミガキが残る。仏鉢1238は口縁端部を欠いた資料である。外面にミガキ・ケズリ、内面にミガキが残る。

須恵器無台杯1239はAII1類、1240はBII2類である。1239の外面にはスガが付着している。1240の底部切り離しはヘラ切り、回転方向は左である。1241は有台皿である。底部はヘラ切りで貼り付け輪高台を持つ。杯蓋1242はつまみ部分の破片である。外面にはケズリの痕跡が残る。1239～1242の胎土はいずれもB群である。

大甕1243・1244は口縁部資料である。1243の外面にはカキメが、1244の外面には平行タタキメa類が残る。長頸壺1245は口縁から頸部にかけて、1246は高台部分の資料である。広口壺1247は口縁部資料である。横瓶1248・1249はともに口縁から体部にかけての資料である。外面には平行タタキメcもしくはa類、内面には同心円当て具痕c類が残る。1250は環状把手付壺の把手の破片資料であると思われる。外面・内面ともにヘラケズリで成形されている。胎土については1246がA群、1245・1247がB群、1243・1244・1248・1249がC群、1250がD群である。

緑釉陶器有台碗1251は口縁から体部にかけての資料である。口縁端部内面に沈線が巡る。胎土は精良で素地は硬質であった。前述した645と同一個体の可能性がある。1252は全体形が伺える資料で、底部は削り出し高台である。底部内面にはトチン痕も残る。口縁端部内面に沈線を持ち、全体的にやや厚手の作りである。素地は硬質で胎土には長石を多く含む。いずれも京都洛西産と推察される。

3区包含層出土土器の所属時期は概ねVI期に収まると推定される。

中世(図版203・204、写真図版176) 土師器皿(1717)、珠洲焼水注(1718)・壺T種(1719)・甕(1720)・片口鉢(1721～1724)を図化した。中世土師器皿1717は手づくね成形の小皿である。薄手の作りで体部外面には僅かに稜が残る。珠洲焼水注1718は肩部に耳の痕跡があり、その下に注口がつく。頸部下には波状文が施され、体部中ほどには弧状文が施文される。壺T種1719は底部資料である。底部は砂底で、底部外面と破面が転用研磨具として使用されている。甕1720は口縁端部の破片資料である。頸部は短く口縁端部に面を持つ。時期は珠洲V期に比定され、1698と同一個体の可能性がある。片口鉢1721・1724は口縁部から体部にかけての資料である。1721は内面に1単位13目の卸目を施す。時期はII期である。1724は口縁部の破片である。漆で接合した痕が確認された。時期はIII期である。1722・1723は片口鉢の底部資料である。1722は内面に1単位10目の卸目を施しており、底部付近は使用により磨耗している。1723は内面に卸目が見られない。1722・1723の外底面はどちらも静止糸切りであった。

#### 4) 第18次調査4区出土土器・陶磁器

##### a 遺構出土土器・陶磁器

SE44(図版180、写真図版146)

土師器小甕(1254)を図化した。C類である。他に古墳時代の土師器甕の破片2点が出土している。

SK1(図版180、写真図版146)

図化した土師器無台碗a(1255)・鍋(1256)、須恵器無台杯(1257)の他に、古墳時代の土師器甕の破片10点が出土している。土師器無台碗a1255は底部から体部にかけての資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。鍋1256はB類である。外面にカキメ・平行タタキメb類・ヘラケズリ、内面に同心円当て具痕a類が見られる。

須恵器無台杯1257はBII類で、胎土はB群である。時期はVI期に収まるものとする。



**SX3** (図版 122・180、写真図版 127・128・146)

古墳時代の土師器甕(5)、須恵器杯(4)、平安時代の黒色土器無台碗(1258)を図化した。他に古墳時代の土師器杯・甕などが出土している。

須恵器杯4は丸底で底部にはロクロケズリが施される。口縁部はやや内傾して伸び、端部は丸く収まる。陶邑編年〔田辺1981〕のTK10号窯段階併行期に比定される。土師器甕5は口縁部の破片資料で外反して開く。内外面ともヨコナデを施している。

平安時代の黒色土器無台碗(1258)はBIV類である。内外面にミガキが施される。

**SX82** (図版 122・180、写真図版 127・146)

古墳時代の土師器甕(6)、平安時代の黒色土器無台碗(1259)を図化した。他に古墳時代の土師器杯・甕の破片、平安時代の土師器無台碗が出土している。

古墳時代の土師器甕6は底部資料で、外面にわずかにハケメが見られる。SX3と接合関係にある。

平安時代の黒色土器無台碗1259はAIV類である。内外面にミガキが施される。

**SD2** (図版 122・180、写真図版 127・128・146)

図化した古墳時代の土師器杯(7)・高杯(8)・壺(9)・甕(10)、平安時代の須恵器無台杯(1260)の他に、中世の青磁碗の破片1点が出土している。

古墳時代の土師器杯7は体部と口縁部の境に明瞭な段を持ち、口縁部は内湾しながら上方へ伸びる。底部にはヘラ記号「/」が見られる。須恵器を模倣した形態であろう。内外面にミガキを施し、底部外面にはケズリの痕跡が残る。8は高杯脚部の破片資料である。脚部は短く、外面にはミガキを施す。杯部内面は黒色処理されている。壺9は口縁部から体部にかけての資料である。やや肩が張る球状の体部を持ち、外傾して伸びる口縁部は端部でやや内湾する。内外面にミガキが施され、内面は黒色処理を行う。10は甕の口縁部破片資料である。外反気味に開き、外面にわずかにハケメが残る。

平安時代の須恵器無台杯(1260)はAIII類で、胎土はC群である。

**SD7** (図版 122・180・204、写真図版 127・128・146・176)

古墳時代の土師器杯(11・12)、平安時代の須恵器杯蓋(1261)、中世の白磁碗(1725)を図化した。

古墳時代の土師器杯11は体部中位で口縁部が屈曲し外傾して長く伸びる。12は杯の破片資料で、11同様に体部中位程から口縁部が外傾し大きく開く。11・12ともに内外面にミガキを施す。

平安時代の須恵器杯蓋(1261)は、口縁から体部にかけての資料で、つまみ部分は欠損している。胎土C群で、外面にケズリが残る。

中世の白磁碗(1725)は体部の破片資料である。

**SD10** (図版 122・180、写真図版 127・146)

古墳時代の土師器甕1点(13)、平安時代の須恵器無台杯(1262)を図化した。

古墳時代の土師器甕13は底部全体が孔となっており、内外面はハケメ調整される。

平安時代の須恵器無台杯(1262)はBII類で、胎土はB群である。

**SD13** (図版 180・204、写真図版 146・176)

平安時代の土師器無台碗(1263)、中世の青磁皿(1726)を図化した。

平安時代の土師器無台碗1263は、赤彩されていると考えられ、III~IV期のものと推定される。

中世の青磁皿(1726)は、小型の皿I2a類で外底部の釉が削り取られている。D期(XIV~XV期、12世紀中頃~後半)に相当する。

**SD40** (図版 180、写真図版 146)

須恵器無台杯(1264)を図化した。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。胎土はC群である。V期の範疇に収まると考える。

b 包含層出土土器 (図版 122～124・180・181、写真図版 127・128・146)

古墳時代 (図版 122～124、写真図版 127・128) 土師器杯 (14～16)・高杯 (17～19)・壺 (20・21)・甕 (22～34)・鉢 (35)・手づくね土器 (36) を図化した。杯 14 は口縁部から体部にかけての資料である。口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部は外反して上方に伸びる。15 はやや深い半球状の体部に内湾気味の短い口縁部が外へ開く。底部外面にヘラ記号「×」が施される。16 は外面では体部と口縁部の境がはっきりしないが内面に明瞭な稜が見られる。口縁部は外反して伸びる。14・16 は内面と外面口縁部にミガキを施す。体部は磨耗しているため調整は不明である。15 は内外面全面にミガキを施し、底部はヘラナデで平底気味に調整されている。

高杯 17 は浅い杯部に、体部上位で外側に屈曲する短い口縁部を持つ。杯部内面にはミガキを施し、黒色処理がされている。脚部は短く「ハ」の字に開く。脚部内面には成形時の工具痕が明瞭に残る。18・19 は脚部の破片資料である。19 は他の資料に比べて脚部の開きが大きい。壺 20 は口縁部から体部にかけての資料である。口縁部はやや外傾し上方に伸び、口縁部には不明瞭ではあるが段を持つ。内外面はミガキが施され内面は黒色処理を行う。21 は小型の壺の底部資料である。平底で内面に指頭圧痕が見られる。

甕 22 は長胴の体部から「く」の字状に屈曲する短い口縁部を持つ小型の甕である。外面に縦ハケ、内面には横ハケを施す。23～27 は甕の口縁部破片資料である。頸部は「く」の字、あるいは「コ」の字を呈する。内外面をヨコナデで調整し、一部にハケメが見られる。23・24・27 は口縁端部が細くなるが、25・26 は口縁端部がやや肥厚する。29 は体部に穿孔が施されている甕の破片資料で、穿孔された孔の下には受け口が成形されている。新潟県田荒川町道端遺跡〔吉井 2006〕に類例があり、系譜としては東北系だと考えられる。

28・30 は甕の体部資料である。28 は体部中～上位に最大径を持ち外面はハケメ、内面はケズリで調整される。30 は長胴の体部で内外面をハケメ調整されている。31～34 は甕の底部資料である。31 は平底で外面にケズリが施されている。32 は緩やかに立ち上がる体部を持ち、内外面をハケメ調整される。底部外面には靱殻痕が確認される。33 も平底で内外面にハケメが施されている。34 は平底とは言い難いが、安定した底部となっている。35 は鉢とした。内外面にハケメ調整が見られるが、外面は磨耗しており調整は不明瞭である。36 は手づくね土器である。

古 代 (図版 180・181、写真図版 146) 土師器長甕 (1265～1267)・小甕 (1268)・鍋 (1269・1270)・鉢 (1271)、須恵器有台杯 (1272)・杯蓋 (1273)・壺蓋 (1274)・大甕 (1275) を図化した。

土師器長甕 1267 は B 類、1265・1266 は C 類である。1265 の外面はヘラケズリ、内面はヘラケズリ・カキメ・ハケメが施されている。また、平底を持つ。1266 の外面には平行タタキメ a 類、1267 の内面にはカキメが残る。1265・1266 は III～IV 期まで遡るものと推定される。小甕 1268 は底部から体部にかけての資料である。外面にヘラケズリ、内面にカキメが施されている。鍋 1270 は B 類、1269 は C 類である。1269 の外面はハケメ・ヘラケズリが残る。口縁部が水平に伸びる形態は古相を示しており、1265・1266 と同時期であると思われる。1270 の外面にはカキメ・ヘラケズリ、内面にカキメが残る。鉢 1271 は底部資料である。外面にハケメ、内面にナデが施される。底部には葉脈痕が残る。

須恵器有台杯 1272 の底部切り離しはヘラ切り、回転方向は右である。杯蓋 1273 は外面にケズリ調整が残る。1272・1273 の胎土は C 群である。1272 は IV1 期に、1273 は IV2 期に比定されると考える。壺蓋 1274 はつまみ部分を欠いているが、外面に自然釉が確認された。大甕 1275 は口縁部資料である。内面にカキメ・ハケメが残る。1274・1275 の胎土は C 群である。4 区包含層出土古代土器には時期幅が見られ、III～VI 期と推定される各期の土器が見られた。

## E 第19次(06)調査

## 1) 第19次調査1区出土土器・陶磁器

## a 遺構出土土器・陶磁器

SE34 (図版182、写真図版164)

土師器鍋(1276)を図化した。A類の口縁部資料である。内外面にカキメ調整が残る。

SE74 (図版182、写真図版164)

土師器無台碗a(1277)・無台碗b(1278)を図化した。土師器無台碗a1277はCⅡ2類である。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。内面に墨痕が確認された。無台碗b1278はCⅢ2類である。外面にミガキ・ケズリ、内面にミガキが観察される。底部調整は糸切り後ケズリである。時期はVI1期に比定されたと考える。

SK73 (図版204、写真図版176)

中世の珠洲焼片口鉢(1727)を図化した。口縁端部資料で時期は珠洲Ⅳ期である。

SK108 (図版182、写真図版164)

無台碗a(1280・1281)・土師器無台碗b(1279・1282)、黒色土器無台碗(1283)を図化した。土師器無台碗a1280はBⅢ類である。1281は底部から体部にかけての資料で、切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。無台碗b1279はAⅣ3類、1282はBⅣ類である。ともに内面にはミガキが観察される。

黒色土器無台碗1283も底部から体部にかけての資料である。外面にケズリ、内面にミガキが施される。底部調整は糸切り後ケズリである。概ねVI期に収まるものと推定される。

SK109 (図版182、写真図版164)

土師器無台碗a(1284・1285)を図化した。土師器無台碗a1284はAⅡ2類である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右で、SK108と接合関係にある。1285は底部から体部にかけての資料である。概ねVI期に収まると思われる。

SK110 (図版182、写真図版164)

土師器無台碗a(1286・1287)・無台碗b(1288)・小甕(1289)・鍋(1290)・鉢(1291)、須恵器環状把手付壺(1292)を図化した。

土師器無台碗a1286・1287はともに底部から体部にかけての資料で、1287については内面の剥離が認められる。無台碗b1288は内面にミガキが施される。1286～1288の切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。1288には糸切り後ケズリが施される。小甕1289はC類とした。口縁から体部半ばまでの資料である。鍋1290はA類である。外面にカキメ・ヘラケズリ・平行タタキメa類、内面にハケメ・ヘラケズリ・指頭圧痕が観察された。SD112と接合関係にある。鉢1291は底部から体部にかけての資料である。外面にナデ・ヘラケズリが施される。底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。須恵器1292は環状把手付壺で頸城郡に特徴的な器種である。胎土はD群で、なかでも滝寺古窯跡群産であると考えられる。時期はⅣ～Ⅵ期と推定される。

SX77 (図版182、写真図版164)

土師器無台碗a(1293)を図化した。CⅢ類に分類した。概ねVI期に収まる。

SD64 (図版182、写真図版164)

須恵器長頸壺(1294)を図化した。胎土はC群である。他に中世の珠洲焼壺R種の破片1点・壺K種の破片2点、土師器皿の破片14点が出土している。

SD99 (図版182、写真図版164)

須恵器有台杯(1295)を図化した。底部資料で、胎土はC群とした。

SD102 (図版204、写真図版176)

中世の珠洲焼片口鉢(1728)を図化した。体部の破片資料で内面に卸目を施している。他に平安時代の土師器

無台碗の破片6点が出土している。

**SD103** (図版183、写真図版164)

図化した土師器無台碗 a (1296・1297)、黒色土器無台碗 (1298) の他に、中世土師器皿の破片1点が出土している。土師器無台碗 a1296 は BⅡ類で、1297 は底部から体部にかけての資料である。黒色土器無台碗 1298 は BⅡ類である。内外面にミガキが確認される。概ねⅥ期の範疇に収まると考える。

**SD105** (図版183、写真図版164)

土師器無台碗 a (1299)・小甕 (1300)・仏鉢 (1301)、黒色土器無台碗 (1302) を図化した。土師器無台碗 a1299 は底部から体部にかけての資料である。切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。小甕 1300 は B類である。口縁から体部下半にかけての資料である。仏鉢 1301 は口縁部資料である。

黒色土器無台碗 1302 は BⅣ類である。内外面にミガキが観察される。時期は概ねⅥ期の範疇に収まるものと思われる。

**SD107** (図版183、写真図版164)

土師器無台碗 a (1303) を図化した。CⅢ類である

**Pit115** (図版183、写真図版164)

土師器無台碗 a (1304～1306)・無台碗 b (1307)、黒色土器無台碗 (1308) を図化した。土師器無台碗 a1305 は AⅡ2類、1304 は CⅡ類に分類される。1305 については SD105 と接合関係にある。また、底部資料の 1306 とともに切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。無台碗 b1307 は CⅣ類である。内外面にミガキが観察される。黒色土器無台碗 1308 は CⅢ類である。外面にミガキ・ケズリ、内面にミガキが施される。SD105 と接合関係にある。概ねⅥ期に収まるものと推定される。

**河2** (図版183・204、写真図版164・176)

土師器無台碗 a (1309・1310)・長甕 (1311)、黒色土器有台碗 (1312)、須恵器無台杯 (1313・1314)・有台杯 (1315)、中世の土師器皿 (1729)、珠洲焼壺 K 種 (1730) を図化した。

土師器無台碗 a1309 は AⅢ類である。1310 は底部資料で、切り離し技法は糸切り、回転方向は左である。長甕 1311 は B類である。口縁から体部半ばにかけての資料である。黒色土器有台碗 1312 は底部資料である。内外面黒色処理され、ミガキが施される。

須恵器無台杯 1313 は BⅡ類、1314 は BⅢ類である。ともに口縁部破片資料である。有台杯 1315 は底部から体部にかけての資料である。1313～1315 の胎土はいずれも B 群とした。概ねⅥ期に収まると考える。

中世の土師器皿 1729 は小型の皿でロクロ成形底部糸切りである。底部が厚手に作られている。珠洲焼壺 K 種 1730 は体部に櫛目文が施される装飾壺である。1630 と同一個体と考えられ、時期は珠洲Ⅲ期である。

**b 包含層出土土器** (図版183・184・204、写真図版164・165・176・232)

**古 代** (図版183・184、写真図版164・165・232) 土師器無台碗 a (1316～1326)・無台碗 b (1327)・小甕 (1328・1329)・仏鉢 (1330～1333)、黒色土器無台碗 (1334～1336)、須恵器無台杯 (1337)・有台杯 (1338)・杯蓋 (1339)・大甕 (1340・1341)、緑釉陶器有台碗 (1342) を図化した。

土師器無台碗 a1320 は AⅠ2類、1316 は AⅠ3類、1318 は AⅡ2類、1319 は BⅡ2類、1321 は BⅡ3類、1323・1324 は CⅠ2類、1325・1326 は CⅡ2類、1317 は CⅡ3類に分類される。1322 は底部から体部にかけての資料である。いずれも切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。無台碗 b1327 は CⅣ3類である。外面にミガキ・ケズリ、内面にミガキが観察される。底部調整は糸切り後ケズリである。小甕 1328 は B類、1329 は底部から体部にかけての資料である。仏鉢 1330～1333 の4個体のうち、唯一全体形を伺うことができたのが 1331 である。外面にはヘラケズリが施され、底部資料の 1332 とともに切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。1330・1333 は口縁部資料で、1333 の内面にはカキメが観察された。

黒色土器無台碗 1334 は CⅡ3類、1335 は CⅢ2類、1336 は底部から体部にかけての資料である。3個体



とも外面にはミガキやケズリが施され、内面はミガキ調整されている。底部に関しても糸切り後にケズリもしくはミガキの調整痕が残る。1334・1335は共に口縁端部が屈曲して外反する。

須恵器無台杯1337はBⅡ1類である。底部切り離しはヘラ切り、回転方向は左である。底部外面に墨書「万」が確認された。有台杯1338は底部資料である。杯蓋1339は口縁部資料である。胎土については1337・1338がB群、1339がC群である。大甕1340・1341はともに遺存率の低い口縁部資料である。1340の外面には波状文が確認できたが、1341については口径が不明である。胎土は1340がA群、1341がC群である。緑釉陶器有台碗1342は体部破片資料である。素地は軟質で釉薬の剥落が著しいことから京都洛北産と推定される。

1区包含層出土古代土器の所属時期は概ねⅥ期の範疇に収まると推定される。

中世(図版204、写真図版176) 土師器皿(1731)、珠洲焼片口鉢(1732)を図化した。中世土師器皿1731は底部資料である。小型の皿で、ロクロ成形底部ヘラ切りであった。珠洲焼片口鉢1732は口縁部破片である。内面に卸目が施されており、時期は珠洲Ⅳ期である。

## 2) 第19次調査2区出土土器・陶磁器

### a 遺構出土土器・陶磁器

SE58(図版185、写真図版165)

土師器無台碗a(1343)、黒色土器無台碗(1344)を図化した。土師器無台碗a1343はC類である。黒色土器無台碗1344もC類で、内外面にミガキが施されている。1343・1344はともに遺存率が低く、2個体とも口径は不明である。概ねⅥ期の範疇と推定される。

SK12(図版185、写真図版165)

土師器無台碗a(1345～1348)を図化した。土師器無台碗a1345はAⅢ類、1346はCⅡ類である。1347・1348は底部から体部にかけての資料で、底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。また1348はSD6と接合関係にある。

SK14(図版185、写真図版165)

土師器無台碗a(1349)を図化した。底部切り離しが糸切り、回転方向は右である。SK15と接合関係にある。

SK17(図版185、写真図版165)

土師器無台碗a(1350)を図化した。底部から体部にかけての資料である。

SK95(図版185、写真図版165)

図化した土師器無台碗a(1351・1353)・無台碗b(1352)・長甕(1354)、黒色土器無台碗(1355)、須恵器無台杯(1356・1357)・長頸壺(1358)、灰釉陶器有台皿(1359)の他に、中世土師器皿の破片2点が出土している。

土師器無台碗a1351はCⅢ類である。1353は底部資料で、切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。無台碗b1352はBⅣ類である。内面にミガキの痕跡が残る。長甕1354はB類である。黒色土器無台碗1355は外面にケズリ、内面にミガキが施され、底部調整は糸切り後ケズリである。SD6と接合関係にある。

須恵器無台杯1356はAⅢ類、1357はBⅡ類である。ともに口縁部資料で胎土はB群である。長頸壺1358も口縁部破片資料で、胎土はD群である。灰釉陶器有台皿1359は高台を欠いた底部資料である。猿投窯産と推察される。出土土器の時期は概ねⅥ期の範疇に収まるものとする。

SK97(図版185、写真図版165)

土師器無台碗a(1360)を図化した。CⅡ類である。

SK98(図版185・186、写真図版165・166・232)

土師器無台碗a(1361～1373)・長甕(1374)、黒色土器無台碗(1375～1380)・有台碗(1381)、須恵器長頸壺(1382)を図化した。

土師器無台碗a1364～1366はAⅡ2類、1361～1363はAⅡ3類、1367・1368はBⅡ2類、1369～

1372はCⅡ2類、1373はCⅢ3類に分類される。1362・1373には外面にミガキやケズリの調整痕、内面にミガキが確認された。底部切り離しは糸切りで、判別できた回転方向はすべて右である。また、1366の体部外面・倒位に判読不能な墨書、1368の体部外面・倒位に墨書「良」が確認された。いずれも切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。長甕1374はB類で、SD6と接合関係にある。

黒色土器無台碗1377はAⅡ2類、1378はAⅡ3類、1376はAⅢ2類、1379はCⅠ3類、1380はCⅢ2類に分類される。1375は底部から体部にかけての資料である。いずれも外面にミガキもしくはミガキ・ケズリの調整が残り、内面にはミガキが施される。底部が残る資料にはいずれも糸切り後にミガキやケズリの調整が伺える。全体的に器壁が薄く作られている。有台碗1381は高台部分の資料である。内面にミガキが観察される。

須恵器1382は長頸壺の体部資料である。外面にケズリの痕跡が残る。胎土はB群で、SD94と接合関係にある。時期はVI2・3期に比定されると考える。

**SX4** (図版186、写真図版166)

土師器無台碗a(1383)を図化した。底部切り離しが糸切り、回転方向は右である。

**SX109** (図版186、写真図版167)

土師器無台碗a(1385・1386)、黒色土器無台碗(1384)、須恵器長頸壺(1387)を図化した。土師器無台碗a1385はCⅢ類である。1386は底部から体部にかけての資料で、切り離し技法が糸切り、回転方向は右である。黒色土器無台碗1384はAⅢ3類である。外面にケズリ・ミガキ、内面にミガキが施され、底部調整は糸切り後ミガキである。須恵器長頸壺1387はSD6と接合関係にある。胎土はB群とした。概ねVI期に収まると考える。

**SX162** (図版186、写真図版167)

土師器無台碗a(1388)を図化した。AⅠ類である。

**SD1** (図版186、写真図版167)

須恵器無台杯(1389)・杯蓋(1390)を図化した。須恵器無台杯1389はBⅡ類の口縁部資料である。杯蓋390は口縁端部にかえしが付かず、丸く収まる。胎土についてはともにB群である。

**SD6** (図版187～189、204、写真図版167・168・176)

土師器無台碗a(1393・1395・1396)・無台碗b(1392・1394)・長甕(1397～1404)・小甕(1405～1409)・鍋(1410～1412)・鉢(1413)・仏鉢(1414)、黒色土器無台碗(1415～1418)、須恵器無台杯(1419～1426)・杯蓋(1427)・大甕(1428～1433)・長頸壺(1434～1439)、中世の土師器皿(1733・1734)、珠洲焼甕(1735)・片口鉢(1736)を図化した。

土師器無台碗a1393はBⅣ類である。1395・1396は底部から体部にかけての資料で、ともに糸切りである。回転方向は1395が左、1396が右である。無台碗b1392はBⅢ類、1394はCⅣ類である。ともに内面にミガキが観察される。長甕1400はA類、1397・1398・1401～1403はB類、1399・1404はC類に分類される。一部、内面にカキメが観察されるが、いずれも口縁の残存率が低い資料である。小甕1407・1408はB類、1405・1406はC類に分類される。1409は底部資料で、切り離し技法は糸切り、回転方向は右である。鍋1410・1411はB類、1412はC類に分類される。1410の外面には平行タタキメb類・ヘラケズリ、内面にはハケメが残る。鉢1413は口縁端部が短く外反しており、外面にハケメが観察される。仏鉢1414は底部資料である。

黒色土器無台碗1416はAⅢ類、1415はBⅡ2類に分類される。1417・1418は底部から体部にかけての資料である。外面にはミガキやケズリの痕跡が残り、内面にはミガキが観察される。1417・1418の底部は糸切り後ケズリである。また、1417はSD13と接合関係にある。

須恵器無台杯1422はAⅠ類、1423はAⅡ類、1419～1421はBⅠ類、1424はBⅡ類、1425はBⅡ1類、1426はCⅢ2類に分類される。杯蓋1427はつまみ部分の資料である。胎土は1426がA群、1419～1425・1427がB群である。大甕1428・1429・1431は口縁部資料である。1431の外面には波状文が残る。

1430・1432・1433は体部資料である。3個体とも外面には平行タタキメaもしくはb類、内面には同心円当て具痕bもしくはc類などが観察される。1430はSD1と、1432は沖ノ羽遺跡の第18次調査3区包含層の出土遺物と接合関係にある。1433は割れ口に使用痕が残っていることから、砥石として転用されていたことが伺える。長頸壺1434・1435・1437は口縁部、1436・1438・1439は底部から体部にかけての資料である。1438のみ外面にケズリが観察され、切り離し技法はヘラ切り、回転方向が左と判明した。また、1438はSK95と、1439はSD1と接合関係にある。胎土については、1431・1433はA群、1428・1434・1438・1439はB群、1429・1430・1432・1436・1437はC群、1435はD群の西古志窯産である。時期は概ねVI2・3期に収まると推定される。

中世土師器皿1733・1734はロクロ成形で底部は糸切りである。1733は小型の皿で底部から短い口縁部が外反して伸びる。1734は厚手の器壁で深身の体部を持つ器形となろう。色調は1733が灰白色系、1734は橙色系である。珠洲焼甕1735は体部の破片資料である。外面に並行タタキメ、内面に押圧痕が残る。片口鉢1736は口縁端部の破片である。内面には卸目が施されるが1単位あたりの目数は不明である。時期は珠洲II期である。

**SD13** (図版189・204、写真図版168・176)

図化した土師器無台椀b(1440)・小甕(1441)・鍋(1442)、須恵器無台杯(1443)・杯蓋(1444)・長頸壺(1445)、中世の珠洲焼甕(1737)を図化した。

土師器無台椀b1440はBⅢ類で、内面にミガキが観察される。小甕1441は体部外面下半にケズリがを施し、底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。鍋1442はB類である。

須恵器無台杯1443はBⅢ類で、SD6と接合関係にある。杯蓋1444は口縁部資料である。1443・1444の胎土はともにB群である。長頸壺1445は外面にケズリ調整と自然軸が残る。胎土はB群で、SK95と接合関係にある。

珠洲焼甕1737は体部の破片資料である。外面に並行タタキメ、内面には押圧痕とハケメを確認した。外面を研磨具として転用している。

**SD20** (図版186、写真図版167)

土師器鍋(1391)を図化した。B類である。外面にカキメ調整が残る口縁端部の破片資料である。

**SD55** (図版190、写真図版168)

土師器無台椀a(1446)、黒色土器無台椀(1447・1448)を図化した。土師器無台椀a1446はBⅡ類である。黒色土器無台椀1447はCⅢ類で、外面・内面にミガキが観察される。1448は体部から底部にかけての資料で、外面はケズリ、内面はミガキ、底部は糸切り後ミガキ調整されている。概ねVI2・3期に収まると考える。

**SD56** (図版190、写真図版168)

土師器長甕(1449)、須恵器杯蓋(1450)を図化した。土師器長甕1449はB類の口縁部破片資料である。須恵器杯蓋1450も口縁部破片資料で、胎土はC群である。

**SD75** (図版190、写真図版168)

土師器小甕(1451)を図化した。底部から体部にかけての資料である。

**SD79** (図版190・204、写真図版168・176)

土師器無台椀a(1452～1454)・小甕(1455)、黒色土器無台椀(1456)、須恵器無台杯(1457)、緑釉陶器有台椀(1458)、中世土師器皿(1738)を図化した。

土師器無台椀a1453はAⅡ3類、1452はBⅠ類、1454は底部から体部にかけての資料である。1453・1454の底部切り離しは糸切り、回転方向は右である。小甕1455は外面にケズリが残る。黒色土器無台椀1456はAⅢ類である。外面・内面にミガキが観察される。

須恵器無台杯1457はBⅡ類で、胎土はB群である。緑釉陶器有台椀1458は体部資料である。胎土は精良で素地は硬質であった。京都洛西産である。出土土器の時期は概ねVI期に収まるものと推定される。

中世土師器皿 1738 は底部付近の資料で、ロクロ成形された小型の皿である。

**SD92** (図版 190、写真図版 168)

緑釉陶器有台皿 (1459) を図化した。素地は硬質で、胎土には長石が多く混じる。口縁端部内面には沈線が巡る。SD6 と接合関係にあり、後述する 1564 と同一個体の可能性がある。京都洛西産である。

**SD94** (図版 190～192、写真図版 168～171・232)

土師器無台椀 (1460～1507)・鍋 (1508・1509)、黒色土器無台椀 (1510～1520)、須恵器無台杯 (1521)・有台杯 (1522) を図化した。

土師器無台椀は a と b に大別した。無台椀 a には 1460～1478・1480～1491・1493・1495～1499・1501・1503・1505～1507 を分類した。

1460・1461・1462・1465 は A I 3 類、1477 は A II 類、1476 は A II 1 類、1469・1478 は A II 2 類、1466～1468・1470・1473 は A II 3 類、1480 は A III 類、1482 は A IV 2 類、1481 は A IV 3 類、1485 は B I 2 類、1484 は B I 3 類、1490 は B II 1 類、1471・1474・1486・1487・1489 は B II 2 類、1472・1475・1488・1501 は B II 3 類、1463・1464 は C I 3 類、1495・1497 は C II 2 類、1493・1496・1498 は C II 3 類、1503 は C III 3 類に分類される。

1483・1491・1499・1505～1507 は底部から体部にかけての資料である。底部が残存している個体については切り離し技法がいずれも糸切り、さらに回転方向が確認されたもののすべてが右である。

無台椀 b には 1479・1492・1494・1500・1502・1504 を分類した。1479 は A II 2 類、1492 は B III 3 類、1494 は C II 類、1502 は C II 2 類、1504 は C III 3 類、1500 は底部から体部にかけての資料である。器面にはミガキやケズリの痕跡が残り、底部には糸切り後にケズリ調整が加えられている。墨書土器も見られ、1501 の体部外面・倒位に墨書「吉」、1460 の体部外面・倒位に判読不能な墨書が確認された。鍋 1508 は A 類である。内面にカキメが残り、SD6 と接合関係にある。1509 は B 類である。

黒色土器無台椀 1510 は A II 2 類、1512 は A III 類、1511 は A III 2 類、1513 は A IV 類、1514・1515 は A IV 3 類、1516 は C II 2 類、1517 は C III 3 類に分類される。1519 については口縁端部が欠損しているものの、形態は判断できるとして C 類とした。1518・1520 は底部から体部にかけての資料である。いずれも外面はミガキもしくはミガキ・ケズリが施され、内面はミガキ調整されている。また、底部が残存する個体については、糸切り後にミガキもしくはケズリの調整が加えられている。

須恵器無台杯 1521 は B II 3 類である。ほぼ完形で、底部切り離しはヘラ切り、回転方向は右である。有台杯 1522 は底部資料である。1521・1522 とともに胎土は B 群である。時期は VII 1 期と推定される。

**SD107** (図版 193、写真図版 171)

土師器仏鉢 (1523) を図化した。底部資料である。

**SD129** (図版 193、写真図版 171)

土師器無台椀 a (1524) を図化した。C II 類に分類した。VI 期に収まるものと思われる。

**SD160** (図版 193、写真図版 171)

須恵器長頸壺 (1525) を図化した。口縁を欠いた頸部付近の資料で、胎土は B 群とした。

**Pit144** (図版 193、写真図版 171)

土師器鍋 (1526) を図化した。C 類である。内外面にカキメ調整が残る。

**b 包含層出土土器** (図版 193～195・204、写真図版 171・172・176)

古 代 土師器無台椀 a (1527～1530・1532～1534)・無台椀 b (1531・1535)・長甕 (1536)・小甕 (1537～1540)・鍋 (1541～1544)、黒色土器無台椀 (1545・1546)・有台皿 (1547)、須恵器無台杯 (1548～1552)・有台杯 (1553)・長頸壺 (1554～1557)・小壺 (1558)・短頸壺 (1559)・大甕 (1560～1562)、緑釉陶器香炉蓋 (1563)・有台皿 (1564)・耳皿 (1565) を図化した。図化したものはすべて古代の土器である。



土師器無台椀 a1527 はAⅡ1類、1528 はBⅡ2類、1533 はBⅣ類、1529 はCⅡ類、1530 はCⅢ類に分類される。1532・1534 は底部から体部にかけての資料である。底部が残存する個体についてはいずれも糸切りであるが、1534 のみ回転方向を右と判別できた。無台椀 b1531 はCⅣ類で、内外面にミガキが観察される。1535 は底部から体部にかけての資料で、内面はミガキが残る。底部にも糸切り後ミガキを施す。

長甕 1536 はB類である。小甕 1537・1538 もB類、1539・1540 は底部から体部にかけての資料である。鍋 1541～1543 はB類、1544 はC類である。1542 の外面にカキメが観察された。いずれも口縁部の破片資料である。

黒色土器無台椀 1545・1546 はCⅢ類である。ともに外面・内面にミガキが残る。有台皿 1547 は高台部分の資料である。内面にミガキが観察された。

須恵器無台杯 1550・1551 はAⅢ類、1548・1549 はBⅢ類、1552 は底部から体部にかけての資料である。有台杯 1553 も底部から体部にかけての資料である。1548～1553 の胎土はいずれもB群である。長頸壺 1554・1555 は遺存率の低い口縁部資料である。1556・1557 は底部から体部にかけての資料で、外面にはケズリやハラケズリの痕跡が残る。小壺 1558 も底部から体部にかけての資料である。短頸壺 1559 は口縁から体部にかけての資料で、外面に自然釉が残る。大甕 1560 は外面に平行タタキメ c類・カキメ、内面に同心円当て具痕 c類が観察された。1561 は外面に平行タタキメ a類、内面に同心円当て具痕 c類・平行当て具痕 d類が残る。また、沖ノ羽遺跡第18次調査の3区包含層の出土遺物と接合関係にある。1562 は口縁部破片資料で口径は不明であるが、外面に波状文が確認された。胎土は1554・1555・1557 がB群、1556・1559～1562 がC群、1558 がD群である。

緑釉陶器香炉蓋 1563 は口縁端部外面に沈線が巡る。胎土は精良で素地は硬質であった。猿投窯産で702と同一個体の可能性がある。有台皿 1564 は口縁部資料で口縁端部内面に沈線が巡る。素地は硬質で胎土には長石が多く混じる。前述の1459と同一個体の可能性がある。1565 は耳皿である。被熱により釉葉が剥落しているが、底部に糸切り痕が残る。素地は硬質であるが、胎土は精良で1042などの軟質のものと類似する。強い熱を受けたことにより素地が変化した可能性もある。どちらも京都系で1564 は洛西産、1565 は洛北産と推察される。

2区包含層出土古代土器の所属時期は概ねⅥ～Ⅶ期の範疇に収まると推定される。

中世 珠洲焼甕(1739)を図化した。体部の破片資料である。外面を研磨具として転用している。

### 3) 第19調査3区出土土器・陶磁器

#### a 遺構出土土器・陶磁器

SK10 (図版195、写真図版172)

土師器無台椀 a(1566)・長甕(1567)を図化した。土師器無台椀 a1566 は底部から体部にかけての資料である。長甕 1567 は体部破片資料で、外面に平行タタキメ a類、内面に平行当て具痕 b類が残る。概ねⅥ期に収まる。

SD1 (図版195、写真図版172)

土師器無台椀 a(1568・1569)を図化した。土師器無台椀 a1568 はCⅢ類、1569 は底部資料である。

SD7 (図版195、写真図版172)

土師器長甕(1570)を図化した。C類である。遺存率が低く口径は不明である。

SD8 (図版195、写真図版172)

土師器長甕(1571)を図化した。C類に分類した。

#### b 包含層出土土器 (図版195・196、写真図版172)

土師器無台椀 a(1572)・無台椀 b(1573)・長甕(1574・1575)、須恵器無台杯(1576)を図化した。土師器無台椀 a1572 は底部切り離しが糸切り、回転方向が右である。無台椀 b1573 の切り離し調整は糸切り後ケズリである。長甕 1574・1575 はともに体部破片資料である。1574 は外面に平行タタキメ d、内面に平行当て具痕 d、1575 は外面に平行タタキメ a、内面に同心円当て具痕 a類が観察された。

須恵器無台杯 1576 は BII 類である。胎土は B 群とした。概ね VI 期の範疇に収まると推定される。

#### 4) 第 19 次調査 4 区出土土器・陶磁器

##### a 遺構出土土器・陶磁器

SD2 (図版 196、写真図版 172)

土師器無台碗 a (1577) を図化した。B I 類である。

SD4 (図版 196、写真図版 172)

須恵器大甕 (1578) を図化した。外面に平行タタキメ a 類、内面に同心円当て具痕 b 類が残る。胎土は C 群である。

SD8 (図版 196、写真図版 172)

須恵器大甕 (1579) を図化した。1579 は外面に平行タタキメ a 類・カキメ、内面に同心円当て具痕 b 類が残る。胎土は C 群である。

SD10 (図版 196、写真図版 172)

須恵器長頸壺 (1580) を図化した。外面にケズリの痕跡が残る。胎土は B 群である。

Pit13 (図版 196、写真図版 172)

土師器無台碗 a (1581) を図化した。底部から体部にかけての資料である。

##### b 包含層出土土器 (図版 196、写真図版 172)

土師器長甕 (1582)、須恵器無台杯 (1583)・長頸壺 (1584)・大甕 (1585) を図化した。土師器長甕 1582 は B 類である。須恵器無台杯 1583 は底部から体部にかけての資料である。長頸壺 1584 は外面にケズリが残る。大甕 1585 は外面に平行タタキメ b 類、内面にカキメが観察された。胎土は 1584 が B 群、1583・1585 が C 群である。時期は概ね V～VI 期に収まると考える。

## F 立会調査出土土器 (図版 124、写真図版 127・128)

第 18 次調査では本調査と併行して圃場整備に伴う排水路改修工事の立会調査を行っている。この調査でも多くの遺物が出土し、コンテナ (内径 54.5 × 33.6 × 10cm) に 8 箱検出された。このうち 4 区周辺の立会調査で古墳時代の土器が多く出土した。そこで本調査で出土した土器と比較したところ大きな時期差は見られないことから、完形に近いものを抽出し掲載した。

土師器杯 (37～42)・高杯 (43・44) を図化した。杯 37～40・42 は体部と口縁部の境界に段を形成し、口縁部は外反して大きく開く。41 は他に比べて明瞭な段を作らず、ゆるく屈曲した口縁部が上方へ伸びる。37・39・41・42 は杯部が深く、38・40 は浅い作りになっている。いずれの杯も内面にミガキを施し、黒色処理を行う。外面調整を見ると 37・39 は外面全体にミガキを施している。38 は口縁部にミガキ、体部にケズリを施す。40 は口縁部ヨコナデ、体部はケズリが施される。41・42 も口縁部をヨコナデ調整する。体部はともに磨耗が著しく調整は不明瞭であるが、41 はケズリ、42 はミガキの痕跡がわずかに認められた。また、40・42 の底部外面にはヘラ記号「×」が確認されている。

高杯 43 はやや浅い体部の中程から口縁部が上方に伸びる。口縁部はあまり開かず、弱く外反する。脚部は大きく「ハ」の字に開き、内面にハケメを残す。外面調整は磨耗により不明瞭である。44 は 43 より小型で、短い脚部にやや深身の杯部を持つ。内外面共にミガキを施し、外面には一部にケズリの痕跡も見られた。

## 第 2 節 瓦 塔 (図版 205・206、写真図版 177)

特殊品であるため、土製品のうち瓦塔のみ単独で記述する。なお、瓦塔の各部位名称・成形方法などの記述は池田敏宏「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討」『栃木県埋蔵文化財センター研究紀要 第 7 号』(1999) によった。

判別できた破片は22点で、21点を図化した。この中には、後述するように瓦堂の可能性のあるものを含む。すべて酸化炎焼成によるもので、宝珠部分1点(1750)、基壇から初軸部分1点(1752)を除き、屋蓋部の破片である。第18次調査2区で10点、3区で5点、第19次調査1区で6点、2区で1点出土している。

## A 第18次(05)調査

### 1) 第18次調査2区出土瓦塔

#### a 遺構出土瓦塔

##### SK119 (1740・1741)

屋蓋部破片2点が出土している。1740は、軸受けから瓦部分にかけての破片である。内側には心柱に通す穴の面が残存する。穴の推定直径は約7cmである。軸受け部から瓦部へは、約5度の緩やかな勾配を有する。瓦は半裁竹管4本1単位による左から右への押し引き手法で作られ、瓦幅は0.85cm、軸受け部から4.1cmのところまで瓦継ぎ目一節が残存する。軒裏面は平滑で垂木の表現は見られない。1741は、屋蓋軒先部片である。屋根瓦は瓦幅0.75cmで幅狭工具押し引き手法による。瓦継ぎ目の表現は残存部では見られない。軒裏は垂木1条が残存する。幅1.3cm、軒先部の高さは0.5cm、長さ3cmで軒裏面に収束する。接合関係は見出せなかったが、1740の欠損部分に連続する可能性がある。

##### SX23 (1742)

屋蓋軒先部片1点が出土している。屋根瓦は軒先先端から2.6cmのところ結節が見られる幅狭工具押し引き手法で表現される。瓦幅は0.9cmである。軒裏に垂木2条が残存する。垂木幅1.2cm、垂木間隔1.0cm、軒先部の高さは0.5cm、長さ3.5cmで軒裏面に収束する。ヘラ削り出しC2手法に分類される。

##### SD2 (1743)

屋蓋軒先部片1点が出土している。屋根瓦は軒先先端から2.4cmのところ結節が見られる幅狭工具押し引き手法で表現される。瓦幅は0.9cmである。軒裏に垂木2条が残存し、軒先から0.5cm上の部分に付く。幅1.3cm、垂木間隔0.75cm、先端部からの高さは0.4cm、長さ3.3cmで軒裏面に収束する。ヘラ削り出しC2手法に分類される。軒裏面に二次的な被熱痕があり、一部にススが付着している。

##### SD160 (1744)

屋蓋軸受け部と考えられる破片1点が出土している。軸受け部は粘土紐貼り付け後にヘラナデされている。瓦部分を欠損する。

#### b 包含層出土瓦塔 (1745～1748)

西よりのグリッドで屋蓋部破片5点が出土している。

1745は、屋蓋隅棟部片と判断した。17G-1F5グリッドで出土している。隅棟は粘土紐貼り付けにより、幅は1.3cm、高さは1.5cmである。残存部では、瓦の表現はみられない。図化していないが、10mほど南の17G-2G2グリッドでも、類似する形状の破片が出土している。幅は1.4cm、高さは1.8cmである。

1746は、屋蓋軒先部片である。屋根瓦は軒先先端から2.7cmのところ結節が見られる幅狭工具押し引き手法で表現される。瓦幅は0.7cmである。軒裏は垂木2条が残存し、軒先から0.5cm上の部分に付く。幅1.1cm、垂木間隔0.95cm、先端部の高さは0.35cm、長さ2.8cmで軒裏面に収束する。一軒構成で表現され、ヘラ削り出しC2手法に分類される。

1747は、屋蓋軒先部片である。屋根瓦は軒先先端から2.5cmのところ1段目の結節が見られ、2段目が不規則になる幅狭工具押し引きB手法で表現される。瓦幅は0.9cmである。軒裏は垂木2条が残存し、軒先から0.4cm上の部分に付く。幅1.0cm、垂木間隔1.0cm、先端部の高さは0.5cm、長さ4.0cmで軒裏面に収束する。一軒構成で表現され、ヘラ削り出しC2手法に分類される。

1748は、摩滅が激しく、詳細は不明であるが、瓦とみられる凹凸があることから屋蓋片と判断した。

2) 第18次調査3区出土瓦塔

a 遺構出土瓦塔

SE366 (1749)

屋蓋部軒先破片1点が出土している。屋根瓦は軒先先端から2.9cmのところに結節が見られる幅狭工具押し引き手法で表現される。瓦幅は0.85cmである。軒裏は垂木幅1.05cm、垂木間隔1.0cm、一軒構成で表現され、ヘラ削り出しC2手法に分類される。

河1 (1750～1753)

いずれも岸に近い上層部で出土している。

1750は宝珠部分である。宝珠下半部及び円柱部上半は、ヘラ状工具によるヨコナデが施される。円柱部は下に向かって太くなり、最下部は1mmほどの段を有し、細くなる。竜車との接続部であろうか。円柱下部は中空である。

1751は、屋蓋軒先部片である。屋根瓦は瓦幅0.8cmで幅狭工具押し引き手法による。瓦継ぎ目の表現は残存部では見られない。軒裏は垂木の剥落痕が見られる。

1752は、基壇から初軸にかけての破片である。直径0.5mm程度の石英・長石を多く含み、胎土はやや粗く、全体に摩滅・剥落がみられる。内面は左下から右斜め上にかけて、ヘラナデと小石の移動に伴う条線が見られる。初軸外面には、ヘラナデにより地長押しと扉が表現され、基壇・隅柱は、粘土を貼り付け、ヘラナデで調整して表現している。

1753は、屋蓋部片である。屋根瓦は軒先先端から2cm、4.7cmのところで2段の結節が見られる幅狭工具押し引き手法Cで表現される。瓦幅は0.8～0.9cmである。軒裏は垂木幅1.2cm、垂木間隔0.9cm、一軒構成の垂木が表現される。ヘラ削り出しC2手法に分類される。

B 第19次(06)調査

1) 第19次調査1区出土瓦塔

a 遺構出土瓦塔

河2 (1754～1756)

1754は屋蓋軸受け部片である。瓦の部分はずかに残る。幅狭工具押し引き手法で、瓦幅は0.8cmである。

1755は、屋蓋部片である。屋根瓦は軒先先端から2.4cm、4.1cmのところで二節の結節が見られる幅狭工具押し引き手法Cで表現される。瓦幅は0.7cmである。軒裏は垂木幅0.9cm、垂木間隔0.6cm、一軒構成の垂木が表現される。ヘラ削り出しC2手法に分類される。1756は胎土と形状から屋蓋部片と判断した。

b 包含層出土瓦塔 (1757～1759)

1区路線部の17G-1C17・18・23グリッドで屋蓋部破片3点が出土している。

1757は、屋蓋軒先部片である。屋根瓦は瓦幅0.7cmで幅狭工具押し引き手法による。瓦継ぎ目の表現は残存部では見られない。軒裏には、幅0.9cmの垂木1条が残存する。一軒構成で表現され、ヘラ削り出しC2手法に分類される。1758は、屋蓋部片である。棟の両側直角方向に屋根瓦列が表現され、棟に対して約25度の勾配を持つ。瓦幅は0.75cmである。軒裏はヘラナデによる調整が施され、垂木の表現はない。他の瓦塔屋蓋部片と胎土・色調・焼成は共通するが、瓦列の配置、屋蓋の勾配が異なる。瓦堂の屋蓋部片の可能性もある。1759は、屋蓋軒先部片である。屋根瓦は瓦幅0.8cmで、軒先先端から2.1cmのところで結節一節が残存する。幅狭工具押し引き手法AまたはC手法に分類される。軒裏には、幅0.9cmの垂木1条が残存する。一軒構成で表現され、ヘラ削り出しC2手法に分類される。



2) 第19次調査2区出土瓦塔

a 包含層出土瓦塔 (1760)

北東よりの16F-8H6グリッドで屋蓋部片1点が出土している。瓦幅は0.7cmで、結節または軸受けとの接続部とみられる段がある。軒裏には、垂木はない。

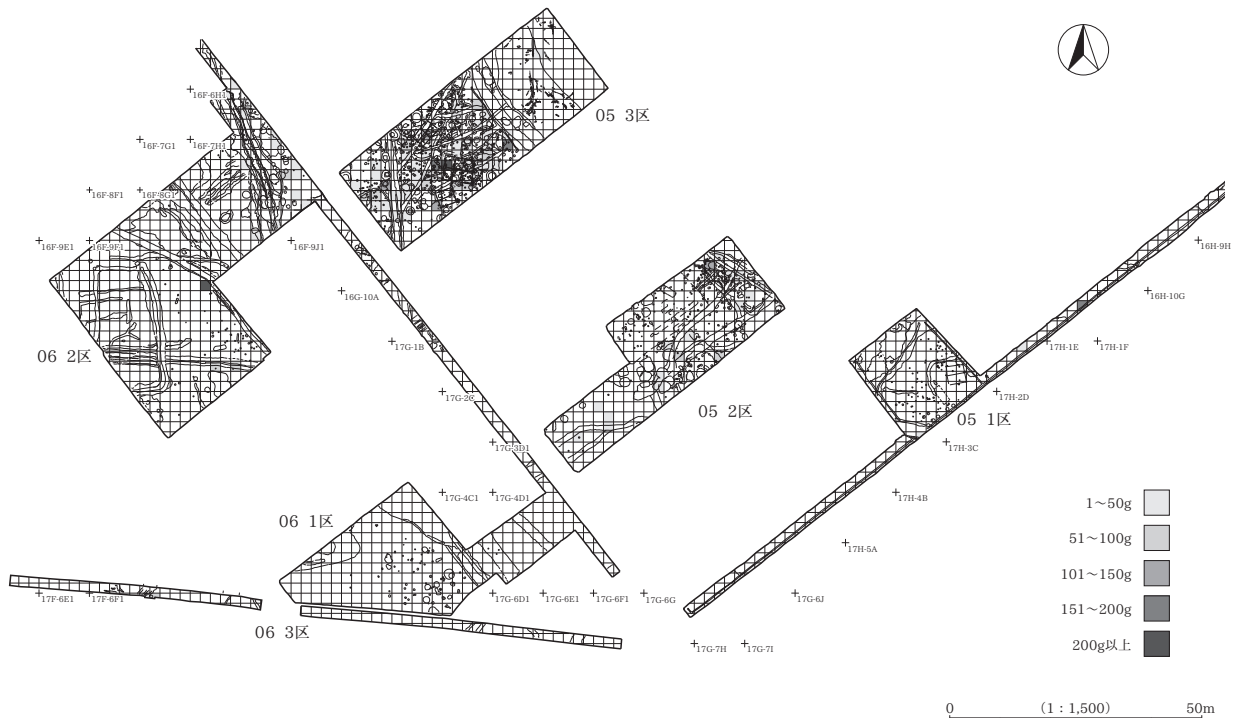
第3節 土製品 (図版206・207、写真図版177)

本報告掲載内における古代・中世に所属する土製品として、土錘・筒形土製品・紡錘車、製鉄関連遺物の羽口・坩堝などがある。

**土錘** 小片を除き、形状を復元可能な9点を図化した。すべて管状である。完形品で5から10g程度の小型品と50g以上の大型品があり、形状により細形、太形、俵形に分けられる。小型品7点中6点が第18次調査1区で出土している。

**筒形土製品** 2点を図示した。ロクロ成形のものと非ロクロ成形のものがある。

**羽口** 外径及び口径を復元可能な製品8点を図化した。このほか、鍛冶関連遺物として149点、3,696gの鉄滓が確認されている。出土重量分布を第13図に示した。ほとんどが第18次調査3区で出土している。科学的な分析を行っていないため、鍛錬・精錬いずれの鍛冶レベルのものかは不明である。



第13図 鉄滓出土重量分布図

A 第18次(05)調査

1) 第18次調査1区出土土製品

a 遺構出土土製品

SK19 (1761~1763)

小型の土錘3点を図示した。3点とも形状は細形で、色調は灰白色、精良な胎土である。ナデによる丁寧な調

整が施され、一部に指頭圧痕を残す。両端部に使用に伴う摩滅が見られる。

**SD16 (1764)**

筒形土製品1点が出土している。復元径13.0cmである。非ロクロ成形で、内外面に粘土紐の痕を残す。内面は横方向の後縦方向の、外面は縦方向のハケメが見られる。外面は二次的な被熱が見られ、ススが付着している。

**b 包含層出土土製品 (1765～1767)**

小型の土錘3点を図化した。1765・1766は、形状・胎土・調整とも1761～1763と共通する。1765は外面に巻付け粘土の継ぎ目痕を残し、1766は端部に面を持つ。1767は形状太形で、色調は鈍い黄橙色、端部に面を持つ。

**2) 第18次調査3区出土土製品**

**a 遺構出土土製品**

**SD424 (1775)**

羽口先端部片1点が出土している。先端部外面にガラス質の融解物が付着する。

**河1 (1768・1769・1776～1778)**

土錘・鍛冶関連遺物が出土している。1768は、重量9.3gの小型の土錘で、形状は太形である。1769は、形状俵型の大型の土錘である。

1776は、羽口先端部片で、先端部外面にガラス質の融解物がわずかに付着する。1777・1778は鍛冶関連遺物と思われるが、用途は不明である。1777は、鉢状の小型容器である。口縁部が面取りされ、外面に指頭圧痕を残す。胎土・焼成は羽口と類似し内外面とも被熱しているが、融解物の付着はみられない。1778も小型容器の口縁部とした。口縁部が面取りされ、わずかにガラス質の融解物が付着する。

**b 包含層出土土製品 (1770・1771・1779～1781)**

土錘1点、紡錘車1点、鍛冶関連遺物3点を図化した。1770は、俵形で大型の土錘である。1771は土師質の紡錘車である。直径5.9cm、孔径0.7cmで、下半部ははがれて欠損している。上面に糸切り状の痕跡が残り、土師器小甕底部の転用品の可能性もある。

1779・1780は羽口先端部片である。2点とも先端部外面に少量のガラス質融解物が付着する。1780は外面にヘラケズリ痕を残す。他の羽口片と比較して、器壁が薄く、焼成も堅調である。1781は坩堝である。須恵質で外面に縦のヘラケズリ痕を残す。口縁部に注ぎ口と見られる凹部があり、この部分を中心に内外面にガラス質の融解物が厚く付着している。

**3) 第18次調査4区出土土製品 (1772)**

4区北東よりの15J-8A4グリッド遺物包含層(V層)で、土師質の筒形土製品1点が出土している。復元径16.3cm、ロクロ成形で、内外面にカキメが入る。上部で器壁が肥厚し、外側に段を持つ。

## **B 第19次(06)調査**

**1) 第19次調査1区出土土製品**

**a 遺構出土土製品**

**SK109 (1782・1783)**

羽口先端部片2点が出土している。先端部内外面に多量のガラス質融解物が付着する。1782が管部分からほぼ外径を変えず端部となるのに比し、1783は先端部が細く窄まる。

**b 包含層出土土製品 (1773・1774)**

1773は、土製円盤である。上面に刻線が見られる。1774は、半球形の土製品で、下部は平坦面となる。いずれも土師質で、胎土精緻である。1区路線部II層で出土しており、近世以降の所産の可能性もある。

## 2) 第19次調査3区出土土製品

## SK10 (1784・1785)

羽口先端部片2点が出土している。先端部外面に少量のガラス質融解物が付着する。2点とも端部の窄まりは少ない。直接接合しないが、端部形状や内径、灰白色の胎土が共通するところから同一個体である可能性が高い。

## 第4節 銭貨・金属製品 (図版207・208、写真図版177)

**銭貨** 3点出土しており、すべて図化した。1786は開元通寶(初鑄621年)である。第18次調査1区河25で出土している。1787は5から6枚の固着した銭貨である。上下の2枚とも錆びによる腐食が進んでおり、銭名は判読できない。第19次調査2区SK88で出土している。同遺構ではほかに須恵器・土師器の小片が出土しているのみで、時期は明確でない。六道銭として埋納された可能性がある。1788は大観通寶(初鑄1107年)である。第19次調査2区SD6の4層で出土している。

**金属製品** 本報告掲載内では、銭貨を除いて79点、1,440gの金属製品が出土している。遺構出土のものを中心に30点を図化した。1796の不明銅製品を除きすべて鉄製品で、鉄釘・刀子・不明鉄製品などがある。鉄製品については、X線写真を撮影し、長さ・太さ・幅を推定できるものについては別表8の備考欄に推定値を記載した。

鉄釘は、断面四角形で、古式の要素を持つ。全体を残すものについては、長さ50～70mm前後の小型のものと90～130mm前後の大型のものがある。

## A 第18次(05)調査

第18次(05)調査では、合わせて71点、1,293gの金属製品が出土している。

1区では11点、30gの鉄製品が出土している。鉄釘の小片が多く、図化はしていない。

2区では16点、404gの鉄製品が出土している。6点を図示した。

1789はSE20の3層で出土している長方形の不明金属製品である。鍛造品で、割れ口断面は層状である。

1790～1794は鉄釘である。1790～1792はいずれも中世の溝状遺構から出土している。1790・1793は扁平な頭を残す。

3区では、39点、806gの金属製品が出土している。23点を図化した。1796の銅製品を除き、鉄製品である。

1795は大型の鉄釘である。断面はやや扁平な長方形を呈し、鏃の可能性はある。

1796は厚さ0.8mmの薄い銅板を筒状にした製品で、棒状製品の飾り金具と考えられる。端部は半円形の雲形をなし、始点部に連弁様の透かし、雲形の先端に近い部分に木部への固定に用いると思われる直径1.5mmの穿孔がある。古代(V～VI期)に位置づけられるSE104で出土している。

1797～1817は3区で出土した鉄製品である。

1797・1798・1802・1806・1808・1809・1811は遺構で、1812～1815は遺物包含層V層で出土した鉄釘である。太さは4～8mmである。1807は直角の曲がり有し、鏃の可能性はある。

1800・1803・1804・1817は刀子の先端部片とした。全体形のわかる資料はない。刃部の幅は11～13mmと細身である。

1799はSK292で出土した長方形の鉄製品である。1805はSX439で出土している幅7mm、厚さ1.5mmの板状鉄製品である。1810・1816は三角形の板状鉄製品である。1810はPit173で出土している。いずれも用途は不明である。

4区で5点、53gの鉄製品が出土している。鉄釘の小片が多く、図化はしていない。

## B 第19次(06)調査

1区で4点、118gの鉄製品が出土している。1818は太さ7mmの鉄釘である。先端及び頭の部分を欠失している。鏝の可能性もある。遺物包含層Va層で出土している。

2区では4点、147gの出土している。使用途不明の小片のみの出土で、図化はしていない。

## 第5節 石製品 (図版209～220、写真図版179～183)

本報告掲載内における古代・中世に所属する石製品の出土点数は、4,159点、総重量は773,901gである。遺構出土のものを中心に89点を図示した。内訳は砥石30点、磨石5点、台石13点、石鉢1点、軽石製石製品38点、不明2点となっている。このほかに遺構内や包含層中から搬入礫が多数出土している。部分的に被熱した礫も多数みられ、カマド等の構築材として用いられた可能性があるが、性格を推定できるものは少数である。石製品の数値観察表は別表9に示した。また、別表1・2遺構計測表に礫類の出土点数・重量を示した。

**砥石** 分類上おおまかに仕上げ砥石、中砥石、荒砥石がある。砥石の分類は石材(産地)で分類する場合と、機能を推定して分類する場合、重量による分類、砥石の目の細かさによる分類等に分けられるようであるが、ここでは形状と石材から類推した大まかな区分である。

**仕上げ砥石** 小形の手持ち砥石を一括した。すべて形状は直方体である。かなり使い込まれ、5面すべてが砥面となっているものが多い。

**中砥石** 中形の砥石を一括した。現在も使用される鎌砥石に類似する。形状は細長い直方体状で砥面が湾曲するものが多いが、一部不定形なものもある。

**荒砥石** 花崗岩・安山岩等の川原石を用いた砥石を一括した。置き砥石として用いられていたと考えられるものと手持ち砥石として使用が考えられるものに分けられ、すべて在地産の石を用いていると推定される。

**磨石** 素材となる礫は楕円形あるいは球状の2種類で、表裏面の一部および側面に磨痕が残るものを一括した。

楕円形のものの中には手持ち砥石として使用されたものも含まれる可能性がある。磨石・叩石を含めて粉食加工等の食料生産具としての機能を想定している。

**叩石** 端部に敲打した痕跡を残すものを一括した。形状は多様である。

**台石** 花崗岩・安山岩等の川原石を加工して柱の台や作業用の台として用いられたと想定されるものを一括した。置き砥石として使用されたと想定されるものを含んでいる。

**軽石製石製品** 軽石の一部に擦痕が残る石器を一括した。形状は楕円形、円盤型、球形など多様である。磨石あるいはある種の砥石としての機能が推定される。3～5cmの小形のもの、7～8センチの中形のもの、10cm以上の大形のものに分けられる。

軽石は阿賀野川あるいは小阿賀野川の河川敷で現在でも採取可能である。特に数m地下を掘削する際表出する旧河床等に多く含まれることから、これらの石製品も近隣からの採取品であろう。

## A 第18次(05)調査

第18次調査では、合計3,229点、699,804gの石製品および礫類が出土している。内訳は1区石製品68点、17,839g、礫類290点、24,819g、2区石製品356点、371,450g、礫類1,023点、111,770g、3区石製品134点、69,939g、礫類1,180点、90,326g、4区石製品25点、6,486g、礫類153点、7,175gである。



## 1) 第18次調査1区出土石製品

## a 遺構出土石製品

## 河25 (1819～1822)

軽石製石製品4点を図化した。小形のもの(1819・1820)と中形のもの(1821・1822)がある。1819は2面、1820・1821は3面の平坦面が残る。

## b 包含層出土石製品 (1823～1829)

1823は凝灰岩製の中砥石である。形状は直方体状で、5面に砥面が残る。1824は現在の鎌砥石に類似する凝灰岩製の中砥石で、3面に砥面が残る。

軽石製石製品5点を図化した。小形のもの(1825・1826)と中形のもの(1827)、大型のもの(1828・1829)がある。

## 2) 第18次調査2区出土石製品

## a 遺構出土石製品

## SE126 (1830)

黒曜石製の不定形石器1点が出土している。

## SE133 (1831)

凝灰岩製の仕上げ砥石1点が出土している。形状は直方体状で、4面の砥面が残る。

## SE166 (1832～1835)

砥石2点、軽石製石製品1点を図化した。1832は凝灰岩製の中砥石である。形状は直方体状で、2面に砥面が残る。破損面を除く全面が被熱し、ススの付着が見られる。1833は玄武岩質安山岩製の荒砥石である。1面に砥面を残す。置き砥石として用いられたものであろう。1834は中形の軽石製石製品である。線状痕が見られる。

## SE173 (1836～1840)

平安～中世の素掘りの井戸である。荒砥石5点を図化した。

1835は凝灰岩製、隅丸直方体状の形状で自然面を下にして表面全体に砥面を残す。SE166の5層及び隣接グリッドの包含層出土のものと同接合した。1836も凝灰岩製の荒砥石である。不整形で湾曲面にも砥面を残す。1835・1836とも置き砥石として用いられたものであろう。1838は角閃石安山岩製の荒砥石である。形状は直方体状、2面に砥面を残し、持ち砥石として用いられたものであろう。1835～1837とも砥面を含めて全面に被熱痕とススの付着が見られる。1839・1840は、置き砥石として用いられたものであろう。1839は不整形、1840は直方体状でいずれも1面に砥面を残す。1840は一部に鑿による切り取り痕跡がある。

## SK131 (1841・1842)

1841は凝灰岩製の仕上げ砥石である。形状は直方体状で、4面に砥面が残る。半面に被熱及びススの付着が見られる。1842は安山岩製の中砥石で、3面に砥面を残す。

## SX23 (1843・1844)

凝灰岩製の荒砥石2点を図化した。いずれも形状は断面隅丸方形の柱状で、側面4面に砥面を残す。被熱し、細かく割れた状態で出土した。

## SX135 (1845・1846)

1845は凝灰岩製の中砥石である。形状は直方体状で、3面に砥面を残す。1846は砂岩製の台石とした。内外面の曲面が調整されており、石鉢の可能性もある。破面を含めてススの付着が見られる。

## SD4 (1847)

SD4の底部付近から用途不明の石製品1点が出土している。半分以上を欠失しておりもとの形状は半球形もしくはソロバン玉状と推測される。調整して球形にしている。石材は花崗岩である。

**b 包含層出土石製品 (1848～1857)**

1848は、厚さ8mmの板状を呈する仕上げ砥石である。石材は凝灰岩で、4面に砥面を残す。2次的な被熱及びススの付着が見られる。1849は粗粒砂岩製の荒砥石である。形状は直方体状で、2面に砥面を残す。持ち砥石として用いられたものであろう。

1850～1852は台石とした。1850は凝灰岩質の砂岩で、内外面の曲面が調整されており、石鉢の可能性もある。ススの付着が見られる。1851は玄武岩質安山岩製、1852は安山岩製で砥面を残し、荒砥石の可能性もある。

1853～1857は軽石製石製品である。いずれも円形で小形のもの(1853・1855～1857)と中形のもの(1854)がある。

**3) 第18次調査3区出土石製品**

**a 遺構出土土製品**

**SE21 (1858)**

1858は台石とした。石材は花崗岩で、形状は不整形。砥面を残し、砥石として使用された可能性があり、ススの付着が見られる。

**SE47 (1859)**

1859は小形の軽石製石製品である。

**SE55 (1860)**

1860は小形の軽石製石製品である。

**SE67 (1861・1862)**

1861・1862は、凝灰岩製の中砥石である。1861の形状は直方体状で、4面に砥面を残す。

**SE332 (1863)**

1863は扁平な円礫を利用した凝灰岩製の磨石である。

**SE366 (1864・1865)**

1864は台石とした。石材は安山岩で、形状は不整形。2面の平坦面があり、1面に砥面を残す。砥石として使用された可能性がある。1865は小型の軽石製石製品である。

**SE114 (1866・1867)**

1866・1867は大形の台石とした。いずれも石材は花崗岩である。1866は球形に近い不整形で、表面は被熱し、赤く変色している。表面は風化しており、調整や使用の痕跡は観察できない。重量8.5kgである。1867は不整形で、調整して平坦面を加工しているようである。2面の砥面を残しており、砥石として使用された可能性がある。重量31kgである。

**SX283 (1868)**

1868は、凝灰岩製の中砥石あるいは荒砥石である。2面に砥面を残す。

**SD15 (1869・1870)**

1869は、凝灰岩製の中砥石あるいは荒砥石である。断面は台形状を呈し、3面に砥面を残す。1870は小形の軽石製石製品である。

**SD84 (1871～1873)**

1871は、凝灰岩製の中砥石あるいは荒砥石である。断面は台形状を呈し、3面に砥面を残す。1872・1873は小形の軽石製石製品である。

**Pit99 (1874)**

1874は小形の軽石製石製品である。

## Pit111 (1875)

1875 は小形の軽石製石製品である。

## 河 1 (1876・1877)

1876 は、凝灰岩製の中砥石あるいは荒砥石である。形状は直方体状を呈し、3面に砥面を残す。1877 は扁平な円礫を利用した緑色凝灰岩製の磨石である。

## b 包含層出土石製品 (1878～1882)

1878～1882 は凝灰岩製の仕上げ砥石である。いずれも形状は直方体状であるが、棒状で側面4面に砥面を残すもの(1878・1880～1882)と板状で5面に砥面を残すもの(1879)がある。

1882 は凝灰岩製の紡錘車である。全体の約8分の1が残存する。復元直径は98mm、穿孔部直径12mm、厚さ12mmである。

## 4) 第18次調査4区出土石製品

## a 包含層出土石製品 (1883)

緑色凝灰岩製の磨石(1883)が出土している。

## B 第19次(06)調査

第19次調査1区～4区では、石製品168点、35,652g、礫類762点、38,445gが出土している。内訳は、1区石製品50点、4,804g、礫類222点、7,978g、2区石製品110点、30,310g、礫類513点、27,226g、3区石製品1点、79g、礫類11点、371g、4区石製品7点、459g、礫類16点、2,870gである。

## 1) 第19次調査1区出土石製品

## a 遺構出土石製品

## 河 2 (1884・1885)

1884 は凝灰岩製の中砥石である。棒状の直方体状の形状を呈し、4面の砥面を残す。使い込まれて砥面が大きく湾曲している。1885 は小形の軽石製石製品である。

## b 包含層出土石製品 (1886・1887)

1886 は凝灰岩製の中砥石である。棒状の直方体状の形状を呈し、4面の砥面を残す。

1887 は石鉢である。石材は砂岩で口縁部から底部まで残存する。内面に叩打痕が観察される。破面を含めて全体にススが付着している。

## 2) 第19次調査2区出土石製品

## a 遺構出土石製品

## SK98 (1888・1889)

古代の土坑である。1888 は安山岩製の荒砥石である。元の形状は直方体状と推測されるが、使い込まれて4面の砥面が大きく湾曲している。1面に幅・深さとも1mmほどの線状痕がある。1889 は小形の軽石製石製品である。

## SD6 (1890～1893)

平安～中世の溝である。

1890 は凝灰岩製の中砥石である。棒状の直方体状の形状を呈し、3面の砥面を残す。使い込まれて砥面が大きく湾曲している。

1891・1892 は台石とした。1891 の断面は直方体状の形状を呈し、3面の平坦面が残存する。うち1面は砥面の痕跡があり、置き砥石として用いられた可能性がある。石材は安山岩である。1892 の石材は花崗岩で4面に砥面を残す。同じく砥石の可能性もある。

1893 は小形の軽石製石製品である。

SD13 (1894～1897)

SD6 を切る中世の溝である。

1894 は滑石製の砥石である。復元直径 7 ミリの穿孔がある。硯を研ぐ砥石で類似する形状のものがある。全体に 2 次利用に伴うとみられる磨耗がある。

1895 は安山岩製の台石である。断面形状は半円と推測され、曲面部は砥面の痕跡が残る。全体に被熱し、一部は赤色に変色している。

1896・1897 は小形の軽石製石製品で、1896 は円盤状、1897 は球状の形状を呈する。

SD59 (1898～1900)

1898・1899 は小形の軽石製石製品で、1898 は球状、1899 は円盤状の形状を呈する。

1900 は凝灰岩製の荒砥石あるいは中砥石である。3 面に砥面を残す。

SD94 (1901)

平安時代の溝である。1901 は小形の軽石製石製品で、円盤状の形状を呈する。

SD107 (1902)

平安時代の溝である。1902 は小形の軽石製石製品で、球状の形状を呈する。研磨による平坦面が 1 面ある。

b 包含層出土石製品 (1903～1908)

1903 は凝灰岩製の仕上げ砥石である。4 面の砥面を残す。一部被熱し、赤色に変色している。

1904～1908 は小形の軽石製石製品で、1907 が円盤状の可能性があり、他は球状の形状を呈する。

1904・1905・1907 は 1 あるいは 2 面の研磨による平坦面がある。

## 第6節 木製品 (図版 221～270、写真図版 184～228)

### A 第18次 (05) 調査

第18次調査では 23 種類に及ぶ木製品が出土している。内訳は礎板 1 点、柱根 21 点、部材 8 点、竹材 4 点、丸木材 4 点、井戸側部材 119 点、曲物 2 点、大型円形曲物 6 点、曲物側板 6 点、円形板 4 点、棒状木製品 26 点、炭化材 4 点、板状木製品 40 点、折敷 10 点、漆器片口鉢 1 点、漆器椀 2 点、漆器盤 1 点、箸状木製品 82 点、刷毛状木製品 1 点、楔 3 点、下駄 3 点、草履芯 2 点、削片 94 点、不明・自然木 1528 点となっている。このうち、250 点を図化し、掲載した。

#### 1) 第18次調査 2 区出土木製品

SE115 (1909)

小型の曲物側板片 (1909) を図化した。内面にはケビキが入る。

SE98 (1910～1954)

大型円形曲物 (1910)・円盤板 (1911・1912)・漆器片口鉢 (1913)・棒状木製品 (1914)・箸状木製品 (1915～1954) を図化した。

1910 は大型円形曲物で井戸の水溜として使用されていた。側板一重・下籬一重構造で、下籬の幅は側板の 1/3 強である。側板内面に縦方向のケビキを入れ、さらに下縁から 3/4 まで左下がり斜め方向のケビキを入れる。加えて下縁から 1cm のところに横方向のケビキを 1 本入れている。下部に側板と下籬を貫通する穴が 2 か所あり、両者を木釘等で固定したと見られる。底板をはめた痕跡がないことから当初から水溜用として作製された可能性が高い。籬を含めた直径は 50.50cm、側板の直径は 49.4cm、高さは 33cm を測る。樹種同定の結果、スギと判明した。

1911・1912 は円形板である。1912 は直径 22cm と推定され、中央には 0.8cm × 1.2cm の長方形に穿孔されている。1913 は漆器片口鉢の注口部で内外面総黒色系漆が塗られている。樹種同定の結果、カツラと判明



した。1914 は棒状木製品である。完形に近いものもあるがほとんどは折れており、刃物によって切り込みを入れられているものもある。

#### SE106 (1955～1970)

板状木製品 (1955)・箸状木製品 (1956～1969)・下駄 (1970) を図化した。

1955 は板状木製品で、裏面には刃物疵があり、折敷の可能性もある。1956～1969 は箸状木製品である。1970 は下駄で、腐食が著しく歯は欠損している。樹種同定の結果、スギと判明した。

#### SE104 (1971～2023)

大型円形曲物 (1971)・楔 (1972)・箸状木製品 (1973)・井戸側部材 (1974～2023) を図化した。

1971 は大型円形曲物で井戸の水溜として使用されていた。側板二重・上籬一重・下籬一重構造で、外側板は内側板の6割強の幅しかなく外側板の巻かれていないところに上籬を巻く。内側板内面に縦方向のケビキを入れ、さらに上縁から8cmの幅でケビキを部分的に入れる。外側板と上・下籬にはキメカキがみられ、綴じ皮を返し縫いしている。底板をはめた痕跡は確認できない。内側板と外側板の間には楔 (1972) が差し込まれている。上部が損壊しているが、籬を含めた推定径は60.9cm、内側板の推定径は58.6cm、高さは46.1cmを測る。樹種同定の結果、スギと判明した。1972 は楔で1971に差し込まれている。1973 は箸状木製品である。

1974～1979 は横棧である。1976・1977・1979の両端には隅柱に差し込まれていた痕跡があり、1977には縦板とのアタリ痕も残る。1980～2019 は縦板である。1980・1985・1989・1992・1994・1995・2005～2008・2013の下部には方形または円形の穿孔があり、2002・2003・2014・2016・2017には横棧とのアタリ痕が残る。2020～2023 は隅柱である。2020・2022 は横棧を差し込むホゾ穴とは別に大きな切り取りがあることから建築部材などを転用した可能性がある。

#### SE11 (2024～2029)

2025・2026 は折敷である。2024・2027・2028 は折敷かもしれない。2024～2027には刃物疵が残る。2029 は箸状木製品である。

#### SE122 (2030・2031)

2030 は曲物側板片である。2031 は箸状木製品である。

#### SD4 (2032・2033)

2032・2033 は箸状木製品である。

#### Pit152 (2034)

2034 は礎板である。

#### Pit75 (2035)

2035 は柱根である。

### 2) 第18次調査3区出土木製品

#### SE72 (2036)

2036 は円形板である。

#### SE83 (2037～2039)

2037 は漆器椀で高台と口縁部は欠損している。内外面総黒色系漆で高台内面は露胎となる。内外面の中心にはロクロ爪痕が残る。木地の挽き目が粗く塗膜も薄い。樹種同定の結果、ケヤキと判明した。2038・2039 は草履芯である。表裏面とも藁と思われる植物が付着している。樹種同定の結果、スギと判明した。

#### SE98 (2040・2041)

2040 は板状木製品である。2041 は用途不明木製品である。

#### SE21 (2042・2043)

2042 は漆器椀で高台は欠損している。内外面総黒色系漆、内外面に赤色(朱)漆絵が施される。樹種同定の結果、

ケヤキと判明した。2043は下駄で、台板に歯を固定するホゾ穴をあける露卯下駄である。ホゾ穴は前・後歯1か所ずつあけられている。樹種同定の結果、モクレン属と判明した。

**SE55 (2044)**

2044は棒状木製品としたが、柄杓の柄の可能性もある。

**SE308 (2045)**

2045は曲物側板片である。

**SE104 (2046～2054)**

SE104は井戸側を持たない素掘りの井戸である。2046は部材、2047～2050は箸状木製品である。2051・2052は大型円形曲物である。径の小さい2052を水溜として据え、その上にひとまわり径の大きい2051を重ねる状態で出土した。2051・2052は側板一重・上籬一重・下籬二重構造である。側板内面に縦方向のケビキを入れ、下縁から2cm幅で削って厚みを薄くする。上・下籬にはキメカキがあり、綴じ皮を返し縫いしている。2052は下籬どうしを接着するためにアスファルトを使用している。底板をはめた痕跡は確認できない。2051の籬を含めた推定径は60.5cm、側板の推定径は58.0cm、高さは52.7cmを測る。2052の推定径は52.3cm、側板の推定径は48.6cm、高さは46.1cmを測る。2053・2054は曲物側板片で、いずれも内面にケビキが入る。

**SE100 (2055～2075)**

2055～2075は折敷である。2055・2056には刃物疵があり、前者には側板を取り付けたと思われる釘穴が2か所ずつ残る。2058～2060は棒状木製品で、2058と2060は同一個体の可能性がある。2060は17～18cm間隔で釘穴のような穿孔がみられ、この外側4.5cmに切り込みがある。2061は刷毛状木製品で、1cm幅の材を15枚以上に薄く剥がす。2062は楔に似たものである。2063～2075は箸状木製品である。

**SE47 (2076～2118)**

SE47は縦板組隅柱横棧留の井戸である。2076～2078は部材、2079～2081は井戸側部材で、縦板の一部とみられる。2082は大型円形曲物で水溜施設として使用されていた。側板二重構造で内側板の内面に縦方向のケビキを入れ、下縁から2cmのところ横方向のケビキを1本入れる。内面の綴じ皮周辺には漆あるいはアスファルトと思われる付着物が見られるが、側板と綴じ皮を固定するために接着剤として用いられたのかは不明である。外側板にはキメカキがあり、綴じ皮を返し縫いしている。底板をはめた痕跡は確認できない。外側板の推定径は48.9cm、内側板の推定径は47.95cm、高さは36.8cmを測る。2083～2087は横棧である。2083には縦板とのアタリ痕が、2084・2085・2087には隅柱とのアタリ痕が残る。2086は隅柱に組み合わせず、隅柱の外側に位置していたことから2087だけでは不具合が生じ、これを補強する為に2086が用いられたと推測される。2088～2114は縦板である。2088・2091・2093・2104～2106・2110b・2112a・2114には下部に円形または方形の穿孔がある。2093・2097には横棧とのアタリ痕が残る。2115～2118は隅柱である。

**SE228 (2119～2123)**

2119～2121は箸状木製品である。2122・2123は不明木製品で、一端が炭化している。

**SE94 (2124～2127)**

2124～2126は箸状木製品である。2127は下駄で、台板に歯を固定するホゾ穴をあける露卯下駄である。ホゾ穴は前・後歯2か所ずつあけられている。

**SE165 (2128)**

2128は用途不明の木製品であるが、折敷の可能性もある。

**SE332 (2129)**

2129は円形板で、表裏とも刃物疵がある。

**SE366 (2130～2132)**

2130は曲物側板である。2131は棒状木製品としたが、柄杓の柄の可能性が高い。2132は楔とした。

**SD15** (2133～2135)

2133～2135は用途不明の竹製品である。

**Pit428** (2136)

2136は柱根で、分割材を角材に加工している。

**Pit429** (2137・2138)

2137・2138は柱根である。2137は分割材を角材に加工している。

**Pit430** (2139)

2139は柱根で、分割材である。

**Pit383** (2140)

2140は柱根で、分割材を角材に加工している。底面には抉ったような円錐形の穴があいている。

**Pit195** (2141)

2141は柱根で、分割材を角材に加工している。底面の加工痕が顕著に残る。

**Pit221** (2142)

2142は柱根で、分割材を角材に加工している。

**Pit427** (2143)

2143は柱根で、分割材を角材に加工している。

**Pit129** (2144)

2144は柱根で、分割材である。

**Pit396** (2145)

2145は柱根で、分割材である。

**Pit361** (2146)

2146は柱根で、分割材である。

**Pit215** (2147)

2147は柱根で、分割材である。

**Pit415** (2148)

2148は柱根で、半割材状態での出土である。

**Pit255** (2149)

2149は柱根で、芯持ち丸太材であるが、芯は腐食しているため欠損している。

**Pit359** (2150)

2150は柱根で、分割材である。

**Pit431** (2151)

2151は柱根で、分割材である。

**Pit433** (2152)

2152は出土状況により柱根とした。

**河1** (2153～2158)

2153～2155は部材である。2153は1カ所穿孔、2154はホゾ穴のような切り込みがある。2156は炭化材で1カ所穿孔したような痕跡があるが欠損していて判然としない。2157は漆器盤である。内外面総黒色系漆で内外面刷毛目がみられる。木地は薄く、塗膜は厚めである。樹種同定の結果、ケヤキと判明した。2158は箸状木製品である。

## B 第19次(06)調査

第19次調査1区～4区では13種類の木製品が出土している。内訳は柱根1点、部材17点、竹材2点、丸木材2点、井戸側部材65点、棒状木製品6点、炭化材2点、板状木製品7点、箸状木製品10点、浮子2点、削片3点、不明・自然木55点となっている。このうち、井戸部材を中心に71点を図化し、掲載した。

### 1) 第19次調査1区出土木製品

#### SE74 (2159～2205)

SE74は縦板組隅柱横棧留の井戸である。水溜としての曲物は設置されていなかった。2163は北東側、2174は南東側、2186は南西側、2199は北西側に用いられた横棧である。2163・2174・2186には縦板とのアタリ痕が残る。2160～2162・2164～2166は北東側、2168～2173・2175は南東側、2178～2185・2187～2192は南西側、2193～2195・2197・2198・2200～2205は北西側に用いられた縦板である。2159は北隅、2167は東隅、2176・2177は南隅、2196は西隅に設置された隅柱である。2176は、横棧と組み合った2177の内側に位置していることから、南隅の補強の為に用いられたと推測される。

### 2) 第19次調査2区出土木製品

#### SE58 (2206～2225)

SE58は縦板組横棧留の井戸である。水溜としての曲物は設置されていなかった。2208は北側、2218は西側、2223は東側に用いられた横棧である。2206・2207・2209・2210は南側、2212～2215は西側、2215・2217は北側、2219・2220・2222・2224は東側に用いられた縦板である。2212・2213・2215・2217は一部に曲面に加工された痕跡がある。丸木舟の船底に近い部分を転用したものの可能性がある。原型の復元を試みたが、接合関係は見出せなかった。2211は南西隅、2221は北東隅、2222は南東隅に設置された隅柱である。

2225は柄杓の容器である。SE58底部付近で出土している。ヒョウタンヘタ部分から上下に直径10mmの穿孔がなされる。柄を差し込むための孔と推定される。また、長径90mm、短径75mmの楕円形に種実部側面を切り取り、液体をくみ上げる口としている。同遺構内では柄状の製品は出土していない。

#### SD6 (2226～2229)

2226・2227は浮子である。中央がやや膨らみをもち、端部に綱紐を結ぶための切り込みを入れている。2228・2229は箸状木製品である。2229は上端が欠損していた。



## 第VI章 自然科学分析

### 第1節 沖ノ羽遺跡の基本層序

早田 勉 (古環境研究所)

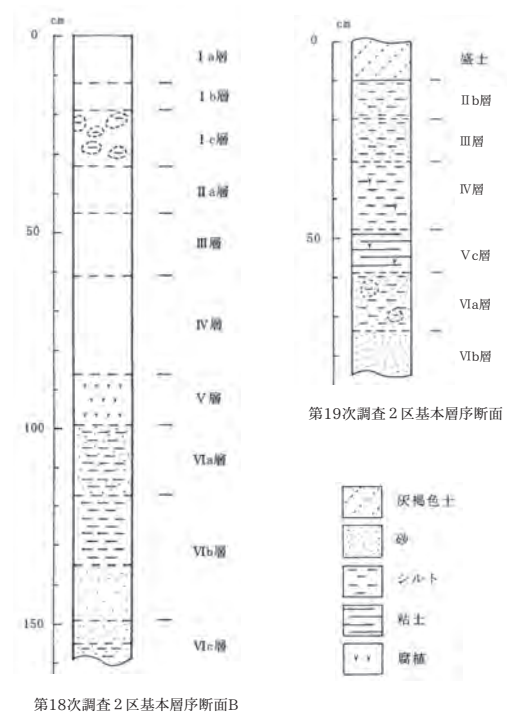
#### A はじめに

新潟市沖ノ羽遺跡では、形成環境が不明な土層が認められた。そこで土層断面から採取した試料を対象に、微化石分析により、土層の形成環境や土地利用に関する分析を行うことになった。試料採取が行われた地点は、第18次調査2区基本層序断面B、第19次調査2区西壁17F-1F19グリッド基本層序断面（以下、第19次調査2区基本層序断面という）、第19次調査2区SD6・SD13覆土断面、第19次調査1区河2土層断面Aの4地点である。

#### B 土層の層序

第18次調査2区基本層序断面Bでは、下位より灰白色シルト質砂層（層厚4cm以上）、黄褐色砂層（層厚6cm，以上VIc層）、褐色砂層（層厚14cm）、灰色シルト層（層厚18cm，以上VIb層）、砂混じり灰白色シルト層（層厚18cm，VIa層）、暗灰色腐植質泥層（層厚13cm，V層）、灰色土（層厚25cm，IV層）、若干色調が暗い灰色土（層厚16cm，III層）、灰色土（層厚12cm，IIa層）、黄色シルト層をブロック状に含む灰色土（層厚14cm，Ic層）、灰色土（層厚7cm，Ib層）、若干色調が暗い灰色土（層厚12cm，Ia層）が認められる。これらのうちIc～Ia層は、人工的な盛土と考えられている。

第19次調査2区基本層序断面では、下位より青灰色砂層（層厚11cm以上，VIb層）、青灰色砂質シルトブロック混じり暗灰色砂質シルト層（層厚15cm，VIa層）、暗灰色粘土層（層厚11cm，Vc層）、鉄分をやや多く含む暗灰褐色シルト層（層厚17cm，IV層）、マンガンや鉄の粒子を含む灰褐色砂質シルト層（層厚11cm，III層）、マンガンや鉄の粒子を多く含む灰褐色砂質シルト層（層厚10cm，IIb層）、灰褐色土（盛土）が認められる。



第18次調査2区基本層序断面B

第19次調査2区基本層序断面

第14図 沖ノ羽遺跡の土層柱状図

### 第2節 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析

杉山真二 (古環境研究所)

#### A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている [杉山2000]。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である [藤原・杉山1984]。

## B 試料

分析試料は、第18次調査2区基本層序断面BのV層、古代から中世とされる井戸（いずれも第18次調査2区SE98・2区SE104・3区SE47・3区SE104）の底部、第19次調査2区基本層序断面、第19次調査2区SD6・SD13覆土断面、第19次調査1区河2土層断面Aから採取された計11点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

## C 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原1976〕を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数はガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-5}$ g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、チマキザサ節・チシマザサ節は0.75、ミヤコザサ節は0.30である〔杉山2000〕。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

## D 分析結果

### 1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第3表および第15～18図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（第19・20図）。

〔イネ科〕

イネ、イネ籾殻（穎の表皮細胞由来）、ムギ類（穎の表皮細胞）、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

その他

第3表 沖ノ羽遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: × 100 個 /g)		地点・試料										
分類群	学名	第18次調査2区			第18次調査3区		第19次調査2区			第19次調査1区		
		基本層序	SE98	SE104	SE47	SE104	基本層序			SD13・SD6		
		V層 試料1	11d層	5層	6層	9層	Vc層 試料2	VIa層 試料3	VIb層 試料4	2層	3層	河2 1層
イネ科	Gramineae (Grasses)											
イネ	<i>Oryza sativa</i>	13	64	80	93	41	49				28	15
イネ籾殻 (穎の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)		21	20	7	7						
ムギ類 (穎の表皮細胞)	<i>Hordeum-Triticum</i> (husk Phytolith)			7		7						
キビ族型	Panicaceae type			7	7		7					
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	20	14	20	28	14	56				49	23
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	13	28		7							
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type	20	7	7	7						7	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)											
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>			7								8
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	86	35	33	28	21	56	58	53	56	30	8
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>					7	7	15	8	7	23	15
未分類等	Others	27	7		14	21	14	36	8	35	23	15
その他のイネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin	20	7	27	21	14	7				14	8
棒状珪酸体	Rod-shaped	259	241	272	342	380	182	29	45	216	23	30
茎部起源	Stem origin			20			7			14	8	23
未分類等	Others	126	85	126	164	173	175	116	23	168	38	
樹木起源	Arboreal											
その他	Others	20	7							7		8
(海綿骨針)	Sponge	7	7		7		28	7	15	42	15	23
植物珪酸体総数	Total	603	524	617	719	684	561	254	136	600	195	121

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm) : 試料の板比重を 1.0 と仮定して算出												
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.39	1.87	2.34	2.72	1.22	1.44				0.82	0.44
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.26	0.89	1.26	1.80	0.87	3.54				3.08	1.42
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.16	0.35		0.09							0.95
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>			0.03								0.04
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.65	0.27	0.25	0.21	0.16	0.42	0.44	0.40	0.42	0.23	0.06
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>					0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.07	0.05

タケ亜科の比率 (%)												
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>			11								11
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	100	89	100	100	88	95	91	95	95	68	41
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>					12	5	9	5	5	21	33

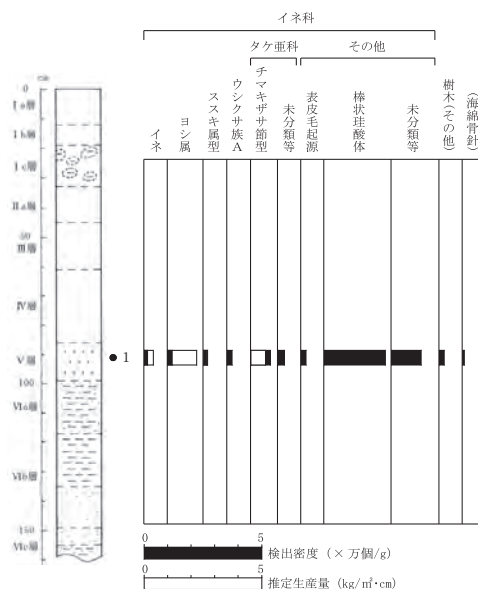
2) 植物珪酸体の検出状況

a 第18次調査2区基本層序断面B (第15図)

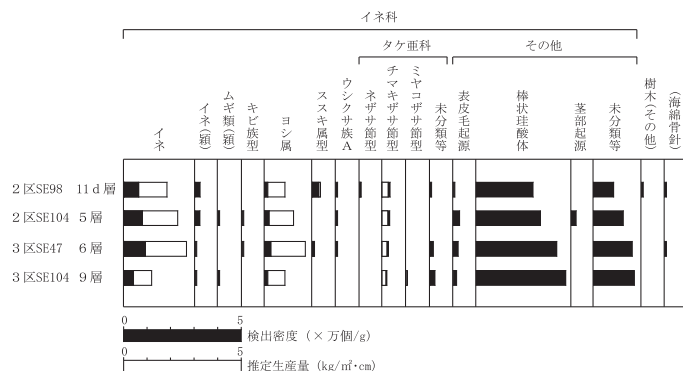
V層 (試料1) では、チマキザサ節型が比較的多く検出され、イネ・ヨシ属・ススキ属型・ウシクサ族A・樹木 (その他) など認められた。イネの密度は1,300個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを下回っている。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢となっている。

b 第18次調査2区・3区井戸内堆積物 (第16図)

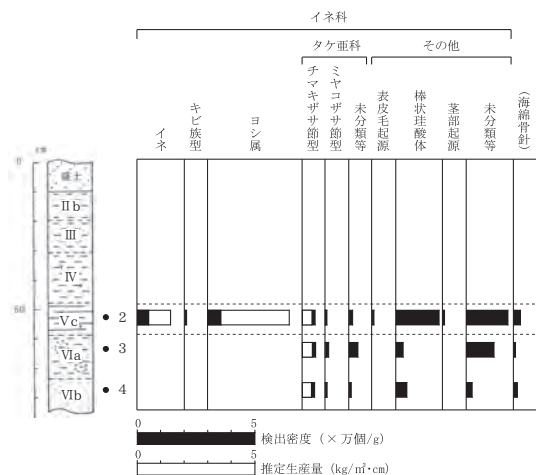
井戸 (2区 SE98, 2区 SE104, 3区 SE47, 3区 SE104) の底部から採取された試料について分析を行った。その結果、イネ (穎を含む) が多く検出され、ヨシ属・チマキザサ節型なども検出された。イネの密度は、2区 SE98 井戸では6,400個/g、2区 SE104 井戸では8,000個/g、3区 SE47 井戸では9,300個/gと高い値であり、3区 SE104 井戸でも4,100個/gと比較的高い値である。また、2区 SE104 井戸と3区 SE104 井戸ではムギ類 (穎の表皮細胞) も700個/gと少量が検出された。おもな分類群の推定生産量によると、い



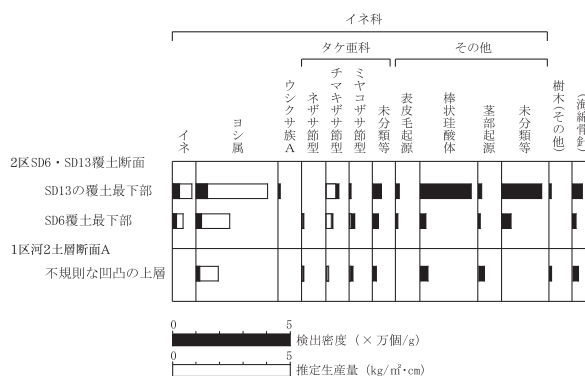
第15図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区基本層序断面Bにおける植物珪酸体分析結果



第16図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区・3区戸内堆積物(底部)における植物珪酸体分析結果



第17図 沖ノ羽遺跡第19次調査2区基本層序断面における植物珪酸体分析結果



第18図 沖ノ羽遺跡第19次調査1区・2区遺構内堆積物における植物珪酸体分析結果

れもイネが優勢となっている。

c 第19次調査2区基本層序断面(第17図)

Vc層(試料2)、VIa層(試料3)、VIb層(試料4)について分析を行った。その結果、VIa層(試料3)とVIb層(試料4)では、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ミヤコザサ節型なども認められた。Vc層(試料2)では、イネ・ヨシ属・チマキザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型・ミヤコザサ節型なども認められた。イネの密度は4,900個/gと比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、Vc層ではヨシ属が優勢となっている。

d 第19次調査2区SD6・SD13覆土断面(第18図)

SD13覆土最下部ではヨシ属が比較的多く検出され、イネ、ミヤコザサ節型なども認められた。イネの密度は2,800個/gと比較的低い値である。SD6覆土最下部でも、おおむね同様の分類群が検出された。イネの密度は1,500個/gと低い値である。おもな分類群の推定生産量によると、いずれもヨシ属が優勢となっている。

e 第19次調査1区河2土層断面A(第18図)

不規則な凹凸が上面に見られる灰色砂層を覆う灰色粘質土では、ヨシ属、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢となっている。



## E 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

### 1) 第18次調査2区基本層序断面B

V層（暗灰色腐植質泥層）の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節など）やススキ属などが分布していたと考えられる。

### 2) 第18次調査2区・3区井戸内堆積物

古代から中世とされる井戸内堆積物（底部）の堆積当時は、周辺でイネやムギ類の栽培が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で井戸内にこれらの植物珪酸体が混入したと推定される。なお、イネについてはムシロや縄などのワラ製品に由来する可能性も考えられる。当時の遺跡周辺には、ヨシ属などが生育する湿地的なところが分布していたと考えられるが、屋根材などに利用されていたヨシ属が何らかの形で井戸内に混入した可能性も考えられる。

### 3) 第19次調査2区基本層序断面

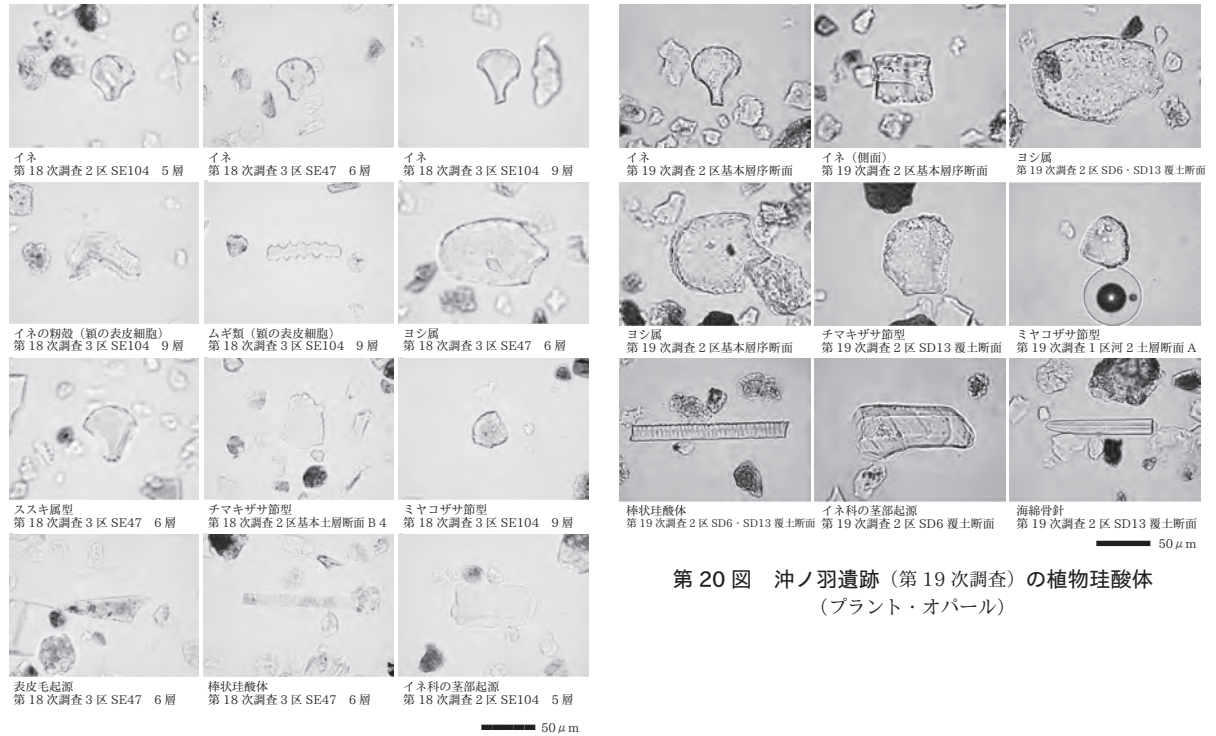
VI a層とVI b層の堆積当時は、ササ属（チマキザサ節など）は見られるものの、何らかの影響でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。Vc層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと推定される。

### 4) 第19次調査2区SD6・SD13覆土断面

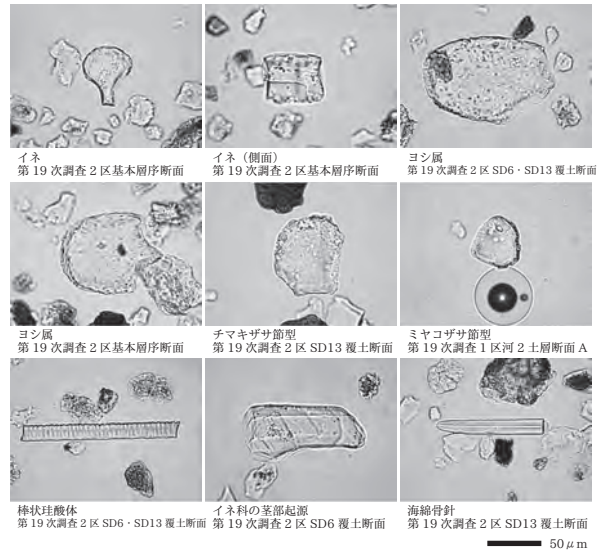
SD13とSD6の覆土最下部の堆積当時は、周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形でイネの植物珪酸体が混入したと推定される。遺構内はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節など）などが生育していたと推定される。

### 5) 第19次調査1区河2土層断面A

不規則な凹凸が上面に見られる灰色砂層を覆う灰色粘質土の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはササ属などが生育していたと推定される。



第19図 沖ノ羽遺跡(第18次調査)の植物珪酸体  
(プラント・オパール)



第20図 沖ノ羽遺跡(第19次調査)の植物珪酸体  
(プラント・オパール)

## 第3節 沖ノ羽遺跡における花粉分析

金原正子（古環境研究所）

### A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### B 試料

分析試料は、第18次調査2区基本層序断面B、古代から中世とされる井戸（いずれも第18次調査2区SE98・2区SE104・3区SE47・3区SE104）の底部、第19次調査2区基本層序断面、第19次調査2区SD6・SD13覆土断面から採取された計10点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

### C 方法

花粉の分離抽出は、中村〔1973〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す
- 5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1,000倍で行った。花粉の同定は、島倉〔1973〕および中村〔1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科・亜科・属・亜属・節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村〔1974・1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

### D 結果

#### 1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉25、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉26、シダ植物孢子2形態の計56である。また、寄生虫卵も1分類群が検出された。分析結果を第4・5表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した（第21～24図）。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（第25図）。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、カエデ属、トチノキ、トネリコ属、ムクロジ属、ブドウ属、シナノキ属、モクセイ科、ツツジ科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、ウコギ科、ニワトコ属-ガマズミ属

[草本花粉]

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、アカバナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、オオバコ属、ヒルガオ、オミナエシ科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

[寄生虫卵]

カピラリア

2) 花粉群集の特徴

a 第18次調査2区基本層序断面B(第21図)

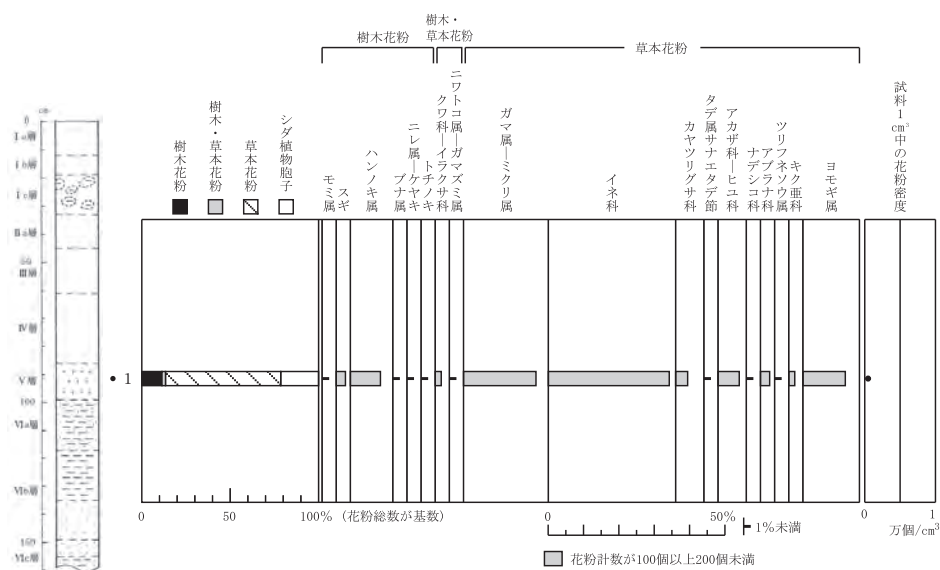
V層(試料1)では、花粉密度が低く、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科、ガマ属-ミクリ属が優勢で、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、スギなどが認められた。

b 第18次調査2区・3区井戸内堆積物(第22図)

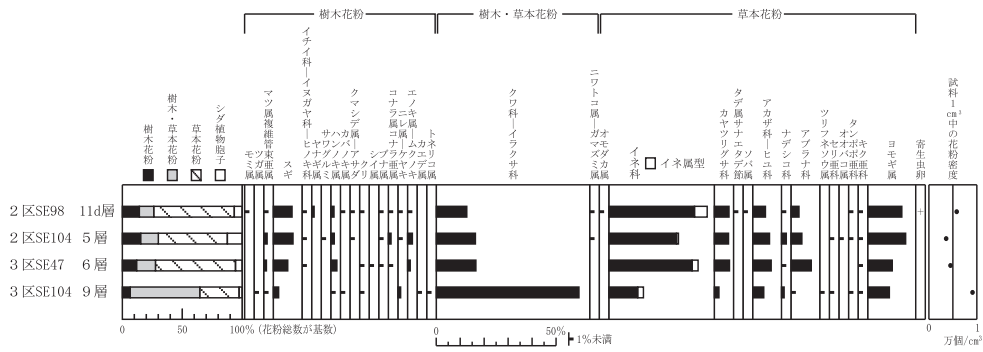
2区SE98(11d層)、2区SE104(5層)、3区SE47(6層)では同様の花粉組成を示し、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が優勢で、ヨモギ属、アカザ科-ヒユ科、カヤツリグサ科、アブラナ科などが伴われる。また、2区SE98(11d層)ではソバ属、オモダカ属なども認められた。樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も比較的多く検出され、樹木花粉ではスギ、ハンノキ属、エノキ属-ムクノキなどが認められた。2区SE98(11d層)では寄生虫卵のカピラリアが検出された。3区SE104(9層)でも、おおむね同様の花粉組成であるが、クワ科-イラクサ科が最も優勢となっている。

c 第19次調査2区基本層序断面(第23図)

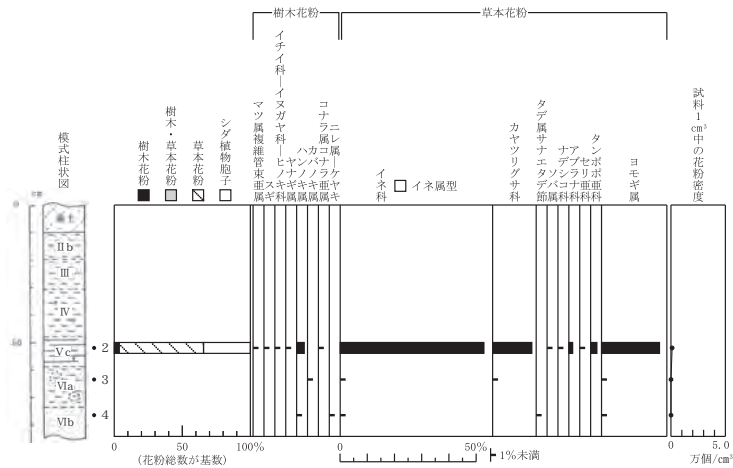
下位のVIb層(試料4)とVIa層(試料3)では、イネ科、ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。Vc層(試料2)では、草本花粉の占める割合が高く、樹木花粉はわずかである。また、シダ植物胞子も約35%を占める。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属が優勢で、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、アブラナ科、ソバ属などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などが認められる。



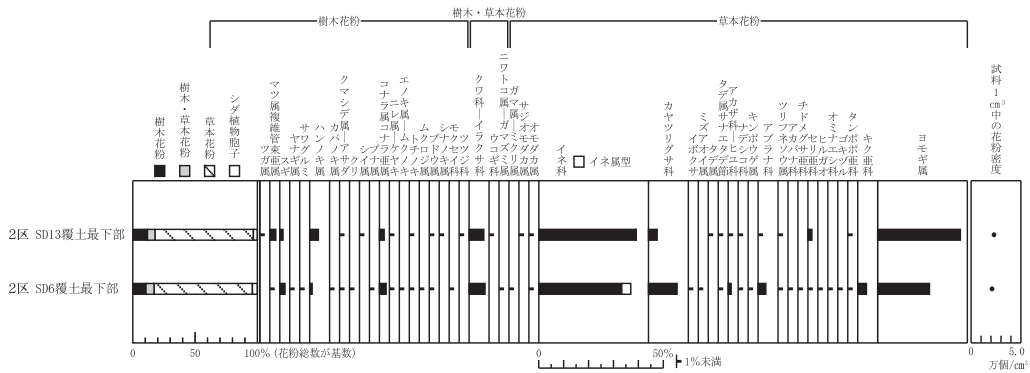
第21図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区基本層序断面Bにおける花粉ダイアグラム



第22図 沖ノ羽遺跡第18次調査2区・3区井戸内堆積物(底部)における花粉ダイアグラム



第23図 沖ノ羽遺跡第19次調査2区基本層序断面における花粉ダイアグラム



第24図 沖ノ羽遺跡第19次調査2区SD6・SD13覆土断面における花粉ダイアグラム

d 第19次調査2区SD6・SD13覆土断面(第24図)

2区SD13(2層)と2区SD6(3層)では、草本花粉の占める割合が極めて高く、樹木花粉はわずかである。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)、ヨモギ属が優勢で、カヤツリグサ科、セリ亜科、アブラナ科、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、マツ属複雑維管束亜属、コナラ属コナラ亜属、スギなどが認められる。

E 花粉分析から推定される植生と環境

1) 第18次調査2区基本層序断面B

V層(暗灰色腐植質泥層)の堆積当時は、水生植物のガマ属-ミクリ属やイネ科などが生育する湿地から滞水域



の環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところには耕地雑草でもあるヨモギ属、アカザ科-ヒユ科などが分布していたと推定される。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、スギなどが分布していたと考えられる。

## 2) 第18次調査2区・3区井戸内堆積物

古代から中世とされる井戸内堆積物（底部）の堆積当時は、周辺でイネ・ソバ・アブラナ科などを栽培する農耕が行われていたと考えられ、周辺には耕地雑草でもあるヨモギ属、アカザ科-ヒユ科などが分布していたと推

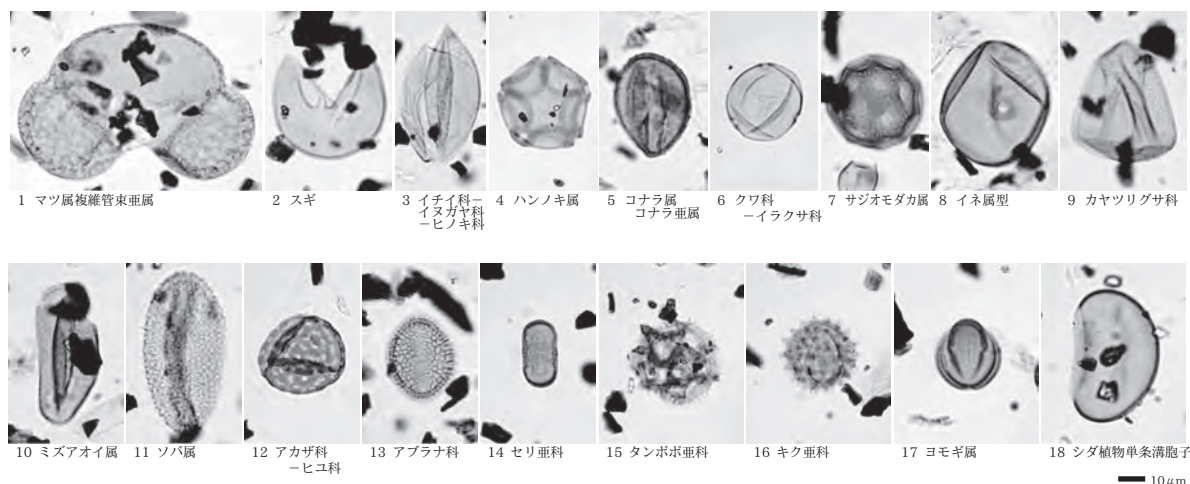
第4表 沖ノ羽遺跡（第18次調査）における花粉分析結果（1）

分類群	学名	和名	第18次調査2区			第18次調査3区	
			基本層序	SE98	SE104	SE47	SE104
			V層 試料1	11d層	5層	6層	9層
Arboreal pollen		樹木花粉					
	<i>Abies</i>	モミ属	1	1			
	<i>Tsuga</i>	ツガ属					1
	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属		3	5	3	2
	<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>	マツ属単管束亜属			1		
	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	3	31	29	17	8
	Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		2	3	1	
	<i>Salix</i>	ヤナギ属		4	3	1	2
	<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ			1		
	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	10	5	5	7	3
	<i>Betula</i>	カバノキ属		2			1
	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ		1	1		
	<i>Castanea crenata</i>	クリ		1		1	2
	<i>Castanopsis</i>	シイ属				1	
	<i>Fagus</i>	ブナ属	1	2	1	1	
	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属		3	4	1	
	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1	2	2		4
	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ		3	7	3	
	<i>Acer</i>	カエデ属					1
	<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	1				
	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属					1
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉					
	Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2	50	58	47	219
	<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属	1	1	1		
Nonarboreal pollen		草本花粉					
	<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	24				
	<i>Sagittaria</i>	オモダカ属		1			
	Gramineae	イネ科	40	141	100	99	44
	<i>Oryza type</i>	イネ属型		21	3	7	9
	Cyperaceae	カヤツリグサ科	4	24	21	18	7
	<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	1	1			
	<i>Fagopyrum</i>	ソバ属		1			
	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	7	21	25	22	17
	Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1	7	2	4
	Cruciferae	アブラナ科	3	13	16	24	3
	<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属	1				1
	Apioidaeae	セリ亜科			1		1
	<i>Plantago</i>	オオバコ属			1		
	Lactucoideae	タンポポ亜科		3	1		2
	Asteroidaeae	キク亜科	2	1	3	1	3
	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	14	56	56	29	33
Fern spore		シダ植物胞子					
	Monolate type spore	単条溝胞子	27	21	37	10	6
	Trilate type spore	三条溝胞子	5	6	13	7	4
Arboreal pollen		樹木花粉	17	60	62	36	25
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	3	51	59	47	219
Nonarboreal pollen		草本花粉	97	284	234	202	124
Total pollen		花粉総数	117	395	355	285	368
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料 1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	4.7 × 10 <sup>2</sup>	5.8 × 10 <sup>3</sup>	3.6 × 10 <sup>3</sup>	4.5 × 10 <sup>3</sup>	9.1 × 10 <sup>3</sup>
Unknown pollen		未同定花粉	7	5	6	1	5
Fern spore		シダ植物胞子	32	27	50	17	10
Helminth eggs		寄生虫卵					
	<i>Capillaria</i>	カビラリア		1			
Total		計	0	1	0	0	0
		試料 1cm <sup>3</sup> 中の寄生虫卵密度	0.0	0.8 × 10	0.0	0.0	0.0
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments		微細炭化物	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)

第3節 沖ノ羽遺跡における花粉分析

第5表 沖ノ羽遺跡（第19次調査）における花粉分析結果（2）

分類群	学名	和名	第19次調査2区基本層序断面			第19次調査2区SD13 SD6	
			Vc層 試料2	VIa層 試料3	VIb層 試料4	2層	3層
Arboreal pollen		樹木花粉					
<i>Tsuga</i>		ツガ属				1	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属複維管束亜属	1			9	4
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>		マツ属単維管束亜属					1
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	1			5	10
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1				
<i>Salix</i>		ヤナギ属	1				3
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ					1
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	6		2	13	5
<i>Betula</i>		カバノキ属		1			3
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ				2	2
<i>Castanea crenata</i>		クリ					2
<i>Castanopsis</i>		シイ属				1	
<i>Fagus</i>		ブナ属					3
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	2			7	13
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ			1	1	1
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ					2
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ				3	1
<i>Sapindus</i>		ムクロジ属					1
<i>Vitis</i>		ブドウ属				1	1
<i>Tilia</i>		シナノキ属				1	
Oleaceae		モクセイ科					1
Ericaceae		ツツジ科				1	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉					
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科				22	31
Araliaceae		ウコギ科				1	
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属					1
Nonarboreal pollen		草本花粉					
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属-ミクリ属					2
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属				2	
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属				1	3
Gramineae		イネ科	114	3	4	144	161
<i>Oryza type</i>		イネ属型		1		1	18
Cyperaceae		カヤツリグサ科	31	3		13	56
<i>Aneilema keisak</i>		イボクサ					1
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属					1
<i>Polygonum</i>		タデ属				1	
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節			1	1	1
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属	1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科				3	6
Caryophyllaceae		ナデシコ科	2			1	3
<i>Ranunculus</i>		キンポウゲ属					1
Cruciferae		アブラナ科	3			3	15
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属				2	3
Onagraceae		アカバナ科					1
Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科					1
Apiioideae		セリ亜科	2			6	3
<i>Calystegia japonica</i>		ヒルガオ					1
Valerianaceae		オミナエシ科					1
<i>Actinostemma lobatum</i>		ゴキツル					2
Lactuicoideae		タンポポ亜科	5			2	1
Asterioideae		キク亜科					17
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	46	1	3	123	101
Fern spore		シダ植物胞子					
Monolate type spore		単条溝胞子	88	29	24	5	15
Trilate type spore		三条溝胞子	25	10	1	7	5
Arboreal pollen		樹木花粉	12	1	3	45	54
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	0	0	0	23	32
Nonarboreal pollen		草本花粉	204	8	8	303	399
Total pollen		花粉総数	216	9	11	371	485
Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>		試料 1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	1.1 × 10 <sup>3</sup>	5.4 × 10	6.6 × 10	2.3 × 10 <sup>4</sup>	2.1 × 10 <sup>4</sup>
Unknown pollen		未同定花粉	2	0	0	8	10
Fern spore		シダ植物胞子	113	39	25	12	20
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments		微細炭化物	(+)	(-)	(-)	(+++)	(+)



第 25 図 沖ノ羽遺跡の花粉・胞子

定される。また、クワ科-イラクサ科も多く見られ、とくに 3 区 SE104 では近隣に生育していた可能性が考えられる。クワ科-イラクサ科には、クワ科の樹木およびカナムグラなどの雑草が含まれる。森林植生としては、周辺地域にスギ、ハンノキ属などが分布していたと推定される。

2 区 SE98 では、寄生虫卵のカピラリアが認められた。カピラリアは鳥類を宿主とする毛頭虫類で、人に感染することはまれである。

### 3) 第 19 次調査 2 区基本層序断面

下位の VI a 層と VI b 層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の詳細な推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことや、水流による淘汰を受けたことなどが想定される。

Vc 層の堆積当時は、おもにイネ科やヨモギ属などの草本類が生育する日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと考えられ、栽培植物を含むソバ属、アブラナ科の出現から、周辺にこれらを栽培する畑が分布していたことが推定される。アブラナ科には、アブラナ（ナタネ）・ダイコン・ハクサイ・タカナ・カブなど多くの栽培植物が含まれている。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属やナラ類（コナラ属コナラ亜属）などが分布していたと考えられる。

### 4) 第 19 次調査 2 区 SD6・SD13 覆土断面

SD13 と SD6 の覆土の堆積当時は、おもにイネ科やヨモギ属などの草本類が生育する日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと考えられ、イネ属型やアブラナ科の出現から、周辺に水田および畑が分布していたことが推定される。また、溝内にはカヤツリグサ科やオモダカ属などの水生植物が生育していたと考えられる。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、ナラ類（コナラ属コナラ亜属）、スギなどが分布していたと推定される。

## 第 4 節 沖ノ羽遺跡における種実同定

金原正子（古環境研究所）

### A はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

### B 試料

分析試料は、古代から中世とされる井戸（いずれも第 18 次調査 2 区 SE98・2 区 SE104・3 区 SE47・3 区 SE104）の堆積物から水洗選別によって抽出された多数の種実類である。試料の詳細を第 6 表に示す。

## C 方 法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科・属・種の階級で示した。

## D 結 果

### 1) 分 類 群

分析の結果、樹木 8、草本 17 の計 25 分類群が同定された。学名・和名および粒数を第 6 表に示し、主要な分類群を写真に示す (第 26 図)。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

[樹木]

コブシ *Magnolia borealis* Kubo 種子 (半形) モクレン科

種子は黒褐色で広卵形を呈す。断面は腎臓形。下端にへそがある。種皮は薄く堅い。

モモ *Prunus persica* Batsch 核 (完形・半形・破片) バラ科

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

バラ科 Rosaceae 核 (破片・炭化)

黄褐色で腎臓形を呈す。表面はやや粗い。

イヌザンショウ *Zanthoxylum schinifolium* Sieb. et Zucc. 種子 ミカン科

種子は黒褐色で楕円状球形を呈す。側面に長く深いへそがある。表面にやや大きな網目模様がある。

カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* Sieb. et Zucc. 種子 ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面に長く深いへそがある。表面には大きい網目模様がある。

サンショウ属 *Zanthoxylum* 種子 (破片) ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* Muell. et Arg. 種子 (完形・破片) トウダイグサ科

黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

ブドウ属 *Vitis* 種子 (完形・破片) ブドウ科

茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

[草本]

イネ *Oryza sativa* L. 果実 (炭化) イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

エノコログサ属 *Setaria* Beauv. 穎 イネ科

穎は茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 果実 (炭化) イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

ホタルイ属 *Scirpus* 果実 カヤツリグサ科

黒褐色でやや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。

スゲ属 *Carex* 果実 カヤツリグサ科

茶褐色で倒卵形、扁平である。果皮は柔らかい。

カヤツリグサ科 Cyperaceae 果実

茶褐色または黒褐色で倒卵形を呈す。断面は三角形または扁平である。



第6表 沖ノ羽遺跡（第18次調査）における種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	2区 SE98				2区 SE104	3区 SE47			3区 SE104
				16F-10G11				16G-10G1	16G-7A20			16G-6B21
				11b層	11c層	11d層	層位不明	5層	5層	6層	9層(曲物内覆土)	
<b>Arbor</b>												
樹木												
<i>Magnolia borealis</i> Kudo		コブシ	種子 (半形)	2								
<i>Prunus persica</i> Batsch		モモ	核 (完形)						3			
			(半形)						1			1
			(破片)				2		12			
Rosaceae		バラ科	核 (破片)						1		2	
			(炭化破片)			1						
<i>Zanthoxylum schinifolium</i> Sieb. et Zucc.		イヌザンショウ	種子	1			1					
<i>Zanthoxylum atlanthoides</i> Sieb. et Zucc.		カラスザンショウ	種子						1			
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属	種子 (破片)								1	
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.		アカメガシワ	種子						27			1
			(破片)									2
<i>Vitis</i>		ブドウ属	種子			1						3
			(破片)	1					1			
<b>Herb</b>												
草本												
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	果実 (炭化)	25	8	6		34	136	34		55
<i>Setaria</i> Beauv.		エノコログサ属	穎	1								
<i>Hordeum vulgare</i> L.		オオムギ	果実 (炭化)	9	5	12		12	50	22		34
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実					1	1			
<i>Carex</i>		スゲ属	果実						28			
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実	39	19	11		9	92	15		223
<i>Humulus japonicus</i> Sieb. et Zucc.		カナムグラ	種子						7			10
			(破片)	6	3	4			17	2		110
<i>Rumex</i>		ギンギン属	果実				1					2
<i>Chenopodium</i>		アカザ属	種子							2		
<i>Lespedeza</i>		ハギ属	種子									1
<i>Vigna</i>		ササゲ属	子葉						2			
			(炭化)								1	
Leguminosae		マメ科	種子						2			
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> Trautv.		ノブドウ	種子 (破片)	1								
		var. <i>heterophylla</i> Hara										
Rubiaceae		アカネ科	種子						69	9		
<i>Perilla</i>		シソ属	果実	7					5	23		
<i>Solanum melongena</i> L.		ナス	種子	4		2			82	2		8
<i>Cucumis melo</i> L.		ウリ類	種子	4	2	2			3	1		2
Total		合計		100	37	39	2	58	540	114		452
Unknown		不明種実		2					2			10
		備考		炭化材 (+)	炭化材 (+)	炭化材 (+)		炭化材 (+)	炭化材 (+)	炭化材 (+)		炭化材 (+)
					枝 1				虫瘤 (+)	虫瘤 (+)		

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 種子 (完形・破片) クワ科

黒色で円形を呈し、断面形は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへそがある。

ギンギン属 *Rumex* 果実 タデ科

茶褐色で頂端が尖る卵形を呈す。断面は三角形、表面には光沢がある。翼状の花被の残るものもある。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科

黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝がはしる。

ハギ属 *Lespedeza* 種子 マメ科

灰黄緑色で横卵形や横楕円形を呈す。へそは狭楕円形や狭卵形で、その縁は高い。へその位置は腹面の中心からややずれる。表面には灰黒色斑がある。

ササゲ属 *Vigna* 子葉 (炭化) マメ科

黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長い。ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現状の研究では識別は困難である。

マメ科 Leguminosae 種子 マメ科

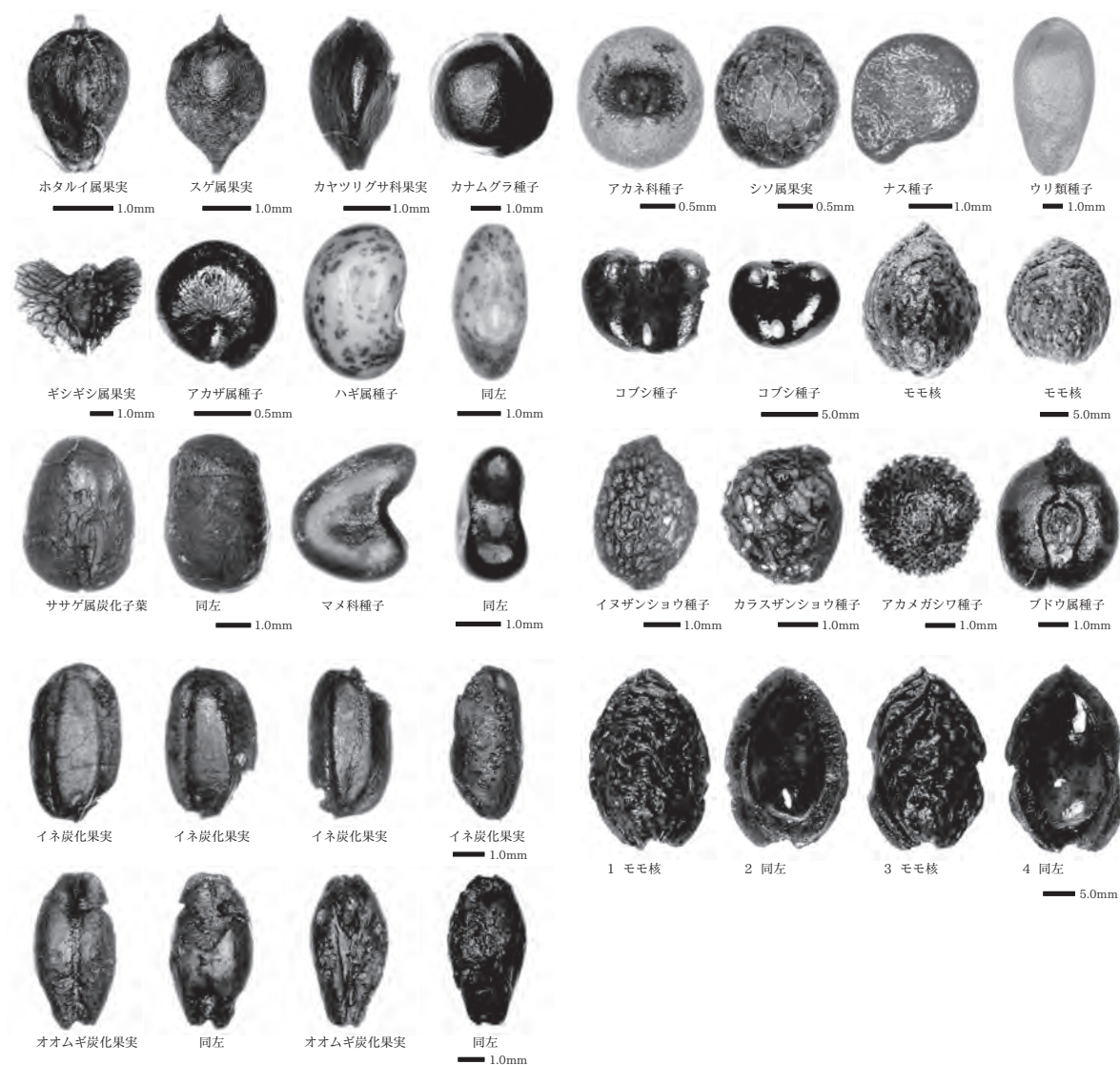
赤褐色で楕円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。

ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* Trautv. var. *heterophylla* Hara 種子 (破片) ブドウ科

茶褐色で広卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が2つあり、背面のカラザは長く伸びる。

アカネ科 Rubiaceae 種子

偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。



第26図 沖ノ羽遺跡の種実

シソ属 *Perilla* 果実 シソ科

茶褐色で円形を呈し、下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。

ナス *Solanum melongera* L. 種子 ナス科

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端にくぼんだへそがある。表面には網目模様がある。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

淡褐色～黄褐色である。楕円形を呈し、一端には「ハ」字状のへこみがある。藤下〔1992〕による長さ8.1mm以上の大粒種子（モモルディカ型）にあたる。

## 2) 種実群集の特徴

### a 2区 SE98

11b層では、コブシ2、イヌザンショウ1、ブドウ属1、イネ25、エノコログサ属1、オオムギ9、カヤツリグサ科39、カナムグラ6、ノブドウ1、シソ属7、ナス4、ウリ類4が同定された。11c層では、イネ8、オオムギ5、カヤツリグサ科19、カナムグラ3、ウリ類2が同定された。11d層では、バラ科1、ブドウ属1、イネ6、オオムギ12、カヤツリグサ科11、カナムグラ4、ナス2、ウリ類2が同定された。また、層位は不明だが、モモ破片2も認められた。

## b 2区 SE104

5層では、イヌザンショウ 1、イネ 34、オオムギ 12、ホタルイ属 1、カヤツリグサ科 9、ギシギシ属 1 が同定された。

## c 3区 SE47

5層では、モモ 16、バラ科 1、カラスザンショウ 1、アカメガシワ 27、ブドウ属 1、イネ 136、オオムギ 50、ホタルイ属 1、スゲ属 28、カヤツリグサ科 92、カナムグラ 24、ササゲ属 2、マメ科 2、アカネ科 69、シソ属 5、ナス 82、ウリ類 3 が同定された。6層では、バラ科 2、サンショウ属 1、イネ 34、オオムギ 22、カヤツリグサ科 15、カナムグラ 2、アカザ属 2、ササゲ属 1、アカネ科 9、シソ属 23、ナス 2、ウリ類 1 が同定された。

## d 3区 SE104

9層では、モモ 1、アカメガシワ 3、ブドウ属 3、イネ 55、オオムギ 34、カヤツリグサ科 223、カナムグラ 120、ギシギシ属 2、ハギ属 1、ナス 8、ウリ類 2 が同定された。

## E 考 察

古代から中世とされる井戸内の堆積物からは、種実類が多数検出された。このうち、最も多いのはカヤツリグサ科であり、次いでイネ（炭化米）・カナムグラ・オオムギ（炭化）・ナス・アカネ科・シソ属・アカメガシワ・スゲ属・モモ・ウリ類などとなっている。栽培植物としては、イネ（炭化米）・オオムギ（炭化）・ナス・ウリ類・モモ・ササゲ属・および果樹のモモがある。カヤツリグサ科・カナムグラ・シソ属・アカネ科・スゲ属は、人里植物ないし耕地雑草であり、アカメガシワは二次林性の樹木である。これらの結果から、当時の遺構周辺には、人為改変された農耕地などが分布していたと推定される。

## 第5節 沖ノ羽遺跡における樹種同定

金原 明（古環境研究所）

## A は じ め に

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

## B 試 料

試料は、第18次調査2区および3区の井戸内などから出土した漆器、下駄、曲物などの木製品13点および炭化材22点の計35点である。試料の詳細を第7・8表に示す。

## C 方 法

木製品については、カミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1,000倍で観察した。炭化材については、割折して新鮮な基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1,000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

## D 結 果

結果を第7・8表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す（第27・28図）。以下に、同定根拠となった特徴を記す。

スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらんでいる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径3mに達する。材は強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科

横断面：小型で薄壁の角張った道管が単独ないし2～3個複合してかなり密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～40本ほどである。放射組織は異性である。道管内にチロースが多数存在する。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、2細胞幅である。

以上の形質よりカツラに同定される。カツラは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ15～20m、径50～60cmであるが、大きいものは高さ35m、径2mに達する。材は軽軟で靱性であり加工しやすく、建築材などに用いられる。

モクレン属 *Magnolia* モクレン科

横断面：小型の道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合して多数散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は緩やかに減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管相互の壁孔は階段状である。繊維状仮道管がしばしば薄い横隔壁で仕切られている。放射組織は上下端のみ、ときに直立細胞からなる異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～3細胞幅であるが2細胞幅のものが多い。

以上の形質よりモクレン属に同定される。モクレン属にはホオノキ、コブシなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。常緑または落葉の高木ないし低木である。

ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科

横断面：小型で丸い道管が単独あるいは2～3個放射方向に複合し、散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は単列の異性放射組織型である。

以上の形質よりヤナギ属に同定される。ヤナギ属は落葉の高木または低木で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

第7表 沖ノ羽遺跡（第18次調査）における木製品の樹種同定結果

No.	区	グリッド	遺構	器種	備考	結果（学名/和名）
1	3	16G-5D25	河1（2・3層）	漆器（盤）	古代	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
2	3	16G-8A15	SE21（井戸）	漆器（椀）	中世	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
3	3	16G-7A4	SE83（井戸）	漆器（椀）	中世	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
4	2	16G-10G11	SE98（井戸）	漆器（片口鉢）	中世	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc. カツラ
5	3	16G-8A15	SE21（井戸）	下駄		<i>Magnolia</i> モクレン属
6	3	16G-8B9	SE94（井戸）	下駄		<i>Magnolia</i> モクレン属
7	2	16G-10F10	SE106（井戸）	下駄		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
8	3	16G-7A4	SE83（井戸）	草履芯		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
9	2	16G-10G11	SE98（井戸）	曲物		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
10	2	16G-10G1	SE104（井戸）	曲物		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
11	3	16G-7A20	SE47（井戸）	曲物		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
12	3	16G-6B21・10G1	SE104（井戸）	曲物		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
13	3	16G-6B21	SE104（井戸）	曲物		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ

第8表 沖ノ羽遺跡（第18次調査）における炭化材の樹種同定結果

区	遺構名	層	備考	結果（学名/和名）
2区	SE98	11b層		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
2区	SE98	11b層		<i>Fagus</i> ブナ属
2区	SE98	11b層		Bambusoideae タケ亜科
2区	SE98	11c層		<i>Salix</i> ヤナギ属
2区	SE98	11c層		<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrsus</i> ハンノキ属ハンノキ節
2区	SE98	11d層		<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> コナラ属コナラ節
2区	SE98	11d層	曲物内覆土	<i>Salix</i> ヤナギ属
2区	SE98	11d層	曲物内覆土	Bambusoideae タケ亜科
2区	SE98	11d層	漆	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ
2区	SE104	5層		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
2区	SE104	5層		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
2区	SE104	5層		Bambusoideae タケ亜科
2区	SE104	5層		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
2区	SE104	5層		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
2区	SE104	5層		Bambusoideae タケ亜科
2区	SE104	5層		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
2区	SE104	5層		<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
3区	SE47	5層		<i>Fagus</i> ブナ属
3区	SE47	5層		<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
3区	SE47	6層		<i>Celtis</i> エノキ属
3区	SE104	9層		<i>Salix</i> ヤナギ属
3区	SE104	9層		<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrsus</i> ハンノキ属ハンノキ節

ハンノキ属ハンノキ節 *Alnus* sect. *Gymnothyrsus* カバノキ科

横断面：小型で丸い道管が放射方向に連なる傾向をみせて散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～30本ぐらいである。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は、同性放射組織型で単列のものと大型の集合状のものからなる。

以上の形質よりハンノキ属ハンノキ節に同定される。ハンノキ属ハンノキ節は、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木である。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

ブナ属 *Fagus* ブナ科

横断面：小型でやや角張った道管が単独あるいは2～3個複合して密に散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は緩やかに減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔および階段穿孔である。放射組織はほとんど平伏細胞からなるが、ときに上下端のみ方形細胞が見られる。接線断面：放射組織はまれに上下端のみ方形細胞が見られるがほとんどが同性放射組織型で、単列のもの、2～数列のもの、大型の広放射組織のものがある。

以上の形質よりブナ属に同定される。ブナ属には、ブナ、イヌブナがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ35m、径1.5m以上に達する。材は堅硬、緻密、靱性あり、保存性は低い。容器などに用いられる。



クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～3列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

エノキ属 *Celtis* ニレ科

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が1～3列配列する環孔材である。孔圏部外的小道管は多数複合して円形、ないし斜線状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部に方形細胞が見られる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1～2細胞幅の小型のものと、8～10細胞幅ぐらいで鞘細胞をもつ大型のものからなる。

以上の形質よりエノキ属に同定される。エノキ属にはエゾエノキ、エノキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1.5mに達する。材は、建築、器具、薪炭などに用いられる。

タケ亜科 *Bambusoideae* イネ科

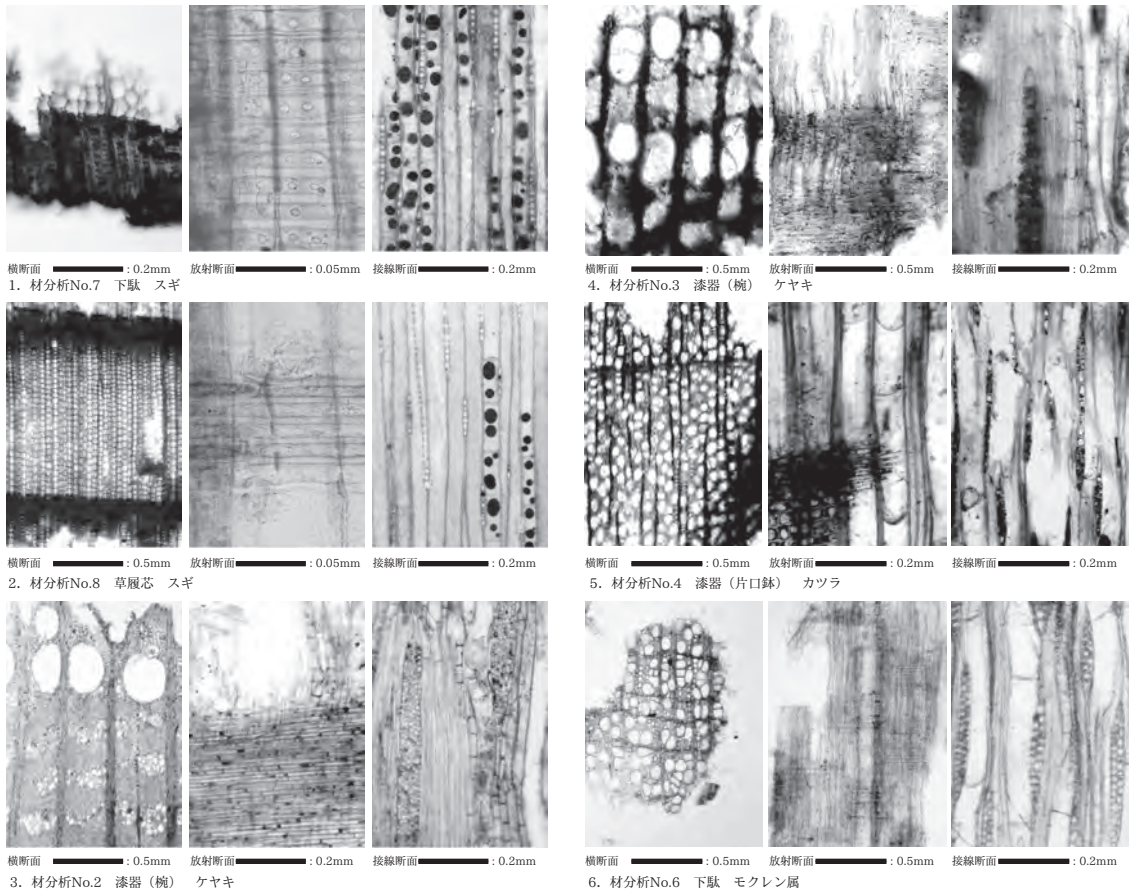
横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり、その周囲に維管束鞘が存在する。放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が桿軸方向に配列している。以上の形質よりタケ亜科に同定される。

## E 所 見

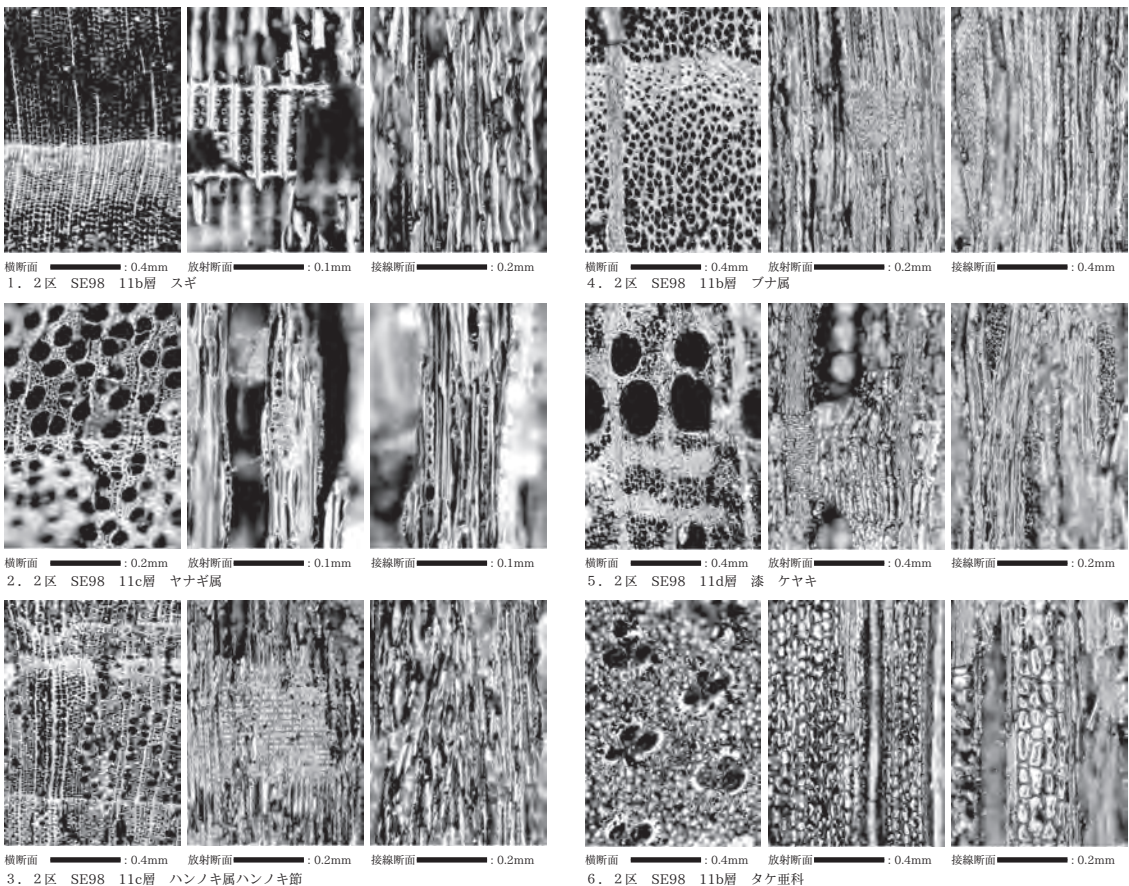
分析の結果、木製品のうち古代の漆器（盤）はケヤキ、中世の漆器（椀）2点はケヤキ、漆器（片口鉢）1点はカツラ、下駄3点はモクレン属2とスギ1、草履芯はスギ、曲物5点はいずれもスギと同定された。また、炭化材のうち漆器片はケヤキ、その他はスギ7点、ヤナギ属3点、ハンノキ属ハンノキ節2点、ブナ属2点、クリ1点、コナラ属コナラ節1点、エノキ属1点、タケ亜科4点と同定された。

ケヤキは、強く強靱で従曲性に富む優良な環孔材であり、縄文時代以降、現在まで伝統的に木地に用いられる。カツラは比重、堅さ、強度が中庸で、切削、加工が容易であり、漆器木地にも用いられる。モクレン属は、軽軟で緻密、切削、加工が極めて容易であり、下駄などに広く用いられる。これらの広葉樹は温帯に分布し、谷沿いなどの適潤な肥沃地に生育する。

ヤナギ属とハンノキ属ハンノキ節は、湿地や河辺などの水辺に生育する落葉高木から低木である。ブナ属には



第 27 図 沖ノ羽遺跡の木材



第 28 図 沖ノ羽遺跡の炭化材



ブナとイヌブナがあり、温帯上部の冷温帯から温帯中間域の落葉広葉樹林帯に分布する。クリは、温帯に広く分布する落葉広葉樹で、暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することもあり、乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもある。コナラ属コナラ節は、日当たりの良い山野に生育する落葉高木で、温帯を中心に広く分布する。ミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素が含まれる。エノキ属は向陽適潤地に生育する。

スギは、温帯に広く分布する常緑針葉樹で、湿潤で多雨や積雪を好み、周辺地域に多い樹木である。材質は木理通直で大きな材が取れる良材であり加工工作も容易なことから、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。

いずれも、当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられ、とくにヤナギ属、ハンノキ属ハンノキ節、エノキ属は特徴的であり、本遺跡の立地が反映されていると考えられる。

## 第6節 沖ノ羽遺跡出土漆器の科学分析 四柳 嘉章 (漆器文化財科学研究所)

### A 分析の方法

漆器は階層や価格に応じた各種の製品が生産され、その品質が考古学的には所有階層復元の手がかりとなる。この品質差を材料や技術的側面から評価する場合、肉眼による表面観察だけでは使用や廃棄後の劣化状態でしか判断できず、それも専門的な経験に左右される。しかし漆器本来の耐久・堅牢性は塗装工程（髹漆）にあり、この塗膜の下に隠された情報は、以下の科学分析によって引き出される〔四柳 2003〕。

塗膜分析は漆器の内外面数箇所から数 mm の塗膜片を採取し実体顕微鏡で観察した後、ポリエステル樹脂に包埋し、その断面を研磨のうえプレパラートに接着、さらに研磨を加えて（# 100 ~ 3,000）金属・偏光顕微鏡で観察する方法である。各種状況に応じたデータと比較検討しながら塗装工程や下地材料の同定を行う。これによって表面観察ではわからない時代的地域的な塗装工程の特色、製品の品質が把握できるので、遺跡における所有階層の推定やデータが集積されれば製品の流通問題にも迫ることができる。塗料・膠着液の直接的な分析は、赤外線を固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて照射して、分子構造を解析するフーリエ変換赤外分光法（FT-IR）、赤色顔料の分析はエネルギー分散型蛍光 X 線分析を実施した（後述）。

なお、本稿で用いる用語については基本的には漆工用語に従うこととし、意味が曖昧で誤解をまねくものについては、以下のように規定して使用する。

#### 1) 赤色漆

赤色の主な顔料である朱（ $\text{HgS}$ ）やベンガラ（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）が未同定の場合には「赤色漆（未同定）」と最初に断って使用し、同定済みは「赤色（朱）漆」「朱漆」「ベンガラ漆」などと表記する。よく使われる「赤漆（あかうるし）」は「赤漆（せきしつ）」（木地を蘇芳で染め透漆を施したもの）との混同をさけるために用いない。内外面とも赤色漆の場合は、未同定は「総赤色（未同定）漆」、同定済みの場合は「総赤色（朱）漆」、あるいは慣例による「総（惣）朱」「皆朱」「朱漆器」などを用いる。

#### 2) 黒色漆と黒色系漆

肉眼で上塗漆が黒色の場合の観察表現として、従来「黒漆」と表記されていた。ここでは黒色顔料の炭素粒子（油煙・松煙）や鉄系化合物粒子などが含まれているものを「黒色漆」、黒色顔料が含まれていないものを「黒色系漆」として区別する。後者では黒色顔料を含まなくても漆塗膜が茶黒色に変質し、さらに下地色を反射して肉眼では黒色に見えるので、材料科学の上からも両者を区別する必要がある。未同定の場合は、はじめに「黒色漆（未同定）」とことわる。内外面とも黒色漆の場合は「総黒色漆」、同じく黒色系は「総黒色系漆」（いわゆる「総黒」は両者を含んだもの）、内面赤色外面黒色は「内赤外黒色漆」、同じく「内赤外黒色系漆」とする。赤色顔料が同定されている場合は「内朱外黒色漆」あるいは「内赤（ベンガラ）外黒色漆」などと呼称する。

## 3) 下地の分類—漆下地と渋下地

一般の粗い鉱物粒子を用いたものは「地の粉漆下地」、より細かい砥の粉類似は「サビ漆下地」(基本的には近世以降)、膠使用は「地の粉またはサビ膠下地」、炭粉は漆を用いたものは「炭粉漆下地」、柿渋を用いたものは「炭粉渋下地」とする。炭粉は粒度により3分類する。

細粒…破碎工程が中粒炭粉より細かく炭粉粒子は均一で、針葉樹などの木口の放射組織を全くとどめないもの。

中粒…炭粉粒子は $1 \sim 2 \mu\text{m} \times 5 \sim 10 \mu\text{m}$ 程度の針状粒子と長径 $5 \mu\text{m}$ 前後の多角形粒子などからなり、木口の放射組織が一部にしか認められないもの。

粗粒…破碎工程が粗く木口の放射組織を各所にとどめるもの。炭粉粒子は不均一で各種形状のものを含み、長径 $30 \mu\text{m}$ 前後の針状ないし棒状粒子を含むことが多い。

\*樹種同定結果は古環境研究所による。

## B 分析結果

塗膜分析を行った漆器は1資料につき、内外面複数の試料を作成し平均値を算出した。したがって必ずしも図版のスケールとは一致しない。「表層変質」とあるものは、酸化劣化防止層の形成を意味する。赤色漆の色調表現はマンセル値で、「4R 4 / 11」とあれば、4Rは色相、4 / 11は明度/彩度である。

## 1) 塗膜分析

## a No.1 (第33図、図版247-2157) 盤(総黒色系) 古代

## ◇器形・表面観察

斜め上方に立ち上がる身の浅い総黒色系盤。身が幾分薄く挽き出されている。内外面に若干刷毛目をとどめるが、塗膜はやや厚手の良品。樹種はケヤキで、ヨコ木(柾目)取り。

## ◇塗膜分析

内外面(木胎によく漆がしみこんでおり、十分な木固めが行われている) ①炭粉漆下地層。層厚 $29 \sim 74 \mu\text{m}$ 。炭粉粒子は粗粒。②漆層。層厚 $24 \sim 32 \mu\text{m}$ 。下層 $10 \mu\text{m}$ 前後が灰黒色に変質している(ゴム質の凝集か)。③漆層。層厚 $36 \sim 54 \mu\text{m}$ 。下層 $29 \mu\text{m}$ 前後が灰黒色に変質している。表層にクラックが認められ、 $7 \mu\text{m}$ 前後が変質。口縁部に布着せは認められない。底部外面も同一塗装工程。

## b No.2 (第33図、図版236-2042) 椀(総黒色系) 中世

## ◇器形・表面観察

短高台から直立ぎみに強く立ち上がる薄手の総黒色系椀。内外面に赤色(朱)漆絵の加飾がある。みこみ全体に描かれた漆絵意匠は、盛り上がった土坡に秋草。外面は飛翔する鶴と思われる。大らかで伸び伸びとした筆致である。高台裏の塗りは手抜きもなく体部と同じである。赤色(朱)漆絵のマンセル値は、9R 3.5 / 8.5(赤錆色)。樹種はケヤキで、ヨコ木(柾目)取り。

## ◇塗膜分析

内面①炭粉渋下地層。層厚 $110 \mu\text{m}$ 前後。炭粉粒子は細粒。②漆層。層厚 $32 \mu\text{m}$ 前後。表層にクラックが認められ、 $12 \mu\text{m}$ が変質。

外面①炭粉渋下地層。層厚 $88 \sim 112 \mu\text{m}$ 。炭粉粒子は細粒。②漆層。層厚は薄く $8 \mu\text{m}$ 前後。表層 $5 \mu\text{m}$ 前後が変質。

## c No.3 (第33図、図版235-2037) 椀(総黒色系) 中世

## ◇器形・表面観察

短高台から内湾ぎみに立ち上がる総黒色系椀。高台裏には塗りがなく露胎。内外面にカンナ筋が著しく、みこみにおいて顕著。樹種はケヤキで、ヨコ木(柾目)取り。

◇塗膜分析

内面①炭粉渋下地層。層厚 29 ~ 50  $\mu\text{m}$ 。炭粉粒子は中粒。表層 8  $\mu\text{m}$  が分離。②漆層。層厚 14 ~ 32  $\mu\text{m}$ 。表層 3  $\mu\text{m}$  前後が変質。③漆層。層厚は薄く 4 ~ 8  $\mu\text{m}$ 。表層 2  $\mu\text{m}$  前後が変質。

外面①炭粉渋下地層。層厚 22 ~ 56  $\mu\text{m}$ 。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚 12 ~ 37  $\mu\text{m}$ 。③漆層。層厚 7 ~ 22  $\mu\text{m}$ 。表層 1 ~ 7  $\mu\text{m}$  が変質。

d No.4 (第33図、図版221-1913) 片口鉢 (総黒色系) 中世

◇器形・表面観察

やや小型の総黒色系片口鉢。片口部分だけの遺存で、内面は使用によって茶色を帯び、外面は黒色。樹種はカツラで、ヨコ木(柾目)取り

◇塗膜分析

内面①炭粉渋下地層。層厚 85 ~ 171  $\mu\text{m}$ 。炭粉粒子は中粒。表層 2 ~ 5  $\mu\text{m}$  が分離。②漆層。層厚 17 ~ 56  $\mu\text{m}$ 。③漆層。層厚 29 ~ 49  $\mu\text{m}$ 。

外面①炭粉渋下地層。層厚 12 ~ 50  $\mu\text{m}$ 。炭粉粒子は中粒。表層 5 ~ 7  $\mu\text{m}$  が分離。②漆層。層厚 7 ~ 15  $\mu\text{m}$ 。③漆層。層厚 7 ~ 22  $\mu\text{m}$ 。概して薄い部分が多い。

2) 赤外分光分析

漆液の同定については、赤外線(普通赤外波長 2.5 ~ 25  $\mu\text{m}$ 、波数 4000 ~ 400  $\text{cm}^{-1}$ )を固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて照射して、分子構造を解析するフーリエ変換赤外分光法(FT-IR)を用いた(測定機器は日本分光製 FT-IR420)。試料は 2mg を採取し KBr (臭化カリウム) 100mg をメノウ鉢で磨り潰して、これを錠剤成形器で加圧成形したものをを用いた(錠剤法)。条件は分解能 4  $\text{cm}^{-1}$ 、積算回数 16、アポダイゼーション関数 Cosine。第 29・30 図はその赤外線吸収スペクトルで、縦軸は吸光度(Abs)、横軸は波数(カイザー)である。

第 29 図は上塗漆塗膜(黒色系漆、ノーマライズ)の赤外線吸収スペクトルで、漆の基準データは岩手県浄法寺産精製漆(① 1992 年作製)。これとまったく同じ吸収を示すのは片口鉢(④、No.4)で、紫外線劣化もみられず、極めて良好な状態である。古代の No.1 は内外面(②・③)の吸収を掲載した。1465  $\text{cm}^{-1}$  ~ 1400  $\text{cm}^{-1}$  がブロードで、1280  $\text{cm}^{-1}$  (フェノール)の吸収が弱い、全体として 2925  $\text{cm}^{-1}$  (炭化水素の非対称伸縮振動)、2850  $\text{cm}^{-1}$  (炭化水素の対称伸縮振動)、1720 ~ 1710  $\text{cm}^{-1}$  (カルボニル基)、1630 ~ 1620  $\text{cm}^{-1}$  (糖タンパク)、1465  $\text{cm}^{-1}$  (活性メチレン基)、1280  $\text{cm}^{-1}$  (フェノール)、1050  $\text{cm}^{-1}$  (ゴム質)付近の吸収が確認できるので、漆塗膜と判断される。

第 30 図は No.1 と 2 の炭粉下地のスペクトルで、No.1 (③)は 1465  $\text{cm}^{-1}$  ~ 1400  $\text{cm}^{-1}$  がブロードで、1280  $\text{cm}^{-1}$  (フェノール)の吸収も弱い、前述の漆の同定要素の吸収が確認できる。No.2 (②)は漆とは異なっており、渋下地と判断される。すなわち、①は柿渋(2003 年作製)のスペクトルであるが、柿渋は炭粉と混ぜた場合(②の状態)、指紋領域(1500 ~ 650  $\text{cm}^{-1}$ )において炭粉の吸収が強く現れ、柿渋単体時のようなシャープな吸収がみられることはあまりなく、2850  $\text{cm}^{-1}$  付近の -CH<sub>2</sub> の吸収も微量である(側鎖があまりない)。漆や膠の吸収を示さず、茶色が強い光学顕微鏡観察所見などから総合して渋下地と判断した。

3) 蛍光 X 線分析

蛍光 X 線分析は試料に X 線を当てると、元素特有の X 線(特性 X 線ないし固有 X 線)が発生(放出)する。この波長と強度を測定することによって元素の定性や定量分析を行う方法である。

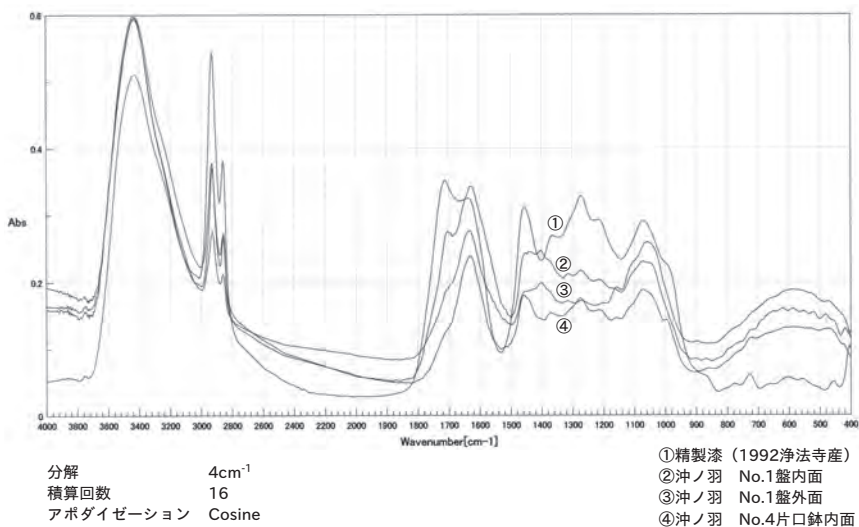
分析対象: No.2 漆絵の赤色顔料分析(第 31 図)

使用機器: PANalytical / PW4025、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置。

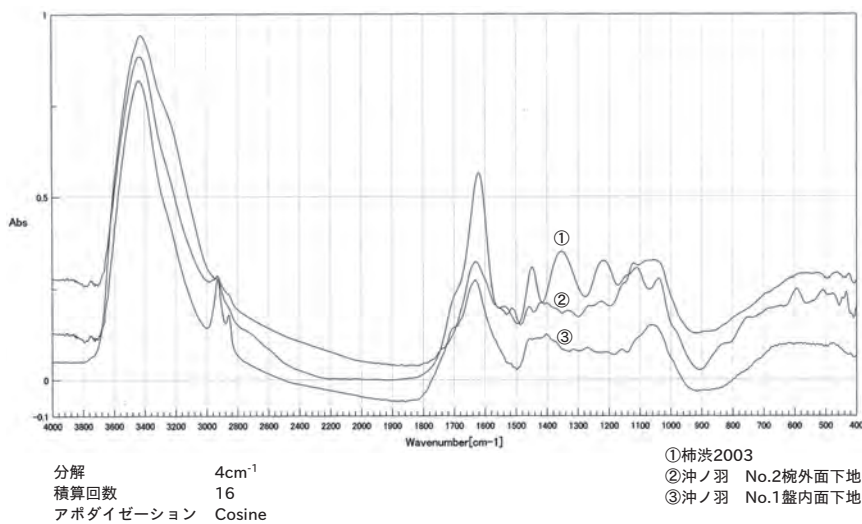
使用管球: Rh ターゲット 9W。

検出器: 高分解能電子冷却 Si 半導体検出器。

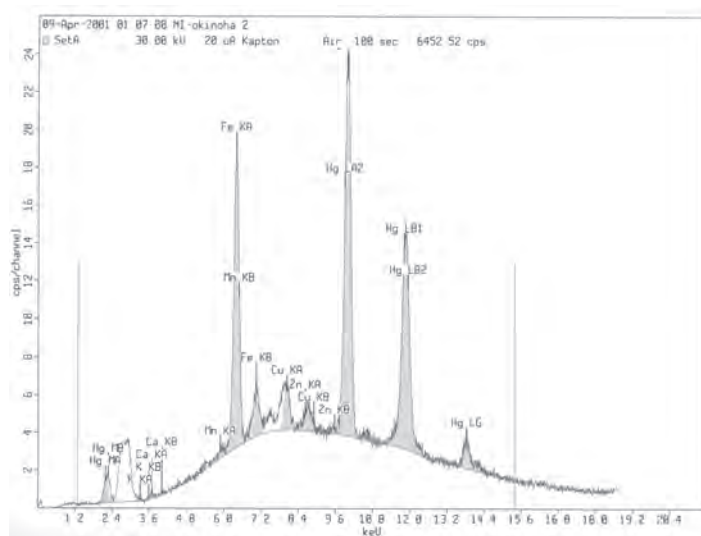




第 29 図 上塗漆塗膜の赤外線吸収スペクトル



第 30 図 下地の赤外線吸収スペクトル



第 31 図 No.2 赤色漆絵の蛍光 X 線定性分析スペクトル

測定条件：30kV、20 $\mu$ A、フィルター Kapton、100sec。

測定室雰囲気：大気。測定部径は1mm。サンプルカップに入れて測定。

測定結果：No.2の赤色漆絵は朱(HgS)。第31図では朱(HgS)と酸化第二鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)の吸収が認められるが、後者は漆および下地からのものである。

## C 小 結

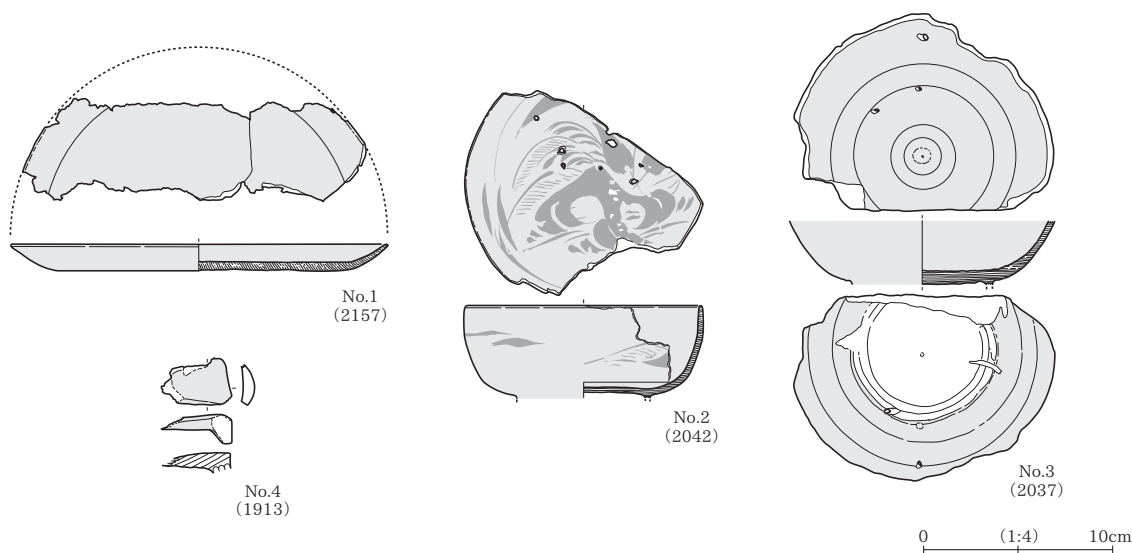
沖ノ羽遺跡は新潟市秋葉区七日町字沖ノ羽の阿賀野川と能代川に囲まれた微高地に立地し、古墳時代～中世の複合遺跡である。満日地区ほ場整備事業に係る調査が行われ、河道跡が1/3を占める3区から分析対象の漆器が出土した。分析結果の要点を整理し、まとめとしたい。

No.1は古代(9世紀後半)の盤であるが、塗装工程は炭粉漆下地層+漆層+漆層で、底部外面も手抜きなく同じ塗装工程がとられている。口縁部に布着せはなく、下地は地の粉(鉱物粒子)ではないので、常用の盤である。ほかに土師器の内面に漆液が付着した、いわゆる漆パレットも出土していることから、何らかの漆作業が行われたことを示している。瓦塔や鉄鉢形土器なども共伴しており寺院関連遺跡と推測されているが、古代寺院では国分寺をはじめとして、漆工遺物の出土は常識化しつつある〔四柳2006〕。

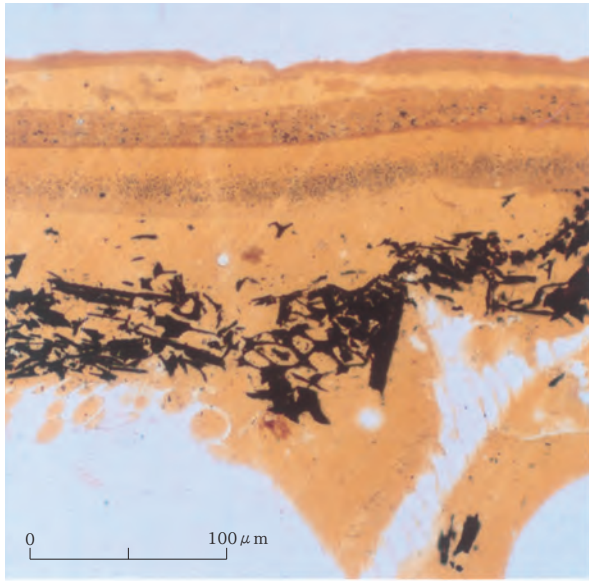
No.2～4は中世漆器で、すべて普及型の炭粉漆下地である。塗装工程はNo.2が炭粉漆下地層+漆層、No.3・4が炭粉漆下地層+漆層+漆層で、簡素化されたものとなっている。時期的には短高台と身が深いことから、およそ鎌倉～南北朝期が考えられる。No.4の小型片口鉢はわりと出土例の少ないものである。

No.2の漆絵意匠は盛り上がった土坡に秋草、外面は飛翔する鶴と思われるもので、中世の大和絵に好んで描かれた題材である。漆下地であるが赤色顔料は朱を用いて高級感を出している。樹種は3点が上質品に多いケヤキで、片口鉢だけがカツラとなっている。木取りは該期に一般的なヨコ木柁目取り。

赤外分光分析の結果では、No.4(内面)が紫外線劣化もなく、今日と大差ない極めて良好な漆塗膜の状態を維持していたことは注目される。

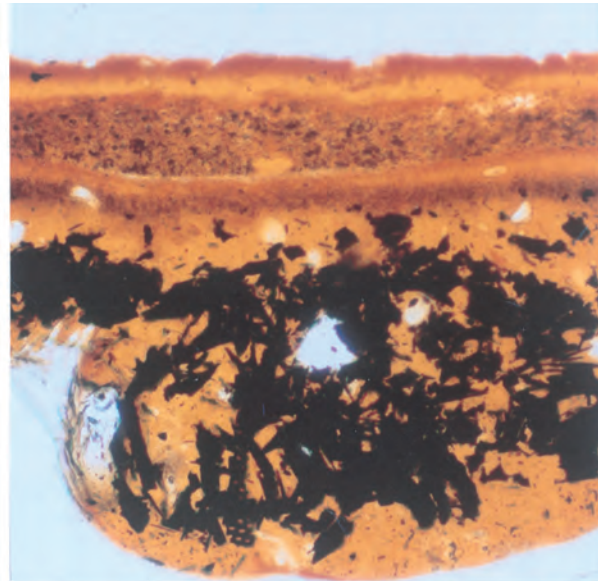


第32図 分析漆器実測図



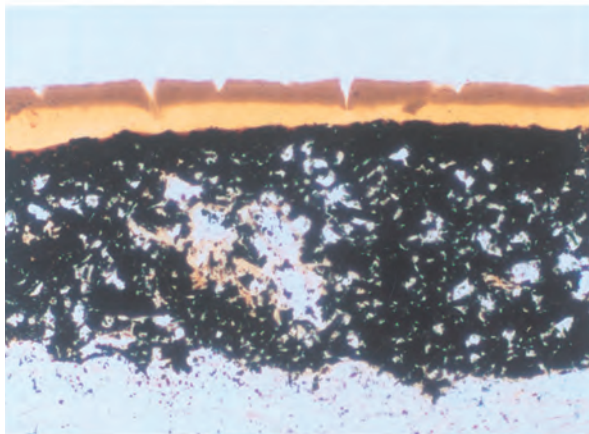
No.1 盤 内面 (古代)

×260



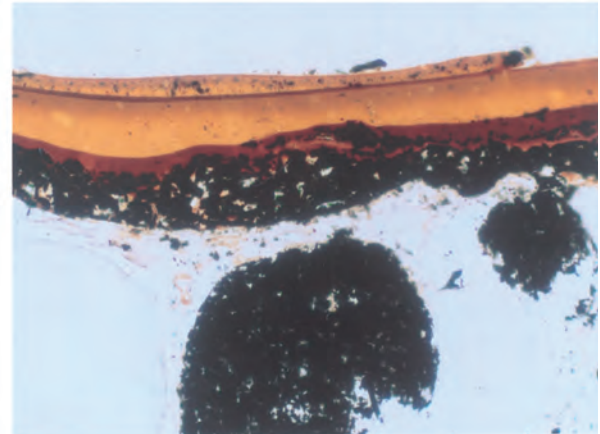
No.1 盤 底部外面 (古代)

×260



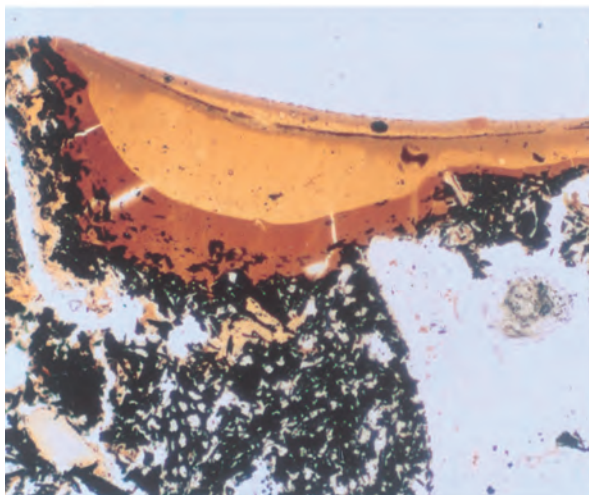
No.2 椀 内面 (中世)

×260



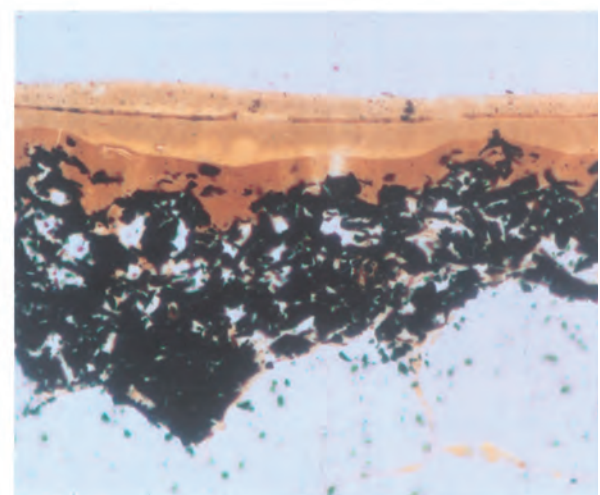
No.3 椀 内面 (中世)

×260



No.4 片口鉢 内面 (中世)

×260



No.4 片口鉢 外面 (中世)

×260

第33図 漆器塗膜断面の顕微鏡写真



## 第Ⅶ章 総 括

### 第 1 節 沖ノ羽遺跡の遺構について

#### A 旧河川について

第 18 次調査 3 区河 1（以下 3 区河 1）は同調査区の北東側 3 分の 1 を占める旧河川である。同調査区では、重量比で古代の土器の約 6 割が出土しており、そのうち 4 割強、本報告における全出土量の 4 分の 1 が 3 区河 1 からの出土である。本遺跡の特に古代集落の構成上重要な位置を占めるため、冒頭に触れておきたい。

耕地整理以前の旧図（図版 2）では、現在の磐越自動車道に沿って東から西方向、第 18 次調査 2 区・3 区にあたる部分で畑地になっている微高地が伸び、この北側で 3 区河 1 から南東側に細長い水田部が連続する旧河川流路が読み取れる。本調査ではこれに合致する位置で第 18 次調査 2 区河 16（以下 2 区河 16）、1 区路線部分の河 18（以下 1 区河 18）が検出されていることから、連続する河川の一部と想定し、第 34 図に河岸線を示した。2 区河 16 と 1 区河 18 の間には直交する形で第 18 次調査 1 区河 25 や河 1 も検出されており、連続性が不明確であることから、この間は想定線を表示していない。また、東から西にかけて緩やかに傾斜する現地形と、3 区河 1 の最深部で標高 2.3 ～ 2.4m、1 区河 18 で 1m 高い 3.2m を測る比高差を考慮すれば、流路は南東から北西に流れ、遺構群が検出された微高地は旧河川流路左岸の自然堤防上にあると想定される。

3 区河 1 では落ち際を中心として、土師器・須恵器の食膳具が大量に出土しており（図版 49～51）、特に本報告内における墨書土器全出土数 134 点中、108 点が出土している。3 区河 1 は段階的に埋没しており、後述のように上層（1 層）で春日編年 VI 2 ～ 3 期、中層（2・3 層）で同 VI 1 期、下層（4～7 層）で同 V 期を主体とする土器が出土している。下層での土器出土量は 3 区河 1 全体の 1% に過ぎず、上層で 7 割、中層で 3 割が出土している。このことから、3 区河 1 は春日 V 期（9c 初～中葉）に流路が形成され、VI 期、中でも VI 2 ～ 3 期にピークがある。1 層では、42 点の中世陶磁器が出土しており、これらはほぼ 13 世紀代に限られ、1 層上面には中世の遺構が掘られていることから、遅くとも中世後期（14 世紀代）には流路を変え、埋没していたものと見られる。

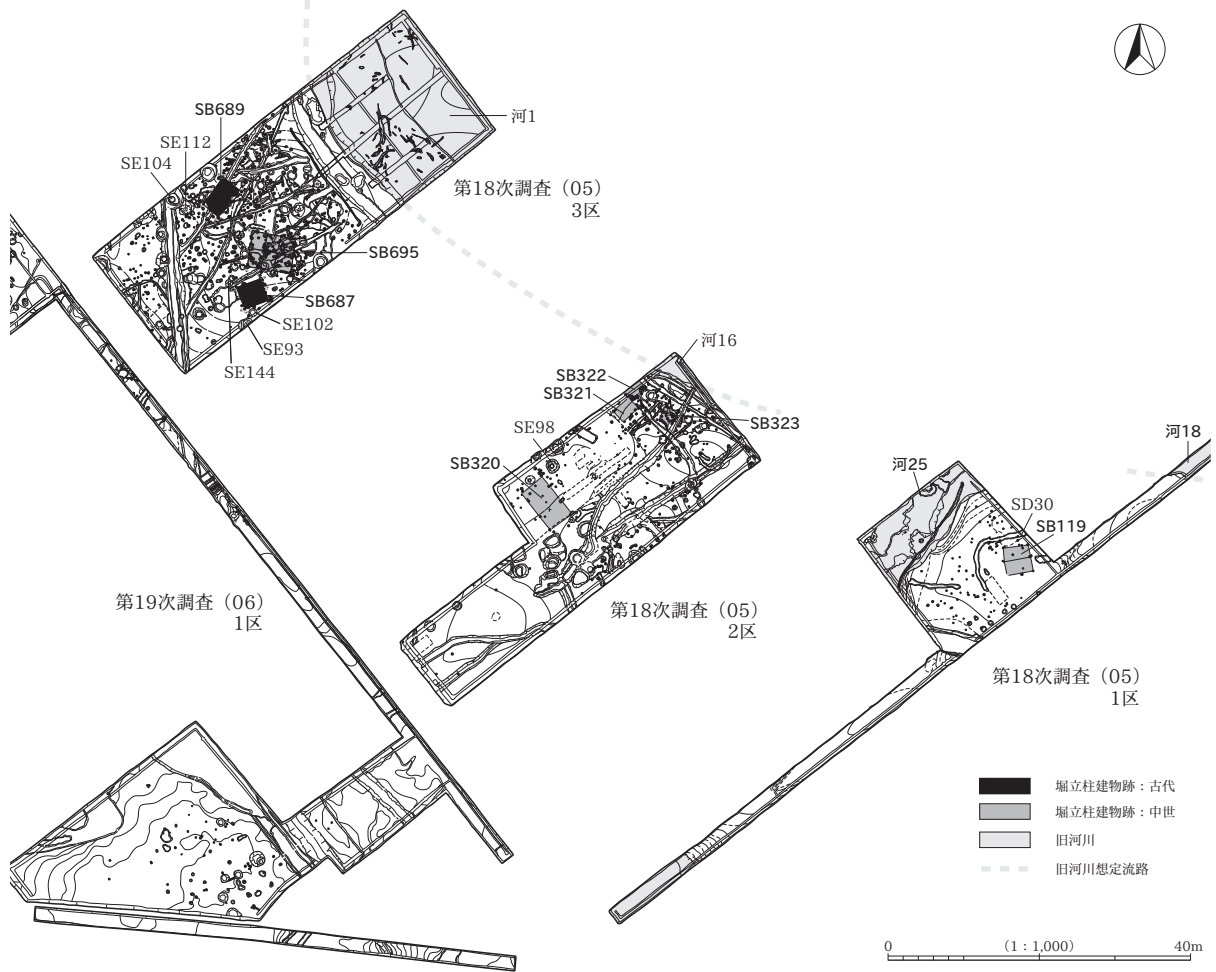
3 区河 1 では、北西から北へ湾曲する旧河川左岸肩口部でテラス状の平坦部が検出されている。類似遺構の例が新潟市江南区駒首潟遺跡〔渡邊<sup>ほか</sup>2009〕にある。本遺跡例と同様に旧河川左岸湾曲部に形成され、南北約 19m、東西約 7m の規模を有し、船着場などの水上交通関連施設と想定されている。同遺構では遺物の出土はほとんどないものの、周囲に溝や土坑を伴っており、これらの時期から VI 期の所産としている。本遺跡のテラス状遺構は、調査区北西端での部分的確認にとどまるため、付属施設とみられる遺構や全体の規模は不明であるが、同様に水上交通に関連した船着場あるいは物資の荷揚場といった性格を有すると考えられる。遺構上部は 3 区河 1 堆積土の上層および中層（1～3 層）で覆われており、特に上層堆積時に遺物の集中がみられる（図版 49～51）ことから、同時期に機能していた遺構と理解されよう。

#### B 掘立柱建物について

沖ノ羽遺跡では 8 棟の掘立柱建物跡が検出されている。掘立柱建物跡および周辺の遺構の状況を概観し、集落域の構成を考えてみたい。なお、掘立柱建物跡は第 19 次調査では確認されなかったため、本項では特に断りがない場合、区名は第 18 次調査を指す。

1 区で確認された SB119 は、主軸がほぼ南北を向く 1 間 2 間の側柱建物である。SB119 を構成する柱穴からの遺物の出土はないが、周囲を L 字状に囲む中世の溝 SD30 と一体の施設と考えられることから、中世の遺





第 34 図 旧河川流路想定および掘立柱建物跡配置図

構と想定した。西側に位置する中世の河川跡(河 25)と方位の一致が見られ、1 区の中でも一段小高い位置にある。周辺は居住域として機能していたものであろう。河 25 は出土遺物から 13 世紀代の遺構と想定され、SB119 についても同時期のものとする。

2 区では 4 棟の掘立柱建物跡が検出されている。2 区の中央やや北西よりに位置する SB320 は、構成柱穴の出土遺物から中世に位置付けられる。主軸は北西から南東方向を向く 1 間 3 間の側柱建物である。平面積が 21.78m<sup>2</sup> と比較的大きく、居住域として利用されたものと想定される。SB321・322・323 はいずれも 2 区の北西隅付近で検出されている。SB322 は全体規模が不明であるが、構成柱穴の出土遺物から中世に位置付けられる。SB321・323 については、構成柱穴からの遺物出土はないものの、周辺の区画溝との方位の一致から中世の遺構とした。平面積は SB321 が 5.36m<sup>2</sup>、SB323 が 3.3m<sup>2</sup> と小規模であり、倉庫的な建物と考えられる。2 区で確認された 4 棟の掘立柱建物跡については、主軸方向がほぼ一致し、企画性がみられる。建物跡と平行または直交方向に主軸を持つ同区 SD4 では、後述のように 12～14 世紀代の時期幅を有する遺物が比較的まとまって出土しており、これらの建物群も同時期内に機能していたものであろう。

3 区では 3 棟の掘立柱建物跡が検出された。

SB689 は、3 区河 1 河岸から約 15m 離れた位置にある 2 間 2 間の建物である。建物を構成する Pit672 が 9 世紀代と想定される井戸 SE228 に切られることから、同時期の遺構とした。位置関係から SE104 もしくは SE112 の井戸が伴っていた可能性が考えられる。SB687 は、1 間 2 間の側柱建物である。柱穴の形状や古代の井戸 SE144・SE102・SE93 との組み合わせの可能性があるので、平安時代の遺構とした。平面積は

SB687が10.21m<sup>2</sup>、SB689が12.5m<sup>2</sup>と小規模である。

SB695は束柱を持つ2間3間、面積26.43m<sup>2</sup>と比較的規模の大きい建物で、ほぼ東西に主軸をとる。SK191・291など、平安時代の遺物がまとまって出土した遺構の集中区域で確認されたため、調査時には同時期の遺構と想定していた。他の遺構との切り合い関係の検討により中世の建物跡としたものである。同区で確認できた中世の建物跡は1棟であるが、ほかに同時期の井戸や溝が多数確認されており、同区でも中世集落域の広がりが認められる。

以上概観したように、本調査区内においては7棟の掘立柱建物跡が確認され、その分布は、旧河川左岸微高地上に限定される。建物を構成する柱穴からは時期決定可能な遺物の出土は少なく、いずれも詳細時期を想定しえないが、平安時代の遺構とした3区SB687・689については、同調査区がもっとも盛んに利用されるVI期の遺構と考えられる。遺構の分布や出土遺物の状況からは、3区北側および南東側に平安時代の集落域が広がるものと推定される。

中世には微高地上の比較的広い範囲が居住域として利用される。1区SB119が位置する微高地は、同区河25で分断されており、1・2区の建物群とは集落単位が異なるものであろう。連続性や時期ごとの変遷、区画単位は把握できなかったが、遺構・遺物の分布からは2区を中心域として、旧河川に沿う形で3区北側まで中世の集落域が広がるものと考えられる。

### C 第19次調査1・2区の溝および河について

第19次調査2区南西側では、溝が遺構の主体となる(第50図参照)。南北および東西方向に軸をもつSD35・36・107や長方形の区画を形成するSD44・48、不定形のSD108などがある。これらの溝群は、いずれも遺構確認面である基本土層VI a層上面で確認され、遺物包含層V b・V c層由来の黄灰色から黒褐色の埋土を有する。確認面からの掘り込みは10～20cm程度と浅く、底面の凹凸が激しい。まとまった遺物の出土はないものの、同地区のSD79より西側では、中世の出土遺物が極めて希薄である点、SD107では平安時代の遺物が出土しており、これと平行または直交する位置関係にあるものが多い点から同時期の遺構群と想定した。

これらの溝の類例として、本遺跡県調査AおよびB地区で検出された「堀田」と呼ばれる遺構〔石川<sup>ほか</sup>1994〕〔星野<sup>ほか</sup>1996〕や近隣地にある細池遺跡の「凹地遺構」と呼ばれる溝群〔小池<sup>ほか</sup>1994〕がある。いずれも水田やこれに伴う水路と考えられている。また、同調査区南西壁を対象に行った植物珪酸体分析では、基本層序V c層でイネ・ヨシ属が4,900個/gと比較的高い値で検出され、同層堆積時には調査地点またはその近辺で稲作が行われていたと推定されており、第19次調査2区南西側の溝群については、平安時代の水田とこれに伴う水路と想定される。また花粉分析では、同層で栽培植物を含むソバ属、アブラナ科が検出されており、周辺部にこれらを栽培する畑の分布も推測されている。先に水田および水路遺構としたSD44・48に切られる畝状の遺構SD134～138がこれにあたる可能性がある。

第19次調査1区河1・2も確認面から10～20cm程度を広く浅く掘り込み、その周辺を溝状に掘る遺構で、底面の凹凸が激しい(第51図参照)。河2については、調査時に北西側の浅い掘り込み部を南東側の旧河川部の一部と想定し、同一遺構としたが、本節では北西側の浅い掘り込み部をさす。この部分の埋土を対象とした植物珪酸体分析の結果では、稲作が推定される結果が得られていないが、形状から水田の一部である可能性が高い。河2は出土遺物から中世の所産と考えられ、遺物の出土がない河1についても、遺構形状と埋土の類似性から同期のものであろう。

以上のように、集落域の後背湿地にあたる第19次調査1区西側および2区南西側区域については、それぞれ中世、平安時代に集落に伴う水田などの生産域として利用がされたものと考えられる。

## 第 2 節 沖ノ羽遺跡の出土遺物について

### A 古墳時代の土器について

沖ノ羽遺跡で出土した古墳時代の土器について検討する。沖ノ羽遺跡では第 18 次調査 1 区と 4 区（以下 1 区・4 区）から古墳時代の土器が出土した。1 区からは古墳時代中期と思われる高杯 2 が出土しているが、それ以外は小破片が散発的に出土するのみであったため、ここでは 4 区出土土器群の編年的位置付けを考察する。

4 区からは遺構・包含層合わせて 1,619 点、14,535g の土器が出土している。このうち遺構から出土した土器は 508 点、3,653g で、一括性のある出土は見られなかった。考察するに当たり、資料を補うため包含層、立会調査で出土した土器も加えて検討していく。編年的位置付けにあたっては新潟県の古墳時代後期の土器様相を頸城・魚沼地域を中心に論じた相田泰臣氏の編年〔相田 2004〕を参考にした。また、須恵器は田辺昭三氏の編年〔田辺 1981〕を参考にした。

器種ごとに概観すると、土師器杯はすべて内面を黒色処理している。口縁部が大きく外反し長く伸びるものが多い。口縁部と体部の境に明瞭な段や稜を形成する、須恵器模倣とされる杯も一定量確認される。外面調整は全体をミガキ調整するものが主体となる。他に少量ながら口縁部をヨコナデするものや、底部にケズリ調整が残るものなども見られる。高杯は杯同様すべて内面を黒色処理しており、口縁部と体部の境は不明瞭である。脚部は短脚のみで長脚は出土していない。甕は頸部の屈曲が緩やかで、口縁部はそのまま丸く収まる。口縁端部で僅かに肥厚するものも数点見られた。体部は肩や胴部が張らない長胴形と体部中位に最大径を持つやや張りのある器形がある。体部調整は基本的にはハケメだが、ケズリ調整も見られる。須恵器は杯身が 1 点出土した。口縁がやや内傾し端部が丸く収まることから TK10 型式に比定できる。この時期県内では須恵器生産が始まっていないことから、他地域からの搬入品と考えられる。

これらの様相を相田氏の編年に照らし合わせると、沖ノ羽遺跡は内黒土器が定着する相田編年Ⅱ期（6 世紀前半）の特徴を有する土器群であると言える。

当該期の遺跡は、相田編年Ⅱ期に比定される胎内市（旧中条町）船戸桜田遺跡 74 号遺構〔水澤・吉村 2001〕や、燕市（旧分水町）五千石遺跡 SB3a、SB14〔松島ほか 2010〕などが挙げられる。ただ、これらの土器群と比較すると本遺跡は、須恵器模倣杯が一定量出土していることや、薄手で浅身の杯が存在するなど、やや新相を含む土器群と言える。一括性に欠けることを考慮すれば、ある程度の時期幅を設定する必要があると考える。よって、沖ノ羽遺跡 4 区の土器群は、相田編年Ⅱ期を中心に一部Ⅲ期を含む、6 世紀前半～中葉前後に位置付けられると考える。

### B 奈良・平安時代の土器について

沖ノ羽遺跡ではすべての調査区から古代の土器が出土した。特に第 18 次調査 3 区の旧河道、河 1（以下、河 1）から多くの土器が出土している。ここでは河 1 の土器を中心に、主要遺構出土土器も参考にしながら各時期の様相を概観していく。

前述のように河 1 は第 18 次調査 3 区の北東側 3 分の 1 を占める旧河道である。平安時代の土師器・須恵器食膳具を中心に大量の遺物が出土し、特に落ち際のテラス状遺構に集中がみられる。遺物を取り上げる際には、下層を 4～7 層、中位層を 2・3 層、上層を 1 層として取り上げた。それぞれに若干の混入はあるが、各層ごとに様相差が認められる。沖ノ羽遺跡の土器の変遷については、河 1 の層位区分を基準に遺構出土資料等も使用し、古代 1～5 期に設定した（第 35 図）。

河 1 の各層の器種構成比率を第 36 図に、同じく主要遺構の器種構成比率を第 37 図に示した。組成比は口縁部残存率をもとに算出した。

古代1期は河1の前段階の時期をまとめたものである。遺構からまとまって出土した土器群は見られず、いずれも散発的な出土である。赤彩された土師器有台杯225や、内外面に丁寧なミガキを施す土師器無台碗1263が認められる。後半になると須恵器食膳具が確認でき、C群の新津丘陵窯産が主体を占める。土師器煮炊具は口縁端部が長く端部が丸く収まる形態が主流で、体部下半をハケメやケズリで調整するものが多くなっている。時期幅が大きいのが、概ね春日編年Ⅲ期からⅣ期の範疇に収まるものと考えられる。

古代2期は河1の4～7層出土資料を指標とした。食膳具では須恵器の割合が75%を占め、そのほとんどは無台杯である。B群の佐渡小泊窯産が主体であるが、C群も一定量含まれる。B群の無台杯は器壁が厚く、体部の立ち上がり角度が急なものが多い。土師器無台碗は厚手の作りで、直線的に立ち上がる。須恵器無台杯の割合と形態から春日編年Ⅴ期に並行する時期と考える。

古代3期は河1、2・3層の資料を指標とした。遺物出土量は大幅に増える。古代2期とした河1の4～7層出土資料が口縁部残存率計測法で4.23個体に対し、2・3層は92.06個体であった。食膳具では土師器が70%と増加し、須恵器は20%程度となる。須恵器無台杯はB群が80%を占め、残りの20%はC群や、A群の阿賀北産である。また、無台杯以外の器種ではA・B・C群以外を一括したD群の須恵器も見られるなど、多様な様相を示す。須恵器B群の無台杯は4～7層に比べて外傾度が大きいものも多く、やや内湾して立ち上がる器形もある。器壁が厚く、体部の立ち上がりが急な形態も一定量含まれる。法量は分散傾向にある。土師器無台碗の様相を見ると、法量では口径12.5cm前後、器高4cm前後にまとまりを持つ。それほど深身にならない形態が多く、体部の重心が低く腰が張る器形も散見できる。また、内外面にミガキを施す大型の精製品も出土する。煮炊具は口縁端部が拡張するものが増える。これらの様相から古代3期は春日編年Ⅵ1期に並行する時期であると考えられる。

主要遺構では古代2期、3期の資料がまとまって出土したものはない。やや時期幅がある資料として、第18次調査3区SK191がある。SK191では食膳具のなかで土師器が須恵器と同率で出土している。須恵器は胎土B群が主体を占めるようになり、A群・C群がわずかながら認められる。B群の無台杯のうち体部の立ち上がりが直線的な419は古代2期に相当するが、これ以外の多くは薄手の体部が開いて立ち上がる形態から、次段階である古代3期以降に比定されるものと考えられる。土師器無台碗は底径が大きく身が浅い400や厚手の作りで立ち上がりが大きく開く401など、古代2期の範疇と考える。煮炊具は口縁端部が上方につまみ上げられ、一部では上下に拡張する。このような形態は次段階の特色である。これらからSK191の所属時期は古代2期から古代3期のなかで捉えられよう。

古代4期は河1の1層を指標とした。前段階からさらに遺物量が増加し、口縁部残存率計測法で219.52個体あった。全体の構成率では土師器が84%を占め、そのほとんどは無台碗である。黒色土器も約10%と、定量出土する。一方須恵器は5%に止まる。図示した須恵器無台杯はすべてB群である。古代3期と比較して体部が大きく外傾する器形が多い。また、器壁も薄手の作りである。有台杯には体部からの立ち上がり部分が丸みを帯びる様な器形が多い。黒色土器無台碗は大型のものが増加する。土師器無台碗は口径11.8cm前後と12.6cm前後にまとまりがあり、古代3期と比べて小型化した一群が出現する。器高が4.4cmにまとまりがあることから古代3期より深身の碗が多いと言える。また、内外面にミガキを施す精製品が増加する一方、ロクロナデ痕が顕著な無台碗も散見できる。これらのことから古代4期は春日編年Ⅵ2・3期に並行すると考える。

古代4期では河1以外でも沖ノ羽遺跡全体で遺構数、遺物量ともに増加する。主要遺構としては第18次調査3区SK291、SX357が挙げられる。第18次調査3区SX357は土師器無台碗が80%を占める。須恵器の出土は少なく、黒色土器無台碗が一定量出土している。土師器無台碗は深身の碗や、精製品がみられる。須恵器無台杯はB群のみが出土しており、煮炊具は口縁端部が摘み上げられるものが主体を占めている。

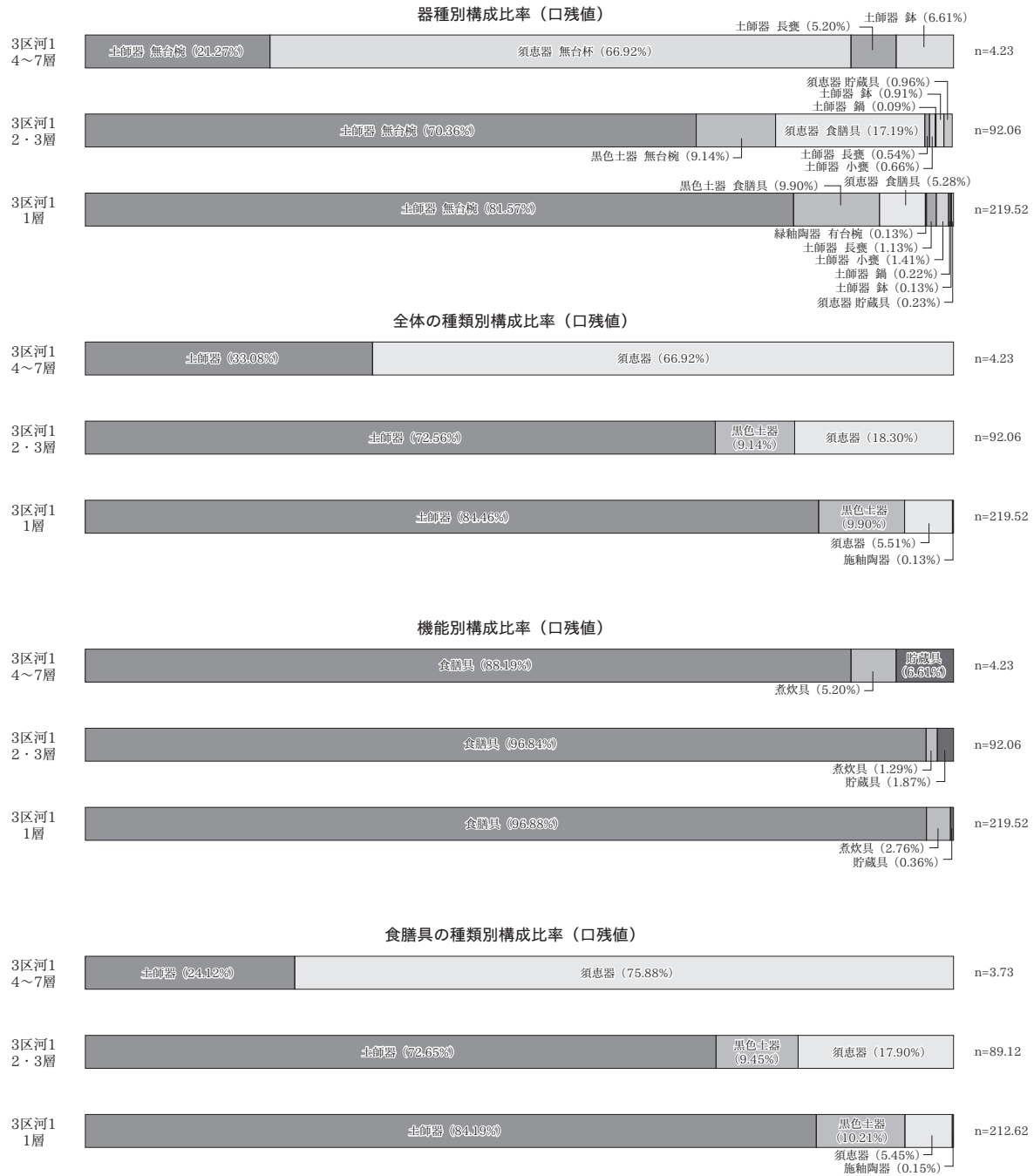
同じく第18次調査3区のSK291では食膳具の一括廃棄がみられた。全体の構成率で土師器無台碗が約95%を占め、黒色土器無台碗がわずかに伴う。須恵器は無台杯の体部破片が2点出土したのみである。土師器無台



第18次調査 3区 河1		主要遺構	
古代1期	18次 1区 SK 他	<p>54・55：18次・1区・SK19 225：18次・2区・SD36 1263：18次・4区・SD13 1272・1273：18次・4区・包含層</p>	<p>54・55：18次・1区・SK19 225：18次・2区・SD36 1263：18次・4区・SD13 1272・1273：18次・4区・包含層</p>
古代2期	18次 3区 SK 191		
古代3期	18次 3区 SK 191		
古代4期	18次 3区 SX 357		
古代5期	19次 2区 SD 94		

第35図 沖ノ羽遺跡出土土器変遷図 (S=1/6)

第 2 節 沖ノ羽遺跡の出土遺物について



第 36 図 第 18 次調査 3 区河 1 器種組成図

碗を見ていくと全体的に深身の碗が主体となる。また、内面ミガキ、外面をミガキまたはケズリで調整する無台碗も定量見られる。体部の開きが大きく、口縁端部付近で外反する 488 は新相を示すと考える。黒色土器は浅身の碗が見られる。SK291 は SX357 より新相を示すと考える。

このほかに古代 4 期の遺構として第 18 次調査 2 区 SK12、第 19 次調査 2 区 SK98 が挙げられる。いずれも食膳具の一括廃棄遺構で土師器無台碗が 85% 以上の割合を示す。薄手の作りが多く、口縁端部で外反するものが主体となることから、古代 4 期のなかでも SK291 と並行すると考える。

古代 5 期は河 1 の次段階として、第 19 次調査 2 区 SD94 を指標とした。土師器無台碗が 85% を占めており、なかでも 12cm 前後の小型品が主体となる。口縁端部が外反するものが多く、底部が厚く体部が大きく開いて立ち上がる 1501・1503 は新相を示している。黒色土器無台碗では口径 15cm 以上の大型品が見られる。須



恵器は古代4期からさらに減少している。須恵器無台杯1521は薄手の作りで体部が大きく開いて立ち上がり、新相を示す。また、有台杯1522も高台が低く幅広で、端部が丸みを帯びる。これらのことから古代5期は春日編年Ⅶ1期に概ね対応すると考える。

沖ノ羽遺跡はこれまでに新潟県や旧新津市教育委員会によって複数回にわたり調査されている(第1表)。出土土器の時期は概ねⅤ期からⅥ期が主体となっており、旧新津市が行った第15次調査〔立木<sup>ほか</sup>2008〕ではⅦ期に比定される遺構出土土器が確認できる。今回の調査ではⅤ期・Ⅵ期に土器の出土量が増加し、Ⅶ期まで一定量存在することが確認できることから、これまでの沖ノ羽遺跡の年代観と大きな差異はないものとする。

### C 中世の土器・陶磁器について

今回の調査ではほぼすべての調査区から中世の遺物が出土しており、なかでも第18次調査2区からある程度まとまった出土が見られた。しかし、遺構から出土した資料には年代幅があるものが多く、時期ごとの器種組成を示すことができなかった。よって本遺跡ではそれぞれの器種について、おおまかな年代観を見ていくこととする。

本遺跡では多くの中世土師器皿が出土した。個体数比では全体の80%を超える比率である。そのほとんどがロクロ成形で作られており、手づくね成形は少ない。ロクロ成形皿には底部糸切りとヘラ切りがあり、底部糸切りのものは大きく二つの形態に分類される。底径が小さく深身の器形で全体的に厚手の皿は12世紀代に比定できるであろう。底部が厚く器高が高い小皿も同時期のものとする。一方、同じロクロ成形で底径が大きく浅身の皿・小皿は13世紀代に位置付けられる。わずかに見られる手づくね成形の皿はこの時期のものであろう。底部ヘラ切りの皿・小皿は14世紀代に比定されると考える。それぞれの時期の中でも新旧があると思われるが、前述したように共伴遺物の時期幅が広いため、個々の皿の時期を限定しきれず、変遷を示すことはできなかった。

白磁は第18次調査1区河25から口禿げ椀が出土しており、13世紀中葉～14世紀前半に位置付けられる。青白磁は第18次調査3区SD2から合子が出土しており、13～14世紀の遺物と共伴している。

本遺跡で出土した青磁はすべて龍泉窯系で、大きく二つの時期が見られる。内外面無文、または内面に劃花文を有する一群は12世紀中葉～後半に位置付けられる。もう一方は外面に鎬蓮弁文を施す一群で、13世紀前半に比定される。すべて第18次調査での出土であった。時期を特定したもののうち12世紀のものは1区で2点、2区5点、4区で1点出土した。13世紀前半のものは1区2点、2区2点、3区で4点確認された。

瀬戸美濃焼はすべて第18次調査1・2区で出土している。瓶子の破片資料のみの出土で、年代を特定できるものは見られなかった。

珠洲焼は吉岡編年〔吉岡1994〕Ⅱ～Ⅴ期にわたって出土しており、Ⅲ・Ⅳ期が最も多くなっている。器種別では壺T種、甕、片口鉢が個体数でほぼ同率の割合で出土する。時期を特定できたもののうち、Ⅱ・Ⅲ期は片口鉢が多く確認された。Ⅳ期になると壺・甕類が増加し器種が多様になる。Ⅴ期に比定できる珠洲焼は甕のみであった。

北越窯産陶器のうち窯が推定されたのは北沢窯と赤坂山中世窯である。北沢窯産と推定された壺と片口鉢は13世紀前半に、赤坂山中世窯産の甕は13世紀中葉に位置付けられる。そのほかの北越窯産陶器も13世紀代に比定できるであろう。

以上をまとめると、本遺跡で中世の遺物が確認されるのは12世紀からである。12世紀中葉から後半に位置付けられる青磁椀が確認される。土師器皿も12世紀代と考えられるものが一定量出土する。珠洲焼が認められるのは13世紀になってからで、13世紀後半から出土量が増加する。笹神丘陵の北越窯産陶器もわずかながら出土しており、同時期の所産と思われる。食膳具である青磁椀は13世紀前半まで確認できる。土師器皿は13世紀になってもロクロ成形が主体を占めており、手づくね成形は少ない。14世紀になると珠洲焼が主体となり、中世土師器は減少する。輸入陶磁器では白磁の口ハゲ椀が1点確認できるが、青磁は出土していない。その後、



14世紀後半から遺物量は減少し、15世紀中頃を最後に遺物は確認できなくなる。

個別の遺構の様相をみると、本遺跡では前述のように第18次調査2区で中世の遺構・遺物が多く確認された。特に多くの遺物の出土がみられた遺構として、2区SD4がある。SD4では土師器皿がまとまって出土している。底径が大きいロクロ成形底部糸切りが主体で、1点のみ手づくね成形があった。これらは13世紀に位置付けられると考える。ただ、12世紀代と推定される、底径が小さく底部が厚い土師器皿も出土している。また、珠洲焼では13世紀の甕と14世紀の壺R種・甕が相伴している。SD4の層序を見ると、掘り直しが行われたような痕跡が見られることから、継続して溝を利用した結果、このような出土状況となった可能性がある。

本遺跡と同時期の遺跡としては、同じ沖ノ羽遺跡で新潟県が調査した沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)〔春日2003a〕がある。土師器が大半を占め、次いで珠洲焼が多く、施釉陶磁器が少ないという様相は本遺跡と類似する。遺物の時期は12世紀から13世紀としている。本遺跡でみられたロクロ成形で厚手の皿・小皿は12世紀後半とされるC地区8上SD1の土師器皿・小皿A1類と同様の形態である。同じくロクロ成形で底径が大きく薄手の皿は13世紀後半に比定された8上SK1の皿A2類と類似する。ただ、SK1に比べ立ち上がりが緩やかであることから、本遺跡はSK1に先行する可能性がある。一方、13世紀前半とされる8上SE23、24で見られた口縁端部に面を持つ皿B1類が本遺跡では出土していない。今回の調査では手づくね成形皿自体が少なく、土師器皿全体に対して10%程度で、この時期としては少ない割合を示している。

このほかに中世の遺跡として、同じ平野の1.5km東に内野遺跡〔立木・高野<sup>ほか</sup>2002〕がある。内野遺跡では12世紀後半から15世紀末葉にわたる遺物が出土しているが、中心となる時期は14世紀後半～15世紀前半である。遺物の年代幅は広いが、中心となる時期を考えると本遺跡に後続する遺跡であると思われる。

## D 仏鉢形土器

本遺跡からは、仏鉢形土器<sup>1)</sup>が破片数で約100点出土している<sup>2)</sup>。遺構出土のものを中心に40点を図化し、一覧を第9表に示した。種別内訳は土師器が39点、黒色土器1点で、須恵器の出土はない。器形が仏具である金属器の鉢に類似することから「鉄鉢形土器」や「仏鉢形土器」と呼称され、各地でこのタイプの土器に「寺」「仏」といった墨書・刻書が確認されていることから、仏具として使用されたと考えられている。本遺跡では、緑釉陶器香炉および蓋や「寺」「花寺」墨書土器、瓦塔などの仏教関連遺物が出土しており、土師器仏鉢形土器の多さも特徴として挙げられる。土師器仏鉢形土器については、北村氏によって県内資料の分類・編年が行われている〔北村・菊池<sup>ほか</sup>2004〕。以下、これを基礎として本遺跡出土の土師器仏鉢形土器を概観する。

出土状況を第38図に示した。第18次調査2区で8点、3区で33点、第19次調査1区で5点、2区で3点出土している。第18次調査3区に集中が見られるのは、他の古代土器の傾向と同様であるが、河1に偏らず、南西側微高地部の遺構で出土しているものが比較的多い点に特徴がみられる。3区河1では下層(4～7層)で2点(図版176-1199・1200)、中層(2・3層)で5点(図版172-1135～1139)、上層(1層)で4点(図版164-979～982)が出土している。先述のように3区河1の出土土器は下層が春日編年V期(9世紀前半)、中層がVI1期(9世紀第3四半期)、上層がVI2・3期(9世紀第4四半期～10世紀初頭)に位置付けられる。また、同区SK191出土の2点(図版141-412・413)がV～VI1期、同区SX357で1点(図版148-594)がVI2・3の土器と相伴している。本遺跡出土の仏鉢形土器については、確認できる限りすべてロクロナデ成形、底部糸切で口縁部は鉤形に内彎するものが大半を占める。先の北村氏の分類に従えば、成形手法の上では概ね2b類の範疇にあり、時期的には9世紀後半を中心とする土器群と考えられ、出土状況とも概ね一致する。ただ、3区河1下

1) 同器種については「鉢」「鉄鉢」「鉄鉢形土器」などの名称が用いられているが、本書においては、近隣の細池寺道上遺跡の例〔北村・菊池<sup>ほか</sup>2004〕から統一して「仏鉢形土器」の呼称を用いる。

2) 包含層出土遺物については、詳細な器種分類を行った上での集計を行っていないため、仏鉢形土器の正確な破片数は不明である。第42図の出土個体数も図化したものと遺構内出土のものとの合算値をもとに作成している。

層(4～7層)で出土した1199・1200については、丸底ぎみの器形がほかのものとは異なることから、1類に分類され、共伴する土器から春日編年V期に位置付けられる。また、第18次調査3区SK191・SX357で出土した413・594は、口径が20.0cmある。本遺跡ではほかに口径18～20cmのものが7点出土している。いずれも口縁部の破片であり底部を欠くため器高や全体の形状、底部切り離し手法が不明であるが、少なくとも口径15cmとされる2b類の数値とは合致しない。3区SK191では分類上口径の異なるものが共伴しており、法量の違いが時期差を反映したものとは言えない。本遺跡の例からは、2b類には口径15cm前後～20cm程度までのものを含むと考えられる。

以上をまとめると本遺跡の土師器仏鉢形土器は、春日編年VI期を主体とし、若干これに先行するV期のものを含む。また、第18次調査3区河1の上層・中層の比較からは、VI1期からVI2・3期への変遷の中では形態や法量、出土数量の変化は認められない。当該時期は、在地産須恵器の大幅な減少、佐渡小泊産須恵器と土師器・黒色土器が食膳具の大半を占めるようになることを特徴とする〔春日1999〕。前述のように本遺跡の出土土器についても同様の様相であり、仏鉢形土器が土師器・黒色土器に限られることも同じ流れの中でとらえられる。駒首瀧遺跡〔渡邊<sup>ほか</sup>2009〕の例を別とすれば、当遺跡周辺の細池寺道上遺跡や結七島遺跡〔植田<sup>ほか</sup>2003〕、釈迦堂遺跡〔江口<sup>ほか</sup>2000〕の例がいずれも土師器主体である点も同様である。9世紀後半の新発田市坂ノ沢C遺跡〔渡邊・田中2001〕でも仏鉢形土器の多出がみられるが、伝世の可能性を含めて須恵器を主体とする。本遺跡の仏鉢形土器の様相が地域性に根差すものか、また、本遺跡における40点以上という数量が、当該地域における仏教施設の拠点性と結びつくのかについては、今後の資料の増加を待ち再度検討を行いたい。

第9表 沖ノ羽遺跡出土 仏鉢形土器一覧表

図版No.	報告書No.	調査回数			出土位置		層位	種別	法量(cm)			色調	備考
		区	遺構名	グリッド	口径	底径			器高				
130	145	18	2	SK56	16G-9H12		土師器	16.0			浅黄橙(10YR8/3)	SE11 接合	
131	160	18	2	SX23	16G-9H8・9		土師器	(18.0)			浅黄橙(10YR8/3)		
131	175	18	2	SX151	17G-1F18		土師器		7.2		灰白(10YR8/2)		
132	188	18	2	SD2	17G-3E5		土師器	(16.0)			灰白(10YR8/2)		
133	231	18	2	SD36	16G-10H3		土師器				浅黄橙(7.5YR8/4)		
136	289	18	2	—	17G-2F18	V	土師器	16.0			浅黄橙(10YR8/4)	外面ヘラケズリ	
136	290	18	2	—	16G-9H20	V	土師器	(18.0)			浅黄橙(10YR8/3)		
138	320	18	3	SE55	16G-7A25		土師器	(14.8)			にぶい橙(7.5YR6/4)		
138	321	18	3	SE55	16G-7A25		土師器				にぶい褐(7.5YR6/3)		
139	341	18	3	SE104	16G-6B21		土師器	(16.0)			にぶい橙(7.5YR7/4)		
141	412	18	3	SK191	16G-7C11		土師器	(16.4)			浅黄橙(10YR8/3)		
141	413	18	3	SK191	16G-7C11		土師器	(20.0)			浅黄橙(10YR8/3)		
145	504	18	3	SK320	16G-6C12		土師器	(18.2)			にぶい橙(7.5YR7/4)		
146	547	18	3	SX19	16G-8B2		土師器	(16.0)			にぶい黄橙(10YR7/3)	内面カキメ	
148	594	18	3	SX357	16G-7C10		土師器	(20.0)			にぶい黄橙(10YR7/4)		
149	626	18	3	SX419	16G-7C5		土師器	(15.8)			橙(5YR6/6)		
150	659	18	3	SD17	16G-8B16		土師器	(15.8)			浅黄橙(7.5YR8/3)		
153	750	18	3	Pit134	16G-6B23		土師器	(16.0)			浅黄橙(7.5YR8/4)		
164	979	18	3	河1. 1層	16G-6D15	1	土師器	15.9	8.0	7.8	にぶい黄橙(10YR7/2)	底部系切り	
164	980	18	3	河1. 1層	16G-6D2・7	1～3	土師器		8.0		にぶい橙(7.5YR7/4)	底部系切り	
164	981	18	3	河1. 1層	16G-6D14	1	土師器	(16.2)			浅黄橙(10YR8/3)		
164	982	18	3	河1. 1層	16G-6E16	1	土師器	(18.9)			灰白(2.5Y8/2)		
172	1135	18	3	河1. 2・3層	16G-6E2・3・7・8・12	2・3	土師器	16.6	8.3	7.3	浅黄橙(10YR8/4)	底部系切り	
172	1136	18	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	18.0			灰白(10YR8/1)		
172	1137	18	3	河1. 2・3層	16G-5D25	2・3	土師器		6.3		にぶい黄橙(10YR7/2)	底部系切り	
172	1138	18	3	河1. 2・3層	16G-6E7	2・3	土師器	(17.6)			浅黄橙(10YR8/3)		
172	1139	18	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	土師器		6.8		灰白(10YR8/2)	底部系切り	
176	1199	18	3	河1. 4～7層	16G-6E11・16・17	2～7	土師器	14.2	6.6	8.5	にぶい橙(7.5YR7/4)	底部系切り	
176	1200	18	3	河1. 4～7層	16G-6E17	4～7	土師器	15.0			にぶい橙(5YR7/4)		
178	1230	18	3	—	16G-8B12	V	土師器	(15.0)			浅黄橙(7.5YR8/4)		
179	1231	18	3	—	16G-8A19	V	土師器	(20.0)			浅黄橙(7.5YR8/4)	スス付着	
179	1232	18	3	—	16G-8A9	V	土師器		10.0		浅黄橙(10YR8/3)	底部系切り	
179	1238	18	3	—	16G-7C11	V	黒色土器				にぶい橙(7.5YR7/4)	内外面ミガキ	
183	1301	19	1	SD105	16G-9A25		土師器	(19.0)			浅黄橙(7.5YR8/4)		
184	1330	19	1	—	17G-5B17	Va	土師器	16.0			にぶい橙(7.5YR7/3)		
184	1331	19	1	—	16G-9A7	Va	土師器	15.0	7.3	9.2	浅黄橙(7.5YR8/6)	外面ヘラケズリ	
184	1332	19	1	—	17G-5B8	Va	土師器		7.5		浅黄橙(7.5YR8/6)		
184	1333	19	1	—	16G-9A7	Va	土師器	17.1			浅黄橙(10YR8/4)	内面カキメ	
188	1414	19	2	SD6	16F-6H9・10	1・Va	土師器		7.0		淡黄(2.5Y8/3)		
193	1523	19	2	SD107	16F-9H8		土師器		7.0		浅黄橙(10YR8/4)		



### E 施釉陶器について

沖ノ羽遺跡では、25点、少なくとも20個体の施釉陶器が出土している。本遺跡では、県調査C地区で灰釉陶器1点〔春日2003a〕、旧新津市教委が行った第15次調査で灰釉陶器有台皿1点、緑釉陶器香炉蓋1点〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2008〕が出土しているが、まとまった例は初めてである。出土状況等について概要を記す。

施釉陶器については、把握し得たもの全点を図化した。器種と産地および所産時期については、井上喜久男氏（愛知県陶磁美術館）、尾野善裕氏（独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館）からご教示を受け、結果をもとに第10表一覧表に掲載した。産地と所産時期で分類した集成図を第39図に示した。なお、新潟県内での出土状況等についての記述にあたっては、春日真実氏〔春日1998a〕、若林知美氏〔若林2004〕の論考を参照した。

本遺跡出土の施釉陶器については、緑白二彩托の注口部片1点、灰釉陶器有台皿1点を除き緑釉陶器である。緑釉陶器の器種については、有台椀が15点と最も多く、次いで有台皿が2点、耳皿1点、香炉身が1点、香炉蓋が2点ある。椀・皿類については確認できる限りすべて削り出し高台を有し、香炉身・蓋が東海系であるほかは、京都系とされた。京都系の緑釉陶器については、胎土が軟質なものと同質のものに大きく二分され、前

第10表 沖ノ羽遺跡出土 施釉陶器一覧表

図版 No.	報告書 No.	出土位置			層位	種別	器種	胎土	素地	法量 (cm)			高台作成技法	産地	時期	備考	
		調査回数	区	遺構名						グリッド	口径	底径					器高
137	295	18	2	包含層	16G-9A25 17G-2F17 17G-3E	Va	緑釉陶器	香炉	良	軟	14.5	17.4	8.0		狼投	平安Ⅱ古-中	
142	427	18	3	SK191	16G-7C11		(緑白)二彩	托	良	軟					京都系	平安Ⅰ中	18次3区SX283に同一個体あり
143	459	18	3	SK282	16G-7B10		緑釉陶器	有台椀	良	硬	(13.7)				洛西	平安Ⅱ古-中	622・1251・1252と同一個体か
149	622	18	3	SX371	16G-6C12, 7C2, 7 D16	Va	緑釉陶器	有台椀	砂	硬	13.6				洛西	平安Ⅱ古-中	459・1251・1252と同一個体か
149	639	18	3	SX439	16G-7D2		緑釉陶器	有台椀	良	軟					洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	
150	645	18	3	SD2	16G-6D17		緑釉陶器	有台椀	良	硬		5.4		削り出し	洛西	平安Ⅱ古-中	やや手抜きな作り
151	702	18	3	SD157	16G-8B5		緑釉陶器	香炉蓋	良	硬	(14.9)				狼投	平安Ⅱ古-中	1563と同一個体か
153	746	18	3	Pit56	16G-7A14		緑釉陶器	有台皿	良	硬					洛西	平安Ⅱ古-中	やや古手
167	1042	18	3	河1. 1層	16G-5C15	1	緑釉陶器	有台椀	良	軟	12.6	5.4	3.9	削り出し	洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	口縁内縁に沈線
167	1043	18	3	河1. 1層	16G-6D14	1	緑釉陶器	有台椀	良	軟	(16.0)				洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	
167	1044	18	3	河1. 1層	16G-6D8	1	緑釉陶器	有台椀	良	軟					洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	
167	1045	18	3	河1. 1層	16G-6D15	1	緑釉陶器	有台椀	良	硬					洛西	平安Ⅱ古-中	
167	1046	18	3	河1. 1層	16G-6D13	1	緑釉陶器	有台椀	良	軟					洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	
167	1047	18	3	河1. 1層	16G-6E16	1	緑釉陶器	有台椀	良	軟					洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	
167	1048	18	3	河1. 1層	16G-5C15, 6E11	1	緑釉陶器	有台椀	良	軟					洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	
167	1049	18	3	河1. 1層	16G-6D15	1	緑釉陶器	香炉蓋	良	硬					狼投	平安Ⅱ古-中	
180	1251	18	3	包含層	16G-8A3・4	V・Va	緑釉陶器	有台椀	良	硬	12.8				洛西	平安Ⅱ古-中	459・622・1252と同一個体か
180	1252	18	3	包含層	16G-7B19, 8B10	Va	緑釉陶器	有台椀	砂	硬	12.5	6.2	4.5	削り出し	洛西	平安Ⅱ古-中	459・622・1251と同一個体か
184	1342	19	1	包含層	16G-9A7	Va	緑釉陶器	有台椀	良	軟					洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	
185	1359	19	2	SK95	16F-5H24, 6H15	1・Va	灰釉陶器	有台皿							狼投	平安Ⅱ古-中	
190	1458	19	2	SD79	16F-9H14	1	緑釉陶器	有台椀	良	硬					洛西	平安Ⅱ古-中	
190	1459	19	2	SD92	16F-7I17, 8I12	1	緑釉陶器	有台皿	砂	硬	15.0				洛西	平安Ⅱ古-中	1564と同一個体か
195	1563	19	2	包含層	16F-7I22	Va	緑釉陶器	香炉蓋	良	硬	16.0				狼投	平安Ⅱ古-中	702と同一個体か
195	1564	19	2	包含層	16F-6I22・23	Va	緑釉陶器	有台皿	砂	硬					洛西	平安Ⅱ古-中	1459と同一個体か 1252と同時期・同窯か
195	1565	19	2	包含層	16F-9H22	Va	緑釉陶器	耳皿	良	軟?		4.5		削り出し	洛北	平安Ⅰ新-Ⅱ古	二次被熱



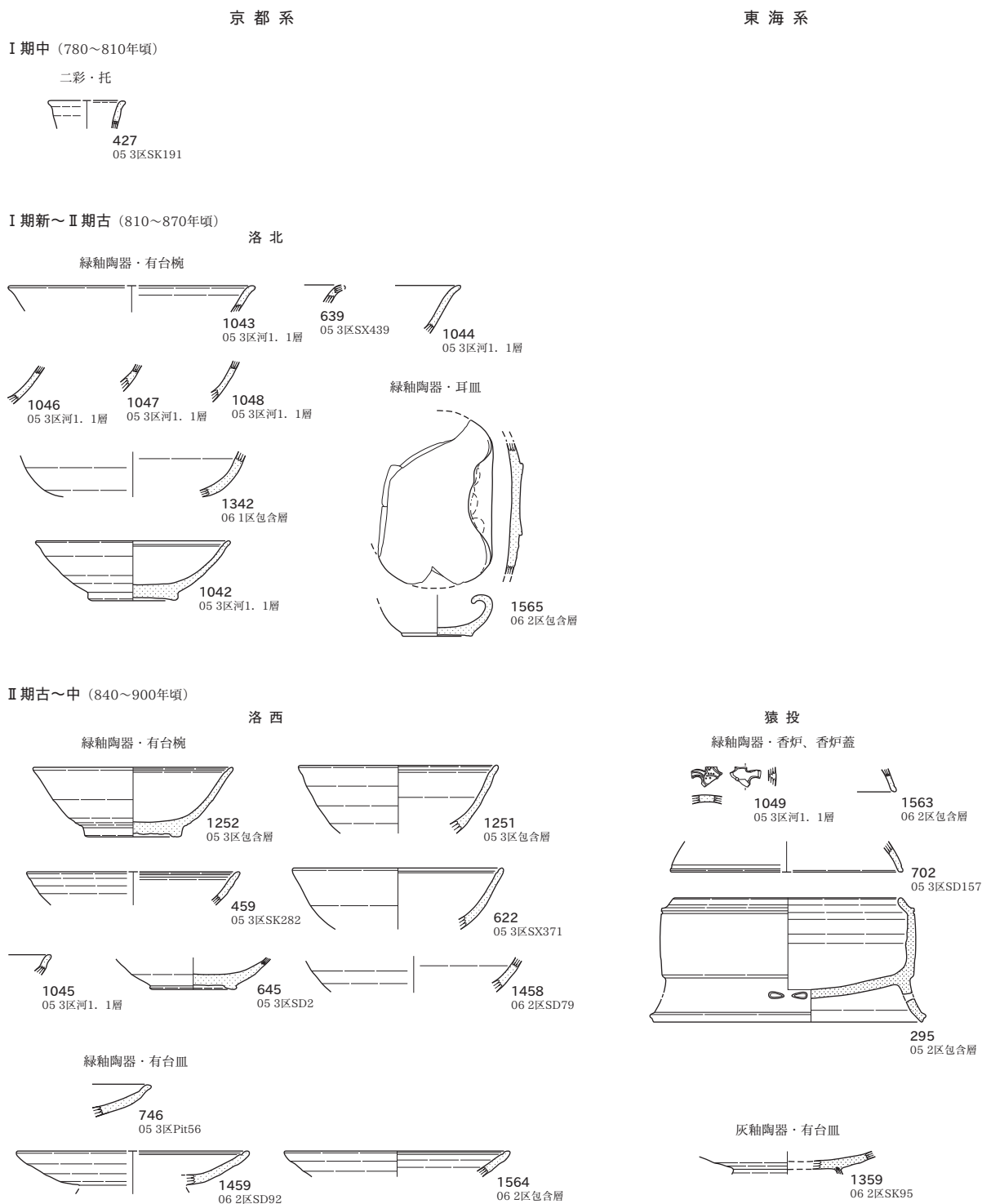
者の所産時期が概ね 9 世紀前葉前後、後者がこれよりやや新しい 9 世紀後葉前後とされる。

第 18 次調査 3 区河 1 上層では、8 点の施釉陶器が出土している。すべて緑釉陶器で、内訳は京都系で胎土が軟質の有台椀 6 点（図版 167-1042～1044・1046～1048）、硬質の有台椀 1 点（図版 167-1045）、東海系の香炉蓋 1 点（図版 167-1049）である。前述のように 3 区河 1 では、上層・中層を主体に多量の土器が出土しており、上層の土器は春日編年 VI 2・3 期に、中層が同 VI 1 期に位置付けられる。

緑白二彩托（427） 京都系で胎土が軟質の緑釉有台椀（639）が先行する時期の土器と共伴しており、やや時期が遡る可能性がある。他の施釉陶器については、9 世紀前葉前後の所産とされる軟質の一群が 3 区河 1 の上層のみで出土しており、中層以下での出土がないこと、硬質の一群も中世遺物を含む遺構からの出土ではあるものの概ね VI 2・3 期の土器群と共伴していることから、所産時期を考慮に入れば、使用・廃棄の年代としては、9 世紀第 4 四半期から 10 世紀初頭を中心とした時期と推定される。

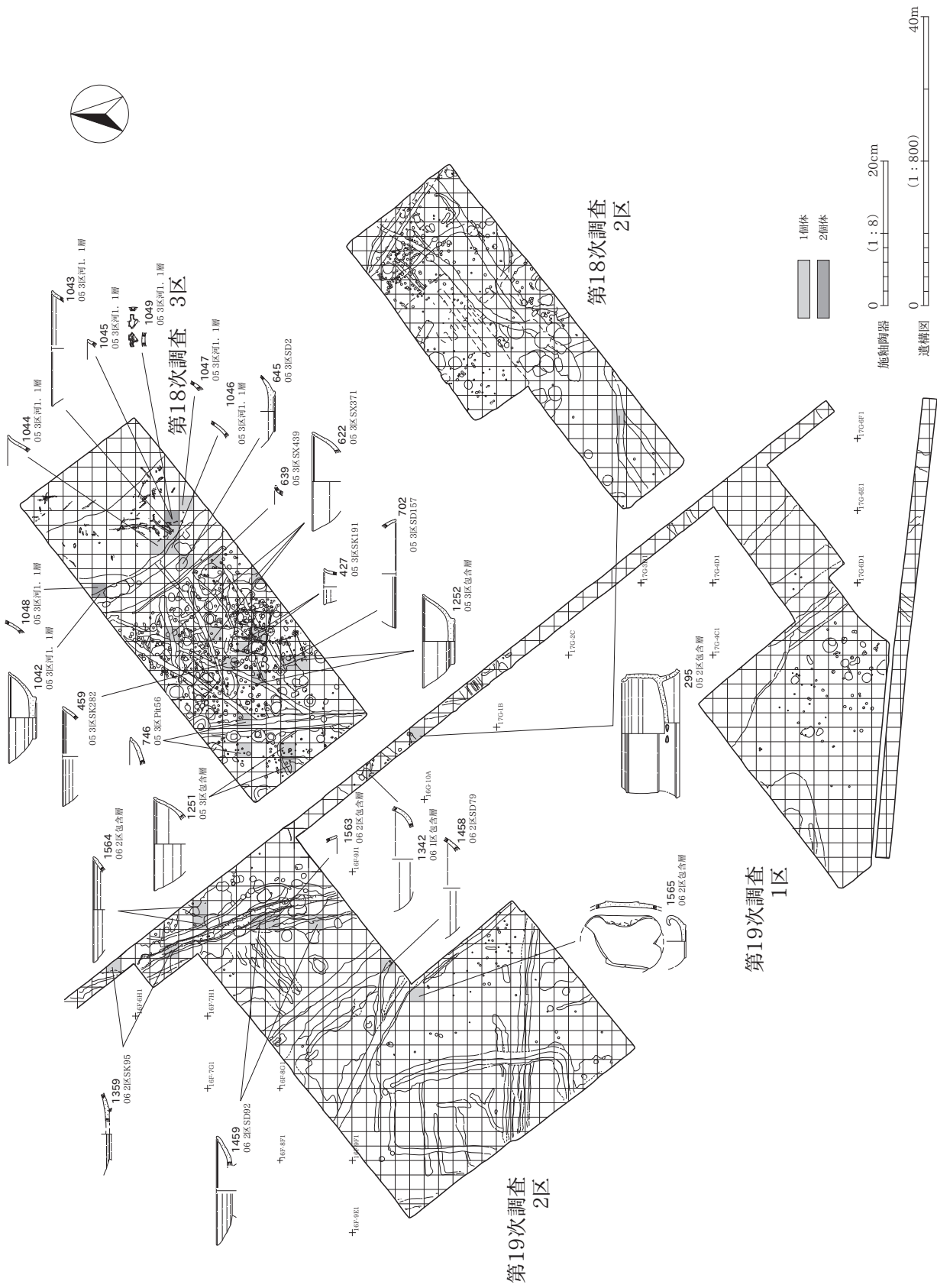
施釉陶器には仏具である二彩托（図版 142-427）、緑釉陶器香炉身（図版 137-295）・香炉蓋（図版 151-702・図版 167-1049・図版 195-1563）・耳皿（図版 195-1565）が含まれる。緑白二彩托は、口縁部の微細な破片である。外面に濃緑色の釉をわずかに残し、胎土は軟質である。8 世紀末から 9 世紀初頭の京都産と推察される。第 18 次調査 3 区 SK191 で春日編年 V 2～VI 1 期の土器と共伴しており、本遺跡の仏教系遺物の中では初現期にあたる。緑釉陶器香炉身については、釉調は淡橙色を呈し胎土は硬質で、9 世紀後葉の猿投窯産と推定される。3 点出土している香炉蓋はこれとセットになる可能性が高い。管見の限り県内の香炉出土例では、上越市四ツ屋遺跡〔秦・中村 1988〕、本遺跡第 15 次調査〔前掲〕に続く例であり、全体の 3 分の 1 ほどが残存し、全体形が復元できる資料としては初出である。緑釉陶器耳皿（1565）は二次被熱により釉薬が剥落し、胎土も変化しているため、不明瞭であるが、9 世紀後葉の京都産と推察される。県内では、五泉市小見山遺跡〔山崎・遠藤 1999〕で緑釉陶器、中頸城郡妙高高原町（現妙高市）関川谷内遺跡〔小池<sup>ほか</sup> 1998〕、上越市四ツ屋遺跡〔前掲〕で灰釉陶器の例がある。

以上をまとめると、本遺跡出土の施釉陶器については、京都系緑釉陶器が主体となり、二彩托・香炉・耳皿といった仏具を含む。使用および廃棄年代は、9 世紀第 4 四半期から 10 世紀初頭を中心とした時期と推察される。本遺跡周辺で比較的施釉陶器がまとまって出土している例としての的場遺跡〔小池・藤塚 1993〕、牛道遺跡〔土橋<sup>ほか</sup> 1999〕があるが、いずれも東海系の灰釉陶器を主体とするようであり、本遺跡の状況とは異なる。京都系緑釉陶器がまとまる例としては、西蒲原郡吉田町（現燕市）中組遺跡〔春日 1998a〕があげられるのみである。また、本遺跡と同じ阿賀野川流域周辺に位置する東区山木戸遺跡〔小池 1999・諫山 2004〕、本遺跡に隣接する秋葉区中谷内遺跡〔立木<sup>ほか</sup> 1999〕で一定量の京都系緑釉陶器が出土していることは、同一水系を介した流通関係をうかがわせる。ただ、現時点では仏具を含む 20 点前後の緑釉陶器が出土している本遺跡例は、周辺に類例がなく、本遺跡の特異性を示すものといえよう。



註) ローマ数字は、平安京出土土師器編年を軸にした5期区分〔平尾1994〕による。

第39図 沖ノ羽遺跡出土施釉陶器集成 (S=1/4)



第40図 施軸陶器出土状況

## 第3節 墨書土器

### A 出土地点および遺構

沖ノ羽遺跡の第18次および第19次調査では合計134点(第18次129点、第19次5点)の墨書土器が出土した。沖ノ羽遺跡のこれまでの調査での出土点数は合計16点であり、墨書土器がまとまって出土したのは今回が初めてである。第18次調査で出土した129点のうち、108点が3区の河1からの出土である。とくに16G-5D21(6点)、6D2(8点)、6D3(6点)、6D8(9点)、6D9(12点)、6D10(9点)、6D14(6点)、6D15(18点)、6D20(6点)など、河1の左岸側からまとまって出土しており、河1の左岸で何らかの祭祀が行なわれて廃棄されたか、あるいは河1の左岸から投棄されたものと考えられる。河1以外では、SK291から7点、SD380から2点と複数出土している。第19次調査では、SD94とSK98からそれぞれ2点の墨書土器が出土している。これらのうち、主要なもの112点を第11・12表、第41～45図にまとめた。

### B 器種と墨書部位

墨書土器134点の内訳は、須恵器が23点(約17.2%)、土師器が91点(約67.9%)、黒色土器が20点(約14.9%)である。器種は杯、椀ですべて食膳具である。

墨書部位は、須恵器杯23点(無台杯22点、有台杯1点)では、底部外面15点(約65.3%)、体部外面5点(約21.7%)、その他3点(約13%)で、底部外面が半数以上を占めるが、体部外面への墨書も一定量見られる。新潟県内出土の墨書土器のうち、須恵器杯の墨書部位については、それまで底部外面が圧倒的多数であったものが、9世紀中葉から末頃に体部外面への墨書も一定量見られるようになることが指摘されている〔小林・相沢2004〕。

土師器無台椀91点では、底部外面54点(約59.3%)、体部外面32点(約35.2%)、その他5点(約5.5%)で、体部外面が35%ほどにとどまるのに対して、底部外面が60%近くを占める。黒色土器無台椀20点では、底部外面18点(90%)、体部外面2点(10%)で、底部外面が大半である。新潟県内出土の墨書土器のうち、黒色土器を含めた土師器椀の墨書部位については、底部外面が約34%、体部外面が約65%とされている〔小林・相沢2004〕。沖ノ羽遺跡出土の墨書土器では、黒色土器を含めた土師器無台椀の墨書部位に底部外面が多い点の特徴的である。また、その他とした5点のうち3点(墨23・墨24・墨25)は底部外面と体部外面の2か所に墨書するものであり、後述するように、墨23と墨24は底部外面、体部外面とも同じ文字を記していると考えられる。

### C 主な文字の検討

墨書土器134点の内、文字を判読できたのは80点(推定によるものを含む。以下に記す点数も同じ)である。以下、主な文字について検討する。

#### 1) 「万」(墨35・墨62・墨65・墨66・墨79ほか)

「万」を記す墨書土器は42点(須恵器無台杯4点、土師器無台椀32点、黒色土器無台椀6点)である。墨書部位は、須恵器無台杯と黒色土器無台椀では全点が底部外面、土師器無台椀では28点(87.5%)が底部外面、4点(12.5%)が体部外面であり、底部外面に墨書される割合が、出土した墨書土器全体での割合よりも高い。また、特異な字形のものが見られる。「万」の2画目と3画目の筆順が逆になり、中には一筆書きのように記す字形もある(墨26・墨35・墨37・墨55・墨75・墨77・墨88・墨106)。「万」は多くの遺跡から出土する文字種であり、良好な状態を意味する吉祥的な文字と考えられている〔平川2000〕。

#### 2) 「上万」(墨43・墨53・墨85・墨86・墨87・墨105)

いずれも底部外面に大きく記されている。「上万」と記す墨書土器は、沖ノ羽遺跡の北に隣接する中谷内遺跡の平成9年度調査でも3点出土している。「上」と「万」は、どちらも多くの遺跡から出土する文字種であり、



吉祥的な意味をもつ文字である。「上万」は吉祥的な意味を有する2つの文字を組み合わせ、熟語的に記していると考えられる。

### 3) 「花寺」(墨2)・「寺」(墨14)

墨2は第18次調査3区SK291からの出土、墨14はSK291に近接するPit269からの出土である。いずれも土師器無台碗の体部外面に記される。

新潟県内では、これまでに11遺跡で「寺」字を記す墨書・刻書土器の出土が報告されている<sup>1)</sup>。市内では、東区山木戸遺跡から「寺」(5点)、江南区大淵遺跡から「隆寺」「寺口」(各1点)と記された墨書土器が出土している。「寺」は比較的多くの遺跡から出土する文字種であり、「寺」と書かれた墨書土器の出土のみをもって仏教施設の存在を想定することはできない。しかし、佐渡市藤塚貝塚出土の「高命寺」や同市城ノ腰遺跡出土の「福松寺」(刻書土器)、市内江南区大淵遺跡出土の「隆寺」(「隆」字の上は欠損のため不明)などのように寺院名を記すものや、特殊な遺構や遺物を伴う場合は、仏教施設の存在が想定される。

沖ノ羽遺跡出土の「花寺」の理解については、次の例が参考となる〔磐梯町教育委員会ほか2000〕。福島県磐梯町慧日寺跡出土の「赤水寺」の墨書土器は、「あみでら」と読み、「阿弥陀寺」の意味と考えられている。また、同遺跡から出土した「見寺」の墨書土器も、「見」の上が欠損しているが、同様に「阿弥陀寺」を表していると考えられている。絹本著色恵日寺絵図には金堂の北西側に阿弥陀堂が描かれており、「赤水寺」「見寺」の墨書土器との関連が推測されている。このように、「赤水寺」や「見寺」は「阿弥陀寺」を略して記したものと考えられている。沖ノ羽遺跡出土の「花寺」は、「花寺」という寺院名とも考えられるが、例えば「法花(華)寺」のような寺院名を略して記している可能性もあるだろう。

なお、墨23と墨24は、ともに土師器無台碗の底部外面と体部外面の2か所に、それぞれ同じ文字を記しており、底部外面は「万」、体部外面は横位で「寺」と推測される。

### 4) 「中」(墨93・墨94・墨95)

3点とも須恵器無台杯の底部外面に記される。墨93と墨94は文字の記載位置や大きさ、字形も類似している。「中」は多くの遺跡から出土する文字種である。

### 5) 「口卅」(墨98・墨99)

2点とも須恵器無台杯の底部外面に記され、文字の記載位置や大きさも類似している。

### 6) 「㊦」(墨91・墨92)

2点とも須恵器無台杯の体部外面に記される。市内西区の的場遺跡で類似の記号を記した墨書土器が出土している。

### 7) その他

「道」(墨17)は土師器無台碗の体部外面に横位で記されている。県内では村上市道土遺跡から「道」の刻書土器、新発田市野中土手付遺跡から「道口」の墨書土器、見附市上田遺跡から「口〔弘カ〕道」の墨書土器の出土があるほか、市内西区の緒立C遺跡と江南区の石動遺跡から「道」と読める可能性のある墨書土器がそれぞれ出土している。「扱入」(墨90)は須恵器無台杯の体部外面に横位で記されている。端正な文字だが意味は不明である。「本」(墨96)は須恵器無台杯の底部外面に、「大」と「十」を組み合わせた「本」の異体字で記されている。「本」は多くの遺跡から出土する文字種である。「継人」(墨60)は須恵器無台杯の底部外面に大きく記されている。人名と考えられる。「大・大／大・大」(墨18)は、土師器無台碗の体部の内外両面に記されている。「大」字を複数記しており習書と考えられる。土器に習書する県内の事例としては、三条市白山B遺跡出土の「戸」字を複数記す墨書土器などがある。

1) 以下、県内の出土事例については、青森県2008「新潟県の墨書・刻書土器」『青森県史 資料編 古代2 出土文字資料』を用いた。

## D まとめ

「花寺」(墨2)は、前述したように、「花寺」という寺院名、あるいは「法花(華)寺」のような寺院名を略して記したものと考えられ、沖ノ羽遺跡の集落内における仏教施設が存在がうかがえる。古代の集落内に仏堂や道場のような仏教施設が設けられていたことは、『日本霊異記』の説話(下巻11、28など)に見られるほか、各地の集落遺跡の発掘調査で仏堂と考えられる遺構が検出され、市内江南区の駒首瀉遺跡の調査で検出された桁行・梁行2間の四面廂付建物(SB3016)も仏堂と考えられている。

「上万」(墨43・墨53・墨85・墨86・墨87・墨105)は、沖ノ羽遺跡の北に隣接する中谷内遺跡でも3点出土している。中谷内遺跡は沖ノ羽遺跡とほぼ同時期の集落跡と考えられ、「上万」の墨書土器が共通して出土していることは、2つの集落が密接な関連をもっていたことをうかがわせる<sup>2)</sup>。しかし、一方で、中谷内遺跡で見られた「神」「山手」の墨書土器が沖ノ羽遺跡では出土していないことは、2つの集落それぞれの独自性を示している。2つの集落は、基本的な生産活動はそれぞれ独自に行ない、特別な場合にのみ共同で活動するような関係だったのかもしれない。

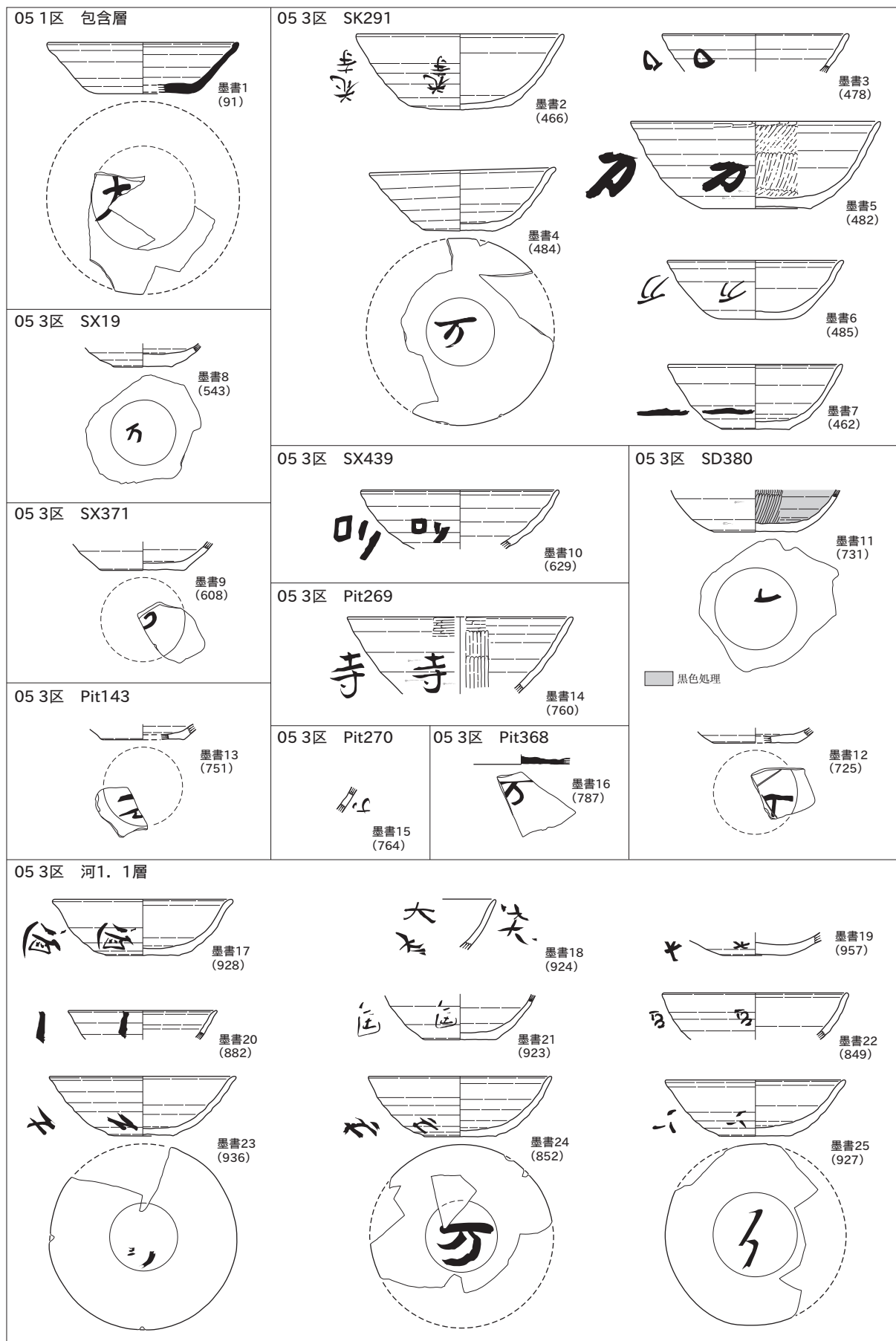
第11表 沖ノ羽遺跡出土墨書土器一覧表(1)

墨書No.	報告書No.	種別	器種	部位・方向	積文	出土地点			備考	
						調査回数	区	遺構名		グリッド
1	91	須恵器	無台杯	底部外面	大	18	1	包含層	16H-10E4	
2	466	土師器	無台碗	体部外面・倒位	花寺	18	3	SK291	16G-7C13	
3	478	土師器	無台碗	体部外面・横位	口	18	3	SK291	16G-7C13	
4	484	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	SK291	16G-7C13	河1(16G-5D22)と接合
5	482	土師器	無台碗	体部外面・正位	万	18	3	SK291	16G-7C13	大形の碗
6	485	土師器	無台碗	体部外面・倒位	万	18	3	SK291	16G-7C13	
7	462	土師器	無台碗	体部外面	口	18	3	SK291	16G-7C13	
8	543	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	SX19	16G-8B2	
9	608	土師器	無台碗	底部外面	口	18	3	SX371	16G-7D6	
10	629	土師器	無台碗	体部外面	口口	18	3	SX439	16G-7D1	
11	731	黒色土器	無台碗	底部外面	口	18	3	SD380	16G-7D11	
12	725	土師器	無台碗	底部外面	口	18	3	SD380	16G-7D6	
13	751	土師器	無台碗	底部外面	口	18	3	Pit143	16G-8B5	
14	760	土師器	無台碗	体部外面・正位	寺	18	3	Pit269	16G-7C8	
15	764	土師器	無台碗	体部外面・倒位	口	18	3	Pit270	16G-7C8	
16	787	須恵器	無台杯	底部外面	万	18	3	Pit368	16G-7D11	
17	928	土師器	無台碗	体部外面・横位	道	18	3	河1.1層	16G-6D2	
18	924	土師器	無台碗	体部外面・正位	大・大	18	3	河1.1層	16G-6D9	習書
19	957	土師器	無台碗	体部内面・正位	大・大					
20	882	土師器	無台碗	体部外面・倒位	口〔大カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D20	
21	923	土師器	無台碗	体部外面	口	18	3	河1.1層	16G-6D8	
22	923	土師器	無台碗	体部外面	口	18	3	河1.1層	16G-5D7	横位か 50と類似
23	849	土師器	無台碗	体部外面	口	18	3	河1.1層	16G-6D9	絵か
24	936	土師器	無台碗	体部外面・横位	口〔寺カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D2	底部外面は「万」か
25	936	土師器	無台碗	底部外面	口					
26	852	土師器	無台碗	体部外面・横位	口〔寺カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D9	
27	852	土師器	無台碗	底部外面	万					
28	927	土師器	無台碗	体部外面・横位	口	18	3	河1.1層	16G-6D4	
29	927	土師器	無台碗	底部外面	口					
30	894	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D9	
31	913	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D9	
32	934	土師器	無台碗	底部外面	口〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D8	
33	829	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D8	
34	925	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-5D21	
35	944	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D15	
36	946	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D1	
37	947	土師器	無台碗	底部外面	口〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-5D22	内面墨痕あり
38	942	土師器	無台碗	底部外面	口〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D4	16G-6D3と接合
39	935	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D9	
40	906	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D3	
41	889	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D8	
42	961	土師器	無台碗	底部外面	口〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D15	
43	945	土師器	無台碗	底部外面	口	18	3	河1.1層	16G-6D8	
44	926	土師器	無台碗	底部外面	口	18	3	河1.1層	16G-5D21	
45	949	土師器	無台碗	底部外面	口〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D20	
46	952	土師器	無台碗	底部外面	口〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D14	

2) 共通した墨書土器の文字が集落を越えて分布する事例については鬼頭清明氏が考察している。鬼頭清明 1989「郷・村・集落」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集。

第12表 沖ノ羽遺跡出土墨書土器一覧表(2)

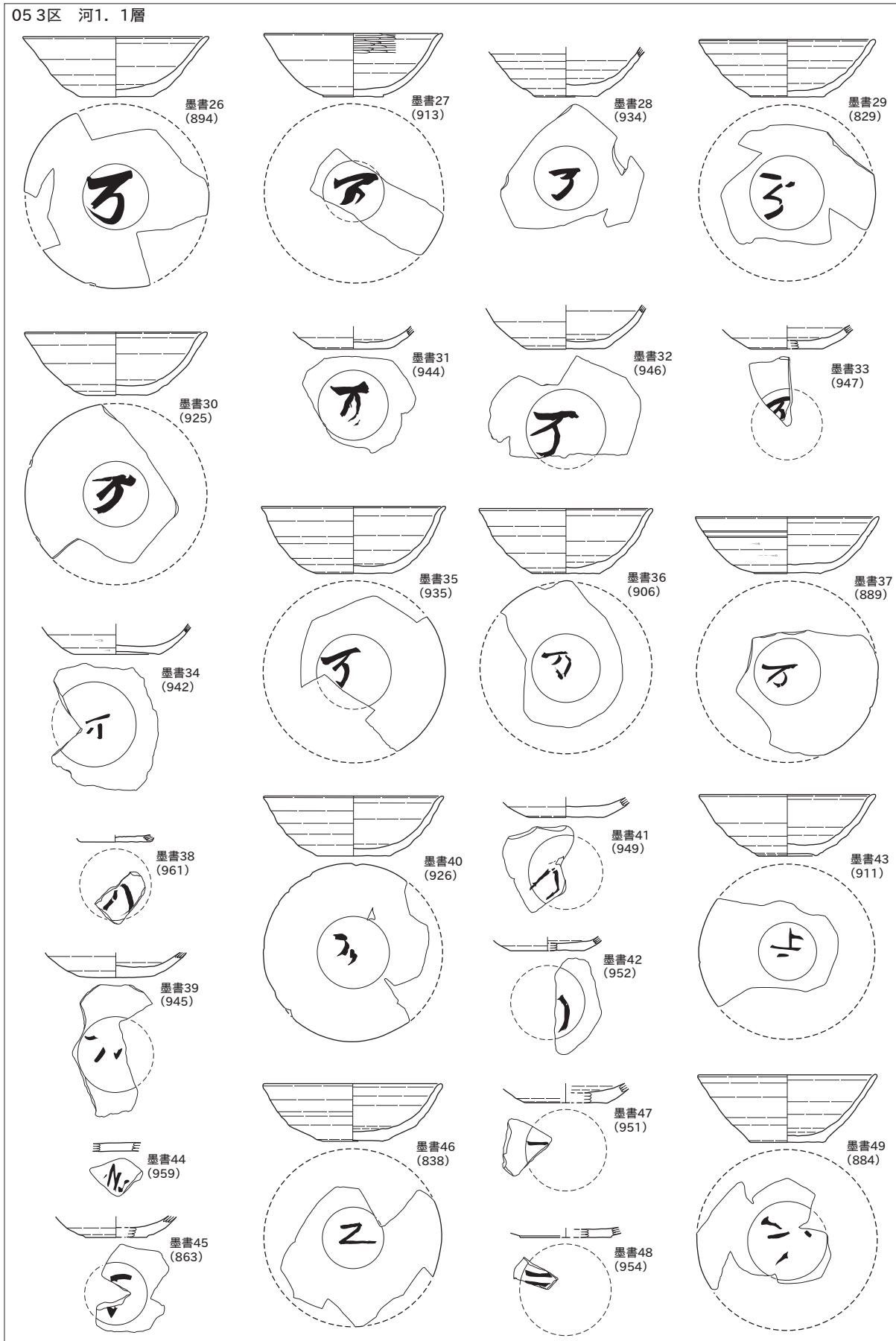
墨書 No.	報告書 No.	種別	器種	部位・方向	積文	出土地点				備考
						調査回数	区	遺構名	グリッド	
43	911	土師器	無台碗	底部外面	上□〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-5D16	
44	959	土師器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.1層	16G-6D14	
45	863	土師器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.1層	16G-6D3	
46	838	土師器	無台碗	底部外面	Z	18	3	河1.1層	16G-6D15	記号様
47	951	土師器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.1層	16G-5C20	
48	954	土師器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.1層	16G-5D21	
49	884	土師器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.1層	16G-6D1	
50	991	黒色土器	無台碗	体部外面・正位	□	18	3	河1.1層	16G-6D20	21と類似
51	993	黒色土器	無台碗	底部外面	一	18	3	河1.1層	16G-6D2	
52	1009	黒色土器	無台碗	底部外面	上万	18	3	河1.1層	16G-6D8	
53	1012	黒色土器	無台碗	底部外面	上□〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D2	
54	1005	黒色土器	無台碗	底部外面	□〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D2	
55	983	黒色土器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6D4	
56	1011	黒色土器	無台碗	底部外面	□〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D2	
57	1006	黒色土器	無台碗	底部外面	□〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-5D21	
58	1010	黒色土器	無台碗	底部外面	□〔万カ〕	18	3	河1.1層	16G-6D2	
59	1014	黒色土器	無台碗	底部外面	□万	18	3	河1.1層	16G-6D3	
60	1018	須恵器	無台杯	底部外面	継人	18	3	河1.1層	16G-6D15	
61	1017	須恵器	無台杯	底部外面	つ	18	3	河1.1層	16G-6D15	記号様「○」か
62	1024	須恵器	無台杯	底部外面	万	18	3	河1.1層	16G-6E6	内面転用硯か
63	1028	須恵器	無台杯	底部内面	□	18	3	河1.1層	16G-6D3	
64	1029	須恵器	有台杯	体部外面	□	18	3	河1.1層	16G-5D21	高台内転用硯
65	1088	土師器	無台碗	体部外面・正位	万	18	3	河1.2・3層	16G-6D10	
			体部外面・横位	□〔万カ〕						
66	1070	土師器	無台碗	体部外面・横位	万	18	3	河1.2・3層	16G-6D10	
67	1097	土師器	無台碗	体部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	
68	1090	土師器	無台碗	体部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-6E6	
69	1075	土師器	無台碗	体部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-6D4	16G-6D3・8・9と接合
70	1076	土師器	無台碗	体部外面・倒位	□	18	3	河1.2・3層	16G-6E11	
71	1111	土師器	無台碗	体部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-5D10	
72	1089	土師器	無台碗	底部外面	□〔田カ〕	18	3	河1.2・3層	16G-6D8	内面スス 燈明か
73	1114	土師器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-6D5	
74	1119	土師器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	
75	1107	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-6E11	
76	1113	土師器	無台碗	底部外面	□〔万カ〕	18	3	河1.2・3層	16G-6D10	
77	1116	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-6D9	
78	1112	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	
79	1079	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	
80	1106	土師器	無台碗	底部外面	□〔万カ〕	18	3	河1.2・3層	16G-6D10	内面墨痕あり
			底部内面	□						
81	1067	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-6D9	
82	1117	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-6E2	
83	1115	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-5E21	
84	1156	黒色土器	無台碗	底部外面	生	18	3	河1.2・3層	16G-6D10	
85	1149	黒色土器	無台碗	底部外面	上□〔万カ〕	18	3	河1.2・3層	16G-6D10	
86	1150	黒色土器	無台碗	底部外面	上□〔万カ〕	18	3	河1.2・3層	16G-6D10	
87	1158	黒色土器	無台碗	底部外面	□〔上カ〕万	18	3	河1.2・3層	16G-6E6	
88	1155	黒色土器	無台碗	底部外面	万	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	上に1字あるか
89	1148	黒色土器	無台碗	底部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-6D14	
90	1184	須恵器	無台杯	体部外面・横位	扱入	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	
91	1171	須恵器	無台杯	体部外面	⊖	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	記号様 92と同じ
92	1161	須恵器	無台杯	体部外面	⊖	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	記号様 91と同じ
93	1168	須恵器	無台杯	底部外面	中	18	3	河1.2・3層	16G-6E16	94と字の大きさ、字形類似
94	1159	須恵器	無台杯	底部外面	中	18	3	河1.2・3層	16G-6D2	93と類似 16G-6D3と接合
95	1173	須恵器	無台杯	底部外面	中	18	3	河1.2・3層	16G-6D20	
96	1180	須恵器	無台杯	底部外面	本	18	3	河1.2・3層	16G-6D20	異体字
97	1169	須恵器	無台杯	底部外面	×	18	3	河1.2・3層	16G-6D15	16G-6D14・20と接合
			底部内面	山人□						
98	1160	須恵器	無台杯	底部外面	□卍	18	3	河1.2・3層	16G-6E6	□は「○」か 99と同じ 16G-6E5と接合
99	1176	須恵器	無台杯	底部外面	□卍	18	3	河1.2・3層	16G-6D20	98と同じ
100	1170	須恵器	無台杯	底部外面	一	18	3	河1.2・3層	16G-6D14	
101	1185	須恵器	無台杯	体部外面	□	18	3	河1.2・3層	16G-5D16	内面転用硯か 16G-5D17と接合
			底部外面	□						
102	1204	須恵器	無台杯	底部外面	□	18	3	河1.4～7層	16G-6E12	
103	1203	須恵器	無台杯	底部外面	万	18	3	河1.4～7層	16G-6E17	
104	1210	土師器	無台碗	体部外面・正位	丁	18	3	包含層	16G-7C13	
105	1209	土師器	無台碗	底部外面	上万	18	3	包含層	16G-5C19	
106	1211	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	包含層	16G-5D20	
107	1212	土師器	無台碗	底部外面	万	18	3	包含層	16G-7C3	
108	1337	須恵器	無台杯	底部外面	万	19	1	包含層	16G-9A7	
109	1366	土師器	無台碗	体部外面・倒位	□	19	2	SK98	16F-8H19	
110	1368	土師器	無台碗	体部外面・倒位	良	19	2	SK98	16F-8H19	
111	1501	土師器	無台碗	体部外面・倒位	吉	19	2	SD94	16F-8H23	
112	1460	土師器	無台碗	体部外面・倒位	□	19	2	SD94	16F-8H23	



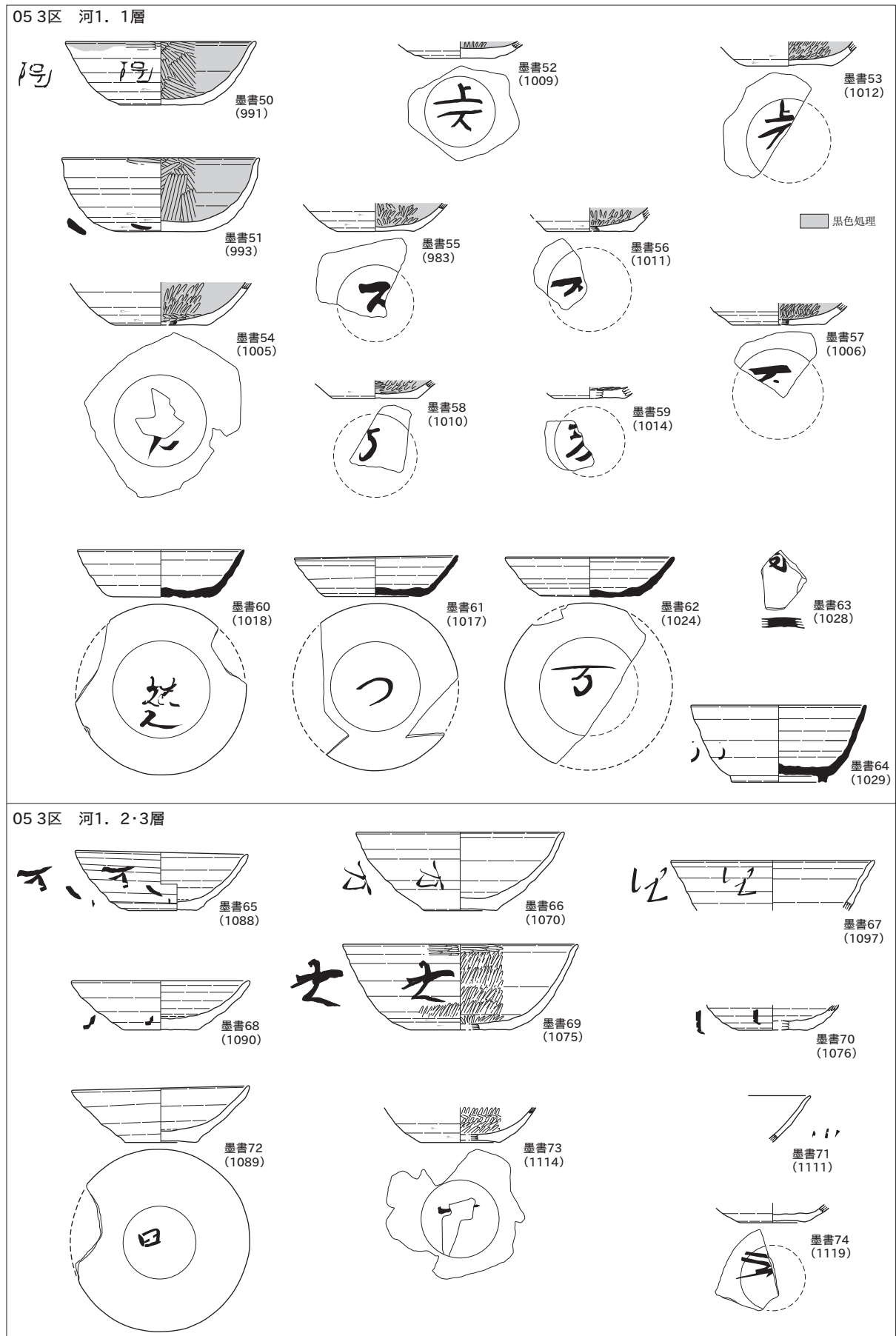
第41図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(1) (S=1/4)



053区 河1. 1層

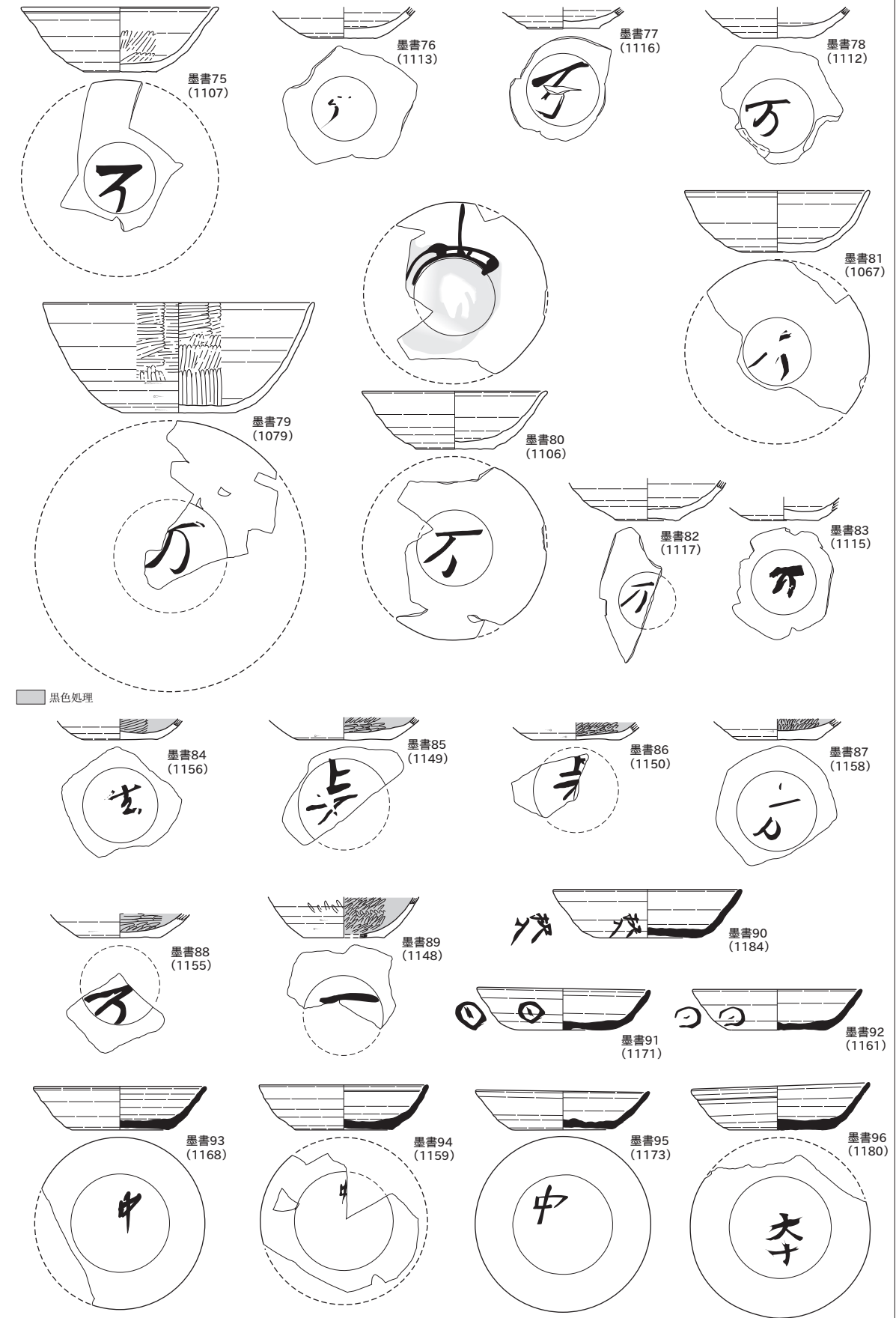


第42図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(2) (S=1/4)

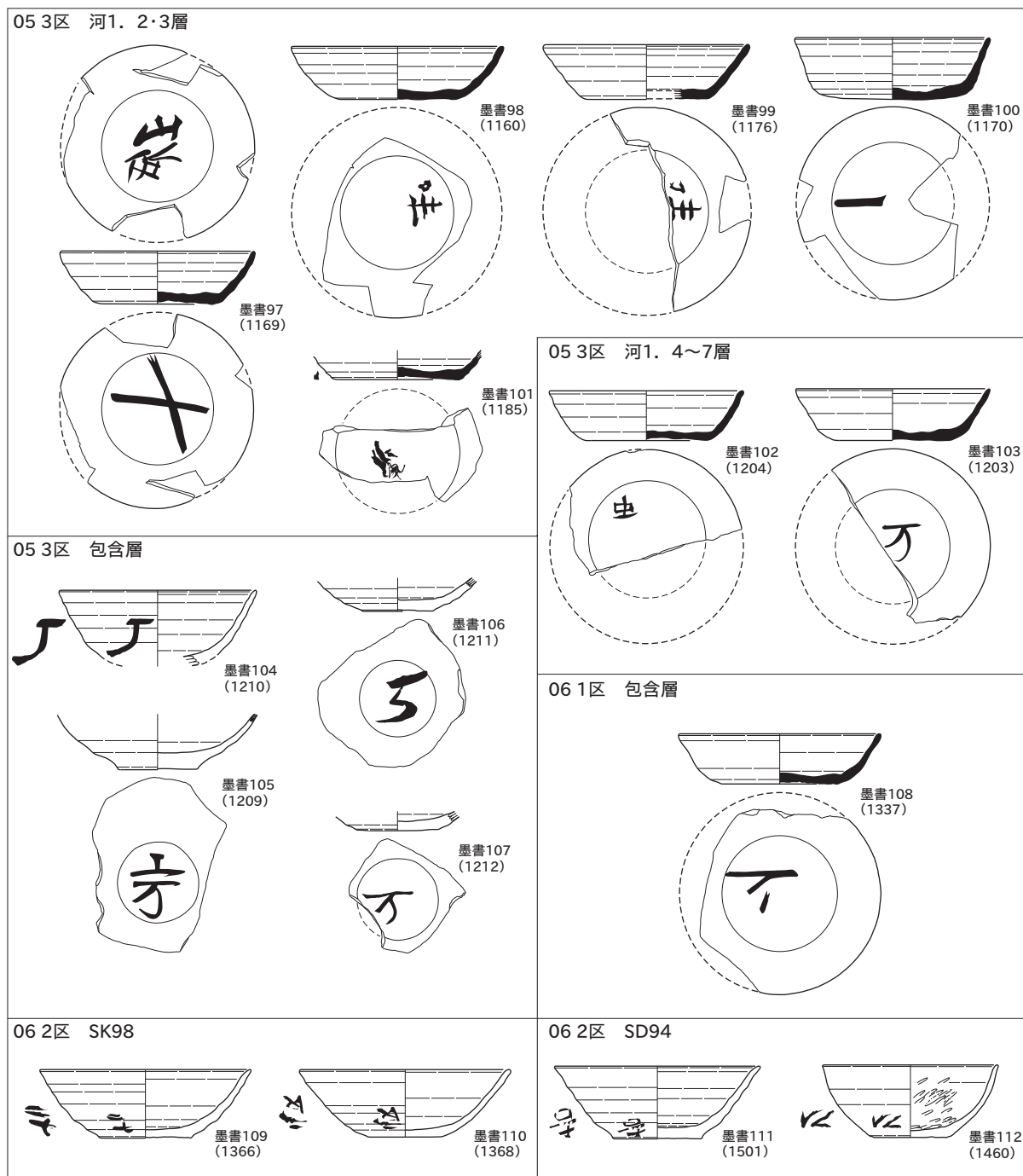


第43図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(3) (S=1/4)

053区 河1. 2・3層

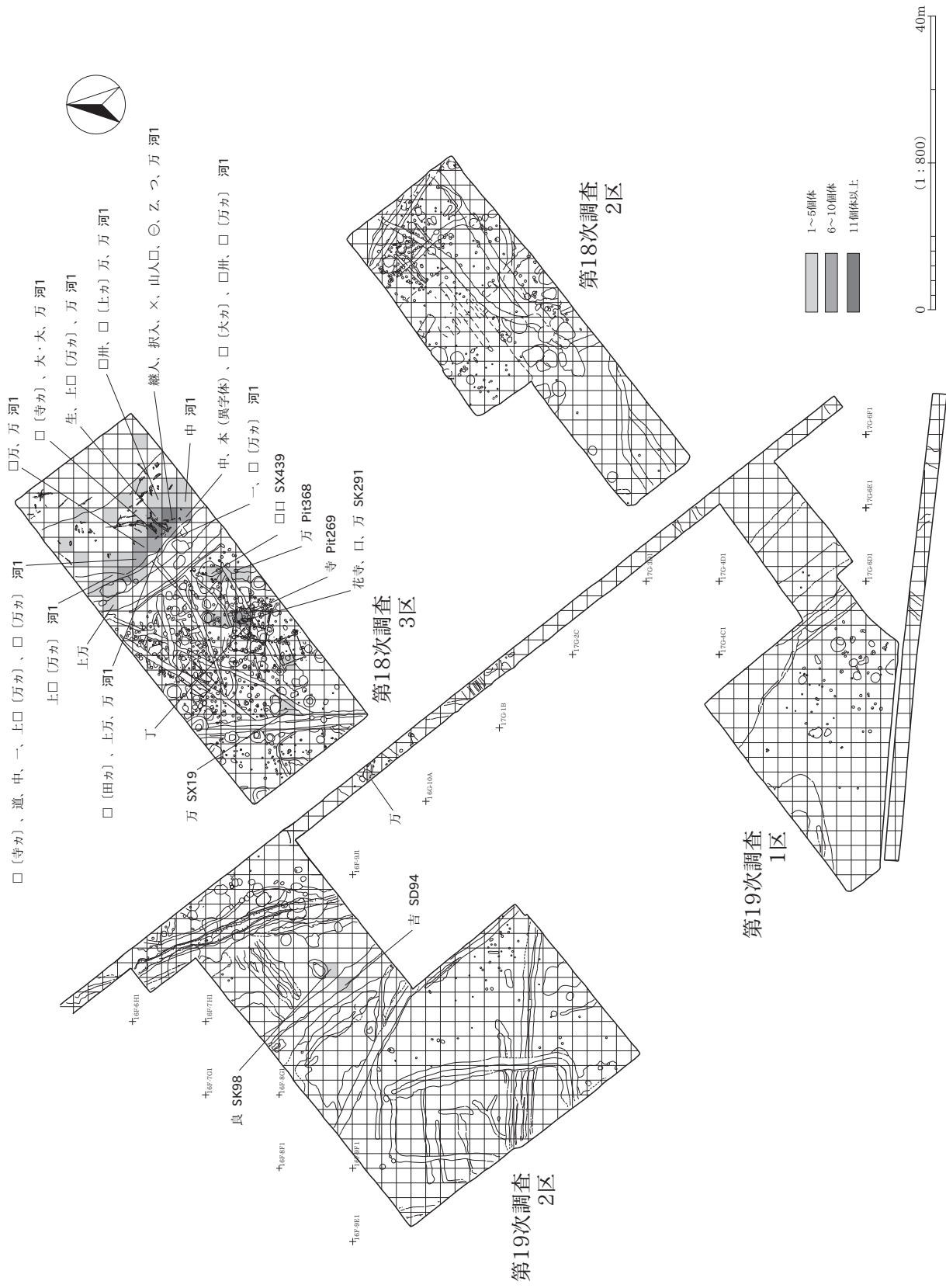


第44図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(4) (S=1/4)



第45図 沖ノ羽遺跡墨書土器集成(5) (S=1/4)





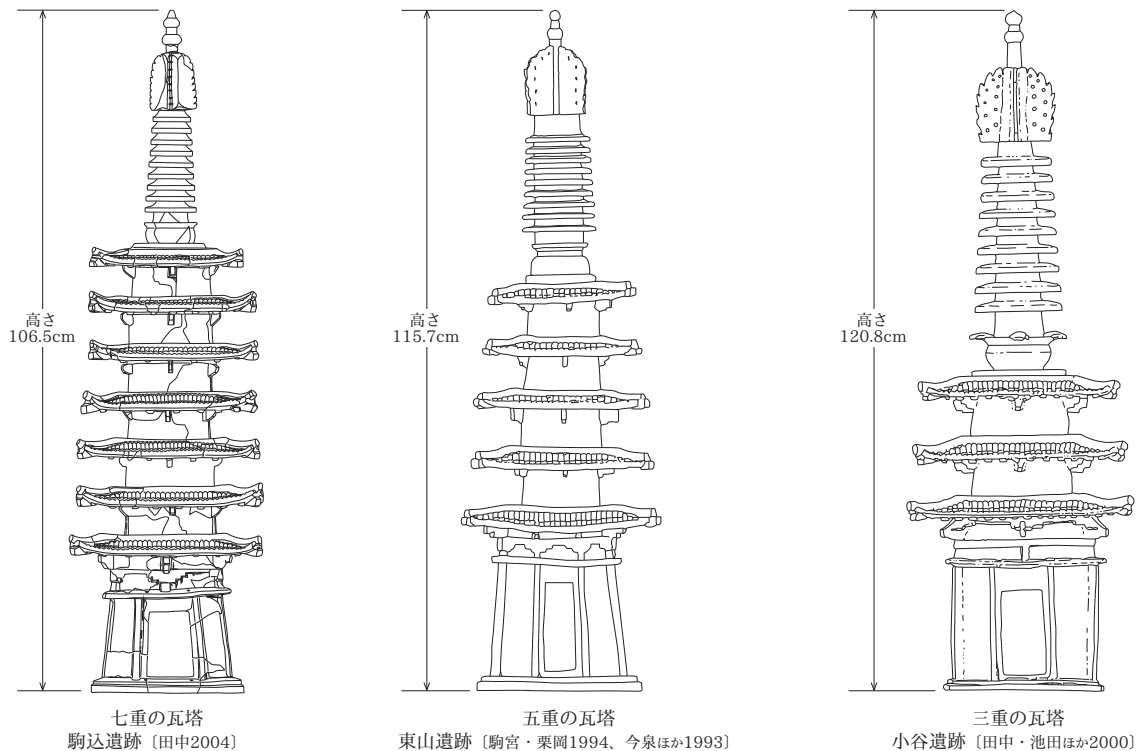
第46図 墨書土器出土状況 (掲載文字は一部抜粋)

## 第4節 瓦塔について

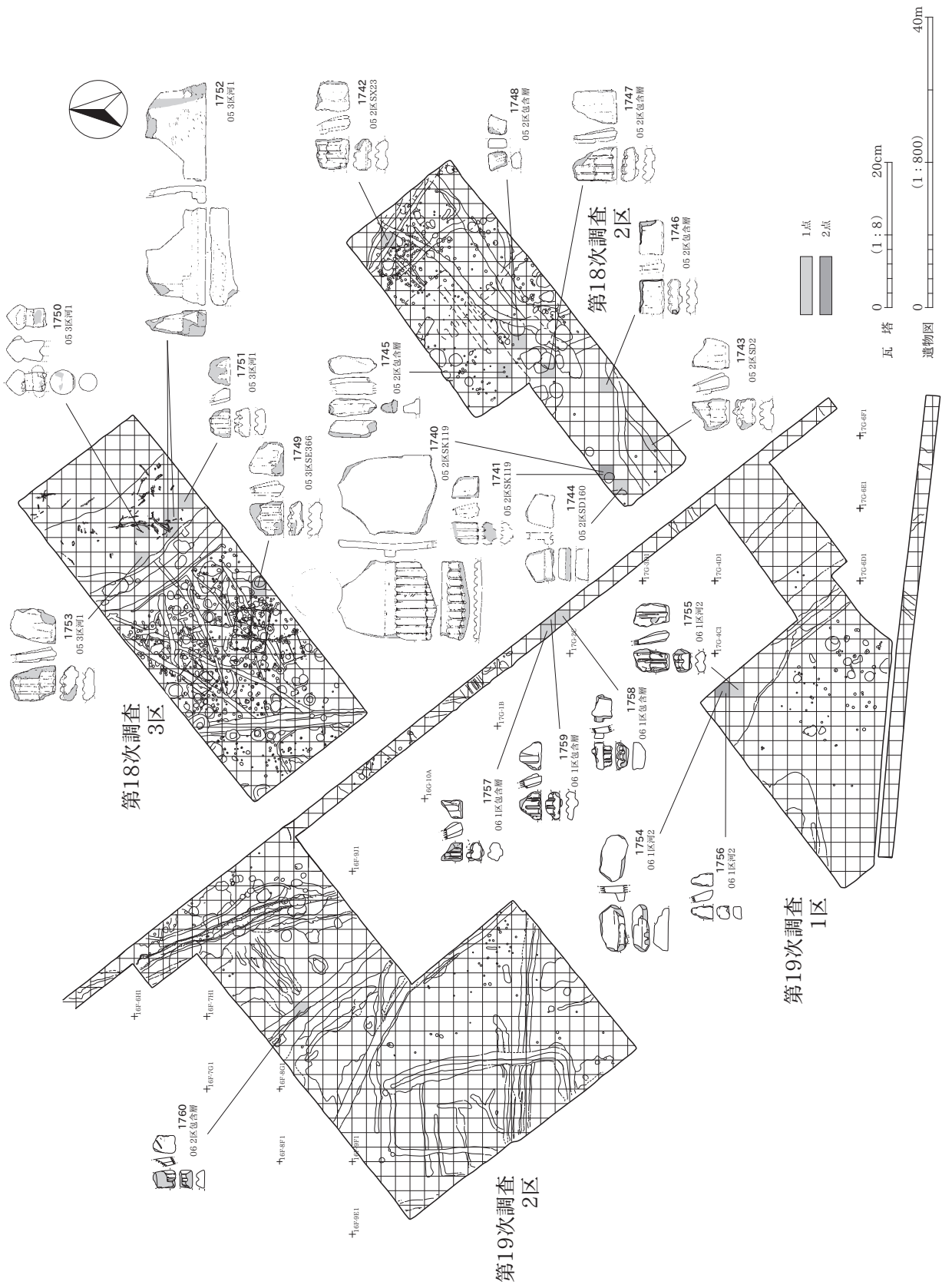
沖ノ羽遺跡から瓦塔は、22点（1点未実測）出土している。現在、第25次調査までおこなわれている沖ノ羽遺跡内で瓦塔が出土したのは第18・19次調査に限定される。希少性を考慮し、概要を記して若干の考察を行う。

出土した瓦塔の破片は、瓦塔屋蓋部が20点、宝珠部1点、基壇部1点である。出土状況を第48図に示した。出土状況は散在的で第18次調査2区で10点、第18次調査3区で5点、第19次調査1区で6点、第19次調査2区で1点出土している。包含層出土が多いが、一部遺構に他の土器が伴う出土例もある。瓦塔の胎土は石英と長石が比較的多く入り、色調も灰白色～浅黄橙色で、沖ノ羽遺跡出土に一般的な土師器長甕や鍋などと同様な胎土状況である。破片の接合や同一個体識別を試みたが不明瞭であった。屋蓋部についても何層のものか不明である。宝珠と基壇部が出土していることから1個体の瓦塔が存在したことは確実であり、破片数から考えてそれほど多くの個体は無いと思われる。瓦塔の場合、大部分は五重の塔である（石村1976）。一部、三重あるいは七重の塔がある（第47図）。瓦塔1基が祀られる場合と瓦塔2基でセットになる場合、瓦塔と瓦堂がセットになる場合が多い。沖ノ羽遺跡の場合はセット関係が不明瞭であるが、瓦塔のみのセットか部位不明の屋蓋部片（図版205-1758）が瓦堂片になる場合には瓦塔と瓦堂のセットになる場合も想定できる。また、瓦塔は仏堂に納められる例があり、仏堂周辺に瓦塔が集中して検出される例が認められる〔小林2004・植村ほか2004など〕。沖ノ羽遺跡の場合は第18次調査2区のSK119で2点と3区河1上層周辺で4点出土し、これ以外は単独出土である。2・3区の調査区内に仏堂的な施設は認められないことから、この2地点周辺に仏堂などの施設が存在する可能性が高い。

時期的な位置づけとしては第18次調査3区河1上層周辺から4点の瓦塔（図版205-1750～1753）が出土している。同層位の土器の分析（本章第2節参照）から春日編年VI2・3期（9世紀第4四半世紀）〔春日1999・2010〕と位置付けられる。また、第18次調査2区SK119では土坑内から須恵器無台杯（図版131-152）、黒色土器無台碗（図版131-150・151）と瓦塔2点（図版205-1740・1741）が伴出しており、佐渡小泊産の薄手の須恵器



第47図 復元瓦塔例（縮尺不同）



第48图 瓦塔出土状况

無台杯の推定時期から春日編年VI 2・3期に位置づけられる。第18次調査2区SD2では土師器無台椀(図版132-185・186)と長甕(図版132-187)、仏鉢形土器(図版132-188)、黒色土器無台椀(図版132-189)と瓦塔1点(図版205-1743)が出土している。年代の指標となる須恵器無台杯などが出土していないが、SD2が春日編年VI期に所属する第18次調査2区SD1に切られるため、春日編年VI期の後半であるVI 2・3期に所属する可能性が高い。以上のことから沖ノ羽遺跡の瓦塔は包含層出土を含めてVI 2・3期(9世紀第4四半世紀)に限定されよう。このことは瓦塔の編年を行った池田敏宏氏の論考〔池田1999・2005〕の編年とも整合性が高い。沖ノ羽遺跡の屋蓋部は「幅狭工具押し引き手法C手法」によって丸瓦のみ表現されている。軒裏垂木表現は「へら削り出しC2手法」によって行われている。これらは池田氏の「東郷台類型」にあたると思われる。また、屋蓋部の製作技法は粘土板1枚によって基本的な成形を行い、天井部に突帯が巡る。完形の資料が無いため不明な点が多いが、勾配は(図版205-1740)の資料から突帯から先端に向かってゆるやかに傾斜しているようであるが水平に近い。屋蓋部製作技法を検討した坂田敏行氏の分類〔坂田2009〕によるとⅢa類である。さらに、瓦継目表現も少なく、瓦塔の材質が土師質であることも池田氏により9世紀代の瓦塔の特徴とされ〔池田2004〕、その点からも、9世紀後半に位置づけられる。

新潟県内の瓦塔資料の集成を行い、沖ノ羽遺跡出土瓦塔の様相を考えたい。越後国で7遺跡、佐渡国で3遺跡<sup>1)</sup>から出土している。越後国では沖ノ羽遺跡の他に上浦A遺跡<sup>2)</sup>、緒立A遺跡〔渡邊1998〕、山ノ脇遺跡〔斎藤1998〕、子安遺跡〔笹澤2003b〕、黒田古墳群〔尾崎2002〕にある。佐渡国にはカメ畑窯跡〔原田1927〕、栗ノ木沢窯跡〔内藤1939、本間・椎名1958〕、小泊窯跡群(南外地点)〔内藤1939、本間・椎名1958〕がある。ほとんどが各遺跡1点程度出土で、複数破片が出土しているのは沖ノ羽遺跡を除いて緒立A遺跡とカメ畑窯跡のみである。以下に各遺跡の概要を述べる。

緒立A遺跡例は5点(第39図6-1～5)全て包含層出土である。池田氏により「宮ノ前類型瓦塔に類似した瓦塔」とされ、9世紀前半に位置づけられている〔池田1999〕。緒立A遺跡は8世紀後半から9世紀前半<sup>3)</sup>に土器の主体時期があり整合性が高い。

山ノ脇遺跡からは包含層で瓦塔(第49図7-1)が出土している。遺跡主体時期は8世紀後半から9世紀後半まで長期に及ぶが、屋根瓦の表現が丸瓦表現のみであることから9世紀代と考えられる。

子安遺跡から土師質の瓦塔隅棟部1点(第49図8-1)が出土している。出土地点は中世の溝からである。風鐸穴の表現が隅木に穿たれており、屋根瓦の表現は沈線で施されている。子安遺跡は8世紀中葉から10世紀前半まで営まれた拠点的な集落である。伴出遺物が明確でないため位置づけが難しいものの、土師質であること、垂木表現が明確であるが屋根瓦の表現が省略されていることから9世紀中葉に位置づけられよう。池田氏の分類では西原類型・類似資料である〔池田1999〕。

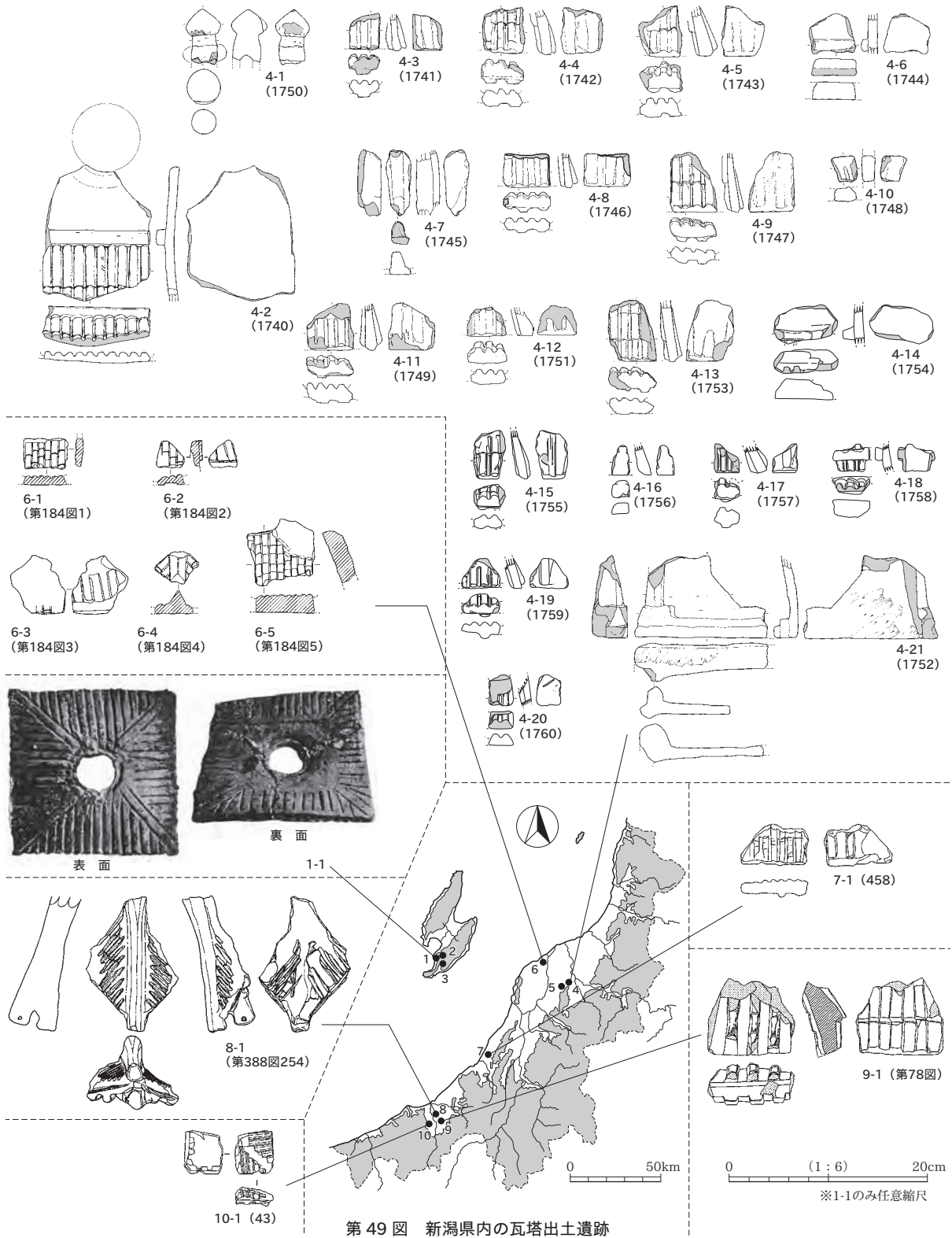
今池遺跡からは瓦塔1点(第49図9-1)が9世紀第4四半世紀の溝であるSD3上層から出土している。ただし、瓦塔は須恵質で平瓦表現もされていることから8世紀代の所産と考えられ、遺構への後世の流れ込みと判断される。

黒田古墳群では瓦塔屋蓋部片1点(第49図10-1)が20号墳表土から出土している。表面は丸瓦部の表現のみである。平安時代包含層から8世紀後半から9世紀前半の土師器・須恵器が出土しており、その時期幅に収まる資料と考えられる。

カメ畑窯跡から出土した瓦塔は新潟県内で唯一屋蓋部が完形復元された資料である(第49図1-1)。資料は実見していないが<sup>4)</sup>、屋蓋部の表現は「幅広工具」で沈線様に表現されているようである。瓦継ぎ目は確認出来ない。

1) 佐渡市世界遺産推進課文化財室埋蔵文化財係 堅木宜宏氏のご教示による。  
 2) 平成10年度旧新津市教育委員会確認調査資料による。詳細は不明である。  
 3) 以下、伴出土器の年代観は春日真実氏の年代観〔春日1999・2013〕に従った。  
 4) 佐渡市教育委員会所蔵資料





第49図 新潟県内の瓦塔出土遺跡

第13表 新潟県出土瓦塔一覧表

No.	遺跡名	種別	所在地	出土部位					焼成	文献	備考
				宝珠	屋蓋	初軸(基壇)	不明	計			
1	カメ畑窯跡	窯跡	佐渡市大字小泊		1			1	還元炎焼成	[原田1927、山本・計良1988]	大正10年頃採集品
2	栗の木沢窯跡	窯跡	佐渡市大字小泊				○		不明(還元か)	[内藤1939、本間・権名1958]	字栗の木沢711
3	小泊窯跡群(南外)	窯跡	佐渡市大字小泊				○		不明(還元か)	[内藤1939、本間・権名1958]	字南外587
4	沖ノ羽遺跡	集落跡	新潟市秋葉区七日町	1	20	1		22	酸化炎焼成	[本書]	瓦堂の可能性のあるもの1点含む
5	上浦A遺跡	集落跡	新潟市秋葉区福島				○		還元炎焼成	[内藤1939、本間・権名1958]	新潟市教育委員会平成10年度確認調査資料
6	緒立A遺跡	集落跡	新潟市西区黒島		5			5	酸化炎焼成	[渡邊1993、渡邊1998]	
7	山ノ脇遺跡	包蔵地	刈羽郡刈羽村大字井岡		1			1	酸化炎焼成	[斎藤1998]	
8	子安遺跡	集落跡	上越市子安新田		1			1	酸化炎焼成	[笹澤2003b]	隣棟
9	今池遺跡	集落跡	上越市今池		1			1	還元炎焼成	[坂井ほか1984]	
10	黒田古墳群	包含層	上越市大字黒田		1			1	酸化炎焼成	[尾崎2002]	

材質は須恵質と考えられる。カメ畑窯跡は「カメ畑 1・2・3 号窯」として新潟県内の須恵器編年の基準資料〔坂井・鶴間・春日 1991〕となっており、窯跡出土須恵器は 9 世紀中葉に位置づけられている。大正時代の採集資料であることから、坂井氏等が用いた須恵器資料と同じ窯資料であるとの確証は無いが、瓦継ぎ目表現が無いなど退化的な表現が多く見られ、おそらく須恵質の資料と思われる。形式的には後出の様相が見られることから、9 世紀中葉の位置づけが妥当と考える。カメ畑窯跡例は窯跡からの出土の可能性が高く、他遺跡と異なり生産遺跡の出土例である。

以上、実測図・写真が掲載された資料を基に新潟県域の資料を確認したが、今池遺跡・子安遺跡の隣接する 2 遺跡が 8 世紀代の可能性が高く、それ以外の資料は 9 世紀代に位置づけられる。

北陸では富山県 15 遺跡、石川県 20 遺跡、福井県 5 遺跡の 40 遺跡が確認されている〔富山県教育委員会埋蔵文化財センター 2004〕。北陸地方の瓦塔の様相把握を行った善端直氏の論考〔善端 1994〕では、8 世紀中葉に越前国（福井県）と越中国（富山県）で確認され 8 世紀後半から 9 世紀前半に多く確認され、10 世紀前葉まで製作されるようである。越後国（新潟県）でも前述したように 8 世紀（中葉か）に開始され 9 世紀後半まで継続的に製作される様相が把握できた。佐渡国においては須恵質瓦塔が 9 世紀代まで製作されており、越後国側とは系譜が異なる可能性が高い。

新潟県の中での分布で気になる点がある。現状では阿賀野川以北からの出土例は無く、分布的に断絶がある。東北地方では宮城県で 1 遺跡、山形県 1 遺跡、福島県 4 遺跡が確認できるのみで〔坂田 2009〕、新潟県に隣接する山形県庄内地方と福島県会津地方では確認されておらず、分布の断絶が確認される。すなわち北に行くほど信仰対象としての瓦塔の需要が少なかったと考えられる。坂井秀弥氏が越後国（新潟県）を含めた北陸の国分寺・国庁の所在が明らかになっていない原因として、建物に使われる瓦の量が相対的に少ないことが関係しているのではないかと、そしてその主原因は積雪であると論じられた〔坂井 2004〕。これらのことから瓦塔の分布を考えると、瓦葺きの建物が越後国では相対的に少なく、信仰の対象である瓦塔が信仰対象とは認識されなかったと考えられないか。つまり瓦葺建物の存在を知らない住人が多かったのではないだろうか。また、瓦塔が出土しているのは佐渡地方と新潟市・刈羽村・上越市など上越を除く海岸端に集中しており、現在の新潟県内でも積雪が少ない所に集中しているとの見方もできる。風土的な要素も瓦塔が新潟県の積雪多量地域に少ない理由にならないかと考える。但し、阿賀野川以北に仏教の伝達が行われていない訳ではなく、9 世紀後半の新発田市坂ノ沢 C 遺跡〔渡邊・田中 2001〕に見られる須恵器仏鉢形土器の出土の多出などは仏教信仰の痕跡であろう。

沖ノ羽遺跡は別項で述べられる仏鉢形土器の多出、緑釉陶器香炉および蓋の出土、「寺」「花寺」墨書土器と瓦塔出土などの間接的な証拠から仏教施設遺構の存在を示すものが多く見られる。近隣に所在する沖ノ羽遺跡とほぼ同時期の駒首潟遺跡〔渡邊ほか 2009〕の 2 間 2 間の仏教関連施設とともに地域の拠点的な仏教施設が沖ノ羽遺跡内に建造されたとみるのが妥当であろう。

以上、沖ノ羽遺跡の瓦塔について考察を行ったが、資料の僅小から形式的な検討が十分ではない。時期の決定にあたっては伴出土器を中心に考えたが、遺構出土の一括資料が少ない点が難点である。今後の資料の増加に期待したい。

## 第5節 沖ノ羽遺跡の位置付け

沖ノ羽遺跡第18次調査および5・6区を除く第19次調査では、古墳時代後期、平安時代前半、中世、近世から近代までの遺構・遺物が確認された。検出された遺構は、掘立柱建物8棟、井戸61基、土坑174基、溝167条、性格不明遺構31基、小土坑1,113基に及ぶ。特に集落域の中心とみられる第18次調査2区・3区では、平安時代と中世の遺構が同一面で検出され、重複が激しく不明な点が多い。そこで、主に出土遺物の検討と切り合い状況から可能な限り遺構の時期分類を行うとともに本遺跡の特徴を整理し、その性格について考えたい。時期別の遺構分布を第50・51図に示した。

### A 古墳時代後期

沖ノ羽遺跡の本報告調査において人の活動痕跡がみられるのは、古墳時代後期が最初である。遺構としては、第18次調査4区北東端部下層で確認された溝2条と性格不明遺構1基があるのみである。第18次調査1区・4区では、包含層を中心に古墳時代後期の土器が比較的まとまって出土しており、特に4区北東側の微高地部に集中がみられる(図版9)。第18次調査1・4区以外の調査区で同時期の遺物は出土していない。詳細は不明であるが、定量の土器を有することから、この微高地周辺が居住域として利用されていたものと推定される。同時期の土器は第16次確認調査415Tでも出土している〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2005〕。同地点付近は、平成19年度沖ノ羽遺跡第22次調査〔未報告〕でも本調査を行っているが、遺物を伴う遺構は確認されていない。古墳時代の遺構・遺物は県沖ノ羽遺跡(B地区)〔星野<sup>ほか</sup>1996〕および隣接する市第15次調査5区下層の一部と2区の旧河道でも確認されている〔立木・澤野<sup>ほか</sup>2008〕。いずれも出土した土器は古墳時代中期に位置付けられる。遺構は土坑を主体とし、溝・性格不明遺構・小土坑のみで、建物など明確な生活痕跡が確認されていない点は今次調査の状況とも共通する。おそらく9世紀以降に本格的に利用される微高地が完全には形成されておらず、居住区としては不適な環境であったと想像され、継続的かつ安定的な生活の場としては利用されなかったと考えられる。

### B 古 代

以下、前述の古代土器の時期に沿って遺構と遺物を概観する。

**古代1期：**旧河川流路形成前の遺構は、第18次調査1区SK19・2区SK94のみである。8世紀後半(春日編年Ⅳ期)に位置付けられ、微高地の利用が始まったものと推測されるが、確認された遺構・遺物とも極めて少量にとどまる。

**古代2期：**9世紀代には旧河川流路が形成され、第18次調査3区河1下層が堆積する。前半から中葉(春日編年Ⅴ期)に位置付けられる遺構もわずかで、第18次調査1区SD16と4区SD40のみである。3区河1下層の出土土器が同遺構出土の1%にとどまり、集落規模も不明である。しかし、当該期から古代3期に位置付けられるSK191で二彩托(図版142-427)と仏鉢形土器(図版141-412・413)が共伴しており、3区河1下層でも仏鉢形土器(図版176-1199・1200)が出土していることから、施釉陶器の仏具などを所有する有力者層の存在が想定され、集落の成立期にあたると思われる。

**古代3・4期：**第18次調査3区河1中層・上層が堆積する時期(春日編年Ⅵ期・9世紀後半～10世紀初頭)には、旧河川左岸部微高地の利用が本格化する。第18次調査3区を中心に掘立柱建物(SB695・SB689)や井戸が形成され、地業が頻繁に行われ、居住域として利用される。河岸部にはテラス状遺構が作られ、河川交通施設として利用されるとともに、墨書土器が投棄され、祭祀の場ともなる。本章第1節で述べたように、第19次調査2区北西側は古代の水田とこれに伴う水路と想定され、微高地後背地に位置する生産域として利用されたと考えられる。旧河川微高地上の集落域の様相から、これら一連の遺構群についても集落主体時期と並行すると考えられ

よう。江南区駒首渦遺跡〔渡邊<sup>ほか</sup>2009〕では微高地を横断する形で水路が伸び、微高地後背地が水田になっていたと想定している。本遺跡においては、同様の水路はわずかに第19次調査2区SD55・56がみられるものの、微高地を横断する連続性のある溝は見いだせない。第19次調査7区や確認調査の結果から、微高地西側は湿地が広がっていたことが把握されており、灌漑用水についても低湿地から導入をしていたものであろう。

墨書土器の祭祀は、3区河1の上層および中層堆積時期を通じて行われる。上層48点、中層37点とやや上層のほうが多く、土師器・黒色土器の占める割合が高いが、これは同時期の土器構成の変遷に沿ったものといえよう。駒首渦遺跡〔前掲〕の例では、文字内容から水運交通・流通に対する祭祀から「お守り」的あるいは「縁起を担ぐ」的なありふれた祭祀への変化が推定されている。本遺跡例では、春日編年V期にあたる下層を含めて上層・中層出土例とも吉祥的な文字「万」「上万」が大勢を占め、文字の種類や構成に特徴を示すような変化は認められない。駒首渦遺跡例における後者の祭祀を志向したものと見えよう。

本遺跡からは仏教関連遺物が多数出土している。このうち瓦塔および東海系緑釉陶器香炉身（図版137-295）・東海系緑釉陶器香炉蓋（図版167-1049）・京都系緑釉陶器耳皿（図版195-1565）は、先述のようにほぼ古代4期、春日編年VI2・3期に位置付けられる。また、本遺跡では可能性のあるものを含めて4点の「寺」墨書土器が出土している。第18次調査3区河1では、2点「寺」の可能性のある墨書土器（図版157-852・図版161-936）が古代4期にあたる上層で出土しており、中層にはない。また、「寺」（図版153-760）および「花寺」（図版143-466）墨書土器についても「寺」についてはやや遡る可能性を有するが、遺構で共伴する土器から同期に限定が可能である。仏鉢形土器については、古代2期からみられるが、主体は古代3・4期になろう。以上を踏まえれば、仏教関連遺物は、古代2期からみられるようになり、古代3・4期、中でも4期（春日VI2・3期）をピークとするものと考えられる。

古代5期：この時期に位置付けられる遺構は第19次調査2区SD94のみである。当該期は食膳具に須恵器をほとんど含まなくなることを特徴とするため、古代4期の遺構との差を認めにくく、抽出できていない可能性もあるが、当該期以降、急速に衰退することは確実である。いったん無住の地となり、12世紀後半まで土地利用の痕跡は認められない。

本遺跡周辺の古代の集落遺跡については、官衙関連遺跡とされる的場遺跡・緒立遺跡以外のほとんどが9世紀第2四半期以降に成立する遺跡であり、9世紀後半にピークを迎える。9世紀代は、班田制を柱とした律令体制の弛緩、耕地私有の進展と私的支配の展開に応じた、いわゆる王朝国家体制へ移行時期にあたる。各地で新田開発が盛んに行われ、越後では9世紀第2四半期以降、それまで砂丘上などであった村落の立地が新田と隣接する沖積平野の微高地・自然堤防上へと変化する〔坂井1989〕。本遺跡周辺の9世紀後半を主体とする集落遺跡については、2間2間の「仏堂的建物」を有する駒首渦遺跡〔前掲〕の位置づけに伴って、同時期を主体とする遺跡群について、「階級」や「富裕」の差により、官や中央の貴族と結びつき役人の存在や関連を有するグループ（山木戸遺跡・釈迦堂遺跡・上浦遺跡）、施釉陶器の出土や信仰の関わり方から有力者の存在するグループ（小丸山遺跡・牛道遺跡・駒首渦遺跡）、一般集落（日水遺跡・上郷II遺跡・結七島遺跡）に分類している〔渡邊<sup>ほか</sup>2009〕。本遺跡は、役人の存在や関連を示す遺物はみられず、少なからぬ量の施釉陶器や仏教系遺物の出土からは、いわゆる有力者の存在するグループに位置付けられよう。

新発田市坂ノ沢C遺跡〔前掲〕では、仏教関連遺物が多出しており、具体的な施設は確認できなかったものそれらを仏堂施設に係るものとし、施設が山林開発を生業とする一般集落の結合強化のための装置であった可能性を指摘している。仏事がとり行われる時期のピークを9世紀後半とし、10世紀代には衰退したと推定している。出土土器に占める仏教関連遺物の割合は春日編年VI1期が最も高い。また、駒首渦遺跡では、集落全体の建物跡の構成からVI1期を展開期、VI2・3期を終焉期としており、「仏堂的建物」とされるSB3014は、その存続期間を春日編年VI1期後半からVI2・3期はじめに位置付けている。一方本遺跡の古代集落については、VI1期からVI2・3期を通じた主体時期となり、仏教関連遺物のピークはVI2・3期にある。仏教信仰の様態について、



これら 2 遺跡の例に後続する可能性がある。本次調査地では掘立柱建物など集落景観を復元する要素に乏しく、仏堂施設の所在や村落内での位置付けについては、今回の調査成果からは言及が困難であるといわざるを得ない。しかし、周辺遺跡の成立・存続時期や仏教関連遺物の出土状況を考慮すれば、坂ノ沢 C 遺跡例の新規開発における集落の結合強化という面よりは、仏教信仰の場としての拠点性に比重がある可能性を指摘できよう。

## C 中世

第 51 図に中世の遺構位置図を示した。前代の 10 世紀後半からやや時間を置き、12 世紀代から遺物がみられるようになり、出土量が増大するのは 13 世紀後半から 14 世紀代にかけてである。第 18 次調査 2 区・3 区、特に 2 区を中心に旧河川流路の左岸の微高地が居住域として利用され、その分布は河岸部に近い範囲に限られる。第 18 次調査 3 区河 1 は、当該期の遅くとも 14 世紀代にはほぼ埋没していたものと推定され、埋没後に井戸などの遺構が形成される。第 19 次調査 1 区西側の集落域後背地が生産域として利用される。前述のように遺構出土資料には年代幅のあるものが多く、変遷は不明であるが、把握できた掘立柱建物跡の規模や出土遺物の内容は一般的な中世集落の様相を呈する。

以上これまでの調査成果をあわせて本次調査を概観した。まとめると、本次調査域内では、古墳時代中・後期（5 世紀中葉～6 世紀）に人の活動がみられるようになる。7 世紀代は一時的に無住の地となり、奈良・平安時代（8 世紀前半～10 世紀初頭）には、再び耕地拡大を目的とした開発に伴う集落形成が行われる。特に主体となるのは 9 世紀後半～10 世紀初頭で、同時期には仏教関連遺物の多出から域内に「村落内寺院」を持ついわゆる有力者の集落であったと推定される。10 世紀後半以降、再び無住の地となり、鎌倉時代（12 世紀）に入り集落が営まれ、以後断続的に室町時代（15 世紀）まで土地利用がなされる。中世集落の主体時期は、13 世紀後半から 14 世紀と推定される。

本次調査より遺跡北側を調査した第 22・24 次調査では、古代・中世の集落域が調査されており、今次調査よりやや古い 8 世紀代や鎌倉・室町時代（13～14 世紀代）の成果が得られている〔未報告〕。今後、これらの成果を加えた上で、遺跡の変遷について検討していきたい。

## 引用・参考文献

- ア 相田泰臣 2004 「越後における古墳時代後期を中心とした土器の様相 ―頸城・魚沼地域を中心として―」『新潟考古』第15号 新潟県考古学会
- 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳 ―2002年度確認調査の概要』 巻町教育委員会
- 相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱ ―2003年度確認調査の概要』 巻町教育委員会
- 朝岡政康 2008 『結七島遺跡Ⅳ 第13・15・17次調査 ―荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡第7～9次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 朝岡政康・諫山えりか 2003 『東團遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 甘粕 健・小野 昭<sup>ほか</sup> 1993 『越後山谷古墳』 巻町教育委員会
- 甘粕 健・川村浩司<sup>ほか</sup> 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量調査報告書』 新潟市教育委員会
- 甘粕 健・古川知明<sup>ほか</sup> 1981 『大沢遺跡B'・B地区の調査概報』 巻町・潟東村教育委員会
- 荒川隆史<sup>ほか</sup> 2006 『一般国道49号安田バイパス関係発掘報告書Ⅰ 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- イ 飯坂盛泰<sup>ほか</sup> 2002 『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田順一郎 1981 『曾根遺跡Ⅰ』 豊浦町教育委員会
- 家田順一郎 1982 『曾根遺跡Ⅱ』 豊浦町教育委員会
- 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡(小丸山遺跡緊急発掘調査報告書)』 横越村教育委員会
- 池田敏宏 1999 「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討 ―関東地方瓦塔屋蓋部編年の検証作業を中心に―」『研究紀要』第7号 (財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 池田敏宏 2004 「山野開発と瓦塔の造立 ―瓦塔造立の背景についての考察―」『古代考古学フォーラム 古代の社会と環境 開発と神仏とのかかわり』資料集 帝京大学山梨文化財研究所・古代考古学フォーラム実行委員会
- 池田敏宏 2005 「瓦塔初重区間利用法 ―8～9世紀における造塔意識の変化に関する考察―」『研究紀要』第13号 (財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- 池田敏宏 2011 「「寺」銘墨書土器と、古代仏教系遺物、仏堂建物跡の共時性(覚書) ―栃木県域事例を対象に―」『研究紀要』第19号 (財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 ―マンション等建設予定地内発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- 諫山えりか 2009 『中田遺跡 第2次調査 ―市道荻川新津線道路改良事業に伴う中田遺跡第2次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- 石川智紀<sup>ほか</sup> 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀<sup>ほか</sup> 2001 『国営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 新保遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石坂圭介 1997 『岩田遺跡 第2次発掘調査報告書』 越路町教育委員会
- 石村喜英 1976 「瓦塔」『新版仏教考古学』第3巻 塔・塔婆 雄山閣
- 伊藤 崇 1998 『松山窯跡 新潟県北蒲原郡黒川村大字塩沢地内における古代窯跡の発掘調査報告書』 黒川村教育委員会
- 伊藤秀和 2001 『鬼倉遺跡 ―国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書―』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『馬越遺跡 ―国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書―』 加茂市教育委員会
- 今井さやか 2007 『日水遺跡第3次調査 ―鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- 今泉泰之<sup>ほか</sup> 1993 『埼玉県児玉郡美里町東山遺跡出土瓦塔・瓦堂解体修復報告書』 埼玉県教育委員会・埼玉県立歴史資料館

- ウ 植田 真・遠竹陽一郎<sup>ほか</sup> 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会  
 上野一久・春日真実 1997 『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 上原甲子郎 1971 『上ん原遺跡緊急調査事業報告書』 巻町  
 植村奏徳・和田 聡・五十嵐和博 2004 『県営経営体育成基盤整備事業 塩川西部地区遺跡発掘調査報告書7 内屋敷遺跡』 塩川町教育委員会  
 内堀信雄 1988 「須恵器甕に見られる叩き目文について」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会  
 宇野隆夫 1989 「井戸考」『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』 真陽社  
 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学研究 北陸を舞台として』 桂書房  
 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 江口友子・小濱 亨<sup>ほか</sup> 2000 『釈迦堂遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- オ 岡安光彦・大谷祐司<sup>ほか</sup> 2005 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅷ 六斗蒔遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 尾崎高宏 2002 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅷ 黒田古墳群』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 小野 昭 1994a 「ケカチ堂遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町  
 小野 昭 1994b 「新谷遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町  
 小野 昭<sup>ほか</sup> 1982 『大沢遺跡・Ⅱ -第3次調査概報』 新潟大学考古学研究室  
 小野 昭・小熊博史 1987 「巻町布目遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅲ 巻町  
 小野 昭・前山精明<sup>ほか</sup> 1988 『巻町豊原遺跡の調査』 巻町
- カ 柿田祐司 2001 「須恵器甕の叩き目から」『北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会  
 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会』第8号 新潟考古学談話会  
 春日真実 1995 「古代集落の展開」『研究紀要』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 春日真実 1997a 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会  
 春日真実 1997b 「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会  
 春日真実 1998a 「中組遺跡出土の緑釉陶器について」『町史研究 よしだ』第2号 吉田町教育委員会  
 春日真実 1998b 「北陸北東部の土器様相」『第3回東北・関東前方後円墳研究会大会《シンポジウム》前期古墳から中期古墳へ 発表要旨資料』 東北・関東前方後円墳研究会  
 春日真実 1999 「第IV章古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 高志書院  
 春日真実 2000 「考古編 第5章 まとめ」『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』 吉田町  
 春日真実 2003a 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 春日真実 2003b 「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向 -越後出土の資料を中心に」『研究紀要』第4号 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 春日真実 2010 「貞観五年の地震痕跡再考」『三面川の考古学』第8号 奥三面を考える会  
 春日真実 2013 「古代集落の動体 -越後を事例として-」『新潟考古学談話会2013 Summer Meeting』資料 新潟考古学談話会  
 春日真実<sup>ほか</sup> 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 春日真実・笹沢正史 1999 「越後・佐渡の様相」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会  
 春日真実<sup>ほか</sup> 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会  
 金子拓男<sup>ほか</sup> 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』 黒崎町教育委員会  
 金子浩之 1985 「平城京と祭場」『国立歴史民俗博物館研究報告 第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本編』 国立歴史民俗博物館  
 川上貞雄 1981 『山崎須恵窯跡』 五泉市教育委員会  
 川上貞雄 1982 『中の山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会  
 川上貞雄・遠藤孝司 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会  
 川上貞雄 1992 『川口甲遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会

- 川上貞雄 1993 『山ん家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『荒木前遺跡 第2次調査』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄ほか 1983 『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』 白根市教育委員会
- 川上貞雄ほか 1991 『発久遺跡発掘調査報告書』 笹神村教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代土器の変遷 - 関川右岸下流域を中心に -」『上越市史研究』第5号 上越市
- 川村浩司 2003 『古墳出現期土器の研究』 高志書院
- 川村 尚 2002 「佐渡郡羽茂町小泊窯跡」『新潟県考古学会第14回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 北村 淳・菊池康一郎ほか 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 木村宗文 1989 「資料解説 - 古代越後国と蒲原郡」『新津市史』資料編第1巻 原始・古代・中世 新津市
- コ 小池邦明 1999 『山木戸遺跡第2次発掘調査概要』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明ほか 1992 『山木戸遺跡第1次発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間圭吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人ほか 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人ほか 1998 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 関川谷内遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小鍛冶快弘 1999 『茨塚遺跡発掘調査報告書』 村松町教育委員会
- 小林 修 2004 「群馬県赤城村三原田諏訪上遺跡の仏堂跡 - 古代上野の瓦塔信仰と仏教 -」『日本考古学』第17号 日本考古学協会
- 小林 存 1952 『新潟市誌』 新潟市
- 駒宮史朗・栗岡眞理子 1994 『埼玉の瓦塔』 埼玉県立歴史資料館
- 小林昌二・相沢 央 2004 「新潟県内出土墨書土器の基礎的考察」『資料学研究』1
- サ 斎藤 亨 1998 『弘川・山ノ脇遺跡 - 県営園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ -』 刈羽村教育委員会
- 酒井和男 1980 『三王山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 酒井和男 2000a 「小丸山遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男 2000b 「山ん家遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男・廣野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 酒井和男ほか 1966 『亀田町周辺の遺跡調査について - 第一線砂丘を中心にして -』 新潟県立新潟東工業高等学校生徒会
- 坂井秀弥 1988 「越後・佐渡における古代土器の生産と流通 - 8～10世紀を中心として -」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1989 「北陸型土師器長甕の製作技法」『新潟考古学談話会会報』第3号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1994 「庁と館、集落と屋敷 - 東国古代遺跡における館の形成 -」『城と館を掘る・読む - 古代から中世へ -』 山川出版社
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衛遺跡 - 越後平の内水面・舟運・漁業」『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂井秀弥 1999 「第Ⅳ章古代 第1節総論」『新潟県の考古学』 高志書院
- 坂井秀弥 2004 「北陸の古代寺院・官衛と風土との関係」『フォーラム 奈良時代の富山を探る - 奈良時代の富山を探る』フォーラム全三回の記録 -』
- 坂井秀弥 2008 『古代地域社会の考古学』 同成社
- 坂井秀弥ほか 1984 『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1986 『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅱ 一之口遺跡西地区』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所



- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂上有紀 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 坂田敏行 2009 「製作技法・表現手法からみる東日本瓦塔」『研究紀要』第24号 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤正史 2001 「須恵器瓶類の口縁頸部接合痕跡」『北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会
- 笹澤正史 2003a 「第5章 古代 第1節 時代概説」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 笹澤正史 2003b 「第5章 古代 第2節 遺跡と遺物 13 子安遺跡」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 笹澤正史ほか 1997 『保坂遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会
- 佐藤友子 2007 「新潟市近世新潟町跡の調査について」『新潟県考古学会第19回大会研究発表会発表要旨』新潟県考古学会
- シ 品田高志 1990 「越後における古墳時代土器の変遷 ―柏崎平野の中期～後期を中心に―」『柏崎市立博物館 館報』No.4 柏崎市立博物館
- 品田高志 1992 「越後における古墳時代土器の変遷Ⅱ ―前期土器編年の現状と編年試案―」『柏崎市立博物館 館報』No.6 柏崎市立博物館
- 品田高志・伊藤啓雄 1997 『前掛り ―新潟県柏崎市・前掛り遺跡発掘調査報告書―』柏崎市教育委員会
- 品田高志・伊藤啓雄 1999 『角田 ―新潟県柏崎市・角田遺跡発掘調査報告書―』柏崎市教育委員会
- 清水潤三 1955 「新潟県中蒲原郡川根独木舟」『日本考古学年報』3 日本考古学協会
- 上越市 2003 『上越市史』資料編2 考古
- ス 鈴木俊成ほか 1998 『県営ほ場整備事業(神林村)関連埋蔵文化財発掘調査報告書 天王前遺跡・有明的場遺跡・石川遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木俊成・遠藤孝司 1988 『北陸自動車道 糸魚川地区発掘調査報告書V 小出越遺跡』新潟県教育委員会
- 鈴木俊成・春日真実・高橋一功 1994 『北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之ほか 1980 『鳥屋遺跡I』豊栄市教育委員会
- 善端 直 1994 「北陸の古代瓦塔」『文化財学論集』奈良大学文学部
- 夕 高野裕子・渡邊朋和 2003 『川口乙遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 高橋与右エ門 1984 「須恵器大甕にみられる「放射状当て具痕」について」『紀要』IV (財)岩手県埋蔵文化財センター
- 高浜信行・卜部厚志・寺崎祐助 2000 「排水機場遺跡」『味方村史』味方村
- 滝沢規朗ほか 1995 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 大阪上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋明人 1986 「考察 ―漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡I』石川県立埋蔵文化財センター
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田嶋明人 1995 「土器と「古墳時代」」『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会
- 田嶋明人 1998 「2土器の編年 ―5北陸」『古墳時代の研究』第6巻 雄山閣
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新津市教育委員会
- 田中広明・池田敏宏ほか 2000 『古代仏教系遺物集成・関東 ―考古学の新たな開拓を目指して―』考古学から古代を考える
- 田中 靖 1996 『門新遺跡 外割田地区』和島村教育委員会
- 田中 靖 2003 『下ノ西遺跡IV』和島村教育委員会
- 田中 靖ほか 1995 『門新遺跡』和島村教育委員会
- 田中 裕 2004 「第5節 奈良・平安時代 7瓦塔」『千葉県文化財センター調査報告書第495集 印西市馬込遺跡 ―(仮称)平岡自然公園埋蔵文化財調査報告書―』(財)千葉県文化財センター
- 田辺昭三 1966 『陶邑古窯址群I』平安学園考古学クラブ
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- ツ 立木宏明・渡邊朋和ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会

- 立木宏明<sup>ほか</sup> 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子<sup>ほか</sup> 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2004a 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2004b 『山王浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2008 『沖ノ羽遺跡発掘報告書Ⅳ 第15次調査 一県営圃場整備事業(担い手育成型) 満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・八藤後智人<sup>ほか</sup> 2009 『萱免遺跡 第2次調査 一宅地造成に伴う萱免遺跡第2次発掘調査報告書一』 新潟市教育委員会
- 鶴巻康志・若林知美<sup>ほか</sup> 2003 『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』 新発田市教育委員会
- テ 寺崎祐助・佐藤優一<sup>ほか</sup> 2004 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 反貫目遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 国学院大学考古学会
- ト 東北中世考古学会編 2001 『東北中世考古学叢書2 掘立と竪穴 中世遺構論の課題』 東北中世考古学会編
- 土橋由理子<sup>ほか</sup> 1999 『国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2004 『上信越自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅢ 小野沢西遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子<sup>ほか</sup> 2006 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅧ 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2007 「西郷遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成18年度 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2004 「資料9 北陸の瓦塔出土遺跡分布」『フォーラム 奈良時代の富山を探る 一「奈良時代の富山を探る」フォーラム全三回の記録一』
- ナ 内藤政恒 1939 「佐渡の上代遺跡遺物を訪ねて(下)」『史蹟名勝天然記念物』第14集第6号 刀江書院
- 長岡市 1992 『長岡市史』資料編1 考古
- 中川成夫・倉田芳郎 1956 『新津田家七本松須恵器窯跡発掘調査報告書』 北方文化博物館
- 長澤展生<sup>ほか</sup> 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山遺跡」『日本考古学年報』9 日本考古学協会
- ニ 新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新新潟市史双書2 新潟市の遺跡』 新潟市
- 新潟市史編さん原始古代中世史会 1994 『新潟市史』資料編1 原始 古代 中世 新潟市
- ハ 橋本博文 2001 「六日町飯綱山古墳群の調査が提起する二、三の問題」『新潟県考古学会第13回大会研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- 秦 繁治・中村美恵子 1988 『新潟県上越市四ッ屋遺跡発掘調査報告書』 四ッ屋遺跡調査団
- 原田廣作 1927 「佐渡出土考古品其他に就いて」『佐渡史苑』第2号 佐渡史苑社
- 磐梯町教育委員会・磐梯山慧日寺資料館 2000 『器に書かれた歴史 一慧日寺跡出土の墨書土器を中心として一』
- ヒ 平尾政幸 1994 「緑釉陶器・灰釉陶器・白色土器」『平安京提要』 角川書店
- 平川 南 2000 『墨書土器の研究』 吉川弘文館
- 廣野耕造 1996 『石動遺跡 平成7年度発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 廣野耕造 2000 『新潟市前田遺跡 県営かんがい排水事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 廣野耕造・朝岡政康 1999 『大淵遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- フ 藤塚 明・小池邦明・渡邊朋和 1982 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 古川百作 1982 「川根の丸木舟発掘」『新津郷土誌』第9号 新津郷土誌料研究会
- 古庄浩明<sup>ほか</sup> 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- ホ 星野信明<sup>ほか</sup> 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B地区)』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 本間嘉晴・椎名仙卓 1958 「佐渡小木半島周辺の考古学的調査」『新潟県文化財年報2 南佐渡 一南佐渡学術調査報告書一』 新潟県教育委員会
- 本間酒川(周敬) 1927 「小泊発見古瓦の文様に就いて」『佐渡史苑』第2号 佐渡史苑社

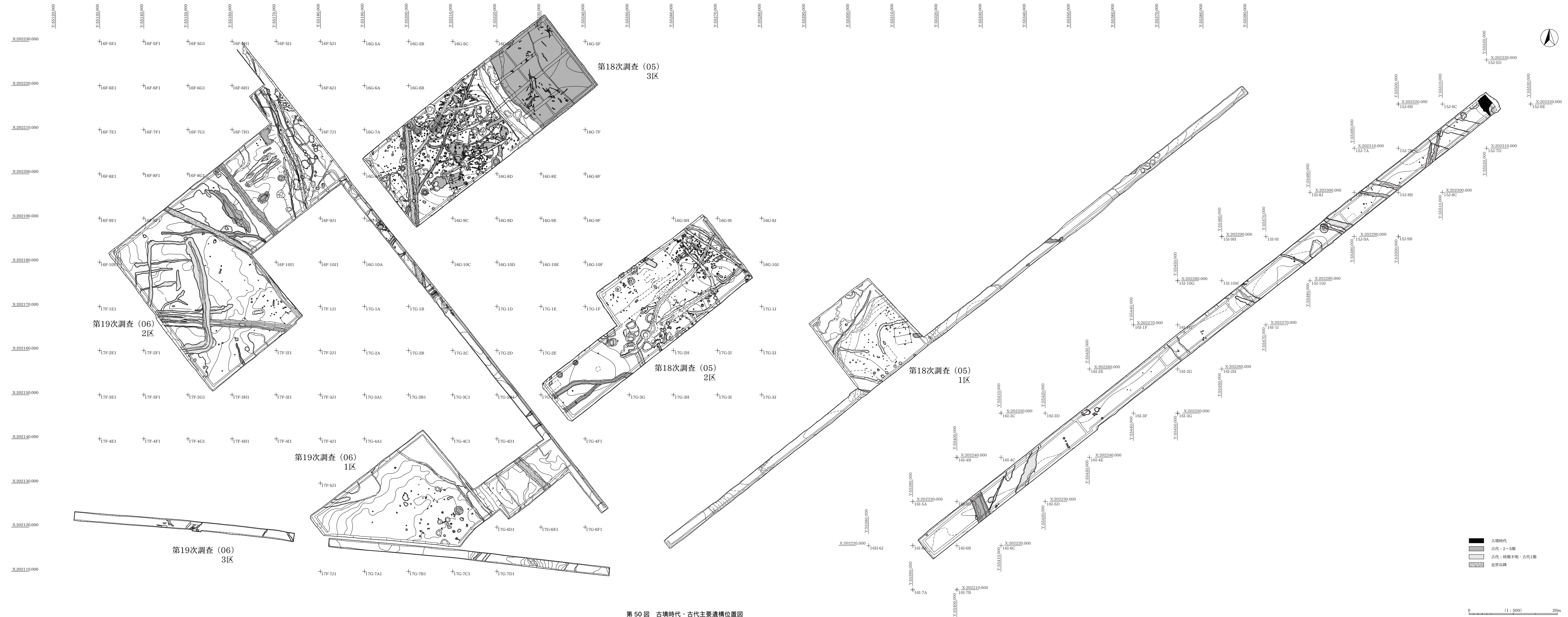
- 細野高伯<sup>ほか</sup> 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 細野高伯・伊比博和<sup>ほか</sup> 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査 ―一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書―』 新潟市教育委員会
- マ 前山精明 1990 『大沢遺跡 ―縄文時代中期前葉を主とする集落跡の調査』 巻町教育委員会
- 前山精明 1994a 『新谷遺跡』『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 前山精明 1994b 『重稲場遺跡群』『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 前山精明 1994c 『御井戸遺跡』『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡 ―縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査―』 巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ ―2003年度確認調査の概要―』 巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2005 『御井戸遺跡Ⅲ ―2004年度確認調査の概要―』 巻町教育委員会
- 松島悦子<sup>ほか</sup> 2010 『五千石遺跡2区・4区西地区 特定構造物改築事業（大河津可動堰改築）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 燕市教育委員会
- 満日郷土史編纂委員会 1977 『満日郷土史』
- ミ 水澤幸一・吉村光彦 2001 『船戸桜田遺跡2次 主要地方道中条紫雲寺線改築工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ』 中条町教育委員会
- モ 望月精司 1997 『第2章 各地域の土師器生産と土師器焼成遺構 第4節 北陸』『古代の土師器生産と焼成遺構』 真陽社
- ヤ 山崎 天 1999 『橋田B遺跡』 五泉市教育委員会
- 山崎 天・遠藤 佐 1999 『小実山遺跡』 五泉市教育委員会
- 山中雄志 1998 『福島県会津地方の越後・出羽日本海系ロクロ長胴甕 ―そのアウトラインについての研究ノート―』『東国史論』第13号 群馬考古学研究会
- 山中雄志 2004 『古代の越と会津 ―九世紀の煮炊き用土器に見る人々の交流―』『越後佐渡の古代ロマン ―行き交う人々の姿を求めて―』 新潟県歴史博物館
- 山本信夫 2000 『3分類の問題と補足』『4陶磁器分類』『太宰府市の文化財第49集太宰府条坊跡XV ―陶磁器分類編』 太宰府市教育委員会
- 山本 仁 1996 『村松町城下遺跡発掘調査報告書』 村松町教育委員会
- 山本 仁・計良勝範 1989 『通史編 古代・中世の羽茂 羽茂町誌第二巻』 羽茂町
- ヨ 横山勝榮・竹田和夫<sup>ほか</sup> 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
- 吉井雅男 1994 『古谷地B遺跡・寺田遺跡・赤井遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』 荒川町教育委員会
- 吉井雅男 2001 『田島遺跡 県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 荒川町教育委員会
- 吉井雅男 2006 『道端遺跡 一般国道113号道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 荒川町教育委員会
- 吉井雅男<sup>ほか</sup> 1999 『元山窯跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書』 荒川町教育委員会
- 吉井雅男<sup>ほか</sup> 2002 『鴨侍遺跡 ―一級河川乙日川（烏川工区）統合一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』 荒川町教育委員会
- 吉岡 康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 米沢 康 1965 『大化前代における越の史的位罫』『信濃』17-1 信濃史学会
- 米沢 康 1980 『大宝二年の越中国四郡分割をめぐって』『信濃』32-6 信濃史学会
- ワ 若林知美 2004 『新潟県出土の古代施釉陶器』『新潟考古学談話会会報』第28号 新潟考古学談話会
- 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994a 『八幡山遺跡発掘調査報告書 ―平成5年度範囲確認調査―』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994b 『平成5年度 新津市内遺跡確認調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1999 『第4章 第4節 第3項 製鉄』『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 渡邊朋和<sup>ほか</sup> 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和<sup>ほか</sup> 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ（分析・考察編）』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和<sup>ほか</sup> 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会

- 渡邊朋和<sup>ほか</sup> 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明<sup>ほか</sup> 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明<sup>ほか</sup> 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書 ー第11・12・13・14次調査ー』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和・相田泰臣 2013 『国史跡古津八幡山遺跡保存整備事業報告書 ー2000年の時を越えよみがえる弥生の丘』  
新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ 1991 『荒木前遺跡』 亀田町教育委員会
- 渡邊ますみ 1993 『緒立A遺跡確認調査報告書』 黒崎町教育委員会
- 渡邊ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』 黒崎町教育委員会
- 渡邊ますみ 1998 「第二章 原始・古代 ー緒立遺跡ー第三節 出土遺物 第三項 奈良・平安時代の遺物」『黒崎町史資料編1』原始・古代・中世 黒崎町
- 渡邊ますみ<sup>ほか</sup> 2009 『駒首瀧遺跡第3・4次調査 ー大型小売店舗建設に伴う駒首瀧遺跡第3・4次発掘調査報告書ー』  
新潟市教育委員会
- 渡邊美穂子・田中耕作 2001 『坂ノ沢C遺跡Ⅱ(平安時代編)』 新発田市教育委員会

## 第Ⅵ章 引用・参考文献

- カ 笠原安夫 1985 『日本雑草図鑑』 養賢堂 p.494
- 笠原安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究第2巻 生業』 雄山閣出版 p.131-139
- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法』 角川書店  
p.248-262
- 金原正明 1996 「古代モモの形態と品種」『月刊考古学ジャーナル』No.409 ニューサイエンス社 p.15-19
- 金原正明 1999 「寄生虫 考古学と動物学」『考古学と自然科学』2 同成社 p.151-158
- シ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 p.60
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 1985 『木材の構造』 文永堂出版  
p.20-48 p.49-100 P.290
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣出版 p.296
- ス 杉山真二 2000 「植物珪酸体(プラント・オパール)」『考古学と植物学』 同成社 p.189-213
- ナ 中村 純 1973 『花粉分析』 古今書院 p.82-110
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 P.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪市立自然史博物館収蔵目録』第13集 p.91
- ニ 新潟市埋蔵文化財センター 2005 『沖ノ羽遺跡 現地説明会資料』
- フ 藤下典之 1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について」『月刊考古学  
ジャーナル』No.354 ニューサイエンス社 p.7-13
- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) ー数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法ー」  
『考古学と自然科学』9 p.15-29
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) ープラント・オパール分析による水田址の  
探査ー」『考古学と自然科学』17 p.73-85
- ミ 南木睦彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究第4巻生産と流通I』 雄山閣出版 P.165-174
- 南木睦彦 1992 「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社 P.18-22
- ヤ 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 ー用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究特別』  
特別1号 植生史研究会 P.242
- ヨ 吉崎昌一 1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社 P.2-14
- 四柳嘉章 2003 「考古資料の修復と文化財科学ー福井県家久遺跡・礫塚墓出土漆器の事例から」『國學院大學博物館  
学紀要』第27号 國學院大學博物館学研究室
- 四柳嘉章 2006 『漆I』『漆II』 法政大学出版局





第 50 図 古墳時代・古代主要遺構位置図





別表 1 沖ノ羽遺跡第 18 次調査遺構計測表

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面 座標 (m)	形態		遺物の 有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考	
							上 端		下 端		深度		平面	断面			覆土	点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)		重量 (g)
							長軸	短軸	長軸	短軸												
8・13・20	05 1 区	SK2	17H-2B14・19		Vi a	N - 51° - E	0.71	0.71	0.59	0.41	0.17	4.13	円形	台形状	2 ×							
8・13・20	05 1 区	SK3	17H-2B15	平安	Vi a	N - 52° - E	0.63	0.62	0.39	0.31	0.10	4.21	円形	皿形	1 ○							
8・13・20	05 1 区	SK4	17H-2B10, 2C6	平安	Vi a	N - 17° - E	0.65	0.60	0.44	0.32	0.14	4.19	円形	皿形	2 ○							
8・13・20	05 1 区	SK5	17H-2C6	平安	Vi a	N - 61° - W	(0.72)	0.61	(0.60)	0.48	0.06	4.25	円形	皿形	1 ○							
8・13・20	05 1 区	SK15	17H-2C3		V b	N - 65° - W	(0.42)	(0.39)	(0.38)	(0.24)	0.17	4.30	楕円形	台形状	2 ×							
8・14・21	05 1 区	SK17	16H-10E6, 10F1		Vi a	N - 68° - E	0.75	0.47	(0.60)	0.35	0.07	3.29	楕円形	皿形	1 ×							
8・14・21	05 1 区	SK19	16H-9F14・15	古墳～平安	Vi a	N - 39° - E	(0.88)	0.68	(0.61)	0.47	0.23	3.09	楕円形	台形状	3 ○	125・126・206	1	5				
8・15・21	05 1 区	SK24	16H-7H23・24	平安	Vi a	N - 22° - W	(0.93)	0.90	(0.86)	0.75	0.11	3.30	楕円形	皿形	2 ○							
8・13・20	05 1 区	SK26	17H-2B13		Vi a	N - 59° - E	0.58	0.03	0.43	0.03	0.15	4.15	長方形	半円形	3 ×							
8・13・20	05 1 区	SK27	17H-2B14	平安	Vi a	N - 55° - E	0.47	0.39	0.32	0.29	0.08	4.26	長方形	皿形	1 ○		4	26				
8・13・20	05 1 区	SK29	17H-1C18・19	平安	Vi a	N - 82° - E	(1.75)	1.00	(1.64)	0.83	0.14	4.21	不整形	皿形	2 ○	126						
8・13・20	05 1 区	SK32	17H-1B19・24・25		Vi a	N - 39° - W	0.98	0.43	0.78	0.24	0.07	4.28	楕円形	皿形	1 ×							
8・13・21	05 1 区	SK105	17H-1A10・15	平安	Vi a	N - 13° - E	0.56	0.54	0.34	0.24	0.13	3.64	円形	皿形	1 ○							
8・15・21	05 1 区	SX20	16H-7H22・23	平安	V	N - 45° - E	1.90	(0.60)	1.37	(0.20)	0.55	3.10	不整形	箱形	1 ○							
8・15・21	05 1 区	SX21	16H-7H19・23～25	平安	Vi a	N - 0° - S	2.62	0.64	2.30	0.62	0.20	3.22	不整形	箱形	1 ○							
8・15・21	05 1 区	SX22	16H-7H20	平安	Vi a	N - 81° - W	1.10	1.09	0.91	0.68	0.40	3.04	方形	台形状	1 ○							
8・15・21	05 1 区	SX23	16H-7H15・20, 7I11・16	平安	Vi a	N - 59° - E	1.48	(1.10)	1.24	(0.75)	0.36	3.07	不整形	箱形	1 ○							
8・14・21・22	05 1 区	SD16	16H-9F13・14	古墳～平安	Vi a	N - 85° - W	—	1.05	—	0.50	0.23	3.03	—	皿形	3 ○	126・206						
8・13・21	05 1 区	SD28	17H-2B11・12・16～19・21～23	平安	V	N - 77° - W	—	3.25	—	2.30	0.31	3.87	—	台形状	2 ○	127						
8・13・21	05 1 区	SD30	17H-1B9・10・14・15・19・24, 2B4	平安～中世	Vi a	N - 76° - E	—	0.75	—	0.55	0.10	4.28	—	皿形	2 ○	127	11	320	1	1		
8・13・21	05 1 区	SD31	17H-1A24・25, 1B21～23, 2A5, 2B1～3	平安	Vi a	N - 85° - W	6.95	0.80	6.75	0.60	0.10	4.28	—	皿形	1 ○	127						
8・13・22	05 1 区	SD117	16H-10B17・18・22・23, 17H-1A15・19・20・24, 1B1・2・6・11		Vi a	N - 40° - E	—	0.62	—	0.25	0.42	3.88	—	台形状	1 ×							
8・12・22	05 1 区	河 1	17G-5H14・15・18～24, 6G5・9・10・15, 6H1～3・6・7・11	平安	Vi a	—	—	(12.50)	—	(10.65)	0.42	3.44	—	—	3 ○	127						
8・14・22	05 1 区	河 18	16H-8G10・13～15・17～24, 8H6・11, 9E25, 9F5・9・10・12～19・21・22, 10E4・5・7～10・12～14, 10F1	中世	Vi a	—	—	35.20	—	33.00	0.36	3.30	—	—	4 ○		2	2				
8・13・22	05 1 区	河 25	16H-10A20・24・25, 10B11～13・16～23, 17H-1A2～15・17～20・24, 1B1・2・6・7・11, 2A4	古墳～平安～中世	Vi a	N - 40° - E	—	(7.80)	—	(4.00)	0.60	3.36	—	—	4 ○	122・127・197・207・209	92	11,411	7	656		
8・13・20	05 1 区	Pit64	17H-2B14		Vi a	N - 13° - E	(0.28)	(0.28)	(0.16)	(0.13)	0.21	4.12	方形	台形状	1 ×							
28・30・31・33	05 2 区	SE6	17G-1F10・15, 1G6・11・12・16	平安～中世	Vi a	N - 32° - W	2.70	2.30	1.72	1.00	0.53	3.63	長方形	—	3 ○	129・197	12	857	3	145		
28・31・36	05 2 区	SE11	16G-9H12・13	平安～中世	Vi a	N - 45° - W	1.54	1.30	0.87	0.68	1.16	3.06	楕円形	台形状	14 ○	129・197・23	3	16				
28・30・32	05 2 区	SE20	17G-1H11・12・16・17	平安～中世	Vi a	N - 48° - E	2.00	(1.30)	0.78	(0.55)	1.22	3.07	円形	台形状	10 ○	129・198・208						
28・31・34	05 2 区	SE89	16G-9G22	中世	Vi a	N - 53° - E	0.75	(0.38)	0.53	(0.30)	0.60	3.42	—	箱形	7 ○	198						
28・31・34	05 2 区	SE98	16G-10F10・15, 10G6・11	平安～中世	Vi a	N - 40° - W	1.63	1.40	—	0.40	1.56	2.52	方形	台形状	11 ○	198・221	12	1,121	2	68		
28・31・35	05 2 区	SE104	16G-10F5・10, 10G1・6	平安～中世	Vi a	N - 55° - E	(2.68)	(1.58)	(0.68)	(0.68)	1.53	2.47	楕円形	台形状	5 ○	129・222～234	12	502	4	6,323		
28・31・34	05 2 区	SE106	16G-10F9・10	平安～中世	Vi a	N - 37° - W	(0.70)	1.10	(0.08)	0.10	0.76	3.18	—	台形状	4 ○	198・222	5	3,471	8	1,004		
28・30・32	05 2 区	SE115	17G-2E9・10	平安	Vi a	N - 55° - E	1.26	1.14	(0.57)	(0.67)	0.75	3.30	円形	台形状	4 ○	129・221	6	2,330	1	19		
28・31・35	05 2 区	SE122	16G-10G13・14	平安	Vi a	N - 42° - W	0.90	(0.82)	0.36	0.38	0.75	3.20	円形	台形状	5 ○	129・235	1	18				
28・31・36	05 2 区	SE126	16G-10F14・15・19・20	平安～中世	Vi a	N - 76° - E	1.32	1.10	0.36	0.28	0.68	3.32	楕円形	台形状	5 ○	129・198・210	2	462				
28・30・33	05 2 区	SE133	17G-1F20, 1G16	平安～中世	Vi a	N - 88° - W	2.10	1.85	1.30	0.70	0.75	3.50	不整形	—	3 ○	129・199・210	14	450	1	68		
28・30・32	05 2 区	SE144	17G-1G3・7・8	平安～中世	Vi a	N - 50° - E	(2.41)	(2.27)	1.81	1.15	0.93	3.30	円形	台形状	6 ○	129	2	100	1	757		
28・30・33・34	05 2 区	SE166	17G-1G17・18・22・23, 2G2・3	平安～中世	Vi a	N - 65° - E	2.45	2.10	1.95	(1.60)	0.96	3.29	不整形	—	7 ○	129・199・210	35	3,469	10	585		
28・30・33	05 2 区	SE167	17G-1G11・12・16・17	平安～中世	Vi a	—	—	—	(2.00)	(1.15)	0.88	3.30	—	—	3 ○		2	306	1	24		
28・30・34	05 2 区	SE169	17G-1G12・13・17・18	平安～中世	Vi a	N - 8° - W	(2.25)	(2.25)	(0.95)	(0.90)	0.80	3.48	円形	—	—		21	5,588	1	52		
28・30・34	05 2 区	SE173	17G-1G18・23	平安～中世	Vi a	N - 65° - W	1.90	(1.40)	0.70	0.65	0.71	3.59	円形	—	—		129・199・211・212	104	9,813	23	8,339	
28・31・38	05 2 区	SK8	16G-9H18	平安	Vi a	N - 65° - W	1.32	1.05	0.65	0.60	0.17	4.03	楕円形	皿形	5 ○	130	2	601	1	51		
28・31・39	05 2 区	SK9	16G-9H14・19	平安～中世	Vi a	N - 74° - E	(1.45)	(0.88)	(1.30)	(0.76)	0.32	3.89	—	台形状	3 ○	130	4	30				

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考	
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)		
							長軸	短軸	長軸	短軸													
28・31・39	05 2 区	SK12a	16G-9H25, 9I21	平安	VI a	N - 83° - E	1.05	0.80	0.65	0.65	0.18	4.14	長方形	台形状	2	○	130						
28・31・39	05 2 区	SK12b	16G-9H25, 9I21	平安	VI a	N - 33° - W	1.05	(0.74)	0.85	(0.68)	0.14	4.22	—	台形状	2	○	130	1	29				
28・31・43	05 2 区	SK13	16G-10I9	平安	VI a	N - 42° - W	0.35	(0.25)	0.20	(0.15)	0.14	4.18	—	台形状	—	○							
28・31・37	05 2 区	SK14	16G-10I9・14	平安	VI	N - 12° - E	0.62	0.38	0.48	0.18	—	—	楕円形	—	—	○							
28・31・39	05 2 区	SK30	16G-9H19・20・24・25	平安	VI a	N - 76° - W	1.07	1.07	0.85	0.80	0.09	4.15	方形	台形状	2	○							
28・31・39	05 2 区	SK31	16G-10H5	平安	VI a	N - 70° - E	1.08	0.62	0.92	0.42	0.13	4.23	楕円形	台形状	2	○							
28・31・39	05 2 区	SK32	16G-10H5	平安	VI a	N - 28° - E	1.32	(0.55)	1.13	0.36	0.16	4.20	楕円形	台形状	3	○							
28・31	05 2 区	SK34	16G-9I16	平安～中世	VI	N - 88° - W	(1.05)	(0.65)	0.55	0.35	—	—	長方形	—	—	○	1	3					
28・31・38	05 2 区	SK37	16G-10H3	平安～中世	VI a	N - 0° - S	1.10	0.92	0.87	0.73	0.11	4.15	長方形	皿形	2	○		2	6				
28・31・38	05 2 区	SK38	16G-9H24・25, 10H4・5	平安～中世	VI a	N - 65° - W	0.63	0.50	0.52	0.35	0.14	4.10	楕円形	箱形	2	○							
28・31・39	05 2 区	SK53	16G-9H13・14・19	平安	VI a	N - 74° - E	(1.00)	(1.00)	(0.90)	(0.88)	0.20	4.10	—	皿形	1	○							
28・31・38	05 2 区	SK55	16G-10H8・9	平安～中世	VI a	N - 57° - W	0.53	0.28	0.49	0.09	0.22	4.10	不整形	箱形	4	○				1	34		
28・31・36	05 2 区	SK56	16G-9H11・12	平安～中世	VI a	N - 38° - E	1.55	1.40	1.20	0.92	0.38	3.85	円形	—	4	○	130						
28・31	05 2 区	SK72	16G-9H19・24	平安	VI	N - 33° - E	0.40	(0.40)	0.25	(0.25)	—	—	方形	—	—	○							
28・31	05 2 区	SK82	16G-9G22・23	平安～中世	VI	N - 42° - E	0.90	(0.60)	0.20	0.20	—	—	長方形	—	—	○	2	12					
28・31・38	05 2 区	SK92	16G-10H4	平安～中世	VI	N - 85° - E	0.45	0.30	0.35	0.15	—	—	楕円形	—	—	×							
28・31	05 2 区	SK94	16G-10I6	奈良	VI	N - 55° - E	0.40	(0.25)	0.05	(0.05)	—	—	—	—	—	○	130						
28・31	05 2 区	SK95	16G-9H21	平安～中世	VI	N - 39° - E	0.45	0.20	0.30	0.10	—	—	楕円形	—	—	×							
28・31・38・39	05 2 区	SK96	16G-9I21	平安	VI a	N - 41° - E	(0.40)	0.32	(0.36)	0.19	0.22	4.12	—	箱形	2	○			1	6			
28・31・38	05 2 区	SK99	16G-10H8	中世	VI a	N - 31° - E	0.85	(0.40)	0.54	(0.26)	0.28	3.92	—	—	4	○							
28・31	05 2 区	SK100	16G-9H22	中世以降	VI	N - 75° - W	0.60	0.30	0.45	0.20	—	—	長方形	—	—	○							
28・31・37	05 2 区	SK101	16G-10H20	平安～中世	VI a	N - 60° - E	0.53	0.42	0.23	0.18	0.20	4.15	楕円形	半円形	2	×							
28・31・39	05 2 区	SK102	16G-9H13・18	平安	VI a	N - 36° - E	0.88	0.27	0.76	0.20	0.17	4.06	楕円形	箱形	2	○							
28・31・37	05 2 区	SK108	16G-10I9	平安	VI a	N - 89° - W	1.05	(1.04)	0.83	(0.76)	0.20	4.16	円形	台形状	2	○							
28・31・37	05 2 区	SK110	16G-10H24	平安～中世	VI a	N - 79° - E	0.65	0.62	—	—	0.18	4.08	円形	箱形	1	○							
28・31	05 2 区	SK111	16G-10H20・25	平安～中世	VI a	N - 65° - W	0.95	0.80	0.75	0.60	—	—	楕円形	—	—	○	1	17					
28・30・36・41	05 2 区	SK113	17G-1G15・20	平安～中世	VI a	N - 11° - W	2.02	(1.44)	(0.63)	0.28	0.63	3.62	不整形	台形状	5	○	131・199	5	37	1	59		
28・31・38	05 2 区	SK114	16G-10H4	中世以降	VI a	N - 35° - W	0.75	0.60	0.06	0.06	0.22	4.18	楕円形	半円形	3	×							
28・31・38	05 2 区	SK117	16G-10H4・9	中世以降	VI a	N - 34° - W	0.82	0.56	0.47	0.38	0.24	4.05	楕円形	半円形	2	×							
28・30・36	05 2 区	SK119	17G-2E12・13・18	平安	VI a	N - 55° - W	1.48	(1.32)	0.95	(0.95)	0.24	3.85	円形	皿形	2	○	131・205						
28・31	05 2 区	SK121	16G-10H21	中世	VI	N - 31° - E	1.50	0.75	1.45	0.55	—	—	不整形	—	—	○							
28・30・31	05 2 区	SK125	17G-1G2	平安～中世	VI	N - 57° - W	0.80	0.70	0.30	0.25	—	—	楕円形	—	—	×							
28・30・33	05 2 区	SK131	17G-1F15・20, 1G11	平安～中世	VI a	N - 26° - E	(2.00)	1.40	1.30	0.60	0.48	3.77	楕円形	台形状	4	○	131・200・212	8	351	12	672		
28・30・33	05 2 区	SK134	17G-1F25, 1G21	平安～中世	VI a	N - 78° - E	1.80	1.00	1.00	0.30	0.48	3.75	楕円形	台形状	2	○		3	6				
28・30・37	05 2 区	SK157	17G-1G14	平安～中世	VI a	N - 46° - W	1.17	0.55	0.38	0.23	0.40	3.60	楕円形	半円形	4	○							
28・30・31	05 2 区	SK172	17G-1H3・4・8	平安	VI	N - 84° - E	(1.50)	(0.55)	1.05	(0.40)	—	—	—	—	—	○							
28・30・31・37	05 2 区	SK174	17G-1G10・15	中世以降	VI a	N - 16° - E	0.90	0.78	0.72	0.50	0.18	3.99	楕円形	半円形	1	×							
28・31・37	05 2 区	SK175	16G-10H15・20	中世以降	VI a	N - 21° - E	(2.42)	1.30	0.38	0.28	0.60	3.80	楕円形	台形状	6	×							
28・31・39・40	05 2 区	SX23	16G-9H8・9・13・14・15	平安～中世	VI a	N - 60° - W	(2.40)	(1.05)	(2.10)	(0.55)	0.33	3.80	不整形	台形状	7	○	131・205・213	6	84	5	187		
28・31・43	05 2 区	SX86	16G-9I16・17	平安～中世	VI a	—	—	—	—	—	0.44	3.86	—	半円形	2	×							
28・30・33	05 2 区	SX135	17G-1F25, 1G21・22, 2F5, 2G1・2	平安～中世	VI a	N - 63° - E	(4.40)	2.75	3.85	1.50	0.64	3.60	不整形	台形状	5	○	131・200・213	35	1,819	11	1,462		
28・30・34	05 2 区	SX137	17G-1G19・23・24	平安	VI a	N - 60° - E	—	0.72	—	0.60	0.12	4.18	不整形	台形状	—	○							
28・30・40	05 2 区	SX149	17G-1F17・18・22・23	平安	VI a	N - 58° - W	(2.95)	1.70	(1.75)	1.15	0.25	3.95	不整形	台形状	3	○							
28・30・40	05 2 区	SX150	17G-1F18・19・23・24	平安	VI a	N - 82° - E	2.02	1.82	1.10	0.64	0.34	3.90	楕円形	台形状	3	○							
28・30・40	05 2 区	SX151	17G-1F13・14・18・19	平安	VI a	N - 69° - E	1.95	1.56	1.61	1.30	0.40	3.82	—	箱形	2	○	131	2	116				
28・30・40	05 2 区	SD1	17G-2E18～20・22～24, 2F14～20, 2G11, 3E2・3	平安	VI a	N - 82° - E	—	1.20	—	0.70	0.35	3.73	—	台形状	3	○	132	11	173				
28・30・40	05 2 区	SD2	17G-2E25, 2F17・21・22, 3E4・5・8～10・13, 3F1	平安	VI a	N - 52° - E	—	1.05	—	0.35	0.44	3.62	—	台形状	4	○	132・205	4	99	1	167		
28・30・41	05 2 区	SD3	17G-2G1・2・6・7	平安～中世	VI a	N - 20° - W	—	0.90	—	0.40	0.57	3.69	—	台形状	6	○	132・200	14	676	4	583		



図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物の 有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考	
							上端		下端			平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)		
							長軸	短軸	長軸	短軸												深度
28・30・31・34・37・41・43	05 2 区	SD4	16G-10H14・15・18~24, 10I2・3・6~8・11・12・16, 17G-1G5・9・10・13~15・18・19, 1H1・2・6	平安~中世	V	N-55°・E	-	1.50	-	0.35	1.20	3.17	-	台形状	5	○	132・200・201・208・214・235	114	8,211	15	1,703	
28・31・41	05 2 区	SD5	16G-10H10, 10I2・6・7・11・12	平安~中世	VI a	N-55°・E	-	0.90	-	0.40	0.15	4.24	-	半円形	1	○	133	1	1			
28・30・31・41	05 2 区	SD7	17G-1H1・2・7・8・13	平安~中世	VI a	N-43°・W	-	1.40	-	0.80	0.24	3.94	-	台形状	3	○	133	2	164			
28・31・38~40・42・43	05 2 区	SD17	16G-9H7・8・13~15・19・20, 9I16・21~23, 10I2~4・9	平安~中世	VI	N-56°・W	-	0.80	-	0.40	0.24	3.92	-	箱形	4	○	133	6	346	4	252	
28・30・36・37・41	05 2 区	SD21	17G-1G14・15・19・20・24・25	平安~中世	VI a	N-2°・E	(3.52)	0.66	1.80	0.25	0.50	3.73	-	台形状	3	○	201	2	100			
28・31・38・42	05 2 区	SD28	16G-9I16・17・21・22	平安	VI a	N-32°・E	-	0.90	-	0.40	0.12	4.02	-	皿形	1	○						
28・31・38・42	05 2 区	SD29	16G-9H24・25, 10H3・4	平安~中世	VI a	N-53°・E	(4.00)	(0.70)	(3.90)	(0.55)	0.11	4.14	-	台形状	2	○						
28・31・42	05 2 区	SD33	16G-10H10, 10I6	平安	VI a	N-55°・W	1.70	0.50	0.30	0.25	0.24	4.18	-	台形状	3	○	133	1	8			
28・31・37・38・41・42	05 2 区	SD35	16G-9H17・22・23, 10H3・4・9・10・15・20	平安~中世	VI a	N-42°・E	-	1.00	-	0.60	0.13	4.14	-	半円形	3	○	133・201	8	108	1	6	
28・30~33・38・42・43	05 2 区	SD36	16G-9H10・14・15・19・20・23・24, 10G15・19・20・24・25, 10H3・4・6~8・11・12・16, 17G-1G3・4・8・9・13・14・17・18・21・22	平安~中世	VI a	N-42°・E	-	1.40	-	0.35	0.64	3.57	-	半円形	8	○	133・201	32	1,150	5	367	
28・31・38・43	05 2 区	SD41	16G-9H7~10・14・15, 9I11・16・17・22・23	平安~中世	VI	N-55°・W	-	(0.75)	-	(0.45)	0.32	3.88	-	台形状	2	○	133			2	98	
28・31・38・42	05 2 区	SD52	16G-9H17・18・21・22, 10H1	平安~中世	VI a	N-50°・E	(5.25)	0.30	(5.20)	0.15	0.08	4.17	-	台形状	1	○	134・208					
28・31・42	05 2 区	SD70	16G-9H12・13・16~18・21・22	平安	VI a	N-44°・E	(5.75)	0.45	(5.65)	0.20	0.13	4.10	-	台形状	1	○	134					
28・30・31・41	05 2 区	SD105	16G-10H21, 17G-1G4・5・9・10, 1H1~5	平安~中世	VI a	N-88°・W	-	(1.00)	-	(0.60)	0.35	3.84	-	台形状	5	○	134・201	4	290	1	5	
28・31	05 2 区	SD112	16G-10G19・24	平安	VI	N-42°・W	-	0.45	-	0.25	-	-	-	-	-	○						
28・30・31・42	05 2 区	SD124	16G-10G22~24, 17G-1G2・3	平安	VI a	N-76°・E	-	1.20	-	1.00	0.12	4.10	-	皿形	1	○						
28・31・42	05 2 区	SD130	16G-10H25, 10I21	平安~中世	VI a	N-34°・W	(1.10)	0.95	(0.80)	0.45	0.16	4.00	-	皿形	1	○		5	25			
28・30・34	05 2 区	SD136	17G-1G24, 2G4	平安	VI	N-25°・W	(1.75)	0.55	(1.65)	0.25	-	-	-	-	-	○						
28・30・42	05 2 区	SD138	17G-1H11・12	平安~中世	VI a	N-51°・W	(1.05)	0.60	(0.90)	(0.40)	0.18	4.04	-	台形状	2	○	201					
28・31・42	05 2 区	SD139	16G-9G22・23, 10G2~4	平安	VI a	N-58°・W	3.00	1.20	2.80	1.05	0.23	3.82	-	箱形	4	○	134	2	59			
28・30・41	05 2 区	SD156	17G-1G22, 2G2・7	平安	VI a	N-20°・W	-	(0.65)	-	(0.45)	0.28	4.00	-	台形状	4	○						
28・30・41	05 2 区	SD160	17G-2E12・16・17	平安~中世	VI a	N-4°・E	(2.10)	0.65	(1.90)	0.40	0.25	3.82	-	台形状	3	○	134・205・208					
28・30・31・37	05 2 区	SD161	17G-1G5・10・15, 1H1・6	中世以降	VI a	N-52°・E	-	1.00	-	0.35	0.49	3.69	-	台形状	3	○						
28・30・32~34	05 2 区	SD168	17G-1G8・12・13・16・17・21・22	平安~中世	VI a	N-42°・E	-	(0.85)	-	(0.55)	0.40	3.84	-	半円形	2	×						
28・31・43	05 2 区	河 16	16G-8H24, 9H3~5・9・10・15, 9I11	平安~中世	VI a	N-67°・W	-	(3.00)	-	(2.50)	0.60	3.54	-	-	7	○	134・201	53	5,229	8	788	
28・31・42	05 2 区	Pit40	16G-9H16	平安~中世	VI a	N-63°・E	0.40	0.33	0.25	0.17	0.41	3.80	楕円形	箱形	-	○						
28・31・39	05 2 区	Pit43	16G-9I21	平安	VI a	N-72°・W	0.43	(0.15)	0.33	(0.10)	0.27	4.06	楕円形	箱形	5	○						
28・31・43	05 2 区	Pit49	16G-9H18	平安	VI a	N-72°・W	0.36	0.28	0.10	0.10	0.36	3.89	楕円形	台形状	4	○						
28・31・36	05 2 区	Pit57	16G-9H13		VI a	N-12°・E	0.28	0.23	0.12	0.08	0.15	4.04	楕円形	半円形	1	×						
28・31・43	05 2 区	Pit58	16G-10H8・13		VI a	N-45°・W	0.40	0.31	0.21	0.18	0.49	3.80	楕円形	箱形	2	×		1	5			
28・31・42	05 2 区	Pit66	16G-9H16	平安	VI a	N-42°・W	0.25	0.20	0.15	0.08	0.08	4.16	楕円形	半円形	-	○						
28・31・42	05 2 区	Pit77	16G-9H24	平安	VI a	N-23°・E	0.40	(0.25)	0.35	(0.20)	0.12	4.12	-	箱形	3	○	134					
28・31・42	05 2 区	Pit81	16G-9H17	中世	VI a	N-41°・W	0.38	0.30	0.21	0.16	0.61	3.62	楕円形	箱形	2	○						
28・31・43	05 2 区	Pit85	16G-10H8・9	平安	VI a	N-23°・E	0.37	0.35	0.18	0.18	0.31	4.01	円形	台形状	2	○						
28・31・42	05 2 区	Pit88	16G-9I16	平安	VI a	N-0°・S	0.35	0.30	0.10	0.10	0.12	4.07	円形	半円形	1	○						
28・31・42	05 2 区	Pit90	16G-9H17・18		VI a	N-46°・E	0.45	0.35	0.25	0.20	0.06	4.15	楕円形	半円形	1	×						
28・31・43	05 2 区	Pit103	16G-10H1		VI a	N-6°・E	0.37	0.35	0.25	0.25	0.24	4.02	円形	台形状	1	×						
28・31・42	05 2 区	Pit116	16G-9H16・17	平安~中世	VI a	N-61°・E	0.44	0.35	0.30	0.16	0.30	3.93	楕円形	半円形	1	○						
28・31・37	05 2 区	Pit148	16G-10H24		VI a	N-76°・W	0.26	0.23	0.10	0.10	0.17	4.10	楕円形	半円形	1	×						
28・30・43	05 2 区	Pit154	17G-1G19		VI a	N-54°・E	0.33	0.22	0.14	0.12	0.18	4.02	楕円形	箱形	2	×						
28・30・43	05 2 区	Pit155	17G-1G19		VI a	N-84°・W	0.68	0.47	0.19	0.17	0.28	3.95	楕円形	半円形	2	×						
45・53・57	05 3 区	SE7	16G-5D25, 5E21, 6E1	平安	河 1	N-47°・E	1.00	0.83	0.83	0.66	0.59	2.74	楕円形	台形状	2	○	138					
45・52・55	05 3 区	SE14	16G-7A16・17・21・22	平安	VI a	N-38°・W	2.53	(1.02)	1.30	(0.35)	0.95	3.17	円形	台形状	5	○	138	3	117	2	57	
45・53・57	05 3 区	SE16	16G-6E12・13・17	平安~中世	河 1	N-46°・E	1.10	(0.86)	0.70	(0.35)	0.60	2.64	-	台形状	4	○	138					
45・52・55	05 3 区	SE21	16G-8A15	平安~中世	VI a	N-19°・W	1.03	0.99	0.70	0.58	1.01	3.03	円形	台形状	3	○	138・215・236	2	16			

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物の 有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考	
							上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)		重量 (g)
							長軸	短軸	長軸	短軸												
45・52・58・75	053区	SE47	16G-7A20	平安～中世	VI	N-51°-W	1.95	1.70	0.60	0.60	1.80	2.30	不整形	台形状	9	○	138・202・216・238～244	6	426			
45・52・57・58	053区	SE55	16G-7A25	平安	VIa	N-30°-E	1.25	1.17	0.70	0.62	1.47	2.59	円形	台形状	3	○	138・206・236			1	17	
45・52・57	053区	SE67	16G-7A10・15	平安	VIa	N-1°-E	1.95	1.51	0.59	0.52	0.97	3.10	楕円形	半円形	8	○	138・208・216	5	314	1	7	
45・52・55	053区	SE72	16G-7A3・4・8・9	平安～中世	VIa	N-51°-E	2.23	(1.35)	0.77	(0.27)	0.97	2.95	—	台形状	10	○	138・202・235			1	1	
45・52・59・66	053区	SE74	16G-7B21・22, 8B2	平安～中世	VIa	N-84°-E	1.91	1.46	0.82	0.60	1.17	3.08	楕円形	台形状	7	○	138	2	10			
45・52・59	053区	SE77	16G-8B7・8・12・13	平安	VIa	N-17°-E	1.53	1.52	0.70	0.61	1.21	2.90	円形	台形状	7	○	138					
45・52・55	053区	SE83	16G-7A4・5	平安～中世	VIa	N-51°-E	(1.07)	(0.95)	(0.38)	(0.22)	0.92	3.01	—	台形状	7	○	139・235					
45・52・62	053区	SE93	16G-8B15・20, 8C11	平安	VIa	N-53°-E	1.95	(0.94)	0.83	(0.35)	0.86	3.13	—	台形状	6	○						
45・52・61	053区	SE94	16G-8B8・9	平安	VIa	N-63°-W	1.32	1.12	1.10	0.74	1.20	2.84	楕円形	台形状	7	○	245					
45・52・55	053区	SE98	16G-7A3・4・8・9	平安	VIa	N-51°-E	(1.05)	(0.92)	(0.64)	(0.30)	0.71	3.20	—	台形状	2	○	235					
45・52・59・66	053区	SE100	16G-7B22・23, 8B2・3	平安～中世	VIa	N-5°-E	1.53	(0.95)	(0.85)	0.78	1.31	2.84	—	台形状	8	○	139・237	3	87			
45・52・62	053区	SE102	16G-8C6・11	平安	VIa	N-55°-E	1.03	1.00	0.64	0.53	0.87	3.16	円形	箱形	4	○	139					
45・52・56	053区	SE104	16G-6A25, 6B16・21, 7A5, 7B1	平安	VIa	N-29°-E	2.85	2.08	0.88	0.76	1.91	2.19	—	台形状	8	○	139・208・236・237	6	298			
45・52・56	053区	SE112	16G-6B21・22, 7B1・2	平安	VIa	N-58°-E	2.17	(1.50)	0.45	0.43	1.38	2.67	不整形	台形状	7	○	139					
45・52・60	053区	SE113	16G-6B12～14・18	平安～中世	VIa	N-22°-E	2.50	2.26	1.00	0.80	1.07	3.16	円形	台形状	5	○	139	4	85			
45・52・62	053区	SE114a	16G-7C16・17・21・22	平安～中世	VIa	N-83°-W	1.62	1.60	—	—	0.96	3.18	楕円形	台形状	4	○	139・202・216・217	2	178	1	5	
45・52・62	053区	SE114b	16G-7C16・17・21・22	平安～中世	VIa	N-72°-E	1.20	0.80	0.43	0.38	1.10	3.05	—	台形状	3	○	139・202・216・217					
45・52・62・76	053区	SE115	16G-7C17・22・23	平安～中世	VIa	N-46°-E	1.25	1.15	0.48	0.46	0.93	3.16	方形	台形状	4	○	139					
45・52・61	053区	SE127	16G-8B3・4・8・9	平安	VIa	N-31°-E	1.43	0.88	1.15	0.84	0.72	3.30	楕円形	箱形	3	○						
45・52・60	053区	SE135	16G-6B22・23	平安～中世	VIa	N-5°-E	0.97	0.87	0.65	0.54	0.56	3.59	楕円形	台形状	3	○		2	216	1	21	
45・52・61	053区	SE138	16G-7B19・20・25	平安～中世	VIa	N-42°-E	1.19	1.13	0.78	0.74	1.00	3.09	不整形	台形状	4	○	139・202	2	60			
45・52・61・62・67	053区	SE144	16G-7B24・25, 8B4・5	平安	VIa	N-3°-E	1.07	0.92	0.35	0.26	0.79	3.29	楕円形	台形状	4	○		1	19			
45・52・61	053区	SE149	16G-7B15・20, 7C11・16	平安	VIa	N-88°-E	1.09	0.90	0.75	0.64	0.90	3.26	楕円形	台形状	3	○						
45・52・62	053区	SE153	16G-8B5	平安	VIa	N-15°-E	0.71	0.61	0.62	0.54	0.74	3.37	円形	箱形	3	○	208					
45・52・63	053区	SE165	16G-7C23・24	平安	VIa	N-57°-W	0.87	0.87	0.74	0.68	0.80	3.27	円形	箱形	3	○	245					
45・52・60	053区	SE228	16G-6B24, 7B4	平安	VIa	N-10°-E	1.85	1.30	1.07	0.84	1.06	3.10	長方形	台形状	4	○	139・245	1	8	2	103	
45・52・59	053区	SE308	16G-8B11・16	平安～中世	VIa	N-85°-W	0.83	0.78	0.68	0.62	0.97	2.95	円形	台形状	—	○	202・236					
45・52・63・68	053区	SE321	16G-6C16・17	平安	VIa	N-31°-E	1.34	1.10	0.82	0.73	1.00	3.25	不整形	台形状	6	○	139・208	5	143			
45・52・63	053区	SE332	16G-6C23・24, 7C3・4	平安～中世	VIa	N-17°-W	(1.70)	1.70	0.90	0.80	1.03	3.22	楕円形	台形状	6	○	139・140・216・245	7	246	2	505	
45・52・63	053区	SE366	16G-7C20・25, 7D16	平安	VIa	N-0°-S	2.10	1.90	1.00	0.90	1.30	2.87	円形	台形状	10	○	140・205・216・245	9	48			
45・53・71	053区	SK3	16G-5E1・6		河1	N-51°-E	1.25	1.06	0.85	0.65	0.45	2.89	長方形	箱形	2	×						
45・53・71	053区	SK4	16G-5E2・3・7・8		河1	N-49°-E	1.19	0.93	0.78	0.72	0.38	2.97	不整形	台形状	2	○						
45・53・71	053区	SK5	16G-5E12・13・17・18		河1	N-70°-E	1.27	1.20	0.96	0.58	0.21	3.13	不整形	半円形	2	×						
45・53・71	053区	SK6	16G-5D24・25, 6D4・5		河1	N-49°-E	2.13	(1.72)	1.82	(1.50)	0.19	3.12	不整形	皿形	1	○						
45・53・72	053区	SK8	16G-6E2・3		河1	N-46°-W	1.03	0.94	0.82	0.70	0.22	3.17	不整形	台形状	1	○	140					
45・53・72	053区	SK9	16G-5E23・24, 6E3		河1	N-37°-W	1.49	1.35	1.10	1.06	0.24	3.11	不整形	台形状	3	○	140					
45・53・72	053区	SK10	16G-5E24・25		河1	N-72°-W	0.87	0.83	0.65	0.56	0.21	3.14	方形	台形状	1	×						
45・53・72	053区	SK11	16G-5E24・25, 6E4・5		河1	N-41°-E	1.30	1.12	1.10	0.99	0.12	3.22	不整形	皿形	2	○						
45・53・72	053区	SK12	16G-5E20・25, 5F16・21		河1	N-35°-W	0.70	(0.64)	0.52	(0.38)	0.17	3.17	楕円形	皿形	1	×						
45・53・72	053区	SK13	16G-6E1・2・6・7	平安	河1	N-18°-W	1.40	(1.00)	1.05	0.50	0.23	3.12	楕円形	半円形	3	○						
45・52・65・73	053区	SK18	16G-8A20・25, 8B16・21	平安	VIa	N-30°-E	(2.00)	(0.50)	(1.90)	(0.43)	0.26	3.78	—	皿形	3	○	140					
45・52・64	053区	SK20	16G-8A10・15, 8B11	平安	VIa	N-6°-W	1.48	(0.46)	1.30	(0.44)	0.08	3.92	—	皿形	1	○		1	1			
45・53・71	053区	SK33	16G-5C15・19・20・25, 5D16・21	平安～中世	VIa	N-14°-W	3.72	1.72	2.96	1.37	0.31	3.44	不整形	台形状	1	○	140					
45・53・71	053区	SK34	16G-6C5, 6D1		VIa	N-0°-S	0.67	0.55	0.34	0.10	0.23	3.56	楕円形	半円形	2	×						
45・52・64	053区	SK44	16G-8A2・3・8	平安	VIa	N-36°-W	1.99	(1.05)	1.50	(0.85)	0.57	3.79	—	台形状	1	○		1	4			
45・53・71	053区	SK45	16G-5C14・19	中世以降	VIa	N-20°-W	1.08	0.63	0.69	0.33	0.46	3.27	楕円形	箱形	—	×						

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸												
45・52・64	05 3 区	SK46	16G-7A25, 8A5	平安	VI a	N・12°・W	0.83	(0.62)	0.58	(0.36)	0.27	3.81	—	半円形	3	○	140					
45・52・64	05 3 区	SK63	16G-7A8・9・13	平安	VI a	N・40°・E	0.79	0.48	0.50	0.31	0.11	3.93	楕円形	皿形	1	○						
45・52・66	05 3 区	SK79	16G-8B12・17・18	平安	VI a	N・62°・W	0.75	0.50	0.59	0.26	0.11	3.70	長方形	皿形	1	○						
45・52・66	05 3 区	SK81	16G-8B8		VI a	N・86°・E	0.60	0.57	0.45	0.27	0.09	4.01	円形	皿形	1	×						
45・52・66	05 3 区	SK82	16G-8B3・8		VI a	N・30°・W	1.07	0.70	0.91	0.56	0.10	4.05	不整形	皿形	1	×						
45・52・57	05 3 区	SK89	16G-7A24・25	平安	VI a	N・35°・W	0.60	(0.52)	0.46	(0.42)	0.10	3.97	—	皿形	1	○	140					
45・53・71	05 3 区	SK91	16G-6D11・12・16・17		VI a	N・57°・W	2.00	1.12	1.39	0.64	0.46	3.19	楕円形	台形状	—	×						
45・52・66	05 3 区	SK101	16G-7B23, 8B3	平安	VI a	N・28°・E	1.42	1.00	1.10	(0.78)	0.15	4.05	不整形	皿形	1	○						
45・52・65	05 3 区	SK107	16G-7B6・7	平安	VI a	N・8°・E	0.72	0.50	0.59	0.38	0.15	3.94	楕円形	台形状	1	○						
45・52・62・67	05 3 区	SK109	16G-7B24・25	平安	VI a	N・87°・W	0.85	0.80	0.70	0.55	0.18	3.90	円形	半円形	1	○						
45・52	05 3 区	SK118	16G-7B13・18	平安	VI	N・10°・E	0.61	0.60	0.46	0.40	—	—	円形	—	—	○	140			1	13	
45・52・65	05 3 区	SK126	16G-6B16・17	平安	VI a	N・36°・W	0.88	0.80	0.63	0.57	0.64	3.41	方形	台形状	—	○				1	254	
45・52・65	05 3 区	SK136	16G-6B22	平安	VI a	N・12°・W	0.75	0.60	0.49	0.42	0.23	3.99	楕円形	台形状	2	○						
45・52・65	05 3 区	SK137	16G-6B22	平安	VI a	N・65°・W	0.71	0.60	0.49	0.40	0.48	3.76	楕円形	箱形	3	○						
45・52・68	05 3 区	SK139	16G-7C11・16	平安	VI a	N・18°・W	1.66	1.15	1.46	0.70	0.21	3.95	不整形	台形状	1	○	140・141					
45・52・65	05 3 区	SK140	16G-6B17	平安	VI a	N・61°・E	0.90	(0.70)	0.62	0.32	0.32	3.79	楕円形	台形状	—	○						
45・52・61	05 3 区	SK174	16G-7B20	平安	VI a	N・77°・W	0.99	(0.44)	0.63	(0.28)	0.13	3.98	—	皿形	1	○						
45・52・57	05 3 区	SK176	16G-7B1・6	平安	VI	N・0°・S	1.00	(0.40)	0.82	(0.30)	—	—	—	—	—	○	141					
45・52・66・68	05 3 区	SK191	16G-7B10・15, 7C6・11・16	平安	VI a	N・0°・S	(3.80)	(2.50)	(3.20)	(2.30)	0.32	3.87	—	台形状	3	○	141・142	11	86	4	844	
45・52・65	05 3 区	SK208	16G-6B18・23, 7B3	平安	VI a	N・22°・E	2.54	(1.18)	2.20	(1.00)	0.14	4.05	—	皿形	1	○	142					
45・52・66・75	05 3 区	SK209	16G-6B24	平安	VI a	N・84°・E	0.73	0.49	0.46	0.20	0.28	3.91	楕円形	箱形	2	○						
45・52・66・67・76	05 3 区	SK232	16G-7B10・15	平安	VI a	N・16°・W	1.15	0.90	0.39	0.19	0.64	3.52	長方形	箱形	—	○	142	9	137	1	83	
45・52・66	05 3 区	SK250	16G-6B24・25	平安	VI a	N・76°・E	1.63	0.85	1.37	0.65	0.18	4.12	不整形	皿形	2	○						
45・52・67	05 3 区	SK252	16G-6B20	平安	VI a	N・0°・S	0.61	0.49	0.49	0.29	0.11	4.08	楕円形	皿形	1	○						
45・52・67	05 3 区	SK254	16G-6B15, 6C6・11	平安	VI a	N・50°・E	1.42	0.70	1.30	0.45	0.18	4.02	長方形	台形状	2	○						
45・52・70	05 3 区	SK276	16G-7C19	平安	VI a	N・7°・E	(0.81)	0.76	(0.64)	0.60	0.11	4.07	—	皿形	2	○						
45・52・67	05 3 区	SK279	16G-6C6・11	平安	VI a	N・13°・W	2.00	1.35	1.79	0.86	0.34	3.89	—	台形状	2	○	142・143			1	22	
45・52・66	05 3 区	SK282	16G-7B5・10	平安	VI a	N・53°・W	(1.50)	1.50	1.34	1.10	0.18	3.96	—	台形状	2	○	143			2	252	
45・52・70	05 3 区	SK291	16G-7C13	平安	VI a	N・84°・E	1.17	0.82	0.95	0.52	0.20	4.02	楕円形	台形状	2	○	143・144					
45・52・70	05 3 区	SK292	16G-7C12・13・18	平安	VI a	N・18°・E	1.03	0.70	0.13	0.13	0.64	3.56	楕円形	箱形	—	○	145・208					
45・52・68	05 3 区	SK294	16G-6C11・16		VI a	N・45°・E	0.81	(0.50)	0.55	(0.40)	0.18	4.05	楕円形	台形状	—	○	208					
45・52	05 3 区	SK304	16G-6C12	平安	VI	N・80°・E	0.60	0.35	0.55	0.25	—	—	楕円形	—	—	○	145					
45・52・67	05 3 区	SK310	16G-6C2・7・8	平安	VI a	N・80°・W	1.13	1.05	0.75	0.75	0.24	3.97	不整形	台形状	2	○	145	1	14			
45・52	05 3 区	SK315	16G-6C2・3	平安	VI	N・67°・E	0.67	0.25	0.36	0.11	—	—	楕円形	—	—	○						
45・52・68	05 3 区	SK319	16G-6C13	平安	VI a	N・29°・W	(0.55)	0.52	(0.34)	0.34	0.31	3.93	—	台形状	2	○	145					
45・52・68	05 3 区	SK320	16G-6C12	平安	VI a	N・65°・E	0.82	(0.60)	0.43	0.34	0.26	4.04	—	台形状	2	○	145					
45・52・69	05 3 区	SK322	16G-6C13・14・18・19	平安	VI a	N・55°・W	1.26	1.05	0.95	0.75	0.20	4.05	楕円形	台形状	2	○	145					
45・52・68	05 3 区	SK324	16G-6C21	平安	VI a	N・33°・E	0.73	0.64	0.26	0.20	0.28	4.06	楕円形	半円形	2	○						
45・52・69	05 3 区	SK325	16G-6C14・15・19・20	平安	VI a	N・5°・E	0.80	(0.62)	0.55	0.38	0.20	4.01	楕円形	半円形	2	○	145					
45・52・67	05 3 区	SK326	16G-6B10	平安	VI a	N・90°・W	(0.78)	0.60	(0.60)	0.43	0.18	4.04	—	皿形	1	○						
45・52・65	05 3 区	SK329	16G-6B17・18・22・23		VI a	N・80°・E	2.15	0.76	1.90	0.50	0.17	4.00	不整形	皿形	1	×						
45・52・53・63	05 3 区	SK333	16G-6C23	平安	VI a	N・71°・E	1.13	(0.50)	0.83	(0.37)	0.16	4.08	—	皿形	1	○		2	8			
45・52・70	05 3 区	SK334	16G-7C3	平安	VI a	N・18°・W	0.74	0.55	0.14	0.12	0.11	4.13	楕円形	皿形	1	○		1	2			
45・52・69	05 3 区	SK336	16G-6C24, 7C4・5	平安	VI a	N・62°・W	(2.20)	2.00	0.52	0.30	0.39	3.90	—	台形状	3	○	145	1	3			
45・52・69	05 3 区	SK338	16G-6C24	平安	VI a	N・66°・E	0.80	(0.28)	0.20	(0.10)	0.28	3.93	—	台形状	2	○						
45・52・68	05 3 区	SK340	16G-6C14・15	平安	VI a	N・90°・W	1.16	0.86	0.93	0.41	0.26	3.95	楕円形	台形状	2	○						
45・52	05 3 区	SK344	16G-7C7・8	平安	VI	N・0°・S	0.81	(0.45)	0.55	(0.20)	—	—	—	—	—	○						
45・52・68	05 3 区	SK350	16G-6C17	平安	VI a	N・87°・E	(1.00)	(0.35)	0.10	0.10	0.25	4.02	—	台形状	2	○						
45・52・69	05 3 区	SK351	16G-6C18・19	平安	VI a	N・69°・E	1.30	(0.98)	0.36	(0.32)	0.26	3.95	—	半円形	1	○	145					
45・52・66	05 3 区	SK356	16G-6B25, 6C21, 7B5		VI a	N・48°・E	1.30	0.55	(0.54)	0.36	0.17	4.12	—	皿形	1	×						

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸												
45・52・67	05 3 区	SK362	16G-7B20・25	平安	VI a	N・12°・W	0.76	0.71	0.56	0.53	0.17	4.00	凹形	台形状	2	○	145					
45・52・69	05 3 区	SK363	16G-7C4・5	平安	VI a	N・37°・E	1.64	(0.78)	(0.94)	(0.62)	0.23	4.05	—	皿形	2	○	145・208	1	11			
45・52・70	05 3 区	SK365	16G-7C14・15	平安	VI a	N・61°・E	2.35	(1.15)	2.08	(1.00)	0.17	4.03	—	台形状	2	○	145・146・208	4	13	1	20	
45・52・70	05 3 区	SK385	16G-7C14	平安	VI a	N・76°・E	0.96	0.55	0.74	0.30	0.16	4.08	楕円形	半円形	2	○	146					
45・52・70	05 3 区	SK397	16G-7C15・20	平安	VI a	N・85°・E	0.95	(0.65)	0.60	(0.60)	0.17	4.01	—	皿形	1	○	146	1	3			
45・52・69	05 3 区	SK399	16G-6C20	平安	VI a	N・18°・W	1.01	0.93	0.29	0.25	0.44	3.78	凹形	半円形	2	○	146	5	74			
45・52・69	05 3 区	SK400	16G-6C15・19・20	平安	VI	N・60°・E	1.42	(0.70)	0.97	(0.55)	—	—	—	—	—	○	146	1	124			
45・52・69	05 3 区	SK432	16G-6C25, 6D21	平安	VI a	N・88°・E	(0.94)	0.88	0.82	0.60	0.28	3.91	—	台形状	—	○	146					
45・52・64・73	05 3 区	SX19	16G-7B21・22, 8B1・2・6・7	平安	VI a	N・2°・E	(3.00)	(0.70)	(3.00)	(0.65)	0.17	3.97	—	皿形	1	○	146・208	3	82	3	736	
45・53・72	05 3 区	SX87	16G-6D13・17・18・23	中世以降	VI a	N・0°・S	2.80	1.73	1.30	1.00	0.67	3.11	不整形	台形状	2	○	147	2	335			
45・52・61・62	05 3 区	SX92	16G-8B3~5・8~10	平安	VI a	N・71°・E	3.59	2.78	3.32	2.55	0.20	3.88	不整形	台形状	2	○	147			1	186	
45・52・63・68・73	05 3 区	SX283	16G-6C22・23, 7C1~3・6・7・11・12・16・17	平安~中世	VI a	N・12°・W	(7.10)	2.80	(6.90)	2.40	0.28	3.94	—	台形状	2	○	147・217	18	1,111	11	410	
45・52・72	05 3 区	SX309	16G-6C13	平安	VI a	N・15°・E	0.51	0.47	0.34	0.30	0.11	4.14	凹形	台形状	1	○		232	5,173			
45・52・70・75	05 3 区	SX357	16G-7C9・10・14・15, 7D1	平安	VI a	N・82°・E	(4.50)	(1.40)	(4.30)	(1.40)	0.23	4.02	—	台形状	2	○	147・148・208	1	44	6	288	
45・52・63	05 3 区	SX371	16G-7C15・20, 7D11・16	平安~中世	VI	N・60°・W	(2.00)	(0.90)	(1.55)	(0.80)	—	—	—	—	—	○	148・149	3	46	2	68	
45・52・69	05 3 区	SX419	16G-7C5・10	平安	VI	N・30°・E	1.46	(1.10)	1.27	(0.95)	—	—	不整形	—	—	○	149					
45・52・73	05 3 区	SX439	16G-6D21・22, 7D1・2・6	平安	VI a	N・0°・S	3.12	2.08	2.67	1.63	0.37	3.86	不整形	台形状	2	○	149・208			3	320	
45・52・71・72・77	05 3 区	SD2	16G-5C13・14・18~20・24・25, 6C4・5・10・15, 6D1・6・11・12・16~18・22~24, 7D3~5・9	平安~中世	VI a	N・37°・W	—	2.24	—	1.71	0.34	3.60	—	台形状	1	○	150・202・203	40	2,649	8	950	
45・52・56~59・64・65・73・75	05 3 区	SD15	16G-6A25, 7A5・10・15・20・25, 7B1・6・11・16・21, 8A5・10, 8B1・6・11・12・16・17・21・22, 9B1・2	近世以降	VI	N・0°・S	—	2.70	—	0.70	0.71	3.39	—	半円形	4	○	150・203・208・217・245	51	2,232	10	1,149	
45・52・59・64~68・73~75	05 3 区	SD17	16G-5C18・22・23, 6B20・25, 6C2・3・6・7・11・12・16・21, 7B5・9・10・14・18・19・23・24, 8A25, 8B2・3・6・7・12・16・25	平安	VI a	N・25°・E	—	1.00	—	(0.45)	0.42	3.74	—	台形状	3	○	150	8	292	2	103	
45・52・73	05 3 区	SD22	16G-8A15・20, 8B11・16	平安	VI a	N・85°・E	(1.15)	0.45	(1.05)	0.25	0.08	3.94	—	皿形	1	○	150					
45・52・64・73	05 3 区	SD35	16G-7A23~25, 8A2~5・10	平安~中世	VI a	N・70°・E	—	0.43	—	0.30	0.13	4.03	—	半円形	2	○	150	1	3			
45・52・64・73	05 3 区	SD43	16G-8A3・4・8・9	平安~中世	VI a	N・0°・S	—	0.85	—	0.55	0.17	3.98	—	台形状	2	○	208					
45・52・59	05 3 区	SD48	16G-7B17・21・22	平安	VI a	N・73°・E	(1.76)	0.90	(1.70)	0.70	0.17	3.95	—	台形状	1	○						
45・52・75・77	05 3 区	SD78	16G-5C23・24, 6C3・4・9・10・15, 6D11・16・17・21・22, 7D2・3	平安	VI a	N・36°・W	15.50	0.40	15.30	0.20	0.11	4.00	—	半円形	1	○						
45・52・55・58・65・67・74・75	05 3 区	SD84	16G-5C21・22, 6B5・10・14・15・19・20・23・24, 6C1・6, 7B3・7・8・11・12・16	平安~中世	VI a	N・33°・E	—	1.90	—	0.80	0.42	3.81	—	台形状	4	○	151・217・218	5	121	2	54	
45・52・74	05 3 区	SD103	16G-7B7・8・12・13	平安	VI a	N・61°・E	(1.50)	0.55	(1.25)	0.30	0.12	4.03	—	台形状	1	○						
45・52・74	05 3 区	SD106	16G-7B12	平安	VI a	N・4°・E	(0.60)	0.30	(0.55)	0.14	0.09	4.06	—	皿形	1	○	151					
45・52・63・69・73・74	05 3 区	SD128	16G-6C15・19・20~24, 7B3~5・8・9, 7C1・2	平安~中世	VI a	N・67°・E	—	0.80	—	0.65	0.21	4.03	—	皿形	2	○	151・208	6	28	2	191	
45・52・61・62・70・75	05 3 区	SD157	16G-7B25, 7C10・13~19・21, 7D6・7	平安~中世	VI a	N・62°・E	(17.00)	0.80	(16.90)	0.50	0.20	4.04	—	台形状	2	○	151・208	4	16			
45・52・61・74	05 3 区	SD158	16G-7B19・20, 7C16	平安	VI a	N・73°・E	—	0.40	—	0.30	0.12	4.02	—	箱形	1	○		1	1			
45・52・63	05 3 区	SD166	16G-7C23・24	平安	VI a	N・62°・W	—	0.25	—	0.20	0.06	4.04	—	皿形	1	○						
45・52・68・74	05 3 区	SD261	16G-6B15・19・20, 6C11・16	平安	VI a	N・86°・W	—	1.00	—	0.60	0.22	4.00	—	台形状	2	○	151	3	46	3	264	
45・52・67・68・74	05 3 区	SD277	16G-6B15, 6C8~15	平安~中世	VI a	N・79°・E	(10.00)	1.10	(9.90)	0.70	0.26	3.97	—	台形状	2	○	151・152・203	1	3	1	316	
45・52	05 3 区	SD280	16G-6B5・10		VI	N・77°・E	(1.40)	0.50	(1.20)	(0.25)	—	—	—	—	—	×						
45・52・74	05 3 区	SD297	16G-6C1・2・7	平安	VI a	N・65°・W	—	0.45	—	0.30	0.20	4.00	—	台形状	2	○	152					
45・52・67・74	05 3 区	SD311	16G-6C2・7	平安	VI a	N・4°・W	2.94	1.00	2.57	0.55	0.38	3.82	—	半円形	2	○						
45・52	05 3 区	SD317	16G-6C7・8	平安	VI	N・76°・E	1.05	0.20	0.87	0.87	—	—	—	—	—	○						
45・52	05 3 区	SD318	16G-6C8	平安	VI	N・61°・W	—	0.37	—	0.14	—	—	—	—	—	○						
45・52・69	05 3 区	SD331	16G-6C19・20・24・25	平安	VI a	N・77°・E	(3.00)	0.38	(2.15)	0.19	0.25	3.93	—	半円形	2	○						
45・52・69・74	05 3 区	SD335	16G-6C25, 6D21, 7C4・5・7~9	平安~中世	VI a	N・55°・E	—	0.40	—	0.30	0.23	4.06	—	半円形	2	○	152	1	10			
45・52・68	05 3 区	SD337	16G-6C21・22	平安	VI a	N・67°・E	(1.30)	0.65	(1.10)	0.19	0.19	4.05	—	半円形	1	○		1	1			
45・52・69・74	05 3 区	SD342	16G-6C15・24・25, 6D16・21	平安~中世	VI a	N・63°・E	(4.50)	1.25	(4.25)	1.10	0.15	4.11	—	台形状	2	○	152			1	355	



図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物の 有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸												
45・52・70・74	05 3 区	SD343	16G-7C9・10	平安	VI a	N - 84° - E	(2.10)	0.45	(2.00)	0.45	0.19	4.08	-	半円形	2	○	152					
45・52・68	05 3 区	SD348	16G-6C13・17・18	平安	VI a	N - 70° - E	-	0.70	-	0.25	0.46	3.79	-	台形状	3	○						
45・52・74	05 3 区	SD367	16G-7C6・7	平安	VI a	N - 81° - W	-	0.60	-	0.55	0.10	4.06	-	台形状	1	○						
45・52・75	05 3 区	SD380	16G-7D6・11・12	平安	VI a	N - 4° - E	-	1.25	-	0.90	0.20	4.00	-	台形状	2	○	152	4	88	1	55	
45・52	05 3 区	SD388	16G-6C18・19	平安	VI	N - 36° - W	(1.00)	0.55	(0.80)	0.40	-	-	-	-	-	○	152					
45・52・68・74	05 3 区	SD389	16G-6C17・22	平安	VI a	N - 20° - W	(1.60)	0.65	1.12	0.30	0.45	3.78	-	箱形	2	○		1	1			
45・52・74	05 3 区	SD394	16G-6C1・2		VI a	N - 73° - E	-	0.48	-	0.25	0.05	4.13	-	皿形	1	×						
45・53	05 3 区	SD410	16G-5C18	平安	VI	N - 22° - W	(1.40)	0.65	(1.30)	(0.40)	-	-	-	-	-	○						
45・52・74	05 3 区	SD412	16G-6C17・22		VI a	N - 65° - E	(1.00)	0.30	(0.90)	0.16	0.13	3.91	-	台形状	2	×						
45・52・74	05 3 区	SD424	16G-7C5・10, 7D1・6	平安	VI a	N - 60° - W	-	0.82	-	0.55	0.14	4.08	-	台形状	1	○	153・207					
45・52・74	05 3 区	SD445	16G-7B8・9・13・14	平安	VI a	N - 75° - W	-	0.70	-	0.40	0.22	3.87	-	台形状	-	○	153					
45・52・73	05 3 区	SD446	16G-7A11・12	平安	VI a	N - 18° - W	(1.00)	0.50	(0.80)	(0.35)	0.12	3.85	-	半円形	-	○						
46・54・77	05 3 区	河 1	16G-4D15・18~20・22~25, 4E11・12・16・17・21~23, 5C10・15・20, 5D1~25, 5E1~4・6~25, 5F16・21・22, 6D1~5・7~10・13~15・19・20・25, 6E1~14・16~18・21・22, 6F1・2・6	平安	VI a	N - 30° - W	-	(17.50)	-	(17.40)	1.09	2.09	-	-	9	○	155~167・203・205・206・208・218・247	116	20,612	44	7,147	
45・52・64	05 3 区	Pit64	16G-7A13		VI a	N - 85° - E	0.33	(0.18)	0.14	(0.10)	0.06	3.98	-	皿形	1	×						
45・52・59	05 3 区	Pit88	16G-8B13		VI a	N - 10° - W	0.23	0.23	0.06	0.06	0.11	4.01	-	半円形	-	×						
45・52・65	05 3 区	Pit108	16G-7B7	平安	VI a	N - 0° - S	0.39	(0.31)	0.21	0.11	0.25	3.87	方形	台形状	1	○						
45・52・75	05 3 区	Pit117	16G-7B12	平安	VI a	N - 26° - W	0.55	0.47	0.26	0.20	0.60	3.51	方形	台形状	-	○						
45・52・75	05 3 区	Pit129	16G-7B12・13・17・18	平安	VI a	N - 60° - E	0.51	0.47	0.28	0.17	0.51	3.65	方形	台形状	-	○	246					
45・52・75	05 3 区	Pit134	16G-6B22	平安	VI a	N - 90° - W	0.72	0.57	0.26	0.24	0.48	3.70	不整形	台形状	2	○	153					
45・52・73	05 3 区	Pit160	16G-7C16・17	平安	VI a	N - 0° - S	0.35	0.30	0.20	0.17	0.47	3.73	円形	台形状	-	○						
45・52・61	05 3 区	Pit175	16G-7B20		VI a	N - 46° - W	0.24	0.22	0.12	0.11	0.26	3.83	円形	台形状	2	×						
45・52・62・76	05 3 区	Pit179	16G-7C22		VI a	N - 33° - W	(0.45)	(0.40)	(0.21)	(0.14)	0.57	3.54	円形	台形状	3	×						
45・52・75	05 3 区	Pit195	16G-6B22	平安	VI a	N - 90° - W	(0.62)	(0.50)	(0.35)	(0.30)	0.48	3.70	楕円形	台形状	2	○	246					
45・52・62・67	05 3 区	Pit196	16G-7B25	平安	VI a	N - 45° - W	0.37	0.32	0.12	0.06	0.38	3.61	方形	箱形	2	○				1	12	
45・52・67	05 3 区	Pit197	16G-7B25		VI a	N - 14° - W	0.30	(0.28)	0.23	0.15	0.37	3.72	円形	箱形	2	×						
45・52・75	05 3 区	Pit204	16G-7B6		VI a	N - 77° - E	0.35	0.30	0.20	0.10	0.51	3.59	楕円形	台形状	-	×						
45・52・75	05 3 区	Pit221	16G-7B1・2		VI a	N - 0° - S	0.40	0.37	0.22	0.14	0.76	3.31	方形	台形状	-	○	246					
45・52・63	05 3 区	Pit249	16G-7C24	平安	VI a	N - 54° - W	0.24	0.17	0.11	0.10	0.14	3.95	楕円形	箱形	1	○						
45・52・68・76	05 3 区	Pit255	16G-7C11	平安	VI a	N - 50° - E	0.71	0.52	0.33	0.25	0.35	3.55	楕円形	台形状	2	○	247	1	33			
45・52・70	05 3 区	Pit275	16G-7C19	平安	VI a	N - 71° - W	0.53	0.41	0.23	0.12	0.43	3.76	楕円形	台形状	3	○	153					
45・52・70	05 3 区	Pit312	16G-7C13	平安	VI a	N - 30° - W	0.63	0.51	0.50	0.31	0.22	4.02	楕円形	半円形	1	○						
45・52・53・67	05 3 区	Pit327	16G-6C7・8		VI a	N - 79° - W	0.35	0.22	0.10	0.10	0.28	3.92	楕円形	台形状	1	×						
45・52・53・74	05 3 区	Pit328	16G-6C2	平安	VI a	N - 64° - W	0.47	0.30	0.30	0.13	0.27	3.91	楕円形	台形状	2	○	154					
45・52・67	05 3 区	Pit330	16G-6B20		VI a	N - 48° - W	0.40	0.34	0.20	0.12	0.26	3.93	楕円形	台形状	2	×						
45・52・53・69	05 3 区	Pit353	16G-7C5	平安	VI a	N - 53° - E	0.44	0.35	0.26	0.19	0.34	3.92	楕円形	箱形	1	○	154					
45・52・76	05 3 区	Pit358	16G-7C11		VI a	N - 42° - E	0.41	(0.20)	-	-	0.18	3.85	楕円形	皿形	-	×						
45・52・68・76	05 3 区	Pit359	16G-7C11	平安	VI a	N - 69° - W	0.55	(0.38)	0.31	0.28	0.49	3.45	楕円形	台形状	2	○	247					
45・52・68・76	05 3 区	Pit360	16G-7C11	平安	VI a	N - 58° - E	0.21	0.15	0.07	0.07	0.30	3.80	楕円形	台形状	1	○						
45・52・75	05 3 区	Pit361	16G-6C16		VI a	N - 25° - E	0.35	0.31	0.18	0.16	0.82	3.43	楕円形	台形状	-	○	247					
45・52・66	05 3 区	Pit383	16G-6B25		VI a	N - 33° - E	0.38	0.30	0.30	0.25	0.35	3.56	円形	台形状	-	○	246					
45・52・53・74	05 3 区	Pit391	16G-6C1	平安	VI a	N - 71° - W	(0.25)	0.21	0.15	0.10	0.33	3.80	-	台形状	1	○						
45・52・73	05 3 区	Pit392	16G-7C2		VI a	N - 12° - E	0.34	0.25	0.18	0.13	0.32	3.88	楕円形	半円形	2	×						
45・52・73	05 3 区	Pit393	16G-7C7	平安	VI a	N - 77° - W	0.43	0.40	0.22	0.20	0.48	3.59	円形	台形状	2	○						
45・52・53・70	05 3 区	Pit395	16G-7C9	平安	VI a	N - 82° - E	0.37	0.29	0.15	0.12	0.45	3.79	楕円形	台形状	2	○	154					
45・52・65・75	05 3 区	Pit396	16G-6B24	平安	VI a	N - 17° - E	0.28	0.21	0.14	0.14	0.60	3.57	楕円形	台形状	-	○	247					
45・52・66・76	05 3 区	Pit370	16G-7B10・15	平安	VI a	N - 15° - W	0.81	(0.71)	0.32	0.23	1.05	3.10	楕円形	台形状	-	○	154					
45・52・70	05 3 区	Pit414	16G-7C15・20	平安	VI a	N - 0° - S	(0.40)	(0.35)	0.30	0.45	3.69	楕円形	台形状	-	○	154						
45・52・76	05 3 区	Pit415	16G-7C12	平安	VI a	N - 23° - E	0.53	0.34	0.20	0.18	0.61	3.42	楕円形	台形状	-	○	247					

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物の 有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考	
							上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)		重量 (g)
							長軸	短軸	長軸	短軸												
45・52・56～58・75	05 3 区	Pit427	16G-7A20		VI a	N・88°・E	(0.17)	—	(0.10)	—	0.90	3.15	楕円形	台形状	—	○	246					
45・52・56	05 3 区	Pit428	16G-6B22		VI a	N・10°・E	(0.13)	(0.09)	—	—	0.82	3.29	—	台形状	—	○	245					
45・52・60	05 3 区	Pit429	16G-7B4		VI a	N・49°・E	(0.18)	(0.10)	—	—	0.66	3.50	楕円形	—	—	○	245					
45・52・60	05 3 区	Pit430	16G-7B4		VI a	N・15°・W	(0.20)	(0.11)	—	—	0.66	3.50	楕円形	—	—	○	245					
45・52・62・76	05 3 区	Pit431	16G-7C22		VI a	N・44°・E	(0.12)	(0.09)	—	—	0.90	3.25	楕円形	台形状	—	○	247					
45・52・76	05 3 区	Pit436	16G-7C12	平安	VI a	N・0°・S	0.40	(0.22)	—	—	0.20	3.83	不整形	皿形	—	○						
45・52・66・76	05 3 区	Pit452	16G-7B10	平安	VI a	N・88°・W	0.34	0.29	0.14	0.14	0.43	3.74	楕円形	台形状	—	○		1	12			
45・52・70	05 3 区	Pit531	16G-7C19		VI a	N・43°・W	0.29	0.28	0.15	0.12	0.41	3.79	円形	台形状	—	×						
45・52・75	05 3 区	Pit642	16G-6C16		VI a	N・25°・E	0.44	0.33	0.28	0.12	0.44	3.82	楕円形	台形状	—	×						
45・52・67	05 3 区	Pit683	16G-6B20		VI a	N・18°・E	0.19	0.15	0.14	0.12	0.04	4.19	楕円形	皿形	1	×						
45・52・73	05 3 区	Pit696	16G-8B21		VI a	—	—	—	—	—	0.21	3.88	—	台形状	2	×						
19・23	05 4 区 下層	SX82	15J-5C25, 5D21, 6C5, 6D1・2・6	古墳	VI a・b	N・39°・W	(1.75)	(1.00)	(1.65)	(0.96)	0.41	3.34	—	—	2	○	122・180					
19・23	05 4 区 下層	SD83	15J-6C10		VI b	N・28°・W	(1.30)	0.75	(1.25)	(0.55)	0.15	3.75	—	台形状	1	×						
19・23	05 4 区 下層	SD84	15J-6D1	古墳	VI a・b	N・46°・E	(0.75)	0.40	(0.50)	0.20	0.30	3.12	—	台形状	2	○						
8・17・24	05 4 区 上層	SE44	15I-8J17・18・22・23	古墳～平安	VI a	N・20°・W	2.15	(1.82)	0.62	(0.52)	1.02	2.90	楕円形	台形状	9	○	180					
8・18・24	05 4 区 上層	SK1	15J-5C24・25, 6C4・5	古墳～平安	V b	N・48°・E	2.55	(1.06)	1.10	(0.68)	0.20	3.50	不整形	皿形	2	○	180					
8・18・19・24	05 4 区 上層	SK9	15J-6C3・8	古墳～平安	VI a	N・3°・E	1.57	1.37	1.30	1.00	0.21	3.57	不整形	皿形	1	○		1	14			
8・16・25	05 4 区 上層	SK39	16I-4C6・7・11・12	平安	VI a	N・11°・E	(3.05)	1.40	(2.60)	1.16	0.13	3.54	—	皿形	2	○						
8・16・24	05 4 区 上層	SK41	16I-2E21・22		VI a	N・56°・E	1.02	0.94	0.81	0.89	0.09	3.48	円形	皿形	1	×						
8・16・24	05 4 区 上層	SK42	16I-2D25, 2E21, 3D5, 3E1	平安	VI a	N・83°・E	2.00	—	1.35	—	0.23	3.36	不整形	台形状	3	×						
8・16・24	05 4 区 上層	SK43	16I-2E21, 3E1		VI a	N・41°・E	0.60	0.50	0.42	0.30	0.08	3.47	不整形	皿形	—	×						
8・18・23	05 4 区 上層	SX3	15J-5D21, 6D1・2・6	古墳～平安	VI a・b	N・77°・W	(1.90)	(1.65)	(1.85)	(1.35)	0.28	3.42	—	—	2	○	122・180	1	1	5	42	
8・17・25	05 4 区 上層	SX12	15I-9I10・15, 9J1・2・6・7・11	古墳～平安～中世	VI a	N・23°・E	4.05	2.45	3.45	1.85	0.23	3.48	—	台形状	3	○		3	17	7	63	
8・16・25	05 4 区 上層	SX46	16I-4B24・25, 5B4・5	平安	VI a	N・62°・E	(1.30)	1.06	(1.25)	0.96	0.04	3.62	不整形	皿形	1	○						
8・17・18・23・25	05 4 区 上層	SD2	15J-6B19・20・24・25, 6C6～8・11～19・21・22, 7C1	古墳～平安～中世	III	N・75°・W	—	3.75	—	3.65	0.32	3.70	—	台形状	3	○	122・180	8	76	1	85	
8・17・18・25	05 4 区 上層	SD5	15J-6B15・20・25, 7B4・5・9・10	古墳～平安	V b	N・15°・E	—	1.10	—	0.20	0.35	3.54	—	台形状	3	○						
8・17・18・25	05 4 区 上層	SD6	15J-6B24, 7B4・9・14	古墳～平安	VI a	N・9°・E	—	0.90	(4.80)	0.15	0.16	3.74	—	半円形	2	○						
8・17・26	05 4 区 上層	SD7	15J-7A18～20・22～25, 7B1	古墳～平安～中世	V b	N・75°・W	—	1.15	—	0.60	0.39	3.49	—	台形状	5	○	122・180・204					
8・17・26	05 4 区 上層	SD8	15J-7A21・22, 8A1～4	古墳～平安	V a	N・79°・W	—	0.80	—	0.25	0.30	3.62	—	半円形	3	○		1	4			
8・17・26	05 4 区 上層	SD10	15I-8J12・17～20・24・25	古墳～平安	V a	N・71°・W	—	1.40	—	1.15	0.22	3.68	—	台形状	5	○	180	8	158	1	60	
8・17・24・26	05 4 区 上層	SD11	15I-8J17・18・22～24	古墳～平安	VI a・b	N・71°・W	(5.20)	0.65	(5.00)	0.45	0.11	3.75	—	半円形	1	○		4	1,706	1	46	
8・17・26	05 4 区 上層	SD13	15I-9I12～15・20	古墳～平安～中世	VI a	N・69°・W	(5.90)	0.50	(5.80)	0.30	0.32	3.68	—	台形状	3	○	180・204	14	59	1	25	
8・17・26	05 4 区 上層	SD15	15I-10H6～8・11～14	平安	VI a	N・65°・W	(4.15)	1.00	(4.00)	0.90	0.38	3.46	—	台形状	2	○						
8・17・18・27	05 4 区 上層	SD25	16I-1F10・14・15・20, 1G6・11・12・16・17		VI a	N・41°・W	—	2.75	—	2.15	0.32	2.70	—	台形状	3	×						
8・17・26	05 4 区 上層	SD26	15I-10G15・19・20		V a	—	—	(3.35)	—	(1.80)	0.18	3.57	—	台形状	2	×						
8・16・27	05 4 区 上層	SD38	16I-3C19・20・24・25, 4C3・4・8・9・13・14・17・18	平安	VI a	N・18°・E	—	2.45	—	2.30	0.20	3.48	—	皿形	2	○						
8・16・27	05 4 区 上層	SD40	16I-4B18・22～24, 5B2～4・8・9・13	古墳～平安	VI a	N・22°・W	—	3.10	—	1.00	0.40	3.22	—	台形状	2	○	180	1	5			
8・16・25・27	05 4 区 上層	SD45	16I-4B15・20・25, 4C11・16, 5B4・5	古墳～平安	VI a	N・24°・E	(8.30)	0.55	(7.90)	0.35	0.08	3.60	—	皿形	1	○						
8・16・27	05 4 区 上層	SD73	16I-5A17		VI a・b	—	—	(0.30)	—	(0.20)	0.08	3.67	—	皿形	1	×						
8・17・26	05 4 区 上層	Pit14	15I-9I14		VI a	N・65°・W	0.30	(0.20)	0.12	(0.10)	0.16	3.87	楕円形	半円形	2	×						
8・17・26	05 4 区 上層	Pit37	15I-9H23, 10H3		V b	N・46°・W	(0.30)	0.30	(0.25)	0.20	0.27	3.78	—	箱形	1	×						
8・17・26	05 4 区 上層	Pit85	15J-7A22		V a	—	—	—	—	—	0.11	3.93	—	台形状	1	×						
8・17・26	05 4 区 上層	Pit86	15I-10H3		V b	—	—	—	—	—	0.11	3.94	—	台形状	1	×						



別表 2 沖ノ羽遺跡第 19 次調査遺構計測表

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面座標 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸												
79・83・88	06 1 区	SE30	17G-6B4	平安	VI a	N・83°・W	1.30	1.24	0.70	0.70	1.02	2.98	凹形	台形状	3	○				1	12	
79・83・88	06 1 区	SE34	17G-6B9・10	平安	VI a	N・85°・W	2.00	—	1.16	—	1.02	2.98	楕円形	半円形	4	○	182					
79・82・83・89	06 1 区	SE36	17G-5B24		VI a	N・74°・E	1.14	1.04	0.80	0.60	0.90	3.10	凹形	台形状	7	×						
79・82・83・89	06 1 区	SE42	17G-5B4	平安	VI a	N・49°・W	1.12	0.98	0.64	0.56	0.98	3.00	凹形	台形状	3	○						
79・82・83・90	06 1 区	SE67	17G-5B20・25	平安	VI a	N・32°・W	1.14	1.04	0.72	0.66	0.88	3.14	凹形	箱形	6	○				1	2080	
79・82・83・89	06 1 区	SE71	17G-5C16・17	平安	VI a	N・35°・E	1.10	1.00	0.56	0.44	0.70	3.28	凹形	台形状	3	○						
79・82・83・89	06 1 区	SE74	17G-5C11・16	平安	VI a	N・56°・W	2.06	1.96	1.04	0.92	0.48	3.52	凹形	箱形	14	○	182・248~261			4	101	
79・86・90	06 1 区	SE111	17G-1B4・5	平安	VI a	N・40°・W	1.16	—	0.60	0.50	0.34	3.10	凹形	皿形	3	○		1	58			
79・86・92	06 1 区	SE113	16G-10B25		VI a	N・37°・W	2.10	—	0.70	—	0.70	3.02	不整形	台形状	1	×						
79・82・83・90	06 1 区	SK14	17G-5A15		VI a	N・87°・W	1.00	0.90	0.80	0.68	0.10	3.86	楕円形	皿形	1	×						
79・82・83・90	06 1 区	SK15	17G-5A10	平安	VI a	N・18°・W	1.76	1.26	1.50	1.04	0.12	3.86	不整形	皿形	2	○						
79・83・90	06 1 区	SK32	17G-6B4	平安	VI a	N・28°・W	0.50	0.46	0.40	0.30	0.24	3.74	凹形	台形状	2	○						
79・83・90	06 1 区	SK39	17G-6B5, 6C1	平安	VI a	N・39°・W	0.64	0.50	0.20	0.18	0.56	3.44	凹形	台形状	3	○						
79・83・90	06 1 区	SK40	17G-6C6	平安	VI a	N・18°・W	0.60	0.34	0.14	0.14	0.36	3.60	楕円形	台形状	3	○						
79・83・90	06 1 区	SK72	17G-5C16・17・21・22		VI a	N・78°・E	0.90	0.70	0.72	0.50	0.12	3.86	楕円形	皿形	1	×						
79・83・91	06 1 区	SK73	17G-6C6	平安~中世	VI a	N・54°・E	0.90	0.70	0.70	0.50	0.30	3.70	凹形	皿形	2	○	204					
79・86・91	06 1 区	SK97	17G-1B5, 1C1		VI a	N・43°・W	—	0.44	—	—	0.14	3.76	不整形	皿形	1	×						
79・87・91	06 1 区	SK108	16G-9A2・3・7	平安	VI a	N・42°・W	1.20	—	1.02	—	0.12	3.86	凹形	台形状	2	○	182	2	16	1	54	
79・87・91	06 1 区	SK109	16G-9A2・3	平安	VI b	N・41°・W	1.30	—	0.80	—	0.30	3.74	不整形	皿形	4	○	182・207	1	22	1	243	
79・87・91	06 1 区	SK110	16G-9A2	平安	VI a	N・49°・E	0.82	0.62	0.54	0.52	0.10	3.80	楕円形	台形状	2	○	182	5	32	1	15	
79・87・91	06 1 区	SK114	16G-9A7	平安	VI b	N・41°・W	0.64	—	0.50	—	0.20	3.78	楕円形	皿形	3	○						
79・83・91	06 1 区	SK38	17G-5B25, 6B5	平安~中世	VI a	N・28°・W	1.54	0.80	1.04	0.50	0.16	3.84	不整形	皿形	2	○						
79・83・84・93	06 1 区	SK77	17G-5C6・7・13・18・19	平安	VI a	N・36°・W	—	—	—	—	0.12	3.78	不整形	台形状	1	○	182					
79・82・83・91	06 1 区	SD37	17G-5B24・25		VI a	N・67°・E	—	0.20	—	0.10	0.12	3.90	—	箱形	2	×						
79・82・83・91	06 1 区	SD49	17G-5B10, 5C6	平安	VI a	N・68°・E	1.30	0.50	1.10	0.40	0.16	3.86	—	皿形	2	○						
79・82・83・93	06 1 区	SD50	17G-5C1・2・6・7・12・13・18・19・24	平安	VI a	N・38°・W	—	0.50	—	0.20	0.10	3.84	—	皿形	1	○						
79・84・91	06 1 区	SD62	17G-4D13~15・18~20・24・25, 4E21, 5D5, 5E1	近世以降	VI a	N・47°・W	—	2.00	—	1.00	0.28	3.46	—	皿形	3	○		108	2389	1	41	
79・83・93	06 1 区	SD64	17G-4C16・21・22, 5C2・3・8・9・13~15・19・20	平安~中世	VI a	N・38°・W	—	0.80	—	0.40	0.36	3.76	—	台形状	1	○	182					
79・85	06 1 区	SD93	17G-5F12・13		VI	N・54°・E	—	—	—	—	—	—	—	—	×							
79・85・86・91	06 1 区	SD94	17G-3D20	平安	VI b	N・53°・E	—	0.90	—	0.60	0.22	3.80	—	台形状	2	○						
79・86・91	06 1 区	SD95	17G-3D9・14	平安	VI b	N・52°・E	—	0.70	—	0.50	0.24	3.86	—	皿形	2	○						
79・86・92	06 1 区	SD99	16G-10B25	平安	VI a	—	—	—	—	0.30	3.70	—	皿形	4	○	182	2	18				
79・86・92	06 1 区	SD100	16G-10B18・19	平安	VI b	N・52°・E	—	0.90	—	0.20	0.40	3.40	—	半円形	2	○						
79・86・92	06 1 区	SD101	16G-10B13・18		VI a	N・53°・E	—	1.10	—	0.60	0.24	3.68	—	皿形	1	×						
79・86・92	06 1 区	SD102	16G-10B12・13・18	平安~中世	VI a	N・52°・E	—	1.00	—	0.80	0.20	3.76	—	皿形	2	○	204					
79・86・92	06 1 区	SD103	16G-9B21, 10B1・2・6・7・18	近世以降	VI a	N・5°・E	—	2.00	—	1.20	0.32	3.50	—	皿形	3	○	183	1	38			
79・87・92	06 1 区	SD105	16G-9A20・24・25	平安	VI a	N・52°・E	—	0.80	—	0.60	0.20	3.80	—	皿形	2	○	183					
79・87・92	06 1 区	SD107	16G-9A13・14	平安	VI b	N・49°・E	—	1.10	—	1.00	0.26	3.70	—	皿形	2	○	183	1	29			
79・87・92	06 1 区	SD112	16G-9A8	平安	VI a	N・88°・W	—	0.70	—	0.10	0.12	3.90	—	皿形	1	○						
79・87・92	06 1 区	Pit117	16G-9A24	平安	VI b	N・53°・E	0.30	—	0.20	—	0.26	3.74	—	台形状	2	○						
79・81・93	06 1 区	河 1	17F-4J25, 5J3~5・7~15, 17G-4A16・17・21・22, 5A1・2・6・7	平安	VI a	N・73°・E N・41°・W	—	—	—	—	0.26	3.64	—	—	2	○						
79・82・83・84・93	06 1 区	河 2	17G-3B21・22・23, 4A5・9・10・15, 4B1~4・6~9・11~15・17~20・23~25, 5B5, 5C1~5・8~10・14・15・20, 5D6・11・16・17	平安~中世	VI a	N・48°・W	—	—	—	—	0.60	3.30	—	—	4	○	183・204・206・218	24	667	4	138	
79・84・85	06 1 区	河 56	17G-4C25, 4D5・8~10・12~25, 4E1・2・6~8・11~14・16~19・21~23, 5D1~5・7~10・13・14・18, 5E1・2・6	平安~中世	VI	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○		2	19			



図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物 の有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸												
94・97・98・103	06 2区	SE58	16F-811	平安	VI	N-69°-E	1.63	1.42	0.82	0.68	1.90	1.72	円形	台形状	13	○	185・262~270					
94・97・103	06 2区	SK5	16F-718	平安	VI b	N-50°-W	-	0.52	-	0.26	0.20	3.73	-	皿形	2	○						
94・97・103	06 2区	SK8	16F-8J6	平安	VI b	N-10°-W	1.00	0.70	0.53	0.27	0.19	3.58	楕円形	皿形	2	○						
94・97・103	06 2区	SK9	16F-8I10	平安	VI b	N-36°-W	0.70	0.68	0.51	0.35	0.18	3.65	円形	皿形	2	○						
94・97・104	06 2区	SK12	16F-8I3・7・8	中世以降	VI	N-10°-E	2.62	-	2.33	-	0.26	3.60	楕円形	-	1	○	185	1	4			
94・97・104	06 2区	SK14	16F-7I19・20	中世	VI b	N-80°-W	1.81	1.53	1.55	1.25	0.17	3.74	楕円形	皿形	2	○	185					
94・97・104	06 2区	SK15	16F-7I18・19・23・24	中世以降	VI b	N-35°-W	2.02	1.41	1.80	1.22	0.15	3.75	楕円形	皿形	2	○						
94・97・104	06 2区	SK16	16F-7I14	中世以降	VI	N-38°-W	0.72	0.70	0.55	0.48	0.18	3.73	円形	皿形	2	○						
94・97・104	06 2区	SK17	16F-7I14	中世以降	VI	N-55°-E	0.80	0.55	0.68	0.49	0.18	3.72	楕円形	皿形	2	○	185					
94・97・105	06 2区	SK18	16F-7I14・19	中世以降	VI	N-32°-W	0.93	0.70	0.58	0.39	0.32	3.58	楕円形	台形状	1	○						
94・97・105	06 2区	SK19	16F-7I15・20	平安	VI	N-26°-W	0.86	0.75	0.65	0.55	0.10	3.83	円形	皿形	1	○						
94・99・100・105	06 2区	SK43	16F-9F15		VI	N-75°-W	0.78	0.78	0.54	0.49	0.24	3.42	円形	台形状	2	×						
94・100・105	06 2区	SK46	16F-9E10・15, 9F6・11		VI	N-35°-W	0.76	0.70	0.58	0.45	0.27	3.28	円形	台形状	2	×						
94・101・105	06 2区	SK47	17F-1H22, 2H2	平安	VI b	N-28°-W	1.08	1.02	0.94	0.70	0.10	3.77	円形	皿形	2	○						
94・96・105	06 2区	SK54	16F-6I11・12	平安	VI	N-85°-W	0.78	0.66	0.59	0.50	0.08	3.83	円形	皿形	1	○						
94・96・97	06 2区	SK64	16F-6I18・22・23		VI	N-0°-S	1.03	1.03	0.90	0.80	-	-	円形	-	-	×						
94・96・97・107	06 2区	SK72	16F-6I22, 7I2・3	平安	VI a	N-22°-W	-	2.10	-	1.70	0.14	3.76	-	-	2	○		1	1			
94・97・107	06 2区	SK82	16F-6I23・24		VI a	N-75°-E	0.80	0.75	0.28	0.25	0.08	3.80	-	皿形	1	×						
94・97	06 2区	SK83	16F-7I4・5・9・10	平安	VI	N-0°-S	1.78	1.20	1.48	0.90	-	-	楕円形	-	-	○		1	2			
94・97・105	06 2区	SK87	16F-7I10・15	中世以降	VI b	N-75°-E	1.00	0.69	0.78	0.47	0.29	3.67	楕円形	皿形	2	○						
94・97・105	06 2区	SK88	16F-7I15	中世以降	VI b	N-73°-E	0.94	-	0.70	-	0.28	3.67	楕円形	-	3	○	207	1	21			
94・97・105	06 2区	SK89	16F-7I10, 7J6		VI a	N-40°-W	-	0.70	-	0.34	0.20	3.82	-	半円形	1	×						
94・96・107	06 2区	SK95	16F-6H14・15・19・20・25, 6I16・21	平安~中世	VI b	N-35°-W	5.15	-	4.92	-	0.22	3.60	-	-	1	○	185	13	68	17	587	
94・97・104	06 2区	SK96	16F-8I4・5・9・10	中世	VI	N-0°-S	1.52	1.02	0.98	0.48	0.25	3.65	楕円形	皿形	1	○						
94・97・105	06 2区	SK97	16F-8I9	平安	VI	N-0°-S	0.62	0.34	0.50	0.19	0.37	3.12	楕円形	台形状	2	○	185					
94・98・106	06 2区	SK98	16F-8I13~15・18・19	平安	VI	N-45°-E	3.15	2.10	1.56	0.63	0.49	3.10	不整形	台形状	3	○	185・186・219	2	28			
94・97・106	06 2区	SK99	16F-8I3・4		VI b	N-33°-W	0.96	0.80	0.77	0.65	0.13	3.22	楕円形	台形状	1	×						
94・99・106	06 2区	SK131	16F-10G9		VI	N-29°-E	0.66	0.40	0.37	0.28	-	3.53	楕円形	台形状	-	×						
94・99・106	06 2区	SK140	16F-9G13・14		VI	N-32°-E	0.98	0.68	0.80	0.58	-	3.50	楕円形	台形状	-	×						
94・101・106	06 2区	SK168	17F-1H16		VI	N-28°-E	0.83	0.82	0.62	0.31	0.15	3.67	方形	台形状	1	×						
94・97・103・107	06 2区	SX4	17F-6I22~24, 7I3・4・8・9	平安	VI a	N-32°-W	5.95	-	3.55	3.18	0.13	3.85	不整形	-	1	○	186	2	51			
94・101・106	06 2区	SX49	16F-1H13・17~19・23・24, 2H3・4		VI b	N-17°-W	-	3.28	-	2.99	0.14	3.77	-	-	2	×						
94・98・99・110・111	06 2区	SX109	16F-8G2・3・6~9・13~15・20・25, 8H16・21・22, 9G5, 9H1・2・6~8	平安	VI	N-40°-W	-	2.48	-	0.52	0.45	3.28	不整形	-	4	○	186	1	3			
94・101・107	06 2区	SX118	17F-1H3・4		VI	N-85°-E	2.20	0.85	1.83	0.54	0.35	3.48	長方形	箱形	1	×						
94・102・107	06 2区	SX162	17F-2G1・2・6~8・12・13	平安	VI b	N-30°-W	5.82	2.70	5.50	2.40	0.39	3.30	不整形	台形状	3	○	186					
94・96・97・103・104・107	06 2区	SD1	16F-6I1・6・11・16・17・21・22, 7I2・3・7・8・13・14・19・20・24・25, 8I4・5	中世以降	VI a	N-23°-W	-	0.50	-	0.26	0.25	3.73	-	半円形	3	○	186	3	21			
94・96・97・104・107	06 2区	SD6	16F-5H2・7・8・12・13・18・19・24・25, 6H3~5・8~10・14・15・19・20・25, 7H5・10, 6I6・11・16・21, 7I1・2・6・7・11~13・16~18・22~24, 8I2~4・7~10・13~15・18・19・23・24	平安~中世	VI	N-23°-W	-	3.30	-	-	0.50	3.07	-	-	8	○	187~189・204・207・219・220	90	4605	39	5381	
94・97・104・107	06 2区	SD13	16F-6H4・5・9・10・15・20, 6I11・16・21, 7I1・2・6・7・11~13・17・18・23, 8I3・4・8・9・13・14・19	中世	VI	N-23°-W	-	1.70	-	0.45	0.56	3.29	-	-	4	○	189・204・220	12	1002	8	1216	
94・98・99・101・108・110	06 2区	SD20	16F-9G8・9・13~15・20, 9H16・17・22・23, 10H3・4・8~10・14・15・20, 10I11・16・21・22, 17F-1I2・3・8	平安	VI	N-39°-W	-	0.80	-	0.32	0.34	3.60	-	半円形	4	○	186					
94・101・102・108・109	06 2区	SD35	17F-1F7~10, 1G6~10, 1H6~10・12~15, 1I6・11・12	平安	VI	N-87°-W	-	0.98	-	0.60	0.33	3.53	-	半円形	3	○				1	127	

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物 の有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考	
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)		
							長軸	短軸	長軸	短軸													
94・101・102・108・109	06 2 区	SD36	17F-1F8~10, 1G6・7・12~15, 1H11~15, 1I11・12	平安	VI	N・87°・W	-	0.70	-	0.50	0.27	3.60	-	台形状	3	○							
94・99・110	06 2 区	SD42	16F-9F8~10・15, 9G6~8	平安	VI	N・86°・E	-	1.03	-	0.51	0.10	3.51	-	皿形	1	○							
94・100・105・109	06 2 区	SD44	16F-9F11~16・21, 10F1・6・11・16・21	平安	VI	N・90°・E N・0°・S	-	0.80	-	0.60	0.16	3.44	-	皿形	2	○							
94・99・102・109	06 2 区	SD48	16F-9F15・20・25, 9G11・16・17・21・22, 10G1・2・6~8・11~13・17・18・22・23, 17F-1F25, 1G2・3・7・8・12・13・17~19・21・22~24, 2F5, 2G1~3	平安	VI	N・6°・W N・82°・E	-	2.06	-	0.45	0.42	3.22	-	台形状	3	○							
94・102・108・109	06 2 区	SD50	17F-1F13~15, 1G11・12		VI	N・87°・W	-	0.28	-	0.15	0.10	3.48	-	箱形	1	×		1	7				
94・102・108	06 2 区	SD51	17F-1F2~5・7~10		VI	N・87°・W	-	0.61	-	0.33	0.22	3.35	-	台形状	3	×							
94・102・108・109	06 2 区	SD52	16F-10G25, 10H21, 17F-1F2~5, 1G1~5, 1H1	平安	VI	N・90°・E	-	0.53	-	0.35	0.08	3.54	-	皿形	1	○							
94・96・108	06 2 区	SD55	16F-6I6・7	平安	VI a	N・90°・E	-	0.50	-	0.40	0.14	3.80	-	皿形	1	○	190						
94・96・107	06 2 区	SD56	16F-6H3・8・9・14・19・24・25, 7H1・2・9・10	平安	VI b	N・25°・W	-	0.60	-	0.15	0.10	3.52	-	皿形	1	○	190	1	13				
94・99・100・110	06 2 区	SD59	16F-8F18・23~25, 8G21, 9F5, 9G1~3・7~10・14・15, 9H11・12・16~18・22・23	近世以降	VI a	N・60°・W	-	1.50	-	0.83	0.35	3.30	-	箱形	3	○	220	116	2039				
94・97・108	06 2 区	SD65	16F-6I18	平安	VI b	N・30°・E	-	0.90	-	0.54	0.34	3.88	-	台形状	3	○							
94・98・111	06 2 区	SD74	16F-7I16, 7H19・20・23~25, 8H2~4・7	平安	VI b	N・50°・E	-	0.70	-	0.33	0.06	3.52	-	皿形	1	○		1	4				
94・98・111	06 2 区	SD75	16F-7H14・15・18~20・22~24, 8H1・2	平安	VI b	N・50°・E	-	1.24	-	0.80	0.09	3.50	-	皿形	1	○	190	1	3				
94・96・98・111	06 2 区	SD76	16F-7H7・11・12・17・21・22, 8H1	平安	VI a	N・37°・W N・45°・E	-	1.70	-	1.35	0.20	3.44	-	皿形	1	○				1	48		
94・96・98	06 2 区	SD77	16F-7H14・15		VI	N・53°・E	-	0.60	-	0.20	-	-	-	-	-	×							
94・98・111	06 2 区	SD78	16F-7H23, 8H2・3	平安	VI b	N・47°・E	2.10	0.72	1.55	0.37	0.17	3.46	-	皿形	1	○							
94・98・99・110・111	06 2 区	SD79	16F-7G23・24, 8G3~5・9・10・15, 8H6・11・12・16・17・22・23, 9H3・4・8~10・14・15	平安~中世	VI	N・40°・W	-	2.45	-	2.23	0.10	3.55	-	皿形	1	○	190・204	6	200	3	373		
94・96・111	06 2 区	SD90	16F-6I11~13	平安	VI b	N・90°・E	-	0.98	-	0.78	0.25	3.94	-	皿形	2	○							
94・97・98・111	06 2 区	SD92	16F-7I16・17・21・22, 8I1・2・6・7・11・12・17・22・23, 9I2・3	平安	VI b	N・8°・W	-	2.20	-	-	0.26	3.54	-	皿形	1	○	190	1	1	2	81		
94・100・111	06 2 区	SD93	16F-9E16・17・22・23, 10E3		VI b	N・10°・W	-	1.20	-	0.40	0.24	3.25	-	皿形	2	×							
94・98・111	06 2 区	SD94	16F-7G19・20・24・25, 8G5・10, 8H1・6・7・11~13・17・18・23・24, 9H3~5・9・10, 9I6	平安	VI	N・40°・W	-	1.80	-	0.37	0.86	2.83	-	-	4	○	190~192・220	6	42	3	1674		
94・98・111	06 2 区	SD101	16F-7H20・24・25, 7I16・21, 8H3~5・7・8	平安	VI	N・50°・E	-	0.75	-	0.43	-	-	-	-	-	○							
94・98・110	06 2 区	SD107	16F-9G10・15, 9H6~8・11~14	平安	VI a	N・90°・E	-	1.40	-	0.55	0.42	3.32	-	-	3	○	193・22						
94・98・99・110	06 2 区	SD108	16F-8F15・19・20・24・25, 8G6~8・11~14・16~19・21~25, 9G2~4・8~10, 9H1・6・7	平安	VI a	N・54°・W	-	5.45	-	5.27	0.25	3.46	-	-	1	○		1	23				
94・98・110	06 2 区	SD120	16F-9H11・12・17・18		VI a	N・60°・W	-	-	-	-	0.26	3.58	-	-	1	×							
94・102・109	06 2 区	SD122	16F-10G24・25, 17F-1G1~5	平安	VI	N・84°・E	-	0.74	-	0.57	0.10	3.53	-	皿形	1	○							
94・101・111	06 2 区	SD129	16F-10H25	平安	VI	N・5°・E	1.46	0.30	1.15	0.17	0.15	3.72	-	半円形	2	○	193						
94・100・111	06 2 区	SD134	16F-10E10・15, 10F1~4・6・7		VI	N・83°・E N・0°・S	-	0.50	-	0.33	-	3.40	-	皿形	-	×							
94・99・100・111	06 2 区	SD135	16F-9F24・25, 9G21, 10E5, 10F1~4		VI	N・85°・E	-	0.42	-	0.30	-	3.40	-	皿形	-	×							
94・100・111	06 2 区	SD136	16F-10F4・9・10・14・15・19・20		VI	N・0°・S	4.80	1.05	4.55	0.82	-	3.51	-	皿形	-	×							
94・100・111	06 2 区	SD137	16F-10E20, 10F11~14・16		VI	N・77°・E	-	1.10	-	0.89	-	3.40	-	半円形	-	×							
94・100・102・111	06 2 区	SD138	16F-10F19・20・23~25, 17F-1F2・3		VI	N・70°・E	-	0.45	-	0.30	-	3.50	-	皿形	-	×							
94・101・111	06 2 区	SD160	17F-1H21, 2H1・2・6・7	平安	VI	N・18°・W	-	0.68	-	0.30	0.20	3.62	-	半円形	2	○	193						
94・98・110	06 2 区	SD167	16F-9H19		VI a	-	-	-	-	-	0.18	3.62	-	-	1	×							
94・97・103	06 2 区	Pir7	16F-8J2		VI b	N・31°・W	0.30	0.28	0.16	0.14	0.14	3.64	-	円形	U 字状	2	×						
94・101・108	06 2 区	Pir21	16F-10I21		VI	N・43°・W	0.50	0.30	0.30	0.20	0.06	3.84	-	楕円形	皿形	1	×						
94・101・108	06 2 区	Pir34	17F-1I6		VI	N・87°・E	0.20	-	0.10	0.05	0.08	3.82	-	円形	台形状	1	×						
94・100・109	06 2 区	Pir45	16F-9F11		VI	N・88°・E	0.30	0.20	0.20	0.20	0.04	3.56	-	円形	皿形	1	×						

図版 No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)					底面 座標 (m)	形態		覆土	遺物 の有無	遺物図版頁	礫		焼礫		備考
							上端		下端		深度		平面	断面				点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	
							長軸	短軸	長軸	短軸												
94・96・97・111	06 2 区	Pit60	16F-6I21	平安	VI	N - 85° - E	0.30	0.20	0.10	0.10	-	3.36	円形	台形状	-	○						
94・96・97・111	06 2 区	Pit61	16F-6I21, 7H1	平安	VI	N - 88° - E	0.20	0.10	0.10	0.10	-	3.50	円形	U字状	-	○						
94・96・97・111	06 2 区	Pit62	16F-7H1	平安	VI	N - 88° - E	0.20	0.10	0.10	0.06	-	3.58	円形	U字状	-	○						
94・96・107	06 2 区	Pit67	16F-6I6	平安	VI b	N - 87° - E	0.30	0.20	0.10	0.03	0.10	3.76	円形	皿形	1	○						
94・97・105	06 2 区	Pit85	16F-7I10		VI b	N - 74° - E	0.42	0.40	0.32	0.30	0.08	3.88	円形	皿形	1	×						
94・98・106	06 2 区	Pit100	16F-8H14・15		VI	N - 50° - E	0.36	0.32	0.18	0.16	0.20	3.36	円形	台形状	1	×						
94・99・110	06 2 区	Pit110	16F-9J7		VI	N - 58° - W	0.70	0.30	0.50	0.20	0.22	3.46	楕円形	台形状	1	×						
94・100・109	06 2 区	Pit111	16F-9F11		VI	N - 90° - E	0.60	0.50	0.40	0.30	0.10	3.48	円形	皿形	1	×						
113・115・116	06 3 区	SK10	17F-6G1・2	平安	Vb	N - 85° - W	-	0.70	-	0.40	0.14	3.70	円形	皿形	1	○	195・207					
113・114・116	06 3 区	SD1	17G-6E23~25	平安	VI	N - 25° - E	-	2.30	-	1.90	0.22	3.48	-	皿形	3	○	195					
113・114・116	06 3 区	SD2	17G-6D19・20・24・25	平安	VI	N - 30° - W	-	1.00	-	0.20	0.50	3.28	-	皿形	5	○						
113・114・116	06 3 区	SD3	17G-6C14・19・20		Va2	N - 38° - E	-	0.70	-	0.50	0.24	3.64	-	台形状	2	×						
113・114・116	06 3 区	SD4	17G-6C13・14・18・19		VI	N - 45° - E	-	0.60	-	0.30	0.10	3.66	-	皿形	1	×						
113・115・116	06 3 区	SD5	17F-6I2・7		Va2	N - 28° - W	-	0.50	-	0.30	0.24	3.62	-	皿形	1	×						
113・115・116	06 3 区	SD6	17F-6H4		VI	N - 34° - E	-	0.30	-	0.20	0.08	3.64	-	皿形	1	×						
113・115・116	06 3 区	SD7	17F-5G22, 6G1・2	平安	VI	N - 40° - E	-	0.40	-	0.20	0.10	3.60	-	皿形	1	○	195					
113・115・116	06 3 区	SD8	17F-5F25, 5G21, 6F5, 6G1	平安	VI	N - 45° - E	-	0.40	-	0.30	0.08	3.60	-	皿形	1	○	195					
113・115	06 3 区	SD9	17F-5F25, 5G21, 6F5	平安	VI	N - 45° - E	-	0.40	-	0.30	-	-	-	-	-	○						
117・118・120	06 4 区	SE14	15F-6A6・7・11・12	平安	VI a	N - 50° - E	-	0.80	-	-	1.06	2.60	-	台形状	3	○						
117・118・120	06 4 区	SD1	15F-6A24・25, 7A4・5		VI	N - 54° - E	-	0.90	-	0.70	0.14	3.66	-	皿形	1	×						
117・118・120	06 4 区	SD2	15F-7A4・5	平安	VI a	N - 80° - E	-	0.40	-	0.30	0.06	3.70	-	皿形	1	○	196					
117・118・120	06 4 区	SD3	15F-7A10, 7B6		VI	N - 70° - E	-	1.10	-	0.30	0.20	3.30	-	皿形	1	×						
117・118・120	06 4 区	SD4	15F-8B3・4	平安	VI	N - 79° - E	-	0.60	-	0.30	0.22	3.34	-	皿形	1	○	196					
117・118・120	06 4 区	SD5	15F-8B9・10		VI	N - 78° - E	-	0.60	-	0.40	0.10	3.36	-	皿形	1	×						
117・119・120	06 4 区	SD6	16F-1E6・7		VI	N - 50° - E	-	0.50	-	0.40	0.06	3.60	-	皿形	1	×						
117・119・120	06 4 区	SD7	16F-1E7・12・17		VI	N - 13° - W	-	0.40	-	0.20	0.04	3.52	-	皿形	1	×						
117・119・120	06 4 区	SD8	16F-2F16・17・22・23	平安	VI	N - 81° - E	-	1.50	-	1.10	0.16	3.48	-	皿形	1	○	196					
117・119・120	06 4 区	SD9	16F-2F23, 3F3・4	平安	VI	N - 73° - E	-	1.10	-	0.90	0.20	3.36	-	皿形	2	○						
117・119・120	06 4 区	SD10	16F-3G2, 4G2・3	平安	V a	N - 80° - E	-	1.00	-	0.80	0.30	3.54	-	半円形	1	○	196					
117・119・120	06 4 区	SD15	16F-4G15・20・25, 4H21, 5H1	平安	VI	N - 15° - W	-	0.90	-	0.60	0.10	3.54	-	皿形	2	○						
117・118・120	06 4 区	Pit11	15F-6A13		VI	N - 48° - W	0.30	0.20	0.20	0.10	0.10	3.56	円形	U字状	1	×						
117・118・120	06 4 区	Pit12	15F-6A13		VI	N - 41° - E	0.20	0.10	0.10	0.10	0.16	3.54	円形	U字状	1	×						
117・118・120	06 4 区	Pit13	15F-6A24	平安	VI a	N - 37° - E	0.60	-	0.30	-	0.22	3.56	-	台形状	1	○	196					
117・118・120	06 4 区	河 16	15E-6J19・20・24・25		VI	N - 50° - E	-	-	-	-	0.48	3.32	-	-	2	×						

別表 3 沖ノ羽遺跡第 18 次調査古墳時代土器観察表

凡例

- 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
- 2 器種 第V章に記した。
- 3 法量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は依存率の低いものである。
- 4 胎土 須恵器・土師器について胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「赤」は赤色粒子、「白」は白色凝灰石、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。
- 5 色調 『新版標準土色帳』(小山・竹原 1967)の記号を記した。
- 6 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。

図版No.	報告書No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			胎土	色調	焼成	手法			遺存率			備考		
		区	遺構名				口径	底径	器高				外面	内面	底部	口縁部	底部	全体			
122	1	1	河 25	17H-1A9・13		土師器	甕		8.0		石・長・白	にぶい黄橙 (7.5YR7/3)	酸化	指頭圧痕	ナデ			24/36			
122	2	1	-	16H-6I25	V	土師器	高杯	11.8			石・長・雲・チ・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ナデ	ナデ			10/36			
122	3	1	-	16H-9F17・21	V	土師器	手づくね土器		3.5		石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ナデ	ナデ						
122	4	4	SX3	15J-6D1		須恵器	杯	11.9	10.0	5.0	石・長・チ・白	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り	9/36	19/36	19/36	小松産かTK10段階	
122	5	4	SX3	15J-6D1		土師器	甕	(19.0)			石・長・雲・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ			2/36			
122	6	4	SX82	15J-6D1		土師器	甕		4.0		石・長・白	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ハケメ				29/36		SX3 接合	
122	7	4	SD2	15J-6C13		土師器	杯	12.0		5.3	石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ			7/36	23/36	15/36	底部外面ヘラ記号「/」
122	8	4	SD2	15J-6C13		土師器	高杯		7.6		長・白	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ミガキ、ヨコナデ	黒色処理、ミガキ			24/36			
122	9	4	SD2	15J-6C15		土師器	壺	13.8			石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ			5/36			
122	10	4	SD2	15J-6C15		土師器	甕	(16.2)			石・長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ			2/36			
122	11	4	SD7	15J-7A18・23	VI a	土師器	杯	(16.8)	8.0	6.8	石・雲・赤	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ	一部ミガキ	3/36	20/36	10/36		
122	12	4	SD7	15J-7A18		土師器	杯	(18.4)			石・長・白	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ			2/36		口縁部スス	
122	13	4	SD10	15I-8J24	5	土師器	瓶		6.0		長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ハケメ	ハケメ			11/36			
122	14	4	-	15J-7A23		土師器	杯	(16.1)			石	灰白 (10YR8/2)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ			3/36			
122	15	4	-	15J-7A23、 立会調査 15J-7A	VI a	土師器	杯	17.5		6.4	石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヨコナデ、ミガキ	黒色処理、ミガキ			16/36	34/36	30/36	底部外面ヘラ記号「×」
122	16	4	-	15J-7B9	V	土師器	杯	17.1			石・長・白	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ヨコナデ、ミガキ	黒色処理、ミガキ			6/36			
122	17	4	-	15J-8A4	V	土師器	高杯	(14.9)	7.6	8.5	石・長・チ・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ヨコナデ、ヘラナデ	黒色処理、ミガキ	内面：ヘラナデ	2/36	22/36	12/36		
122	18	4	-	15J-6C5	VI a	土師器	高杯脚部				石・長・雲・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ハケメ	指頭圧痕						
122	19	4	-	15J-8A8	V	土師器	高杯脚部				石・長・赤	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ハケメ	ハケメ						
123	20	4	-	15J-8A7	V	土師器	壺	(14.0)			石・雲・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ			2/36			
123	21	4	-	15J-6C5	V	土師器	小型壺		4.0		石・長・白	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ハケメ	指頭圧痕			7/36			
123	22	4	-	15J-8A6	V	土師器	甕	12.9			石・長・雲・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ			6/36			内面スス付着
123	23	4	-	15J-5D21	VI a	土師器	甕	(16.0)			石・長・雲・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ヨコナデ	ハケメ			2/36			外面スス付着・口縁が磨滅している
123	24	4	-	15I-8J10	V	土師器	甕	(21.0)			石・長・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ			2/36			
123	25	4	-	15J-6C15	V	土師器	甕	(15.7)			石・白	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ			2/36			
123	26	4	-	15J-7B12	V	土師器	甕	(19.6)			石・長・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ			3/36			
123	27	4	-	15I-8J10	V	土師器	甕	22.5			石・長	灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ			5/36			
123	28	4	-	15J-7B12	V	土師器	甕				石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ハケメ	ケズリ						
123	29	4	-	15J-8A6	V	土師器	甕	(23.0)			石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ナデ	ナデ			1/36			体部に穿孔
123	30	4	-	15J-6C5	VI a	土師器	甕				石・長・雲・チ	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ						
123	31	4	-	15J-7B12	V	土師器	甕		8.0		長・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ケズリ				17/36			
123	32	4	-	15I-8J23	V	土師器	甕		8.3		石・長・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ハケメ	ハケメ	ハケメ			36/36		底部外面に粉殻痕
124	33	4	-	15J-7B9	V	土師器	甕		8.0		石・長・雲・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ハケメ	ハケメ			5/36			
124	34	4	-	15J-8A6	V・VI a	土師器	甕		7.0		石・長・雲・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ケズリ	ケズリ、ナデ						
124	35	4	-	15J-6C5	V	土師器	鉢				石・長・雲・チ	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ						
124	36	4	-	15J-5C25	VI a	土師器	手づくね土器	5.9	3.7	5.2	石・長・白	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ナデ	ナデ			29/36	36/36	33/36	
124	37	4	立会調査	15J-7A		土師器	杯	15.6		5.7	石・白	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ヨコナデ、ミガキ	黒色処理、ミガキ			5/36	30/36	15/36	
124	38	4	立会調査	15J-7A		土師器	杯	16.5		5.0	石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ	ケズリ	10/36	18/36	20/36		
124	39	4	立会調査	15J-7A		土師器	杯	16.8		5.4	石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ			16/36	36/36	25/36	
124	40	4	立会調査	15J-7A		土師器	杯	16.9		5.3	石・長・チ	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ヨコナデ	黒色処理、ミガキ	ケズリ	19/36	36/36	26/36	底部外面ヘラ記号「×」	
124	41	4	立会調査	15J-7A		土師器	杯	17.0			石・長・雲・チ・赤	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ヨコナデ	黒色処理、ミガキ			6/36	9/36	6/36	
124	42	4	立会調査	15J-7A		土師器	杯				石・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ヨコナデ	黒色処理、ミガキ			36/36			底部外面ヘラ記号「×」
124	43	4	立会調査	15J-7A		土師器	高杯	16.1	9.7	9.6	長・白	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ミガキ	黒色処理、ミガキ	脚部内面：ハケメ	4/36	10/36	15/36		
124	44	4	立会調査	15J-7A		土師器	高杯		6.6		石・長・白	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ミガキ、ケズリ、ナデ	黒色処理、ミガキ	脚部：ハケメ	4/36				



別表 4 沖ノ羽遺跡第 18・19 次調査古代土器観察表

## 凡例

- 1 出土位置 年度・区・遺構名・グリッド名を記した。  
 2 器種 第V章に記した。  
 3 法量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は依存率の低いものである  
 4 器高指数 器高/口径×100  
 5 底径指数 底径/口径×100  
 6 胎土 須恵器・土師器について胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「赤」は赤色粒子、「白」は白色凝灰石、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。産地については第V章に記した。  
 7 色調 『新版標準土色帳』(小山・竹原 1967)の記号を記した。  
 8 焼成 酸化炭焼成・還元炭焼成の区別を記した。須恵器で酸化したものには褐色あるいは橙色の色調で軟質なものを表す。白色・灰白色のものは含めていない。  
 9 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を表す。底部調整やロクロケズリ・ロクロナデから判断した。  
 10 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。

図版No.	報告書No.	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考		
		年度	区				遺構名	グリッド	口径							底径	器高	外面		内面	底部	口縁部	底部	全体		内面	外面
125	45	05	1	SK19		土師器	長囊					石・長・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ハケメ												
125	46	05	1	SK19		土師器	小囊	13.4				石・長・角	外面: 浅黄橙 (7.5YR8/4) 内面: 橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36							
125	47	05	1	SK19	V	土師器	小囊	(7.6)				石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ケズリ	ロクロナデ				2/36							
125	48	05	1	SK19		土師器	小囊		8.2			石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	カキメ、ケズリ	カキメ				12/36						SD16 接合	
125	49	05	1	SK19	V・Va	土師器	鍋	35.5		16.4	46	石・長・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ				12/36		8/36	炭化物	スス			
125	50	05	1	SK19		土師器	鍋	37.4				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ、タタキメ、ヘラケズリ	Hc ナデ、ハケメ				6/36						スス	
125	51	05	1	SK19	V	土師器	鍋	37.8				石・長・雲・チ・赤・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ハケメ、ヘラケズリ	ロクロナデ、ハケメ				16/36						SD16 接合	
126	52	05	1	SK19	V・Va	土師器	鍋	35.2				石・雲・チ	にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	カキメ、タタキメ、ハケメ、ナデ	Hc ハケメ				12/36						スス	SD16 接合
126	53	05	1	SK19	Va	土師器	鍋	33.1		17.9	54	石・長・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ハケメ、カキメ	ハケメ、カキメ				11/36		18/36				SD16 接合	
126	54	05	1	SK19		須恵器	無台杯	12.8	9.0	3.4	27	70	石・白	C 灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			15/36	15/36	15/36				SD16 接合
126	55	05	1	SK19		須恵器	無台杯	(13.0)				石・長	C 灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
126	56	05	1	SK29		須恵器	無台杯	(12.0)				石・白	B 灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
126	57	05	1	SK29		須恵器	無台杯		8.0			白	B 灰白 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				6/36						
126	58	05	1	SD16		土師器	長囊	23.6				石・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	カキメ、ハケメ	カキメ、ナデ、ハケメ				5/36						スス	
126	59	05	1	SD16		須恵器	大囊					石・長・白	A 灰 (N6/0)	還元	タタキメ	Hb ハケメ、当て具痕	Da										
127	60	05	1	SD28		須恵器	大囊	(28.0)				石・白	C 灰 (7.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
127	61	05	1	SD30		土師器	小囊	(14.0)				長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキメ	ロクロナデ				2/36							
127	62	05	1	SD30		土師器	鍋					石・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36							
127	63	05	1	SD30		須恵器	無台杯	(11.0)				石・白	B 灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
127	64	05	1	SD30		須恵器	広口壺	13.0				石・長	C 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ				6/36						河 25 接合、体部外面ヘラ記号「□」	
127	65	05	1	SD31		土師器	無台碗 a					石	にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36							
127	66	05	1	河 1		土師器	無台碗 a		5.6			石・長・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			36/36							
127	67	05	1	河 25		土師器	無台碗 a	13.0	4.0	4.3	33	31	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			3/36	7/36	5/36				
127	68	05	1	河 25		土師器	無台碗 a	(15.0)				石	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
127	69	05	1	河 25		土師器	無台碗 a	(14.0)				石・長・白・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
127	70	05	1	河 25		土師器	無台碗 a	(13.0)				石	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
127	71	05	1	河 25		土師器	無台碗 a		5.0			石・長・赤・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			36/36							
127	72	05	1	河 25		土師器	無台碗 a		8.0			石	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			10/36							
127	73	05	1	河 25		土師器	蓋	(13.0)				石・長・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
127	74	05	1	河 25	16H-10B19		土師器	長甕	(22.4)					石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36								
127	75	05	1	河 25	17H-1A18		土師器	長甕						石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	He											
127	76	05	1	河 25	17H-1A7		土師器	小甕	(14.0)					石	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				スス				
127	77	05	1	河 25	16H-10B21		須恵器	有台杯	(12.0)					石・長	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36								
127	78	05	1	河 25	17H-1A14		須恵器	有台杯	14.0					石・白	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36								
127	79	05	1	河 25	17H-1A24		須恵器	広口壺	(18.0)					石・白	灰白 (N4/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ、カキメ				2/36								
127	80	05	1	河 25	17H-1A18		須恵器	広口壺	(18.0)					石・白	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36								
127	81	05	1	河 25	17H-1A12		須恵器	大甕	21.0					石・白	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36								
127	82	05	1	河 25	17H-1A4		須恵器	大甕	(37.0)					石・長・チ	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36								
127	83	05	1	河 25	17H-1A4, 2C6	V	須恵器	大甕						長・白	黒 (N2/0)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Ha											
128	84	05	1	-	17H-1C18・24	V	土師器	無台碗 a	12.6	5.3	4.1	33	42	石・長・角	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	6/36	36/36	21/36						
128	85	05	1	-	16H-10B23	V	土師器	小甕	12.0					石・長	にぶい黄橙 (10YR5/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				7/36								
128	86	05	1	-	16H-9F21	V	土師器	小甕	(14.0)					石・長・雲・チ・赤・角	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ、ハケメ		ロクロナデ、カキメ				3/36								
128	87	05	1	-	17H-2B5	V	土師器	鍋	(40.0)					石・長・チ・白	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ、カキメ				2/36								
128	88	05	1	-	17H-2B10	Vb	黒色土器	無台碗		6.0				石	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ミガキ				8/36								
128	89	05	1	-	16H-7I11	V	黒色土器	蓋	(16.0)					白	暗灰 (N3/0)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ				2/36								
128	90	05	1	-	16H-8H6	V	須恵器	無台杯	12.4	8.0	4.0	32	65	長・白	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		4/36	14/36	14/36						
128	91	05	1	-	16H-10E4	V	須恵器	無台杯	13.0	7.0	3.5	27	54	石・白	灰白 (5Y8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		2/36	7/36	5/36			底部外面掘書「大」			
128	92	05	1	-	17H-1C21	V	須恵器	無台杯	13.2	7.5	3.5	27	57	石・長・白	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		1/36	21/36	11/36						
128	93	05	1	-	16H-9F10・14	V・Va	須恵器	無台杯	13.4	7.5	3.4	25	56	石・白	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		5/36	18/36	11/36						
128	94	05	1	-	17H-1B5	V	須恵器	有台杯	13.9	8.0	4.0	29	58	石・長・白	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		3/36	6/36	5/36						
128	95	05	1	-	16H-8H3	V	須恵器	杯蓋	(15.0)					長・白	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36								
128	96	05	1	-	16H-10E13	V	須恵器	壺蓋						石・長	灰 (5Y4/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ									自然釉			
128	97	05	1	-	17H-2C6	V	須恵器	大甕	(36.0)					石・長・白	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、カキメ、当て具痕	Da			2/36								
128	98	05	1	-	16H-10E12・16	V	須恵器	大甕	(25.0)					長・白	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	Hc	ロクロナデ、当て具痕	Da			2/36					排土			
129	99	05	2	SE6	17G-1F20, 1G6	V	土師器	無台碗 a		4.5				石・長・白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			9/36							
129	100	05	2	SE6	17G-1G6		土師器	無台碗 a		6.0				石・長・雲・チ・赤	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		11/36							
129	101	05	2	SE11	16G-9H12	2	土師器	無台碗 a	12.0					石・長・赤・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36								
129	102	05	2	SE11	16G-9H12	2	黒色土器	無台碗		5.5				石・長・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			6/36							
129	103	05	2	SE20	17G-1H16	1	土師器	無台碗 a	(12.0)					石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36			スス					
129	104	05	2	SE20	17G-1H11		黒色土器	無台碗		(6.0)				石・長・雲・海	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			2/36							
129	105	05	2	SE104	16G-10G1		土師器	無台碗 a	(14.0)					石・長・赤・角	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36								
129	106	05	2	SE104	16G-10G1		土師器	無台碗 a						石・長・雲・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36								
129	107	05	2	SE104	16G-10G6		土師器	小甕	(15.0)					長・赤・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36								
129	108	05	2	SE115	17G-2E9		土師器	無台碗 a	12.0					石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36								
129	109	05	2	SE115	17G-2E10		須恵器	広口壺	(13.0)					石	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36					西古志産			
129	110	05	2	SE122	16G-10G13		須恵器	直口壺	9.5					石・白	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				7/36								
129	111	05	2	SE126	16G-10F14		須恵器	長頸壺	17.0					石・長・白	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				5/36								

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			口縁部	底部		全体	内面	外面
																		還元	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						
129	112	05	2	SE133	17G-1G16		土師器	小甕		8.0				石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ											
129	113	05	2	SE133	17G-1G16	2	須恵器	杯蓋	16.0					石・白	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36							
129	114	05	2	SE133	17G-1G16		須恵器	長頸壺		(11.8)				石・長・白	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36						
129	115	05	2	SE133	17G-1G16	1	須恵器	大甕						石・長・白	灰 (N6/0)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Hd										
129	116	05	2	SE144	17G-1G8		土師器	無台碗 a		6.0				石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り				6/36					
129	117	05	2	SE144	17G-1G8		土師器	長甕	(18.0)					長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36							
129	118	05	2	SE144	17G-1G8		須恵器	有台杯		7.0				石・長	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			8/36						
129	119	05	2	SE144	17G-1G8		須恵器	大甕						石・長	灰 (N6/0)	還元	タタキメ、ハケメ	Hb	当て具痕、ハケメ	Db										
129	120	05	2	SE166	17G-1G23	1	土師器	無台碗 a		4.4				石	浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		32/36						
129	121	05	2	SE166	17G-1G22・23	1・2	須恵器	横瓶						石・長・赤・白	褐灰 (7.5YR5/1)	還元	タタキメ	Hb	当て具痕	Da										
129	122	05	2	SE166	17G-1G22	3	須恵器	大甕	(18.0)					石・長・白・海	黄灰 (2.5Y4/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36						
129	123	05	2	SE173	17G-1G18	4	土師器	小甕	(12.0)					石・長・赤・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36						
129	124	05	2	SE173	17G-1G18	4	須恵器	大甕						石・長・赤・白	灰白 (5Y7/1)	還元	タタキメ	Hc	当て具痕	Da										
130	125	05	2	SK8	16G-9H18		土師器	無台碗 a	(14.0)					石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36						
130	126	05	2	SK8	16G-9H18		土師器	無台碗 a	12.0					石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					4/36						
130	127	05	2	SK8	16G-9H18		土師器	小甕	(15.0)					長・雲・赤・角	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36						
130	128	05	2	SK8	16G-9H18		須恵器	有台杯	(13.0)					石・白	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36						
130	129	05	2	SK9	16G-9H19		土師器	無台碗 a	(13.8)					石	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					3/36						
130	130	05	2	SK9	16G-9H19		土師器	無台碗 b	12.0					石・赤・白	橙 (7.5Y7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ					24/36						
130	131	05	2	SK9	16G-9H19		土師器	無台碗 b	(13.2)					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ					2/36						
130	132	05	2	SK9	16G-9H19		土師器	無台碗 a		5.0				石・長	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		19/36					底部外面へラ記号「J」	
130	133	05	2	SK9	16G-9H19		土師器	小甕	6.0					石・長・赤	橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			36/36						
130	134	05	2	SK12a・b	16G-9I21		土師器	無台碗 a	12.2	5.4	4.1	34	44	石・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	36/36	36/36	24/36	スス		図版 39No.1		
130	135	05	2	SK12a・b	16G-9H25, 9I21		土師器	無台碗 a	12.6	5.5	4.3	34	44	長・赤・白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	20/36	36/36	28/36	スス		図版 39No.2		
130	136	05	2	SK12a・b	16G-9H25, 9I21		土師器	無台碗 a	12.6	5.6	4.6	37	44	石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	20/36	29/36	27/36	スス	スス	図版 39No.11		
130	137	05	2	SK12a・b	16G-9H25, 9I21		土師器	無台碗 a	12.9	5.5	4.1	32	43	石・長・赤	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	26/36	36/36	28/36	スス		口縁や磨耗している 図版 39No.6		
130	138	05	2	SK12a・b	16G-9I21		土師器	無台碗 a	12.0	4.8	4.5	38	40	石・長・赤・白	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	24/36	36/36	24/36	スス		図版 39No.17		
130	139	05	2	SK12a・b	16G-9I21		土師器	無台碗 a	12.0	5.3	4.1	34	44	石	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	34/36	36/36	35/36	スス		内外面剥離している 図版 39No.16		
130	140	05	2	SK12a・b	16G-9H25, 9I21		土師器	無台碗 a	12.5	5.3	4.5	36	42	長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	22/36	33/36	25/36	炭化物	スス	図版 39No.5		
130	141	05	2	SK12a・b	16G-9I21		土師器	無台碗 a	12.6	5.0	4.5	36	40	石・赤・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	20/36	36/36	26/36	スス	スス	図版 39No.13		
130	142	05	2	SK12a・b	16G-9I21		土師器	無台碗 a	12.8	4.8	5.1	40	38	長・赤・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	22/36	36/36	24/36	スス	スス	図版 39No.3		
130	143	05	2	SK12b	16G-9I21	V	土師器	無台碗 a	12.8	5.1	3.6	28	40	石・長・赤・白	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	11/36	36/36	18/36					
130	144	05	2	SK12b	16G-9I21		土師器	無台碗 b		6.5				石・赤・白	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			12/36						
130	145	05	2	SK56	16G-9H12	1・6	土師器	仏鉢	16.0					長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				9/36					SE11 接合		
130	146	05	2	SK94	16G-10I6		須恵器	杯蓋	14.8		3.2	22		石・長・白	黄灰 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ				22/36		25/36	墨痕		転用硯		
131	147	05	2	SK113	17G-1G20		土師器	無台碗 a	(13.9)					石・長・白	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36							
131	149	05	2	SK113	17G-1G20		須恵器	高杯						石・長	灰白 (5Y8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36							
131	150	05	2	SK119	17G-2E13・18	1	黒色土器	無台碗						石・長・海	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ				1/36							

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	ヘラ切り							
131	151	05	2	SK119	17G-2E13		黒色土器	無台碗		6.0				石・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ			13/36									
131	152	05	2	SK119	17G-2E13		須恵器	無台碗		7.0				石・白	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			7/36									
131	153	05	2	SK131	17G-1F20		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・長・雲	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				2/36									
131	154	05	2	SX23	16G-9H9・14・15		土師器	無台碗 a	12.0	4.0	4.0	33	33	石・白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			12/36	36/36	20/36							
131	155	05	2	SX23	16G-9H14		土師器	無台碗 a	12.2	5.8	3.8	31	48	石・長	にぶい橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		9/36	36/36	15/36	スス		口縁やや磨耗している				
131	156	05	2	SX23	16G-9H14		土師器	無台碗 a	13.8					石・長	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				9/36									
131	157	05	2	SX23	16G-9H14・15		土師器	長甕	19.0					石・長・雲・角・海	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				13/36					SD41 接合				
131	158	05	2	SX23	16G-9H8・9・20		土師器	長甕	22.0					石・長・赤・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36					SD17 接合				
131	159	05	2	SX23	16G-9H15		土師器	小甕	(12.0)					長・赤	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36									
131	160	05	2	SX23	16G-9H8・9		土師器	仏鉢	(18.0)					長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36									
131	161	05	2	SX23	16G-9H15		土師器	鉢		9.0				石・長・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				6/36								
131	162	05	2	SX23	16G-9H14		黒色土器	無台碗	18.0					石・長・赤・海	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				5/36									
131	163	05	2	SX23	16G-9H14		黒色土器	無台碗	20.4	8.5	7.7	38	42	石・長・雲・赤	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			9/36	25/36	17/36			SD17・36 接合				
131	164	05	2	SX23	16G-9H14		黒色土器	無台碗		8.0				石・雲・赤・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ				9/36								
131	165	05	2	SX23	16G-9H14		須恵器	無台杯	(13.2)					長	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36									
131	166	05	2	SX135	17G-1F25		土師器	無台杯 a	(12.0)					石	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36									
131	167	05	2	SX135	17G-2G1		須恵器	無台杯	12.0					石・白	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36									
131	168	05	2	SX135	17G-2F5		須恵器	無台杯	13.0	9.0	3.7	28	69	石・白	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			6/36	9/36	9/36							
131	169	05	2	SX135	17G-2F5、2G1		須恵器	無台杯	(13.0)					石・長・白	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36									
131	170	05	2	SX135	17G-2F5、2G1	3	須恵器	有台杯	14.0					石・白	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36									
131	171	05	2	SX135	17G-1G21		須恵器	長頸壺	18.0					石・白	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36									
131	172	05	2	SX135	17G-1G22、2F5	1	須恵器	長頸壺		(14.0)				石・長・白	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36				SE166 接合				
131	173	05	2	SX135	17G-1G21		須恵器	大甕						石・長・白	灰 (7.5Y5/1)	還元	タタキメ	Ha 当て具痕	Ha								外面転用砥石か				
131	174	05	2	SX151	17G-1F19		土師器	長甕	(22.0)					石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36									
131	175	05	2	SX151	17G-1F18		土師器	仏鉢		7.2				石・長・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36									
132	176	05	2	SD1	17G-2E24		土師器	無台碗 a	11.0					石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36									
132	177	05	2	SD1	17G-2E19		土師器	無台碗 a	12.3	6.0	3.4	28	49	長	褐灰 (10YR4/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			4/36	10/36	7/36	スス	スス					
132	178	05	2	SD1	17G-2E19		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・雲・角	外面：浅黄橙 (10YR8/3) 内面：褐灰 (10YR4/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36				スス					
132	179	05	2	SD1	17G-2F17		土師器	無台碗 a		5.2				石・雲・白・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			21/36								
132	180	05	2	SD1	17G-2E23		土師器	有台皿	13.0					石・長・雲	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36									
132	181	05	2	SD1	16G-9H8、17G-2E24		土師器	鍋	(36.0)					石・長・赤・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36					SD17 接合				
132	182	05	2	SD1	17G-2E19・25、2F16、3E4	V・Va	土師器	鍋	36.0					石・長・赤	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36				スス					
132	183	05	2	SD1	17G-2E19	3	須恵器	無台杯	12.0	7.7	3.1	26	64	石・白	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		4/36	36/36	18/36							
132	184	05	2	SD1	17G-2E19・25	Va	須恵器	有台碗		6.0				石・白	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				16/36								
132	185	05	2	SD2	17G-3E9		土師器	無台碗 a	11.0					石・白	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36									
132	186	05	2	SD2	17G-3E9		土師器	無台碗 a	13.0					長・角	灰白 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36									
132	187	05	2	SD2	17G-2F21		土師器	長甕						石・長・雲・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	タタキメ	Ha 当て具痕	Hd												
132	188	05	2	SD2	17G-3E5		土師器	仏鉢	(16.0)					長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36									





図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考						
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部			口縁部	底部	全体	内面	外面	
133	230	05	2	SD36	16G-9H14		土師器	小甕		7.0				石・長・雲・赤	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		16/36											
133	231	05	2	SD36	16G-10H3		土師器	仏鉢						長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36											
133	232	05	2	SD36	16G-9H24		黒色土器	無台碗	14.0					長	褐灰 (10YR4/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36											
133	233	05	2	SD36	16G-10H8		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				3/36											
133	234	05	2	SD36	16G-9H19		須恵器	無台杯	(12.3)					石・白	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36											
133	235	05	2	SD36	16G-9H19・24		須恵器	無台杯		8.0				石・赤・白	C 灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			8/36											
133	236	05	2	SD36	16G-10G20、17G-1G10	2a	須恵器	有台杯		6.5				石・白	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			13/36				SD4 接合外面火ダスキ							
133	237	05	2	SD36	16G-10H3		須恵器	杯蓋	(14.0)					石・白	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36											
133	238	05	2	SD36	17G-1G22、2G2	5	須恵器	杯蓋	14.7					石・白	C 灰黄 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36				SD3 接合							
133	239	05	2	SD36	16G-10G24		須恵器	横瓶						石・長	B 褐灰 (10YR6/1)	還元	タタキメ	Hb 当て具痕	Da														
133	240	05	2	SD36	16G-10H11		須恵器	大甕						石・長・白	C 灰 (N5/0)	還元	カキメ、タタキメ	Hb 当て具痕	Db														
133	241	05	2	SD41	16G-9H15		須恵器	大甕						石・白	B 灰 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ	Ha 当て具痕	Hc														
134	242	05	2	SD52	16G-9H22		土師器	無台碗 a	13.2	6.0	3.7	28	45	石	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		糸切り			2/36	9/36	7/36									
134	243	05	2	SD70	16G-9H22		土師器	長甕						石・長・赤・角	黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	カキメ					1/36											
134	244	05	2	SD105	17G-1H4		土師器	小甕	(13.0)					長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36											
134	245	05	2	SD105	17G-1H3		黒色土器	無台碗						石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				1/36											
134	246	05	2	SD139	16G-10G4		土師器	小甕		6.5				長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		29/36											
134	247	05	2	SD160	17G-2E17	2	土師器	無台碗 a	(14.0)					長・雲・角	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	248	05	2	SD160	17G-2E17	1	土師器	無台碗 a		6.0				石	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り			11/36										
134	249	05	2	SD160	17G-2E17	2	土師器	長甕	(21.0)					長・赤・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36				炭化物	炭化物						
134	250	05	2	Pit77	16G-9H24		土師器	無台碗 a		5.0				石・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		15/36											
134	251	05	2	Pit84	16G-9H19		土師器	有台皿	(13.0)					石・長・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	252	05	2	Pit127	16G-10H9		土師器	無台碗 a	(12.0)					石・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36											
134	253	05	2	Pit140	17G-1H6		土師器	無台碗 a	12.6					石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36											
134	254	05	2	Pit142	17G-1H11		土師器	無台碗 a	13.2					長・白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				8/36				スス							
134	255	05	2	Pit146	17G-1H11		土師器	無台碗 a	(13.2)					石・白	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36				スス							
134	256	05	2	Pit146	17G-1H11		黒色土器	有台皿	11.7	6.8	3.4	29	58	石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			15/36	25/36	21/36									
134	257	05	2	Pit171	16G-9H12		須恵器	無台杯	(12.8)					石	C 灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	258	05	2	河16	16G-9H9		土師器	無台碗 a	11.0	4.2	4.2	38	38	石・長	にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			6/36	22/36	11/36	スス								
134	259	05	2	河16	16G-9H9		土師器	無台碗 a	(12.0)					石	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	260	05	2	河16	16G-9H10		土師器	無台碗 a	(12.0)					石	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36				スス	スス						
134	261	05	2	河16	16G-9H9	1・2	土師器	無台碗 a	(13.9)					石・赤・白	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	262	05	2	河16	16G-9H9		土師器	長甕	(22.0)					石・長・赤・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	263	05	2	河16	16G-9H3		黒色土器	無台碗		7.0				石・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ				5/36										
134	264	05	2	河16	16G-9H10・12	V	須恵器	無台杯	12.3	7.0	2.9	24	57	石・長・白	B オリーブ灰 (5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			2/36	8/36	5/36									
134	265	05	2	河16	16G-9H3	2	須恵器	無台杯	(12.4)					石・白	B 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	266	05	2	河16	16G-9H10		須恵器	無台杯	(13.0)					石・白	B 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36											
134	267	05	2	河16	16G-9H15		須恵器	有台杯	(12.0)					石・長・白	C 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36											
134	268	05	2	河16	16G-9H15、9I11		須恵器	小壺						石・白	C 灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ								SD41 接合							
134	269	05	2	河16	16G-9H9		須恵器	長頸壺	15.4					石・白	C 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36											
134	270	05	2	河16	16G-9H9	1・2	須恵器	広口壺	(21.0)					石・白	C 灰 (7.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36											
134	271	05	2	河16	16G-9H3	2	須恵器	大甕						石・白	C 灰 (5Y6/1)	還元	タタキメ	Hb 当て具痕	Da														

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)				器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考								
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高	底径							器高	底径	口径		底径	器高	底径	器高	底径		手法			口縁部	底部	全体	内面	外面
																													外面	内面	底部					
134	272	05	2	-	17G-1F22	V	土師器	無台碗 a	11.8	5.6	4.1	35	47	石・長	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		12/36	17/36	17/36	スス												
134	273	05	2	-	17G-2E20	V	土師器	無台碗 a	12.4	4.7	4.2	34	38	石・白	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	34/36	36/36	35/36													
134	274	05	2	-	17G-3F1	V	土師器	無台碗 a	14.6	5.0	4.5	31	34	石・長・雲・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	8/36	炭化物	スス											
135	275	05	2	-	17G-2E24	V	土師器	無台碗 a	12.6	5.4	3.6	29	43	石・長・雲・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		4/36	11/36	5/36	炭化物												
135	276	05	2	-	17G-2F18	V	土師器	無台碗 a	13.0	5.6	3.4	26	43	石・長・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	10/36	炭化物	スス											
135	277	05	2	-	17G-2F6	V	土師器	無台碗 a	12.4	5.4	3.8	31	44	石・白	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		12/36	6/36	10/36	スス												
135	278	05	2	-	17G-2E25	V	土師器	無台碗 a	12.6	6.4	3.4	27	51	石・雲・角	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	8/36	25/36	12/36	スス	スス											
135	279	05	2	-	17G-2E25	V	土師器	無台碗 a	14.4	5.4	4.9	34	38	石・長・雲・白・角	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	8/36	36/36	18/36	炭化物	スス											
135	280	05	2	-	17G-2F11	V	土師器	蓋						石・長・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							赤彩											
135	281	05	2	-	16G-9H23・24	Va	土師器	小甕	16.9					石・長・海	橙 (7.5Y7/6)	酸化	ハケメ	ヘラケズリ、ハケメ			13/36					282 と同一個体か										
135	282	05	2	-	16G-9H24	Va	土師器	小甕		8.0				石・長・海	橙 (7.5Y7/6)	酸化	ヘラナデ	指頭圧痕、ヘラナデ			14/36					281 と同一個体か										
135	283	05	2	-	17G-2E20	Va	土師器	鍋 (42.0)						石・白・角	にぶい黄 (2.5Y6/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			2/36					外面剥離している										
135	284	05	2	-	17G-3E10	V	土師器	鍋	42.2					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	カキメ	ナデ			2/36															
135	285	05	2	-	17G-3E9・10	V・Va	土師器	鍋 (36.0)						石・長・角	橙 (7.5YR7/6)	酸化	カキメ	カキメ			2/36															
135	286	05	2	-	17G-3E10	V	土師器	鍋 (39.8)						石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36															
135	287	05	2	-	16G-9H12	V	土師器	鍋 (40.3)						石・長・雲・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			2/36															
136	288	05	2	-	17G-2E24・25 17G-3E3・4・10, 3F1	V・Va	土師器	鍋(脚付)	(38.0)					石・長・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヘラケズリ	ヘラケズリ			3/36															
136	289	05	2	-	17G-2F18	V	土師器	仏鉢	16.0					石・長・白・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ			6/36															
136	290	05	2	-	16G-9H20	V	土師器	仏鉢 (18.0)						石・長・赤・白・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36															
136	291	05	2	-	16G-9H8	Va	黒色土器	無台碗 (14.0)						石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ			2/36															
136	292	05	2	-	17G-2F9	V	黒色土器	無台碗 (15.0)						石	浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			2/36															
136	293	05	2	-	17G-2F9	V	黒色土器	無台碗		6.5				石・海	浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ミガキ	糸切り後ケズリ			15/36														
136	294	05	2	-	16G-9H19	Va	黒色土器	無台碗		7.0				石	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ミガキ	糸切り後ミガキ			7/36														
137	295	05	2	-	16G-9A25 17G-2F17 17G-3E	Va	緑釉陶器	香炉	14.5	17.4	8.0	55	120	白	灰白 (10Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36	6/36	7/36			05 2 区立会、06 1 区本調査・2 区立会の出土遺物と接合										
137	296	05	2	-	17G-1G23	Va	須恵器	無台杯 (12.4)						石・白	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36															
137	297	05	2	-	17G-1H6	V	須恵器	無台杯	13.2	7.8	3.8	29	59	石・長	C 灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	9/36	3/36													
137	298	05	2	-	17G-1G21	Va	須恵器	無台杯	13.4					石	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36															
137	299	05	2	-	17G-2E15	Va	須恵器	無台杯	13.3	7.5	2.8	21	56	石・白	B 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8/36	15/36	9/36	炭化物												
137	300	05	2	-	16G-10H10	V	須恵器	有台杯		6.6				石・白	B 灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			12/36															
137	301	05	2	-	17G-3E10	V	須恵器	杯蓋 (14.0)						石・白	C 灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36															
137	302	05	2	-	17G-1G11	Va	須恵器	杯蓋 (15.0)						石・白	C 外面：灰 (5Y6/1) 内面：にぶい黄橙 (10YR7/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36															
137	303	05	2	-	16G-10H10	V	須恵器	杯蓋	15.1					石・長	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36															
137	304	05	2	-	17G-3E3	V	須恵器	長頸壺	17.6					石・白	C 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36															
137	305	05	2	-	17G-1G7	Va	須恵器	長頸壺						石・白	C 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ																		
137	306	05	2	-	17G-2F9	V	須恵器	長頸壺		(12.0)				石・白	C 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			2/36														
138	309	05	3	SE7	16G-5E21		黒色土器	無台碗 (13.8)						石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ			2/36															
138	310	05	3	SE14	16G-7A23		土師器	無台碗 a		5.5				石・長・白	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		8/36					全体に剥離している										

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法				回転方向	遺存率			付着物		備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面			底部	口縁部	底部	全体	内面		外面
																		ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ								
138	311	05	3	SE16	16G-6E13	1~3	土師器	無台碗 b		7.0				石・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ				9/36					
138	312	05	3	SE16	16G-6E13	1~3	土師器	小囊		5.5				石・長	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	左			26/36					
138	313	05	3	SE21	16G-8A15		土師器	無台碗 a	(12.0)					石・白	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36						
138	314	05	3	SE21	16G-8A15		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・長	黒 (N1.5/0)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					2/36						
138	315	05	3	SE47	16G-7A20		土師器	無台碗 b		5.9				石・チ	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ				10/36					
138	316	05	3	SE47	16G-7A20, 7C12・13	6・V	須恵器	大甕						石・長	C 灰 (10Y6/1)	還元	タタキメ	Ha	ハケメ										
138	317	05	3	SE47	16G-7A20	6	須恵器	大甕						石・長	B 灰 (5Y5/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Ha Dc									転用砥石か
138	318	05	3	SE55	16G-7A25		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
138	319	05	3	SE55	16G-7A25		土師器	長囊	(25.7)					石	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
138	320	05	3	SE55	16G-7A25		土師器	仏鉢	(14.8)					石・長	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
138	321	05	3	SE55	16G-7A25		土師器	長鉢						石・長	にぶい濁 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36					
138	322	05	3	SE55	16G-7A25	1	須恵器	長頸壺						長	C 青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ											
138	323	05	3	SE55	16G-7A25	2	須恵器	大甕	(26.6)					石・長	A 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
138	324	05	3	SE67	16G-7A15		土師器	無台碗 a	12.6	4.5	4.0	32	36	長・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右		3/36	20/36	18/36				
138	325	05	3	SE67	16G-7A15	8	土師器	無台碗 a	12.4	5.0	3.9	31	40	石・長・雲	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右		4/36	23/36	7/36				
138	326	05	3	SE67	16G-7A10		須恵器	無台杯		6.6				石・長・白	C 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	右			20/36					
138	327	05	3	SE67	16G-7A10		須恵器	杯蓋	13.0					石・長	C にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						5/36					
138	328	05	3	SE72	16G-7A4		土師器	無台碗 a	11.9					石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						7/36					
138	329	05	3	SE72	16G-7A4		土師器	有台皿	(14.0)					石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36					
138	330	05	3	SE74	16G-7B22		土師器	無台碗 a		6.0				石・長	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右			7/36					
138	331	05	3	SE74	16G-7B21		土師器	小囊	(13.0)					石・長・白	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36					
138	332	05	3	SE74	16G-7B22		土師器	小囊	(16.0)					長・チ	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
138	333	05	3	SE74	16G-7B22		須恵器	無台杯						石・長・白	B 灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36					
138	334	05	3	SE77	16G-8B12		黒色土器	無台碗						石・長・雲	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ						1/36					
139	335	05	3	SE83	16G-7A4		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36					
139	336	05	3	SE100	16G-7B22		土師器	無台碗 a	11.6					石・長・雲・角	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						4/36					
139	337	05	3	SE100	16G-7B22		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長・白	B 灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
139	338	05	3	SE100	16G-7B22		土師器	無台碗 a		5.5				石・長	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り				18/36					
139	339	05	3	SE102	16G-8C11		土師器	無台碗 a		(5.0)				石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り				2/36					
139	340	05	3	SE104	16G-6B21		土師器	無台碗 a	12.6	5.0	4.1	33	40	石・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り				1/36	14/36	9/36			
139	341	05	3	SE104	16G-6B21		土師器	仏鉢	(16.0)					石・白	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
139	342	05	3	SE104	16G-6B21		土師器	長囊	(19.8)					石・長・角	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
139	343	05	3	SE104	16G-6B16		黒色土器	無台碗	18.0					石・長・角	にぶい橙 (7.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ						4/36					
139	344	05	3	SE104	16G-6B21		須恵器	無台杯						石・長・白	B 灰オリーブ (5Y6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36					
139	345	05	3	SE104	16G-6B21		須恵器	無台杯		7.4				石・長・白	B 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左			5/36					
139	346	05	3	SE112	16G-7B1		土師器	無台碗 a						石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36					
139	347	05	3	SE112	16G-6B22		土師器	長囊						石・長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	タタキメ	Hb	当て具痕	Da									
139	348	05	3	SE112	16G-7B2		土師器	鍋						石・長・チ	橙 (7.5YR6/6)	酸化	タタキメ	Hc	当て具痕	Ha									
139	349	05	3	SE112	16G-7B2		黒色土器	無台碗		8.0				石・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ				9/36					
139	350	05	3	SE112	16G-7B1		黒色土器	無台碗	(16.0)					石・赤	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ						2/36					
139	351	05	3	SE113	16G-6B14		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・角	にぶい橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36					
139	352	05	3	SE113	16G-6B18		須恵器	無台杯	(14.0)					石・長・白	C オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
139	353	05	3	SE114	16G-7C17		土師器	小囊	14.0					石・長	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						5/36					
139	354	05	3	SE114	16G-7C17		須恵器	長頸壺	(9.9)					石・長・白	C 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					
139	355	05	3	SE115	16G-7C13・22	V	土師器	鍋	(41.4)					石・長・雲・角	明黄濁 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36					スス
139	356	05	3	SE115	16G-7C22		須恵器	無台杯	12.0	8.0	3.1	26	67	長	B オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り				5/36	7/36	6/36			



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考		
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面		底部	口縁部	底部	全体	内面		外面	
																		還元	酸化	還元									酸化
139	357	05	3	SE138	16G-7B20		須恵器	無台碗	12.0	7.0	2.8	23	58	石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		7/36	14/36	10/36			SE104 接合		
139	358	05	3	SE228	16G-6B24		土師器	無台碗 a		5.5				石・長		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			18/36						
139	359	05	3	SE228	16G-6B24		土師器	小甕		5.8				石・長・雲・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			5/36						
139	360	05	3	SE228	16G-7B4		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
139	362	05	3	SE321	16G-6C17		須恵器	杯蓋	(13.0)					石・長・白	C	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
139	363	05	3	SE332	16G-7C3		土師器	無台碗 a	(12.0)					石		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		スス	スス			
139	364	05	3	SE332	16G-7C3		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
139	365	05	3	SE332	16G-7C2・3	V	土師器	長甕						石・長		橙 (5YR6/6)	酸化	タタキメ	Ha 当て具痕	De							366 と同一個体か		
139	366	05	3	SE332	16G-6C23		土師器	長甕						石・長・チ		褐 (7.5YR4/3)	酸化	カキメ、タタキメ	Ha 当て具痕	De							365 と同一個体か		
140	367	05	3	SE332	16G-6C23		土師器	鍋	(40.0)					石・長・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
140	368	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	無台碗 a	12.2					長・チ・赤		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36						
140	369	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	無台碗 a	11.2	4.5	4.2	38	40	石・赤		橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	10/36	スス				
140	370	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	無台碗 a	11.8	5.4	4.6	39	46	石・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	23/36	5/36					
140	371	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	無台碗 a	11.4	5.0	4.0	35	44	石・長・赤・白		橙 (2.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	18/36	9/36					
140	372	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	無台碗 a		5.0				石・長・白		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				17/36						
140	373	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	無台碗 a	14.8					石・長・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36						
140	374	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	小甕	(11.5)					石・長・チ		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36			炭化物			
140	375	05	3	SE366	16G-7C20		土師器	長甕	(19.7)					石・長・白・角		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
140	376	05	3	SE366	16G-7C20		黒色土器	無台碗						石・長		灰白 (2.5Y8/1)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				1/36						
140	377	05	3	SE366	16G-7C20		黒色土器	無台碗	12.4	5.6	5.3	43	45	石・長・チ		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36	10/36	10/36			外面剥離している	
140	378	05	3	SE366	16G-7C20		須恵器	無台杯	12.0					石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						
140	379	05	3	SE366	16G-7C20		須恵器	無台杯	13.0					石・長・白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						
140	380	05	3	SK8	16G-6E3		土師器	無台碗 a	(13.5)					石・長		にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		スス	スス			
140	381	05	3	SK8	16G-6E3		土師器	無台碗 a		5.0				長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			7/36						
140	382	05	3	SK9	16G-5E25		土師器	無台碗 a		4.6				長		灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		11/36						
140	383	05	3	SK18	16G-8A20		土師器	無台碗 a	(12.0)					長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
140	384	05	3	SK18	16G-8A25		土師器	無台碗 a	(13.8)					長・赤		にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36				全体に磨耗している		
140	385	05	3	SK33	16G-5C20		土師器	無台碗 a						長・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36						
140	386	05	3	SK46	16G-7B25		土師器	小甕	(11.0)					石・長・赤・白		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
140	387	05	3	SK89	16G-7A25		土師器	無台碗 b						石		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ				1/36						
140	388	05	3	SK89	16G-7A25		土師器	無台碗 a		5.0				長・赤・白		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左		19/36						
140	389	05	3	SK118	16G-7B13		土師器	長甕	21.6					石・長・雲		浅黄橙 (7.5YR8/2)	酸化	カキメ、ヘラケズリ	カキメ				9/36			スス			
140	390	05	3	SK139	16G-7C16		土師器	無台碗 a	(12.0)					長・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
140	391	05	3	SK139	16G-7C16		土師器	小甕	(14.0)					石・長・赤・白		にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
140	392	05	3	SK139	16G-7C16		土師器	長甕	(24.0)					石・長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36				内外面剥離している		
140	393	05	3	SK139	16G-7C16		土師器	小甕		6.0				長・チ・白		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			18/36				全体に磨耗している		
140	394	05	3	SK139	16G-7C16		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				2/36						
140	395	05	3	SK139	16G-7C16	V	須恵器	無台杯	12.0	7.5	2.9	24	63	長	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	12/36	12/36					
140	396	05	3	SK139	16G-7C16		須恵器	無台杯	(12.9)					長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
140	397	05	3	SK139	16G-7C16		須恵器	杯蓋	(16.0)					長	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
141	398	05	3	SK139	16G-7C16		須恵器	大甕						石・長	C	青灰 (5PB5/1)	還元	タタキメ	Ha 当て具痕	De									
141	399	05	3	SK176	16G-7B1		土師器	無台碗 a	(10.0)					長		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
141	400	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	無台碗 a	11.1	5.6	3.0	27	50	石・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り	右	6/36	25/36	15/36					
141	401	05	3	SK191	16G-7B15		土師器	無台碗 a	15.8	6.2	5.2	33	39	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	30/36					

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	産地	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ、 ミガキ			ロクロナデ	ロクロナデ								
141	402	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	無台碗 b	(17.8)				石・長・角		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ、 ミガキ					2/36								
141	403	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	長甕	(22.0)				石・長・雲		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36								
141	404	05	3	SK191	16G-7C11	2	土師器	長甕	(24.0)				石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36								
141	405	05	3	SK191	16G-7C11	1	土師器	長甕	(23.0)				石・長・雲・チ・ 赤		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ	ロクロナデ、 カキメ					3/36								
141	406	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	長甕	23.9				石・長・雲・チ・ 赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36								
141	407	05	3	SK191	16G-7C11	1	土師器	長甕					長・雲・チ・ 赤		橙 (5Y7/6)	酸化	タタキメ	Hb Hc	当て具痕	Hb											
141	408	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	小甕	13.0				石・長・赤・ 白		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36								
141	409	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	小甕	13.0				石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36								
141	410	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	小甕		6.0			石・長・雲・ 赤		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り				8/36							
141	411	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	鍋	(40.0)				長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36			炭化物		全体に剥離している			
141	412	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	仏鉢	(16.4)				石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36								
141	413	05	3	SK191	16G-7C11		土師器	仏鉢	(20.0)				石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36								
141	414	05	3	SK191	16G-7C11		黒色土器	無台碗	14.6				石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ	ロクロナデ、 ミガキ					5/36								
141	415	05	3	SK191	16G-7C11		黒色土器	無台碗		8.0			石・長・雲・ チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ、 ミガキ		糸切り後 ミガキ				7/36							
141	416	05	3	SK191	16G-7C6・ 11		須恵器	無台杯	12.0				石・長	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36						Pit300 接合		
141	417	05	3	SK191	16G-7C11		須恵器	無台杯	11.8	7.2	2.8	24	61	石・長・白	B	オリーブ灰 (5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			10/36	11/36	10/36					
141	418	05	3	SK191	16G-7C11・ 16		須恵器	無台杯	12.0				長	B	暗緑灰 (5G3/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36						SK139 接合		
142	419	05	3	SK191	16G-7B10、 7C11		須恵器	無台杯	12.4	8.0	3.2	26	65	長・チ	B	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左		3/36	36/36	12/36			Pit360・370 接合		
142	420	05	3	SK191	16G-7C11		須恵器	無台杯	12.4	6.4	3.4	27	52	石・長	A	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			10/36	17/36	16/36					
142	421	05	3	SK191	16G-7C11・ 16		須恵器	無台杯	12.0	7.4	2.7	23	62	長	B	暗青灰 (5BG4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			12/36	11/36	10/36			SK139 接合		
142	422	05	3	SK191	16G-6D6、 7C11・23、 7D11	V	須恵器	杯蓋	15.7		2.6	17		長	B	灰白 (10Y7/1)	還元	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ					6/36		18/36			SD2 接合		
142	423	05	3	SK191	16G-6D1、 7B9・10・ 15、7C6・11	1・V	須恵器	杯蓋	14.7					長	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ					18/36					SK232・282、 Pit370、河1 接合		
142	424	05	3	SK191	16G-7B10、 7C11		須恵器	長頸壺	11.9					石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					11/36					SK232 接合		
142	425	05	3	SK191	16G-7C11		須恵器	壺蓋	(12.5)					長	C	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							
142	426	05	3	SK191	16G-7B10・ 20、7C11・ 12、7D11	2・3・ V	須恵器	長頸壺						石・長	B	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ										SK282、Pit368・ 416 接合		
142	427	05	3	SK191	16G-7C11		二彩	托	(4.7)					石・雲		淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36					SX283 同一個体出 土		
142	428	05	3	SK208	16G-6B23		土師器	無台碗 a						石・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36			スス	スス			
142	429	05	3	SK232	16G-7B15		土師器	無台碗 a	13.6	4.8	5.2	38	35	長・チ・赤		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り			4/36	12/36	6/36			全体に磨耗している		
142	430	05	3	SK232	16G-7B15		土師器	無台碗 a		4.6				石・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り				36/36						
142	431	05	3	SK232	16G-7B15		土師器	無台碗 a	(15.8)					長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
142	432	05	3	SK232	16G-7B15		土師器	小甕	(15.0)					石・長・雲・赤・ 白		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
142	433	05	3	SK232	16G-7B15		土師器	小甕	(15.0)					石・長・雲・ 赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36			炭化物				
142	434	05	3	SK232	16G-7B10		土師器	鍋	(42.0)					石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ	ロクロナデ					1/36							
142	435	05	3	SK232	16G-7B15		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ	ロクロナデ、 ミガキ					2/36							
142	436	05	3	SK232	16G-7B10		黒色土器	無台碗	(15.0)					長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ	ロクロナデ、 ミガキ					2/36							

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面		底部	口縁部	底部		全体	内面	外面
142	437	05	3	SK232	16G-6D1, 7B10・14	V	須恵器	無台杯	12.2	7.4	2.9	24	61	長	B	青灰 (5BG5/1)	還元	ロクロナデ		ヘラ切り	右	18/36	31/36	20/36						
142	438	05	3	SK232	16G-7B10		須恵器	無台杯	(11.8)					長・チ	C	にぶい黄橙 (10YR7/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
142	439	05	3	SK232	16G-7B15		須恵器	無台杯	(12.8)					石・長	B	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
142	440	05	3	SK232	16G-7B15		須恵器	杯蓋	(13.9)					長	C	暗紫灰 (5P4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
142	441	05	3	SK232	16G-7B10		須恵器	広口壺	(22.0)					石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
142	442	05	3	SK279	16G-6C6		土師器	無台碗 a		5.0				石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36							
142	443	05	3	SK279	16G-6C6		土師器	無台碗 a	11.9	5.7	3.8	32	48	長・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	12/36	9/36			全体に磨耗している			
142	444	05	3	SK279	16G-6C6		土師器	無台碗 a	12.2	4.0	3.8	31	33	長・赤・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		12/36	4/36	6/36						
143	445	05	3	SK279	16G-6C6		土師器	無台碗 a	11.0	4.5	4.6	42	41	石・長・赤		にぶい橙 (5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	36/36	18/36						
143	446	05	3	SK279	16G-6C6		土師器	無台碗 a	12.0	5.0	4.5	38	42	長		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	36/36	20/36						
143	447	05	3	SK279	16G-6C6		土師器	小甕	(13.0)					石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36								
143	448	05	3	SK279	16G-6C6		土師器	小甕	10.0					石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36								
143	449	05	3	SK279	16G-6C6		黒色土器	無台碗	(15.0)					長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			2/36								
143	450	05	3	SK279	16G-6C6		須恵器	無台杯	(12.8)					石・長	C	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36								
143	451	05	3	SK282	16G-7B10		土師器	長甕						石・雲・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36								
143	452	05	3	SK282	16G-7B10		土師器	鍋	(42.4)					石・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			1/36								
143	453	05	3	SK282	16G-7B10		土師器	小甕		5.3				石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36							
143	454	05	3	SK282	16G-7B10		土師器	鉢		7.0				長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			9/36							
143	455	05	3	SK282	16G-7B10		黒色土器	無台碗		6.8				長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り			10/36				底部外面ヘラ記号「/」			
143	456	05	3	SK282	16G-7B10		須恵器	無台杯	12.0	7.2	3.2	27	60	長	B	オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		14/36	10/36	12/36						
143	457	05	3	SK282	16G-7B5・10	V	須恵器	無台杯	12.5	7.4	3.2	26	59	長	B	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	12/36	36/36	20/36						
143	458	05	3	SK282	16G-7B10		須恵器	無台杯	(12.9)					石・長	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
143	459	05	3	SK282	16G-7B10		緑釉陶器	有台碗	(13.7)					石		灰白 (7.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
143	460	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.0					石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36					図版 70No.5			
143	461	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.0	5.5	4.6	38	46	石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	24/36	13/36						
143	462	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.4	4.8	4.6	37	39	石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	26/36			体部外面墨書「□」 図版 70No.14			
143	463	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・雲・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36					図版 70No.15			
143	464	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 b	14.4	6.0	5.3	37	42	石・長・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		17/36	36/36	21/36			図版 70No.23 赤彩か			
143	465	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 b	14.4	6.0	5.2	36	42	石・長・白		にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ		10/36	23/36	15/36						
143	466	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	14.7	7.1	5.4	36	48	石・長・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36	33/36	34/36			体部外面・倒位墨書「花寺」 図版 70No.4			
143	467	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 b	14.8					石・長・雲		橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ			6/36								
143	468	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 b	15.0	6.5	5.2	35	43	石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ		31/36	30/36	31/36			体部外面墨書「□」 図版 70No.2			
144	469	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	16.0					石・長・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36					図版 70No.20			
144	470	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 b	18.6	8.4	6.3	34	45	石・チ		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		22/36	4/36	15/36			図版 70No.19			
144	471	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.0					石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					図版 70No.13			
144	472	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.6					石・長・雲・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36					図版 70No.16			
144	473	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.0	5.0	4.3	36	42	石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		6/36	14/36	11/36			図版 70No.21			
144	474	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.0					石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36								
144	475	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	13.0					石・長・赤		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			8/36					図版 70No.18			

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)				器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高	34							45	外面	内面		底部	口縁部	底部	全体	内面		外面
144	476	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.8	5.8	4.4	34	45	石・長・角	B	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	36/36	20/36			図版 70No.10		
144	477	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	13.0					石・長・雲・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								図版 70No.12		
144	478	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	13.2					石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								体部外面・横位墨書「口(くち)」図版 70No.25		
144	479	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								図版 70No.24		
144	480	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	(13.2)					石・長・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								図版 70No.26		
144	481	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 b	17.8					石・長・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ										
144	482	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 b	17.8	7.8	6.2	35	44	石・長・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		12/36	36/36	16/36			体部外面・正位墨書「万」図版 70No.1		
144	483	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	11.8	4.5	4.1	35	38	石・長・チ・白・海		橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	18/36			図版 70No.3		
144	484	05	3	SK291	16G-5D22, 7C13	1	土師器	無台碗 a	13.2	4.8	4.3	33	36	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	15/36	36/36	20/36			底部外面墨書「万」河1接合		
144	485	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.5	5.4	4.2	34	43	石・長・白・角		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	18/36	36/36	26/36			体部外面・倒位墨書「万」図版 70No.6		
144	486	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.0					石・長・雲・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								図版 70No.11		
144	487	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	(14.0)					石・長・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								図版 70No.7		
144	488	05	3	SK291	16G-7C13		土師器	無台碗 a	12.7	5.8	4.3	34	46	長		橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	21/36	18/36			内面割離している図版 70No.9		
144	489	05	3	SK291	16G-7C13		黒色土器	無台碗	14.3					石・長		灰白 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ										
144	490	05	3	SK291	16G-7C13		黒色土器	無台碗	(13.0)					石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ								図版 70No.22		
144	491	05	3	SK291	16G-7C13		黒色土器	無台碗	13.1	5.5	4.1	31	42	石・長		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		20/36	36/36	27/36			図版 70No.17		
144	492	05	3	SK291	16G-7C13		黒色土器	無台碗	(14.3)					石・雲・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ										
144	493	05	3	SK291	16G-7C13		黒色土器	無台碗	(14.3)					石・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ								図版 70No.27		
144	494	05	3	SK291	16G-7C13		黒色土器	無台碗	(14.3)					石・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ								図版 70No.28		
145	495	05	3	SK292	16G-7C18		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・赤		橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
145	496	05	3	SK292	16G-7C13		土師器	小甕	(15.0)					石・長・赤		明黄褐 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								炭化物 スス		
145	497	05	3	SK292	16G-7C18		土師器	鍋	(43.7)					長・雲・チ・赤		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
145	498	05	3	SK304	16G-6C12		土師器	無台碗 a		5.0				石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り									
145	499	05	3	SK307	16G-6D6, 7B15, 7C6・11・23・25	V	須恵器	杯蓋	14.7		2.7	18		長	B	オリーブ灰 (5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ									SK191・282、SD2接合 SK307はSK191に切られて消滅した遺構である	
145	500	05	3	SK310	16G-6C8		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・雲・白		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
145	501	05	3	SK310	16G-6C8		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
145	502	05	3	SK319	16G-6C13		土師器	無台碗 a	12.2	4.7	3.8	31	39	石・長・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	11/36					
145	503	05	3	SK319	16G-6C13		土師器	無台碗 a		5.0				石・長・雲・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右								
145	504	05	3	SK320	16G-6C12		土師器	仏鉢	(18.2)					長・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
145	505	05	3	SK322	16G-6C19		黒色土器	無台碗	(14.2)					石		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ										
145	506	05	3	SK325	16G-6C19		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
145	507	05	3	SK336	16G-7C4		須恵器	杯蓋	(14.6)					石・長	B	緑灰 (7.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ										

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考		
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面		底部	口縁部	底部	全体	内面		外面	
145	508	05	3	SK351	16G-6C18		土師器	小甕		5.7				石・長・雲・赤・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		14/36							
145	509	05	3	SK351	16G-6C18		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・雲		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				3/36							
145	510	05	3	SK351	16G-6C19		須恵器	無台杯	(11.8)					長・チ	B	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
145	511	05	3	SK351	16G-6C19		須恵器	無台杯	12.1	8.0	3.4	28	66	石・長	B	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			5/36	9/36	6/36					
145	512	05	3	SK362	16G-7B20		土師器	小甕		6.0				石・長・赤・白		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			21/36						底部外面剥離している	
145	513	05	3	SK362	16G-7B20	V	須恵器	無台杯	12.3	7.0	3.3	27	57	石・長	B	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	16/36	31/36	24/36						
145	514	05	3	SK362	16G-7B20		須恵器	無台杯	11.8	7.0	2.8	24	59	石・長	B	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	7/36	11/36	9/36						
145	515	05	3	SK363	16G-7C5		土師器	無台碗 a	(12.0)					石・長・赤・白		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
145	516	05	3	SK363	16G-7C5		須恵器	長頸壺	9.0					石・長	C	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36							
145	517	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	無台碗 a	12.7	5.6	4.2	33	44	石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			12/36	18/36	14/36					
145	518	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	無台碗 a	15.0					石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36							
145	519	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	無台碗 a	12.0	5.0	4.0	33	42	石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			7/36	11/36	13/36					
145	520	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	無台碗 a	12.6	5.4	4.5	36	43	石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	20/36	36/36	22/36						
145	521	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	無台碗 a		5.2				石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36							
145	522	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	長甕						石・長・赤		酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				1/36							
145	523	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	小甕	(14.0)					石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
146	524	05	3	SK365	16G-7C15		土師器	鍋	(39.7)					石・長・赤・白		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
146	525	05	3	SK365	16G-7C15		黒色土器	無台碗	15.6					石・長・赤		酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				4/36						内面剥離している	
146	526	05	3	SK365	16G-7C15		黒色土器	無台碗	15.6					石・雲		酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				6/36							
146	527	05	3	SK365	16G-7C15		須恵器	無台杯	12.8					石・長	B	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						折縁杯か	
146	528	05	3	SK365	16G-7C15		須恵器	有台杯	(13.0)					石・長	B	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
146	529	05	3	SK365	16G-7C15		須恵器	大甕						石・長	C	還元	タタキメ	Hb 当て具痕	Ha										
146	530	05	3	SK385	16G-7C14		土師器	無台碗 a	(12.4)					石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
146	531	05	3	SK397	16G-7C15		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
146	532	05	3	SK399	16G-6C20		土師器	長甕						石・長・赤・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36							
146	533	05	3	SK400	16G-6C20		土師器	無台碗 a	(14.0)					石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
146	534	05	3	SK400	16G-6C15		土師器	無台碗 a	11.6	4.0	4.3	37	34	石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			9/36	10/36	9/36					
146	535	05	3	SK400	16G-6C20		土師器	無台碗 a	11.3	4.2	4.2	37	37	石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			10/36	36/36	14/36					
146	536	05	3	SK400	16G-6C20		須恵器	無台杯	(11.9)					長・チ	B	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
146	537	05	3	SK432	16G-6D21		土師器	無台碗 b	12.9	6.0	4.1	32	47	石・長・赤		酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ			2/36	9/36	5/36					
146	538	05	3	SK432	16G-6D21		土師器	無台碗 a		7.0				石・長・赤・白		酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り			9/36							
146	539	05	3	SX19	16G-8B2		土師器	無台碗 b	(14.1)					石・長		酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				2/36							
146	540	05	3	SX19	16G-8B2		土師器	無台碗 a	14.1					石・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36							
146	541	05	3	SX19	16G-8B2		土師器	無台碗 a	13.0	4.6	4.3	33	35	石・長		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			22/36	22/36	20/36					
146	542	05	3	SX19	16G-8B2		土師器	無台碗 a	12.5	5.0	4.2	34	40	石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	32/36	20/36				炭化物スス		
146	543	05	3	SX19	16G-8B2		土師器	無台碗 a		4.2				石・チ		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36						底部外面墨書「万」	
146	544	05	3	SX19	16G-8B2		土師器	長甕	(24.0)					長・白		酸化	ロクロナデ	カキメ				2/36							
146	545	05	3	SX19	16G-8B1		土師器	小甕	(13.0)					石・長・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
146	546	05	3	SX19	16G-8B1		土師器	鉢	(11.0)					石・長・チ		酸化	ロクロナデ	ナデ				2/36							



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ			ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ								
146	547	05	3	SX19	16G-8B2		土師器	仏鉢	(16.0)					石・長・雲・赤		C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
146	548	05	3	SX19	16G-8B2		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・長・赤			浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				2/36						
146	549	05	3	SX19	16G-8B2		黒色土器	無台碗	(15.1)					石・白			浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				3/36							
146	550	05	3	SX19	16G-7D11, 8B2		須恵器	長頸壺	(12.0)					石・長・白			灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36					SD380 接合		
147	551	05	3	SX87	16G-6D18		土師器	無台碗 a		5.0				石			にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			9/36							
147	552	05	3	SX92	16G-8B9		須恵器	有台杯	11.5	5.8	4.3	37	50	石・長・白		B	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		18/36	36/36	27/36					
147	553	05	3	SX283	16G-7C7		土師器	無台碗 a	(14.0)					長・雲			黄橙 (7.5YR8/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
147	554	05	3	SX283	16G-7C12		土師器	無台碗 a	(13.2)					石・長・雲			浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36			炭化物	スス			
147	555	05	3	SX283	16G-7C12		土師器	長甕	(24.0)					石・長・チ			橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
147	556	05	3	SX283	16G-7C12		土師器	無台碗 a	(16.7)					石・長・雲・赤・角			明赤褐 (5YR5/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
147	557	05	3	SX283	16G-7C7・12		土師器	小甕	12.0					石・長			浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36							
147	558	05	3	SX283	16G-7C7		土師器	小甕	(16.0)					石・長・白			浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
147	559	05	3	SX283	16G-7C12		土師器	小甕		6.0				石・長・白・角			外面: にぶい橙 (5YR6/4) 内面: 浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ				8/36							
147	560	05	3	SX283	16G-7C17		土師器	鍋	(41.8)					石・長・チ・角			にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
147	561	05	3	SX283	16G-7C12		黒色土器	無台碗	(16.1)					石			浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36							
147	562	05	3	SX283	16G-7C17		黒色土器	無台碗						石・長			浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				1/36							
147	563	05	3	SX283	16G-7C12		須恵器	無台杯	11.6	7.4	3.3	28	64	長		B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			12/36	10/36	9/36					
147	564	05	3	SX283	16G-7C11・12		須恵器	無台杯	12.6	7.5	2.8	22	60	石・長		B	青灰 (5BG5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右		30/36	30/36	30/36				SK191 接合	
147	565	05	3	SX283	16G-7C12・17		須恵器	無台杯	11.8	6.8	3.2	27	58	長		B	オリーフ灰 (5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		6/36	16/36	9/36					
147	566	05	3	SX283	16G-7C17		須恵器	無台杯	12.6	7.6	2.9	23	60	石・長・白		B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			1/36	9/36	2/36					
147	567	05	3	SX283	16G-7C17		須恵器	無台杯	(12.8)	(8.9)	(2.4)	(19)	(70)	長		B	青灰 (5BG5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			2/36	5/36	1/36					
147	568	05	3	SX283	16G-7C12		須恵器	無台杯	13.0					長		B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36							
147	569	05	3	SX283	16G-7C12・16・17		須恵器	無台杯	13.1	7.5	3.1	24	57	長・白		B	灰 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		6/36	11/36	7/36				SK139 接合	
147	570	05	3	SX283	16G-7C7		須恵器	杯蓋	(14.5)					長		B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
147	571	05	3	SX283	16G-7C12		須恵器	長頸壺	12.0					長		B	灰白 (N8/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36							
147	572	05	3	SX283	16G-7B15, 7C11・12		須恵器	短頸壺		10.0				石・長		C	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ	ヘラ切り			12/36						SK191・232 接合	
147	573	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 a	11.8	4.2	4.1	35	36	石・長・赤			浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		14/36	36/36	19/36					
147	574	05	3	SX357	16G-7C15		土師器	無台碗 a	11.9	5.0	3.7	31	42	長・雲・チ			にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		17/36	36/36	22/36			スス		
147	575	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 a	12.4	5.2	4.3	35	42	石・赤			浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			14/36	29/36	20/36					
147	576	05	3	SX357	16G-7C9		土師器	無台碗 a	12.5	5.5	4.9	39	44	石・長・赤			浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			13/36	23/36	17/36				底部外面ヘラ記号「X」	
147	577	05	3	SX357	16G-7C9・10		土師器	無台碗 a	12.5					石・長・雲・赤			にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				17/36							
148	578	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 a	13.1	6.2	4.1	31	47	石・長・雲・チ			浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		19/36	36/36	28/36					
148	579	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 a	13.8	5.0	4.7	34	36	石・長・赤・白			浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			13/36	16/36	16/36				底部外面ヘラ記号「X」	
148	580	05	3	SX357	16G-7C9		土師器	無台碗 a	13.6					長・雲・チ			にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36							
148	581	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 b	(14.0)					石・長・海			橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				3/36							
148	582	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 a		5.0				石・長			浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り			36/36					底部外面ヘラ記号「J」		
148	583	05	3	SX357	16G-7C9		土師器	無台碗 b		7.5				長・雲・チ			にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ			11/36							

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ							
148	584	05	3	SX357	16G-7C9		土師器	無台碗 b	12.0	5.5	4.3	36	46	石・長・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				5/36	13/36	9/36							
148	585	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 b	12.0					石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				9/36									
148	586	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	無台碗 b	14.2	6.0	5.2	37	42	石・長・チ	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			8/36	20/36	20/36			赤彩か				
148	587	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	長甕	25.0					石・長・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				9/36									
148	588	05	3	SX357	16G-7C9		土師器	長甕 (18.4)						石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				3/36									
148	589	05	3	SX357	16G-7C9		土師器	小甕 (13.9)						石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36									
148	590	05	3	SX357	16G-7C9		土師器	小甕 (14.0)						石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36									
148	591	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	小甕 (13.9)						石・長・雲・チ・赤・角	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36									
148	592	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	小甕 (16.0)						石・長・角	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36					炭化物	スス			
148	593	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	鉢		8.7				石・長・チ・赤・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヘラケズリ	ハケメ、カキメ				10/36									
148	594	05	3	SX357	16G-7C10		土師器	仏鉢 (20.0)						石・長	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36									
148	595	05	3	SX357	16G-7C10		黒色土器	無台碗		5.6				石・長・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			21/36									
148	596	05	3	SX357	16G-7C10		黒色土器	無台碗	14.0					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				9/36									
148	597	05	3	SX357	16G-7C9・10		黒色土器	無台碗	14.3	5.5	4.9	34	38	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			12/36	30/36	20/36			スス				
148	598	05	3	SX357	16G-7C10		黒色土器	無台碗	14.8					石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				5/36									
148	599	05	3	SX357	16G-7C10・15, 7D6		黒色土器	無台碗	15.0	6.0	5.0	33	40	石	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			9/36	14/36	13/36			SK365、SD157 接合				
148	600	05	3	SX357	16G-7C10・15	V	黒色土器	無台碗	15.8					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				5/36									
148	601	05	3	SX357	16G-7C9・10		黒色土器	無台碗 (18.7)						石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				2/36									
148	602	05	3	SX357	16G-7C10		須恵器	無台杯 (12.9)						長	B 灰白 (5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36									
148	603	05	3	SX357	16G-7C10		須恵器	無台杯 (11.8)						長	B 緑灰 (10G6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36					折縁杯か				
148	604	05	3	SX371	16G-7D6		土師器	無台碗 a	12.7	5.6	3.8	30	44	長・雲・赤	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		2/36	34/36	15/36			口縁部かなり破損している				
148	605	05	3	SX371	16G-7D11		土師器	無台碗 a		6.0				長・赤・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				12/36								
149	606	05	3	SX371	16G-7D16		土師器	無台碗 a	11.7	5.0	3.9	33	43	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			15/36	15/36	18/36			全体に磨耗している				
149	607	05	3	SX371	16G-7D16		土師器	無台碗 a	12.1	5.0	3.6	30	41	白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			4/36	23/36	15/36			口縁部全体に摩滅している				
149	608	05	3	SX371	16G-7D6		土師器	無台碗 a		6.0				長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			6/36					底部外面墨書「口」			
149	609	05	3	SX371	16G-7D11		土師器	無台碗 a	13.0					石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36									
149	610	05	3	SX371	16G-7D16		土師器	無台碗 a	13.3	5.0	4.2	32	38	石・長	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			4/36	17/36	12/36							
149	611	05	3	SX371	16G-7D6		土師器	鍋						石・長・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ				1/36									
149	612	05	3	SX371	16G-7D6		土師器	有台碗		4.8				石	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ				9/36								
149	613	05	3	SX371	16G-7D6		黒色土器	無台碗	14.0					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				5/36									
149	614	05	3	SX371	16G-7D6		黒色土器	無台碗 (14.7)						石・赤	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36									
149	615	05	3	SX371	16G-7D11		黒色土器	無台碗 (15.0)						石	灰白 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36					外面剥離している				
149	616	05	3	SX371	16G-7D16		黒色土器	無台碗		5.3				石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ				36/36					底部外面ヘラ記号「J」			

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)				器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高	手法							口径部	底部	全体		内面	外面					
												外面													内面	底部			
149	617	05	3	SX371	16G-7D6		須恵器	無台杯	12.0					長	B	緑灰 (10G5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						
149	618	05	3	SX371	16G-7D16		須恵器	無台杯	11.8	7.0	2.9	25	59	長・チ	B	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			2/36	9/36	2/36				
149	619	05	3	SX371	16G-7D11		須恵器	無台杯	12.8					長・チ	B	灰オリーブ (5Y6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						
149	620	05	3	SX371	16G-7D11		須恵器	有台杯		(7.9)				長	B	灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36					
149	621	05	3	SX371	16G-7D16		須恵器	長頸壺	13.1					長・白	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ				11/36						
149	622	05	3	SX371	16G-6C12, 7C2, 7D16	V a	緑釉陶器	有台碗	13.6					石・白		灰オリーブ (5Y6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						SK320 接合
149	623	05	3	SX419	16G-7C5		土師器	無台碗 a	12.5	4.6	3.7	30	37	石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			30/36	36/36	35/36				
149	624	05	3	SX419	16G-7C5		土師器	無台碗 a	12.4					石・長・雲・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						
149	625	05	3	SX419	16G-7C5		土師器	無台碗 b	16.0					石・長・角		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				4/36						
149	626	05	3	SX419	16G-7C5		土師器	仏鉢 (15.8)						石・長		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
149	627	05	3	SX419	16G-7C5		須恵器	無台杯 (12.8)						長・チ	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
149	628	05	3	SX439	16G-7D1・2		土師器	無台碗 a	12.0					石・長・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36						
149	629	05	3	SX439	16G-7D1		土師器	無台碗 a	14.0					石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36						体部外面墨書「口口(くち)」
149	630	05	3	SX439	16G-7D1		土師器	無台碗 b (12.5)						石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				3/36						
149	631	05	3	SX439	16G-7D1		土師器	無台碗 b		6.0				石・長・白		外面：にぶい橙 (7.5YR7/3) 内面：にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			20/36						
149	632	05	3	SX439	16G-6D21, 7D1		土師器	無台碗 b	14.0					石・長・角・海		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				4/36						
149	633	05	3	SX439	16G-7D2		土師器	小甕	14.0					石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36						
149	634	05	3	SX439	16G-6D21		土師器	小甕		5.9				石・長・赤・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		32/36						
149	635	05	3	SX439	16G-7D1		黒色土器	無台碗 (13.8)						長		灰白 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				3/36						
149	636	05	3	SX439	16G-7D1		黒色土器	無台碗 (15.0)						石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36						
149	637	05	3	SX439	16G-7D1		黒色土器	無台碗		5.5				石・長・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			8/36						
149	638	05	3	SX439	16G-7C6・11, 7D1	V	須恵器	有台杯		6.4				石・長	B	オリーブ灰 (5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			15/36						SK191 接合
149	639	05	3	SX439	16G-7D2		緑釉陶器	有台碗						長		灰白 (5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ										
150	640	05	3	SD2	16G-5C24		土師器	無台碗 a		4.6				石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			36/36						
150	641	05	3	SD2	16G-6D6		土師器	小甕		6.0				石・長・チ・赤・角		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			5/36						
150	642	05	3	SD2	16G-7D3		黒色土器	無台碗						石		灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36						
150	643	05	3	SD2	16G-6C10		須恵器	無台杯 (13.0)						石・長・白	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
150	644	05	3	SD2	16G-7D4		須恵器	杯蓋 (15.0)						石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
150	645	05	3	SD2	16G-6D17		緑釉陶器	有台碗		5.4				石		明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ			15/36						
150	646	05	3	SD15	16G-7B6		土師器	無台碗 b (19.8)						長・雲・チ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ				3/36						
150	647	05	3	SD15	16G-7A25		土師器	無台碗 a		4.8				石・チ		にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36						
150	648	05	3	SD15	16G-7A25		土師器	長甕						長・チ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36						
150	649	05	3	SD15	16G-8B11		土師器	鍋 (40.0)						石・長・チ・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36						
150	650	05	3	SD15	16G-8B1		土師器	長甕		10.2				石・長・チ・赤・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ヘラケズリ	指頭疔痕、ロクロナデ	ナデ			9/36						
150	651	05	3	SD15	16G-7A10		須恵器	無台杯 (12.0)						石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
150	652	05	3	SD15	16G-7A20		須恵器	有台杯		7.0				石・長・白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		17/36						
150	653	05	3	SD15	16G-7B21・23, 8B4	V	須恵器	大甕	23.0					石・長・白	C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36						
150	654	05	3	SD15	16G-7B6		須恵器	甕	6.0					石・長・白	D	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36						西古志産

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考						
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部			口縁部	底部	全体	内面	外面	
150	655	05	3	SD17	16G-8B21		土師器	無台碗 a	12.0	4.2	4.5	38	35	石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	9/36	18/36	18/36			全体に表面剥離・磨耗している				
150	656	05	3	SD17	16G-8B21		土師器	無台碗 a	13.0	4.2	4.6	35	32	石・長・白・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	8/36	36/36	10/36	スス						
150	657	05	3	SD17	16G-8B2		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・長		黒褐 (7.5YR2/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36			スス						
150	658	05	3	SD17	16G-8B2		土師器	無台碗 a		5.4				石・長		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			15/36								
150	659	05	3	SD17	16G-8B16		土師器	仏鉢	(15.8)					石・長・角		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
150	660	05	3	SD17	16G-8B21		土師器	長甕	19.6					石・長・赤・白		明黄褐 (10YR6/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36					内面剥離している				
150	661	05	3	SD17	16G-8B21		土師器	長甕	19.8					石・長・赤・角		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ				6/36									
150	662	05	3	SD17	16G-7B23		土師器	鍋	(40.0)					石・長・赤・白・角		灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36									
150	663	05	3	SD17	16G-7B23		黒色土器	無台碗	(13.9)					石・長		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ				2/36									
150	664	05	3	SD17	16G-8B7		黒色土器	無台碗		7.6				石・長		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			11/36								
150	665	05	3	SD17	16G-8B16		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
150	666	05	3	SD17	16G-7B15		須恵器	無台杯	12.0	7.5	3.2	27	63	石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		3/36	13/36	7/36							
150	667	05	3	SD22	16G-8A15		土師器	小甕	(11.8)					石・長・赤		にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
150	668	05	3	SD22	16G-8A15		黒色土器	無台碗	11.8					石・長		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ				4/36									
150	669	05	3	SD35	16G-7A24		土師器	無台碗 a	(12.8)					石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36									
150	670	05	3	SD35	16G-8A5・8B2		土師器	長甕	(21.7)					石・長		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
151	671	05	3	SD84	16G-6B10		土師器	無台碗 a	(11.8)					長・赤		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
151	672	05	3	SD84	16G-7B7		土師器	無台碗 a		5.0				石・長・赤		にぶい黄橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			23/36								
151	673	05	3	SD84	16G-7B8		土師器	小甕		7.0				長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			8/36								
151	674	05	3	SD84	16G-6B19		黒色土器	無台碗	(11.8)					角		にぶい赤褐 (5YR5/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ				3/36									
151	675	05	3	SD84	16G-6B24		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長・白	B	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
151	676	05	3	SD84	16G-7B8		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長・白	C	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
151	677	05	3	SD106	16G-7B12		土師器	無台碗 b		5.5				長・雲・赤		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			36/36								
151	678	05	3	SD106	16G-7B12		土師器	無台碗 a		4.6				長・赤		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ		糸切り	右		27/36								
151	679	05	3	SD106	16G-7B12		土師器	無台碗 a	12.9					石・長・雲・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36									
151	680	05	3	SD128	16G-6C20		土師器	無台碗 a	(12.7)					石・長		にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
151	681	05	3	SD128	16G-6C22		黒色土器	無台碗						石・長		暗灰黄 (2.5Y5/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ				1/36									
151	682	05	3	SD128	16G-7B4		須恵器	無台杯	(13.0)					石・長	C	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36									
151	683	05	3	SD128	16G-6C23		須恵器	無台杯	13.0					石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				5/36									
151	684	05	3	SD128	16G-7B8		須恵器	長頸壺		14.0				石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					4/36								
151	685	05	3	SD157	16G-7D6		土師器	無台碗 a	12.6					長・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				11/36					SD380 接合				
151	686	05	3	SD157	16G-7D6		土師器	無台碗 a	13.7					石・長・赤・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36									
151	687	05	3	SD157	16G-7D6		土師器	無台碗 a	13.7					石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				11/36									
151	688	05	3	SD157	16G-7D6		土師器	無台碗 b		5.3				長・雲		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			6/36								
151	689	05	3	SD157	16G-7D6	V	土師器	無台碗 b	14.1	4.5	5.1	36	32	石・長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ		3/36	16/36	16/36							
151	690	05	3	SD157	16G-7D6		土師器	無台碗 b	(13.8)					石・長		橙 (2.5YR6/8)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ				3/36			炭化物	スス					
151	691	05	3	SD157	16G-7D6		土師器	長甕						長		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36									

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面		底部	口縁部	底部		全体	内面	外面
151	692	05	3	SD157	16G-7C17		土師器	小甕					石・長・チ・白		橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36			スス				
151	693	05	3	SD157	16G-7D6		土師器	鍋	(40.0)				石・長・チ		暗灰黄 (2.5Y5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36							
151	694	05	3	SD157	16G-7D6		黒色土器	無台碗	(15.8)				石・長		にぶい橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					2/36							
151	695	05	3	SD157	16G-7D6		黒色土器	無台碗		5.5			石・赤		灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ミガキ		糸切り後ミガキ			20/36							
151	696	05	3	SD157	16G-7D6		黒色土器	無台碗	15.5	6.5	5.9	38	42	石・赤・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ		23/36	36/36	23/36					
151	697	05	3	SD157	16G-7D6		黒色土器	無台碗		5.5			石・赤		灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			8/36							
151	698	05	3	SD157	16G-7C15		須恵器	無台杯	13.0				石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
151	699	05	3	SD157	16G-7D6		須恵器	無台杯	12.0				石・長・白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36							
151	700	05	3	SD157	16G-7D6		須恵器	無台杯	12.0				石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36							
151	701	05	3	SD157	16G-7C21		須恵器	無台杯	13.0				石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
151	702	05	3	SD157	16G-8B5		緑釉陶器	香炉蓋	(14.9)				石		明オリープ灰(2.5GY7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
151	703	05	3	SD261	16G-6B20		須恵器	杯蓋	(14.0)				石・長・白	C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
151	704	05	3	SD277	16G-6C13		土師器	無台碗 a		5.4			長・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右		13/36					表面やや剥離している		
151	705	05	3	SD277	16G-6C13		土師器	無台碗 a		4.4			長・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り			18/36							
151	706	05	3	SD277	16G-6C12		須恵器	無台杯	(12.0)				石・長・白	B	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
151	707	05	3	SD277	16G-6C12		須恵器	無台杯	12.0	7.0	4.1	34	58	石・長・白	B	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		1/36	10/36	4/36					
152	708	05	3	SD277	16G-6C12		須恵器	長頸壺	(7.0)				石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
152	709	05	3	SD297	16G-6C1		土師器	無台碗 a	12.8				長・赤・白		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
152	710	05	3	SD297	16G-6C1		黒色土器	無台碗	(13.6)				石		にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					2/36							
152	711	05	3	SD335	16G-7C4		土師器	無台碗 b					長・赤・白		橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					1/36							
152	712	05	3	SD335	16G-7C9		土師器	小甕	(12.6)				石・長		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
152	713	05	3	SD342	16G-6D21		土師器	無台碗 a	11.9				石・長		にぶい橙 (5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36							
152	714	05	3	SD342	16G-6D21		土師器	小甕					石・長・チ・赤		橙 (5YR6/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36							
152	715	05	3	SD342	16G-6D21		黒色土器	無台碗					石		橙 (2.5YR6/8)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					1/36							
152	716	05	3	SD343	16G-7C9		土師器	無台碗 b		5.7			石・長		橙 (2.5YR6/8)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			6/36							
152	717	05	3	SD380	16G-7D6		土師器	無台碗 a	11.8	4.9	4.0	34	42	長・赤		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右	1/36	20/36	10/36			口縁磨滅している		
152	718	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	無台碗 a	12.4	4.7	4.0	32	38	石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	左	1/36	14/36	10/36					
152	719	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	無台碗 a	12.6				石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					9/36					外面磨耗している		
152	720	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	無台碗 a	13.9				石・赤		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36							
152	721	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	無台碗 a	14.0	4.6	5.0	36	33	石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り		35/36	36/36	35/36					
152	722	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	無台碗 b	20.0	7.2	6.9	35	36	石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		糸切り後ケズリ		8/36	36/36	21/36					
152	723	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	無台碗 b	(19.8)				石・長・赤		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ					2/36							
152	724	05	3	SD380	16G-7D6		土師器	無台碗 a	11.9				石・長・赤		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36							
152	725	05	3	SD380	16G-7D6		土師器	無台碗 a		6.0			石・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り			25/36					底部外面墨書「口」 底部外面ヘラ記号「×」		
152	726	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	長甕	21.8				石・長・チ・白・角		にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
152	727	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	小甕	14.0				長・チ・角		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36							
152	728	05	3	SD380	16G-7D11		土師器	小甕	13.9				石・長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36			炭化物	スス			
152	729	05	3	SD380	16G-7C10, 7D11		黒色土器	無台碗	13.6	5.7	4.8	35	42	石・長・赤・白		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ		14/36	36/36	14/36			SX357 接合		



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考						
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部			口縁部	底部	全体	内面	外面	
																		ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り		ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ							ヘラ切り
152	730	05	3	SD380	16G-7D11		黒色土器	無台碗	14.8	6.3	5.9	40	43	石・長・海		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り		18/36	25/36	18/36									
152	731	05	3	SD380	16G-7D11		黒色土器	無台碗			5.8			石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			36/36				底部外面墨書「□」						
152	732	05	3	SD380	16G-7D11		黒色土器	無台碗	14.4					石・白		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			7/36											
152	733	05	3	SD380	16G-7D11		須恵器	無台杯	12.0					石・長・白	B	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36											
152	734	05	3	SD380	16G-7D11		須恵器	無台杯	(12.0)					石・長・白	B	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36											
152	735	05	3	SD380	16G-7D11		須恵器	杯蓋	(16.0)					石・長・白	C	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
152	736	05	3	SD388	16G-6C19		須恵器	無台杯	12.0					石・長・白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36											
153	737	05	3	SD424	16G-7D6		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・長・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36											
153	738	05	3	SD424	16G-7D6		土師器	無台碗 a	(12.9)					石・長		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	739	05	3	SD424	16G-7D1		土師器	無台碗 a						石・長・赤・白		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36											
153	740	05	3	SD424	16G-7D6		黒色土器	無台碗	(16.0)					石		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			2/36											
153	741	05	3	SD424	16G-7D6		黒色土器	無台碗	13.5	5.8	5.4	40	43	石・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		1/36	11/36	3/36									
153	742	05	3	SD424	16G-7D6		須恵器	無台杯						石・長・白	B	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36											
153	743	05	3	SD445	16G-7B8		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・長・赤		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	744	05	3	SD445	16G-7B8		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・長・赤		明褐 (7.5YR5/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	745	05	3	SD445	16G-7B8		須恵器	無台杯	11.8	7.3	2.8	23	62	石・長・白	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	2/36	17/36	11/36									
153	746	05	3	Pit56	16G-7A14, 7B11		緑釉陶器	有台皿						長		灰白 (5Y8/2)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ														
153	747	05	3	Pit97	16G-7B11		土師器	無台碗 a	(12.8)					石		橙 (7.5YR6/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	748	05	3	Pit97	16G-7B11		須恵器	無台杯						石・長	C	オリーブ灰 (5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36											
153	749	05	3	Pit97	16G-7B11		須恵器	無台杯	(12.8)					石・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	750	05	3	Pit134	16G-6B23		土師器	仏鉢	(16.0)					石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36											
153	751	05	3	Pit143	16G-8B5		土師器	無台碗 a		5.8				長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			9/36			底部外面墨書「□」							
153	752	05	3	Pit143	16G-8B5		土師器	長甕	(20.0)					石・長・雲・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			3/36											
153	753	05	3	Pit147	16G-8C2		須恵器	杯蓋						石・長	C	赤灰 (5R6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36											
153	754	05	3	Pit152	16G-7B19		土師器	無台碗 a	(12.2)					石・長・雲・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	755	05	3	Pit152	16G-7B19		須恵器	無台杯	12.0	7.0	3.0	25	58	石・長	B	緑灰 (7.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		1/36	4/36	5/36									
153	756	05	3	Pit161	16G-7C17		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・長・雲・赤		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			3/36											
153	757	05	3	Pit161	16G-7C17		須恵器	有台杯	(14.0)					石・白	B	オリーブ灰 (5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	758	05	3	Pit163	16G-8C2		土師器	無台碗 a	11.0	5.4	4.2	38	49	石・長・雲		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		2/36	9/36	4/36									
153	759	05	3	Pit214	16G-7B18		須恵器	無台杯	11.9					白	B	青灰 (5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36											
153	760	05	3	Pit269	16G-7C8		土師器	無台碗 b	(16.0)					石・長・白		にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ			1/36				体部外面・正位墨書「寺」							
153	761	05	3	Pit269	16G-7C8		土師器	無台碗 b	(13.0)					石		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			3/36											
153	762	05	3	Pit270	16G-7C8		土師器	無台碗 a	(13.6)					石・長		にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36											
153	763	05	3	Pit270	16G-7C8		土師器	無台碗 a	10.9					石・長・雲・チ		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36											
153	764	05	3	Pit270	16G-7C8		土師器	無台碗 a						長・チ		橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							体部外面・倒位墨書「□」							
153	765	05	3	Pit271	16G-7C8		土師器	無台碗 a	(14.0)					石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	766	05	3	Pit272	16G-7C14		土師器	無台碗 a	12.5	5.3	3.9	31	42	石・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		14/36	17/36	14/36									
153	767	05	3	Pit272	16G-7C14		土師器	無台碗 b	(16.3)					石・長		橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			3/36			炭化物	スス							
153	768	05	3	Pit273	16G-7C9		土師器	無台碗 a	(12.6)					石・長		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36											
153	769	05	3	Pit275	16G-7C19		土師器	無台碗 a	(12.3)					石・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											
153	770	05	3	Pit288	16G-7C24		土師器	小甕	(13.9)					石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36											

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	産地	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		還元	酸化	ロクロナデ		還元	酸化	ロクロナデ							
153	771	05	3	Pit300	16G-7C6		土師器	無台碗 a	12.2	5.4	3.5	29	44	石・長・白	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		6/36	34/36	24/36							
153	772	05	3	Pit300	16G-7C6		土師器	小甕	11.0					石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36								
154	773	05	3	Pit300	16G-7B10, 7C6	V	須恵器	無台杯	11.5	7.0	2.7	23	61	長	B 暗青灰 (5BG4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	29/36	36/36	32/36			SK282 接合					
154	774	05	3	Pit300	16G-7C6		須恵器	無台杯	(13.0)					長	B オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36								
154	775	05	3	Pit328	16G-6C2		須恵器	無台杯	(13.0)					石・長	B オリーブ灰 (5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36								
154	776	05	3	Pit347	16G-7C14		土師器	無台碗 a						石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36								
154	777	05	3	Pit349	16G-7C14		土師器	無台碗 a	13.3	5.6	4.1	31	42	長・チ・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	35/36	36/36	35/36								
154	778	05	3	Pit352	16G-7C10		須恵器	無台杯	(12.0)					長	B 緑灰 (7.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36								
154	779	05	3	Pit353	16G-7C5		土師器	無台碗 a	11.7	5.0	4.0	34	43	長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	31/36	36/36	34/36								
154	780	05	3	Pit353	16G-7C5		土師器	無台碗 b	14.4	6.2	4.6	32	43	石・長・白	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			14/36	13/36	14/36							
154	781	05	3	Pit353	16G-7C5		土師器	無台碗 b	(17.0)					石・長	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					2/36								
154	782	05	3	Pit353	16G-7C5		須恵器	無台杯	(12.8)					白	C オリーブ灰 (5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36								
154	783	05	3	Pit353	16G-7C5		土師器	鍋	(40.0)					石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ					2/36								
154	784	05	3	Pit368	16G-7D11		土師器	無台碗 b	(12.8)					石	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					2/36								
154	785	05	3	Pit368	16G-7D6		黒色土器	無台碗	(13.8)					石・長	褐灰 (7.5YR4/1)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					2/36								
154	786	05	3	Pit368	16G-7D11		黒色土器	無台碗	14.0					石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					5/36								
154	787	05	3	Pit368	16G-7D11		須恵器	無台杯						石・長・チ	B 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左							底部外面墨書「万」				
154	788	05	3	Pit370	16G-7C6		土師器	無台碗 b	12.2					石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					5/36								
154	789	05	3	Pit370	16G-7C6		須恵器	無台杯						石・白	B 緑灰 (7.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36								
154	790	05	3	Pit370	16G-7B10, 7C6・11		須恵器	無台杯	12.8	7.8	3.4	27	61	長	B オリーブ灰 (5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	5/36	19/36	15/36			SK191 接合					
154	791	05	3	Pit376	16G-6C6		土師器	無台碗 a	(12.1)					石	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36								
154	792	05	3	Pit381	16G-6B14		須恵器	直口壺	8.3					石・白	C 赤灰 (5R6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					7/36								
154	793	05	3	Pit395	16G-7C9		土師器	無台碗 a		5.0				石	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		9/36									
154	794	05	3	Pit407	16G-7B10		土師器	無台碗 b	(12.5)					石	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					2/36								
154	795	05	3	Pit411	16G-7D11		須恵器	無台杯	(13.0)					長	C 灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36								
154	796	05	3	Pit414	16G-7C20		土師器	無台碗 a	(13.4)					石	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36			スス					
154	797	05	3	Pit416	16G-7C12		須恵器	無台杯	12.8					長・白	B 灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36								
154	798	05	3	Pit421	16G-7D1		黒色土器	無台碗	(14.0)					石・長・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					3/36								
154	799	05	3	Pit421	16G-7D1		須恵器	無台杯	11.9					長・白	B オリーブ灰 (2.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36				口縁部に意図的と思われる欠損部分がある				
154	800	05	3	Pit423	16G-7C10		土師器	小甕		7.0				石・長・雲・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		10/36									
154	801	05	3	Pit448	16G-7A14		土師器	無台碗 a	13.0					石・長・白・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36								
154	802	05	3	Pit450	16G-7C13		須恵器	無台杯	12.0	7.0	2.6	21	58	長・白	B オリーブ灰 (2.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36	13/36	10/36						
155	803	05	3	河 1. 1層	16G-6D10	1	土師器	無台碗 a	11.8	4.4	4.2	36	37	赤	漆橙 (5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	35/36	36/36	33/36								
155	804	05	3	河 1. 1層	16G-6D2・3	1	土師器	無台碗 a	11.8	5.0	4.3	36	42	石・長・赤	褐灰 (10YR5/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	20/36	12/36								
155	805	05	3	河 1. 1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	11.8	4.7	4.1	35	40	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	14/36	36/36	17/36								
155	806	05	3	河 1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	11.8	4.4	4.5	38	37	石・長・チ・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	15/36								
155	807	05	3	河 1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	11.8	4.8	4.2	36	41	長・チ・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	36/36	26/36								
155	808	05	3	河 1. 1層	16G-6D9, 6E11・12	1~3	土師器	無台碗 a	11.9	4.8	3.9	33	40	長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	26/36								
155	809	05	3	河 1. 1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	11.9	5.0	4.0	34	42	長・チ・赤	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		12/36	36/36	24/36			全体に摩耗している					
155	810	05	3	河 1. 1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	11.8	4.8	4.4	37	41	石・白	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	7/36	36/36	20/36								
155	811	05	3	河 1. 1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	11.9	5.2	4.2	35	44	長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	20/36	墨痕		転用碗か					

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							
155	812	05	3	河1.1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	11.9	4.0	4.2	35	34	長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	11/36	7/36	墨痕		転用税					
155	813	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	11.9	5.2	4.0	34	44	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36	36/36	15/36								
155	814	05	3	河1.1層	16G-6D5	1	土師器	無台碗 b	12.0	4.5	4.1	34	38	石・長・チ	灰白 (2.5Y7/1)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ	右	27/36	36/36	27/36		スス						
155	815	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	12.0	5.0	3.7	31	42	長・チ・赤	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	21/36	15/36								
155	816	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	(12.0)	5.5	4.0	(33)	(46)	チ・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	9/36	6/36								
155	817	05	3	河1.1層	16G-5D21・22, 6D2	1	土師器	無台碗 a	12.0	5.0	4.5	38	42	長・チ・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	10/36								
155	818	05	3	河1.1層	16G-6D10	1	土師器	無台碗 a	12.0	5.0	4.3	36	42	長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	7/36	18/36	10/36								
155	819	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a	12.0	4.8	3.8	32	40	長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	19/36	36/36	30/36								
155	820	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	12.1	5.0	4.3	36	41	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	25/36								
155	821	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.0	4.6	4.0	33	38	石・長・雲・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	34/36	27/36								
155	822	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	11.9	5.0	4.0	34	42	長・赤	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	20/36								
155	823	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	12.3	5.8	4.2	34	47	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	28/36	15/36								
155	824	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.2	5.5	4.3	35	45	石・雲・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	20/36	炭化物	スス						
156	825	05	3	河1.1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	12.1	5.0	4.3	36	41	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	36/36	25/36	墨痕							
156	826	05	3	河1.1層	16G-5D21	1	土師器	無台碗 a	12.2	6.0	4.3	35	49	石・長	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	20/36	36/36	28/36			底部外面へラ記号「X」					
156	827	05	3	河1.1層	16G-6D7	1	土師器	無台碗 a	12.3	5.2	4.5	37	42	石・長	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	36/36	34/36								
156	828	05	3	河1.1層	16G-5D22	1	土師器	無台碗 a	12.3	5.5	3.7	30	45	石・雲・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	28/36	25/36	スス		表面剥離している					
156	829	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a	12.4	5.2	4.0	32	42	石・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	18/36			底部外面墨書「万」					
156	830	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	12.3	6.0	3.6	29	49	石・長・赤・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	15/36	10/36			全体に摩耗している					
156	831	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.3	5.4	4.2	34	44	石・長・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	7/36	16/36	11/36	スス	スス						
156	832	05	3	河1.1層	16G-6D8・9	1	土師器	無台碗 a	12.4	5.0	4.4	35	40	長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	36/36	18/36			底部欠けている					
156	833	05	3	河1.1層	16G-6D15, 6E11・16	1~3	土師器	無台碗 a	12.4	5.3	4.0	32	43	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	34/36	28/36	34/36			底部外面へラ記号「X」					
156	834	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.4	4.8	4.2	34	39	石・長・赤	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	30/36								
156	835	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	無台碗 a	12.4	5.0	4.4	35	40	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	20/36	36/36	25/36								
156	836	05	3	河1.1層	16G-5C20, 5D12・16	1	土師器	無台碗 a	12.5	5.5	4.4	35	44	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	18/36	36/36	29/36	炭化物	スス						
156	837	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	無台碗 a	12.5	4.4	3.5	28	35	石・長・赤	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	27/36	36/36	34/36			底部外面へラ記号「J」					
156	838	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a	12.6	4.4	4.1	33	35	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	17/36			底部外面墨書「Z」記号様					
156	839	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a	12.6	4.7	4.4	35	37	石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	18/36	スス							
156	840	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	12.5	3.9	4.2	34	31	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	35/36	30/36								
156	841	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	12.7	5.0	4.4	35	39	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	35/36	36/36	35/36								
156	842	05	3	河1.1層	16G-6D10	1	土師器	無台碗 a	12.6	4.8	4.0	32	38	石	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	36/36	24/36								
157	843	05	3	河1.1層	16G-6D15・20, 6E11・16	1~3	土師器	無台碗 a	12.6	5.6	3.9	31	44	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	25/36			底部外面へラ記号「X」					
157	844	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	12.8	4.9	4.1	32	38	石・長・チ・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	18/36			底部外面へラ記号「X」					
157	845	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a	12.8	5.0	4.0	31	39	石・長・チ・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	12/36								
157	846	05	3	河1.1層	16G-6D3	1	土師器	無台碗 a	12.8	5.5	3.9	30	43	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	10/36								
157	847	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	12.9	4.6	4.2	33	36	長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	9/36	15/36								
157	848	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	無台碗 a	13.0	5.2	4.7	36	40	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	23/36	36/36	23/36								
157	849	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	13.0					チ	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		右	5/36					体部外面墨書「□」絵か全体に剥離している					
157	850	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	13.0	4.5	4.3	33	35	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	36/36	14/36	炭化物	スス						
157	851	05	3	河1.1層	16G-6E11・16	1	土師器	無台碗 a	13.0	5.8	4.3	33	45	石・長・チ・白・角	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	13/36	10/36								
157	852	05	3	河1.1層	16G-6D9	1~3	土師器	無台碗 a	13.0	5.0	4.3	33	38	石・長・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	14/36	36/36	18/36			底部外面墨書「万」体部外面・横位墨書「□(□カ)」					

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	産地	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			口縁部	底部		全体	内面	外面
																		ロクロナデ	ミガキ	ケズリ		ロクロナデ	ミガキ	ケズリ						
157	853	05	3	河1. 1層	16G-6D7	1	土師器	無台碗 a	13.4	4.8	5.2	39	36	長・チ・赤	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	5/36	36/36	18/36			全体に磨耗している				
157	854	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a	14.0	5.0	5.2	37	36	長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	5/36	36/36	18/36			底部外面へラ記号「X」				
157	855	05	3	河1. 1層	16G-5D22・24	1~3	土師器	無台碗 a	12.9	5.2	5.0	39	40	石・長・白・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	8/36	36/36	9/36							
157	856	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a	14.2	5.0	5.5	39	35	長・赤	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	5/36	33/36	15/36							
157	857	05	3	河1. 1層	16G-6D15, 6E11・16	1~3	土師器	無台碗 a	14.5	5.8	4.9	34	40	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	16/36	36/36	20/36							
157	858	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	14.2	5.5	5.2	36	39	石・長・赤・海	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	13/36	36/36	24/36							
157	859	05	3	河1. 1層	16G-5D21・22	1	土師器	無台碗 b	14.6	5.5	5.6	38	38	石・長・チ	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		糸切り後ケズリ		14/36	36/36	25/36			全体に剥離している				
157	860	05	3	河1. 1層	16G-5C15, 5D11・16	1	土師器	無台碗 a	15.6	6.8	5.0	32	44	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	18/36	18/36	16/36							
157	861	05	3	河1. 1層	16G-6E11・16	1~3	土師器	無台碗 a	14.5	5.5	5.1	35	38	石・長・チ	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	33/36	36/36	30/36							
157	862	05	3	河1. 1層	16G-6D8・9・13・14, 6E11	1~3	土師器	無台碗 a	17.3	6.8	5.1	29	39	石・長・チ・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	29/36	36/36	30/36							
157	863	05	3	河1. 1層	16G-6D3	1	土師器	無台碗 a		4.4				石・雲	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り		18/36					底部外面墨書「口」				
158	864	05	3	河1. 1層	16G-6D4・5・9	1~3	土師器	無台碗 a	14.7	5.0	5.6	38	34	石・チ	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	27/36	36/36	27/36	漆	漆					
158	865	05	3	河1. 1層	16G-6D7	1	土師器	無台碗 a		4.8				石・長・雲・チ	淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右		36/36		漆	漆					
158	866	05	3	河1. 1層	16G-5D22・23	1	土師器	無台碗 a		5.0				長・雲・チ・海	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	22/36			漆		外面剥離している				
158	867	05	3	河1. 1層	16G-5D23	1~3	土師器	無台碗 a	18.8	7.5	5.6	30	40	石・雲・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	14/36	19/36	17/36			底部外面へラ記号「J」 内外面剥離している				
158	868	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1~3	土師器	無台碗 b	11.8	4.6	4.3	36	39	赤・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ				10/36	31/36	10/36							
158	869	05	3	河1. 1層	16G-6D3	1	土師器	無台碗 b	12.5	6.0	4.8	38	48	石・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		糸切り後ケズリ		8/36	30/36	24/36							
158	870	05	3	河1. 1層	16G-6D2・3・8	1	土師器	無台碗 b	13.9	6.0	4.9	35	43	石・長	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		糸切り後ケズリ		23/36	36/36	30/36							
158	871	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 b	14.2	6.0	4.5	32	42	長・チ・赤	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		糸切り後ケズリ		5/36	13/36	9/36			内面剥離している				
158	872	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	15.0	5.8	5.5	37	39	長	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		糸切り	右	7/36	36/36	10/36							
158	873	05	3	河1. 1層	16G-5D11・16	1	土師器	無台碗 b	16.0	7.0	6.8	43	44	石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ		2/36	11/36	7/36							
158	874	05	3	河1. 1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 b (16.8)	7.5	6.1	36	45	45	長・チ・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ		2/36	10/36	6/36			内外面剥離している				
158	875	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 b (18.6)	8.4	7.2	39	45	45	石・長・チ・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ		3/36	6/36	5/36							
158	876	05	3	河1. 1層	16G-6D2・3	1	土師器	無台碗 b	6.0					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		糸切り後ケズリ			36/36								
158	877	05	3	河1. 1層	16G-6D13・14	1	土師器	無台碗 a	11.7	4.4	4.2	35	38	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	16/36	13/36	18/36							
158	878	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	11.8	5.0	3.8	32	42	石・長・チ・赤	橙 (2.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	4/36	17/36	10/36							
158	879	05	3	河1. 1層	16G-6D13・14	1	土師器	無台碗 a	12.6	5.0	3.5	28	40	長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	25/36	36/36	30/36							
158	880	05	3	河1. 1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a	12.8	5.0	4.4	34	39	石・長・白	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	4/36	32/36	15/36							
158	881	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1~3	土師器	無台碗 a	12.5	5.0	4.1	33	40	石・長・赤・白	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	18/36	36/36	22/36							
158	882	05	3	河1. 1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a	10.5					石・雲・チ	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り		7/36					体部外面墨書「口」				
159	883	05	3	河1. 1層	16G-6D3	1	土師器	無台碗 a	12.6	4.8	4.3	34	38	長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	2/36	36/36	15/36							
159	884	05	3	河1. 1層	16G-6D1	1	土師器	無台碗 a	12.6	5.4	4.8	38	43	石・チ・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	4/36	29/36	6/36			底部外面墨書「口」				
159	885	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1~3	土師器	無台碗 a	12.9	5.0	4.5	35	39	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		糸切り	右	18/36	36/36	21/36	スス						

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			口縁部	底部		全体	内面	外面
																		糸切り	ケズリ	ミガキ		糸切り	ケズリ	ミガキ						
159	886	05	3	河1. 1層	16G-6D3・8	1	土師器	無台碗 a	12.9	5.0	3.7	29	39	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	20/36							
159	887	05	3	河1. 1層	16G-5D16・21	1	土師器	無台碗 a	12.1	4.5	4.3	36	37	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	36/36	28/36			全体に磨耗している				
159	888	05	3	河1. 1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	12.5	5.0	4.2	34	40	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	20/36	36/36	25/36							
159	889	05	3	河1. 1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a	13.0	4.7	4.0	31	36	石・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	8/36	36/36	16/36			底部外面墨書「万」				
159	890	05	3	河1. 1層	16G-5D21	1	土師器	無台碗 a	12.3	5.5	4.5	37	45	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	31/36	スス						
159	891	05	3	河1. 1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	12.6	5.0	4.3	34	40	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	24/36	36/36	32/36							
159	892	05	3	河1. 1層	16G-5C15, 5D16・21・22	1	土師器	無台碗 a	12.0	5.0	4.0	33	42	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	30/36	36/36	33/36							
159	893	05	3	河1. 1層	16G-6D14	1	土師器	無台碗 a						長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								体部外面・倒位墨書「口」				
159	894	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	13.2	5.3	4.2	32	40	石・長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	29/36			底部外面墨書「万」				
159	895	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1~3	土師器	無台碗 a	13.0	5.5	4.0	31	42	石・長・赤	灰白 (2.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	32/36							
159	896	05	3	河1. 1層	16G-6E16	1	土師器	無台碗 a	13.2	5.0	3.8	29	38	長・赤・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	22/36			全体に摩耗している				
159	897	05	3	河1. 1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	13.4	5.8	3.8	28	43	石	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	27/36	15/36			炭化物				
159	898	05	3	河1. 1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	13.7	5.0	4.3	31	36	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	15/36							
159	899	05	3	河1. 1層	16G-5D22	1	土師器	無台碗 a	13.9	6.0	3.6	26	43	石・長・雲・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	15/36	35/36	27/36							
159	900	05	3	河1. 1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a		4.0				赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			8/36				底部外面墨書「口」				
160	901	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a	14.5	6.0	5.0	34	41	長・雲・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	16/36	9/36			底部外面墨書「口」 表面剥離している				
160	902	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 b	15.0	5.7	5.1	34	38	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		4/36	36/36	13/36							
160	903	05	3	河1. 1層	16G-5D21	1	土師器	無台碗 a	11.4	5.0	4.0	35	44	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	26/36	36/36	31/36							
160	904	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.1	4.5	4.2	35	37	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	15/36							
160	905	05	3	河1. 1層	16G-6D1・2	1	土師器	無台碗 a	11.8	5.0	3.9	33	42	長・赤・白	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	26/36	10/36							
160	906	05	3	河1. 1層	16G-6D3	1	土師器	無台碗 a	12.3	4.8	4.6	38	39	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	12/36			底部外面墨書「万」				
160	907	05	3	河1. 1層	16G-6D7	1	土師器	無台碗 a	12.4	5.7	4.7	38	46	石・長・赤・白	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		8/36	36/36	20/36							
160	908	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.3	6.0	4.0	33	49	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	18/36	14/36							
160	909	05	3	河1. 1層	16G-6D3	1	土師器	無台碗 a	12.4	5.0	4.5	36	40	石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	36/36	25/36							
160	910	05	3	河1. 1層	16G-6D7	1	土師器	無台碗 a	12.5	5.0	4.4	35	40	石・長	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	20/36							
160	911	05	3	河1. 1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	12.5	4.1	4.3	34	33	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	7/36	36/36	10/36			底部外面墨書「上口 [万カ]」				
160	912	05	3	河1. 1層	16G-6D13・14	1	土師器	無台碗 a	12.5	5.9	4.2	34	47	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	33/36	20/36							
160	913	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1~3	土師器	無台碗 b	12.6	4.3	4.5	36	34	雲・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ			3/36	26/36	4/36			底部外面墨書「万」				
160	914	05	3	河1. 1層	16G-6D10	1	土師器	無台碗 a	12.6	6.0	4.2	33	48	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	18/36	36/36	22/36							
160	915	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.6	5.0	4.5	36	40	石・長・雲・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	18/36							
160	916	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.2	5.5	3.9	32	45	石・長・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	28/36	28/36	炭化物	スス	底部外面へラ記号「×」				
160	917	05	3	河1. 1層	16G-6D13・14	1	土師器	無台碗 a	12.7	4.8	4.2	33	38	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		12/36	9/36	10/36							
160	918	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.6	5.0	4.3	34	40	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		6/36	12/36	9/36							
160	919	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a		4.6				石・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		14/36				底部外面墨書「口」				
161	920	05	3	河1. 1層	16G-5D16	1	土師器	無台碗 a	12.6	5.2	4.4	35	41	石・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	19/36	36/36	18/36							
161	921	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a	12.8	4.7	3.5	27	37	長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	21/36	12/36	スス						
161	922	05	3	河1. 1層	16G-5D14・16	1~3	土師器	無台碗 a	12.9	4.9	4.2	33	38	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	36/36	20/36							
161	923	05	3	河1. 1層	16G-5D7	1	土師器	無台碗 a		5.2				石・長・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		13/36					体部外面墨書「口」 横位か			



図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	産地	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			付着物		備考						
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部			口縁部	底部	全体	内面	外面	
161	924	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a							石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				右	1/36					体部外面・正位墨書「大・大」 体部内面・正位墨書「大・大」 習書		
161	925	05	3	河1.1層	16G-5D21	1	土師器	無台碗 a	12.8	4.6	4.5	35	36	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	7/36	36/36	7/36				底部外面墨書「万」			
161	926	05	3	河1.1層	16G-5D21	1	土師器	無台碗 a	12.8	5.2	4.3	33	41	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	26/36	36/36	30/36				底部外面墨書「口」			
161	927	05	3	河1.1層	16G-6D4	1~3	土師器	無台碗 a	12.8	5.2	4.0	31	41	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	18/36	36/36	31/36				底部外面墨書「口」 体部外面・横位墨書「口」			
161	928	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	12.8	5.0	4.0	31	39	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	26/36	36/36	33/36				体部外面・横位墨書「道」			
161	929	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	12.8	5.6	3.9	30	44	石・長・チ・白・角		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	14/36	12/36	13/36							
161	930	05	3	河1.1層	16G-6D15	1~3	土師器	無台碗 a	13.0	6.0	3.9	30	46	石・長・白		にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	5/36	12/36	8/36							
161	931	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	土師器	無台碗 a	13.8	4.8	4.2	30	35	石・長		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	8/36	36/36	30/36							
161	932	05	3	河1.1層	16G-6D10	1~3	土師器	無台碗 a	13.0	5.3	4.3	33	41	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	21/36	36/36	30/36							
161	933	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a	12.8	5.2	4.2	33	41	石・長・赤		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	18/36	36/36	20/36							
161	934	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a		4.4				チ・赤		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		36/36					底部外面墨書「口 [万カ]			
161	935	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	13.0	5.3	4.8	37	41	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	9/36	32/36	26/36	炭化物				底部外面墨書「万」		
161	936	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	13.2	4.2	4.2	32	32	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	29/36	36/36	33/36				底部外面墨書「口」 体部外面・横位墨書「口 [寺カ]			
162	937	05	3	河1.1層	16G-6D3・7・8	1	土師器	無台碗 a	13.0	5.9	4.0	31	45	長・チ・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	11/36	14/36	10/36							
162	938	05	3	河1.1層	16G-6D4・9	1	土師器	無台碗 a	13.8					石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					4/36								
162	939	05	3	河1.1層	16G-6D4	1	土師器	無台碗 a	13.8	6.0	4.1	30	43	石・長・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	2/36	12/36	7/36							
162	940	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a	15.2	5.5	5.5	36	36	石・長・赤		浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	17/36	36/36	30/36							
162	941	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	土師器	無台碗 a	18.1	6.0	6.8	38	33	石・長・赤・白		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	4/36	36/36	16/36							
162	942	05	3	河1.1層	16G-6D3・4	1~3	土師器	無台碗 b		6.0				雲・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、 ケズリ		ロクロナデ		糸切り後 ミガキ			30/36						底部外面墨書「口 [万カ]」 内面剥離している		
162	943	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a		5.0				石・チ・白		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		8/36					底部外面墨書「口」			
162	944	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a		5.0				石・雲・チ		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		32/36						底部外面墨書「万」		
162	945	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a		5.2				石・長・雲・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		12/36						底部外面墨書「口」		
162	946	05	3	河1.1層	16G-6D1	1	土師器	無台碗 a		5.6				石・長		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		27/36						底部外面墨書「万」		
162	947	05	3	河1.1層	16G-5D22	1	土師器	無台碗 a		5.0				石・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			5/36			墨痕			底部外面墨書「口 [万カ]		
162	948	05	3	河1.1層	16G-6D14	1	土師器	無台碗 a		4.8				石・雲・チ		灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		14/36						体部外面墨書「口」		
162	949	05	3	河1.1層	16G-6D20	1	土師器	無台碗 a		5.2				石・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		34/36						底部外面墨書「口 [万カ]		
162	950	05	3	河1.1層	16G-6D3	1	土師器	無台碗 a		5.5				長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			8/36						底部外面墨書「口」		
162	951	05	3	河1.1層	16G-5C20	1	土師器	無台碗 a		(5.8)				石・長・チ		灰白 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		3/36						底部外面墨書「口」		
162	952	05	3	河1.1層	16G-6D14	1	土師器	無台碗 a		5.2				石・雲・チ		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		14/36						底部外面墨書「口 [万カ]		
162	953	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a		4.8				石・長・雲		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			5/36						底部外面墨書「口」		
162	954	05	3	河1.1層	16G-5D21	1	土師器	無台碗 a		(6.5)				長・チ		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		3/36						底部外面墨書「口」		
162	955	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a		5.0				石・雲・チ		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			5/36						底部外面墨書「口」		
162	956	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a		5.0				石・チ		灰白 (2.5Y8/1)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			4/36						底部外面墨書「口」		
162	957	05	3	河1.1層	16G-6D20	1	土師器	無台碗 a		4.7				長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			14/36						体部外面・倒位墨書「口 [大カ]		
162	958	05	3	河1.1層	16G-6D8	1	土師器	無台碗 a						雲		灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ											体部外面・横位墨書「口」		
162	959	05	3	河1.1層	16G-6D14	1	土師器	無台碗 a						チ		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り									底部外面墨書「口」		
162	960	05	3	河1.1層	16G-6D9	1	土師器	無台碗 a						チ		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ											体部外面墨書「口」		
162	961	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	無台碗 a		(5.0)				石・雲・チ		灰白 (2.5Y8/2)	酸化				ロクロナデ		糸切り			1/36						底部外面墨書「口 [万カ]	

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面		底部	口縁部	底部		全体	内面	外面
																		ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ								
162	962	05	3	河1.1層	16G-5C20、5D16・21	1	土師器	無台碗b	20.4	8.4	7.6	37	41	長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		5/36	27/36	17/36							
162	963	05	3	河1.1層	16G-5D21・22	1	土師器	無台碗b	15.0	7.0	5.8	39	47	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		15/36	3/36	9/36			内面剥離している				
163	964	05	3	河1.1層	16G-5C20	1	土師器	有台碗						石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ							底部外面墨書「口」					
163	965	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	有台碗		(5.0)				石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ		3/36									
163	966	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	長甕	18.0					石・長・チ・白・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ			19/36									
163	967	05	3	河1.1層	16G-6D15・20	1~3	土師器	長甕	19.9					石・長・雲・赤・角	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	タタキメ、ロクロナデ、カキメ	Hc ロクロナデ、カキメ			4/36									
163	968	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	長甕	18.0	8.0	22.0	122	44	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	カキメ、ヘラケズリ	カキメ、ヘラケズリ			6/36	21/36	13/36							
163	969	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	長甕	20.5	9.4	19.3	94	46	石・長・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ、ヘラケズリ	ロクロナデ			10/36	14/36	20/36							
163	970	05	3	河1.1層	16G-6D15、6E16	1	土師器	長甕	(26.0)					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36				スス					
163	971	05	3	河1.1層	16G-6D9・14	1~3	土師器	小甕	10.0					石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			13/36				スス					
163	972	05	3	河1.1層	16G-6D1・2、8C1	1・V	土師器	小甕		6.0				石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	30/36				スス	胴部・下部剥離している				
163	973	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	土師器	小甕		5.2				石・長・チ・赤・白	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36					内面剥離している				
163	974	05	3	河1.1層	16G-5D16・22	1	土師器	小甕	12.0					石・雲・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			14/36									
163	975	05	3	河1.1層	16G-6D3	1	土師器	小甕		5.3				石・長・チ・角	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36				スス					
163	976	05	3	河1.1層	16G-6D14	1	土師器	鍋	(39.9)					石・長・雲・チ・赤・角	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ			1/36									
163	977	05	3	河1.1層	16G-5D16・21	1	土師器	鍋	(42.2)					石・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ			3/36				炭化物	スス				
164	978	05	3	河1.1層	16G-5D16・21	1	土師器	台杯鉢脚部						石・長・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ヘラケズリ	ロクロナデ、カキメ												
164	979	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	土師器	仏鉢	15.9	8.0	7.8	49	50	石・長・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	18/36							
164	980	05	3	河1.1層	16G-6D2・7	1~3	土師器	仏鉢		8.0				石・チ・角	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	33/36									
164	981	05	3	河1.1層	16G-6D14	1	土師器	仏鉢	(16.2)					石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36									
164	982	05	3	河1.1層	16G-6E16	1	土師器	仏鉢	(18.9)					長・チ	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36									
164	983	05	3	河1.1層	16G-6D4	1	黒色土器	無台碗		5.5				雲・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		11/36					底部外面墨書「万」				
164	984	05	3	河1.1層	16G-5D11	1	黒色土器	無台碗	10.4	5.0	4.0	38	48	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		13/36	36/36	28/36							
164	985	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	黒色土器	無台碗	13.0	6.0	4.7	36	46	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		5/36	36/36	20/36							
164	986	05	3	河1.1層	16G-6D1・2	1	黒色土器	無台碗	13.2	6.0	4.8	36	45	長・雲・チ・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		13/36	19/36	16/36							
164	987	05	3	河1.1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗	13.5	6.0	4.5	33	44	石・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		13/36	32/36	24/36			全体に剥離している				
164	988	05	3	河1.1層	16G-6D8・13	1	黒色土器	無台碗	13.8	6.0	4.4	32	43	石・長・雲	灰白 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		12/36	17/36	15/36			外面剥離している				
164	989	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	黒色土器	無台碗	13.8	6.1	5.1	37	44	石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		11/36	25/36	19/36							

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	産地	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			付着物		備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面		底部	口縁部	底部	全体	内面		外面
																		ミガキ	ケズリ	ミガキ		ケズリ						
164	990	05	3	河1. 1層	16G-6D9	1~3	黒色土器	無台碗	14.0	6.8	4.8	34	49	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		7/36	14/36	14/36					
164	991	05	3	河1. 1層	16G-6D20	1	黒色土器	無台碗	13.6	5.9	4.6	34	43	石・長・赤・白	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		7/36	36/36	15/36			体部外面・正位墨書「口」		
164	992	05	3	河1. 1層	16G-5D16・21・22	1	黒色土器	無台碗	13.9	6.0	4.9	35	43	石・長・赤・白	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		12/36	29/36	21/36					
164	993	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗	14.0	6.0	5.3	38	43	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		2/36	35/36	18/36			底部外面墨書「一」		
164	994	05	3	河1. 1層	16G-5C20, 5D16	1	黒色土器	無台碗	14.0	6.3	4.9	35	45	石・長・赤	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		26/36	36/36	34/36					
164	995	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗	14.5	5.6	5.2	36	39	石・長・白	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		13/36	36/36	30/36					
164	996	05	3	河1. 1層	16G-5C15, 5D2・16・24, 6D4	1~3	黒色土器	無台碗	19.0	8.4	6.5	34	44	石・長・赤・白	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		15/36	33/36	17/36			SK6 接合		
164	997	05	3	河1. 1層	16G-6D4・5・7・9・15	1~3	黒色土器	無台碗	19.1	6.0	7.8	41	31	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		9/36	36/36	17/36					
164	998	05	3	河1. 1層	16G-6D8	1	黒色土器	無台碗	13.0	5.0	4.3	33	38	石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ			2/36	21/36	10/36					
164	999	05	3	河1. 1層	16G-6D9・10・14	1~3	黒色土器	無台碗	13.7	5.5	4.4	32	40	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		13/36	36/36	23/36					
164	1000	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1~3	黒色土器	無台碗	14.2	6.0	4.7	33	42	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		16/36	21/36	17/36					
164	1001	05	3	河1. 1層	16G-5D11・16	1~3	黒色土器	無台碗	14.4	5.4	4.7	32	38	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		6/36	14/36	12/36					
164	1002	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗	14.5	5.5	4.7	32	38	石・長・赤	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		13/36	36/36	24/36					
165	1003	05	3	河1. 1層	16G-6D14・15	1	黒色土器	無台碗	14.3	6.0	5.0	35	42	石	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		7/36	9/36	10/36			外面剥離している		
165	1004	05	3	河1. 1層	16G-5D21	1	黒色土器	無台碗		5.5				石・長・赤・白	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			10/36				底部外面墨書「口」		
165	1005	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗		6.7				石・赤・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			33/36				底部外面墨書「口 [万カ]」		
165	1006	05	3	河1. 1層	16G-5D21	1	黒色土器	無台碗		6.5				石・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			10/36				底部外面墨書「口 [万カ]」		
165	1007	05	3	河1. 1層	16G-5E17	1	黒色土器	無台碗	18.3	8.0	7.4	40	44	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		9/36	30/36	19/36			全体に剥離している		
165	1008	05	3	河1. 1層	16G-5D11	1	黒色土器	無台碗	20.0	8.0	7.5	38	40	石・長・白	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		21/36	36/36	27/36		スズ	外面剥離している		
165	1009	05	3	河1. 1層	16G-6D8	1	黒色土器	無台碗		5.0				石・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り	左		36/36				底部外面墨書「上万」		
165	1010	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗		6.0				石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ			5/36				底部外面墨書「口 [万カ]」		
165	1011	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗		6.0				石	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			6/36				底部外面墨書「口 [万カ]」 外面剥離している		
165	1012	05	3	河1. 1層	16G-6D2	1	黒色土器	無台碗		6.0				石・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			15/36				底部外面墨書「上口 [万カ]」		
165	1013	05	3	河1. 1層	16G-6D10	1	黒色土器	無台碗						石・赤・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ							体部外面墨書「口」			
165	1014	05	3	河1. 1層	16G-6D3	1	黒色土器	無台碗		5.0				赤・白	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			7/36				底部外面墨書「口万」		

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	産地	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		ロクロナデ、 ミガキ	ロクロナデ、 ミガキ	ロクロナデ、 ミガキ		糸切り後 ナデ	口縁部	底部							
165	1015	05	3	河1. 1層	16G-6D20	1~3	黒色土器	有台皿	11.4	6.4	2.4	21	56	石・長		灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ						27/36	33/36	30/36					
165	1016	05	3	河1. 1層	16G-6E16	1	黒色土器	有台皿		(7.3)				石・白		浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ							3/36						
165	1017	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	須恵器	無台杯	11.6	6.4	2.9	25	55	石・白	B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	20/36	36/36	30/36			底部外面墨書「つ」 記号様「〇」か			
165	1018	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	須恵器	無台杯	11.8	6.9	3.4	29	58	石・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	25/36	36/36	32/36			底部外面墨書「継人」			
165	1019	05	3	河1. 1層	16G-5D21、 6D2	1	須恵器	無台杯	12.0	6.3	3.2	27	53	石・長・チ	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	10/36	30/36	27/36						
165	1020	05	3	河1. 1層	16G-6D13・ 14	1	須恵器	無台杯	12.0	7.0	3.1	26	58	石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	右	30/36	18/36	16/36						
166	1021	05	3	河1. 1層	16G-6D20	1	須恵器	無台杯	12.0	7.2	3.0	25	60	石・長・チ	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	7/36	18/36	10/36						
166	1022	05	3	河1. 1層	16G-6D14	1	須恵器	無台杯	12.3	7.7	2.8	23	63	長	B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		7/36	9/36	8/36						
166	1023	05	3	河1. 1層	16G-5D21・ 22、6D1	1	須恵器	無台杯	12.6	7.1	3.0	24	56	石・長・チ	B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	右	19/36	26/36	24/36						
166	1024	05	3	河1. 1層	16G-6E6	1	須恵器	無台杯	12.0	7.0	2.8	23	58	石・長・チ	B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	15/36	16/36	16/36	墨痕		底部外面墨書「万」 転用碗か			
166	1025	05	3	河1. 1層	16G-6D8・9	1	須恵器	無台杯	12.1	6.5	3.0	25	54	石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	24/36	35/36	31/36						
166	1026	05	3	河1. 1層	16G-5D12・ 21、6D2	1	須恵器	無台杯	12.6	7.5	3.0	23	60	石・長・白	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	15/36	22/36	18/36						
166	1027	05	3	河1. 1層	16G-5D24	1~3	須恵器	無台杯	12.8	6.8	3.1	24	53	石・長・白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		8/36	19/36	14/36	墨痕		転用碗			
166	1028	05	3	河1. 1層	16G-6D3	1	須恵器	無台杯						石・長	B	灰白 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	右						底部内面墨書「□」			
166	1029	05	3	河1. 1層	16G-5D21	1	須恵器	有台杯	12.4	6.7	5.5	44	54	長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		20/36	35/36	18/36	墨痕		体部外面墨書「□」 転用碗			
166	1030	05	3	河1. 1層	16G-5C15、 5D11	1	須恵器	有台杯	12.8	7.0	6.4	50	55	石・長・白	B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ		ヘラ切り		5/36	9/36	5/36						
166	1031	05	3	河1. 1層	16G-5D16・ 20	1・V	須恵器	有台杯		6.5				石・長	B	緑灰 (10G5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左		9/36							
166	1032	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	須恵器	有台皿		6.3				石・長・白	C	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	右		30/36							
166	1033	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	須恵器	杯蓋	12.8					石・長・チ	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36			墨痕					
166	1034	05	3	河1. 1層	16G-5D17	1	須恵器	杯蓋	15.6		3.1	20		石・長・白	C	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ				8/36		23/36			体部内面へラ記号 「×」			
166	1035	05	3	河1. 1層	16G-6D13・ 14	1	須恵器	杯蓋	14.3		2.9	20		長・白	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ				12/36		17/36						
166	1036	05	3	河1. 1層	16G-6D14、 6E13、7B24	1・V	須恵器	小壺		4.4				石	C	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			35/36							
167	1037	05	3	河1. 1層	16G-6D1~ 3・9・15・ 20、6E16・ 21	1~3	須恵器	大甕	31.0		48.0	155		石・長・雲	C	灰 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ、ハ ケメ	Hc	当て具痕、ハケ メ	Dc			3/36		5/36					
167	1038	05	3	河1. 1層	16G-5C20、 6D20、6E16	1	須恵器	長頸壺						長・チ	B	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ												
167	1039	05	3	河1. 1層	16G-5C15・ 20、5E21、 6C6、6D2・ 4・8・9・13 ~15、6E16	1~3	須恵器	長頸壺		10.9				長	B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			9/36				SK279 接合			
167	1040	05	3	河1. 1層	16G-5C20、 5D21	1	須恵器	大甕	(38.6)					長	C	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ、 タタキメ	Ha	ロクロナデ、当 て具痕	Hb			1/36							
167	1041	05	3	河1. 1層	16G-5C15	1	須恵器	大甕	55.0					長・石	C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ、 波状紋						4/36							
167	1042	05	3	河1. 1層	16G-5C15	1	緑釉陶器	有台碗	12.6	5.4	3.9	31	43	石・長		灰白 (5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ		ロクロナデ、ミ ガキ		ケズリ後 ミガキ		6/36	36/36	27/36					
167	1043	05	3	河1. 1層	16G-6D14	1	緑釉陶器	有台碗	(16.0)					長・チ		灰白 (7.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ		ロクロナデ、ミ ガキ				2/36							
167	1044	05	3	河1. 1層	16G-6D8	1	緑釉陶器	有台碗						石・チ		淡黄 (7.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ		ロクロナデ、ミ ガキ				1/36							
167	1045	05	3	河1. 1層	16G-6D15	1	緑釉陶器	有台碗						長		灰黄 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ、 ミガキ		ロクロナデ、ミ ガキ				1/36							
167	1046	05	3	河1. 1層	16G-6D13	1	緑釉陶器	有台碗						石		灰白 (7.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ		ロクロナデ、ミ ガキ											
167	1047	05	3	河1. 1層	16G-6E16	1	緑釉陶器	有台碗						長		灰白 (10Y7/2)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ		ロクロナデ、ミ ガキ											

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考						
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部			口縁部	底部	全体	内面	外面	
																		ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36							36/36
167	1048	05	3	河1.1層	16G-5C15	1	緑釉陶器	有台碗							淡黄 (7.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ																
167	1049	05	3	河1.1層	16G-6D15	1	緑釉陶器	香炉蓋							灰 (10Y6/1)	還元																	
168	1050	05	3	河1.2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a	11.3	4.6	4.8	42	41	石	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	12/36								内外面剥離している		
168	1051	05	3	河1.2・3層	16G-6D5	2・3	土師器	無台碗 a	11.4	4.4	4.0	35	39	石・長・白	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	12/36										
168	1052	05	3	河1.2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a	12.2	5.6	3.7	30	46	石・長・赤	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	7/36	36/36	20/36								外面ほぼ摩耗している		
168	1053	05	3	河1.2・3層	16G-6D9・10・20	1～3	土師器	無台碗 a	12.1	4.8	4.3	36	40	白	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	23/36	36/36	30/36										
168	1054	05	3	河1.2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 a	11.8	4.8	3.7	31	41	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	1/36	36/36	15/36										
168	1055	05	3	河1.2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 a	12.2	4.2	4.1	34	34	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	15/36										
168	1056	05	3	河1.2・3層	16G-6D15, 6E11	2・3	土師器	無台碗 a	12.2	5.0	3.9	32	41	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	28/36	36/36	30/36										
168	1057	05	3	河1.2・3層	16G-6D5, 6E1・2	2・3	土師器	無台碗 a	12.5	5.5	4.0	32	44	石・長・赤・白	灰白 (7.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	15/36	23/36	23/36										
168	1058	05	3	河1.2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	12.5	3.9	4.1	33	31	石・長・赤・角	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36	36/36	36/36	スス									
168	1059	05	3	河1.2・3層	16G-6E7	2・3	土師器	無台碗 a	12.5	5.0	4.7	37	40	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		12/36	13/36	12/36										
168	1060	05	3	河1.2・3層	16G-6D9・10	2～7	土師器	無台碗 a	12.6	5.5	3.6	29	44	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		22/36	15/36	18/36										
168	1061	05	3	河1.2・3層	16G-6D3・8	2・3	土師器	無台碗 a	12.6	5.5	4.2	33	44	石・長・赤・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	14/36	27/36	18/36										
168	1062	05	3	河1.2・3層	16G-6D9	2・3	土師器	無台碗 a	12.7	5.5	4.2	33	43	石・赤・角	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	24/36	16/36										
168	1063	05	3	河1.2・3層	16G-6D9・10	2・3	土師器	無台碗 a	12.6	4.8	4.2	33	38	石・長・赤	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	20/36										
168	1064	05	3	河1.2・3層	16G-6D3	2・3	土師器	無台碗 a	12.8	6.4	3.9	30	50	石・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	2/36	19/36	9/36									底部外面へラ記号「/」	
168	1065	05	3	河1.2・3層	16G-6D15	1～3	土師器	無台碗 a	12.9	4.2	4.6	36	33	長・赤・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	2/36	30/36	10/36										
168	1066	05	3	河1.2・3層	16G-5D24	2・3	土師器	無台碗 a	13.2	6.0	3.1	23	45	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	10/36	10/36										
168	1067	05	3	河1.2・3層	16G-6D9	2・3	土師器	無台碗 a	13.0	4.8	4.4	34	37	石・長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36	36/36	18/36									底部外面墨書「万」	
168	1068	05	3	河1.2・3層	16G-5D24, 6D5	2・3	土師器	無台碗 a	14.0	5.2	4.8	34	37	石・長・赤・白	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	24/36	36/36	30/36										
168	1069	05	3	河1.2・3層	16G-6D9	1～3	土師器	無台碗 a	13.9	6.5	5.6	40	47	長・赤・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	8/36	36/36	7/36										
168	1070	05	3	河1.2・3層	16G-6D10	1～3	土師器	無台碗 a	14.8	5.2	5.6	38	35	石・長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	34/36	36/36	35/36									体部外面・横位墨書「万」	
168	1071	05	3	河1.2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	14.0	5.4	5.9	42	39	石・長・赤・雲	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	35/36	36/36	32/36										
169	1072	05	3	河1.2・3層	16G-6D10・15	1～3	土師器	無台碗 a	15.5	5.5	6.3	41	35	石・長・赤・白	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	30/36	36/36	30/36										
169	1073	05	3	河1.2・3層	16G-6D14・15, 6E11	1～3	土師器	無台碗 a	17.2	6.2	5.7	33	36	石・長・赤・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	36/36	28/36										
169	1074	05	3	河1.2・3層	16G-6D3・4	2・3	土師器	無台碗 b	13.8	6.0	5.2	38	43	長・赤・赤	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		13/36	10/36	10/36										
169	1075	05	3	河1.2・3層	16G-6D3・4・8・9	1～3	土師器	無台碗 b	16.7	7.2	6.1	37	43	石・長・赤・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		16/36	23/36	23/36									体部外面墨書「口」内外面剥離している	
169	1076	05	3	河1.2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a		5.0				石・赤・海	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		15/36									体部外面・倒位墨書「口」		
169	1077	05	3	河1.2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a	(11.0)					石	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36										体部外面墨書「口」		
169	1078	05	3	河1.2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 a	11.2	3.8	3.4	30	34	石・長・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	14/36	15/36										
169	1079	05	3	河1.2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 b	19.2	8.0	7.8	41	42	石・長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		4/36	6/36	6/36									底部外面墨書「万」内外面剥離している	
169	1080	05	3	河1.2・3層	16G-6D9	2・3	土師器	無台碗 a	11.8	4.8	4.5	38	41	長・雲	明黄褐 (10YR6/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	10/36										
169	1081	05	3	河1.2・3層	16G-6D15, 6E11	1～3	土師器	無台碗 a	12.0	4.6	4.3	36	38	石	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	13/36	炭化物	スス								
169	1082	05	3	河1.2・3層	16G-6D5	2・3	土師器	無台碗 a	12.1	5.0	4.1	34	41	長	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	36/36	20/36	スス									
169	1083	05	3	河1.2・3層	16G-5D20	2・3	土師器	無台碗 a	12.1	5.0	4.0	33	41	白	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	15/36	36/36	20/36									内面剥離している	
169	1084	05	3	河1.2・3層	16G-6D4	2・3	土師器	無台碗 a	12.2	5.4	4.5	37	44	石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	36/36	15/36										



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り							
169	1085	05	3	河1. 2・3層	16G-6E7	2・3	土師器	無台碗 a	12.2	5.5	3.8	31	45	石・長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ			右	28/36	36/36	30/36								
169	1086	05	3	河1. 2・3層	16G-6D3・4・9, 6E11	1～3	土師器	無台碗 a	13.0	4.8	4.4	34	37	石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		6/36	9/36	7/36	スス							
169	1087	05	3	河1. 2・3層	16G-6D9	1～3	土師器	無台碗 b	12.4	5.2	4.1	33	42	長・チ・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ		10/36	29/36	12/36								
169	1088	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	12.3	4.8	4.2	34	39	石・長・チ・白	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	23/36	36/36	30/36			体部外面・正位墨書「万」 体部外面・横位墨書「口」「万カ」					
169	1089	05	3	河1. 2・3層	16G-6D8	2・3	土師器	無台碗 a	12.7	5.0	3.9	31	39	石・長・チ・白	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	31/36	36/36	34/36	スス		底部外面墨書「口」「田カ」 燈明か					
169	1090	05	3	河1. 2・3層	16G-6E6	2・3	土師器	無台碗 a	12.7	5.1	3.4	27	40	長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	2/36	36/36	6/36			体部外面墨書「口」					
169	1091	05	3	河1. 2・3層	16G-6D14・15	1～3	土師器	無台碗 a	12.8	5.1	4.0	31	40	石・長・チ	にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	15/36	10/36			赤彩か					
169	1092	05	3	河1. 2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a	12.7	5.0	4.2	33	39	長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	36/36	15/36								
169	1093	05	3	河1. 2・3層	16G-6D9	2・3	土師器	無台碗 a	12.6	4.8	4.1	33	38	長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	23/36	36/36	20/36			歪んでいる					
169	1094	05	3	河1. 2・3層	16G-6D3	2・3	土師器	無台碗 a						石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36					体部外面墨書「口」					
170	1095	05	3	河1. 2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a	12.8	4.8	4.7	37	38	石・長・チ・赤・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		7/36	11/36	9/36								
170	1096	05	3	河1. 2・3層	16G-6D5	2・3	土師器	無台碗 a	12.8	5.0	4.4	34	39	石・白・長・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		10/36	20/36	15/36			外面剥離している					
170	1097	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 a	14.4					石・チ・海	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36					体部外面墨書「口」					
170	1098	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15・20	2・3	土師器	無台碗 a	18.4	6.2	5.0	27	34	石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	28/36	36/36	32/36								
170	1099	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a		6.4				石・長・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36									
170	1100	05	3	河1. 2・3層	16G-5D11	2・3	土師器	無台碗 a	11.5	4.6	4.5	39	40	石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	9/36	36/36	20/36								
170	1101	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	12.0	5.5	3.7	31	46	長・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	27/36	10/36			底部外面ヘラ記号「×」					
170	1102	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	12.0	5.0	4.5	38	42	石	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	2/36	14/36	8/36								
170	1103	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	12.3	5.5	3.9	32	45	石・長	褐灰 (10YR6/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	15/36	26/36	20/36			内面剥離している					
170	1104	05	3	河1. 2・3層	16G-6D4	2・3	土師器	無台碗 a	12.8	5.0	4.6	36	39	長	黄褐 (2.5Y5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	31/36	30/36	炭化物							
170	1105	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	12.6	4.8	4.1	33	38	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	18/36								
170	1106	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	13.0	5.4	4.1	32	42	石・長・雲	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	20/36	墨痕		底部外面墨書「口」「万カ」 底部内面墨書「口」					
170	1107	05	3	河1. 2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a	13.9	5.1	4.6	33	37	石・チ・赤	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り	右	3/36	36/36	4/36	墨痕		底部外面墨書「万」					
170	1108	05	3	河1. 2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	無台碗 a	13.0	5.0	4.6	35	38	長・チ	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	9/36	6/36								
170	1109	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 a	14.3	5.9	5.7	40	41	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	18/36								
170	1110	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a	15.3	5.1	5.5	36	33	石・長・チ	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	30/36	12/36								
170	1111	05	3	河1. 2・3層	16G-5D10	2・3	土師器	無台碗 a						石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36					体部外面墨書「口」					
171	1112	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 a		5.2				石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		31/36				底部外面墨書「万」					
171	1113	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a		4.5				石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36				底部外面墨書「口」「万カ」					
171	1114	05	3	河1. 2・3層	16G-6D5	2・3	土師器	無台碗 b		5.6				石・雲	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			34/36				底部外面墨書「口」					
171	1115	05	3	河1. 2・3層	16G-5E21	2・3	土師器	無台碗 a		4.7				石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36				底部外面墨書「万」					
171	1116	05	3	河1. 2・3層	16G-6D9	2・3	土師器	無台碗 a		5.1				石・チ・海	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		34/36				底部外面墨書「万」					
171	1117	05	3	河1. 2・3層	16G-6E2	2・3	土師器	無台碗 a		4.0				石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		18/36				底部外面墨書「万」					
171	1118	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	無台碗 a		4.4				石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り	右		12/36				底部外面墨書「口」 器面剥離している					
171	1119	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	無台碗 a		4.6				石	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		16/36				底部外面墨書「口」					
171	1120	05	3	河1. 2・3層	16G-6D8	2・3	土師器	無台碗 a		6.0				石・チ	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36									
171	1121	05	3	河1. 2・3層	16G-6D9	2・3	土師器	無台碗 a		(5.0)				石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			1/36				底部外面墨書「口」					
171	1122	05	3	河1. 2・3層	16G-6E3	2・3	土師器	長囊 (18.8)						石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			スス							
171	1123	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	長囊 (20.0)						石・長・赤・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36					1125 と同一個体か					
171	1124	05	3	河1. 2・3層	16G-6D8	2・3	土師器	長囊 (21.0)						石・長・チ	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36										

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法				回転方向	遺存率			付着物		備考		
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面			底部	口縁部	底部	全体	内面		外面	
																		Hc	De	Hc	De									
171	1125	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20, 6E21	2・3	土師器	長囊					石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	タタキメ、ハケメ	Hc	当て具痕、ハケメ	De										1123 と同一個体か	
171	1126	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	土師器	小囊	13.1				石・長	褐灰 (7.5YR4/1)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					8/36							
171	1127	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	土師器	小囊	13.4				石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					9/36							
171	1128	05	3	河1. 2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	小囊		7.0			石・長・白・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右			36/36						
171	1129	05	3	河1. 2・3層	16G-6E11	2・3	土師器	小囊		6.1			石・長・白・角	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ		糸切り	右			29/36			スス			
171	1130	05	3	河1. 2・3層	16G-6D8	2・3	土師器	小囊		7.0			石・長・チ	明褐灰 (7.5YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ		静止糸切り				36/36						
172	1131	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	土師器	小囊		5.5			石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右			36/36			炭化物	スス		
172	1132	05	3	河1. 2・3層	16G-5D12	2・3	土師器	小囊		5.5			石・長・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ		糸切り				36/36						
172	1133	05	3	河1. 2・3層	16G-4D25	2・3	土師器	鍋	(40.0)				石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ						1/36					摩耗している	
172	1134	05	3	河1. 2・3層	16G-6D8	2・3	土師器	鍋	(40.4)				石・長・チ・角	灰黄 (2.5YR6/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ						2/36						
172	1135	05	3	河1. 2・3層	16G-6E2・3・7・8・12	2・3	土師器	仏鉢	16.6	8.3	7.3	44	50	石・長・チ・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	28/36	36/36	28/36					
172	1136	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	土師器	仏鉢	18.0				石・長・チ	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ						4/36						
172	1137	05	3	河1. 2・3層	16G-5D25	2・3	土師器	仏鉢		6.3			長・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右			36/36						
172	1138	05	3	河1. 2・3層	16G-6E7	2・3	土師器	仏鉢	(17.6)				石・長・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ						3/36						
172	1139	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	土師器	仏鉢		6.8			石・長・雲・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右			36/36						
172	1140	05	3	河1. 2・3層	16G-6D14・15	1～3	黒色土器	無台碗	13.0	6.0	5.2	40	46	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			5/36	11/36	10/36				
172	1141	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	黒色土器	無台碗	13.1	5.5	4.6	35	42	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			4/36	9/36	6/36				
172	1142	05	3	河1. 2・3層	16G-6D5, 6E1	2・3	黒色土器	無台碗	13.6	6.0	5.2	38	44	石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			4/36	28/36	18/36			表面剥離している	
172	1143	05	3	河1. 2・3層	16G-6D8	2・3	黒色土器	無台碗	13.4	5.3	4.9	36	40	石・長・雲・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			7/36	22/36	13/36				
172	1144	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15, 6E11	1～3	黒色土器	無台碗	14.0	5.8	5.1	36	41	石	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			15/36	29/36	22/36				
172	1145	05	3	河1. 2・3層	16G-6E6・7	1～3	黒色土器	無台碗	14.3	6.0	4.9	34	42	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			4/36	10/36	7/36				
172	1146	05	3	河1. 2・3層	16G-6D9・14	1～3	黒色土器	無台碗	14.0	6.0	4.9	35	43	石・長・チ・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			6/36	35/36	20/36				
172	1147	05	3	河1. 2・3層	16G-6D4・9	1～3	黒色土器	無台碗	13.4	5.4	4.8	35	40	石・長・赤・白	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			12/36	24/36	17/36				
172	1148	05	3	河1. 2・3層	16G-6D14	2・3	黒色土器	無台碗		5.6				石・雲	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			15/36					底部外面墨書「口」	
172	1149	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	黒色土器	無台碗		6.5				石・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			19/36					底部外面墨書「上口 [万カ]」	
172	1150	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	黒色土器	無台碗		6.0				石・雲	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			7/36					底部外面墨書「上口 [万カ]」	
173	1151	05	3	河1. 2・3層	16G-6D8・13・14	1～3	黒色土器	無台碗	17.7	6.5	5.5	31	37	石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			24/36	36/36	25/36				
173	1152	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20, 6E11	1～3	黒色土器	無台碗	17.5					石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ					13/36					外面摩耗している	
173	1153	05	3	河1. 2・3層	16G-6D9	2・3	黒色土器	無台碗		5.2				雲・チ	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			10/36					底部外面墨書「口」	
173	1154	05	3	河1. 2・3層	16G-5D15, 6D14・15, 6E16	1～3	黒色土器	無台碗	19.4	7.5	7.2	37	39	石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ミガキ			32/36	27/36	30/36			底部外面剥離している	
173	1155	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	黒色土器	無台碗		5.5				石・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			11/36					底部外面墨書「万」上に一字あるか	

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面		底部	口縁部	底部		全体	内面	外面
																		ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ	糸切り							
173	1156	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	黒色土器	無台碗		5.2				石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り	右		36/36					底部外面墨書「生」		
173	1157	05	3	河1. 2・3層	16G-5D4	2・3	黒色土器	無台碗	(20.3)					石・長		酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					3/36							
173	1158	05	3	河1. 2・3層	16G-6E6	2・3	黒色土器	無台碗		5.6				石		酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ				34/36				底部外面墨書「口[上方]万」		
173	1159	05	3	河1. 2・3層	16G-6D2・3	1～3	須恵器	無台杯	11.9	7.0	3.2	27	59	石・長・チ	B	灰 (10Y5/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	6/36	36/36	10/36				底部外面墨書「中」		
173	1160	05	3	河1. 2・3層	16G-6E5・6	2・3	須恵器	無台杯	13.0	7.5	3.3	25	58	石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	3/36	36/36	20/36				底部外面墨書「口卅」		
173	1161	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	須恵器	無台杯	11.9	6.8	3.0	25	57	石・長・雲・白	B	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	31/36	36/36	27/36				体部外面墨書「㊦」記号様		
173	1162	05	3	河1. 2・3層	16G-5D3	2・3	須恵器	無台杯	(13.7)					石・長・チ	C	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36					体部外面墨書「口」		
173	1163	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	須恵器	無台杯	11.7	6.9	3.3	28	59	石・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	24/36	36/36	30/36						
173	1164	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	須恵器	無台杯	11.7	6.9	3.2	27	59	石・長・白	A	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	36/36	36/36	36/36						
173	1165	05	3	河1. 2・3層	16G-6E16	2・3	須恵器	無台杯	11.7	7.2	2.7	23	62	石・長	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	36/36	36/36	36/36						
173	1166	05	3	河1. 2・3層	16G-6E6	2・3	須恵器	無台杯	11.8	8.0	3.3	28	68	石・長・白	A	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		5/36	11/36	11/36						
174	1167	05	3	河1. 2・3層	16G-6E13	2・3	須恵器	無台杯	12.0	8.0	3.2	27	67	石・長	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		10/36	18/36	13/36						
174	1168	05	3	河1. 2・3層	16G-6E16	2・3	須恵器	無台杯	12.1	6.9	3.1	26	57	石・長・チ・白	B	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	26/36	36/36	30/36					底部外面墨書「中」	
174	1169	05	3	河1. 2・3層	16G-6D14・15・20	2・3	須恵器	無台杯	12.0	6.8	3.3	28	57	石・長・チ	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	16/36	36/36	18/36					底部外面墨書「×」 底部内面墨書「山人口」	
174	1170	05	3	河1. 2・3層	16G-6D14	2・3	須恵器	無台杯	12.0	7.6	3.8	32	63	石・長・チ・白	C	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	19/36	30/36	30/36					底部外面墨書「一」	
174	1171	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	須恵器	無台杯	12.1	7.1	3.0	25	59	石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	36/36	36/36	36/36					体部外面墨書「㊦」記号様	
174	1172	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	須恵器	無台杯	12.2	6.8	3.1	25	56	石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	28/36	32/36	33/36						
174	1173	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	須恵器	無台杯	12.2	7.0	2.7	22	57	石・白	B	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	36/36	36/36	36/36					底部外面墨書「中」	
174	1174	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15, 6E11	2・3	須恵器	無台杯	12.6	7.5	3.0	24	60	石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	9/36	21/36	13/36						
174	1175	05	3	河1. 2・3層	16G-5D11	2・3	須恵器	無台杯	12.4	8.5	3.6	29	69	石・長・白・角	C	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	8/36	36/36	22/36						
174	1176	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	須恵器	無台杯	12.6	7.6	3.4	27	60	石・長・チ・白	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		15/36	15/36	15/36					底部外面墨書「口卅」	
174	1177	05	3	河1. 2・3層	16G-6D4・8	1～3	須恵器	無台杯	12.6	7.4	3.0	24	59	石・長・白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	9/36	36/36	20/36						
174	1178	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	須恵器	無台杯	12.6	8.0	3.1	25	63	石・長	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		13/36	36/36	24/36	スス					
175	1179	05	3	河1. 2・3層	16G-6D14・15	1～3	須恵器	無台杯	12.3	8.2	3.1	25	67	石・長・赤	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	25/36	36/36	30/36	墨痕				転用硯	
175	1180	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	須恵器	無台杯	12.4	6.9	3.1	25	56	石・白	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	23/36	36/36	29/36					底部外面墨書「本」(異体字)	
175	1181	05	3	河1. 2・3層	16G-6E11	2・3	須恵器	無台杯	12.9	7.5	3.0	23	58	石・長・白	B	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	10/36	36/36	26/36						
175	1182	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	1～3	須恵器	無台杯	12.9	7.6	3.0	23	59	石・チ・赤	B	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	18/36	15/36						
175	1183	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	須恵器	無台杯	13.0	8.0	3.2	25	62	石・長	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		20/36	12/36	10/36						
175	1184	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	須恵器	無台杯	13.2	7.5	3.4	26	57	石・長・雲	B	灰白 (10YR7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	5/36	36/36	15/36					体部外面・横位墨書「枳入」	
175	1185	05	3	河1. 2・3層	16G-5D16・17	1～3	須恵器	無台杯		7.7				石・長	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		9/36			墨痕			底部外面墨書「口」 体部外面墨書「口」 転用硯か	
175	1186	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20, 7B19, 7C16	2・3・V	須恵器	有台杯	10.0	6.2	5.0	50	62	石・長・白	B	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	1/36	28/36	16/36					Pit152 接合	
175	1187	05	3	河1. 2・3層	16G-6D20	2・3	須恵器	有台杯	13.6	6.8	5.8	43	50	長・白	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	7/36	36/36	16/36		墨痕		転用硯		
175	1188	05	3	河1. 2・3層	16G-6E8	2・3	須恵器	有台杯		7.0				石・長・白	B	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右		36/36			墨痕		転用硯		
175	1189	05	3	河1. 2・3層	16G-6D9	2・3	須恵器	有台杯		6.4				石・長・雲・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左		36/36			墨痕	墨痕	転用硯		
176	1190	05	3	河1. 2・3層	16G-5D17	2・3	須恵器	有台杯	15.4	7.6	6.0	39	49	長・白	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	14/36	36/36	25/36		墨痕		転用硯底部外面爪痕あり		
176	1191	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15・20	2・3	須恵器	盤	15.4	11.2	1.8	12	73	石・長・白	B	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	6/36	36/36	21/36						
176	1192	05	3	河1. 2・3層	16G-6D15	2・3	須恵器	長頸壺	4.6	6.5	10.8	235	141	石・長・白	C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		6/36	36/36	32/36					自然釉 底部外面ヘラ記号「J」	
176	1193	05	3	河1. 2・3層	16G-6D10	2・3	須恵器	長頸壺	(12.0)					石・赤・白	D	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36					西古志産	



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面	内面	底部		口縁部	底部	全体	内面	外面	
179	1231	05	3	-	16G-8A19	V	土師器	仏鉢	(20.0)				石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36						
179	1232	05	3	-	16G-8A9	V	土師器	仏鉢		10.0			石・長・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		29/36						
179	1233	05	3	-	16G-7A20	V	黒色土器	無台碗	(19.0)				長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				3/36						
179	1234	05	3	-	16G-7D11	V	黒色土器	無台碗	13.5				石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				5/36						
179	1235	05	3	-	16G-7D11	V	黒色土器	無台碗	17.8				石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				4/36						
179	1236	05	3	-	16G-7B1	V	黒色土器	無台碗		6.0			石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			12/36						
179	1237	05	3	-	16G-8B5	V	黒色土器	有台碗		7.4			石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、ミガキ				36/36						
179	1238	05	3	-	16G-7C11	V	黒色土器	仏鉢					石・雲	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ										
179	1239	05	3	-	16G-6C25	V	須恵器	無台杯	12.6	8.4	2.9	23	67	石・長・チ	B 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		13/36	15/36	10/36			スス	
179	1240	05	3	-	16G-7A19	V	須恵器	無台杯	12.7	8.5	3.3	26	67	石・長・チ	B 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	30/36	36/36	32/36				
179	1241	05	3	-	16G-7A19・23, 8B1	V	須恵器	有台皿	12.0	6.6	2.1	18	55	石・長・チ	B 灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	4/36	14/36				
179	1242	05	3	-	16G-7C11・22	V	須恵器	杯蓋					石・長・チ	B 灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ										
179	1243	05	3	-	16G-7C13	V	須恵器	大甕	(45.8)				石・長・白	C オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				2/36						
179	1244	05	3	-	16G-7B9・19	V	須恵器	大甕	(54.6)				石・長・白	C 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ、タタキメ	Ha ロクロナデ				3/36						
179	1245	05	3	-	16G-7B13	V	須恵器	長頸壺	(20.0)				石・雲・チ	B 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
179	1246	05	3	-	16G-7D6	V	須恵器	長頸壺		13.1			石・長・チ	A 黄灰 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			10/36						
179	1247	05	3	-	16G-8B2	V	須恵器	広口壺	16.0				石・長・チ	B 灰 (7.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36						
179	1248	05	3	-	16G-7B10	V	須恵器	横瓶	(9.6)				石・長・チ	C 灰 (10Y4/1)	還元	ロクロナデ、タタキメ	Hc ロクロナデ、当て具痕	De			3/36						
179	1249	05	3	-	16G-6C7	V	須恵器	横瓶	12.8				石・長・チ	C 暗灰 (N3/0)	還元	ロクロナデ、タタキメ	Ha ロクロナデ、当て具痕	De			15/36						
180	1250	05	3	-	16G-7B7	V	須恵器	把手					長	D 暗灰 (N3/0)	還元	ヘラケズリ	ヘラケズリ										
180	1251	05	3	-	16G-8A3・4	V・Va	緑釉陶器	有台碗	12.8				長	灰白 (5Y7/2)	還元	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				6/36						
180	1252	05	3	-	16G-7B19, 8B10	V a	緑釉陶器	有台碗	12.5	6.2	4.5	36	50	長	灰オリーブ (5Y6/2)	還元	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	ケズリ		11/36	36/36	10/36				
180	1254	05	4	SE44	15I-8J17		土師器	小甕	(12.0)				長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
180	1255	05	4	SK1	15J-6C4・5	V	土師器	無台碗 a		5.3			石・長・雲・チ	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36						
180	1256	05	4	SK1	15J-5C25, 6C5	V・VI a	土師器	鍋	45.0				石・長・雲・チ・赤・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、タタキメ、ヘラケズリ	Hb ロクロナデ、当て具痕	Da			10/36						
180	1257	05	4	SK1	15J-5C25		須恵器	無台杯	(12.9)				石・長・チ	B 灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
180	1258	05	4	SX3	15J-6D1		黒色土器	無台碗	(15.1)				長・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36						
180	1259	05	4	SX82	15J-6D1		黒色土器	無台碗	(15.2)				石・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36					口縁磨滅している	
180	1260	05	4	SD2	15J-6C16		須恵器	無台杯	(14.2)				石・長	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36						
180	1261	05	4	SD7	15J-7A25		須恵器	杯蓋	(15.6)				石・長・チ	C 灰白 (10Y7/1)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ				1/36						
180	1262	05	4	SD10	15I-8J24		須恵器	無台杯	(12.0)				石・雲・チ	B 灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36						
180	1263	05	4	SD13	15I-9I13, 9J1	V	土師器	無台碗		10.8			雲・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ、カキメ				12/36						
180	1264	05	4	SD40	16I-5B3	I	須恵器	無台杯		8.5			石・長・チ・白	C 灰白 (10Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			5/36						
180	1265	05	4	-	15J-10H10	V	土師器	長甕	23.8	9.8	30.6	129	41	石・長・チ・白	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、ヘラケズリ、カキメ、ハケメ	ヘラ切り		3/36	36/36	3/36				



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面		底部	口縁部	底部	全体	内面		外面
																		Ha										
181	1266	05	4	-	15J-8A6	V	土師器	長甕	22.0				石・長・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、タタキメ	Ha	ロクロナデ				14/36						
181	1267	05	4	-	15J-6C5	V	土師器	長甕	20.0				石・長・雲・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、カキメ				8/36						
181	1268	05	4	-	15J-7B16	V	土師器	小甕		8.0			石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、ヘラケズリ		ロクロナデ、カキメ				7/36						
181	1269	05	4	-	15J-8A3	VI a	土師器	鍋	(42.2)				石・長・雲・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ハケメ、ヘラケズリ		ロクロナデ				2/36						
181	1270	05	4	-	15J-6C5	V	土師器	鍋	(45.0)				石・長・雲・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ、ヘラケズリ		ロクロナデ、カキメ				3/36						
181	1271	05	4	-	15J-6C5	VI a	土師器	鉢		11.0			石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ハケメ		ロクロナデ、ナデ				7/36						
181	1272	05	4	-	15J-8A6	V	須恵器	有台杯	14.0	8.2	4.1	29	59	石・長・チ	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	右	2/36	25/36	14/36			
181	1273	05	4	-	15J-8A12	VI a	須恵器	杯蓋	(14.9)				長・白・海	C 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ				2/36						
181	1274	05	4	-	15J-7A25	V	須恵器	壺蓋	14.0				石・長・チ	C オリーブ黒 (7.5Y3/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				9/36				自然釉		
181	1275	05	4	-	15J-6B24	V	須恵器	大甕	26.9				石・長・チ	C 灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ、カキメ、ハケメ				6/36						
182	1276	06	1	SE34	17G-6B10		土師器	鍋	(40.0)				石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ、カキメ				1/36						
182	1277	06	1	SE74	17G-5C11・16	8	土師器	無台碗 a	12.3	5.0	(3.8)	(31)	41	雲・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	4/36	17/36	8/36	墨痕		
182	1278	06	1	SE74	17G-5C11・16	8	土師器	無台碗 b	13.5	6.5	4.6	34	48	石・長・雲・チ・角・海	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ		19/36	36/36	24/36			
182	1279	06	1	SK108	16G-9A2	2	土師器	無台碗 b (16.3)	6.5	6.8	(42)	(40)	石・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ		1/36	5/36	4/36				
182	1280	06	1	SK108	16G-9A2	2	土師器	無台碗 a (14.0)		4.8			石・雲	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36						
182	1281	06	1	SK108	16G-9A2・7	2	土師器	無台碗 a					長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	34/36						
182	1282	06	1	SK108	16G-9A2	2	土師器	無台碗 b	16.1				石・チ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ				4/36						
182	1283	06	1	SK108	16G-9A7		黒色土器	無台碗		7.5			石・長・赤	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ		15/36						
182	1284	06	1	SK109	16G-9A3・7	1・3	土師器	無台碗 a	12.3	5.0	4.2	34	41	石・長・雲・チ	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	12/36	30/36	20/36		SK108 接合	
182	1285	06	1	SK109	16G-9A2		土師器	無台碗 a		5.3			石・雲	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			14/36					
182	1286	06	1	SK110	16G-9A2		土師器	無台碗 a		4.3			石・長・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	23/36						
182	1287	06	1	SK110	16G-9A2		土師器	無台碗 a		5.3			石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	26/36					内面剥離している	
182	1288	06	1	SK110	16G-9A2		土師器	無台碗 b		5.5			石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ	右	26/36						
182	1289	06	1	SK110	16G-9A2		土師器	小甕	13.0				石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				7/36						
182	1290	06	1	SK110	16G-9A2・7・8	V a	土師器	鍋	40.0				石・長・チ・赤・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、カキメ、ヘラケズリ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、ハケメ、ヘラケズリ、指頭圧痕				11/36				SD112 接合 SK108・109 に同一個体あり		
182	1291	06	1	SK110	16G-9A2		土師器	鉢		7.9			石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、ヘラケズリ		ロクロナデ		糸切り	右	33/36						
182	1292	06	1	SK110	16G-9A2		須恵器	環状把手付壺					長	外面：灰オリーブ (7.5Y6/2) 内面：灰白 (N7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ									滝寺窯	
182	1293	06	1	SX77	17G-5C14	1	土師器	無台碗 a (14.2)					長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36						
182	1294	06	1	SD64	17G-5C19		須恵器	長頸壺		16.0			石・長	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			10/36					
182	1295	06	1	SD99	16G-10B24		須恵器	有台杯		9.0			長・チ・白	C 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			6/36					
183	1296	06	1	SD103	16G-10B6		土師器	無台碗 a (12.2)					石	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36				炭化物		
183	1297	06	1	SD103	16G-10B1		土師器	無台碗 a		6.0			石・長・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り			10/36					

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考		
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面		底部	口縁部	底部	全体	内面		外面	
																		ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ									ロクロナデ
183	1298	06	1	SD103	16G-10B1		黒色土器	無台碗	(12.9)					石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				3/36							
183	1299	06	1	SD105	16G-9A20・25		土師器	無台碗 a		4.5				長・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		21/36							
183	1300	06	1	SD105	16G-9A20		土師器	小甕 (10.6)						石・チ	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
183	1301	06	1	SD105	16G-9A25		土師器	仏鉢 (19.0)						石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
183	1302	06	1	SD105	16G-9A20		黒色土器	無台碗	(16.9)					石・長	灰白 (2.5Y7/1)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				2/36							
183	1303	06	1	SD107	16G-9A14		土師器	無台碗 a	14.1					石・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36							
183	1304	06	1	Pit115	16G-9A20		土師器	無台碗 a	(13.2)					石・長・チ	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
183	1305	06	1	Pit115	16G-9A20・25	V a	土師器	無台碗 a	13.2	6.0	4.2	32	45	石・長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36	27/36	20/36				SD105 接合		
183	1306	06	1	Pit115	16G-9A20		土師器	無台碗 a		6.2				石・雲・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36							
183	1307	06	1	Pit115	16G-9A20		土師器	無台碗 b	21.5					長・雲・チ	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				5/36							
183	1308	06	1	Pit115	16G-9A20		黒色土器	無台碗	(13.5)					石・長・赤	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				2/36						SD105 接合	
183	1309	06	1	河 2	17G-5C15		土師器	無台碗 a	(13.8)					石・長・雲	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
183	1310	06	1	河 2	17G-5C9		土師器	無台碗 a		5.5				石・雲・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左		36/36							
183	1311	06	1	河 2	17G-5C10		土師器	長甕	21.0					石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36							
183	1312	06	1	河 2	17G-5C8		黒色土器	有台碗		5.0				石・長	褐灰 (10YR5/1)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				10/36							
183	1313	06	1	河 2	17G-5C10		須恵器	無台杯	(12.9)					石・長	B 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
183	1314	06	1	河 2	17G-5C4		須恵器	無台杯	(13.4)					長	B オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36							
183	1315	06	1	河 2	17G-5C15		須恵器	有台杯		8.9				長	B オリーブ灰 (5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			8/36							
183	1316	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	11.3	4.4	4.0	35	39	長・赤	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	36/36	20/36				口縁はほとんど摩耗している		
183	1317	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	12.1	4.7	4.3	36	39	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	18/36						
183	1318	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	12.6	5.0	4.0	32	40	石・長	淡黄 (5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	22/36	36/36	20/36						
183	1319	06	1	-	16G-9A25	V a	土師器	無台碗 a	12.6	5.5	4.0	32	44	石・長・雲・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	36/36	20/36				スス炭化物	スス	
183	1320	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	11.9	4.9	4.0	34	41	長	灰黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	18/36						
183	1321	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	12.3	4.7	4.3	35	38	長	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36	36/36	16/36						
183	1322	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a		7.0				石・長	にぶい黄褐 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		25/36							
184	1323	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	11.7	4.4	4.0	34	38	石・赤	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	20/36						
184	1324	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	11.7	4.8	4.0	34	41	石・長	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36	36/36	25/36				内面剥離している		
184	1325	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	12.5	4.3	4.0	32	34	石・長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	7/36	35/36	18/36						
184	1326	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	無台碗 a	13.2	6.0	4.3	33	45	石・長・チ・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	10/36	13/36	10/36						
184	1327	06	1	-	17G-5B22	V a	土師器	無台碗 b	15.2	7.0	6.2	41	46	石・長	灰褐 (7.5YR6/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		2/36	27/36	13/36						
184	1328	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	小甕	13.0					石・長・チ・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36							
184	1329	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	小甕		7.8				石・長・チ・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			16/36							
184	1330	06	1	-	17G-5B17	V a	土師器	仏鉢	16.0					石・長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				7/36							
184	1331	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	仏鉢	15.0	7.3	9.2	61	49	石・長・チ・白・角	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	27/36	20/36						
184	1332	06	1	-	17G-5B8	V a	土師器	仏鉢		7.5				長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36							
184	1333	06	1	-	16G-9A7	V a	土師器	仏鉢	17.1					石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ				4/36							
184	1334	06	1	-	16G-9A7	V a	黒色土器	無台碗	12.8	5.0	5.0	39	39	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		6/36	11/36	8/36						
184	1335	06	1	-	16G-9A7	V a	黒色土器	無台碗	14.4	6.3	4.8	33	44	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		3/36	19/36	10/36						

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部	口縁部		底部	全体	内面	外面
																		ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ							
184	1336	06	1	—	16G-9A7	V a	黒色土器	無台碗		7.1					石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ													
184	1337	06	1	—	16G-9A7	V a	須恵器	無台杯	12.4	7.2	3.1	25	58		長・チ	B 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				ヘラ切り	左	15/36	36/36	26/36		底部外面墨書「万」		
184	1338	06	1	—	16G-10A5	V a	須恵器	有台杯		6.6					長・チ	B 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				ヘラ切り			5/36					
184	1339	06	1	—	16G-9A7	V a	須恵器	杯蓋	14.0						長・チ・白	C 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						9/36						
184	1340	06	1	—	16G-9A7	V a	須恵器	大甕 (30.0)							石・長・チ	A 灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ、波状文	ロクロナデ						2/36						
184	1341	06	1	—	17G-6A1	V a	須恵器	大甕							長	C オリーブ灰 (2.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36						
184	1342	06	1	—	16G-9A7	V a	緑釉陶器	有台碗							長・チ	白灰 (10Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ												
185	1343	06	2	SE58	16F-8I1		土師器	無台碗 a							石・雲	灰白 (2.5Y8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							1/36					
185	1344	06	2	SE58	16F-8I1	6・7	黒色土器	無台碗							石・長	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ							1/36					
185	1345	06	2	SK12	16F-8I8	5	土師器	無台碗 a (13.7)							石・長・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							2/36					
185	1346	06	2	SK12	16F-8I8	5	土師器	無台碗 a (13.4)							石・長・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							2/36					
185	1347	06	2	SK12	16F-8I13	1	土師器	無台碗 a		5.3					石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右		12/36					
185	1348	06	2	SK12	16F-8I4・8・9・13	1～3・5	土師器	無台碗 a		5.8					石・雲・チ・角	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右		31/36			SD6 接合		
185	1349	06	2	SK14	16F-7I14・20・25	V a	土師器	無台碗 a		5.5					石・雲・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右		18/36			SK15 接合		
185	1350	06	2	SK17	16F-7I14	1	土師器	無台碗 a		5.0					石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り			25/36					
185	1351	06	2	SK95	16F-6H14	2	土師器	無台碗 a (14.0)							石・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36						
185	1352	06	2	SK95	16F-6H14	2	土師器	無台碗 b (15.0)							石・チ・角	にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ							2/36					
185	1353	06	2	SK95	16F-6H20	3	土師器	無台碗 a		5.0					石・雲・チ・角	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右		10/36					
185	1354	06	2	SK95	16F-6H20	3	土師器	長甕 (21.0)							石・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							2/36					
185	1355	06	2	SK95	16F-6H10・14	1・2	黒色土器	無台碗		7.0					石・長	灰黄 (2.5Y6/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				糸切り後ケズリ			10/36			SD6 接合外面が剥離している		
185	1356	06	2	SK95	16F-6H14・15	2・V a	須恵器	無台杯	13.1						石・長・白	B 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						5/36						
185	1357	06	2	SK95	16F-6H14	2	須恵器	無台杯 (12.0)							長	B 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36						
185	1358	06	2	SK95	16F-6H14	2	須恵器	長頸壺 (12.6)							長	D 灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						2/36						
185	1359	06	2	SK95	16F-5H19, 6H15	1・V a	灰釉陶器	有台皿							長	灰白 (10YR7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ												
185	1360	06	2	SK97	16F-8I7		土師器	無台碗 a (12.0)							長・雲・チ・角	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ							2/36					
185	1361	06	2	SK98	16F-8H19	3	土師器	無台碗 a	12.6	4.9	5.1	40	39		石・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	24/36	36/36	30/36				
185	1362	06	2	SK98	16F-8H19	3	土師器	無台碗 a	12.6	4.7	5.0	40	37		石・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				糸切り	右	23/36	36/36	30/36				
185	1363	06	2	SK98	16F-8H14・15・19	3	土師器	無台碗 a	12.7	4.6	4.4	35	36		石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	30/36	36/36	30/36				
185	1364	06	2	SK98	16F-8H19	3	土師器	無台碗 a	12.8	4.7	4.2	33	37		長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	30/36	36/36	32/36				
185	1365	06	2	SK98	16F-8H14・19	3	土師器	無台碗 a	12.9	4.6	4.1	32	36		石・長	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	18/36	36/36	25/36				
185	1366	06	2	SK98	16F-8H19	3	土師器	無台碗 a	13.0	5.6	4.3	33	43		石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	5/36	36/36	20/36		体部外面・倒位墨書「口」		
185	1367	06	2	SK98	16F-8H19	1	土師器	無台碗 a	12.8	4.9	4.3	34	38		石・長・チ	淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	22/36	36/36	26/36		外面剥離している		
185	1368	06	2	SK98	16F-8H19	3	土師器	無台碗 a	13.0	4.5	4.2	32	35		長・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	30/36	36/36	31/36		体部外面・倒位墨書「良」		
185	1369	06	2	SK98	16F-8H14		土師器	無台碗 a	12.2	5.2	3.8	31	43		石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り		15/36	36/36	25/36				
186	1370	06	2	SK98	16F-8H19	3	土師器	無台碗 a	12.5	5.7	4.2	34	46		石・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り	右	34/36	36/36	35/36				
186	1371	06	2	SK98	16F-8H14		土師器	無台碗 a	12.6	5.6	4.3	34	44		長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り		10/36	34/36	20/36				
186	1372	06	2	SK98	16F-8H14		土師器	無台碗 a	13.0	5.8	4.4	34	45		石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				糸切り		7/36	36/36	20/36				
186	1373	06	2	SK98	16F-8H14・19	3	土師器	無台碗 a	13.8	5.2	5.6	41	38		石・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ				糸切り	右	27/36	36/36	33/36		内外面剥離している		

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			口縁部	底部		全体	内面	外面
																		酸化	還元	ミガキ		酸化	還元	ミガキ						
186	1374	06	2	SK98	16F-6H4, 8H14	4	土師器	長甕	19.9						石・長・チ・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			7/36						SD6 接合		
186	1375	06	2	SK98	16F-8H19		黒色土器	無台碗		6.0					石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ			11/36							
186	1376	06	2	SK98	16F-8H19	3	黒色土器	無台碗	13.8	5.8	4.4	32	42		石・長・雲・白	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ			28/36	36/36	35/36					
186	1377	06	2	SK98	16F-8H14		黒色土器	無台碗	13.4	5.7	4.6	34	43		石・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			16/36	27/36	20/36		図版 106No.4			
186	1378	06	2	SK98	16F-8H14		黒色土器	無台碗	13.3	5.8	4.7	35	44		石・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			29/36	34/36	30/36		図版 106No.2・3			
186	1379	06	2	SK98	16F-8H14		黒色土器	無台碗	11.6	5.5	4.5	39	47		石・長・チ・角	淡黄 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				7/36	7/36	7/36		図版 106No.4			
186	1380	06	2	SK98	16F-8H19	3	黒色土器	無台碗	14.3	5.5	4.6	32	38		長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ			9/36	18/36	12/36		外面が剥離している			
186	1381	06	2	SK98	16F-8H14		黒色土器	有台碗		7.6					長・雲・チ・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					9/36						
186	1382	06	2	SK98	16F-8H12・14	1・2	須恵器	長頸壺		15.0					石・長・チ	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	ヘラ切り			11/36				SD94 接合			
186	1383	06	2	SX4	10F-7I4		土師器	無台碗 a		5.5					石・雲・角	淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			11/36						
186	1384	06	2	SX109	16F-8H21	1	黒色土器	無台碗	14.1	6.7	4.9	35	48		石・長・雲・赤	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ			19/36	36/36	28/36		内外面剥離している			
186	1385	06	2	SX109	16F-9H2		土師器	無台碗 a	(13.9)						石・長・チ	淡黄 (2.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36							
186	1386	06	2	SX109	16F-9H1		土師器	無台碗 a		5.0					石・長	淡黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			12/36						
186	1387	06	2	SX109	16F-5H13, 6H14, 9H9	1・2	須恵器	長頸壺							石・長	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ									SD6 接合		
186	1388	06	2	SX162	17G-2G7		土師器	無台碗 a	(11.7)						石・長	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36						
186	1389	06	2	SD1	16F-7I13・15		IV a・V a	須恵器	無台杯	12.5					石・長	B 緑灰 (10GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36						
186	1390	06	2	SD1	16F-7I8		須恵器	杯蓋	(15.6)						石・長	B 灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36						
186	1391	06	2	SD20	17F-1I8		土師器	鍋	(40.0)						石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ					1/36						
187	1392	06	2	SD6	16F-6H4	2	土師器	無台碗 b	(14.0)						石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					2/36						
187	1393	06	2	SD6	16F-6H10	4	土師器	無台碗 a	(16.0)						石・雲・チ・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36						
187	1394	06	2	SD6	16F-6I23	V a	土師器	無台碗 b	(16.1)						石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					3/36						
187	1395	06	2	SD6	16F-7I1	2	土師器	無台碗 a		5.0					長・チ・赤・白	浅黄橙 (7.5Y8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左			15/36				内面剥離している		
187	1396	06	2	SD6	16F-7I23	2	土師器	無台碗 a		5.4					石・雲・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			9/36						
187	1397	06	2	SD6	16F-6H5, 7I1	1・V a	土師器	長甕	(20.0)						長・チ・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36						
187	1398	06	2	SD6	16F-6H4	1	土師器	長甕	(21.9)						石・長・角	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36						
187	1399	06	2	SD6	16F-5H13・18	4	土師器	長甕	(21.9)						石・長・チ	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ					3/36						
187	1400	06	2	SD6	16F-8I13	3	土師器	長甕	(21.0)						石・チ・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36						
187	1401	06	2	SD6	16F-8I13・14	1・3	土師器	長甕	(24.0)						石・長・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36						
187	1402	06	2	SD6	16F-7H5・10, 8I14	1・4・V a	土師器	長甕	24.0						石・長・雲・角	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36						
187	1403	06	2	SD6	16F-6H25, 7I1・11	1・3・4	土師器	長甕	(24.0)						石・長・雲・チ・角	橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36						
187	1404	06	2	SD6	16F-6H14・25, 7H5	1	土師器	長甕	24.2						石・長・雲・チ・角	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36						
187	1405	06	2	SD6	16F-5H13, 6H9	1	土師器	小甕	8.6						石・長・チ・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					10/36						
187	1406	06	2	SD6	16F-6H9	1	土師器	小甕	11.2						石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					6/36						

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考		
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面	内面	底部		口縁部	底部	全体	内面	外面			
187	1407	06	2	SD6	16F-6H4		土師器	小甕	12.0				石・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36							
187	1408	06	2	SD6	16F-8I19	3	土師器	小甕	(14.0)				石・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							
187	1409	06	2	SD6	16F-6H9	2	土師器	小甕		6.0			石	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右		8/36							
187	1410	06	2	SD6	16F-6I12・21, 7H5, 7I23・25, 8I3・8	2~4・V a	土師器	鍋	43.0				長・雲・角	にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、タタキメ、ヘラケズリ	Hb	ロクロナデ、ハケメ					4/36						
188	1411	06	2	SD6	16F-8I13	3	土師器	鍋	(40.0)				石・長・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
188	1412	06	2	SD6	16F-7H4, 7I12	3・V a	土師器	鍋	38.0				石・長・チ・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
188	1413	06	2	SD6	16F-6I21	2	土師器	鉢	(22.1)				石・チ・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ハケメ	ロクロナデ					2/36							
188	1414	06	2	SD6	16F-6H9・10	1・V a	土師器	仏鉢		7.0			石・チ	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り			19/36							
188	1415	06	2	SD6	16F-6H14	1・2	黒色土器	無台碗	12.7	5.7	4.1	32	45	石・長	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り	右	1/36	36/36	10/36					
188	1416	06	2	SD6	16F-6I21, 7I8	2・V a	黒色土器	無台碗	(14.5)				石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					3/36							
188	1417	06	2	SD6	16F-6H4	2	黒色土器	無台碗		5.4			石・長・チ	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			25/36						SD13 接合	
188	1418	06	2	SD6	16F-7I3・8	2・4	黒色土器	無台碗		5.2			石・長・角	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ		糸切り後ケズリ			18/36							
188	1419	06	2	SD6	16F-6H4		須恵器	無台杯	(11.8)				石・長	B 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
188	1420	06	2	SD6	16F-6H10	1	須恵器	無台杯	(11.8)				長	B 緑灰 (10G6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							
188	1421	06	2	SD6	16F-8I13	3	須恵器	無台杯	(11.9)				石・長	B 青灰 (10BG5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
188	1422	06	2	SD6	16F-6H14		須恵器	無台杯	11.8				長	B 灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36						SD13 接合	
188	1423	06	2	SD6	16F-7H4	1	須恵器	無台杯	(12.8)				石・長・白	B オリーブ灰 (5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
188	1424	06	2	SD6	16F-6H10	1	須恵器	無台杯	(12.8)				石・長	B 灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
188	1425	06	2	SD6	16F-6H14	2	須恵器	無台杯	12.9	6.8	2.5	19	53	石・長	B 青灰 (5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			6/36	9/36	8/36				
188	1426	06	2	SD6	16F-6H14・20, 7H5, 8H2	2・V a	須恵器	無台杯	13.7	7.0	3.7	27	51	石・長・チ・白	A 灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			18/36	25/36	20/36				
188	1427	06	2	SD6	16F-6H14		須恵器	杯蓋					石・長	B 緑灰 (10GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ												
188	1428	06	2	SD6	16F-5H7・13, 6H4	1	須恵器	大甕	20.0				石・長	B 灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36							
188	1429	06	2	SD6	16F-6H8	1	須恵器	大甕	(34.6)				石・長	C オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
188	1430	06	2	SD6	16F-6H24・25, 6I6, 7H4・5, 7I6	1・3・4・V a	須恵器	大甕					石・長・チ	C オリーブ灰 (2.5GY5/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕、カキメ	Db										SD1 接合
189	1431	06	2	SD6	16F-6H4・14	2・4	須恵器	大甕	(40.0)				石・長	A オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ、波状文	ロクロナデ					2/36							
189	1432	06	2	SD6	16F-6H10, 16G-7B17・19	1・V	須恵器	大甕					長・白	C 灰オリーブ (7.5Y6/2)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Dc									05 3 区包含層の出土遺物と接合	
189	1433	06	2	SD6	16F-7I1		須恵器	大甕					石・長	A 灰白 (10Y7/1)	還元	タタキメ	Hb	当て具痕	Dc									転用砥石か(割れ口に使用痕あり)	
189	1434	06	2	SD6	16F-6H4	1	須恵器	長頸壺	(14.0)				石・長	B 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
189	1435	06	2	SD6	16F-5H18	4	須恵器	長頸壺	(16.0)				長	D 灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							西古志産
189	1436	06	2	SD6	16F-6H4・19	V a	須恵器	長頸壺		10.0			石・長・チ	C 灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			8/36							
189	1437	06	2	SD6	16F-6I21	2	須恵器	長頸壺	(16.0)				石・長・チ	C 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
189	1438	06	2	SD6	16F-6H8・9・10・14・15, 7H5	1・2・4・V a	須恵器	長頸壺		11.0			石・長・チ・白	B 灰 (7.5Y4/1)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		ヘラ切り	左		22/36							SK95 接合
189	1439	06	2	SD6	16F-5H18, 6H4・10, 6I6	2・4・V a	須恵器	長頸壺		13.4			石・チ	B 灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			13/36							SD1 接合
189	1440	06	2	SD13	16F-7I1		土師器	無台碗 b	(14.0)				石・長・チ	淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					2/36							



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面		底部	口縁部	底部		全体	内面	外面
																		ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り		右	14/36							
189	1441	06	2	SD13	16F-6I18・23, 717	1・V a	土師器	小甕		8.0				石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り	右		3/36								
189	1442	06	2	SD13	16F-6H5	3	土師器	鍋	(40.0)					石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36					SD6 接合		
189	1443	06	2	SD13	16F-6H4	4	須恵器	無台杯	14.0					石・長・白	緑灰 (7.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
189	1444	06	2	SD13	16F-6H4		須恵器	杯蓋	12.6					石・長	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
189	1445	06	2	SD13	16F-6H10・14, 7J6・16	2・3・V a	須恵器	長頸壺						石・長・チ	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ									自然釉	SK95 接合		
190	1446	06	2	SD55	16F-6I6		土師器	無台碗 a	(13.0)					石・長・雲・チ	にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
190	1447	06	2	SD55	16F-6I6		黒色土器	無台碗	(13.7)					石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					2/36							
190	1448	06	2	SD55	16F-6I6		黒色土器	無台碗		5.7				石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ					7/36						
190	1449	06	2	SD56	16F-6H14		土師器	長甕	(21.0)					石・チ・角	灰褐 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
190	1450	06	2	SD56	16F-6H8	1	須恵器	杯蓋	(15.6)					長	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
190	1451	06	2	SD75	16F-7H20		土師器	小甕		7.0				石・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				8/36							
190	1452	06	2	SD79	16F-8H17		土師器	無台碗 a	11.5					石	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36							
190	1453	06	2	SD79	16F-8H17		土師器	無台碗 a	12.6	5.0	4.5	36	40	石・雲・チ	淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	19/36	4/36							
190	1454	06	2	SD79	16F-8H17		土師器	無台碗 a		5.7				石・雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			36/36							
190	1455	06	2	SD79	16F-8H23		土師器	小甕		6.6				長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り				10/36							
190	1456	06	2	SD79	16F-8H17		黒色土器	無台碗	(13.8)					石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					3/36							
190	1457	06	2	SD79	16F-8H11		須恵器	無台杯	(12.2)					石・長	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
190	1458	06	2	SD79	16F-9H14	1	緑釉陶器	有台碗						石・長	灰白 (7.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ												
190	1459	06	2	SD92	16F-7I17, 8I12	1	緑釉陶器	有台皿	(14.8)					長・チ	オリープ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36					SD6 接合		
190	1460	06	2	SD94	16F-8H23	5	土師器	無台碗 a	10.8	4.5	4.5	42	42	石・チ	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り	右	4/36	36/36	7/36				体部外面・倒位墨書「口」外面剥離・磨滅している			
190	1461	06	2	SD94	16F-8H12	3	土師器	無台碗 a	11.4	5.0	4.0	35	44	石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	15/36				歪んでいる			
190	1462	06	2	SD94	16F-8H12	2	土師器	無台碗 a	11.4	5.0	4.6	40	44	長・チ	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				6/36	36/36	15/36			表面摩耗している		
190	1463	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	11.8	5.9	4.5	38	50	石・長	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	25/36							
190	1464	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	11.8	5.2	4.5	38	44	石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	20/36	36/36	20/36							
190	1465	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	11.9	5.4	4.5	38	45	石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	22/36	36/36	25/36							
190	1466	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.0	4.5	4.4	37	38	長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	32/36				図版 111No.4・5			
190	1467	06	2	SD94	16F-8H12	3	土師器	無台碗 a	12.2	6.0	4.4	36	49	石・長・チ	淡黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				11/36	36/36	20/36			全体に剥離している		
190	1468	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.0	4.0	4.5	38	33	石・長・チ	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	30/36							
190	1469	06	2	SD94	16F-9H4	3	土師器	無台碗 a	12.2	5.0	4.1	34	41	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				9/36	11/36	9/36					
190	1470	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.3	5.5	4.3	35	45	石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	5/36	36/36	18/36					全体に摩耗している		
190	1471	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.2	5.5	4.2	34	45	石・長・チ・赤	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	18/36	36/36	25/36							
190	1472	06	2	SD94	16F-8H18	2	土師器	無台碗 a	12.3	4.8	4.5	37	39	石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	22/36	36/36	25/36							
191	1473	06	2	SD94	16F-9H4・5	3	土師器	無台碗 a	12.5	4.9	4.7	38	39	石・長・チ	灰白 (2.5Y7/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	31/36	20/36							
191	1474	06	2	SD94	16F-8H18	2	土師器	無台碗 a	12.5	6.0	4.3	34	48	長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	12/36	27/36	20/36							
191	1475	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.5	4.8	4.5	36	38	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				26/36	36/36	30/36					
191	1476	06	2	SD94	16F-8H12	2	土師器	無台碗 a	13.0	5.4	3.7	28	42	石・長・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	20/36							
191	1477	06	2	SD94	16F-8H17	2	土師器	無台碗 a	13.0					石・長	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
191	1478	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	13.2	5.5	4.3	33	42	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	14/36	36/36	25/36							
191	1479	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 b	13.4	5.2	4.4	33	39	石・長・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ	右	27/36	33/36	30/36				図版 111No.5			
191	1480	06	2	SD94	16F-8H12	3	土師器	無台碗 a	13.8					石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
191	1481	06	2	SD94	16F-8H23, 9H3	3	土師器	無台碗 a	15.0	7.0	6.1	41	47	石・長・チ・赤	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				9/36	16/36	12/36			全体に摩耗している		
191	1482	06	2	SD94	16F-8H23	2	土師器	無台碗 a	16.7	6.8	5.6	34	41	石・長	浅黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				4/36	15/36	9/36					
191	1483	06	2	SD94	16F-9H10	3	土師器	無台碗 a		5.3				石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			19/36							
191	1484	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	11.9	5.2	4.3	36	44	石・チ・角	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	26/36	36/36	30/36				図版 111No.2			

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法			回転方向	遺存率			付着物		備考			
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部			内面	外面	
																		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	左				全体
191	1485	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	11.9	5.5	3.8	32	46	石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	25/36							
191	1486	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.2	4.6	3.9	32	38	石・長・赤	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	31/36	36/36	30/36			全体に剥離している				
191	1487	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.3	5.3	3.8	31	43	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	35/36	36/36	35/36							
191	1488	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.3	5.5	4.3	35	45	石・長・赤	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	21/36	36/36	28/36							
191	1489	06	2	SD94	16F-9H4	3	土師器	無台碗 a	12.9	5.0	4.3	33	39	石・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	36/36	18/36			口縁が欠けている				
191	1490	06	2	SD94	16F-8H24	3	土師器	無台碗 a	13.3	5.5	4.0	30	41	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	20/36			口縁部外面の剥離が多い				
191	1491	06	2	SD94	16F-8H12	2	土師器	無台碗 a		4.6				石・長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36								
191	1492	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 b	14.2	6.0	5.1	36	42	石・赤	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ	右	19/36	36/36	21/36			図版 111No.1				
191	1493	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.0	6.0	4.3	36	50	石・長・赤	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	36/36	18/36							
191	1494	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 b	12.0					石・長・赤	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ			9/36					図版 111No.3				
191	1495	06	2	SD94	16F-8H12	2	土師器	無台碗 a	12.2	6.0	4.0	33	49	石・長	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	13/36	35/36	25/36							
191	1496	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.2	5.0	4.4	36	41	石・長・赤	灰白 (10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	31/36	36/36	33/36							
191	1497	06	2	SD94	16F-8H23	2	土師器	無台碗 a	12.5	4.8	4.3	34	38	石・長	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		16/36	36/36	26/36							
191	1498	06	2	SD94	16F-8H24	3	土師器	無台碗 a	12.5	5.1	5.2	42	41	石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	36/36	15/36							
191	1499	06	2	SD94	16F-8H12	3	土師器	無台碗 a		5.0				石・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36				全体に摩耗している				
191	1500	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 b		6.8				石・長・赤	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			36/36								
192	1501	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	12.8	5.5	4.5	35	43	石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	27/36	36/36	32/36			図版 111No.12 体部外面・倒位墨書「吉」				
192	1502	06	2	SD94	16F-8H23, 9H4	3	土師器	無台碗 b	13.2	5.5	4.3	33	42	長・赤	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ		4/36	36/36	20/36							
192	1503	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 a	14.2	5.4	5.2	37	38	石・長・赤	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		15/36	36/36	25/36							
192	1504	06	2	SD94	16F-8H23	3	土師器	無台碗 b	14.6	6.3	5.2	36	43	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	糸切り後ケズリ		13/36	36/36	20/36			全体に摩耗している				
192	1505	06	2	SD94	16F-9H4	3	土師器	無台碗 a		6.6				石・長	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			36/36								
192	1506	06	2	SD94	16F-7G25	2	土師器	無台碗 a		6.0				石・赤	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36				スス				
192	1507	06	2	SD94	16F-8H18	2	土師器	無台碗 a		6.2				石・長	淡黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36								
192	1508	06	2	SD94	16F-6H9, 8H24	1・2	土師器	鍋	40.0					石・長・赤・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、カキ			6/36					SD6 接合				
192	1509	06	2	SD94	16F-7G25		土師器	鍋	(40.0)					長・雲	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			1/36									
192	1510	06	2	SD94	16F-8H23	1・2	黒色土器	無台碗	13.0	5.0	4.3	33	38	石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		4/36	6/36	5/36							
192	1511	06	2	SD94	16F-8H23	3	黒色土器	無台碗	13.6	6.4	4.5	33	47	石・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		9/36	36/36	30/36			図版 111No.11・14 体部外面剥離している				
192	1512	06	2	SD94	16F-8H7	2	黒色土器	無台碗	14.5					石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			7/36									
192	1513	06	2	SD94	16F-8H23	3	黒色土器	無台碗	15.8					石	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ			4/36									
192	1514	06	2	SD94	16F-8H23	3	黒色土器	無台碗	16.3	6.0	7.0	43	37	石・長	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		4/36	12/36	8/36							
192	1515	06	2	SD94	16F-8H23	3	黒色土器	無台碗	17.3	8.0	7.2	42	46	石・赤	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ、ケズリ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ		24/36	34/36	34/36			図版 111No.14・19				
192	1516	06	2	SD94	16F-8H6		黒色土器	無台碗	12.9	5.4	4.1	32	42	石・長	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		2/36	36/36	15/36							
192	1517	06	2	SD94	16F-8H12・23	3	黒色土器	無台碗	13.5	6.6	5.3	39	49	石・赤	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ		1/36	32/36	24/36			図版 111No.14・16				
192	1518	06	2	SD94	16F-8H18	3	黒色土器	無台碗		6.9				石・長・赤	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ			36/36				図版 111No.20				

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土含有物	産地	色調	焼成	手法				回転方向	遺存率			付着物		備考		
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面		内面			底部	口縁部	底部	全体	内面		外面	
																		ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ									
192	1519	06	2	SD94	16F-8H23	3	黒色土器	無台碗		7.8				石・長		酸化	ロクロナデ、ミガキ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ					19/36					図版 111No.16	
192	1520	06	2	SD94	16F-8H7	2	黒色土器	無台碗		5.8				石・長・雲		酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ケズリ					36/36						
192	1521	06	2	SD94	16F-8H24, 9H4	3	須恵器	無台杯	12.8	6.7	4.1	32	52	石・長	B	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	36/36	36/36	36/36						
192	1522	06	2	SD94	16F-8H12	1	須恵器	有台杯		6.5				石・長・白	B	オリープ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り					7/36					
193	1523	06	2	SD107	16F-9H8		土師器	仏鉢		7.0				石・長・雲		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り					4/36						
193	1524	06	2	SD129	16F-10H25	1	土師器	無台碗 a	(12.1)					石・長・白		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							
193	1525	06	2	SD160	17F-2G12・18, 2H7		V c	須恵器	長頸壺					石・チ	B	オリープ灰 (2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ											
193	1526	06	2	Pit144	16F-10I21		V a	土師器	鍋	40.0				石・長・チ・角		酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ					4/36							
193	1527	06	2	-	16F-6I22		V a	土師器	無台碗 a	12.5	5.8	3.8	30	46	石・長・チ・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				1/36	24/36	12/36				
193	1528	06	2	-	16F-10G18・19		V c	土師器	無台碗 a	12.4	5.2	3.9	31	42	石・長		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				8/36	18/36	10/36			全体に剥離している	
193	1529	06	2	-	16F-7I15		V a	土師器	無台碗 a	(12.9)				長		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							
193	1530	06	2	-	16F-10G18		V c	土師器	無台碗 a	(13.8)				石・長		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							
193	1531	06	2	-	16F-5H18		V a	土師器	無台碗 b	(16.8)				石・長・チ・赤		酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					2/36							
193	1532	06	2	-	16F-7I13		IV a	土師器	無台碗 a		5.7			石・長・チ		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り					36/36						
193	1533	06	2	-	16F-7I15		V a	土師器	無台碗 a	19.0				長・雲・チ・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36							
193	1534	06	2	-	17F-2G2		V a	土師器	無台碗 a		5.9			石・長・チ・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			16/36							
193	1535	06	2	-	16F-7I20		IV a	土師器	無台碗 b		5.0			石・長・チ・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	糸切り後ミガキ	右			31/36							
193	1536	06	2	-	16F-6H20		V a	土師器	長甕	20.4				石・長・赤・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36							
193	1537	06	2	-	16F-6I12		V a	土師器	小甕	13.6				石・長		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36					全体に少し摩耗している		
193	1538	06	2	-	16F-6I12		V a	土師器	小甕	(12.0)				石・長・チ		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36							
193	1539	06	2	-	17F-1G19		V a	土師器	小甕		7.0			石・長・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り					6/36						
193	1540	06	2	-	16F-6H14		V a	土師器	小甕		5.6			石・長・チ		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り					11/36						
193	1541	06	2	-	16F-7I19		V a	土師器	鍋	(40.0)				石・長・チ・角		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36					全体に摩耗している		
193	1542	06	2	-	16F-7I8		V a	土師器	鍋	(39.8)				石・長・雲・チ		酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ					2/36							
194	1543	06	2	-	16F-7I14		V a	土師器	鍋	(40.0)				石・長・チ・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36							
194	1544	06	2	-	16F-7I8, 8H14		V a	土師器	鍋	(42.1)				石・長・雲・チ		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36							
194	1545	06	2	-	16F-6I23		V a	黒色土器	無台碗	(13.8)				石・長		酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					3/36							
194	1546	06	2	-	16F-5H24		V a	黒色土器	無台碗	(13.8)				石・長		酸化	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ					3/36				炭化物			
194	1547	06	2	-	16F-5H24		V a	黒色土器	有台皿		6.8			石・長・赤		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ					5/36							
194	1548	06	2	-	16F-7I10・15		V a	須恵器	無台杯	13.2				石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					5/36						
194	1549	06	2	-	16F-8I4		V a	須恵器	無台杯	(14.3)				長	B	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36						
194	1550	06	2	-	16F-6I17		V a	須恵器	無台杯	(14.2)				長	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36						
194	1551	06	2	-	16F-6I17		V a	須恵器	無台杯	(15.0)				石・長・白	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36						
194	1552	06	2	-	16F-7I9		V a	須恵器	無台杯		8.0			長・チ	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				10/36					歪んでいる	
194	1553	06	2	-	16F-6I12, 7I4		V a	須恵器	有台杯		7.1			石・長・白	B	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					33/36						
194	1554	06	2	-	16F-10G3		V c	須恵器	長頸壺	(11.0)				石・長	B	灰 (10Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36						
194	1555	06	2	-	16F-6H4		V a	須恵器	長頸壺	(15.0)				石・長・チ	B	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					2/36						

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土 含有物	産地	色調	焼成	手法			回転 方向	遺存率			付着物		備考						
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高							外面				内面			底部			口縁部	底部	全体	内面	外面	
																		還元	酸化	胎土		還元	酸化	胎土	還元	酸化							胎土
194	1556	06	2	-	16F-7I10	V a	須恵器	長頸壺		(14.2)				長・チ	C	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ、ヘラケズリ、ケズリ	ロクロナデ		ヘラ切り			3/36						歪んでいる			
194	1557	06	2	-	16F-6H15	V a	須恵器	長頸壺		11.0				長・白	B	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		ヘラ切り			4/36									
194	1558	06	2	-	16F-6H4	V a	須恵器	小壺		6.4				長・チ・白	D	灰 (5Y6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			5/36									
194	1559	06	2	-	16F-7I12	V a	須恵器	短頸壺	13.1					石・長	C	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36						自然 釉				
194	1560	06	2	-	16F-7I19、819	V a・ V c	須恵器	大甕						石・長・チ	C	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ、タタキメ、カキメ	Hc	ロクロナデ、当て具痕	De												
195	1561	06	2	-	16F-6I12・23、7I24、8I1 16G-7B13・14、8C3	V・V a	須恵器	大甕						長・チ	C	灰 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	De Hd									05 3 区包含層の出土遺物と接合			
195	1562	06	2	-	16F-6I16	V a	須恵器	大甕						長	C	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ、波状文	ロクロナデ				1/36										
195	1563	06	2	-	16F-7I22	V a	緑釉陶器	香炉蓋						石		灰白 (7.5Y7/2)	還元	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ				1/36										
195	1564	06	2	-	16F-6I22・23	V a	緑釉陶器	有台皿	14.4					長・チ		灰オリーブ (7.5Y6/2)	還元	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ				5/36										
195	1565	06	2	-	16F-9H22	V a	緑釉陶器	耳皿		4.5				長・チ		灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右		36/36									
195	1566	06	3	SK10	17F-6G2	2	土師器	無台碗 a		5.0				石・長・赤・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					9/36						全体に摩耗している			
195	1567	06	3	SK10	17F-6G1・2		土師器	長甕						長・チ・赤		にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Hb									外面摩耗している			
195	1568	06	3	SD1	17G-6E24		土師器	無台碗 a	13.9					石・長・赤・角		淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36										
195	1569	06	3	SD1	17G-6E24		土師器	無台碗 a		5.5				石・長・角		にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り			14/36									
195	1570	06	3	SD7	17F-6G1	3	土師器	長甕						石・長・チ・赤		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36										
195	1571	06	3	SD8	17F-6G1		土師器	長甕	(20.0)					石・長		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36										
195	1572	06	3	-	17F-5F23	V	土師器	無台碗 a		4.8				石・長・白		橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右		36/36									
195	1573	06	3	-	17F-6J14	V	土師器	無台碗 b		7.8				石・長		浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り後 ケズリ			23/36									
195	1574	06	3	-	17F-5D18	V	土師器	長甕						石・長		明黄褐 (10YR6/6)	酸化	タタキメ	Hd	当て具痕	Hd												
196	1575	06	3	-	17F-5F21	V	土師器	長甕						石・長・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Da												
196	1576	06	3	-	表採		須恵器	無台杯	12.9	6.8	3.2	25	53	石・長	B	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			5/36	4/36	5/36							
196	1577	06	4	SD2	15F-7A5		土師器	無台碗 a	11.8					石・長		橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36									
196	1578	06	4	SD4	15F-8B4		須恵器	大甕						石・長	C	灰 (10Y4/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Db												
196	1579	06	4	SD8	16F-2F17		須恵器	大甕						長・チ	C	灰 (10Y4/1)	還元	タタキメ、カキメ	Ha	当て具痕	Db												
196	1580	06	4	SD10	16F-4G2		須恵器	長頸壺	(11.6)					石・長・チ	B	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		ヘラ切り			3/36									
196	1581	06	4	Pit13	15F-6A24		土師器	無台碗 a		5.5				石・雲・角		浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り			6/36									
196	1582	06	4	-	16F-5H1	V a	土師器	長甕	(21.8)					石・長・雲・赤・角		橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36										
196	1583	06	4	-	16F-1E18	V c	須恵器	無台杯		7.5				石・長・白	C	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り			7/36									
196	1584	06	4	-	16F-4G8	V c	須恵器	長頸壺		10.8				石・長・チ	B	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		ヘラ切り			7/36									
196	1585	06	4	-	16F-2F22	V a	須恵器	大甕						長・赤	C	灰 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ	Hb	カキメ													

別表5 沖ノ羽遺跡第18・19次調査中世土器・陶磁器観察表

凡例

- 1 出土位置 調査年度・区・遺構名・グリッド名を記した。  
 2 種別・器種 第V章に記した。  
 3 法量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は依存率の低いものである。  
 4 器高指数 器高/口径×100  
 5 底径指数 底径/口径×100  
 6 胎土 胎土に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母。「子」はチャート、「赤」は赤色粒子、「白」は白色凝灰石、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針、「黒」は黒色微粒子を表す。  
 7 色調 『新版標準土色帳』(小山・竹原 1967)の記号を記した。  
 8 焼成 酸化炭焼成・還元炭焼成の区別を記した。  
 9 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を表す。底部調整やロクロケズリ・ロクロナデから判断した。  
 10 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。  
 11 時期 珠洲焼は吉岡編年(吉岡 1994)、青磁・白磁は山本編年(山本 2000)を参考に判別可能なものを記した。

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	色調		焼成	手法			遺存率			時期	備考					
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高				胎土	胎土		胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土			胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
197	1586	05	1区	河25	17H-1A9		青磁	椀						黒	灰白 (10Y8/1)	灰オリーブ (7.5Y5/2)											D期			
197	1587	05	1区	河25	17H-1A18		青磁	椀	(5.8)					黒	灰白 (N7/0)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)											D期			
197	1588	05	1区	河25	16H-10B17		白磁	椀	(15.9)					黒	灰白 (5GY8/1)	灰白 (5Y7/1)											F期	口ハゲ椀		
197	1589	05	1区	河25	17H-1A15		中世土師器	皿	7.6	4.6	1.7	22	61	石・長・チ・赤	橙 (5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			13/36	36/36	28/36				
197	1590	05	1区	河25	17H-1A9		中世土師器	皿	8.0	5.5	2.0	25	69	石・チ	明褐 (7.5YR5/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			5/36	12/36	12/36				
197	1591	05	1区	河25	17H-1A9		中世土師器	皿	(8.7)	6.5	2.2	25	75	石	橙 (7.5YR6/8)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			3/36	14/36	7/36				
197	1592	05	1区	河25	17H-1A4		中世土師器	皿		6.0				石・雲・赤	橙 (7.5YR6/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右				14/36					
197	1593	05	1区	河25	17H-1A13		中世土師器	皿		5.7				石・チ	橙 (7.5YR6/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右				22/36					
197	1594	05	1区	河25	16H-10B12		中世土師器	皿		7.0				長・海	にぶい橙 (7.5YR7/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右				13/36					
197	1595	05	1区	河25	17H-1A8		中世土師器	皿	7.6	6.0	1.5	20	79	石・長・雲・チ・海	にぶい黄橙 (10YR7/3)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			5/36	12/36	28/36				
197	1596	05	1区	河25	17H-1A7		中世土師器	皿	9.0					石・長・雲・チ・海	にぶい黄橙 (10YR5/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						7/36					
197	1597	05	1区	河25	16H-10B12		中世土師器	皿	12.5					石・長・海	灰白 (10YR8/2)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						4/36					
197	1598	05	1区	河25	17H-1A7		中世土師器	皿	13.6	7.0	3.6	26	51	石・長・雲・角	浅黄橙 (7.5YR8/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			5/36	14/36	13/36				
197	1599	05	1区	河25	17H-1A8		中世土師器	皿		7.5				石・長・雲	にぶい橙 (7.5YR7/4)		酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右				15/36					
197	1600	05	1区	河25	17H-1B6		中世土師器	皿	(13.4)					石・チ・海	にぶい黄橙 (10YR7/2)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36					
197	1601	05	1区	河25	17H-1A9・13		中世土師器	皿	(14.2)					長・チ	橙 (5YR7/8)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36					
197	1602	05	1区	河25	17H-1A19		中世土師器	皿	7.2	5.2	1.7	24	72	石・チ	灰 (N4/0)		酸化	指頭圧痕	ナデ						6/36	5/36	6/36		手づくね	
197	1603	05	1区	河25	17H-1A14		瀬戸・美濃焼	瓶子						長・チ・黒	灰白 (5Y7/1)	オリーブ灰 (10Y6/2)		4条沈線	ナデ・指頭圧痕										外面灰釉	
197	1604	05	1区	河25	17H-1A14		珠洲焼	片口鉢		10.9				長・チ・海	灰 (7.5Y5/1)		還元	ロクロナデ・指頭圧痕	ロクロナデ・1単位ハケメ							11/36			Ⅲ期	内面コゲ、底部穿孔
197	1605	05	1区	河25	17H-1A14		北越窯産陶器	甕	(29.4)					石・長	黒褐 (2.5Y3/2)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ							2/36			13世紀中葉	赤坂山中世窯か
197	1606	05	1区	-	17H-1B10	V	青磁	椀	14.2						灰白 (7.5Y7/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)									4/36				E期	
197	1607	05	1区	-	16H-7I11	V	青磁	椀	(16.2)						灰 (10Y6/1)	オリーブ灰 (10Y6/2)									2/36				E期	
197	1608	05	1区	-	16H-10E12	V	中世土師器	皿	8.5	5.0	2.2	26	59	長・雲・赤	橙 (5YR6/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			14/36	30/36	22/36				
197	1609	05	1区	-	16H-10E9	V	中世土師器	皿	7.6	4.0	2.5	33	53	石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			7/36	13/36	10/36				
197	1610	05	1区	-	16H-10B16	V	中世土師器	皿	8.0	6.0	2.5	31	75	長	橙 (7.5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			4/36	8/36	6/36				
197	1611	05	2区	SE6	17G-1G11		青磁	椀	(16.8)					黒	灰白 (7.5Y7/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)										2/36			E期	
197	1612	05	2区	SE11	16G-9H12	12	中世土師器	皿	7.8	5.0	2.2	28	64	石・長・チ・赤	橙 (5YR6/8)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			16/36	36/36	25/36				
197	1613	05	2区	SE11	16G-9H12	4	中世土師器	皿	8.3	4.0	2.2	27	48	石・雲・赤	橙 (7.5YR6/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			6/36	12/36	8/36				
198	1614	05	2区	SE20	17G-1H11		中世土師器	皿	8.2	6.7	1.9	23	82	石・チ	橙 (5YR6/8)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			11/36	13/36	12/36				
198	1615	05	2区	SE20	17G-1H11		中世土師器	皿	13.3	6.3	4.4	33	47	石	橙 (5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			15/36	36/36	30/36				
198	1616	05	2区	SE20	17G-1H11		中世土師器	皿		6.9				石・雲・チ	橙 (5YR6/8)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右				13/36					
198	1617	05	2区	SE89	16G-10G2		中世土師器	皿	(7.1)	5.4	1.7	24	76	石・長・チ・海	橙 (5YR7/6)		酸化	指頭圧痕	指頭圧痕・ナデ						2/36	12/36	11/36		手づくね	
198	1618	05	2区	SE98	16G-10G11	16	瀬戸・美濃焼	瓶子		9.5				石・長	灰白 (N7/0)	にぶい黄褐 (10YR5/3)										12/36				外面灰釉、被熱により灰釉変色
198	1619	05	2区	SE98	16G-10F10, 10G11, 10H11, 17G-1G4・11・14	2a	珠洲焼	壺T種	20.0					石・長	灰 (N4/0)		還元	ロクロナデ・平行タタキメ	ロクロナデ・当て具痕・ナデ							9/36			Ⅳ3期	SE6・106,SD4 接合



図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	色調		焼成	手法			遺存率			時期	備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高				胎土	軸葉		外面	内面	底部	回転方向	口縁部	底部			全体
198	1620	05	2区	SE98	16G-10F10, 10G11, 10H14	V・9	珠洲焼	壺T種					石・長・チ	灰 (N4/0)		還元	平行タタキメ	当て具痕								SE106 接合
198	1621	05	2区	SE106	16G-10F10		中世土師器	皿	12.9				石・チ・角	橙 (7.5YR7/6)		酸化	ナデ	ナデ				6/36				手づくね
198	1622	05	2区	SE106	10G-10F10		珠洲焼	片口鉢	(28.6)				チ・海	灰 (7.5Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 4目の鉋目				3/36			Ⅲ期	
198	1623	05	2区	SE106	16G-10F10		珠洲焼	片口鉢		11.0			長・チ・海	灰 (7.5Y5/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 10目の鉋目	静止糸切り			7/36			Ⅲ期	被熱
198	1624	05	2区	SE126	16G-10F14		中世土師器	皿	8.4	5.3	2.4	29	63	石	橙 (5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	16/36	9/36		
198	1625	05	2区	SE126	16G-10F19	3	珠洲焼	片口鉢	(38.3)				長・チ・海	灰 (N5/0)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36			Ⅱ期	外面の一部を研磨具として利用
199	1626	05	2区	SE133	17G-1G16		中世土師器	皿	(12.3)				石・長	灰白 (2.5Y8/2)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			3/36	6/36	4/36		
199	1627	05	2区	SE133	17G-1F20, 1G16・22	3・V	珠洲焼	壺T種					石・長・チ・海	灰 (7.5Y5/1)		還元	平行タタキメ	当て具痕・ナデ								SE166 接合
199	1628	05	2区	SE133	17G-1G16		珠洲焼	片口鉢					石・長・雲	灰オリーブ (5Y4/2)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉋目				1/36				
199	1629	05	2区	SE133	17G-1G16	1	珠洲焼	片口鉢		(12.0)			石・長・チ・海	黄灰 (2.5Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 14目の鉋目	静止糸切り			3/36				
199	1630	05	2区	SE166	17G-1G16・22, 2G1	1・Va	珠洲焼	壺K種 (裝飾壺)					石・長・チ・海	灰 (5Y6/1)		還元	タタキメ・ケズリ・櫛目文	当て具痕・ミガキ・ナデ							Ⅲ期	1730 と同一個体か
199	1631	05	2区	SE166	17G-1G18・22・23	4・6	珠洲焼	甕	(56.0)				長・白	灰 (5Y5/1)		還元	ナデ・平行タタキメ	ナデ・当て具痕・ナデ				2/36			Ⅳ2期	SE166・173 接合
199	1632	05	2区	SE173	17G-1G18	4	中世土師器	皿	8.3	5.8	1.7	20	70	石・長・雲・チ・赤・海	橙 (7.5YR6/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		5/36	7/36	5/36		
199	1633	05	2区	SE173	17G-1G18	4	中世土師器	皿	14.7	9.0	3.7	25	61	石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	13/36	10/36		
199	1634	05	2区	SE173	17G-1G18	4・5	中世土師器	皿	(12.5)				長・雲・チ	淡黄 (2.5Y8/4)		酸化	ロクロナデ・ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ				2/36				
199	1635	05	2区	SE173	17G-1G18	4	珠洲焼	片口鉢					石・長・海	灰 (5Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 10目の鉋目							Ⅲ～Ⅳ期	
199	1636	05	2区	SE173	17G-1G18・23	1・2・4	珠洲焼	片口鉢	27.3				石・長・チ・海	灰 (10Y5/0)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 7目の鉋目				6/36			Ⅳ1期	SE166 接合
199	1637	05	2区	SE173	17G-1G18	4	珠洲焼	片口鉢		12.5			長・チ・海	灰 (5Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 9目の鉋目	静止糸切り			12/36			Ⅳ期	鉋目磨滅
199	1638	05	2区	SE173	17G-1G18	3	珠洲焼	片口鉢	(36.0)				石・長・チ・海	浅黄橙 (7.5YR8/3)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36			Ⅲ～Ⅳ期	酸化気味
199	1639	05	2区	SK113	17G-1G20		珠洲焼	片口鉢	(20.0)				長・雲	灰 (N6/0)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36				
200	1640	05	2区	SK131	17G-1F15		青磁	碗	(10.0)				黒	灰白 (7.5Y7/1)	オリーブ灰 (5GY6/1)							3/36			D期	小碗
200	1641	05	2区	SK131	17G-1F15		中世土師器	皿	9.2				石・長・雲・角	にぶい黄橙 (10YR7/3)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			5/36				
200	1642	05	2区	SX135	17G-1G21		瀬戸・美濃焼	瓶子					長	灰白 (N7/0)			ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロナデ・ケズリ・ケズリ・沈線	指頭圧痕							外面灰釉剥落
200	1643	05	2区	SD3	17G-2G1		珠洲焼	片口鉢	(27.0)				石・長・チ・海	灰白 (10Y7/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 7目の鉋目				3/36			Ⅲ～Ⅳ1期	
200	1644	05	2区	SD4	16G-10H22	2a	青磁	碗	(14.9)				黒	灰白 (7.5Y7/1)	灰オリーブ (7.5Y6/2)							2/36			D期	
200	1645	05	2区	SD4	17G-1G5	3b	青磁	碗	(17.0)				黒	灰 (10Y6/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)							3/36			D期	
200	1646	05	2区	SD4	16G-10H19		中世土師器	皿	(8.0)	5.0	2.0	25	63	石・長・チ	明赤褐 (2.5YR5/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	1/36	13/36	5/36		
200	1647	05	2区	SD4	16G-10H19		中世土師器	皿	8.0	4.6	1.9	24	58	石・雲・チ	橙 (5YR6/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	6/36	27/36	18/36		
200	1648	05	2区	SD4	17G-1G10	3b	中世土師器	皿	(8.6)	5.6	2.5	29	65	石・長・雲	橙 (5YR6/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	3/36	32/36	18/36		底部かなりの歪みあり
200	1649	05	2区	SD4	17G-1G10	3b	中世土師器	皿		5.8				石・長・雲	にぶい橙 (7.5YR6/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	22/36				

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	色調		焼成	手法			回転方向	遺存率			時期	備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高				胎土	軸葉		外面	内面	底部		口縁部	底部	全体			
200	1650	05	2区	SD4	17G-1G10	4a	中世土師器	皿	7.9	6.5	1.4	18	82	長・雲・チ・赤・海	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	24/36	36/36	24/36				
200	1651	05	2区	SD4	17G-1G14	3b	中世土師器	皿		6.2				石・長・雲・海	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		32/36					
200	1652	05	2区	SD4	17G-1G10	4a	中世土師器	皿	12.1	7.8	3.7	31	64	石・長・雲・チ・赤	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	31/36	25/36				
200	1653	05	2区	SD4	17G-1G13	4a	中世土師器	皿	12.7	7.0	3.8	30	55	石・雲・海	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	11/36	36/36	22/36				
200	1654	05	2区	SD4	17G-1G13	4a	中世土師器	皿	13.0	8.0	3.8	29	62	石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	12/36	10/36				
200	1655	05	2区	SD4	17G-1G13・14	3b	中世土師器	皿	13.0	7.5	3.4	26	58	石・長・雲	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	19/36	36/36	18/36		SK157 接合		
200	1656	05	2区	SD4	17G-1G14	4a	中世土師器	皿	13.2	6.5	3.5	27	49	石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36	36/36	36/36				
200	1657	05	2区	SD4	17G-1G10	4a	中世土師器	皿	13.3	6.0	2.8	21	45	長・チ・赤・海	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	34/36	36/36	35/36				
200	1658	05	2区	SD4	17G-1G18	4a	中世土師器	皿	13.5	7.2	3.7	27	53	石・雲・チ・海	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	31/36	36/36	32/36				
200	1659	05	2区	SD4	16G-10H19, 17G-1G14	4a下	中世土師器	皿	12.9	6.9	3.4	26	53	石・雲・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36	36/36	36/36				
200	1660	05	2区	SD4	17G-1G14	4a上	中世土師器	皿	13.6	8.0	3.6	26	59	石・雲・チ・赤	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ	糸切り	右	36/36	36/36	36/36				
200	1661	05	2区	SD4	17G-1G13	4a	中世土師器	皿	(14.0)	8.0	2.6	19	57	石・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ・一方向ナデ	ナデ		2/36	9/36	6/36		手づくね		
201	1662	05	2区	SD4	17G-1G18	4	瀬戸・美濃焼	瓶子						長	灰白 (N7/0)		ロクロナデ・ロクロケズリ	ロクロナデ・ナデ・ロクロケズリ							外面灰釉剥落		
201	1663	05	2区	SD4	16H-9F17, 17G-1G18	4a	珠洲焼	壺R種	10.0					長・雲・海	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				36/36			IV 2期		
201	1664	05	2区	SD4	17G-1G14	2a	珠洲焼	壺R種		13.5				石・長・雲・チ・海	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り・ナデ				9/36				
201	1665	05	2区	SD4	17G-1G19	4a	珠洲焼	壺R種		12.0				石・長・角	緑灰 (10G5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り・ナデ				8/36	8/36			
201	1666	05	2区	SD4	17G-1G13	2a	珠洲焼	甕						長・チ・海	灰 (10Y5/1)	還元	平行タタキメ・印花文	当て具痕・ナデ							IV期		
201	1667	05	2区	SD4	16G-9H14, 17G-1G14	4a・V	珠洲焼	甕	60.2					長・雲・チ・海	灰 (N5/0)	還元	ナデ・平行タタキメ	ナデ				4/36			II期		
201	1668	05	2区	SD21	17G-1G20		青磁	椀	(14.9)					黒	灰白 (10YR6/1)	オリーブ灰 (5GY6/1)						3/36			D期		
201	1669	05	2区	SD35	16G-10H4		中世土師器	皿		5.5				石・長・チ	橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				16/36				
201	1670	05	2区	SD35	16G-10H15		北越窯産陶器	片口鉢						石・長	黒褐 (7.5YR3/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					1/36			珠洲II期並行 北越窯	
201	1671	05	2区	SD36	17G-1G3		青磁	椀	(14.5)					黒	灰白 (10Y7/1)	オリーブ灰 (5GY6/1)							3/36			E期	
201	1672	05	2区	SD36	16G-10H12		中世土師器	皿	9.0	4.8	2.4	27	53	石・長・チ	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	4/36	14/36	7/36				
201	1673	05	2区	SD36	16G-10H11		中世土師器	皿	10.0					石・長・チ	橙 (5YR6/8)	酸化	ナデ	ナデ					5/36			手づくね	
201	1674	05	2区	SD105	17G-1H3		中世土師器	皿		4.7				石・長・チ・海	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			30/36				
201	1675	05	2区	SD138	16G-10H23, 17G-1G3, 1H2・12	1・2a・V	瀬戸・美濃焼	瓶子						長	灰白 (5Y7/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)		沈線	ロクロナデ・絞り痕							外面灰釉	
201	1676	05	2区	Pit24	16G-9H13		中世土師器	皿	8.1	6.2	2.3	28	77	石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ナデ	ナデ					5/36	14/36	9/36		手づくね
201	1677	05	2区	Pit78	16G-10F24		中世土師器	皿	9.0	6.6	1.8	20	73	石・長・雲	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り				8/36	6/36	8/36		
201	1678	05	2区	Pit84	16G-9H19		青磁	椀	(14.0)					黒	灰白 (7.5Y8/1)	灰オリーブ (7.5Y5/3)							1/36			D期	

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎土	色調		焼成	手法			遺存率			時期	備考				
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高				胎土	軸葉		外面	内面	底部	回転 方向	口縁部	底部			全体			
201	1679	05	2区	河16	16G-9H4		珠洲焼	片口鉢		10.0			石・長・白・海	オリーブ灰 (5GY5/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位 10目の卸目	静止糸 切り					5/36			IV期		
201	1680	05	2区	河16	16G-9H4		珠洲焼	片口鉢		12.0			石・チ	灰白 (10YR8/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・卸目	静止糸 切り					7/36					
201	1681	05	2区	-	17G-1G15	V a	中世土師器	皿	8.6	3.8	2.9	34	44	石・チ	にぶい黄橙 (10YR7/4)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					11/36	6/36	9/36		内外面油煙・タール 付着	
201	1682	05	2区	-	16G-10G20	V a	中世土師器	皿	9.0	6.8	1.7	19	76	石・長・チ	橙 (5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		4/36	12/36					
201	1683	05	2区	-	16G-9H25	V	中世土師器	皿		4.5				石・長・海	橙 (7.5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右								
201	1684	05	2区	-	16G-9H23	V a	中世土師器	皿		6.5				石・長・チ	橙 (5YR7/8)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右			11/36					
202	1685	05	2区	-	16G-10G25, 17G-1G10	V・ V a	瀬戸・美濃 焼	瓶子						石・チ・黒	灰白 (5Y7/1)	オリーブ灰 (10Y6/2)		ロクロナデ	ロクロナ デ・指頭 圧痕・ナデ									外面灰釉	
202	1686	05	2区	-	17G-1G3・9	V a	瀬戸・美濃 焼	瓶子		9.0				石・長・黒	灰白 (5Y7/1)	オリーブ灰 (10Y6/2)		ロクロナ デ・ロク ロナケズリ	ロクロナ デ					9/36				外面灰釉ほとんど剥 落	
202	1687	05	2区	-	16G-10H18	V	珠洲焼	壺T種	15.0					石	灰 (N5/0)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ					4/36					
202	1688	05	2区	-	17G-1G23	V a	珠洲焼	壺T種	(15.0)					石・白	灰 (N4/0)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36					
202	1689	05	2区	-	17G-1G9	V a	珠洲焼	壺T種	(22.8)					石・長・チ	灰 (N5/0)		還元	ロクロナ デ・平行 タタキメ	ロクロナ デ					1/36				IV期	
202	1690	05	2区	-	17G-2F21	V	珠洲焼	甕						石・長・チ	灰 (7.5Y5/1)		還元	平行タタ キメ・ナ デ	当て具痕 ・ナデ										
202	1691	05	2区	-	17G-1G13	V	珠洲焼	甕						石・長・チ・海	灰 (10Y5/0)		還元	平行タタ キメ	当て具痕 ・ナデ										
202	1692	05	2区	-	17G-2E25	V	珠洲焼	甕						石・チ・海	暗緑灰 (10G4/1)		還元	ナデ	ナデ					1/36					
202	1693	05	2区	-	17G-1G21, 16G-10H17	V・ V a	珠洲焼	片口鉢	28.0					石・長・チ・海	灰黄 (2.5Y6/2)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ					4/36				IV 2期	
202	1694	05	2区	-	16G-10G20	V a	珠洲焼	片口鉢		11.6				石・長・チ・海	灰 (N5/0)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ・1単位 13目の卸 目	ケズリ				8/36				IV 2期	
202	1695	05	2区	-	17G-1G9	V a	珠洲焼	片口鉢	(30.0)					石・チ	暗オリーブ灰 (2.5GY4/1)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ・1単位 9目の卸目					1/36				IV 1期 ～IV 2 期	
202	1696	05	2区	-	17G-1G4	V a	珠洲焼	片口鉢		12.2				石・長・チ・海	灰 (N5/0)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ	静止糸 切り・ ナデ				6/36					
202	1697	05	3区	SE47	16G-7A20		青磁	椀	(16.0)					黒	灰白 (2.5Y7/1)	オリーブ灰 (10Y6/2)								2/36				E期	
202	1698	05	3区	SE72	16G-7A4・9		珠洲焼	甕	(50.0)					長・チ・海	灰 (N4/0)		還元	平行タタ キメ・ナ デ	当て具痕 ・ナデ					3/36				V期	1720 と同一個体か
202	1699	05	3区	SE308	16G-8B16		中世土師器	皿	12.4	8.0	3.2	26	40	石・長	灰白 (5Y8/1)		酸化	ロクロナ デ	ロクロナ デ	ヘラ切 り				11/36	13/36	10/36			
202	1700	05	3区	SE114	16G-7C17		中世土師器	皿	7.0	5.8	1.3	19	83	石・雲・チ	灰白 (10YR8/2)		酸化	ロクロナ デ	ロクロナ デ	ヘラ切 り				5/36	8/36	6/36			
202	1701	05	3区	SE114	16G-7C17		北越窯産陶 器	壺						長・チ・海	灰 (7.5Y6/1)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ					1/36				珠洲II 期並行	北沢窯
202	1702	05	3区	SE138	16G-7B20	上	珠洲焼	甕						石・長・チ	灰 (5Y6/1)		還元	ナデ	ナデ									ほとんど剥離	
202	1703	05	3区	SD2	16G-6D12		青白磁	合子	(7.1)	5.2	2.2	31	73	黒	灰白 (5GY8/1)	明緑灰 (10G7/1)					高台削 り出し				3/36	9/36	3/36		
202	1704	05	3区	SD2	16G-6D6		中世土師器	皿	(12.0)	8.0	3.0	25	67	チ・赤	灰白 (10YR8/1)		酸化	ロクロナ デ	ロクロナ デ	ヘラ切 り				1/36	7/36	5/36			
203	1705	05	3区	SD2	16G-6D18		北越窯産陶 器	壺	(30.0)					長・チ・海	灰白 (2.5Y7/1)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ					1/36				珠洲II 期並行	北沢窯
203	1706	05	3区	SD2	16G-6D11		珠洲焼	片口鉢	(30.6)					石・チ・海	灰 (5Y6/1)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ・卸目					2/36				II期	
203	1707	05	3区	SD2	16G-6D11・ 16		珠洲焼	片口鉢	(29.1)					チ・白・海	灰白 (2.5Y7/1)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ・1単位 12目の卸 目					3/36				II期	
203	1708	05	3区	SD2	16G-6D18		珠洲焼	片口鉢	(31.4)					石・チ	灰白 (2.5Y7/1)		還元	ロクロナ デ	ロクロナ デ・卸目					2/36				III期	

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	種別	器種	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	色調		焼成	手法			遺存率			時期	備考	
		年度	区	遺構名	グリッド				口径	底径	器高				胎土	軸葉		外面	内面	底部	回転方向	口縁部	底部			全体
203	1709	05	3区	SD2	16G-6D18		珠洲焼	片口鉢	(32.4)				石・チ・海	灰 (10Y5/0)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉗目			2/36			IV 2期		
203	1710	05	3区	SD15	16G-7B1		青磁	椀					黒	灰白 (7.5Y8/1)	オリーブ灰 (2.5GY6/1)									E期		
203	1711	05	3区	SD277	16G-6C8		珠洲焼	片口鉢	(34.0)				石・長・チ	灰 (10Y6/0)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉗目			3/36			II期		
203	1712	05	3区	河1	16G-5D22	1	青磁	椀		4.7			黒	灰白 (N7/0)	オリーブ黄 (7.5Y6/3)				ロクロケズリ		7/35		F期			
203	1713	05	3区	河1	16G-5D22	1	青磁	椀	(14.0)				黒	灰白 (2.5Y7/1)	オリーブ灰 (5GY6/1)						2/36		E期			
203	1714	05	3区	河1	16G-5D24	1	青磁	椀		5.5			黒	灰白 (2.5Y7/1)	オリーブ灰 (5GY6/1)				ロクロケズリ			36/36				
203	1715	05	3区	河1	16G-5D16	1	珠洲焼	片口鉢					石	灰 (10Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉗目			1/36			II期		
203	1716	05	3区	河1	16G-6D14	2・3	北越窯産陶器	片口鉢	(24.0)				石・チ	黄灰 (2.5Y6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36					
203	1717	05	3区	-	16G-7C5	V	中世土師器	皿	(9.0)	4.8	1.7	19	53	石・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)		酸化	ナデ	ナデ			5/36	9/36	5/36	手づくね	
203	1718	05	3区	-	16G-7B13	V	珠洲焼	水注					雲・チ	灰 (5Y6/1)		還元	波状文	ロクロナデ								
203	1719	05	3区	-	16G-6B20	V	珠洲焼	壺T種		13.4			石・長・チ・海	灰 (7.5Y6/1)		還元	ナデ	ナデ・当て具痕	砂底			5/36			転用研磨具	
203	1720	05	3区	-	16G-7B17	V	珠洲焼	甕					石・長・チ	灰 (5Y5/1)		還元	平行タタキメ・ナデ	当て具痕・ナデ			1/36			V期	1698 と同一個体か	
204	1721	05	3区	-	16G-7B19, 6C20	V	珠洲焼	片口鉢	(34.5)				長・チ・海	灰オリーブ (5Y6/2)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・1単位13目の鉗目			1/36			II期		
204	1722	05	3区	-	16G-7B1	V	珠洲焼	片口鉢		13.0			石・チ・海	灰白 (2.5Y7/1)		還元	ロクロナデ	1単位10目の鉗目	静止糸切り			11/36				
204	1723	05	3区	-	16G-6C7	V	珠洲焼	片口鉢		11.9			長・海	にぶい黄橙 (10YR7/2)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り			4/36				
204	1724	05	3区	-	16G-7C6	V	珠洲焼	片口鉢					長・海	にぶい黄橙 (10YR6/4)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉗目						III期	漆継痕あり	
204	1725	05	4区	SD7	15J-7A23		白磁	椀						灰白 (7.5Y8/1)	灰白 (7.5Y7/1)											
204	1726	05	4区	SD13	15I-9I13		青磁	皿	(6.2)	2.6	0.7	11	42	灰白 (7.5Y8/1)	明緑灰 (5G7/1)							1/36	7/36	3/36	D期	
204	1727	06	1区	SK73	17G-6C1		珠洲焼	片口鉢	(30.0)				石・長・海	灰白 (5Y7/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36		3/36	IV期		
204	1728	06	1区	SD102	16G-10B13		珠洲焼	片口鉢					石・長・海	オリーブ灰 (2.5GY5/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉗目					1/36			
204	1729	06	1区	河2	17G-5C10		中世土師器	皿		4.8			石・長・赤	にぶい黄橙 (10YR7/2)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り			12/36	5/36			
204	1730	06	1区	河2	17G-5C4・8・15		珠洲焼	壺K種 (裝飾壺)					石・長・海	灰 (10Y5/1)		還元	ケズリ・ナデ・櫛目文	当て具痕・ナデ					3/36	III期	1630 と同一個体か	
204	1731	06	1区	-	17G-3D14	V	中世土師器	皿		5.5			長・チ・海	橙 (7.5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			16/36	5/36			
204	1732	06	1区	-	16G-10B24	V	珠洲焼	片口鉢	(31.2)				長・白	灰白 (5Y6/2)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉗目			2/36		2/36	IV期		
204	1733	06	2区	SD6	16F-6H4・20	3	中世土師器	皿		6.4			石・長・チ・角・海	にぶい黄 (2.5Y6/3)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		21/36	5/36		SK95 接合	
204	1734	06	2区	SD6	16F-5H13		下部青黒色粘土	中世土師器	皿		6.4		石・長	橙 (7.5YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		12/36	5/36			
204	1735	06	2区	SD6	16F-6H20	3	珠洲焼	甕					石・長・白	灰 (N6/0)		還元	平行タタキメ	当て具痕・ナデ					5/36			
204	1736	06	2区	SD6	16F-8I3	3	珠洲焼	片口鉢	(30.9)				石・長	緑灰 (7.5GY6/1)		還元	ロクロナデ	ロクロナデ・鉗目			3/36		3/36	II期		
204	1737	06	2区	SD13	16F-8I8		珠洲焼	甕					石・長・チ・海	灰 (N6/0)		還元	平行タタキメ	当て具痕・ハケメ							外面転用研磨具	
204	1738	06	2区	SD79	16F-8H17		中世土師器	皿		(2.8)			石・長・チ・赤	明黄褐 (10YR7/6)		酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36				
204	1739	06	2区	-	16F-7I13	V	珠洲焼	甕					石・長・チ・白	オリーブ灰 (2.5GY5/1)		還元	平行タタキメ	当て具痕							外面転用研磨具	

別表 6 沖ノ羽遺跡第 18・19 次調査瓦塔観察表

凡例

1 出土位置 調査年度・区・遺構名・グリッド名を記した。

2 胎土 胎土中に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土粒、「白」は白色凝灰石、「角」は角閃石、「海」は海綿骨針を表す。

3 色調 『新版標準土色帳』『小山・竹原 1967』の記号を記した。

4 手法 瓦塔屋蓋部表現手法は〔池田 1995〕に従った。手法が分からないものについては成・整形技法にまとめて記した。池田氏の分類と若干異なる部分が存在する。

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	部位	手法	成・整形技法	胎土	色調	焼成	残存	備考		
		年度	区											
205	1740	05	2	SK119	17G-2E13	2	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.85cm，瓦継ぎ目長 4.1cm	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	一部	半截竹管 4 単位，施工方向左→右	
205	1741	05	2	SK119	17G-2E13		屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.75cm 軒裏垂木：へら削り出し手法，垂木幅 1.3cm	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	一部	やや磨滅している	
205	1742	05	2	SX23	16G-9H14		屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.9cm，瓦継ぎ目長 2.6cm 垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 1.2cm，垂木間隔 1.0cm	石・長	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	一部		
205	1743	05	2	SD2	17G-3E5	1	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.9cm，瓦継ぎ目長 2.4cm 軒裏垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 1.3cm，垂木間隔 0.75cm	石・長・雲・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	一部		
205	1744	05	2	SD160	17G-2E17	1	屋蓋部		粘土紐貼り付け後にへらナデ	石・長・角	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	一部	
205	1745	05	2	-	17G-1F5	V a	屋蓋部		粘土紐貼り付け	石・長	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	一部	隅棟
205	1746	05	2	-	17G-2F14	V	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.7cm 瓦継ぎ目長 2.7cm 軒裏垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 1.1cm，垂木間隔 0.95cm	石・長・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	一部		
205	1747	05	2	-	17G-1F20	V a	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.9cm，瓦継ぎ目長 2.5cm 軒裏垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 1.0cm，垂木間隔 1.0cm	石・長・焼・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	一部		
205	1748	05	2	-	17G-1G7	V	屋蓋部		石・長・角	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	一部		
205	1749	05	3	SE366	16G-7C20		屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.85cm，瓦継ぎ目長 2.9cm 軒裏垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 1.05cm，垂木間隔 1.0cm	石・長・雲	灰白 (5YR8/2)	酸化	一部		
205	1750	05	3	河 1	16G-6D4	2・3	宝珠		外面：へらケズリ	石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	一部	
205	1751	05	3	河 1	16G-6E16	1	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.8cm	石・長・雲	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	一部	軒裏剥落している	
205	1752	05	3	河 1	16G-6D14, 16G-6D15	1	基礎から初軸部		外面：へらナデ 内面：へらケズリ	石・長・白	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	一部	やや磨滅、剥落している
205	1753	05	3	河 1	16G-6D2	1	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法？瓦幅 0.8cm，瓦継ぎ目長 2.0cm，2.7cm 軒裏：へら削り出し C2 手法，垂木幅 1.2cm，垂木間隔 0.9cm	石・長・雲・チ・角	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	一部		
206	1754	06	1	河 2	17G-4B3		屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.8cm	チ・焼	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	一部		
206	1755	06	1	河 2	17G-4B8		屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.7cm，瓦継ぎ目長 2.4cm，1.7cm，軒裏垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 0.9cm，垂木間隔 0.6cm	石・長・焼	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	一部	結節が二節ある？	
206	1756	06	1	河 2	17G-4B3		屋蓋部		外面：へらナデ 内面：へらケズリ	雲・チ	灰白 (10YR8/2)	酸化	一部	
206	1757	06	1	-	17G-1C17	V a	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.7cm，軒裏垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 0.9cm	石・長・チ・焼	橙 (2.5YR6/6)	酸化	一部		
206	1758	06	1	-	17G-1C23	V a	屋蓋部	屋根瓦：瓦幅 0.75cm	内面：へらナデ	石・長・チ・焼	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	一部	瓦堂か
206	1759	06	1	-	17G-1C18	V a	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き A または C 手法，瓦幅 0.8cm，瓦継ぎ目長 2.1cm，軒裏垂木：へら削り出し C2 手法，垂木幅 0.9cm	チ・焼	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	一部		
206	1760	06	2	-	16F-8H6	V a	屋蓋部	屋根瓦：幅狭工具押し引き手法，瓦幅 0.7cm	チ・焼	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	一部		

別表 7 沖ノ羽遺跡第 18・19 次調査土製品・鍛冶関連遺物・銭貨観察表

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考		
		年度	区			長さ	径	孔径				
206	1761	05	1	SK19	16H-9F13		52.0	15.0	5.0	7.1	細形管状	
206	1762	05	1	SK19	16H-9F14		48.0	14.0	5.0	6.4	細形管状	
206	1763	05	1	SK19	16H-9F13		40.0	12.0	4.0	4.7	細形管状	
206	1764	05	1	SD16	16H-9F14			外径 130.0			外面スス付着	
206	1765	05	1	-	16H-7I11	V	56.0	15.0	4.0	10.6	細形管状	
206	1766	05	1	-	16H-7I11	V	47.0	15.0	4.0	7.9	細形管状	
206	1767	05	1	-	17H-1C21	V	42.0	19.0	5.0	11.8	太形管状	
206	1768	05	3	河 1	16G-6D8	1	37.0	18.0	3.5	9.3	太形管状	
206	1769	05	3	河 1	16G-5D8	1	66.0	(55.0)	(19.0)	69.8	仮形	
206	1770	05	3	-	16G-7D4			(47.0)	(21.0)	26.0	仮形	
206	1771	05	3	-	16F-6C24	V			(59.0)	7.0	23.9	
206	1772	05	4	-	15J-8A4	V						筒形製品
206	1773	06	1	-	16G-10B7	V a	39.0	40.0	9.0	15.3		土製円盤
206	1774	06	1	-	16G9A25	V a	27.0	23.0	14.0	6.4		土製品
207	1775	05	3	SD424	16G-7D6			外径 (78.0)	内径 (26.0)	94.4		羽口
207	1776	05	3	河 1	16G-6E16	1		外径 (65.0)	内径 (28.0)	33.0		羽口
207	1777	05	3	河 1	16G-6E16	1		口径 (74.0)		39.0		外面に指頭圧痕あり
207	1778	05	3	河 1	16G-6D15	1		口径 (102.0)		20.0		鉢？
207	1779	05	3	-	16G-7C21	V		外径 (62.0)	内径 (28.0)	91.2		鉢？
207	1780	05	3	-	16G-7A23	V		外径 56.0	内径 25.0	99.2		底径 35.0
207	1781	05	3	-	16G-7C15	V		底径 35.0	器高 30.0	72.1		埋瑠
207	1782	06	1	SK109	16G-9A3	3		外径 78.0	内径 29.0	340.2		羽口
207	1783	06	1	SK109	16G-9A3	3		外径 73.0	内径 31.0	255.0		羽口
207	1784	06	3	SK10	17F-6G2			外径 (63.0)	内径 (21.0)	48.5		羽口
207	1785	06	3	SK10	17F-6G2			外径 (75.0)	内径 (28.0)	115.3		羽口
207	1786	05	1	河 25	17H-1A18		短径 23.3	長径 23.9	厚さ 1.1	1.5		銭貨
207	1787	06	2	SK88	16F-7I15		短径 26.1	長径 27.0	厚さ 9.6	12.3		銭貨
207	1788	06	2	SD6	16F-8I9	4	短径 24.6	長径 24.8	厚さ 1.5	3.6		銭貨

別表 8 沖ノ羽遺跡第 18・19 次調査金属製品観察表

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	器種	法量 (mm)			重量 (g)	備考		
		年度	区			長さ	幅	厚さ				
208	1789	05	2	SE20	17G-1H11	3	不明鉄製品	49.0	15.5	11.0	7.0	
208	1790	05	2	SD4	16G-10H23		鉄釘	98.0	17.5	18.0	37.0	推定長さ 82.0mm 太さ 8.0mm
208	1791	05	2	SD52	16G-9H21		鉄釘	45.0	5.0	5.0	4.5	推定太さ 5.0mm
208	1792	05	2	SD160	17G-2E17		鉄釘	111.5	13.5	15.0	29.5	推定太さ 8.0mm
208	1793	05	2	-	17G-2F22	V	鉄釘	70.0	19.0	12.0	20.5	推定長さ 61.0mm 太さ 7.0mm
208	1794	05	2	-	17G-1G4	V	鉄釘	63.0	14.0	9.0	8.5	推定太さ 4.0mm
208	1795	05	3	SE67	16G-7A10		鉄釘または鍍	130.0	28.0	19.0	67.5	推定長さ 124.0mm 太さ 12.0mm
208	1796	05	3	SE104	16G-6B21		不明鉄製品	42.0	11.0	0.5	9.5	
208	1797	05	3	SE153	16G-8B5		鉄釘	27.0	11.0	8.0	3.0	推定太さ 7.0mm
208	1798	05	3	SE321	16G-6C17		鉄釘	51.0	14.0	13.0	9.0	推定長さ 46.0mm 太さ 6.0mm
208	1799	05	3	SK292	16G-7C13		不明鉄製品	39.0	16.0	15.0	8.0	
208	1800	05	3	SK294	16G-6C16		刀子	83.0	21.0	8.0	25.5	推定幅 13.0mm
208	1801	05	3	SK363	16G-7C5		不明鉄製品	30.0	16.0	11.0	5.0	
208	1802	05	3	SK365	16G-7C15		鉄釘	61.0	14.0	13.0	11.5	推定太さ 5.0mm
208	1803	05	3	SX19	16G-8B2		刀子	34.0	14.0	9.0	5.5	推定幅 11.5mm
208	1804	05	3	SX357	16G-7C8		刀子	53.0	17.0	10.0	10.5	推定幅 11.0mm
208	1805	05	3	SX439	16G-7D6		不明鉄製品	44.0	7.0	1.5	3.5	
208	1806	05	3	SD15	16G-8B11		鉄釘	53.0	20.0	11.0	20.5	推定太さ 8.0mm
208	1807	05	3	SD43	16G-8A4		鉄釘または鍍	(63.0)	13.0	17.0	13.5	推定太さ 8.0mm
208	1808	05	3	SD128	16G-7B8		鉄釘	97.0	11.0	8.0	16.0	推定長さ 91.0mm 太さ 5.0mm
208	1809	05	3	SD157	16G-7D6		鉄釘	57.0	18.0	12.0	17.5	推定長さ 51.0mm 太さ 6.0mm
208	1810	05	3	Pit173	16G-7C24		不明鉄製品	24.0	29.0	16.0	11.0	
208	1811	05	3	河 1	16G-6D17	1	鉄釘	91.0	15.0	14.0	16.5	推定長さ 88.0mm 太さ 5.0mm
208	1812	05	3	-	16G-7C16	V	鉄釘	(70.0)	24.0	6.0	13.5	推定長さ 51.0mm 太さ 5.0mm
208	1813	05	3	-	16G-7C19	V	鉄釘	50.0	19.0	17.0	14.5	推定長さ 46.0mm 太さ 6.0mm
208	1814	05	3	-	16G-7D6	V	鉄釘	69.0	18.0	12.0	17.5	推定太さ 8.0mm
208	1815	05	3	-	16G-6D16	V	鉄釘	94.0	10.0	8.0	12.5	推定太さ 4.0mm
208	1816	05	3	-	16G-7C23	V	不明鉄製品	51.5	32.0	19.0	35.5	
208	1817	05	3	-	16G-7C19	V	刀子	71.0	20.0	10.0	19.0	推定幅 13.0mm
208	1818	06	1	-	16G-10B7	V a	鉄釘	62.0	23.0	10.0	19.0	推定太さ 7.0mm



別表 9 沖ノ羽遺跡第 18・19 次調査石製品観察表

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	器種	石材	法量 (mm)			重量 (g)	備考
		年度	区	遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ		
209 1819	05 1	河 25	17H-1A10			軽石製石製品	軽石	37.5	43.0	15.0	6.5		
209 1820	05 1	河 25	16H-10B22			軽石製石製品	軽石	34.0	25.0	14.0	3.5		
209 1821	05 1	河 25	17H-1A18			軽石製石製品	軽石	77.0	71.0	43.0	52.5		
209 1822	05 1	河 25	17H-1A5			軽石製石製品	軽石	56.0	66.0	40.0	34.5		
209 1823	05 1	—	16H-9F18		V	砥石	凝灰岩	86.0	80.0	38.0	3.18		
209 1824	05 1	—	17H-1A20		V	砥石	凝灰岩	111.0	47.0	26.0	259.5		
209 1825	05 1	—	17G-6H3		V	軽石製石製品	軽石	28.0	31.0	14.0	3.0		
209 1826	05 1	—	17H-1A20		V	軽石製石製品	軽石	28.0	24.0	16.0	4.5		
209 1827	05 1	—	17H-1B5		V	軽石製石製品	軽石	78.0	61.0	38.0	48.5		
209 1828	05 1	—	17H-1A4		V	軽石製石製品	軽石	184.0	94.0	68.0	503.5		
210 1829	05 1	—	17H-1A13		V	軽石製石製品	軽石	163.0	137.0	50.0	471.5		
210 1830	05 2	SE126	16G-10F14			不明	黒曜石	26.0	19.0	10.0	3.5		
210 1831	05 2	SE133	17G-1F20			砥石	凝灰岩	43.0	32.0	13.0	15.5		
210 1832	05 2	SE166	17G-1G23,2G2		4	砥石	凝灰岩	112.0	75.0	25.0	199.0	SD3 接合	
210 1833	05 2	SE166	17G-1G23			台石	玄武岩質安山岩	181.0	107.0	49.0	1066.2		
210 1834	05 2	SE166	17G-1G22		4	軽石製石製品	軽石	64.0	55.0	33.0	33.5		
210 1835	05 2	SE166	17G-1G22・23		4	軽石製石製品	軽石	48.0	43.0	41.0	18.5		
211 1836	05 2	SE173	17G-1G10・12・13・18・22・23		4.5a, V・V a	砥石	凝灰岩	204.0	144.0	66.0	2420.0	SE166 接合	
211 1837	05 2	SE173	17G-1G18		4	砥石	凝灰岩	143.0	90.0	64.0	861.0		
211 1838	05 2	SE173	17G-1G18		4	砥石	角閃石安山岩	78.0	61.0	40.0	263.5		
212 1839	05 2	SE173	17G-1G18		4	磨石	安山岩?	336.0	160.0	174.0	5900.0		
212 1840	05 2	SE173	17G-1G18		4	台石	花崗岩	107.0	127.0	69.0	1375.0		
212 1841	05 2	SK131	17G-1F15			砥石	凝灰岩	58.0	32.0	16.0	39.0		
212 1842	05 2	SK131	17G-1F20			磨石	緑色安山岩	61.0	26.0	31.0	45.0		
213 1843	05 2	SX23	16G-9H15			砥石	凝灰岩	103.0	85.0	68.0	489.5		
213 1844	05 2	SX23	16G-9H9・14			砥石	凝灰岩	112.0	107.0	73.0	536.5		
213 1845	05 2	SX135	17G-2F5			砥石	凝灰岩	57.0	59.0	28.0	73.0		
213 1846	05 2	SX135	17G-1G21			台石	砂岩	94.0	87.0	56.0	351.5		
214 1847	05 2	SD4	17G-1G13		4a	不明	花崗岩	317.0	229.0	127.0	11500.0		
214 1848	05 2	—	17G-3E3		V a	砥石	凝灰岩	55.0	43.0	8.0	30.0		
214 1849	05 2	—	17G-2F17		V	磨石	粗粒砂岩	89.0	72.0	37.0	312.5		
214 1850	05 2	—	17G-1G13		V a	台石	凝灰岩質砂岩	124.0	43.0	31.0	174.0		
214 1851	05 2	—	17G-2E25		V	台石	玄武岩質安山岩	148.0	67.0	30.0	386.5		
215 1852	05 2	—	17G-1F15		V	台石	安山岩	322.0	113.0	115.0	3470.0		
215 1853	05 2	—	17G-3E14		V	軽石製石製品	軽石	40.0	38.0	18.0	15.5		
215 1854	05 2	—	17G-1G22		V	軽石製石製品	軽石	90.0	63.0	37.0	64.0		
215 1855	05 2	—	16G-9H23		V a	軽石製石製品	軽石	49.5	43.0	25.5	25.5		
215 1856	05 2	—	16G-10I11		V	軽石製石製品	軽石	31.0	31.0	22.0	6.0		
215 1857	05 2	—	16G-10I8		V	軽石製石製品	軽石	26.0	21.0	11.0	1.5		
215 1858	05 3	SE21	16G-8A15			台石	花崗岩	217.0	203.0	100.0	4500.0		
216 1859	05 3	SE47	16G-7A20			軽石製石製品	軽石	34.5	52.5	22.0	15.0		
216 1860	05 3	SE55	16G-7A25			軽石製石製品	軽石	37.5	31.0	23.0	6.0		
216 1861	05 3	SE67	16G-7A10			砥石	凝灰岩	73.0	30.0	26.0	87.5		
216 1862	05 3	SE67	16G-7A10			砥石	凝灰岩	49.0	18.0	21.0	16.5		
216 1863	05 3	SE332	16G-7C3			磨石	凝灰岩	69.0	56.0	36.0	93.5		
216 1864	05 3	SE366	16G-7C20			台石	安山岩	78.0	127.0	68.0	495.0		

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	器種	石材	法量 (mm)			重量 (g)	備考
		年度	区	遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ		
216 1865	05 3	SE366	16G-7C20			軽石製石製品	軽石	47.0	41.0	27.0	19.5		
216 1866	05 3	SE114	16G-7C17			台石	花崗岩	215.0	214.0	149.0	8500.0		
217 1867	05 3	SE114	16G-7C17			台石	花崗岩	347.0	271.0	216.0	31000.0		
217 1868	05 3	SX283	16G-7C12			砥石	凝灰岩	56.0	45.0	24.0	42.5		
217 1869	05 3	SD15	16G-7A15			砥石	凝灰岩	47.0	54.0	30.0	76.5		
217 1870	05 3	SD15	16G-7B6			軽石製石製品	軽石	39.5	33.0	25.0	14.5		
217 1871	05 3	SD84	16G-7B11			砥石	凝灰岩	35.5	46.0	23.0	43.0		
218 1872	05 3	SD84	16G-7B8			軽石製石製品	軽石	55.0	39.5	35.5	28.5		
218 1873	05 3	SD84	16G-6B15			軽石製石製品	軽石	34.0	33.0	17.0	5.0		
218 1874	05 3	Pit99	17G-7B22			軽石製石製品	軽石	55.5	47.0	32.0	32.0		
218 1875	05 3	Pit111	16G-7B17			軽石製石製品	軽石	46.5	26.0	20.0	7.0		
218 1876	05 3	河 1	16G-6E16		1	砥石	凝灰岩	80.0	67.0	20.0	162.0		
218 1877	05 3	河 1	16G-6E16		1	磨石	緑色凝灰岩	79.0	54.0	29.0	113.5		
218 1878	05 3	—	16G-7B11		V	砥石	凝灰岩	62.0	24.0	17.5	51.5		
218 1879	05 3	—	16G-7C14		V	砥石	凝灰岩	42.0	35.0	12.0	25.5		
218 1880	05 3	—	16G-7C20		V	砥石	凝灰岩	49.0	19.0	14.0	20.0		
218 1881	05 3	—	16G-6C11		V	砥石	凝灰岩	48.0	16.0	14.0	12.0		
218 1882	05 3	—	16G-6D21		V	紡錘車	凝灰岩	98.0	98.0	15.0	20.5		
218 1883	05 4	—	15I-10H10		V	磨石	緑色凝灰岩	138.0	70.0	43.0	378.0		
218 1884	06 1	河 2	17G-5C9			砥石	凝灰岩	92.0	34.0	12.0	52.5		
218 1885	06 1	河 2	17G-5C15			軽石製石製品	軽石	48.0	39.0	25.0	13.5		
218 1886	06 1	—	17G-5D4		V a	砥石	凝灰岩	81.5	37.0	25.0	120.5		
219 1887	06 1	—	17G-5C23		V a	石鉢	砂岩	口径 301.0 底径 113.0	底径 113.0	器高 138.0	1440.0		
219 1888	06 2	SK98	16F-8H14・19		3	砥石	安山岩	127.0	57.0	24.0	343.5		
219 1889	06 2	SK98	16F-8H14			軽石製石製品	軽石	36.0	40.0	25.0	15.0		
219 1890	06 2	SD6	16F-7I18		3	砥石	凝灰岩	51.0	37.0	17.0	43.0		
219 1891	06 2	SD6	16F-8I3		1	台石	安山岩	260.0	245.0	133.0	7500.0		
220 1892	06 2	SD6	16F-8I4		1	台石	花崗岩	147.0	107.0	45.0	893.0		
220 1893	06 2	SD6	16F-6H14			軽石製石製品	軽石	40.0	34.0	19.0	7.5		
220 1894	06 2	SD13	16F-6H14			砥石 (転用)	滑石	81.0	31.0	12.0	55.0		
220 1895	06 2	SD13	16F-6H20			台石	安山岩	108.0	102.0	56.0	440.5		
220 1896	06 2	SD13	16F-6H4		3	軽石製石製品	軽石	33.0	26.0	17.0	3.5		
220 1897	06 2	SD13	16F-8I8		1	軽石製石製品	軽石	36.0	29.0	25.0	9.0		
220 1898	06 2	SD59	16F-9G8			軽石製石製品	軽石	37.0	35.0	26.0	15.0		
220 1899	06 2	SD59	16F-9H16			軽石製石製品	軽石	39.0	31.0	18.0	12.5		
220 1900	06 2	SD59	16F-9G9			砥石	凝灰岩	93.5	77.0	15.0	131.5		
220 1901	06 2	SD94	16F-7G25		1	軽石製石製品	軽石	48.0	37.5	17.0	10.0		
220 1902	06 2	SD107	16F-9H6			軽石製石製品	軽石	51.0	38.0	30.0	22.0		
220 1903	06 2	—	16F-8H17		V a	砥石	凝灰岩	77.0	40.0	13.5	59.5		
220 1904	06 2	—	16F-8G4		V a	軽石製石製品	軽石	57.0	38.5	39.0	33.5		
220 1905	06 2	—	16F-8F23		V b	軽石製石製品	軽石	49.5	51.0	42.0	53.5		
220 1906	06 2	—	16F-7I17		V a	軽石製石製品	軽石	36.0	28.0	21.0	6.5		
220 1907	06 2	—	16F-7I4		V a	軽石製石製品	軽石	64.0	37.0	27.0	21.0		
220 1908	06 2	—	16F-7I12		V a	軽石製石製品	軽石	36.5	32.5	21.0	7.5		

別表 10 沖ノ羽遺跡第 18・19 次調査木製品・ヒョウタン観察表

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	時代	器種	樹種	法量 (mm)				木取り	備考
		年度	区	遺構名	グリッド					長さ	幅	厚さ	器厚		
221	1909	05	2	SE115	17G-2E9			曲物側板		(21.0)	(75.0)	2.0	2.0	榫目	内面にケビキ
221	1910	05	2	SE98	16G-10G11			大型円形曲物	スギ	(直径) (505.0)	(高さ) 330.0	(厚さ) 5.5			側板一重・下籬一重構造。側板内面に上下方向のケビキを入れ、さらに下縁から 3/4 まで左下がりの斜め方向にケビキを追加している。側板・下籬を貫通する穴が下部に 2 か所あり、側板のみ釘穴が 1 か所ある。歪みがあるが側板の推定径は 49.4cm。樹種同定 No.9 図版 34No.2
221	1911	05	2	SE98	16G-10G11			円形板		(69.0)	(35.0)	5.0	5.0	榫目	
221	1912	05	2	SE98	16G-10G11			円形板		(204.0)	83.0	6.0	6.0	榫目	中央右寄りに長方形の穿孔、裏面黒色化(漆か?)
221	1913	05	2	SE98	16G-10G11		中世	漆器片口鉢	カツラ	(25.0)	(37.0)	(15.0)	9.0	横木榫目	内外面総黒色系漆、注口部片、樹種同定 No.4
221	1914	05	2	SE98	16G-10G11			棒状木製品		(454.0)	30.0	27.0	23.0	榫目	
221	1915	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(227.0)	7.0	6.0	6.0		
221	1916	05	2	SE98	16G-10G11			箸		202.0	6.0	5.0	5.0		断面七角形
221	1917	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(199.0)	6.0	6.0	6.0		断面七角形
221	1918	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(191.0)	8.0	6.0	4.0		断面七角形
221	1919	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(186.0)	6.5	5.0	5.0		断面四角形
221	1920	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(180.0)	6.0	6.0	6.0		断面四角形
221	1921	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(169.0)	6.0	6.0	6.0		断面八角形
221	1922	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(168.0)	5.0	5.0	5.0		断面四角形
221	1923	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(150.0)	5.0	5.5	4.5		断面六角形
221	1924	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(134.0)	7.0	6.0	5.0		断面五角形
221	1925	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(126.0)	6.5	5.0	4.5		断面八角形
221	1926	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(119.0)	7.0	6.0	5.0		断面八角形
221	1927	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(113.0)	5.0	5.0	5.0		断面四角形
221	1928	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(105.0)	5.0	5.0	4.0		断面五角形
221	1929	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(103.0)	6.0	6.0	4.0		断面五角形
221	1930	05	2	SE98	16G-10G11			箸状木製品		(98.0)	5.5	4.5	3.0	板目	
221	1931	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(99.5)	6.0	5.5	5.0		断面六角形
221	1932	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(97.0)	5.0	5.5	4.0		断面五角形
221	1933	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(93.0)	7.0	7.0	4.0		断面六角形
221	1934	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(92.0)	6.0	5.0	4.5		断面六角形
221	1935	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(82.0)	5.5	5.0	4.0		
221	1936	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(76.5)	5.0	4.5	4.0		(断面四角形)
221	1937	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(72.0)	6.0	4.5	4.0		断面七角形
221	1938	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(75.0)	6.5	6.0	5.0		断面八角形
221	1939	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(72.5)	5.0	4.5	3.5		断面五角形
221	1940	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(70.0)	5.5	5.0	4.0		断面六角形
221	1941	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(65.0)	5.5	5.0	3.5		断面六角形
221	1942	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(65.0)	5.0	4.5	4.0		断面七角形
221	1943	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(61.0)	6.0	5.5	5.0		断面六角形
221	1944	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(59.0)	6.0	5.0	4.0		断面四角形
221	1945	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(53.0)	(4.0)	(3.0)	(2.0)		(断面四角形)
221	1946	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(52.0)	5.0	4.0	4.0		断面五角形
221	1947	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(44.0)	5.0	5.0	4.0		(断面四角形)
221	1948	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(45.0)	7.0	4.5	4.0		
221	1949	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(43.0)	(4.0)	(2.0)	(2.0)		(断面四角形)
221	1950	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(43.0)	5.5	5.0	4.5		断面七角形
221	1951	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(39.0)	5.0	4.0	4.0		断面五角形
221	1952	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(28.0)	5.0	3.5	2.0		断面六角形
221	1953	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(27.0)	5.0	4.0	4.0		(断面四角形)
221	1954	05	2	SE98	16G-10G11			箸		(19.0)	4.0	3.5	2.0		断面五角形
222	1955	05	2	SE106	16G-10F10			板状木製品		(171.0)	(45.0)	(9.0)	(5.0)	榫目	裏面に刃物疵
222	1956	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(165.0)	(3.5)	(7.0)	(3.0)		(断面六角形)
222	1957	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(159.0)	5.5	4.0	3.0		(断面四角形)
222	1958	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(152.0)	4.5	14.0	2.5		(断面六角形)
222	1959	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(135.0)	(5.0)	(4.5)	(3.0)		(断面四角形)
222	1960	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(130.0)	(6.0)	(4.5)	(3.0)		(断面五角形)
222	1961	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(127.0)	(5.0)	(5.0)	(2.0)		(断面六角形)

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	時代	器種	樹種	法量 (mm)				木取り	備考
		年度	区	遺構名	グリッド					長さ	幅	厚さ	器厚		
222	1962	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(128.0)	(5.0)	(5.0)	(2.0)		(断面四角形)
222	1963	05	2	SE106	16G-10F10			箸?		(107.0)	4.0	4.5	1.5		(断面四角形)
222	1964	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(106.0)	5.5	5.0	5.0		
222	1965	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(72.0)	(3.0)	(2.5)	(2.5)		(断面四角形)
222	1966	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(56.0)	(6.5)	(3.0)	(3.0)		(断面六角形)
222	1967	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(59.0)	(5.0)	(5.0)	(4.0)		(断面六角形)
222	1968	05	2	SE106	16G-10F10			箸?		(26.0)	(7.5)	5.5	5.0		
222	1969	05	2	SE106	16G-10F10			箸		(19.0)	(4.0)	(2.0)	(1.5)		(断面四角形)
222	1970	05	2	SE106	16G-10F10			下駄	スギ	(203.0)	(97.0)	(13.0)	(13.0)	榫目	樹種同定 No.7
222	1971	05	2	SE104	16G-10G1			大型円形曲物	スギ	(直径) (609.0)	(高さ) 461.0	(厚さ) 10.0			側板二重・上簾一重・下簾一重構造。側板内面に上下方向のケビキを入れ、さらに上縁から8cmのところまで上下方向のケビキを追加している。内側板と外侧板の間に楔(1972)が差し込まれる。上部が破損しているが側板の推定径は58.6cm。樹種同定 No.10 図版 35No.63
222	1972	05	2	SE104	16G-10G1			楔		39.0	19.0	5.0			1971に差し込まれている。
222	1973	05	2	SE104	16G-10G1			箸		(89.0)	6.0	5.0	4.5		断面六角形
223	1974	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・横棧		(673.0)	(48.0)	(33.0)	(27.0)	榫目	北東横棧 図版 35No.66
223	1975	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・横棧		(829.0)	(69.0)	53.0	37.0	榫目	南東縦板 図版 35No.67
223	1976	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・横棧		1055.0	51.0	86.0	38.0	榫目	南東横棧 図版 35No.68
223	1977	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・横棧		(1087.0)	67.0	54.0	47.0	榫目	北西横棧 図版 35No.69
223	1978	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・横棧		(979.0)	(75.0)	(85.0)	(70.0)	板目	北西横棧 図版 35No.70
224	1979	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・横棧		1047.0	52.0	63.0	56.0	榫目	南西横棧
224	1980	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(416.0)	(190.0)	12.0	10.0	板目	北東縦板、1か所穿孔 図版 35No.72
224	1981	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(178.0)	(96.0)	18.0	16.0	板目	北東縦板 図版 35No.73
224	1982	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(575.0)	(186.0)	14.5	12.0	板目	北東縦板 図版 35No.74
224	1983	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(549.0)	160.0	21.0	15.0	板目	北東縦板 図版 35No.75
224	1984	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(320.0)	175.0	14.0	9.0	板目	北東縦板
225	1985	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(605.0)	195.0	17.0	9.0	板目	北東縦板、1か所穿孔 図版 35No.77
225	1986	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(515.0)	116.0	12.0	11.0	板目	北東縦板 図版 35No.78
225	1987	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(601.0)	(162.0)	18.0	12.0	板目	北東縦板 図版 35No.79
225	1988	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(418.0)	(93.5)	9.0	6.0	板目	北東縦板
225	1989	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(581.0)	128.0	14.0	10.0	榫目	北東縦板、1か所穿孔 図版 35No.81
225	1990	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(241.0)	(37.0)	(12.0)	(8.0)	榫目	北東縦板 図版 35No.82
225	1991	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(289.0)	106.0	15.0	12.0	板目	北東縦板
225	1992	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(289.0)	(12.0)	14.0	12.0	板目	北東縦板、1か所穿孔 図版 35No.84
225	1993	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(348.0)	101.0	11.0	6.0	板目	北東縦板
225	1994	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(349.0)	255.0	24.0	21.0	板目	北東縦板 図版 35No.86
226	1995	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(611.0)	220.0	17.0	16.0	板目	南東縦板、1か所穿孔 図版 35No.87
226	1996	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(314.0)	141.0	14.0	13.0	板目	南東縦板 図版 35No.88
226	1997	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(436.0)	(109.5)	16.5	14.0	板目	南東縦板 図版 35No.89
226	1998	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(497.0)	121.0	14.5	13.0	板目	南東縦板 図版 35No.90
226	1999	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(1007.0)	185.0	44.0	40.0	板目	南東縦板 図版 35No.91
226	2000	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(282.0)	105.0	19.0	18.0	板目	南東縦板 図版 35No.92
227	2001	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(744.0)	216.0	29.0	26.0	榫目	南東縦板 図版 35No.93
227	2002	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(690.0)	220.0	26.0	20.0	板目	南東縦板 図版 35No.94
228	2003	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(730.0)	148.0	29.0	25.5	榫目	南西縦板 図版 35No.95
228	2004	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(917.0)	197.0	36.0	23.0	板目	南西縦板 図版 35No.96
228	2005	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(912.0)	161.0	44.0	14.0	板目	南西縦板 図版 35No.97
228	2006	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(904.0)	189.0	24.0	10.0	板目	南西縦板、1か所穿孔 図版 35No.98
229	2007	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(1219.0)	208.0	71.0	21.0	板目	南西縦板、1か所穿孔 図版 35No.99
229	2008	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(1032.0)	153.0	38.0	12.0	榫目	南西縦板、2か所穿孔 図版 35No.100
230	2009	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(1025.0)	199.0	33.0	20.0	板目	南西縦板 図版 35No.101
230	2010	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(665.0)	217.0	33.0	11.0	板目	南西縦板 図版 35No.102
230	2011	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(696.0)	157.0	21.0	14.0	板目	南西縦板 図版 35No.103
230	2012	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・横棧		(316.0)	(67.0)	(24.0)	(6.5)	板目	南西横棧 図版 35No.104
231	2013	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(724.0)	213.0	55.0	13.0	板目	北西縦板、1か所穿孔 図版 35No.105
231	2014	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(835.0)	209.0	42.0	36.5	板目	北西縦板 図版 35No.106
231	2015	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(572.0)	197.0	21.0	20.0	板目	北西縦板 図版 35No.107

図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	時代	器種	樹種	法量 (mm)				木取り	備考
		年度	区	遺構名	グリッド					長さ	幅	厚さ	器厚		
232	2016	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(714.0)	193.0	28.0	26.0	板目	北西縦板 図版 35No.108
232	2017	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(574.0)	(165.0)	33.0	28.0	板目	北西縦板 図版 35No.109
232	2018	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(274.0)	(58.0)	(12.0)	(10.0)	板目	方角不明 図版 35No.110
232	2019	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・縦板		(321.0)	(60.0)	29.5	8.5	板目	方角不明 図版 35No.111
233	2020	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・隅柱		(775.0)	99.0	77.0	77.0	柱目	北隅柱 図版 35No.112
233	2021	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・隅柱		(903.0)	153.0	98.0	94.0	板目	東隅柱 図版 35No.113
234	2022	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・隅柱		(1165.0)	140.0	139.0	121.0	芯外分割材	南隅柱 図版 35No.114
234	2023	05	2	SE104	16G-10G1			井戸側・隅柱		(1074.0)	139.0	85.0	82.0	板目	西隅柱 図版 35No.115
235	2024	05	2	SE11	16G-9H12			折敷?		(210.0)	(14.0)	6.5	4.5	柱目	表裏面とも刃物疵
235	2025	05	2	SE11	16G-9H12			折敷		(172.0)	(38.0)	7.0	6.0	柱目	表面に刃物疵
235	2026	05	2	SE11	16G-9H12	13層		折敷		(128.0)	(38.0)	5.0	4.0	柱目	表面に刃物疵
235	2027	05	2	SE11	16G-9H12			折敷?		(128.0)	(14.0)	7.0	6.0	板目	表面下部に刃物疵
235	2028	05	2	SE11	16G-9H12	13層		折敷?		(50.0)	(59.0)	7.0	7.0	柱目	
235	2029	05	2	SE11	16G-9H12	13層		箸		(166.0)	6.0	6.0	6.0		(断面六角形)
235	2030	05	2	SE122	16G-10G13			曲物側板		(18.0)	(125.0)	12.5	4.0	柱目	
235	2031	05	2	SE122	16G-10G13			箸		(61.0)	6.0	6.0	5.0		断面八角形
235	2032	05	2	SD4	17G-1G13	4a層		箸		(215.0)	6.0	6.0	5.0		(断面四角形)
235	2033	05	2	SD4	17G-1G13	4a層		箸		(204.0)	6.0	6.5	4.0		断面四角形
235	2034	05	2	Ph152	16G-10F23			礎板		172.0	94.0	41.0	41.0	板目	
235	2035	05	2	Ph75	16G-10F15			柱根		(112.0)	65.0	47.0	37.0	分割材	
235	2036	05	3	SE72	16G-7A4			円形板?		(278.0)	(48.0)	12.0	7.0	柱目	表面に刃物疵、1か所穿孔
235	2037	05	3	SE83	16G-7A4		中世	漆器碗	ケヤキ	(口径) 一	(底径) 72.0	(器高) 一	4.0	横木柱目	内外面総黒色系漆、高台裏露胎、樹種同定 No.3 図版 55No.129
235	2038	05	3	SE83	16G-7A4			草履芯	スギ	(174.0)	(42.0)	(3.0)	(2.5)	柱目	表裏面とも薬付着 図版 55No.130
235	2039	05	3	SE83	16G-7A4			草履芯	スギ	(111.0)	86.0	(3.5)	(3.5)	柱目	表裏面とも薬付着、樹種同定 No.8 図版 55No.131
235	2040	05	3	SE98	16G-7A3			棒状木製品		547.0	246.0	71.0	46.0	分割材	
235	2041	05	3	SE98	16G-7A3			不明木製品		147.0	75.0	76.0	70.0	板目	
236	2042	05	3	SE21	16G-8A15		中世	漆器碗	ケヤキ	(口径) 123.0	(底径) 70.0	(器高) 一	4.0	横木柱目	内外面総黒色系漆、内外面赤色(朱)漆絵、高台破損、樹種同定 No.2 図版 55No.134
236	2043	05	3	SE21	16G-8A15			下駄	モクレン属	223.0	91.0	20.0	20.0	板目	露卯下駄、樹種同定 No.5 図版 55No.135
236	2044	05	3	SE55	16G-7A25			棒状木製品		(241.0)	11.0	7.0	5.0		断面四角形
236	2045	05	3	SE308	16G-8B16			曲物側板		(164.0)	(25.0)	5.0	3.0		
236	2046	05	3	SE104	16G-6B21			部材		(215.0)	23.0	12.0	12.0	柱目	
236	2047	05	3	SE104	16G-6B21			箸		(100.0)	5.0	9.0	4.0		断面四角形
236	2048	05	3	SE104	16G-6B21			箸		(72.0)	6.0	5.0	5.0		断面五角形
236	2049	05	3	SE104	16G-6B21			箸		(70.0)	6.0	4.0	3.5		断面六角形
236	2050	05	3	SE104	16G-6B21			箸		(72.0)	5.0	6.0	3.5		断面五角形
236	2051	05	3	SE104	16G-6B21 16G-10G1			大型円形曲物	スギ	(直径) (605.0)	(高さ) 527.0	10.0			側板一重・上簾一重・下簾二重構造。側板内面に上下方向のケビキを入れる。歪みがあるが側板の推定径は 58.0cm。樹種同定 No.12 図版 56No.143
237	2052	05	3	SE104	16G-6B21			大型円形曲物	スギ	(直径) (523.0)	(高さ) 461.0	10.0			側板一重・上簾一重・下簾二重構造。側板内面に上下のケビキを入れる。歪みが著しいが側板の推定径は 48.6cm。アスファルト付着。樹種同定 No.13 図版 56No.144
237	2053	05	3	SE104	16G-6B21			曲物側板		(70.0)	(15.0)	3.0	3.0		内面にケビキ
237	2054	05	3	SE104	16G-6B21			曲物側板		(99.0)	(59.0)	5.0	5.0		内面にケビキ
237	2055	05	3	SE100	16G-7B22			折敷		(281.0)	46.0	17.0	7.0	柱目	左側縁上下2か所ずつ穿孔、表裏面とも刃物疵
237	2056	05	3	SE100	16G-7B23			折敷?		(229.0)	(28.0)	5.0	5.0	柱目	表裏面とも刃物疵
237	2057	05	3	SE100	16G-7B22			折敷		(229.0)	(27.0)	7.5	5.0	柱目	
237	2058	05	3	SE100	16G-7B22			棒状木製品		(114.0)	5.0	3.0	3.0	板目	断面四角形、2060と同一か
237	2059	05	3	SE100	16G-7B22			棒状木製品		(74.0)	12.0	10.0	10.0	板目	
237	2060	05	3	SE100	16G-7B22			棒状木製品		(520.0)	5.0	1.4	3.0	板目	17cm 又は 18cm 間隔に穿孔、孔の外側 4.5cm 程の位置に切り込み
237	2061	05	3	SE100	16G-7B22			刷毛状木製品		(101.0)	10.0	4.0	4.0	柱目	15枚以上に分かれる
237	2062	05	3	SE100	16G-7B22			楔?		(48.0)	9.0	5.0	4.0	柱目	
237	2063	05	3	SE100	16G-7B22			箸		229.0	5.5	5.5	4.5		断面四角形
237	2064	05	3	SE100	16G-7B22			箸		228.0	6.0	5.0	5.0		(断面六角形)
237	2065	05	3	SE100	16G-7B22			箸		(225.0)	7.0	8.0	5.0		断面六角形
237	2066	05	3	SE100	16G-7B22			箸		(222.0)	5.5	5.5	4.5		断面四角形
237	2067	05	3	SE100	16G-7B22			箸		(220.0)	7.0	9.5	4.0		断面七角形
237	2068	05	3	SE100	16G-7B22			箸		(222.0)	7.0	8.0	4.5		断面六角形、上部に切り込み

図版 No.	報告書 No.	出土位置		層位	時代	器種	樹種	法量 (mm)				木取り	備考	
		年度	区					遺構名	グリッド	長さ	幅			厚さ
237	2069	05	3	SE100	16G-7B22				212.0	6.0	7.5	5.0		断面七角形
237	2070	05	3	SE100	16G-7B22				208.0	7.0	6.0	5.0		断面六角形
237	2071	05	3	SE100	16G-7B22				(201.0)	6.0	7.0	6.0		断面七角形
237	2072	05	3	SE100	16G-7B22				(123.0)	5.5	4.5	4.0		断面六角形
237	2073	05	3	SE100	16G-7B22				(119.0)	5.5	5.0	3.5		断面七角形
237	2074	05	3	SE100	16G-7B22				(107.0)	6.0	5.0	4.0		断面六角形
237	2075	05	3	SE100	16G-7B22				(73.0)	5.5	4.5	3.5		断面七角形
238	2076	05	3	SE47	16G-7A20				(327.0)	(49.0)	(37.0)	(27.0)	板目	図版 58No.168
238	2077	05	3	SE47	16G-7A20				(169.0)	(17.0)	7.5	9.0	板目	1 か所穿孔
238	2078	05	3	SE47	16G-7A20				(155.0)	27.0	26.0	24.0	板目	
238	2079	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・部材	(194.0)	113.0	32.0	31.0	板目	図版 58No.171
238	2080	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・部材	(143.0)	(47.0)	(15.0)	(14.0)	板目	図版 58No.172
238	2081	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・部材	(57.0)	(37.0)	9.0	8.0	板目	図版 58No.173
238	2082	05	3	SE47	16G-7A20			大型円形曲物 スギ	(直径) 489.0	(高さ) 368.0	10.0			側板二重構造。内側の側板内面に上下方向のケビキを入れる。内側板の推定径は47.95cm。樹種同定 No.11 図版 58No.174
239	2083	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・横棧	805.0	54.0	68.0	68.0	板目	北横棧 図版 58No.175
239	2084	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・横棧	822.0	80.0	45.0	34.0	板目	東横棧 図版 58No.176
239	2085	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・横棧	884.0	45.0	56.0	56.0	板目	南横棧 図版 58No.177
239	2086	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・横棧	915.0	69.0	85.0	81.0	板目	西横棧 図版 58No.178
239	2087	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・横棧	767.0	52.0	65.0	65.0	板目	西横棧 図版 58No.179
240	2088	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(312.0)	224.0	12.0	11.0	板目	北縦板 図版 58No.180
240	2089	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(215.0)	(96.0)	11.0	8.0	板目	北縦板 図版 58No.181
240	2090	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(619.0)	(159.0)	29.0	24.0	板目	北縦板 図版 58No.182
240	2091	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(392.0)	206.0	(17.0)	(11.0)	板目	北縦板 図版 58No.183
240	2092	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(648.0)	(190.0)	25.0	20.0	板目	北縦板 図版 58No.184
240	2093	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(725.0)	(205.0)	55.0	52.0	板目	北縦板 図版 58No.185
241	2094	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(436.0)	(221.0)	(26.0)	(20.0)	板目	北縦板 図版 58No.186
241	2095	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(426.0)	(186.0)	(16.0)	(12.0)	板目	北縦板 図版 58No.187
241	2096a	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(396.0)	(160.0)	(47.0)	(36.0)	板目	東縦板 図版 58No.188a
241	2096b	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(310.0)	(224.0)	(14.0)	(12.0)	板目	東縦板 図版 58No.188b
241	2097	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(514.0)	(214.0)	37.0	31.0	板目	東縦板 図版 58No.189
241	2098	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(321.0)	(230.0)	16.0	13.0	板目	東縦板 図版 58No.190
241	2099	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(369.0)	(181.0)	(42.0)	(36.0)	板目	東縦板 図版 58No.191
242	2100	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(536.0)	(255.0)	36.0	32.0	板目	東縦板 図版 58No.192
242	2101	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(326.0)	(84.0)	(18.0)	(15.0)	板目	東縦板 図版 58No.193
242	2102	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(648.0)	222.0	34.0	27.0	板目	南縦板 図版 58No.194
242	2103	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(334.0)	(91.0)	(22.0)	(18.0)	板目	南縦板 図版 58No.195
242	2104	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(320.0)	(156.0)	9.0	7.0	板目	南縦板 図版 58No.196
242	2105	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(324.0)	(172.0)	(18.0)	(14.0)	板目	南縦板 図版 58No.197
242	2106	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(257.0)	(199.0)	(17.0)	(14.0)	板目	南縦板 図版 58No.198
242	2107	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(142.0)	(74.0)	(10.0)	(8.0)	板目	南縦板 図版 58No.199
243	2108	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(125.0)	(102.0)	(12.0)	(9.0)	板目	西縦板 図版 58No.200
243	2109a	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(281.0)	(80.0)	(11.0)	(8.0)	板目	西縦板 図版 58No.201a
243	2109b	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(554.0)	(151.0)	(40.0)	(38.0)	板目	西縦板 図版 58No.201b
243	2109c	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(590.0)	(87.0)	(41.0)	(28.0)	板目	西縦板 図版 58No.201c
243	2110a	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(95.0)	(42.0)	(5.0)	(3.0)	板目	西縦板 図版 58No.202a
243	2110b	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(155.0)	(129.0)	(15.0)	(13.0)	板目	西縦板 図版 58No.202b
243	2111	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(560.0)	(287.0)	32.0	30.0	板目	西縦板 図版 58No.203
243	2112a	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(150.0)	(92.0)	(8.0)	(5.0)	板目	西縦板 図版 58No.204a
243	2112b	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(220.0)	(91.0)	16.0	14.0	板目	西縦板 図版 58No.204b
243	2113a	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(605.0)	(86.0)	(32.0)	(30.0)	板目	西縦板 図版 58No.205a
243	2113b	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(511.0)	(110.0)	(45.0)	(41.0)	柱目	西縦板 図版 58No.205b
243	2114	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・縦板	(199.0)	(146.0)	11.0	9.0	板目	西縦板 図版 58No.206
244	2115	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・隅柱	(788.0)	91.0	70.0	71.0	柱目	北東隅柱 図版 58No.207
244	2116	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・隅柱	(676.0)	84.0	(58.0)	57.0	板目	南東隅柱 図版 58No.218
244	2117	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・隅柱	(725.0)	80.0	64.0	64.0	板目	南西隅柱 図版 58No.209
244	2118	05	3	SE47	16G-7A20			井戸側・隅柱	(847.0)	80.0	88.0	74.0	板目	北西隅柱 図版 58No.210
245	2119	05	3	SE228	16G-7B4	下層		箸	(78.0)	5.0	4.0	3.5		断面五角形



図版 No.	報告書 No.	出土位置				層位	時代	器種	樹種	法量 (mm)				木取り	備考
		年度	区	遺構名	グリッド					長さ	幅	厚さ	器厚		
245	2120	05	3	SE228	16G-7B4	下層		箸		(50.0)	6.0	5.0	4.5		断面七角形
245	2121	05	3	SE228	16G-7B4	下層		箸		(45.0)	3.5	3.5	3.0		断面五角形
245	2122	05	3	SE228	16G-7B4	下層		不明木製品		(238.0)	30.0	24.0	20.0		
245	2123	05	3	SE228	16G-7B4	下層		不明木製品		(104.0)	27.0	22.0	21.0		
245	2124	05	3	SE94	16G-8B9			箸		(115.0)	(6.0)	(6.0)	(5.5)		断面六角形
245	2125	05	3	SE94	16G-8B9			箸		(67.0)	5.0	4.0	4.0		断面四角形
245	2126	05	3	SE94	16G-8B9			箸		(58.0)	5.0	4.0	3.0		断面四角形
245	2127	05	3	SE94	16G-8B9			下駄	モクレン属	223.0	89.0	32.0	28.0	柱目	露卯下駄、樹種同定 No.6
245	2128	05	3	SE165	16G-7C23			不明木製品		(102.0)	(32.0)	4.0	4.0	柱目	
245	2129	05	3	SE332	16G-7C3			円形板		141.0	141.0	6.0	5.0	柱目	表裏面とも刃物疵
245	2130	05	3	SE366	16G-7C20			曲物側板		(18.0)	(393.0)	26.0	4.0	柱目	
245	2131	05	3	SE366	16G-7C20			棒状木製品		310.0	14.0	8.0	5.5	柱目	柄杓の柄か?
245	2132	05	3	SE366	16G-7C20			楔?		(57.0)	19.0	3.5	3.0		
245	2133	05	3	SD15	16G-6A25			不明竹製品		(202.0)	12.0	7.0	2.5		
245	2134	05	3	SD15	16G-7B21			不明竹製品		(187.0)	8.0	8.0	6.0		
245	2135	05	3	SD15	16G-6A25			不明竹製品		(151.0)	13.0	5.0	3.5		
245	2136	05	3	Pit428	16G-7B4			柱根		192.0	106.0	82.0	75.0	分割材	角材に加工
245	2137	05	3	Pit429	16G-7B4			柱根		320.0	162.0	73.0	66.0	分割材	加工痕、裏面に刃物疵? 図版 60No.229
245	2138	05	3	Pit429	16G-7B4			柱根		379.0	82.0	31.0	30.0	分割材	
245	2139	05	3	Pit430	16G-6B24			柱根		313.0	96.0	64.0	64.0	分割材	刃物疵 図版 60No.231
246	2140	05	3	Pit383	16G-6B25			柱根		321.0	178.0	80.0	74.0	分割材	底面穿孔 図版 66No.232
246	2141	05	3	Pit195	16G-6B22			柱根		503.0	158.0	100.5	90.0	分割材	加工痕 図版 75No.233
246	2142	05	3	Pit221	16G-7B2			柱根		452.0	210.0	163.0	152.0	分割材	図版 75No.234
246	2143	05	3	Pit427	16G-7A25			柱根		473.0	152.0	71.0	64.0	分割材	加工痕 図版 58・75No.235
246	2144	05	3	Pit129	16G-7B17			柱根		182.0	78.0	40.0	40.0	分割材	図版 75No.236
247	2145	05	3	Ph396	16G-6B24			柱根		327.0	133.0	92.0	83.0	分割材	加工痕 図版 65・75No.237
247	2146	05	3	Pit361	16G-6C16			柱根		288.0	91.5	58.0	57.0	分割材	加工痕 図版 75No.238
247	2147	05	3	Pit215	16G-7B14			柱根		160.0	64.0	50.0	50.0	分割材	
247	2148	05	3	Pit415	16G-7C12			柱根		198.0	190.0	112.0	64.0	半割材?	図版 76No.240
247	2149	05	3	Pit255	16G-7C11			柱根		236.0	190.0	169.0	190.0	芯持丸太材	腐蝕のため芯抜け落ちている 図版 76No.241
247	2150	05	3	Pit359	16G-7C11			柱根		169.0	90.0	(64.0)	(64.0)	分割材	表面に刃物疵 図版 68. 76No.242
247	2151	05	3	Pit431	16G-7G22			柱根		312.0	100.0	77.0	75.0	分割材	加工痕 図版 62・76No.243
247	2152	05	3	Pit433	16G-8B10			柱根?		61.0	36.0	11.0	10.0		
247	2153	05	3	河1	16G-6E11	4~7層		部材		(167.0)	15.0	4.5	4.5	板目	1か所穿孔
247	2154	05	3	河1	16G-5D15	4~7層		部材		(269.0)	(25.0)	20.0	15.0	板目	
247	2155	05	3	河1	16G-5D6	2・3層		部材		(316.0)	31.0	22.0	21.0	板目	
247	2156	05	3	河1	16G-6D15	4~7層		炭化材		563.0	157.0	55.0	45.0	板目	1か所穿孔
247	2157	05	3	河1	16G-5D25	2・3層	古代	漆器盤	ケヤキ	(口径) 198.0	(底径) 150.0	(器高) 14.0	5.0	横木柱目	内外面総黒色系漆、内外面刷毛目、樹種同定 No.1
247	2158	05	3	河1	16G-5E11	4~7層		箸		(123.0)	7.0	5.0	5.0		断面六角形
248	2159	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・隅柱		1219.0	106.0	67.0	62.0	柱目	北隅柱 図版 89No.79
248	2160	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		1228.0	165.0	29.0	20.0	板目	北東縦板 図版 89No.73
249	2161	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		1110.0	213.0	40.0	23.0	板目	北東縦板 図版 89No.76
249	2162	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		1022.0	215.0	33.0	21.0	板目	北東縦板 図版 89No.72
249	2163	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・横棧		710.0	49.0	61.0	52.0	板目	北東横棧 図版 89No.69
250	2164	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		1103.0	177.0	33.0	23.0	板目	北東縦板 図版 89No.75
250	2165	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		945.0	154.0	26.0	16.0	板目	北東縦板 図版 89No.71
251	2166	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		864.0	173.0	29.0	17.0	板目	北東縦板 図版 89No.74
251	2167	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・隅柱		1261.0	112.0	70.0	64.0	板目	東隅柱 図版 89No.70
251	2168	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		759.0	78.0	20.0	17.0	板目	南東縦板 図版 89No.64
252	2169	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		1003.0	224.0	33.0	24.0	板目	南東縦板 図版 89No.67
252	2170	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		718.0	97.0	18.0	14.0	板目	南東縦板 図版 89No.65
252	2171	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		440.0	155.0	22.0	15.0	板目	南東縦板 図版 89No.26
253	2172	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		903.0	197.0	31.0	17.0	板目	南東縦板 図版 89No.66
253	2173	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		906.0	199.0	35.0	20.0	板目	南東縦板 図版 89No.51
253	2174	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・横棧		727.0	50.0	53.0	45.0	板目	南東横棧 図版 89No.63

図版No.	報告書No.	出土位置				層位	時代	器種	樹種	法量 (mm)				木取り	備考
		年度	区	遺構名	グリッド					長さ	幅	厚さ	器厚		
254	2175	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		943.0	150.0	22.0	16.0	板目	南東縦板 図版 89No.52
254	2176	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・隅柱		1347.0	70.0	54.0	46.0	板目	南隅柱 図版 89No.53
254	2177	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・隅柱		1306.0	108.0	77.0	71.0	板目	南隅柱 図版 89No.54
255	2178	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		539.0	80.0	20.0	18.0	板目	南西縦板 図版 89No.44
255	2179	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		486.0	93.0	20.0	19.0	板目	南西縦板 図版 89No.28
255	2180	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		324.0	175.0	21.0	19.0	板目	南西縦板 図版 89No.42
255	2181	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		370.0	82.0	17.0	15.0	板目	南西縦板 図版 89No.25
255	2182	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		873.0	98.0	15.0	14.0	板目	南西縦板 図版 89No.37
255	2183	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		925.0	152.0	17.0	15.0	板目	南西縦板 図版 89No.38
256	2184	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		902.0	217.0	25.0	20.0	板目	南西縦板 図版 89No.40
256	2185	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		960.0	180.0	32.0	16.0	板目	南西縦板 図版 89No.45
256	2186	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・横棧		713.0	46.0	56.0	49.0	板目	南西横棧 図版 89No.55
257	2187	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		665.0	105.0	28.0	25.0	板目	南西縦板 図版 89No.30
257	2188	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		299.0	73.0	14.0	14.0	板目	南西縦板 図版 89No.27
257	2189	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		913.0	98.0	19.0	21.0	板目	南西縦板 図版 89No.36
257	2190	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		1055.0	181.0	24.0	23.0	板目	南西縦板 図版 89No.41
258	2191	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		883.0	70.0	21.0	17.0	板目	南西縦板 図版 89No.39
258	2192	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		765.0	85.0	32.0	30.0	板目	南西縦板 図版 89No.31
258	2193	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		900.0	96.0	26.0	20.0	板目	北西縦板 図版 89No.34
258	2194	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		350.0	123.0	17.0	17.0	板目	北西縦板 図版 89No.61
258	2195	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		505.0	184.0	26.0	22.0	板目	北西縦板 図版 89No.47
258	2196	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・隅柱		1159.0	93.0	69.0	57.0	柱目	西隅柱 図版 89No.56
259	2197	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		994.0	207.0	29.0	20.0	板目	北西縦板 図版 89No.57
259	2198	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		900.0	202.0	30.0	22.0	板目	北西縦板 図版 89No.58
259	2199	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・横棧		685.0	41.0	72.0	67.0	板目	北西横棧 図版 89No.60
260	2200	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		840.0	118.0	20.0	16.0	板目	北西縦板 図版 89No.48
260	2201	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		849.0	83.0	25.0	15.0	板目	北西縦板 図版 89No.35
260	2202	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		305.0	77.0	15.0	15.0	板目	北西縦板 図版 89No.49
260	2203	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		259.0	129.0	14.0	15.0	板目	北西縦板 図版 89No.46
261	2204	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		1002.0	207.0	32.0	20.0	板目	北西縦板 図版 89No.59
261	2205	06	1	SE74	17G-5C16			井戸側・縦板		817.0	143.0	22.0	14.0	板目	北西縦板 図版 89No.50
262	2206	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1185.0	194.0	33.0	23.0	柱目	南縦板 図版 103No.21
262	2207	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		573.0	244.0	38.0	27.0	柱目	南縦板 図版 103No.22
262	2208	06	2	SE58	16F-811			井戸側・横棧		562.0	47.0	50.0	39.0	板目	南横棧 図版 103No.12
263	2209	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1360.0	260.0	38.0	36.0	柱目	南縦板 図版 103No.23
263	2210	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1084.0	119.0	21.0	16.0	板目	南縦板 図版 103No.24
264	2211	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		997.0	46.0	17.0	16.0	板目	西縦板 図版 103No.26
264	2212	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1290.0	164.0	75.0	37.0	板目	西縦板 図版 103No.20
264	2213	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1554.0	112.0	108.0	42.0	板目	西縦板 図版 103No.19
265	2214	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1150.0	131.0	48.0	42.0	板目	西縦板 図版 103No.17
265	2215	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1372.0	194.0	85.0	42.0	板目	西縦板 図版 103No.10
266	2216	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1165.0	215.0	40.0	32.0	板目	北縦板 図版 103No.3
266	2217	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1145.0	151.0	39.0	25.0	板目	北縦板 図版 103No.2
266	2218	06	2	SE58	16F-811			井戸側・横棧		284.0	50.0	70.0	68.0	柱目	西横棧 図版 103No.11
267	2219	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1283.0	178.0	24.0	20.0	柱目	東縦板 図版 103No.8
267	2220	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1372.0	262.0	38.0	30.0	柱目	東縦板 図版 103No.15
268	2221	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1097.0	95.0	17.0	15.0	板目	東縦板 図版 103No.1
268	2222	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		796.0	56.0	16.0	16.0	板目	東縦板 図版 103No.16
268	2223	06	2	SE58	16F-811			井戸側・横棧		590.0	41.0	63.0	60.0	柱目	東横棧 図版 103No.13
269	2224	06	2	SE58	16F-811			井戸側・縦板		1423.0	187.0	36.0	25.0	板目	東縦板 図版 103No.18
270	2225	06	2	SE58	16F-811			柄杓		156.0	165.0	120.0	8.0		ヒョウタン
270	2226	06	2	SD6	16F-8114			浮子		123.0	14.0	5.0	5.0	板目	
270	2227	06	2	SD6	16F-7111			浮子		130.0	9.0	6.0	6.0	板目	
270	2228	06	2	SD6	16F-8114			箸		164.0	7.0	3.5	3.5	柱目	断面四角形
270	2229	06	2	SD6	16F-8114			箸		121.0	6.0	3.5	3.5	板目	断面六角形





遺構名	種別	煮 炊 具				貯 藏 具												合 計		
		土 師 器				須 恵 器														
		長 甕	小 甕	甗	甗	鉢	仏 鉢	鉢	大 甕	長頸甕	広口甕	短頸甕	直口甕	長胴甕	密 蓋	横 瓶	小 甕		二 彩 托	
05 1区	SK3	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)																		
																			2 100.00%	
																			2 100.00%	
05 1区	SK4	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)																		
																			1 100.00%	
																			4 100.00%	
05 1区	SK5	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)																		
																			1 100.00%	
05 1区	SK19	口残値																		
		口緑数(点)		0.08 5.16%	1.22 78.70%													0.03 1.94%		
		底残値		1 4.34%	18 78.26%													1 4.35%		
		底緑数(点)		0.39 100.00%																0.39 100.00%
		総点数(点)	22 15.51%	9 6.33%	97 68.32%															
		354 10.02%	111 3.14%	2,930 82.89%															3 100.00%	
05 1区	SK24	口残値		0.08 100.00%																
		口緑数(点)	2 100.00%																	
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)	35 97.23%		1 2.77%															
		194 88.59%		25 11.41%															36 100.00%	
																			219 100.00%	
05 1区	SK27	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)																		
																			3 100.00%	
																			8 100.00%	
05 1区	SK29	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)	3 16.66%						1 5.55%											
		10 19.23%					10 19.23%												18 100.00%	
																			52 100.00%	
05 1区	SK105	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)	1 100.00%																	
		10 100.00%																	1 100.00%	
																			10 100.00%	
05 1区	SX20	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)	2 66.67%	1 33.33%																
		6 75.00%	2 25.00%																3 100.00%	
																			8 100.00%	
05 1区	SX21	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)	3 60.00%		1 20.00%															
		17 41.46%		20 48.79%															5 100.00%	
																			41 100.00%	
05 1区	SX22	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)																		
																			0.03 100.00%	
																			1 100.00%	
05 1区	SX23	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)	1 50.00%		1 50.00%															
		10 66.67%		5 33.33%															2 100.00%	
																			15 100.00%	
05 1区	SX23	口残値																		
		口緑数(点)																		
		底残値																		
		底緑数(点)																		
		総点数(点)																		
																			3 100.00%	
																			11 100.00%	



























遺構名	種別	計測法	食 膳 具																	特殊品			
			土 師 器					黒 色 土 器					須 恵 器					灰軸陶器	緑軸陶器	特殊品			
			無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台皿	有台碗	有台碗	緑軸陶器	香炉蓋	
05 2 K	SD5	口残値																					
		口緑数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)																					
		総点数(点)	21	84.00%					1	4.00%							1	4.00%					
総重量(g)	27	51.94%					1	1.92%							17	32.69%							
05 2 K	SD7	口残値	0.25	100.00%																			
		口緑数(点)	4	100.00%																			
		底残値										0.08	100.00%										
		底部数(点)	5	71.43%								2	28.57%										
		総点数(点)	40	88.90%					1	2.22%			2	4.44%									
総重量(g)	103	79.86%					5	3.87%			5	3.87%											
05 2 K	SD17	口残値	0.61	64.90%						0.08	8.51%			0.14	14.89%								
		口緑数(点)	16	72.74%					1	4.54%			2	9.09%									
		底残値	4.00	86.39%					0.33	7.14%			0.11	2.37%									
		底部数(点)	27	81.81%					3	9.10%			2	6.06%									
		総点数(点)	224	84.86%					5	1.89%			5	1.89%									
総重量(g)	484	55.79%					58	6.68%			21	2.41%											
05 2 K	SD21	口残値																					
		口緑数(点)																					
		底残値	0.28	100.00%																			
		底部数(点)	1	100.00%																			
		総点数(点)	24	100.00%																			
総重量(g)	28	100.00%																					
05 2 K	SD28	口残値	0.17	73.92%																			
		口緑数(点)	3	75.00%																			
		底残値	0.14	25.00%																			
		底部数(点)	2	66.67%																			
		総点数(点)	29	78.39%					2	5.40%			1	2.70%									
総重量(g)	40	14.49%					2	0.72%			1	0.36%											
05 2 K	SD29	口残値	0.06	66.67%					0.03	33.33%													
		口緑数(点)	2	66.67%					1	33.33%													
		底残値	0.03	33.33%								0.06	66.67%										
		底部数(点)	1	50.00%								1	50.00%										
		総点数(点)	8	44.45%					2	11.11%			3	16.67%			1	5.55%					
総重量(g)	7	10.14%					5	7.24%			16	23.19%			2	2.89%							
05 2 K	SD33	口残値	0.50	58.14%					0.36	41.86%													
		口緑数(点)	12	66.67%					5	33.33%													
		底残値	0.86	70.50%					0.19	15.57%			0.17	13.93%									
		底部数(点)	10	83.34%					1	8.33%			1	8.33%									
		総点数(点)	91	81.27%					17	15.17%			1	0.89%									
総重量(g)	154	63.39%					33	13.58%			11	4.52%											
05 2 K	SD35	口残値	0.39	69.65%									0.06	10.71%						0.11	19.64%		
		口緑数(点)	10	76.93%									2	15.38%					1	7.69%			
		底残値	0.92	100.00%																			
		底部数(点)	9	81.82%										1	9.09%								
		総点数(点)	144	87.31%					6	3.63%			3	1.81%					1	0.60%			
総重量(g)	204	60.38%					9	2.66%			4	1.18%					49	14.49%					
05 2 K	SD36	口残値	1.33	54.75%					0.22	9.07%			0.17	6.99%						0.31	12.75%		
		口緑数(点)	33	61.15%					3	5.55%			3	5.55%					4	7.40%			
		底残値	4.64	63.08%			0.47	6.38%					0.47	6.38%		0.22	2.98%						
		底部数(点)	53	79.12%	1	1.49%	1	1.49%					5	7.46%		1	1.49%						
		総点数(点)	421	79.35%	1	0.18%	1	0.18%					18	3.38%		2	0.37%				5	0.94%	
総重量(g)	786	39.69%	14	0.70%	170	8.57%					61	3.07%		22	1.10%				82	4.13%			
05 2 K	SD41	口残値	0.17	42.50%																			
		口緑数(点)	4	50.00%																			
		底残値	1.47	89.64%																			
		底部数(点)	7	87.50%																			
		総点数(点)	94	83.95%					2	1.78%			1	12.50%									
総重量(g)	216	60.69%					7	1.96%			12	3.37%											
05 2 K	SD52	口残値	0.08	72.73%					0.03	27.27%													
		口緑数(点)	1	50.00%					1	50.00%													
		底残値	0.58	100.00%																			
		底部数(点)	2	100.00%																			
		総点数(点)	26	89.66%					3	10.34%													
総重量(g)	80	91.95%					7	8.05%															
05 2 K	SD70	口残値	0.06	66.67%																			
		口緑数(点)	1	50.00%																			
		底残値	2	100.00%																			
		底部数(点)	37	88.09%					1	2.38%													
		総重量(g)	71	63.41%					1	0.89%													
05 2 K	SD105	口残値	0.25	49.03%					0.03	5.88%			0.03	5.88%									
		口緑数(点)	5	45.46%					1	9.09%			1	9.09%									
		底残値	0.28	71.79%																			
		底部数(点)	3	60.00%																			
		総重量(g)	62	74.72%					7	8.43%			2	2.40%									
総重量(g)	89	46.37%					15	7.81%			2	1.04%											

遺構名	種別	煮炊具										貯藏具							二彩托	合計									
		土師器		銅		甌		鉢		大甕		長頸甕		広口甕		短頸甕		直口甕			長胴甕		甕蓋		横瓶		小甕		
		長	小																										
05 2区	SD5	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総点数(点)	1	4.00%								1	4.00%																25
総重量(g)	4	7.69%								3	5.76%																52	100.00%	
05 2区	SD7	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総点数(点)										2	4.44%																45
総重量(g)										16	12.40%																129	100.00%	
05 2区	SD17	口残値	0.08	8.51%	0.03	3.19%																							
		口縁数(点)	2	9.09%	1	4.54%																							
		底残値			0.19	4.10%																							
		底部数(点)			1	3.03%																							
		総点数(点)	14	5.31%	8	3.03%	5	1.89%					3	1.13%															33
総重量(g)	106	12.21%	47	5.41%	81	9.33%					71	8.17%															264	100.00%	
05 2区	SD21	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)					0.06	26.08%																					0.28
05 2区	SD28	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値			0.42	75.00%																							
		底部数(点)			1	33.33%																							
		総重量(g)	1	2.70%	1	2.70%	3	8.11%																					37
05 2区	SD29	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)	3	16.67%																									276
05 2区	SD33	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)			2	1.78%	1	0.89%																					
		総重量(g)	7	2.53%	170	61.61%	56	20.29%																					276
05 2区	SD35	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)			1	9.09%																							
		総重量(g)	1	0.60%	9	5.45%						1	0.60%																165
05 2区	SD36	口残値	0.17	6.99%	0.17	6.99%					0.06	2.46%																	
		口縁数(点)	5	9.25%	4	7.40%					2	3.70%																	
		底残値			1.00	13.58%																							
		底部数(点)			4	5.97%																							
		総重量(g)	39	7.34%	20	3.78%	1	0.18%				3	0.56%																531
05 2区	SD41	口残値	0.17	42.50%																									
		口縁数(点)	3	37.50%																									
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)	10	8.93%	2	1.78%						1	0.89%																112
05 2区	SD52	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 2区	SD70	口残値	0.03	33.33%																									
		口縁数(点)	1	50.00%																									
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)	2	4.77%								1	2.38%																2
05 2区	SD108	口残値			0.14	27.45%	0.06	11.76%																					
		口縁数(点)			3	27.27%	1	9.09%																					
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)	3	3.61%	7	8.44%	1	1.20%																					83

遺構名	種別 計測法	食 膳 具																	特殊品			
		土 師 器					黒 色 土 器			須 恵 器				灰 軸 陶 器		緑 軸 陶 器						
		無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台碗	有台皿	緑軸陶器	緑軸陶器 香炉蓋		
05 2区	SD112	口残値	0.03	100.00%																		
		口緑数(点)	1	100.00%																		
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	1	100.00%																		
		総重量(g)	1	100.00%																		
05 2区	SD124	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	1	50.00%																		
		総重量(g)	1	14.28%																		
05 2区	SD130	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	13	100.00%																		
		総重量(g)	9	100.00%																		
05 2区	SD136	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	1	100.00%																		
		総重量(g)	1	100.00%																		
05 2区	SD138	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	1	50.00%																		
		総重量(g)	8	50.00%																		
05 2区	SD139	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	2	50.00%																		
		総重量(g)	2	2.47%																		
05 2区	SD156	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	2	100.00%																		
		総点数(点)	2	100.00%																		
		総重量(g)	26	100.00%																		
05 2区	SD160	口残値	0.61	88.41%																		
		口緑数(点)	12	92.30%																		
		底残値	0.61	62.89%																		
		底部数(点)	2	50.00%																		
		総点数(点)	36	67.94%																		
		総重量(g)	95	34.93%																		
05 2区	SD161	口残値	0.03	100.00%																		
		口緑数(点)	1	100.00%																		
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	1	50.00%																		
		総重量(g)	1	25.00%																		
05 2区	河16	口残値	0.92	61.77%				0.03	2.01%			0.19	12.76%	0.08	5.36%							
		口緑数(点)	20	74.10%				1	3.70%			2	7.40%	1	3.70%							
		底残値	2.28	61.29%				0.83	22.31%			0.42	11.29%									
		底部数(点)	24	77.43%				3	9.67%			3	9.67%									
		総点数(点)	178	79.48%				8	3.57%			5	2.25%	3	1.33%							
		総重量(g)	389	48.36%			51	6.33%			58	7.20%	10	1.24%								
05 3区	SE7	口残値	0.03	33.33%				0.06	66.67%													
		口緑数(点)	1	50.00%				1	50.00%													
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	8	72.73%				1	9.09%													
		総重量(g)	9	36.00%			6	24.00%														
05 3区	SE14	口残値	0.08	100.00%																		
		口緑数(点)	2	100.00%																		
		底残値	0.64	100.00%																		
		底部数(点)	8	100.00%																		
		総点数(点)	45	93.76%				1	2.08%													
		総重量(g)	92	82.89%			1	0.90%														
05 3区	SE16	口残値	0.06	100.00%																		
		口緑数(点)	1	100.00%																		
		底残値	0.53	100.00%																		
		底部数(点)	3	100.00%																		
		総点数(点)	14	87.50%																		
		総重量(g)	42	80.78%																		

遺構名	種別 計測法	煮炊具				貯藏具											二彩 托	合計			
		土師器				須惠器															
		長 甕	小 甕	銅	甌	鉢	仏鉢	鉢	大 甕	長頸甕	広口甕	短頸甕	直口甕	長胴甕	甕蓋	横 瓶			小 甕		
05 2区	SD112	口残値																	0.03	100.00%	
		口縁数(点)																		1	100.00%
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		1	100.00%
05 2区	SD124	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)		1	100.00%																
		総点数(点) 総重量(g)		1	50.00%															2	100.00%
05 2区	SD130	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		13	100.00%
05 2区	SD136	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		1	100.00%
05 2区	SD138	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		0.03	100.00%
05 2区	SD139	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		1	100.00%
05 2区	SD156	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		8	50.00%
05 2区	SD139	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		1	100.00%
05 2区	SD160	口残値	0.08	11.59%																	
		口縁数(点)	1	7.70%																	
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)	10	18.86%	7	13.20%														4	100.00%
05 2区	SD161	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		2	100.00%
05 2区	河16	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)	21	9.40%	1	0.44%														3	100.00%
05 3区	SE7	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		2	100.00%
05 3区	SE14	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		2	4.16%
05 3区	SE16	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		1	6.25%
05 3区	SE16	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点) 総重量(g)																		4	7.69%

遺構名	種別	計測法	食 膳 具																	特殊品		
			土 師 器					黒 色 土 器			須 恵 器				灰 軸 陶 器	緑 軸 陶 器	緑 軸 陶 器	香 炉 蓋				
			無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台皿	有台碗			
05 3区	SE21	口残値	0.11	64.71%				0.06	35.29%													
		口緑数(点)	3	75.00%				1	25.00%													
		底残値	5	85.72%				0.19	57.58%		0.14	42.42%										
		底部数(点)	2	50.00%				1	25.00%		1	25.00%										
		総点数(点)	24	85.72%				2	7.14%		1	3.57%										
総重量(g)	57	71.25%				14	17.50%		7	8.75%												
05 3区	SE47	口残値	0.33	84.62%				0.06	15.38%													
		口緑数(点)	9	69.24%				4	30.76%													
		底残値	0.39	58.21%				0.28	41.79%													
		底部数(点)	3	60.00%				2	40.00%													
		総点数(点)	138	85.73%				12	7.45%		1	0.62%										
総重量(g)	182	28.18%				22	3.40%		1	0.15%												
05 3区	SE55	口残値	0.22	46.82%																		
		口緑数(点)	6	54.55%																		
		底残値	0.42	23.20%	0.31	17.12%																
		底部数(点)	4	36.37%	2	18.18%																
		総点数(点)	67	72.86%	3	3.26%																
総重量(g)	113	31.41%	23	6.38%																		
05 3区	SE67	口残値	0.22	56.42%							0.06	15.38%				0.11	28.20%					
		口緑数(点)	5	71.44%							1	14.28%			1	14.28%						
		底残値	0.58	53.71%							0.50	46.29%										
		底部数(点)	6	75.00%							2	25.00%										
		総点数(点)	47	85.48%					1	1.81%							1	1.81%				
総重量(g)	158	43.18%					4	1.09%		65	17.75%			7	1.91%							
05 3区	SE72	口残値	0.23	74.19%			0.08	25.80%														
		口緑数(点)	4	80.00%			1	20.00%														
		底残値	0.28	100.00%																		
		底部数(点)	2	100.00%																		
		総点数(点)	38	88.39%			1	2.32%									2	4.65%				
総重量(g)	73	67.61%			6	5.55%								14	12.96%							
05 3区	SE74	口残値	0.14	41.18%				0.03	8.82%			0.03	8.82%									
		口緑数(点)	3	42.87%				1	14.28%			1	14.28%									
		底残値	0.47	100.00%																		
		底部数(点)	4	100.00%																		
		総点数(点)	42	75.02%					3	5.35%		1	1.78%									
総重量(g)	81	36.33%					6	2.69%		4	1.79%											
05 3区	SE77	口残値						0.03	50.00%			0.03	50.00%									
		口緑数(点)						1	50.00%			1	50.00%									
		底残値																				
		底部数(点)	20	86.98%					1	4.34%		1	4.34%									
		総重量(g)	14	58.34%					6	25.00%		2	8.33%									
05 3区	SE83	口残値	0.08	100.00%																		
		口緑数(点)	1	100.00%																		
		底残値																				
		底部数(点)	2	66.67%																		
		総重量(g)	11	57.90%																		
05 3区	SE93	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	3	75.00%																		
		総重量(g)	4	80.00%																		
05 3区	SE94	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	1	50.00%																		
		総重量(g)	1	16.66%																		
05 3区	SE98	口残値																				
		口緑数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)	2	100.00%																		
		総重量(g)	2	100.00%																		
05 3区	SE100	口残値	0.33	78.58%							0.03	7.14%										
		口緑数(点)	7	77.78%							1	11.11%										
		底残値	0.72	100.00%																		
		底部数(点)	3	100.00%																		
		総重量(g)	59	90.79%							1	1.53%										
総重量(g)	103	75.75%							5	3.67%												
05 3区	SE102	口残値	0.06	100.00%																		
		口緑数(点)	1	100.00%																		
		底残値	0.25	56.82%							0.19	43.18%										
		底部数(点)	4	80.00%							1	20.00%										
		総重量(g)	38	95.00%							1	2.50%										
総重量(g)	55	79.72%							8	11.59%												



遺構名	種別 計測法	煮炊具				貯蔵具												三彩 托	合計		
		長	小	銅	瓶	鉢	伎鉢	鉢	大	長頸壺	広口壺	短頸壺	直口壺	長胴壺	壺蓋	横瓶	小壺				
05 3区	SE21	口残値																	0.17	100.00%	
		口縁数(点)																	4	100.00%	
		底残値																	0.33	100.00%	
		底部数(点)																	4	100.00%	
		総点数(点)							1	3.57%									28	100.00%	
総重量(g)							2	2.50%										80	100.00%		
05 3区	SE47	口残値																	0.39	100.00%	
		口縁数(点)																	13	100.00%	
		底残値																	0.67	100.00%	
		底部数(点)																	5	100.00%	
		総点数(点)	4	2.48%					6	3.72%									161	100.00%	
総重量(g)	37	5.72%					404	62.55%									646	100.00%			
05 3区	SE55	口残値	0.06	12.76%															0.47	100.00%	
		口縁数(点)	1	9.09%			0.11	23.40%		0.08	17.02%								11	100.00%	
		底残値	0.36	19.88%	0.72	39.80%													1.81	100.00%	
		底部数(点)	3	27.27%	2	18.18%														11	100.00%
		総点数(点)	10	10.86%	7	7.60%			2	2.17%	2	2.17%	1	1.08%					92	100.00%	
総重量(g)	102	28.33%	88	24.44%			4	1.11%	17	4.72%	13	3.61%						360	100.00%		
05 3区	SE67	口残値																	0.39	100.00%	
		口縁数(点)																	7	100.00%	
		底残値																	1.08	100.00%	
		底部数(点)																	8	100.00%	
		総点数(点)								2	3.63%								55	100.00%	
総重量(g)								127	34.71%									366	100.00%		
05 3区	SE72	口残値																	0.31	100.00%	
		口縁数(点)																	5	100.00%	
		底残値																	0.28	100.00%	
		底部数(点)																	2	100.00%	
		総点数(点)	1	2.32%							1	2.32%								43	100.00%
総重量(g)	8	7.40%							7	6.48%								108	100.00%		
05 3区	SE74	口残値			0.14	41.18%													0.34	100.00%	
		口縁数(点)			2	28.57%													7	100.00%	
		底残値																	0.47	100.00%	
		底部数(点)																	4	100.00%	
		総点数(点)	1	1.78%	7	12.50%					2	3.57%								56	100.00%
総重量(g)	9	4.03%	35	15.69%					88	39.47%								223	100.00%		
05 3区	SE77	口残値																	0.06	100.00%	
		口縁数(点)																	2	100.00%	
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点)	1	4.34%																23	100.00%
総重量(g)	2	8.33%																24	100.00%		
05 3区	SE83	口残値																	0.08	100.00%	
		口縁数(点)																	1	100.00%	
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点)									1	33.33%								3	100.00%
総重量(g)									8	42.10%								19	100.00%		
05 3区	SE93	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)									1	25.00%								4	100.00%
		総点数(点)									1	20.00%								5	100.00%
総重量(g)																					
05 3区	SE94	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点)									1	50.00%								2	100.00%
総重量(g)									5	83.34%								6	100.00%		
05 3区	SE98	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点)																		2	100.00%
総重量(g)																		2	100.00%		
05 3区	SE100	口残値			0.06	14.28%													0.42	100.00%	
		口縁数(点)			1	11.11%													9	100.00%	
		底残値																	0.72	100.00%	
		底部数(点)																	3	100.00%	
		総点数(点)	1	1.53%	1	1.53%					3	4.62%								65	100.00%
総重量(g)	10	7.35%	11	8.09%					7	5.14%								136	100.00%		
05 3区	SE102	口残値																	0.06	100.00%	
		口縁数(点)																	1	100.00%	
		底残値																	0.44	100.00%	
		底部数(点)																	5	100.00%	
		総点数(点)	1	2.50%																40	100.00%
総重量(g)	6	8.69%																69	100.00%		

遺構名	種別	計測法	食 膳 具																	特殊品	
			土 師 器					黒 色 土 器			須 恵 器				灰 軸 陶 器	緑 軸 陶 器	緑 軸 陶 器	香 炉 蓋			
			無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台皿	有台碗		
05 3区	SE104	口残値	0.19	39.59%				0.14	29.16%			0.03	6.25%								
		口緑数(点)	6	54.55%				2	18.18%			1	9.09%								
		底残値	0.69	83.14%								0.14	16.86%								
		底部数(点)	7	87.50%								1	12.50%								
		総点数(点)	83	82.18%				6	5.94%			2	1.98%								
総重量(g)	159	36.15%				28	6.36%			24	5.45%										
05 3区	SE112	口残値	0.25	53.20%				0.22	46.80%												
		口緑数(点)	7	63.64%				4	36.36%												
		底残値						0.28	100.00%												
		底部数(点)						1	100.00%												
		総点数(点)	40	71.45%				11	19.64%												
総重量(g)	55	22.00%				74	29.60%														
05 3区	SE113	口残値	0.53	86.89%							0.08	13.11%									
		口緑数(点)	10	90.91%							1	9.09%									
		底残値	1.69	100%																	
		底部数(点)	6	100%																	
		総点数(点)	72	96.01%				1	1.33%			1	1.33%								
総重量(g)	152	91.04%				1	0.59%			4	2.39%										
05 3区	SE114	口残値	0.14	42.43%																	
		口緑数(点)	3	60.00%																	
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点)	27	75.03%				1	2.77%												
総重量(g)	33	9.59%				1	0.29%														
05 3区	SE115	口残値									0.17	85.00%									
		口緑数(点)									1	50.00%									
		底残値									0.22	100.00%									
		底部数(点)	1	50.00%							1	50.00%									
		総点数(点)	17	85.00%							1	5.00%									
総重量(g)	20	19.23%							24	23.07%											
05 3区	SE127	口残値																			
		口緑数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)	10	83.34%							1	8.33%									
		総点数(点)	12	66.67%							1	5.55%									
05 3区	SE135	口残値						0.08	100.00%												
		口緑数(点)						2	100.00%												
		底残値																			
		底部数(点)	1	100.00%																	
		総点数(点)	11	68.75%				5	31.25%												
総重量(g)	8	44.44%				10	55.56%														
05 3区	SE138	口残値	0.06	24.00%							0.19	76.00%									
		口緑数(点)	1	25.00%							3	75.00%									
		底残値									0.22	100.00%									
		底部数(点)									2	100.00%									
		総点数(点)	11	34.38%				2	6.25%			5	15.62%								
総重量(g)	7	4.00%				6	3.42%			29	16.57%										
05 3区	SE144	口残値	0.11	100.00%																	
		口緑数(点)	3	100.00%																	
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点)	24	77.44%				1	3.22%												
総重量(g)	20	16.12%				2	1.61%														
05 3区	SE149	口残値	0.03	100.00%																	
		口緑数(点)	1	100.00%																	
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総点数(点)	4	66.68%																	
総重量(g)	6	0.93%																			
05 3区	SE153	口残値																			
		口緑数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)	9	69.24%							2	15.38%									
		総点数(点)	12	32.45%							5	13.51%									
05 3区	SE165	口残値																			
		口緑数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)	4	100.00%																	
		総点数(点)	5	100.00%																	
05 3区	SE228	口残値	0.14	56.00%				0.03	12.00%			0.08	32.00%								
		口緑数(点)	4	66.68%				1	16.66%			1	16.66%								
		底残値	0.75	84.27%																	
		底部数(点)	5	83.34%																	
		総点数(点)	48	75.02%				2	3.12%			7	10.94%								
総重量(g)	105	20.19%				6	1.15%			20	3.84%										

遺構名	種別 計測法	煮炊具					貯蔵具											二彩 托	合計							
		長 袋		小 袋		銅	鐵	鉢		大 甕		長頸甕	広口甕	短頸甕	直口甕	長胴甕	甕 蓋		横 瓶	小 壺						
05 3区	SE104	口残値	0.06	12.50%					0.06	12.50%													0.48	100.00%		
		口緑数(点)	1	9.09%					1	9.09%														11	100.00%	
		底残値																						0.83	100.00%	
		底緑数(点)																						8	100.00%	
		総点数(点)	1	0.99%	1	0.99%				3	2.97%	5	4.95%											101	100.00%	
総重量(g)	15	3.40%	20	4.54%				31	7.04%	163	37.06%											440	100.00%			
05 3区	SE112	口残値																					0.47	100.00%		
		口緑数(点)																					11	100.00%		
		底残値																					0.28	100.00%		
		底緑数(点)																					1	100.00%		
		総点数(点)	1	1.78%	1	1.78%	2	3.57%		1	1.78%													56	100.00%	
総重量(g)	22	8.80%	16	6.40%	70	28.00%		13	5.20%													250	100.00%			
05 3区	SE113	口残値																					0.61	100.00%		
		口緑数(点)																					11	100.00%		
		底残値																					1.69	100.00%		
		底緑数(点)																					6	100.00%		
		総点数(点)	1	1.33%																				75	100.00%	
総重量(g)	10	5.98%																				167	100.00%			
05 3区	SE114	口残値			0.11	33.33%					0.08	24.24%											0.33	100.00%		
		口緑数(点)			1	20.00%					1	20.00%											5	100.00%		
		底残値																								
		底緑数(点)	1	2.77%	2	5.55%					4	11.11%	1	2.77%											36	100.00%
		総重量(g)	2	0.58%	11	3.19%					294	85.48%	3	0.87%										344	100.00%	
05 3区	SE115	口残値				0.03	15.00%																0.20	100.00%		
		口緑数(点)				1	50.00%																2	100.00%		
		底残値																					0.22	100.00%		
		底緑数(点)																					2	100.00%		
		総点数(点)					2	10.00%																20	100.00%	
総重量(g)					60	57.70%																104	100.00%			
05 3区	SE127	口残値																								
		口緑数(点)																								
		底残値																								
		底緑数(点)	1	8.33%																				12	100.00%	
		総重量(g)	5	27.78%																				18	100.00%	
05 3区	SE135	口残値																					0.08	100.00%		
		口緑数(点)																					2	100.00%		
		底残値																								
		底緑数(点)																						1	100.00%	
		総重量(g)																						16	100.00%	
05 3区	SE138	口残値																					0.25	100.00%		
		口緑数(点)																					4	100.00%		
		底残値																					0.22	100.00%		
		底緑数(点)																					2	100.00%		
		総点数(点)	10	31.26%	1	3.12%	2	6.25%			1	3.12%												32	100.00%	
総重量(g)	53	30.29%	5	2.85%	25	14.28%			50	28.59%												175	100.00%			
05 3区	SE144	口残値																					0.11	100.00%		
		口緑数(点)																					3	100.00%		
		底残値																								
		底緑数(点)	1	3.22%							5	16.12%												31	100.00%	
		総重量(g)	6	4.83%							96	77.44%												124	100.00%	
05 3区	SE149	口残値																					0.03	100.00%		
		口緑数(点)																					1	100.00%		
		底残値																								
		底緑数(点)																								
		総点数(点)	1	16.66%							1	16.66%													6	100.00%
総重量(g)	6	0.93%							628	98.14%													640	100.00%		
05 3区	SE153	口残値																								
		口緑数(点)																								
		底残値																								
		底緑数(点)	1	7.69%							1	7.69%													13	100.00%
		総重量(g)	9	24.32%							11	29.72%													37	100.00%
05 3区	SE165	口残値																								
		口緑数(点)																								
		底残値																								
		底緑数(点)																								
		総重量(g)																						4	100.00%	
05 3区	SE228	口残値																					0.25	100.00%		
		口緑数(点)																					6	100.00%		
		底残値			0.14	15.73%																		0.89	100.00%	
		底緑数(点)			1	16.66%																		6	100.00%	
		総重量(g)	2	3.12%	2	3.12%	1	1.56%			2	3.12%												64	100.00%	
総重量(g)	10	1.92%	18	3.46%	11	2.11%			350	67.33%												520	100.00%			

遺構名	種別	計測法	食 膳 具																	灰釉陶器 有台碗	緑釉陶器 有台碗	特殊品 緑釉陶器 香炉蓋						
			土 師 器					黒 色 土 器					須 恵 器															
			無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋											
05 3区	SE308	口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		底部数(点)	1	100.00%																								
		総点数(点)	2	100.00%																								
05 3区	SE321	口残值	0.06	50.00%																								
		口縁数(点)	2	66.67%																								
		底残值	0.28	100.00%																								
		底部数(点)	3	100.00%																								
		総点数(点)	27	90.01%																								
05 3区	SE332	口残值	0.36	85.72%																								
		口縁数(点)	6	85.72%																								
		底残值																										
		底部数(点)	3	75.00%																								
		総点数(点)	89	81.68%																								
05 3区	SE366	口残值	8.81	89.99%																								
		口縁数(点)	123	87.87%																								
		底残值	18.72	94.66%																								
		底部数(点)	93	93.00%																								
		総点数(点)	675	90.14%																								
05 3区	SK6	口残值	0.06	50.00%																								
		口縁数(点)	1	50.00%																								
		底残值																										
		底部数(点)	14	93.34%																								
		総点数(点)	16	57.15%																								
05 3区	SK8	口残值	0.11	64.71%																								
		口縁数(点)	3	75.00%																								
		底残值	0.36	100.00%																								
		底部数(点)	2	100.00%																								
		総点数(点)	7	63.64%																								
05 3区	SK9	口残值	0.14	82.35%																								
		口縁数(点)	2	66.67%																								
		底残值	0.33	100.00%																								
		底部数(点)	2	100.00%																								
		総点数(点)	11	84.62%																								
05 3区	SK11	口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		底部数(点)	3	75.00%																								
		総点数(点)	6	75.00%																								
05 3区	SK13	口残值	0.06	100.00%																								
		口縁数(点)	2	100.00%																								
		底残值	0.39	43.82%																								
		底部数(点)	3	75.00%																								
		総点数(点)	13	72.24%																								
05 3区	SK18	口残值	0.36	59.02%																								
		口縁数(点)	9	81.82%																								
		底残值	0.25	100.00%																								
		底部数(点)	5	100.00%																								
		総点数(点)	90	79.66%																								
05 3区	SK20	口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值																										
		底部数(点)																										
		総点数(点)																										
05 3区	SK33	口残值	0.14	100.00%																								
		口縁数(点)	3	100.00%																								
		底残值	0.25	100.00%																								
		底部数(点)	2	100.00%																								
		総点数(点)	19	76.00%																								
05 3区	SK44	口残值																										
		口縁数(点)																										
		底残值	0.08	100.00%																								
		底部数(点)	1	100.00%																								
		総点数(点)	2	100.00%																								







遺構名	種別	煮炊具				貯蔵具											二彩托	合計											
		土師器		甌		鉢		大甕		長頸甕		広口甕		短頸甕		直口甕			長胴甕		壺蓋		横瓶		小壺				
		長甕	小甕	銅	甌	鉢	大甕	長頸甕	広口甕	短頸甕	直口甕	長胴甕	壺蓋	横瓶	小壺														
05 3区	SK46	口残値	0.08	29.62%																						0.27	100.00%		
		口緑数(点)	1	16.66%																							6	100.00%	
		底残値																											
		底部数(点)	3	11.53%	1	3.84%				3	11.53%																26	100.00%	
		総重量(g)	32	15.68%	4	1.96%				141	69.13%																204	100.00%	
05 3区	SK63	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK79	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK89	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)	3	12.00%																									
		総重量(g)	12	16.44%																									
05 3区	SK101	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK107	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK109	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK118	口残値	0.86	100.00%																									
		口緑数(点)	13	100.00%																									
		底残値																											
		底部数(点)	92	98.93%																									
		総重量(g)	1,170	99.41%																									
05 3区	SK126	口残値	0.03	50.00%																									
		口緑数(点)	1	50.00%																									
		底残値																											
		底部数(点)	1	25.00%																									
		総重量(g)	5	55.56%																									
05 3区	SK136	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK137	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK139	口残値	0.11	4.48%	0.17	6.93%																							
		口緑数(点)	2	4.65%	3	6.97%																							
		底残値			0.50	33.55%																							
		底部数(点)	23	14.02%	11	6.70%																							
		総重量(g)	249	40.98%	73	12.00%																							
05 3区	SK140	口残値																											
		口緑数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											

遺構名	種別	計測法	食 膳 具																	灰釉陶器		緑釉陶器		特殊品					
			土 師 器					黒 色 土 器					須 恵 器					有台皿		有台碗		有台皿		有台皿					
			無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台皿	有台碗	有台皿	有台碗	有台皿	有台碗	有台皿	有台皿	有台碗	有台皿	有台碗	有台皿
05 3区	SK174	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総点数(点)																											
総重量(g)																													
05 3区	SK176	口残値	0.08	42.11%																									
		口縁数(点)	1	50.00%																									
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK191	口残値	5.17	36.95%																									
		口縁数(点)	98	43.98%																									
		底残値	7.81	49.43%																									
		底部数(点)	39	42.87%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK208	口残値	0.11	100.00%																									
		口縁数(点)	4	100.00%																									
		底残値	0.86	77.48%																									
		底部数(点)	6	75.00%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK209	口残値																											
		口縁数(点)																											
		底残値																											
		底部数(点)																											
		総重量(g)																											
05 3区	SK233	口残値	0.81	27.20%																									
		口縁数(点)	21	36.87%																									
		底残値	3.75	81.89%																									
		底部数(点)	16	59.28%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK250	口残値	0.11	100.00%																									
		口縁数(点)	1	50.00%																									
		底残値	7	53.85%																									
		底部数(点)	9	30.00%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK254	口残値	0.03	100.00%																									
		口縁数(点)	1	50.00%																									
		底残値	0.08	100.00%																									
		底部数(点)	1	100.00%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK276	口残値	0.03	50.00%																									
		口縁数(点)	1	50.00%																									
		底残値	8	100.00%																									
		底部数(点)	5	100.00%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK279	口残値	3.58	87.12%																									
		口縁数(点)	63	86.33%																									
		底残値	10.75	94.22%																									
		底部数(点)	40	88.90%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK282	口残値	0.28	14.97%																									
		口縁数(点)	7	24.15%																									
		底残値	0.47	14.37%																									
		底部数(点)	5	27.77%																									
		総重量(g)																											
05 3区	SK291	口残値	14.39	94.86%																									
		口縁数(点)	196	93.78%																									
		底残値	11.97	93.08%																									
		底部数(点)	49	94.24%																									
		総重量(g)																											

遺構名	種別 計測法	煮炊具							貯蔵具										合計																		
		土師器		銅		鐵			鉢		大甕		長頸甕		広口甕		短頸甕			直口甕		長胴甕		壺蓋		横瓶		小壺		二彩托							
		長	小	銅	鐵	鉢	大	長	広	短	直	長	壺	横	小	二	彩	托																			
05 3区	SK174	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)	4	57.15%							1	14.28%																								7	100.00%
総重量(g)	14	53.85%							11	42.31%																									26	100.00%	
05 3区	SK176	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)														1	25.00%																				4
総重量(g)														2	28.57%																				7	100.00%	
05 3区	SK191	口残值	1.05	7.50%	1.39	9.92%	0.11	0.78%			0.11	0.78%																									
		口縁数(点)	17	7.62%	26	11.65%	2	0.89%			2	0.89%																									
		底残值			0.58	3.66%																															
		底部数(点)			4	4.39%																															
		総点数(点)	163	16.65%	96	9.79%	30	3.06%			2	0.20%																									
総重量(g)	1,596	25.85%	422	6.82%	692	11.19%			13	0.21%																											
05 3区	SK208	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)																																			
総重量(g)																																					
05 3区	SK209	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)																																			
総重量(g)																																					
05 3区	SK233	口残值	0.08	2.68%	0.25	8.38%	0.03	1.00%						0.14	4.69%	0.06	2.01%																				
		口縁数(点)	2	3.50%	5	8.77%	1	1.75%						1	1.75%	1	1.75%																				
		底残值			0.08	1.74%																															
		底部数(点)			1	3.70%																															
		総点数(点)	12	4.54%	10	3.78%	18	6.81%							2	0.75%	1	0.37%																			
総重量(g)	119	9.81%	40	3.30%	310	25.58%							51	4.20%	25	2.06%																					
05 3区	SK250	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)	5	38.46%																																	
総重量(g)	19	63.34%																																			
05 3区	SK254	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)																																			
総重量(g)																																					
05 3区	SK259	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)																																			
総重量(g)																																					
05 3区	SK274	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)																																			
総重量(g)																																					
05 3区	SK276	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)																																			
総重量(g)																																					
05 3区	SK279	口残值																																			
		口縁数(点)																																			
		底残值																																			
		底部数(点)																																			
		総点数(点)	2	0.63%	4	1.27%	1	0.31%							3</																						





遺構名	種別 計測法	煮炊具				貯蔵具												二彩 托	合計			
		土師器		銅		土師器		土師器		土師器		土師器		土師器		土師器						
		長	小	銅	散	鉢	鉢	大	長頸	広口	短頸	直口	長頸	壺蓋	横瓶	小壺						
05 3区	SK292	口残値	0.08	16.00%	0.03	6.00%													0.50	100.00%		
		口縁数(点)			1	6.66%														15	100.00%	
		底残値																		0.25	100.00%	
		底部数(点)																		4	100.00%	
		総点数(点)			5	9.43%	2	3.77%												53	100.00%	
			9	5.48%	86	52.46%													164	100.00%		
05 3区	SK304	口残値																	0.44	100.00%		
		口縁数(点)																	14	100.00%		
		底残値																		1.28	100.00%	
		底部数(点)																		8	100.00%	
		総点数(点)			1	1.00%	2	2.00%												100	100.00%	
			4	1.81%	23	10.46%													220	100.00%		
05 3区	SK310	口残値																	0.52	100.00%		
		口縁数(点)																	12	100.00%		
		底残値																		1.61	100.00%	
		底部数(点)																		13	100.00%	
		総点数(点)	1	1.53%																65	100.00%	
			24	12.76%															188	100.00%		
05 3区	SK315	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)																				
05 3区	SK319	口残値	0.03	6.66%																3	100.00%	
		口縁数(点)	1	10.00%																2	100.00%	
		底残値																		0.45	100.00%	
		底部数(点)																		10	100.00%	
		総点数(点)	4	7.69%	3	5.76%	8	15.38%												2.58	100.00%	
			18	6.10%	8	2.71%	86	29.15%											10	100.00%		
05 3区	SK320	口残値						0.03	50.00%										0.06	100.00%		
		口縁数(点)							1	50.00%										2	100.00%	
		底残値																				
		底部数(点)																		1	100.00%	
		総点数(点)			1	6.66%				1	6.66%										15	100.00%
			13	28.26%				6	13.04%										46	100.00%		
05 3区	SK322	口残値																		0.09	100.00%	
		口縁数(点)																		2	100.00%	
		底残値																		0.06	100.00%	
		底部数(点)																		1	100.00%	
		総点数(点)			2	6.66%															30	100.00%
			7	15.55%															45	100.00%		
05 3区	SK324	口残値																		0.08	100.00%	
		口縁数(点)																		3	100.00%	
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)																			7	100.00%
																			7	100.00%		
05 3区	SK325	口残値																		0.06	100.00%	
		口縁数(点)																		2	100.00%	
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)			3	15.00%															20	100.00%
			37	56.07%															66	100.00%		
05 3区	SK326	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)																			1	100.00%
																			10	100.00%		
05 3区	SK333	口残値																		0.08	100.00%	
		口縁数(点)																		2	100.00%	
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)			0.11	44.00%															2	100.00%
																			0.25	100.00%		
05 3区	SK334	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)			1	5.55%	1	5.55%													18	100.00%
			6	24.00%	1	4.00%													25	100.00%		
05 3区	SK336	口残値																		0.76	100.00%	
		口縁数(点)																		19	100.00%	
		底残値																				
		底部数(点)			1	7.14%															1.61	100.00%
		総点数(点)	12	5.86%	8	3.90%	1	0.48%													14	100.00%
			47	13.33%	14	3.96%	12	3.39%	1	0.48%	2	0.97%							205	100.00%		
									45	12.74%	2	0.56%							353	100.00%		

遺構名	種別	計測法	食 膳 具																	灰釉陶器		緑釉陶器		特殊品		
			土 師 器					黒 色 土 器					須 恵 器							有台碗	有台碗	有台碗	有台碗			
			無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台碗	有台碗	有台碗	有台碗	緑釉陶器	緑釉陶器	香炉蓋		
05 3区	SK338	口残值																								
		口緑数(点)																								
		底残值																								
		底緑数(点)																								
		総点数(点)	1	33.33%																						
総重量(g)	3	12.00%																								
05 3区	SK340	口残值	0.06	30.00%							0.14	70.00%														
		口緑数(点)	1	33.33%								2	66.67%													
		底残值	0.25	100.00%																						
		底緑数(点)	1	100.00%																						
		総点数(点)	13	72.23%								2	11.11%													
総重量(g)	25	48.09%								6	11.53%															
05 3区	SK344	口残值																								
		口緑数(点)																								
		底残值																								
		底緑数(点)																								
		総点数(点)	4	100.00%																						
総重量(g)	6	100.00%																								
05 3区	SK350	口残值																								
		口緑数(点)																								
		底残值																								
		底緑数(点)																								
		総点数(点)	1	50.00%																						
総重量(g)	1	11.11%																								
05 3区	SK351	口残值	0.03	6.38%				0.08	17.02%			0.28	59.58%													
		口緑数(点)	1	12.50%				1	12.50%			3	37.50%													
		底残值										0.25	43.11%													
		底緑数(点)										1	50.00%													
		総点数(点)	13	52.00%					1	4.00%			4	16.00%												
総重量(g)	15	14.15%					6	5.66%			27	25.47%														
05 3区	SK362	口残值										0.69	100.00%													
		口緑数(点)										12	100.00%													
		底残值										0.92	62.17%													
		底緑数(点)										8	72.73%													
		総点数(点)										32	80.00%													
総重量(g)										95	55.24%															
05 3区	SK363	口残值	0.53	63.87%				0.08	9.63%			0.03	3.61%													
		口緑数(点)	19	76.00%				2	8.00%			1	4.00%													
		底残值	0.36	65.46%				0.19	34.54%																	
		底緑数(点)	6	85.72%				1	14.28%																	
		総点数(点)	99	84.64%				7	5.98%			2	1.70%													
総重量(g)	144	67.94%				25	11.79%			2	0.94%															
05 3区	SK368	口残值	5.92	84.72%				0.44	6.29%			0.36	5.15%	0.08	1.14%											
		口緑数(点)	122	86.55%				8	5.69%			6	4.25%	1	0.70%											
		底残值	10.81	93.12%				0.61	5.25%			0.19	1.63%													
		底緑数(点)	46	85.20%				5	9.25%			3	5.55%													
		総点数(点)	458	85.79%				34	6.38%			9	1.68%	1	0.18%											
総重量(g)	1,530	74.27%				138	6.69%			19	0.92%	6	0.29%													
05 3区	SK385	口残值	0.28	90.33%				0.03	9.67%																	
		口緑数(点)	9	90.00%				1	10.00%																	
		底残值	0.11	64.71%				0.06	35.29%																	
		底緑数(点)	3	75.00%				1	25.00%																	
		総点数(点)	46	88.48%				3	5.76%			1	1.92%													
総重量(g)	74	80.45%				14	15.22%			1	1.08%															
05 3区	SK397	口残值	0.33	100.00%																						
		口緑数(点)	6	100.00%																						
		底残值																								
		底緑数(点)	1	100.00%																						
		総点数(点)	14	93.34%																						
総重量(g)	30	60.00%																								
05 3区	SK399	口残值	0.31	83.79%																						
		口緑数(点)	10	83.34%																						
		底残值	0.42	100.00%																						
		底緑数(点)	7	100.00%																						
		総点数(点)	40	90.92%								2	4.54%													
総重量(g)	69	73.42%								10	10.63%															
05 3区	SK400	口残值	1.67	93.83%									0.08	4.49%												
		口緑数(点)	28	93.34%									1	3.33%												
		底残值	2.92	83.21%				0.06	1.70%			0.36	10.25%													
		底緑数(点)	14	77.79%				1	5.55%			1	5.55%													
		総点数(点)	115	88.49%				7	5.38%			3	2.30%													
総重量(g)	338	82.05%				338	82.05%			18	4.36%															
05 3区	SK432	口残值	0.72	96.00%				0.03	4.00%																	
		口緑数(点)	21	95.46%				1	4.54%																	
		底残值	0.75	79.79%				0.19	20.21%																	
		底緑数(点)	4	80.00%				1	20.00%																	
		総点数(点)	108	90.02%				5	4.16%																	
総重量(g)	168	69.15%				21	8.64%																			

遺構名	種別	計測法	煮炊具				貯蔵具										二彩托	合計										
			土師器		銅		鉄		大甕		長頸壺		広口壺		短頸壺				直口壺		長胴壺		壺蓋		横瓶		小壺	
			長甕	小甕	銅	散	鉢	仏鉢	鉢	大甕	長頸壺	広口壺	短頸壺	直口壺	長胴壺	壺蓋			横瓶	小壺								
05 3区	SK338	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底縁数(点)																										
		総点数(点)	2	66.67%																							3	
総重量(g)	22	88.00%																								25		
05 3区	SK340	口残値																									0.20	
		口縁数(点)																									3	
		底残値																									0.25	
		底縁数(点)	3	16.66%																							1	
		総点数(点)	3	16.66%																							18	
総重量(g)	21	40.38%																								52		
05 3区	SK344	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底縁数(点)																										
		総点数(点)																										4
総重量(g)																										6		
05 3区	SK350	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底縁数(点)	1	50.00%																								
		総点数(点)	1	50.00%																								2
総重量(g)	8	88.89%																								9		
05 3区	SK351	口残値		0.08	17.02%																						0.47	
		口縁数(点)		3	37.50%																						8	
		底残値		0.33	56.89%																						0.58	
		底縁数(点)		1	50.00%																							2
		総点数(点)		6	24.00%				1	4.00%																		25
総重量(g)		50	47.18%				8	7.54%																		106		
05 3区	SK362	口残値																									0.69	
		口縁数(点)																									12	
		底残値		0.56	37.83%																						1.48	
		底縁数(点)		3	27.27%																						11	
		総点数(点)		8	20.00%																						40	
総重量(g)		77	44.76%																							172		
05 3区	SK363	口残値	0.11	13.26%								0.08	9.63%														0.83	
		口縁数(点)	2	8.00%								1	4.00%													25		
		底残値																									0.55	
		底縁数(点)																									7	
		総点数(点)	5	4.27%		3	2.56%						1	0.85%													117	
総重量(g)	29	13.67%		6	2.83%						6	2.83%													212			
05 3区	SK368	口残値	0.08	1.14%	0.08	1.14%	0.03	0.42%																		6.99		
		口縁数(点)	2	1.41%	1	0.70%	1	0.70%																		141		
		底残値																									11.61	
		底縁数(点)																									54	
		総点数(点)	28	5.24%	1	0.18%	1	0.18%				2	0.37%														534	
総重量(g)	150	7.27%	4	0.19%	23	1.11%				191	9.26%														2,061			
05 3区	SK385	口残値																									10	
		口縁数(点)																									0.17	
		底残値																									4	
		底縁数(点)	1	1.92%	1	1.92%																					4	
		総点数(点)	2	2.17%	1	1.08%																					52	
総重量(g)	2	2.17%	1	1.08%																						92		
05 3区	SK397	口残値																									0.33	
		口縁数(点)																									6	
		底残値																										
		底縁数(点)																										
		総点数(点)	1	6.66%																							1	
総重量(g)	20	40.00%																								15		
05 3区	SK399	口残値	0.06	16.21%																							0.37	
		口縁数(点)	2	16.66%																							12	
		底残値																									0.42	
		底縁数(点)																									7	
		総点数(点)	2	4.54%																							44	
総重量(g)	15	15.95%																								94		
05 3区	SK400	口残値		0.03	1.68%																						1.78	
		口縁数(点)		1	3.33%																						1	
		底残値		0.17	4.84%																						30	
		底縁数(点)		2	11.11%																						3.51	
		総点数(点)	2	1.53%	3	2.30%																					18	
総重量(g)	7	1.69%	24	5.84%																					130			
05 3区	SK432	口残値																									0.75	
		口縁数(点)																									22	
		底残値																									0.94	
		底縁数(点)																									5	
		総点数(点)	5	4.16%			2	1.66%																			120	
総重量(g)	38	15.63%			16	6.58%																			243			



遺構名	種別 計測法	煮炊具				貯蔵具											合計							
		長 饗	小 饗	罏	甌	鉢	仏 鉢	鉢	大 饗	長頸甕	広口甕	短頸甕	直口甕	長胴甕	甕 蓋	横 瓶		小 壺	二 彩 托					
05 3区	SX19	口残値	0.11	2.80%	0.06	1.53%					0.08	2.04%									3.92	100.00%		
		口鉢数(点)	3	3.75%	1	1.25%						1	1.25%									80	100.00%	
		底残値			0.17	1.72%		0.19	1.92%													9.86	100.00%	
		底部数(点)			1	1.21%		2	4.25%													47	100.00%	
		總点数(点)	11	2.25%	5	1.02%		2	0.40%	1	0.20%	6	1.22%	1	0.20%							488	100.00%	
		總重量(g)	77	5.13%	39	2.60%		25	1.66%	10	0.66%	184	12.27%	1	0.06%							1,500	100.00%	
05 3区	SX87	口残値																						
		口鉢数(点)																						
		底残値			0.11	14.67%																0.75	100.00%	
		底部数(点)			1	10.00%																10	100.00%	
		總点数(点)			1	3.57%																28	100.00%	
05 3区	SX92	口残値																						
		口鉢数(点)																						
		底残値			0.28	18.31%																0.69	100.00%	
		底部数(点)			1	25.00%																4	100.00%	
		總点数(点)	3	10.00%	3	10.00%																30	100.00%	
05 3区	SX283	口残値	0.14	1.66%	0.58	6.91%	0.14	1.67%				0.11	1.31%									8.39	100.00%	
		口鉢数(点)	3	2.15%	8	5.75%	2	1.44%				1	0.72%									139	100.00%	
		底残値			0.22	3.33%								0.17	2.57%							6.61	100.00%	
		底部数(点)			2	4.45%								1	2.22%							45	100.00%	
		總点数(点)	62	8.28%	20	2.67%	12	1.60%				3	0.40%			1	0.13%				1	0.13%	748	100.00%
05 3区	SX309	口残値	427	17.74%	117	4.86%	256	10.63%			66	2.74%			173	7.18%		7	0.29%			2,407	100.00%	
		口鉢数(点)																						
		底残値																						
		底部数(点)			1	25.00%																	1	100.00%
		總点数(点)	10	83.34%																			4	100.00%
05 3区	SX357	口残値	0.28	1.18%	0.44	1.87%					0.06	0.25%										23.56	100.00%	
		口鉢数(点)	3	0.68%	10	2.30%						1	0.23%									435	100.00%	
		底残値			0.22	0.95%		0.28	1.21%													23.25	100.00%	
		底部数(点)	1	0.87%	1	0.86%		1	0.87%													115	100.00%	
		總点数(点)	26	2.17%	28	2.33%	8	0.66%				2	0.17%	1	0.08%							1,198	100.00%	
05 3区	SX371	口残値	369	8.05%	136	2.96%	117	2.55%			60	1.31%	8	0.17%								4,581	100.00%	
		口鉢数(点)	0.03	0.25%										0.31	2.64%							11.73	100.00%	
		底残値	1	0.47%										1	0.47%							211	100.00%	
		底部数(点)												1	0.94%							106	100.00%	
		總点数(点)	37	3.39%	7	0.64%	3	0.27%				4	0.36%	5	0.45%							1,089	100.00%	
05 3区	SX419	口残値	357	9.46%	26	0.68%	40	1.05%			69	1.82%	183	4.84%								3,777	100.00%	
		口鉢数(点)												0.06	3.66%							1.64	100.00%	
		底残値												1	3.23%							31	100.00%	
		底部数(点)																				1.03	100.00%	
		總点数(点)	6	5.04%	1	0.84%	3	2.52%				1	0.84%									5	100.00%	
05 3区	SX439	口残値	29	7.77%	9	2.41%	56	15.01%			12	3.21%										119	100.00%	
		口鉢数(点)			1.08	21.77%																373	100.00%	
		底残値			3	3.95%																4.96	100.00%	
		底部数(点)																				76	100.00%	
		總点数(点)	39	8.37%	6	1.28%	4	0.85%														8.03	100.00%	
05 3区	SD2	口残値	484	25.49%	76	4.00%	106	5.57%														69	100.00%	
		口鉢数(点)	0.11	6.01%	0.08	4.37%																466	100.00%	
		底残値	4	0.09	2	4.34%																1,900	100.00%	
		底部数(点)			0.14	1.85%																46	100.00%	
		總点数(点)	31	5.58%	7	1.26%	2	0.36%				18	3.24%	2	0.36%							70	100.00%	
05 3区	SD15	口残値	186	6.76%	57	2.07%	64	2.32%														555	100.00%	
		口鉢数(点)	0.03	2.29%	0.08	6.10%	0.03	2.75%														2,750	100.00%	
		底残値	1	4.35%	2	8.70%	1	4.34%														1.31	100.00%	
		底部数(点)	0.25	4.45%	0.39	6.94%																23	100.00%	
		總点数(点)	1	1.92%	3	5.77%																	5.62	100.00%
05 3区	SD17	口残値	18	4.66%	14	3.62%					22	5.72%	2	0.51%								386	100.00%	
		口鉢数(点)	246	11.24%	82	3.74%					1,070	48.96%	32	1.46%								2,187	100.00%	
		底残値	0.44	11.28%			0.06	1.53%							1	0.25%					5	0.22%		
		底部数(点)	5	5.88%			1	1.17%														3.90	100.00%	
		總点数(点)	46	6.37%	1	0.13%	2	0.27%				1	0.13%									8.66	100.00%	
05 3区	SD22	口残値	758	32.43%							77	3.29%										723	100.00%	
		口鉢数(点)																				2,338	100.00%	
		底残値			0.03	21.43%																0.14	100.00%	
		底部数(点)			1	33.33%																3	100.00%	
		總点数(点)	4	26.66%																			15	100.00%
總重量(g)	12	35.29%																			34	100.00%		



遺構名	種別	食 膳 具																		特殊品	
		土 師 器					黒 色 土 器			須 惠 器			灰 軸 陶 器		緑 軸 陶 器		緑 軸 陶 器	香 炉 蓋			
		甕 台 碗	有 台 碗	有 台 杯	無 台 皿	有 台 皿	蓋	無 台 碗	有 台 碗	有 台 皿	無 台 杯	有 台 杯	有 台 碗	有 台 皿	無 台 皿	杯 蓋	有 台 碗	有 台 碗	有 台 碗	有 台 碗	
05 3区	SD35	計測法																			
		口残値	0.33	91.67%																	
		口緑数(点)	5	83.34%																	
		底残値	0.39	100.00%																	
		底点数(点)	4	100.00%																	
		総点数(点)	50	87.73%																	
		総重量(g)	71	71.72%					4	7.01%											
05 3区	SD43	口残値	0.03	50.00%					0.03	50.00%											
		口緑数(点)	1	50.00%					1	50.00%											
		底残値	0.33	80.49%					0.08	19.51%											
		底点数(点)	4	80.00%					1	20.00%											
		総点数(点)	44	91.67%					4	8.33%											
		総重量(g)	55	83.34%				11	16.66%												
05 3区	SD48	口残値	0.03	100.00%																	
		口緑数(点)	1	100.00%																	
		底残値																			
		底点数(点)	17	80.96%					2	9.52%											
		総点数(点)	20	22.22%					2	2.22%											
05 3区	SD78	口残値																			
		口緑数(点)																			
		底残値	0.39	100.00%																	
		底点数(点)	4	100.00%																	
		総点数(点)	30	93.76%					1	3.12%											
		総重量(g)	39	47.56%				4	4.88%												
05 3区	SD84	口残値	0.83	71.57%					0.08	6.89%			0.19	16.37%							
		口緑数(点)	26	78.79%					2	6.06%			4	12.12%							
		底残値	1.17	68.02%					0.33	19.19%											
		底点数(点)	15	68.19%					4	18.18%			2	9.09%							
		総点数(点)	143	82.20%					13	7.48%			10	5.74%							
		総重量(g)	246	55.04%				58	12.99%			28	6.26%								
05 3区	SD103	口残値																			
		口緑数(点)																			
		底残値																			
		底点数(点)																			
		総点数(点)								2	100.00%										
		総重量(g)						4	100.00%												
05 3区	SD106	口残値	0.42	100.00%																	
		口緑数(点)	10	100.00%					0.14	7.52%											
		底残値	1.72	92.48%					1	14.28%			1	14.28%							
		底点数(点)	5	71.44%					1	15.6%			1	15.6%							
		総点数(点)	62	96.88%					6	3.17%			5	2.64%							
		総重量(g)	178	94.19%				0.08	6.40%			0.50	40.00%								
05 3区	SD128	口残値	0.64	51.20%					2	8.69%			4	17.39%							
		口緑数(点)	15	65.23%									0.11	6.96%							
		底残値	1.22	77.23%					1	6.25%			7	4.11%							
		底点数(点)	13	81.25%					5	2.94%			38	5.04%							
		総点数(点)	134	78.85%					38	5.04%			39	5.17%							
		総重量(g)	238	31.61%				1.67	18.64%			1.00	11.16%								
05 3区	SD157	口残値	6.08	67.89%					30	18.40%			14	8.58%							
		口緑数(点)	114	69.97%					0.89	10.70%			9	12.00%					0.06		
		底残値	4.89	58.86%					15	20.00%			27	5.47%					1		
		底点数(点)	51	68.00%					84	17.03%			119	5.86%					0.20%		
		総点数(点)	361	73.25%					521	25.66%									2		
		総重量(g)	1,215	59.88%														0.09%			
05 3区	SD158	口残値																			
		口緑数(点)																			
		底残値	0.06	100.00%																	
		底点数(点)	1	100.00%					1	7.69%											
		総点数(点)	7	53.86%					4	10.25%											
		総重量(g)	17	43.60%																	
05 3区	SD166	口残値	0.08	72.73%																	
		口緑数(点)	2	66.67%																	
		底残値																			
		底点数(点)	2	28.57%					2	8.88%											
		総点数(点)	4	8.88%					0.08	72.73%					0.03	27.27%					
		総重量(g)					2	66.67%					1	33.33%							
05 3区	SD261	口残値	0.14	50.00%									0.14	50.00%							
		口緑数(点)	2	66.67%									2	50.00%							
		底残値											2	4.16%					1		
		底点数(点)	36	75.02%					3	6.25%			6	2.37%					2.08%		
		総点数(点)	49	19.37%					12	4.74%			4	1.58%							
		総重量(g)																			
05 3区	SD277	口残値	0.06	30.00%									0.08	40.00%							
		口緑数(点)	2	40.00%									2	40.00%							
		底残値	0.78	57.36%					0.14	10.29%			0.44	32.35%							
		底点数(点)	10	66.68%					1	6.66%			4	26.66%							
		総点数(点)	63	81.85%					3	3.89%			6	7.80%							
		総重量(g)	160	61.55%				12	4.61%			42	16.17%								

遺構名	種別 計測法	煮炊具					貯藏具											二彩 托	合計			
		長 甕	小 甕	銅	甌	鉢	土 師 器	鉢	大 甕	長頸甕	広口甕	短頸甕	直口甕	長胴甕	甕 蓋	横 瓶	小 甕					
05 3区	SD35	口残値	0.03	8.33%																0.36	100.00%	
		口縁数(点)	1	16.66%																	6	100.00%
		底残値																			0.39	100.00%
		底部数(点)																			4	100.00%
		総点数(点)	3	5.26%																	57	100.00%
		総重量(g)	15	15.15%																99	100.00%	
05 3区	SD43	口残値																		0.06	100.00%	
		口縁数(点)																			2	100.00%
		底残値																			0.41	100.00%
		底部数(点)																			5	100.00%
		総点数(点)																			48	100.00%
		総重量(g)																		66	100.00%	
05 3区	SD48	口残値																		0.03	100.00%	
		口縁数(点)																			1	100.00%
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	1	4.76%						1	4.76%										21	100.00%
		総重量(g)	2	2.22%				66	73.34%											90	100.00%	
05 3区	SD78	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																			0.39	100.00%
		底部数(点)																			4	100.00%
		総点数(点)						1	3.12%												32	100.00%
		総重量(g)				39	47.56%													82	100.00%	
05 3区	SD84	口残値	0.06	5.17%																	1.16	100.00%
		口縁数(点)	1	3.03%																	33	100.00%
		底残値			0.22	12.79%															1.72	100.00%
		底部数(点)			1	4.54%															22	100.00%
		総点数(点)	5	2.87%	2	1.14%			1	0.57%											174	100.00%
		総重量(g)	37	8.27%	21	4.69%		57	12.75%											447	100.00%	
05 3区	SD103	口残値																				
		口縁数(点)																				
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)																			2	100.00%
		総重量(g)																		4	100.00%	
05 3区	SD106	口残値																			0.42	100.00%
		口縁数(点)																			10	100.00%
		底残値																			1.86	100.00%
		底部数(点)																			7	100.00%
		総点数(点)																			64	100.00%
		総重量(g)																		189	100.00%	
05 3区	SD128	口残値			0.03	2.40%															1.25	100.00%
		口縁数(点)			2	8.69%															23	100.00%
		底残値			0.08	5.06%															1.58	100.00%
		底部数(点)			1	6.25%					0.17	10.75%									16	100.00%
		総点数(点)	12	7.06%	5	2.94%	1	0.58%			3	1.76%	3	1.76%							170	100.00%
	総重量(g)	76	10.09%	14	1.85%	22	2.92%		278	36.95%	48	6.37%								753	100.00%	
05 3区	SD157	口残値	0.03	0.33%	0.06	0.66%	0.06	0.66%													8.96	100.00%
		口縁数(点)	1	0.61%	2	1.22%	1	0.61%													163	100.00%
		底残値																			8.31	100.00%
		底部数(点)																			75	100.00%
		総点数(点)	11	2.23%	5	1.01%	4	0.81%													493	100.00%
	総重量(g)	88	4.33%	21	1.03%	64	3.15%													2,030	100.00%	
05 3区	SD158	口残値			0.06	100.00%															0.06	100.00%
		口縁数(点)			1	100.00%															1	100.00%
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	4	30.76%	1	7.69%																13
	総重量(g)	16	41.03%	2	5.12%																39	100.00%
05 3区	SD166	口残値					0.03	27.27%													0.11	100.00%
		口縁数(点)					1	33.33%													3	100.00%
		底残値																				
		底部数(点)																				
		総点数(点)	3	42.86%			2	28.57%														7
	総重量(g)	18	40.00%			23	51.12%														45	100.00%
05 3区	SD261	口残値																			0.11	100.00%
		口縁数(点)																			3	100.00%
		底残値																			0.28	100.00%
		底部数(点)																			4	100.00%
		総点数(点)	4	8.33%							2	4.16%									48	100.00%
	総重量(g)	7	2.76%						175	69.18%										253	100.00%	
05 3区	SD277	口残値																			0.20	100.00%
		口縁数(点)																			5	100.00%
		底残値																			1.36	100.00%
		底部数(点)																			15	100.00%
		総点数(点)	2	2.59%	1	1.29%					1	1.29%										77
	総重量(g)	24	9.23%	8	3.07%				2	0.76%	12	4.61%								260	100.00%	



遺構名	種別 計測法	煮炊具				貯蔵具												二彩 托	合計		
		土師器				須恵器															
		長 甕	小 甕	銅 甕	甗	鉢	仏 鉢	鉢	大 甕	長頸甕	広口甕	短頸甕	直口甕	長胴甕	甕 蓋	横 瓶	小 甕				
05 3区	SD297	口残値			0.03	3.94%													0.76	100.00%	
		口縁数(点)			1	7.14%													14	100.00%	
		底残値																	0.50	100.00%	
		底部数(点)																	7	100.00%	
		総点数(点)	2	1.50%	1	0.75%													133	100.00%	
総重量(g)	18	8.37%	7	3.25%														215	100.00%		
05 3区	SD311	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)	1	5.88%																17	100.00%
		総重量(g)	17	40.49%																42	100.00%
05 3区	SD317	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																		1	100.00%
		総重量(g)																		1	100.00%
05 3区	SD318	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																		0.86	100.00%
		総重量(g)																		5	100.00%
05 3区	SD331	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																		50	100.00%
		総重量(g)													1	2.00%				171	100.00%
05 3区	SD337	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																		63	36.84%
		総重量(g)																		171	100.00%
05 3区	SD338	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																		2	100.00%
		総重量(g)																		2	100.00%
05 3区	SD338	口残値	3	13.04%	1	4.34%															
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																		23	100.00%
		総重量(g)	20	37.03%	2	3.70%															23
05 3区	SD338	口残値			0.03	6.25%	0.06	12.50%													
		口縁数(点)			1	6.25%	1	6.25%													
		底残値			0.08	7.76%															
		底部数(点)			2	12.50%															
		総重量(g)	13	7.02%	4	2.16%	1	0.54%													
05 3区	SD337	口残値	61	18.59%	23	7.01%	15	4.57%													
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総重量(g)																			
05 3区	SD342	口残値			0.03	5.08%															
		口縁数(点)			1	6.66%															
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総重量(g)	9	5.29%	1	0.58%															
05 3区	SD343	口残値	70	22.01%	8	2.51%															
		口縁数(点)			0.03	13.04%															
		底残値			1	11.11%															
		底部数(点)																			
		総重量(g)	2	3.22%	2	3.22%	1	1.61%													
05 3区	SD348	口残値	8	9.09%	5	5.68%	3	3.40%													
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総重量(g)																			
05 3区	SD367	口残値																			
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総重量(g)																			
05 3区	SD380	口残値	0.28	1.82%	0.36	2.35%															
		口縁数(点)	4	1.37%	7	2.41%															
		底残値			0.44	2.21%															
		底部数(点)			2	2.04%															
		総重量(g)	32	3.33%	18	1.87%	2	0.20%													
05 3区	SD388	口残値	322	8.72%	142	3.84%	18	0.48%													
		口縁数(点)																			
		底残値																			
		底部数(点)																			
		総重量(g)																			

遺構名	種別 計測法	食 膳 具																	灰軸陶器		綠軸陶器		特殊品											
		土 師 器						黒色土器			須 恵 器					有台碗	有台碗	有台碗	有台碗	香炉蓋														
		無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台碗	有台碗	有台碗	有台碗	香炉蓋													
05 3区	SD389	口残值																																
		口緑数(点)																																
		底残值	0.14	100.00%																														
		底部数(点)	2	100.00%																														
		総点数(点)	12	92.31%																														
総重量(g)	12	70.59%																																
05 3区	SD410	口残值																																
		口緑数(点)																																
		底残值																																
		底部数(点)																																
		総重量(g)	1	50.00%							1	50.00%																						
05 3区	SD424	口残值	0.61	68.55%						0.22	24.71%						0.06	6.74%																
		口緑数(点)	13	72.23%						4	22.22%						1	5.55%																
		底残值	0.78	58.22%						0.39	29.10%						0.17	12.68%																
		底部数(点)	4	57.15%						2	28.57%						1	14.28%																
		総重量(g)	94	74.04%						24	18.89%						4	3.14%																
05 3区	SD445	口残值	0.14	60.88%						0.03	13.04%						0.06	26.08%																
		口緑数(点)	4	66.68%						1	16.66%						1	16.66%																
		底残值	0.28	31.46%						0.14	15.73%						0.47	52.81%																
		底部数(点)	2	33.34%						1	16.66%						3	50.00%																
		総重量(g)	29	76.33%						2	5.26%						3	7.89%																
05 3区	SD446	口残值																																
		口緑数(点)																																
		底残值																																
		底部数(点)																																
		総重量(g)	8	72.72%						1	9.09%																							
05 3区	河1層	口残值	179.00	81.57%					21.58	9.85%		0.11	0.05%	10.05	4.57%	0.70	0.31%						0.11	0.05%				0.78	0.35%			0.29	0.13%	
		口緑数(点)	2802	81.55%					383	11.77%		1	0.02%	120	3.50%	7	0.20%						1	0.02%				9	0.26%			11	0.32%	
		底残值	376.66	82.66%	0.08	0.01%			49.45	10.87%		1.19	0.26%	11.50	2.52%	0.56	0.12%						0.50	0.10%	0.58	0.12%				0.83	0.18%			
		底部数(点)	1,774	80.08%	1	0.04%			3	0.13%		7	0.31%	85	3.84%	3	0.13%						1	0.04%	2	0.09%				1	0.04%			
		総重量(g)	14,513	83.84%	2	0.01%			5	0.02%		1,563	9.06%	247	1.42%	11	0.06%						2	0.01%	2	0.01%	14	0.08%			48	0.27%	1	0.01%
05 3区	河1 2~3層	口残值	64.75	70.36%					8.42	9.14%						14.97	16.28%								0.14	0.15%								
		口緑数(点)	909	77.39%					129	10.98%						90	7.65%								2	0.17%								
		底残值	155.48	72.98%					17.32	8.13%		0.19	0.08%	22.57	10.59%	3.27	1.53%						1.00	0.46%	0.42	0.19%								
		底部数(点)	556	74.76%					84	11.31%	1	0.13%	1	0.13%	71	9.55%	6	0.80%						1	0.13%	1	0.13%							
		総重量(g)	3,300	79.06%					422	10.15%	1	0.02%	1	0.02%	153	3.66%	20	0.47%						1	0.02%	2	0.04%							
05 3区	河1 4~7層	口残值	0.90	21.27%					3.218	10.09%	3	0.01%	8	0.02%	2,667	8.36%	455	1.42%						75	0.23%	70	0.21%							
		口緑数(点)	7	25.92%												2.83	66.92%																	
		底残值														14	51.87%																	
		底部数(点)														4.64	100.00%																	
		総重量(g)	12	27.91%												17	39.55%																	
05 3区	河1 層位不明	口残值	0.56	80.00%																														
		口緑数(点)	4	80.00%																														
		底残值	0.63	74.12%																														
		底部数(点)	3.00	50.00%																														
		総重量(g)	11	68.75%																														
05 4区下層	SX82	口残值																																
		口緑数(点)																																
		底残值																																
		底部数(点)																																
		総重量(g)	1	33.33%																														
05 4区上層	SE44	口残值																																
		口緑数(点)																																
		底残值																																
		底部数(点)	1	10.00%																														
		総重量(g)	1	2.32%																														
05 4区上層	SK1	口残值																																
		口緑数(点)																																
		底残值																																
		底部数(点)	7	33.33%																														
		総重量(g)	28	13.15%																														
05 4区上層	SK9	口残值																																
		口緑数(点)																																
		底残值																																
		底部数(点)	5	71.43%																														
		総重量(g)	11	45.83%																														







遺構名	種別 計測法	煮炊具				貯藏具											二彩 托	合計		
		土師器				須惠器														
		長	小	銅	散	鉢	伎鉢	鉢	大	長頸壺	広口壺	短頸壺	直口壺	長胴壺	壺蓋	横瓶			小壺	
05 4区 上層	SK39	口残値																0.03	100.00%	
		口縁数(点)																	1	100.00%
		底残値																		
		底部数(点)																		
		総点数(点) 総重量(g)		1 9.09%															11 15	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SX3	口残値																0.06	100.00%	
		口縁数(点)																1	100.00%	
		底残値																		
		底部数(点)																		
		総点数(点) 総重量(g)				3 60.00%													5 56	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SX12	口残値		0.03	50.00%													0.06	100.00%	
		口縁数(点)		1	50.00%													2	100.00%	
		底残値		0.22	100.00%														0.22	100.00%
		底部数(点)		1	50.00%														2	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)	2 9	4.54% 7.08%	14 50	31.81% 89.29%	2 30	4.54% 23.62%			1 12	2.27% 9.44%							44 127	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SX46	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値																		
		底部数(点)																		
		総点数(点) 総重量(g)																	1 1	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SD2	口残値																0.22	100.00%	
		口縁数(点)																3	100.00%	
		底残値																		
		底部数(点)																		
		総点数(点) 総重量(g)	1 15	2.77% 2.79%					17 457	47.24% 85.12%									36 537	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SD5	口残値																0.03	100.00%	
		口縁数(点)																1	100.00%	
		底残値																		
		底部数(点)		3	27.28%														11	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)	12	5.71%					4 194	36.36% 92.39%									210	100.00%
05 4区 上層	SD6	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値																		
		底部数(点)																		
		総点数(点) 総重量(g)																	9 20	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SD7	口残値		0.06	40.00%													0.15	100.00%	
		口縁数(点)		2	50.00%													4	100.00%	
		底残値		0.22	66.67%														0.33	100.00%
		底部数(点)		1	50.00%														2	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)	22 91	36.08% 30.15%	4 29	6.55% 9.60%	8 86	13.11% 28.47%											61 302	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SD8	口残値																0.14	100.00%	
		口縁数(点)																2	100.00%	
		底残値																	0.06	100.00%
		底部数(点)		4	15.38%														1	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)		39 0.08	47.59% 42.10%														26 82	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SD10	口残値		0.08	42.10%													0.19	100.00%	
		口縁数(点)		2	50.00%													4	100.00%	
		底残値		0.06	100.00%														0.06	100.00%
		底部数(点)		1	50.00%														2	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)	58 378	54.75% 53.79%	5 11	4.71% 1.56%	7 99	6.60% 14.09%			1 120	0.94% 17.06%				1 38	0.94% 5.40%	106 703	100.00% 100.00%	
05 4区 上層	SD11	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値																		
		底部数(点)		22	44.89%														49	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)		109 109	67.70% 67.70%														161	100.00%
05 4区 上層	SD13	口残値																0.06	100.00%	
		口縁数(点)																2	100.00%	
		底残値					0.14	100.00%											0.14	100.00%
		底部数(点)		1	50.00%														2	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)		1 19	5.00% 21.84%														20 87	100.00% 100.00%
05 4区 上層	SD15	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値																		
		底部数(点)		3	75.00%														4	100.00%
		総点数(点) 総重量(g)		11 11	91.67% 91.67%														12	100.00%

遺構名	種別	計測法	食 膳 具																	特殊品			
			土 師 器					黒 色 土 器			須 恵 器				灰 軸 陶 器	緑 軸 陶 器	緑 軸 陶 器	香 炉 蓋					
			無台碗	有台碗	有台杯	無台皿	有台皿	蓋	無台碗	有台碗	有台皿	無台杯	有台杯	有台碗	有台皿	無台皿	杯 蓋	有台碗	有台碗				
05 4区 上層	SD38	口残値																					
		口縁数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)																					
		総点数(点)	6	60.00%																			
総重量(g)	13	20.00%																					
05 4区 上層	SD40	口残値																					
		口縁数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)									0.11	100.00%											
		総点数(点)	7	87.50%							1	100.00%											
総重量(g)	5	12.82%								34	87.18%												
05 4区 上層	SD45	口残値																					
		口縁数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)																					
		総点数(点)	1	100.00%																			
総重量(g)	1	100.00%																					
05 4区 上層	Ph24	口残値																					
		口縁数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)																					
		総点数(点)																					
総重量(g)																							
05 4区 上層	Ph32	口残値																					
		口縁数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)																					
		総点数(点)																					
総重量(g)																							
05 4区 上層	Ph34	口残値																					
		口縁数(点)																					
		底残値																					
		底部数(点)																					
		総点数(点)	1	100.00%																			
総重量(g)	1	100.00%																					





別表 13 沖ノ羽遺跡第 19 次調査遺構出土古代土器器種構成率

遺構名	種別 計測法	食 膳 具																				合計						
		土 師 器			黒色土器			須 恵 器			緑軸陶器		灰軸陶器		煮 炊 具			貯 蔵 具										
		無台碗	無台皿	有台皿	無台碗	有台碗	無台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	有台碗	有台皿	有台皿	長 費	小 費	鍋	鉢	仏 鉢	大 費	長頸密	広口密		短頸密	横 瓶				
06 1区	SE30	口残値	0.03	100%																				0.03	100.00%			
		口縁数(点)	1	100%																					1	100.00%		
		底残値	0.69	100%																					0.69	100.00%		
		底部数(点)	1	100%																					1	100.00%		
		総点数(点)	6	100%																						6	100.00%	
		総重量(g)	31	100%																					31	100.00%		
06 1区	SE34	口残値	0.03	50.00%																					0.06	100.00%		
		口縁数(点)	1	50.00%												0.03	50.00%								1	100.00%		
		底残値																									2	100.00%
		底部数(点)																										
		総点数(点)	9	90.00%													1	10.00%								10	100.00%	
		総重量(g)	4	10.00%											36	90.00%									40	100.00%		
06 1区	SE42	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底部数(点)																										
		総点数(点)	4	80.00%													1	20.00%								5	100.00%	
		総重量(g)	6	46.15%											7	53.85%									13	100.00%		
06 1区	SE67	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底部数(点)																										
		総点数(点)															1	50.00%								2	100.00%	
		総重量(g)													1	0.16%									615	99.84%		
06 1区	SE71	口残値	0.06	100%																					0.06	100.00%		
		口縁数(点)	2	100%																					2	100.00%		
		底残値																										
		底部数(点)																										
		総点数(点)	23	82.15%			1	3.57%									3	10.71%								28	100.00%	
		総重量(g)	24	75.00%			2	6.25%								4	12.50%								32	100.00%		
06 1区	SE74	口残値	0.97	97.00%																					1.00	100.00%		
		口縁数(点)	15	93.75%																					16	100.00%		
		底残値	1.92	93.21%	0.14	6.79%																				2.06	100.00%	
		底部数(点)	8	88.89%	1	11.11%																				9	100.00%	
		総点数(点)	93	82.36%	1	0.88%			5	4.42%			2	1.76%	1	0.88%	1	0.88%								113	100.00%	
		総重量(g)	295	75.88%	7	1.79%			9	2.31%			2	0.51%	1	0.25%	4	1.02%							389	100.00%		
06 1区	SE111	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値	0.53	100%																						0.53	100.00%	
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%	
		総点数(点)	2	100%																						2	100.00%	
		総重量(g)	18	100%																					18	100.00%		
06 1区	SK15	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値	0.19	100%																						0.19	100.00%	
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%	
		総点数(点)	1	100%																						1	100.00%	
		総重量(g)	10	100%																					10	100.00%		
06 1区	SK32	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%	
		総点数(点)	2	100%																						2	100.00%	
		総重量(g)																										
06 1区	SK39	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底部数(点)																										
		総点数(点)	2	100%																						2	100.00%	
		総重量(g)	4	100%																					4	100.00%		
06 1区	SK40	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値	0.14	100%																						0.14	100.00%	
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%	
		総点数(点)	1	100%																						1	100.00%	
		総重量(g)	9	100%																					9	100.00%		

遺構名	種別 計測法	食 膳 具																				煮 炊 具			貯 蔵 具					合計
		土 師 器			黒色土器			須 恵 器			緑軸陶器		灰軸陶器	土 師 器			須 恵 器		短頸壺		横 瓶									
		無台皿	無台皿	有台皿	無台皿	有台皿	無台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	有台碗	有台皿	有台皿	長 羹	小 羹	鍋	鉢	仏 鉢	大 甕	長頸壺	広口壺	短頸壺	横 瓶							
06 1区	SK73	口残値																							0.03	100.00%				
		口縁数(点)																								1	100.00%			
		底残値	0.03	100%																						2	100.00%			
		底部数(点)	1	100%																						6	100.00%			
		総重量(g)	6	100%																							6	100.00%		
06 1区	SK108	口残値	0.36	100%																						0.36	100.00%			
		口縁数(点)	4	100%																						4	100.00%			
		底残値	2.89	88.11%		0.39	11.89%																				3.28	100.00%		
		底部数(点)	25	96.16%		1	3.84%																				26	100.00%		
		総重量(g)	569	74.59%		77	10.09%							4	1.70%	1	0.42%	3	1.27%								763	100.00%		
06 1区	SK109	口残値	0.56	76.72%												0.17	23.28%										0.73	100.00%		
		口縁数(点)	10	83.34%												2	16.66%										12	100.00%		
		底残値	2.17	100%																							2.17	100.00%		
		底部数(点)	15	100%																							15	100.00%		
		総重量(g)	202	40.57%		2	2.56%							1	1.28%	3	3.84%			1	1.28%						78	100.00%		
06 1区	SK110	口残値	0.61	66.31%			0.06	6.52%							0.19	20.65%	0.06	6.52%										0.92	100.00%	
		口縁数(点)	15	71.44%			1	4.76%							4	19.04%	1	4.76%										21	100.00%	
		底残値	2.89	71.72%											1.14	28.28%												4.03	100.00%	
		底部数(点)	12	63.16%											7	36.84%												19	100.00%	
		総重量(g)	434	35.34%		1	0.41%		1	0.41%				16	6.61%	43	17.76%	2	0.82%	1	0.41%	1	0.41%					242	100.00%	
06 1区	SK114	口残値																												
		口縁数(点)																												
		底残値	0.03	100%																								0.03	100.00%	
		底部数(点)	1	100%																								1	100.00%	
		総重量(g)	17	100%																								5	100.00%	
06 1区	SX38	口残値																												
		口縁数(点)																												
		底残値																												
		底部数(点)	1	100%																								1	100.00%	
		総重量(g)	1	100%																								1	100.00%	
06 1区	SX77	口残値	0.08	100%																								0.08	100.00%	
		口縁数(点)	2	100%																								2	100.00%	
		底残値																												
		底部数(点)	8	100%																								8	100.00%	
		総重量(g)	17	100%																								17	100.00%	
06 1区	SD49	口残値																												
		口縁数(点)																												
		底残値																												
		底部数(点)	7	100%																								7	100.00%	
		総重量(g)	7	100%																								7	100.00%	
06 1区	SD60	口残値																												
		口縁数(点)																												
		底残値																												
		底部数(点)	3	75.00%																								4	100.00%	
		総重量(g)	4	66.67%																								6	100.00%	
06 1区	SD62	口残値																												
		口縁数(点)																												
		底残値																												
		底部数(点)																												
		総重量(g)																												
06 1区	SD64	口残値	0.11	100%																								0.11	100.00%	
		口縁数(点)	3	100%																								3	100.00%	
		底残値	0.39	55.72%																								0.70	100.00%	
		底部数(点)	4	80.00%																								5	100.00%	
		総重量(g)	121	40.46%										10	10.30%	3	3.09%			1	1.03%	1	1.03%					97	100.00%	
												35	11.70%	7	2.34%			2	0.66%	130	43.51%					299	100.00%			





遺構名	種別	計測法	食 膳 具																					合計			
			土 師 器			黒色土器			須 恵 器			緑軸陶器		灰軸陶器			煮 炊 具			土 師 器			貯 蔵 具				
			無台皿	無台皿	有台皿	無台皿	有台皿	無台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	有台碗	有台皿	有台皿	長 羹	小 羹	鍋	鉢	仏 鉢	大 甕	長頸壺	広口壺	短頸壺		横 瓶		
06 2区	SE58	口残値	0.19	86.37%																				0.22	100.00%		
		口縁数(点)	4	80.00%																						5	100.00%
		底残値	0.39	100%																						0.39	100.00%
		底部数(点)	3	100%																						3	100.00%
		総点数(点)	23	63.90%			7	19.44%							3	8.33%					3	8.33%				36	100.00%
総重量(g)	37	6.05%			11	1.80%							32	5.23%					531	86.92%				611	100.00%		
06 2区	SK5	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総重量(g)	2	100%																						2	100.00%
06 2区	SK8	口残値												0.03	100%										0.03	100.00%	
		口縁数(点)												1	100%										1	100.00%	
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総重量(g)	13	19.69%											19	28.78%					1	8.33%				12	100.00%
06 2区	SK9	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総重量(g)	2	100%																						2	100.00%
06 2区	SK12	口残値	0.22	100%																					0.22	100.00%	
		口縁数(点)	4	100%																					4	100.00%	
		底残値	0.83	100%																					0.83	100.00%	
		底部数(点)	6	100%																					6	100.00%	
		総重量(g)	105	39.92%											36	13.68%	2	0.76%			1	2.94%			34	100.00%	
06 2区	SK14	口残値	0.03	50.00%										0.03	50.00%										0.06	100.00%	
		口縁数(点)	1	50.00%										1	50.00%										2	100.00%	
		底残値	0.25	100%																					0.25	100.00%	
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総重量(g)	28	59.59%			1	8.33%							5	10.63%	8	17.02%								47	100.00%
06 2区	SK15	口残値	0.08	100%																					0.08	100.00%	
		口縁数(点)	3	100%																					3	100.00%	
		底残値	0.11	100%																					0.11	100.00%	
		底部数(点)	2	100%																					2	100.00%	
		総重量(g)	27	100%																						27	100.00%
06 2区	SK16	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	2	100%																						2	100.00%
		総重量(g)	2	100%																						2	100.00%
06 2区	SK17	口残値	0.22	100%																					0.22	100.00%	
		口縁数(点)	6	100%																					6	100.00%	
		底残値	0.89	100%																					0.89	100.00%	
		底部数(点)	3	100%																					3	100.00%	
		総重量(g)	60	93.75%																						64	100.00%
06 2区	SK18	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値	0.08	100%																						0.08	100.00%
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総重量(g)	7	25.00%											2	33.33%	3	50.00%								6	100.00%
06 2区	SK19	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総重量(g)	1	100%											14	50.00%	7	25.00%								1	100.00%





遺構名	種別 計測法	食 膳 具																				煮 炊 具			貯 蔵 具					合計								
		土 師 器			黒色土器		須 恵 器		緑軸陶器		灰軸陶器	土 師 器			貯 蔵 具																							
		無台皿	有台皿	有台皿	無台皿	有台皿	無台皿	有台皿	杯 蓋	有台皿	有台皿	有台皿	長 棗	小 棗	鍋	鉢	仏 鉢	大 棗	長頸壺	広口壺	短頸壺	横 瓶																
06 2区	SX109	口残値	0.33	35.86%			0.53	57.62%										0.06	6.52%											0.92	100.00%							
		口縁数(点)	5	29.41%			11	64.71%											1	5.88%											17	100.00%						
		底残値	0.83	65.37%			0.36	28.34%																							1.27	100.00%						
		底部数(点)	5	62.50%			2	25.00%																								8	100.00%					
		総点数(点)	73	60.36%			41	33.88%												2	1.65%											121	100.00%					
総重量(g)	148	35.57%			186	44.74%												14	3.36%												416	100.00%						
06 2区	SX162	口残値	0.31	100%																											0.31	100.00%						
		口縁数(点)	6	100%																												6	100.00%					
		底残値	0.39	100%																												0.39	100.00%					
		底部数(点)	3	100%																												3	100.00%					
		総点数(点)	36	97.30%																													37	100.00%				
総重量(g)	58	45.66%																														127	100.00%					
06 2区	SD1	口残値	0.22	61.12%					0.03	8.33%																						0.36	100.00%					
		口縁数(点)	6	66.67%																													9	100.00%				
		底残値	0.17	100%																													0.17	100.00%				
		底部数(点)	5	100%																													5	100.00%				
		総点数(点)	91	81.98%																														111	100.00%			
総重量(g)	109	44.35%																														246	100.00%					
06 2区	SD6	口残値	17.61	74.85%			1.03	4.37%																									23.55	100.00%				
		口縁数(点)	407	75.84%			24	4.46%																									537	100.00%				
		底残値	47.78	84.45%			3.69	6.51%																										56.60	100.00%			
		底部数(点)	350	84.35%			2	0.48%																										415	100.00%			
		総点数(点)	3,048	74.42%			2	0.04%																											4,100	100.00%		
総重量(g)	6,535	33.12%			11	0.05%																											19,730	100.00%				
06 2区	SD13	口残値	2.33	81.51%			0.11	3.84%																									2.86	100.00%				
		口縁数(点)	51	79.71%			2	3.12%																										64	100.00%			
		底残値	5.58	82.67%			0.86	12.74%																										6.75	100.00%			
		底部数(点)	47	83.94%			4	7.14%																										56	100.00%			
		総点数(点)	433	71.74%			14	2.31%																										604	100.00%			
総重量(g)	812	30.67%			79	2.98%																											2,651	100.00%				
06 2区	SD20	口残値																															0.03	100.00%				
		口縁数(点)																																1	100.00%			
		底残値	0.17	100%																														0.17	100.00%			
		底部数(点)	1	100%																														1	100.00%			
		総点数(点)	10	76.93%																															13	100.00%		
総重量(g)	20	36.36%																															55	100.00%				
06 2区	SD35	口残値	0.08	100%																														0.08	100.00%			
		口縁数(点)	2	100%																														2	100.00%			
		底残値	0.25	100%																															0.25	100.00%		
		底部数(点)	1	100%																															1	100.00%		
		総点数(点)	21	87.51%																																24	100.00%	
総重量(g)	36	90.00%																																40	100.00%			
06 2区	SD36	口残値																																				
		口縁数(点)																																				
		底残値																																				
		底部数(点)	4	80.00%																																	5	100.00%
		総重量(g)	3	60.00%																																	5	100.00%
06 2区	SD42	口残値					0.03	100%																											0.03	100.00%		
		口縁数(点)					1	100%																												1	100.00%	
		底残値																																				
		底部数(点)						1	50.00%																												2	100.00%
		総重量(g)						6	60.00%																													10
06 2区	SD44	口残値	0.03	100%																															0.03	100.00%		
		口縁数(点)	1	100%																																1	100.00%	
		底残値																																				
		底部数(点)	1	50.00%																																	2	100.00%
		総重量(g)	4	20.00%																																		20
06 2区	SD48																																					

遺構名	種別 計測法	食 膳 具																				煮 炊 具		貯 藏 具					合計				
		土 師 器			黒色土器			須 恵 器			緑軸陶器		灰軸陶器		土 師 器		貯 藏 具																
		無台碗	無台皿	有台皿	無台碗	有台碗	無台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	有台碗	有台皿	有台皿	長 甕	小 甕	鍋	鉢	仏 鉢	大 甕	長頸壺	広口壺	短頸壺	横 瓶										
06 2区	SD52	口残値																															
		口縁数(点)																															
		底残値																															
		底部数(点)																															
		総点数(点)	1	25.00%											2	50.00%	1	25.00%									4	100.00%					
総重量(g)	1	1.72%											50	86.22%	7	12.06%																	
06 2区	SD55	口残値	0.11	55.00%		0.06	30.00%																				0.20	100.00%					
		口縁数(点)	2	50.00%		1	25.00%																					4	100.00%				
		底残値	0.08	42.10%		0.11	57.90%																						0.19	100.00%			
		底部数(点)	1	25.00%		3	75.00%																						4	100.00%			
		総点数(点)	24	68.59%		9	25.71%								1	2.85%		1	2.85%										35	100.00%			
総重量(g)	40	47.08%		33	38.82%								6	7.05%		6	7.05%										85	100.00%					
06 2区	SD56	口残値	0.14	53.86%					0.06	23.07%				0.06	23.07%														0.26	100.00%			
		口縁数(点)	3	60.00%						1	20.00%				1	20.00%													5	100.00%			
		底残値	0.14	56.00%													0.11	44.00%											0.25	100.00%			
		底部数(点)	6	75.00%													2	25.00%											8	100.00%			
		総点数(点)	38	73.10%		2	3.84%		1	1.92%		1	1.92%		7	13.46%	2	3.84%	1	1.92%									52	100.00%			
総重量(g)	61	33.88%		4	2.22%		4	2.22%		10	5.55%		65	36.14%	23	12.77%	13	7.22%										180	100.00%				
06 2区	SD59	口残値																															
		口縁数(点)																															
		底残値	0.14	100%																										0.14	100.00%		
		底部数(点)	1	100%																										1	100.00%		
		総点数(点)	2	25.00%																1	12.50%									8	100.00%		
総重量(g)	5	1.22%																32	7.84%		287	70.36%					84	20.58%	408	100.00%			
06 2区	SD65	口残値																															
		口縁数(点)																															
		底残値																															
		底部数(点)	1	100%																										1	100.00%		
		総重量(g)	1	100%																										1	100.00%		
06 2区	SD74	口残値																															
		口縁数(点)																															
		底残値																															
		底部数(点)	1	100%																										1	100.00%		
		総重量(g)	1	100%																										1	100.00%		
06 2区	SD75	口残値																															
		口縁数(点)																															
		底残値	0.08	22.85%													0.19	54.30%													0.35	100.00%	
		底部数(点)	1	25.00%													2	50.00%													4	100.00%	
		総点数(点)	16	64.00%		1	4.00%								2	8.00%		2	8.00%			2	8.00%							25	100.00%		
総重量(g)	24	15.00%		2	1.25%								13	8.12%		16	10.00%			31	19.37%		74	46.26%				160	100.00%				
06 2区	SD76	口残値	0.03	50.00%										0.03	50.00%															0.06	100.00%		
		口縁数(点)	1	50.00%											1	50.00%														2	100.00%		
		底残値	0.19	100%																											0.19	100.00%	
		底部数(点)	2	100%																											2	100.00%	
		総点数(点)	13	56.56%		1	4.34%								1	4.34%	3	13.04%	1	4.34%			2	8.69%				2	8.69%	23	100.00%		
総重量(g)	26	20.31%		1	0.78%								1	0.78%	1	0.78%	16	12.50%			13	10.15%				70	54.70%	128	100.00%				
06 2区	SD78	口残値																															
		口縁数(点)																															
		底残値	0.31	100%																											0.31	100.00%	
		底部数(点)	2	100%																											2	100.00%	
		総重量(g)	17	100%																											4	100.00%	
06 2区	SD79	口残値	1.64	84.55%		0.19	9.79%		0.08	4.12%																				1.94	100.00%		
		口縁数(点)	29	78.39%		5	13.51%		2	5.40%																					37	100.00%	
		底残値	4.22	68.64%		0.19	3.08%		0.58	9.43%	0.22	3.57%																				6.15	100.00%
		底部数(点)	15	60.00%		1	4.00%		3	12.00%	1	4.00%																				25	100.00%
		総重量(g)	140	63.66%		18	8.18%		27	12.27%	3	1.36%		1	0.45%		11	5.00%	7	3.18%	5	2.27%			7	3.18%	1	0.45%		1	0.45%	220	100.00%
総重量(g)	457	42.57%		49	4.55%		69	6.41%	13	1.20%		6	0.55%		29	2.69%	52	4.83%	73	6.79%			287	26.69%	14	1.30%		32	2.97%	1,075	100.00%		
06 2区	SD90	口残値																															
		口縁数(点)																															
		底残値																															
		底部数(点)																															
		総重量(g)																															



遺構名	種別 計測法	食 膳 具																				合計					
		土 師 器			黒色土器			須 恵 器			緑軸陶器			灰軸陶器			煮 炊 具			土 師 器			貯 蔵 具				
		無台碗	無台皿	有台皿	無台碗	有台碗	無台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	有台碗	有台皿	有台皿	長 羹	小 羹	鍋	鉢	仏 鉢	大 甕	長頸壺	広口壺		短頸壺	横 瓶			
06 2区	Pit61	口残値	0.03	100%																					0.03	100.00%	
		口縁数(点)	1	100%																						1	100.00%
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)	1	100%																						1	100.00%
																									2	100.00%	
06 2区	Pit62	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値	0.14	100%																						0.14	100.00%
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総点数(点)	2	100%																						2	100.00%
																									5	100.00%	
06 2区	Pit63	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)	4	80.00%																1	20.00%					5	100.00%
																									8	100.00%	
																									2	25.00%	
06 2区	Pit67	口残値	0.03	100%																						0.03	100.00%
		口縁数(点)	1	100%																						1	100.00%
		底残値	0.33	100%																						0.33	100.00%
		底部数(点)	3	100%																						3	100.00%
		総点数(点)	8	88.89%									1	11.11%												9	100.00%
																									4	12.90%	
06 2区	Pit69	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	2	100%																						2	100.00%
		総重量(g)	2	100%																						2	100.00%
06 2区	Pit71	口残値	0.03	100%																						0.03	100.00%
		口縁数(点)	1	100%																						1	100.00%
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)	4	100%																						4	100.00%
																									10	100.00%	
06 2区	Pit80	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)																									1
																									8	100%	
06 2区	Pit102	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	1	50.00%																						1	50.00%
		総重量(g)	1	50.00%																						1	50.00%
06 2区	Pit104	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	6	100%																						6	100.00%
		総重量(g)	3	100%																						3	100.00%
06 2区	Pit105	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)	1	100%																						1	100.00%
																									1	100.00%	
06 2区	Pit106	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値	0.22	100%																						0.22	100.00%
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総点数(点)	2	66.67%																						1	33.33%
																									2	66.67%	
																										1	33.33%
																										3	100.00%
																										14	87.50%



遺構名	種別	計測法	食 膳 具																				合計				
			土 師 器			黒色土器			須 恵 器			緑軸陶器		灰軸陶器		煮 炊 具			土 師 器			貯 蔵 具					
			無台碗	無台皿	有台皿	無台碗	有台碗	無台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	有台碗	有台皿	有台皿	長 羹	小 羹	鍋	鉢	仏 鉢	大 甕	長頸壺	広口壺		短頸壺	横 瓶		
06 2区	Pt123	口残値	0.06	100%																				0.06	100.00%		
		口縁数(点)	2	100%																					2	100.00%	
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)	6	100%																					6	100.00%	
総重量(g)	11	100%																						11	100.00%		
06 2区	Pt144	口残値																									
		口縁数(点)														1	100%									1	100.00%
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)														3	100%									3	100.00%
総重量(g)														24	100%									24	100.00%		
06 2区	Pt172	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値	0.19	100%																						0.19	100.00%
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総点数(点)	4	100%																						4	100.00%
総重量(g)	13	100%																							13	100.00%	
06 3区	SK10	口残値	0.17	100%																					0.17	100.00%	
		口縁数(点)	4	100%																						4	100.00%
		底残値																									
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総点数(点)	53	94.65%					1	1.78%						2	3.57%									56	100.00%
総重量(g)	67	77.03%					2	2.29%						18	20.68%									87	100.00%		
06 3区	SD 1	口残値	0.19	100%																					0.19	100.00%	
		口縁数(点)	4	100%																						4	100.00%
		底残値	0.53	100%																						0.53	100.00%
		底部数(点)	3	100%																						3	100.00%
		総点数(点)	11	100%																							11
総重量(g)	50	100%																							50	100.00%	
06 3区	SD2	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	2	100%																						2	100.00%
		総重量(g)	2	100%																							2
06 3区	SD7	口残値												0.03	100%										0.03	100.00%	
		口縁数(点)												1	100%										1	100.00%	
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総点数(点)	3	75.00%												1	25.00%									4	100.00%
総重量(g)	5	50.00%												5	50.00%									10	100.00%		
06 3区	SD8	口残値												0.03	100%										0.03	100.00%	
		口縁数(点)												1	100%										1	100.00%	
		底残値																									
		底部数(点)	2	66.67%												1	33.33%									3	100.00%
		総重量(g)	1	8.33%												11	91.67%									12	100.00%
06 3区	SD9	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値	0.11	100%																						0.11	100.00%
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総重量(g)	6	100%																							6
06 4区	SE14	口残値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底部数(点)	1	100%																						1	100.00%
		総重量(g)	4	100%																							4
06 4区	SD2	口残値	0.17	100%																					0.17	100.00%	
		口縁数(点)	2	100%																						2	100.00%
		底残値																									
		底部数(点)																									
		総重量(g)	13	100%																							13

遺構名	種別 計測法	食 膳 具											煮 炊 具			貯 蔵 具						合計						
		土 師 器			黒色土器			須 恵 器			緑軸陶器		灰軸陶器	土 師 器			貯 蔵 具											
		無台碗	無台皿	有台皿	無台碗	有台碗	無台皿	無台杯	有台杯	杯 蓋	有台碗	有台皿	有台皿	長 甕	小 甕	鍋	鉢	仏 鉢	大 甕	長頸壺	広口壺		短頸壺	横 瓶				
06 4区	SD4	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底部数(点)																										
		総点数(点)																		1	100%						1	100.00%
																		38	100%								38	100.00%
06 4区	SD8	口残値	0.03	100%																					0.03	100.00%		
		口縁数(点)	1	100%																					1	100.00%		
		底残値	0.03	100%																					0.03	100.00%		
		底部数(点)	1	100%																					1	100.00%		
		総点数(点)	2	50.00%											1	25.00%				1	25.00%					4	100.00%	
													4	9.09%				36	81.82%					44	100.00%			
06 4区	SD9	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底部数(点)	1	33.33%											2	66.67%									3	100.00%		
		総重量(g)	1	5.88%											16	94.12%									17	100.00%		
06 4区	SD10	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																			0.08	100%				0.08	100.00%	
		底部数(点)																			1	100%				1	100.00%	
		総重量(g)																			1	50.00%				2	100.00%	
																			10	18.51%				44	81.49%	54	100.00%	
06 4区	SD15	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値																										
		底部数(点)	5	71.43%											2	28.57%									7	100.00%		
		総重量(g)	8	57.15%											6	42.85%									14	100.00%		
06 4区	Pit13	口残値																										
		口縁数(点)																										
		底残値	0.17	100%																					0.17	100.00%		
		底部数(点)	1	100%																					1	100.00%		
		総重量(g)	12	100%																					12	100.00%		



遺構名	種別 計測法	日常品												特殊品							合計						
		食 膳 具			貯 蔵 具						調 理 具			特 殊 品													
		青磁	白磁	陶	珠洲焼	北越窯系	北越窯須恵器系	珠洲焼	備前焼	瓦質土器	北越窯須恵器系	青白磁	青磁	瀬戸・美濃焼	珠洲焼	珠洲焼	土師器										
碗	皿	碗	密R種	密T種	費	密	密	費	片口鉢	片口鉢	片口鉢	片口鉢	合子	香炉	瓶子	密K種(裝飾密)	水注	皿									
05 2区	SK110	破片数(点)																		8	100%	8	100.00%				
		個体数(点)																			8	100%	8	100.00%			
		総重量(g)																			32	100%	32	100.00%			
05 2区	SK111	破片数(点)																		2	100%	2	100.00%				
		個体数(点)																		2	100%	2	100.00%				
		総重量(g)																		6	100%	6	100.00%				
05 2区	SK113	破片数(点)																		1	8.33%	8	66.68%	12	100.00%		
		個体数(点)																		1	9.09%	8	72.73%	11	100.00%		
		総重量(g)																		10	12.82%	23	29.49%	78	100.00%		
05 2区	SK121	破片数(点)																		1	100%	1	100.00%				
		個体数(点)																		1	100%	1	100.00%				
		総重量(g)																		4	100%	4	100.00%				
05 2区	SK131	破片数(点)	1	6.66%																14	93.34%	15	100.00%				
		個体数(点)	1	6.66%																14	93.34%	15	100.00%				
		総重量(g)	5	5.95%																79	94.05%	84	100.00%				
05 2区	SK157	破片数(点)																		2	100%	2	100.00%				
		個体数(点)																		1	100%	1	100.00%				
		総重量(g)																		30	100%	30	100.00%				
05 2区	SX23	破片数(点)																		1	25.00%	3	75.00%	4	100.00%		
		個体数(点)																		1	25.00%	3	75.00%	4	100.00%		
		総重量(g)																		134	63.21%	78	36.79%	212	100.00%		
05 2区	SX135	破片数(点)																		2	11.76%	5	29.41%	17	100.00%		
		個体数(点)																		2	14.30%	5	35.71%	14	100.00%		
		総重量(g)																		433	38.34%	362	32.03%	68	6.01%	1,130	100.00%
05 2区	SD1	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD2	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD3	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD4	破片数(点)	2	0.40%																							
		個体数(点)	2	0.42%																							
		総重量(g)	22	0.40%																							
05 2区	SD5	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD7	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD17	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD21	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD29	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD35	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD36	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD41	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD52	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD105	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD130	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD138	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	SD160	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)																									
05 2区	河 16	破片数(点)																									
		個体数(点)																									
		総重量(g)					</																				





遺構名	種別 計測法	日常品														特殊品							合計
		食 膳 具			貯 蔵 具				調 理 具							特 殊 品							
		青磁	白磁	珠洲焼	北越窯磁器系	北越窯須恵器系	珠洲焼	備前焼	瓦質土器	北越窯須恵器系	青白磁	青磁	瀬戸・美濃焼	珠洲焼	珠洲焼	土師器							
碗	皿	壺R種	壺T種	甕	壺	壺	甕	片口鉢	片口鉢	片口鉢	片口鉢	合子	香炉	瓶子	壺K種(裝飾壺)	珠洲焼	水注	土師器	皿				
05 3区	SE138	破片数(点)				2	100%															2	100.00%
		個体数(点)				2	100%															2	100.00%
		総重量(g)				166	100%															166	100.00%
05 3区	SE308	破片数(点)																				1	100.00%
		個体数(点)																				1	100.00%
		総重量(g)																				38	100.00%
05 3区	SE332	破片数(点)				1	100%															1	100.00%
		個体数(点)				1	100%															1	100.00%
		総重量(g)				262	100%															262	100.00%
05 3区	SK33	破片数(点)								1	100%											1	100.00%
		個体数(点)								1	100%											1	100.00%
		総重量(g)								25	100%											25	100.00%
05 3区	SX283	破片数(点)										1	33.33%									2	66.67%
		個体数(点)										1	33.33%									2	66.67%
		総重量(g)										27	64.29%									15	35.71%
05 3区	SX371	破片数(点)																				1	100.00%
		個体数(点)																				1	100.00%
		総重量(g)																				3	100.00%
05 3区	SD2	破片数(点)	1	6.25%		2	12.50%			1	6.25%	1	6.25%	7	43.75%							3	18.75%
		個体数(点)	1	8.33%		2	16.66%			1	8.33%	1	8.33%	4	33.36%							2	16.66%
		総重量(g)	11	2.30%		120	25.10%			35	7.32%	16	3.34%	263	55.04%							24	5.02%
05 3区	SD15	破片数(点)	1	25.00%										2	50.00%							1	25.00%
		個体数(点)	1	25.00%										2	50.00%							1	25.00%
		総重量(g)	24	24.00%										66	66.00%							10	10.00%
05 3区	SD43	破片数(点)																				1	100.00%
		個体数(点)																				1	100.00%
		総重量(g)																				5	100.00%
05 3区	SD84	破片数(点)				1	100%															1	100.00%
		個体数(点)				1	100%															1	100.00%
		総重量(g)				66	100%															66	100.00%
05 3区	SD128	破片数(点)												2	100%							2	100.00%
		個体数(点)												1	100%							1	100.00%
		総重量(g)												13	100%							13	100.00%
05 3区	SD157	破片数(点)																				1	100.00%
		個体数(点)																				1	100.00%
		総重量(g)																				9	100.00%
05 3区	SD277	破片数(点)												1	100%							1	100.00%
		個体数(点)												1	100%							1	100.00%
		総重量(g)												218	100%							218	100.00%
05 3区	SD335	破片数(点)												1	100%							1	100.00%
		個体数(点)												1	100%							1	100.00%
		総重量(g)												2	100%							2	100.00%
05 3区	河1 1層	破片数(点)	4	9.30%		3	6.97%	1	2.32%					1	2.32%							31	72.12%
		個体数(点)	4	9.75%		3	7.31%	1	2.43%					3	7.31%							29	70.77%
		総重量(g)	164	18.20%		352	39.08%	43	4.77%					174	19.31%						146	16.20%	
05 3区	河1 2・3層	破片数(点)																				1	100.00%
		個体数(点)																				1	100.00%
		総重量(g)																				30	100.00%
05 3区	Ph131	破片数(点)												1	100%							1	100.00%
		個体数(点)												1	100%							1	100.00%
		総重量(g)												5	100%							5	100.00%
05 3区	Ph155	破片数(点)																				1	100.00%
		個体数(点)																				1	100.00%
		総重量(g)																				8	100.00%
05 3区	Ph293	破片数(点)												1	100%							1	100.00%
		個体数(点)												1	100%							1	100.00%
		総重量(g)												20	100%							20	100.00%
05 4区	SX12	破片数(点)																				1	100.00%
		個体数(点)																				1	100.00%
		総重量(g)																				20	100.00%
05 4区	SD2	破片数(点)	1	100%																		1	100.00%
		個体数(点)	1	100%																		1	100.00%
		総重量(g)	5	100%																		5	100.00%
05 4区	SD7	破片数(点)				1	100%															1	100.00%
		個体数(点)				1	100%															1	100.00%
		総重量(g)				6	100%															6	100.00%
05 4区	SD13	破片数(点)				1	100%															1	100.00%
		個体数(点)				1	100%															1	100.00%
		総重量(g)				2	100%															2	100.00%
06 1区	SK73	破片数(点)												1	100%							1	100.00%
		個体数(点)												1	100%							1	100.00%
		総重量(g)												48	100%							48	100.00%
06 1区	SX38	破片数(点)				1	100%															1	100.00%
		個体数(点)				1	100%															1	100.00%
		総重量(g)				13	100%															13	100.00%
06 1区	SD62	破片数(点)				1	100%															1	100.00%
		個体数(点)				1	100%															1	100.00%
		総重量(g)				66	100%																







別表 16 沖ノ羽遺跡第 19 次調査遺構出土石製品器種構成率

遺構名	種別 計測法	石製品						礫類		合計										
		砥石	磨石	叩石	台石	軽石石製品	その他	焼礫	礫											
06 1区	SK108	総点数(点) 総重量(g)						1 54	33.33% 77.15%	2 16	66.67% 22.85%	3 70	100.00% 100.00%							
06 1区	SK109	総点数(点) 総重量(g)						2 49	50.00% 15.60%	1 243	25.00% 77.40%	4 314	100.00% 100.00%							
06 1区	SK110	総点数(点) 総重量(g)	1 12	14.28% 20.33%				1 15	14.28% 25.42%	5 32	71.44% 54.25%	7 59	100.00% 100.00%							
06 1区	SE30	総点数(点) 総重量(g)						1 12	100% 100%			1 12	100.00% 100.00%							
06 1区	SE67	総点数(点) 総重量(g)						1 2,080	100% 100%			1 2,080	100.00% 100.00%							
06 1区	SE74	総点数(点) 総重量(g)								4 101	100% 100%	4 101	100.00% 100.00%							
06 1区	SE111	総点数(点) 総重量(g)								1 58	100% 100%	1 58	100.00% 100.00%							
06 1区	SD62	総点数(点) 総重量(g)		1 30	0.86% 1.05%	2 226	1.72% 7.92%			4 167	3.44% 5.85%	1 41	0.86% 1.43%	108 2,389	93.12% 83.75%	116 2,853	100.00% 100.00%			
06 1区	SD64	総点数(点) 総重量(g)						2 111	50.00% 41.88%	2 154	50.00% 58.12%		4 265	100.00% 100.00%						
06 1区	SD99	総点数(点) 総重量(g)										2 18	100% 100%	2 18	100.00% 100.00%					
06 1区	SD100	総点数(点) 総重量(g)			1 128	25.00% 6.04%	3 1,988	75.00% 93.96%						4 2,116	100.00% 100.00%					
06 1区	SD103	総点数(点) 総重量(g)								1 38	100% 100%	1 38	100.00% 100.00%							
06 1区	SD107	総点数(点) 総重量(g)								1 29	100% 100%	1 29	100.00% 100.00%							
06 1区	Ph115	総点数(点) 総重量(g)								3 5	6.25% 8.62%	4 53	8.33% 91.38%	11 58	22.93% 58.12%	4 667	8.33% 31.55%	24 2,117	50.00% 100.00%	
06 1区	河2	総点数(点) 総重量(g)	2 55	4.16% 2.59%				3 113	6.25% 5.33%	4 22	8.33% 1.03%	11 1,122	22.93% 52.99%	4 138	8.33% 6.51%	24 667	31.55% 31.55%	2,117 2,117	100.00% 100.00%	
06 1区	河56	総点数(点) 総重量(g)												2 19	100% 100%	2 19	100.00% 100.00%			
06 2区	SK12	総点数(点) 総重量(g)												1 4	100% 100%	1 4	100.00% 100.00%			
06 2区	SK72	総点数(点) 総重量(g)												1 1	100% 100%	1 1	100.00% 100.00%			
06 2区	SK83	総点数(点) 総重量(g)												1 2	100% 100%	1 2	100.00% 100.00%			
06 2区	SK88	総点数(点) 総重量(g)												1 21	100% 100%	1 21	100.00% 100.00%			
06 2区	SK95	総点数(点) 総重量(g)	1 7	3.22% 1.05%										17 587	54.85% 88.68%	13 68	41.93% 10.27%	31 662	100.00% 100.00%	
06 2区	SK98	総点数(点) 総重量(g)						3 2,410	42.87% 86.21%	1 15	14.28% 0.53%	1 343	14.28% 12.26%	2 28	28.57% 1.00%	7 2,796	100.00% 100.00%			
06 2区	SE58	総点数(点) 総重量(g)						2 190	50.00% 95.96%	1 2	25.00% 1.01%	1 6	25.00% 3.03%				4 198	100.00% 100.00%		
06 2区	SX4	総点数(点) 総重量(g)												2 51	100% 100%	2 51	100.00% 100.00%			
06 2区	SX109	総点数(点) 総重量(g)												1 3	100% 100%	1 3	100.00% 100.00%			
06 2区	SD1	総点数(点) 総重量(g)												3 21	100% 100%	3 21	100.00% 100.00%			
06 2区	SD6	総点数(点) 総重量(g)	2 211	1.25% 0.83%	1 82	0.62% 0.32%	5 2,618	3.14% 10.32%	6 11,659	3.77% 45.98%	7 572	4.40% 2.25%	2 194	1.25% 0.76%	39 5,381	24.52% 21.25%	97 4,639	61.05% 18.29%	159 25,356	100.00% 100.00%
06 2区	SD13	総点数(点) 総重量(g)			1 78	3.03% 2.38%		3 889	9.09% 27.19%	7 26	21.21% 0.79%	2 58	6.06% 1.77%	8 1,216	24.24% 37.22%	12 1,002	36.37% 30.65%	33 3,269	100.00% 100.00%	
06 2区	SD20	総点数(点) 総重量(g)												1 2	100% 100%	1 2	100.00% 100.00%			
06 2区	SD35	総点数(点) 総重量(g)												1 127	100% 100%	1 127	100.00% 100.00%			

遺構名	種別 計測法	石製品						礫類		合計											
		砥石	磨石	叩石	台石	軽石石製品	その他	焼礫	礫												
06 2区	SD36	総点数(点) 総重量(g)								1 995	50.00% 99.31%			1 7	50.00% 0.69%	2 1,002	100.00% 100.00%				
06 2区	SD50	総点数(点) 総重量(g)												1 7	100% 100%	1 7	100.00% 100.00%				
06 2区	SD56	総点数(点) 総重量(g)												1 13	100% 100%	1 13	100.00% 100.00%				
06 2区	SD59	総点数(点) 総重量(g)	1 132	0.79% 3.84%	3 1,007	2.38% 29.30%				1 226	0.79% 6.57%	5 32	3.96% 0.93%			116 2,039	92.08% 59.36%	126 3,436	100.00% 100.00%		
06 2区	SD74	総点数(点) 総重量(g)												1 4	100% 100%	1 4	100.00% 100.00%				
06 2区	SD75	総点数(点) 総重量(g)												1 3	100% 100%	1 3	100.00% 100.00%				
06 2区	SD76	総点数(点) 総重量(g)												1 48	100% 100%	1 48	100.00% 100.00%				
06 2区	SD79	総点数(点) 総重量(g)												3 373	27.27% 64.43%	6 200	54.55% 34.54%	11 579	100.00% 100.00%		
06 2区	SD92	総点数(点) 総重量(g)	1 43	20.00% 33.85%												1 81	20.00% 63.80%	5 127	100.00% 100.00%		
06 2区	SD94	総点数(点) 総重量(g)														3 9	20.00% 0.12%	6 7,050	40.00% 100.00%	15 7,050	100.00% 100.00%
06 2区	SD107	総点数(点) 総重量(g)														1 22	100% 100%	1 22	100.00% 100.00%		
06 2区	SD108	総点数(点) 総重量(g)														1 23	100% 100%	1 23	100.00% 100.00%		
06 4区	SD9	総点数(点) 総重量(g)														1 1	50.00% 50.00%	2 1	200.00% 100.00%		
06 4区	SD10	総点数(点) 総重量(g)														1 4	100% 100%	1 4	100.00% 100.00%		



# 報告書抄録

ふりがな	おきのはいせきご だい18・19じちょうさ							
書名	沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査							
副書名	一 県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書一							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	遠藤恭雄・澤野慶子・立木宏明・相澤 央・相澤裕子・四柳嘉章・(株)古環境研究所							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	2014年2月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
おき は 沖ノ羽遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 あきはくなのかまち 秋葉区七日町 あきあきの 字沖ノ羽 5584番地 他	15108	149	37°	139°	第18次 20050630～ 20051220	4104.3	県営ほ場整備事 業に伴う本発掘 調査
				49′ 14″	07′ 38″	第19次 20060729～ 20061220	3947.9	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
沖ノ羽遺跡	集落遺跡	古墳時代後期		溝2条・性格不明 遺構1基		土師器・須恵器		
		古代(8世紀前半 ～10世紀前半)		掘立柱建物2棟・ 井戸・土坑・溝・ 小土坑・性格不明 遺構・旧河川		土師器・須恵器・黒色土 器・施釉陶器・土製品・ 金属製品・鍛冶関連遺物・ 木製品		瓦塔、緑釉陶器香炉・耳皿、 二彩托、仏鉢形土器、「花寺」 「寺」墨書土器など仏教関 連遺物
		中世(12世紀～ 15世紀前半)		掘立柱建物5棟・ 井戸・土坑・溝・ 小土坑・性格不明 遺構・旧河川		珠洲焼、中世土師器、輸 入陶磁器(白磁・青磁)、 瀬戸美濃焼、土製品、石 製品、木製品、金属製品		
要約	<p>沖ノ羽遺跡は、越後平野の中央やや南東寄り、東を阿賀野川、西を能代川に囲まれた沖積地内の微高地上に立地し、現標高は約4.5mである。調査地は遺跡中央に位置し、第18次調査は1～4区、第19次調査は1～7区(本書では5・6区を除外)に分かれる。今回の調査では、6世紀代から15世紀前半までの遺構・遺物が確認された。古墳時代の遺物はほぼ6世紀代(古墳時代後期)に比定され、第18次調査1・4区のみで出土している。この時期の遺構は溝2条と性格不明遺構1基にとどまる。古代は、掘立柱建物・井戸・溝・土坑等で構成される集落跡で、8世紀後半から10世紀初頭までの出土遺物がある。主体は9世紀後半で、第18次調査3区河1では内水面交通にかかわると推測されるテラス状遺構が形成され、土師器・須恵器食膳具を中心に多量の遺物が出土した。『花寺』『寺』の墨書土器、瓦塔、仏鉢形土器、緑釉陶器香炉・二彩托といった仏教関連遺物の出土がある。遺構は確認していないが、小規模な仏教関連施設の存在がうかがわれ、性格としては、9世紀代に台頭する富裕層の集落と推測される。中世は12世紀代から15世紀前半までの出土遺物がある。主体は13世紀後半から14世紀代で、第18次調査2区を中心に、古代の集落と重複する位置で掘立柱建物5棟・井戸・溝などが確認された。一般集落であったと考えられる。</p>							

## 沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査

一 県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書一

### 本文編

2014年2月26日印刷  
2014年2月27日発行

編集 新潟市文化財センター  
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1  
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1  
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ウィザップ  
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1番25号  
TEL 025 (285) 3311